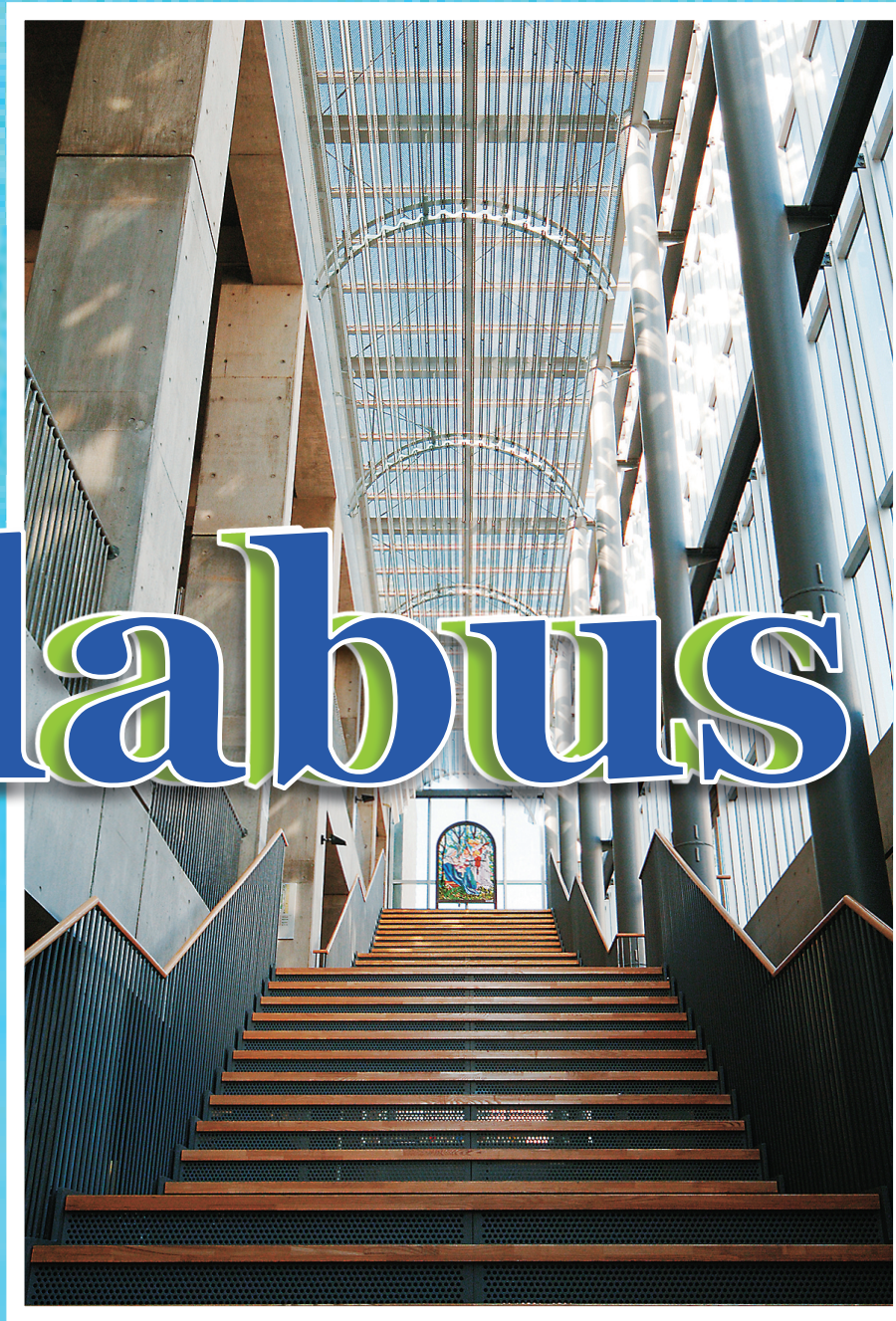


SALESIO

Syllabus 2017



サレジオ高専

表紙

目次

I. 一般科目 必修科目

教育課程表

教育課程表 AD_2010年度～2015年度入学
 教育課程表 AD_2016年度入学以降
 教育課程表 EE・ME_2010年度～2015年度入学
 教育課程表 EE・ME_2016年度入学以降
 教育課程表 CS_2010年度～2015年度入学
 教育課程表 CS_2016年度入学以降

1

学習・教育目標

7

II. デザイン学科 専門科目 必修科目

教育課程表

教育課程表 デザイン学科_専門_2009年度入学以降

77

学習・教育目標

78

III. 電気工学科 専門科目 必修科目

教育課程表

教育課程表 電気工学科_専門_2012年度～2015年度入学
 教育課程表 電気工学科_専門_2016年度入学
 教育課程表 電気工学科_専門_2017年度入学以降

119

学習・教育目標

122

IV. 機械電子工学科 専門科目 必修科目

教育課程表

教育課程表 機械電子工学科_専門_2008年度入学以降

165

学習・教育目標

166

V. 情報工学科 専門科目 必修科目

教育課程表

教育課程表 情報工学科_専門_2010～2011年度入学
 教育課程表 情報工学科_専門_2012年度入学
 教育課程表 情報工学科_専門_2013年度入学
 教育課程表 情報工学科_専門_2014年度入学以降

205

学習・教育目標

213

VI. 一般科目・専門科目 選択科目

選択科目 一覧表

2012年度一覧表
 2013年度一覧表
 2014年度一覧表
 2015年度一覧表
 2016年度一覧表
 2017年度一覧表

281

VII. 専攻科<生産システム工学専攻>

教育課程表

教育課程表 専攻科_2014年度入学以降

303

学習・教育目標

304

裏表紙

I . 一般科目 必修科目

デザイン学科(AD) 一般科目 教育課程表 (2010年度～2015年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連															分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					一般教育科の学習・ 教育目標との関連						
			1年	2年	3年	4年	5年	A					B				C			D			①設計・ システム 系科目群					②情報・ 論理系科 目群	③材料・ バイオ系 科目群	④力学系 科目群	⑤社会技 術系科目 群	GE		
								A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	1	2	3									
必修 科目	国語	7	2	2	2	1			◎																					◎			◎	
	表現	2	2																														◎	
	倫理	2	1		1					○																							○	
	情報倫理	2	2								○	◎																					○	
	現代社会	2	2									○																					○	
	歴史	2		2								○																					○	
	基礎数学Ⅰ	4	4											◎																			◎	
	基礎数学Ⅱ	3	3											◎																			◎	
	代数幾何学	2		2										◎																			◎	
	微分積分学	4		4										◎																			◎	
	確率統計学	2			2									◎																			◎	
	化学	5	2	3										◎																			◎	
	基礎物理Ⅰ	2		2										◎																			◎	
	基礎物理Ⅱ	2		2										◎																			◎	
	保健体育	4	2	2						◎																							◎	
	体育実技	6			2	2	2			◎																							◎	
	英語	16	6	6	4																	◎												◎
	英語演習	2				2																◎												◎
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2															◎												◎	
履修単位数計		73	26	25	11	7	4																											

デザイン学科(AD) 一般科目 教育課程表 (2016年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連															分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					一般教育科の学習・ 教育目標との関連						
			学年別単位数					A					B				C			D			GE						
			1年	2年	3年	4年	5年	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	①設計・ システム 系科目群	②情報・ 論理系科 目群	③材料・ バイオ系 科目群	④力学系 科目群	⑤社会技 術系科目 群	1	2
必修 科目	国語	10	2	4	2	2			◎							○											◎		○
	表現	2	2													◎													◎
	倫理	2	1		1				○																		○		
	情報倫理	2	2							○	◎						○											○	
	現代社会	2	2							○																		○	
	歴史	2		2						○																		○	
	基礎数学Ⅰ	4	4										◎														◎		
	基礎数学Ⅱ	3	3										◎														◎		
	代数幾何学	2		2									◎														◎		
	微分積分学	4		4									◎														◎		
	確率統計学	2			2								◎														◎		
	化学	4		2	2								◎														◎		
	基礎物理Ⅰ	2		2									◎													◎	○		
	基礎物理Ⅱ	2		2									◎													◎	○		
	保健体育	4	2	2					◎																		◎	○	○
	体育実技	6			2	2	2		◎																		◎	○	○
	英語	14	6	4	4													◎											◎
	英語演習	2				2												◎											◎
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2											◎											◎	
履修単位数計	73	24	24	13	8	4																							

電気工学科 (EE) ・ 機械電子工学科 (ME) 一般科目 教育課程表 (2010年度～2015年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連															分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					一般教育科の学 習・教育目標との 関連							
			1年	2年	3年	4年	5年	A					B				C			D			①設計・ システム 系科目群					②情報・ 論理系科 目群	③材料・ バイオ系 科目群	④力学系 科目群	⑤社会技 術系科目 群	GE			
								A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	1	2	3										
必 修 科 目	国語	7	2	2	2	1			◎																								◎		◎
	表現	2	2																															◎	
	倫理	2	1		1				○																								○		
	情報倫理	2	2							○	◎											○												○	
	現代社会	2	2							○																								○	
	歴史	2		2						○																								○	
	基礎数学 I	4	4											◎																				◎	
	基礎数学 II	3	3											◎																				◎	
	代数幾何学	2		2										◎																				◎	
	微分積分学	4		4										◎																				◎	
	確率統計学	2			2									◎																				◎	
	解析学 I	4			4									◎																				◎	
	化学	5	2	3										◎																				◎	
	基礎物理 I	2		2										◎																			○	○	
	基礎物理 II	2		2										◎																			○	○	
	物理	2			2									◎																			○	○	
	保健体育	4	2	2					◎																									○	○
	体育実技	6			2	2	2	◎																										○	○
	英語	16	6	6	4																	◎													◎
英語演習	2				2																◎													◎	
選択英語 I～VI	4				2	2															◎													◎	
履修単位数計	79	26	25	17	7	4																													

電気工学科 (EE) ・ 機械電子工学科 (ME) 一般科目 教育課程表 (2016年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連															分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					一般教育科の学習・ 教育目標との関連						
			学年別単位数					A					B				C			D			GE						
			1年	2年	3年	4年	5年	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	①設計・ システム 系科目群	②情報・ 論理系科 目群	③材料・ バイオ系 科目群	④力学系 科目群	⑤社会技 術系科目 群	1	2
必修 科目	国語	10	2	4	2	2			◎								○										◎		○
	表現	2	2														◎												◎
	倫理	2	1		1				○																		○		
	情報倫理	2	2							○	◎							○										○	
	現代社会	2	2								○																	○	
	歴史	2		2							○																	○	
	基礎数学 I	4	4											◎													◎		
	基礎数学 II	3	3											◎													◎		
	代数幾何学	2		2										◎													◎		
	微分積分学	4		4										◎													◎		
	確率統計学	2			2									◎													◎		
	解析学 I	4			4									◎													◎		
	化学	4		2	2									◎													○		
	基礎物理 I	2		2										◎													○	○	
	基礎物理 II	2		2										◎													○	○	
	物理	2			2									◎													○	○	
	保健体育	4	2	2					◎																			○	○
	体育実技	6			2	2	2		◎																			○	○
英語	14	6	4	4														◎										◎	
英語演習	2				2													◎										◎	
選択英語 I～VI	4				2	2												◎										◎	
履修単位数計	79	24	24	19	8	4																							

情報工学科(CS) 一般科目 教育課程表 (2010年度～2015年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連															分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					一般教育科の学 習・教育目標との 関連						
			1年	2年	3年	4年	5年	A					B				C			D			①設計・ システム 系科目群					②情報・ 論理系科 目群	③材料・ バイオ系 科目群	④力学系 科目群	⑤社会技 術系科目 群	GE		
								A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	1	2	3									
必 修 科 目	国語	7	2	2	2	1			◎																							◎		◎
	表現	2	2																														◎	
	倫理	2	1		1				○																							○		
	情報倫理	2	2								○	◎										○											○	
	現代社会	2	2								○																						○	
	歴史	2		2							○																						○	
	基礎数学Ⅰ	4	4											◎																			◎	
	基礎数学Ⅱ	3	3											◎																			◎	
	代数幾何学	2		2										◎																			◎	
	微分積分学	4		4										◎																			◎	
	確率統計学	2			2									◎																			◎	
	解析学Ⅰ	2			2									◎																			◎	
	解析学Ⅱ	2				2								◎																			◎	
	化学	5	2	3										◎																			○	
	基礎物理Ⅰ	2		2										◎																		○	○	
	基礎物理Ⅱ	2		2										◎																		○	○	
	物理	2			2									◎																		○	○	
	保健体育	4	2	2						◎																							○	○
	体育実技	6			2	2	2			◎																							○	○
	英語	16	6	6	4																													◎
英語演習	2				2																												◎	
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2																											◎	
履修単位数計	79	26	25	15	9	4																												

情報工学科(CS) 一般科目 教育課程表 (2016年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	学年別単位数					JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連															分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					一般教育科の学習・ 教育目標との関連							
			1年	2年	3年	4年	5年	A					B				C			D			①設計・ システム 系科目群					②情報・ 論理系科 目群	③材料・ バイオ系 科目群	④力学系 科目群	⑤社会技 術系科目 群	GE			
								A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	1	2	3										
必修 科目	国語	10	2	4	2	2			◎																								◎		◎
	表現	2	2																															◎	
	倫理	2	1		1				○																								○		
	情報倫理	2	2							○	◎											○												○	
	現代社会	2	2								○																							○	
	歴史	2		2							○																							○	
	基礎数学Ⅰ	4	4											◎																			◎		
	基礎数学Ⅱ	3	3											◎																			◎		
	代数幾何学	2		2										◎																			◎		
	微分積分学	4		4										◎																			◎		
	確率統計学	2			2									◎																			◎		
	解析学Ⅰ	2			2									◎																			◎		
	解析学Ⅱ	2				2								◎																			◎		
	化学	4		2	2									◎																			○		
	基礎物理Ⅰ	2		2										◎																			○	○	
	基礎物理Ⅱ	2		2										◎																			○	○	
	物理	2			2									◎																			○	○	
	保健体育	4	2	2					◎																								○	○	
	体育実技	6			2	2	2		◎																								○	○	
	英語	14	6	4	4																													◎	
英語演習	2				2																												◎		
選択英語Ⅰ～Ⅵ	4				2	2																											◎		
履修単位数計		79	24	24	17	10	4																												

一般教育科の学習・教育目標

GE-1	専門分野に必要な基本的知識・論理的思考力を身につける。
GE-2	人や環境のために知識・技術を正しく使える力を身につける。
GE-3	国際社会の中であって互いを理解し、自己を正しく表現できる力を身につける。

JABEE基準1

(a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力
(d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力 (1)専門工学(融合・複合領域)の知識と能力 (2)実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (3)創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力 (4)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
(e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g)	自主的、継続的に学習する能力
(h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i)	チームで仕事をするための能力

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

	健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者
(A)	(A-1) 健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
	(A-2) 過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
	(A-3) 近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
	(A-4) 我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
	(A-5) 自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる

	自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者
(B)	(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
	(B-2) 自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
	(B-4) 実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる

	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者
(C)	(C-1) 国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
	(C-2) コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる
	(C-3) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる

	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者
(D)	(D-1) 自律的に新たなことにチャレンジする心(プロダクトマインド)を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
	(D-2) 問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
	(D-3) 実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	全学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
村田 昌巳	一般教育科・教授	237	木曜日以外	murata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	ことばの仕組みを理解し、文章を論理的に読み解く力を養う。また、ことばを通して多様なものの考え方・感じ方に触れ、ものごとを多角的に捉えるための基礎力を養う。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確な意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記①②に向けて、1年次の学習到達目標を下記3点とする。</p> <p>(A) 名詞・動詞・助動詞・助詞・接続詞などの品詞別機能を把握できる</p> <p>(B) 文の内部構造、文と文の関係を把握できる</p> <p>(C) 同訓異字・同音異義などの漢字を使い分けることができる</p>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「論理エンジン」及び配布プリントに、主として問題演習形式で取り組む。自習課題となる場合もある。 ・ 適宜、漢字小テストを実施する。 			
教科書	「論理エンジン」OS1・OS2・OS1+OS2誌上講義(水王舎)、「シグマ新国語便覧」(文英堂)、必要に応じてプリントを配布する。			
補助教材	「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)、「国語辞典」(各社)、必要に応じてプリントを配布する。			
評価方法	<p>年間を定期試験で4区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は4区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、4区間の評価点の合計が240点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記(1)+(2)+(3)+(4)の合計を各区間の評価点とする。</p> <p>(1) 定期試験(100満点) 素点×0.7</p> <p>(2) 授業内小テスト(10点満点) 3回分の合計点</p> <p>(3) 自学自習課題[減点対象] — 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-6点</p> <p>(4) 忘れ物[減点対象] — 教員入室時、授業に必要なものが机上にない場合、1回につき最大-6点</p>			
関連科目	国語(2年・3年・4年)、日本語・日本文学(4・5年自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	課題への取り組み不足や提出遅れ・不提出、忘れ物にて減点をされないようにすること。小テスト・定期試験にはしっかりと準備した上で臨むこと。なお、日本語検定(3級以上)・漢字検定(準2級以上)の資格取得を推奨します。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	自己分析・自己紹介	<input type="checkbox"/> 自己分析・他者理解
2	日本語の構造理解	<input type="checkbox"/> 日本語単語の種類(A)
		<input type="checkbox"/> 日本語文の品詞分解(A)
1.75	論理エンジンOS1 Lv01	<input type="checkbox"/> 一文の要点(A,B)
1.75	論理エンジンOS1 Lv02	<input type="checkbox"/> 言葉と言葉の関係(A,B)
1.75	論理エンジンOS1 Lv03	<input type="checkbox"/> 文の構造(A,B)
1.75	国語教養	<input type="checkbox"/> 同訓異字等(C)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1.75	論理エンジンOS1 Lv04	<input type="checkbox"/> 文の要点と指示語(A,B)
1.75	論理エンジンOS1 Lv05	<input type="checkbox"/> 助詞・助動詞の機能(A,B)
1.75	論理エンジンOS1 Lv06	<input type="checkbox"/> 短文作成1(A,B)
1.75	論理エンジンOS1 Lv07	<input type="checkbox"/> 文の書きかえ(A,B)
1.5	国語教養	<input type="checkbox"/> 同訓異字等(C)
0.75	前期期末試験	
0.5	試験返却及び解説	
0.5	授業進度調節	
0.5	前期授業アンケート	
1.75	論理エンジンOS1 Lv08	<input type="checkbox"/> 短文作成2(A,B)
1.75	論理エンジンOS1 Lv09	<input type="checkbox"/> 短文作成3(A,B)
1.75	論理エンジンOS2 Lv11	<input type="checkbox"/> 指示語の機能(A,B)
1.75	論理エンジンOS2 Lv12	<input type="checkbox"/> 接続語の機能(A,B)
1.75	論理エンジンOS2 Lv13	<input type="checkbox"/> 文と文の関係(A,B)
1.75	国語教養	<input type="checkbox"/> 同音異義等(C)
0.75	後期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1.75	論理エンジンOS2 Lv14	<input type="checkbox"/> 文章の要点(A,B)
1.75	論理エンジンOS2 Lv15	<input type="checkbox"/> 文章の話題・主張(A,B)
1.75	論理エンジンOS2 Lv16	<input type="checkbox"/> 論理的イコール(等価)関係(A,B)
1.75	論理エンジンOS2 Lv17	<input type="checkbox"/> 具体・抽象(A,B)
1.5	国語教養	<input type="checkbox"/> 同音異義等(C)
0.75	後期期末試験	
0.5	試験返却及び解説	
0.5	国語教養	
0.5	後期授業アンケート	<input type="checkbox"/> 同訓異字・同音異義(C)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
表現	全学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Communication	必修	講義	演習	実験・実習
0	45	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米山 秋文	一般教育科・教授	238	授業終了時	yoneyama
濱邊 正	一般教育科・准教授	204	授業終了時	hamabe
長尾 明美	一般教育科・講師	211	授業終了時	a-nagao
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	授業終了時	y-ikumi
その他 2名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-1		(f)
授業概要	「コミュニケーション力(=受けて返す力)」の基礎として聴解力を養うことを主目的とする。 「コミュニケーション力」とは「他者の話を聞き、論理的に考え、相手に分かるように伝える」ことを総合的に行う能力である。			
到達目標	A 他者の発言を正確に聞きとることができる。 B 他者の発言を受け、自己の考えを整理することができる。 C 他者への問いかけができる。 D 他者と自己の意見の相違を認識できる。 E 他者と自己の意見のコンセンサスが取れる。 F 他者と協力して問題を見出し解決策を導き出せる。			
授業方法	個人または5名程度のグループごとに、演習中心の授業を実施する。			
教科書	特に設けない。機会に応じてプリントを配布する。			
補助教材	なし			
評価方法	毎授業の学習活動の成果をプリント課題にて評価する。 学習活動には毎回到達目標を設定し、それに基づく5段階の評価基準を設ける。 課題の評価点はA:100点 B:85点 C:70点 D:55点 E:40点とする。 成績票への記載は前期末と学年末の2回行い、毎回の授業評価点の平均点である。 定期試験、追試などは行わない。 課題未提出、課題未記名、ファイル忘れ、授業態度(3回注意)などは0点評価も含む大幅減点となる。			
関連科目	全科目			
準備学習に関するアドバイス	本授業は「コミュニケーション力」を育むものです。コミュニケーションは他者との関わりを必要とし、第一に人の話を「きく」ことができなければいけません。 とにかく、1年間「人の声」に耳を傾けてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
4.5	【アイスブレイク】 ガイダンス グループワーク	<input type="checkbox"/> 授業方法・評価方法を理解する <input type="checkbox"/> 担当教員、同じグループのメンバーが誰かわかる <input type="checkbox"/> ゲームの中でお互いの緊張感を緩和することができる <input type="checkbox"/> グループワークを通してコミュニケーションを促すことができる
4.5	「きく」力を育む	<input type="checkbox"/> 3つの「きく」活動を理解できる(A, B, C) <input type="checkbox"/> 人の話を的確に聞きとることができる(A) <input type="checkbox"/> 聞いた情報を整理することができる(A)
7.5	聴解力を育む	<input type="checkbox"/> 聴解力(聞いて考える力)とは何かを理解する(B) <input type="checkbox"/> 聞いた情報をもとに考えることができる(B) <input type="checkbox"/> 情報に対して多角的に考えることができる(B, C)
4.5	問う力を育む	<input type="checkbox"/> 相手の意見を受けて返すことができる(B, C) <input type="checkbox"/> 論理的に伝えることができる(B, C)
1.5	学習指導期間 学習の定着度・学生の実態調査	<input type="checkbox"/> 前期のまとめ(A, B, C) 授業アンケート
1.5	前期の復習	<input type="checkbox"/> 前期授業の振り返り(A, B, C)
6	対立話題ディスカッションを体験する	<input type="checkbox"/> 話題に対して自分の意見を持てる(D) <input type="checkbox"/> 自分の意見の理由を説明できる(D) <input type="checkbox"/> 班員との意見の違いを理解できる(D)
6	合意形成ディスカッションを体験する	<input type="checkbox"/> 話題に対して自分の意見を持てる(D) <input type="checkbox"/> 意見の違いを理解できる(D) <input type="checkbox"/> 班員が納得できる結論を導き出すことができる(E)
7.5	問題解決ディスカッションを体験する	<input type="checkbox"/> 問題解決の手順を理解できる(F) <input type="checkbox"/> 問題に対しての現状分析ができる(F) <input type="checkbox"/> 班員が納得できる結論を導き出すことができる(E)
1.5	学習指導期間 学習の定着度・学生の実態調査	<input type="checkbox"/> 授業全体の振り返り(A, B, C, D, E, F) 授業アンケート
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
倫理	全学科	1年 半期		1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Ethics	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
濱邊 正	一般教育科・准教授	204	木曜日を除く	hamabe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-1		A-2	(a)	
授業概要	本校の創立精神であるキリスト教思想を背景とする考え方をとらえるようにする。前半では青年期における自己理解について、また本校の名前である「サレジオ」に関する解説やキリスト教に関することを学ぶ。後半では人物紹介を通して生き方・考え方について取り上げ、理解を深めていく。			
到達目標	A. 授業内容の理解と、それに関連づけたテーマにそって自分の考えを深めることができる B. リアクションペーパー等を通して、自分の考えを表現できる C. 聖書を開き、読み取ることができる			
授業方法	毎回テーマを設定し、それに基づいて授業を展開していく。授業に応じてリアクションペーパーを書き、自分の考えをまとめる。			
教科書	聖書(授業中に配布)			
補助教材	配布プリント			
評価方法	<p>■半期を定期試験で2区間に分け、各区間を100点満点で評価(内容は下記の通り)</p> <p>【各区間の評価方法:下記①②の合計を評価点とする】</p> <p>①定期試験の素点(100点満点)×0.8(80%) ②リアクションペーパー記入提出(10%)、授業ノート提出(10%) ※リアクションペーパーの未提出、および無記名・未記入での提出は一つにつき2点減点とする</p> <p>■総合評価は2区間評価合計の平均とする(2区間の評価点の合計が120点以上であること)</p>			
関連科目	現代社会(1年)、歴史(2年)、倫理(3年)			
準備学習に関するアドバイス	授業を通して、自分のものの見方・考え方を深める機会にしたいと思います。			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画および評価方法を理解する
0.5	聖書の開き方	<input type="checkbox"/> 聖書の開き方を知る
1.5	〈青年期と自己の形成〉 1. 青年期とは	<input type="checkbox"/> 人生における青年期の位置づけを知る(A) <input type="checkbox"/> 青年期の特徴を知る(A)
1.5	2. 青年期における発達課題	<input type="checkbox"/> 主体性の確立への理解(A) <input type="checkbox"/> 自己理解(A)
1.5	〈サレジオについて〉 1. サレジオの歴史	<input type="checkbox"/> 歴史的背景を知る(A) <input type="checkbox"/> 創立者聖ヨハネ・ボスコを知る(A)
1.5	2. サレジオの活動内容	<input type="checkbox"/> サレジオの活動内容・教育法(予防教育法)を知る(A) <input type="checkbox"/> 名前の由来:聖フランシスコ・サレジオを知る(A)
1.5	〈キリスト教について〉 1. 聖書	<input type="checkbox"/> 聖書を知る(A, C)
1.5	2. イエス・キリスト	<input type="checkbox"/> イエス・キリストを知る(A, C)
0.75	中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
0.5	・試験返却および解説	<input type="checkbox"/> 答案返却、試験解説
1	・祈りについて	<input type="checkbox"/> 「主の祈り」の解説(A)
1.5	〈キリスト教の精神に学ぶ ~人物紹介を通して~〉 1. 人物紹介①フランシスコ・ザビエル	<input type="checkbox"/> テーマ「出会い」(A, B) <input type="checkbox"/> フランシスコ・ザビエルを知る(A, C) <input type="checkbox"/> リアクションペーパーを通して考えをまとめる(B)
1.5	2. 人物紹介②マザー・テレサ	<input type="checkbox"/> テーマ「愛する」(A, B) <input type="checkbox"/> マザー・テレサを知る(A, C) <input type="checkbox"/> リアクションペーパーを通して考えをまとめる(B)
1.5	3. 人物紹介③キング牧師	<input type="checkbox"/> テーマ「平和」(A, B) <input type="checkbox"/> キング牧師を知る(A, C) <input type="checkbox"/> リアクションペーパーを通して考えをまとめる(B)
1.5	4. 人物紹介④新渡戸稲造	<input type="checkbox"/> テーマ「国際社会」(A, B) <input type="checkbox"/> 新渡戸稲造を知る(A, C) <input type="checkbox"/> リアクションペーパーを通して考えをまとめる(B)
0.75	〈自己理解を深める〉 0.75 ・「己を知り、己に克て」	<input type="checkbox"/> 「己を知り、己に克て」より考える(A)
0.75	・「主体性をもって生きる」ための考察	<input type="checkbox"/> 主体性をもって生きることについて考える(A) <input type="checkbox"/> リアクションペーパーを通して考えをまとめる(B)
0.75	期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1	・試験の返却および解説	<input type="checkbox"/> 答案の返却、試験解説
0.5	・授業アンケート	
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報倫理	全学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Information Ethics	必修	22.5	22.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米山 秋文	一般教育科・教授	238	授業終了時	yoneyama
花山 康雄	一般教育科・非常勤講師	230	授業終了時	hanayama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2		A-3 A-4 C-2		(b) (f)
授業概要	倫理観を確立した社会人になるため、そして将来技術者として必須の情報利用技術(リテラシー)を習得することを目標として、利用技術を習得しつつインターネットを最大限活用して様々な問題を内包する情報化社会を多面的な角度から調査し、分析し、報告書を作る。			
到達目標	<p>A. インターネットを利用して得られる情報を有効に活用できる</p> <p>B. インターネット社会の問題点を把握できる</p> <p>C. インターネット社会での被害者や加害者にならないための知識と判断力を持つことができる</p> <p>D. ネットワーク社会での自制的倫理観(できるけどやらない)を持つことができる</p> <p>E. ワープロや表計算ソフトなど、情報リテラシーの基礎技術を活用できる</p> <p>F. 授業で扱った基本的な用語が理解できる</p>			
授業方法	授業は講義45分・演習45分で行う。演習ではリテラシー能力として、インターネットの索技法(IEブラウザ)、収集技法(Copy&Paste)、作成技法(Word)、データ処理(Excel)、表技法(PowerPoint)を習得させる。所定の様式により報告書を作成提出させ、可能な場合には発表をさせる。			
教科書	インターネット社会を生きるための情報倫理 情報教育学研究会編 実教出版 30時間でマスター Office2010 実教出版編集部 実教出版			
補助教材	事例でわかる 情報モラル 実教出版編集部 実教出版			
評価方法	<p>年間4回の区間で評価を行い、各区間の評価基準は以下のとおりである。</p> <p>(1) 定期試験(年4回) 50%</p> <p>(2) リテラシ演習課題 50%</p> <p>各区間での区間評価点と総合評価点は以下の式で算出する。評価対象は、定期試験と演習の課題で、どちらも100点満点である。</p> <p>・区間評価点(各区間のみの評価)=(試験得点+課題得点)/2</p> <p>・総合評価点(成績通知表の評価点)=(今回までの区間評価点の合計)/区間数</p>			
関連科目	中学情報基礎、技術家庭(情報技術)、各学科の情報関連科目群			
準備学習に関するアドバイス	Officeの課題・レポート作成(そのための調査)やブラインドタッチタイピングの練習などは、授業時間外にもメディアセンターや自宅のパソコンを積極的に利用して行ってください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の意義、授業計画、評価方法、インターネット社会 <input type="checkbox"/> メディアセンターの利用方法、PCの基本操作
2	情報と情報社会(講義)	<input type="checkbox"/> 情報と情報社会の特徴 (B, C, D, F) <input type="checkbox"/> 情報の受信・発信と個人の責任 (B, C, D, F)
2	個人情報と知的財産(講義)	<input type="checkbox"/> 個人情報 (B, C, D, F) <input type="checkbox"/> 知的財産権 (B, C, D, F)
2	タイピング(演習)	<input type="checkbox"/> ブラインドタッチタイピングの練習 (A, E)
3	Word(演習)	<input type="checkbox"/> MicroSoft-Wordの基本機能と操作 (A, E)
0.75	前期中間試験	
4.5	ネットにおけるコミュニケーションとマネー(講義)	<input type="checkbox"/> 電子メールによる情報の受信・発信 (B, C, D, F) <input type="checkbox"/> Webページによる情報の受信・発信 (B, C, D, F) <input type="checkbox"/> ネット上のコミュニケーション (B, C, D, F)
3	Excel(演習)	<input type="checkbox"/> MicroSoft-Excelの基本機能と操作 (A, E)
2	情報収集、レポート作成1(演習)	<input type="checkbox"/> 「著作権」をテーマにWordでレポートを作成 (A, E)
0.75	前期末試験	
1.5	前期のまとめ	<input type="checkbox"/> 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
4.5	情報社会における生活	<input type="checkbox"/> 社会生活における情報 (B, C, D, F) <input type="checkbox"/> 身近な生活における情報 (B, C, D, F) <input type="checkbox"/> ネット社会におけるトラブルと犯罪 (B, C, D, F)
3	PowerPoint(演習)	<input type="checkbox"/> MicroSoft-PowerPointの基本機能と操作 (A, E)
2	情報収集、レポート作成2(演習)	<input type="checkbox"/> 「ネットトラブル」をテーマにWordでレポートを作成 (A, E)
0.75	後期中間試験	
4.5	情報セキュリティとネット被害	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティ (B, F) <input type="checkbox"/> コンピュータへの被害 (B, F) <input type="checkbox"/> ネット社会のセキュリティ技術 (B, F)
3	応用Excel(演習)	<input type="checkbox"/> 家計簿のExcelシートとグラフ作成 (A, E)
2	情報収集、レポート作成3(演習)	<input type="checkbox"/> 「セキュリティ」をテーマにWordでレポートを作成 (A, E)
0.75	後期末試験	
1.5	後期のまとめ	<input type="checkbox"/> 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
現代社会	全学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Modern Society	必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山館 順	一般教育科・准教授	238	火を除く随時	yamadate
柳澤 秀一	一般教育科・非常勤講師	230	水	yanagi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2		A-3		(b)
授業概要	現代日本と世界の社会について基礎的事項の理解を目指す。			
到達目標	(A) 現代日本と世界の社会について中学校地理と公民レベルの基礎的事項を理解できる。(B) 現代日本と世界の諸問題について基礎的な問題意識を持つことが出来る。(C) それら諸問題について50-100字程度の日本語で説明できる。			
授業方法	座学を中心とした授業形態、適宜課題を求める。			
教科書	帝国書院「高等学校新現代社会」			
補助教材	適宜プリント配布			
評価方法	(1) 小テストもしくは課題、各区間の20%、(2) ノート検査もしくは課題、各区間の10%、(3) 定期試験、各区間の70%、(年に4回)、各区間成績は100点法で計算、定期試験の素点×70%、+小テスト+ノート検査、前期末、後期中間、学年末は各区間の合計点数を平均、(例) 前期末=前期中間区間+前期末区間÷2、後期中間=3つの各区間成績の合計÷3、学年末=4つの各区間成績の合計÷4、			
関連科目	2年次歴史、5年次経済学、同技術者倫理、			
準備学習に関するアドバイス	先ず読書、238人文社会研究室の山館文庫は参考になる。又日本と世界の各種報道記事に関心を持つ事。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5 3 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5	ガイダンス、系統地理、東アジア 南アジア 東南アジア 西アジア、北アフリカ、ヨーロッパ 北米	<input type="checkbox"/> 授業計画、系統地理の基礎を理解できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 朝鮮半島と中国の社会について基礎的事項を理解、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> インドとヒンズー社会について基礎的事項を理解できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 東南アジア文化と宗教の特徴について理解できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 当該地域とイスラム教の特徴について理解できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 当該地域社会の特徴について理解、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 当該地域社会の特徴について理解、説明できる。(A、B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5 1.5 1.5 1.5 1.5	世界の思想1 世界の思想2 日本の文化1 日本の文化2 日本の文化3	<input type="checkbox"/> 古代ギリシャの思想について基礎的事項を説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 西洋近代の思想について基礎的事項を説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 日本の伝統文化、宗教の特徴について理解、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 日本文化の地域的特徴と異文化について理解できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 日本の仏教、神道について基礎的事項を理解できる。(A、B)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5	現代社会の諸問題1 地球環境問題 現代社会の諸問題2 温暖化 現代社会の諸問題3 エネルギー問題 現代社会の諸問題4 自然エネルギー 現代社会の諸問題5 生命倫理 日本国憲法1 憲法成立まで	<input type="checkbox"/> 地球環境問題全般について把握、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 地球温暖化問題について把握、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 資源とエネルギーの問題について把握、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 自然エネルギーの問題について把握、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 生命倫理と遺伝子技術の基礎的理解ができる。(A、B) <input type="checkbox"/> 近代立憲政治と現憲法成立までの基礎的な理解ができる。(A、B)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5	日本国憲法2 自由権 日本国憲法3 平等権 日本国憲法4 社会権 日本国憲法5 平和主義 日本国憲法6 国民主権 日本国憲法7 国会の仕組み 日本国憲法8 国会の課題	<input type="checkbox"/> 現憲法の自由権と公共の福祉を理解、説明できる。(A-C) <input type="checkbox"/> 現憲法の平等権とその課題を理解、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 現憲法の社会権、参政権について理解、説明できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 現憲法の平和主義、関連する課題について理解できる。(A、B) <input type="checkbox"/> 国民主権について基礎的事項を把握できる。(A-C) <input type="checkbox"/> 議会制の基礎について把握できる。(A-C) <input type="checkbox"/> 国会の課題について把握できる。(A-C)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習指導の確認
合計 45 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
基礎数学 I	全学科	1年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamental Mathematics 1	必修	講義	演習	実験・実習
60	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山本 孝司	一般教育科・准教授	238	火を除く随時	yamataka
安藤 昭	一般教育科・非常勤講師	239	月・水	andou
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	数、式、関数に関する理解を深め、基礎的な知識の習得と、基礎的な技能の習熟を図るとともに、それらを的確に活用する能力を伸ばす。			
到達目標	<p>A. 中学の基本的な計算ができる。 B. 整式の整理の仕方、展開、因数分解、分数式の計算、平方根の基本的な計算ができる。 C. 2次関数を平行移動の考え方で一般化し、標準形への変形や、グラフが描ける。 D. 2次方程式の解法や、判別式とグラフの関係を理解できる。 E. 1次不等式、2次不等式、連立不等式が解ける。 F. 恒等式、高次方程式の解法、等式と不等式の基本的な証明ができる。 G. 指数、対数の基本的な考え方を身に付け、簡単な計算ができる。</p>			
授業方法	進度に合わせてそのつど宿題を出す。基本概念の説明にあたっては、教科書も使用するがプリントなども多用する。小テストなどで理解度を確認しながら進めていく。			
教科書	「新版 基礎数学」 岡本 和夫 監修 (実教出版)			
補助教材	新版 基礎数学 演習(実教出版)、数学検定3級問題集(数研)			
評価方法	各区間の評価点は、定期試験を70%、平常点(小テスト・課題等)30%として評価する。総合評価点は各区分成績の平均とする。期末試験後に再試験を行うこともある。再試験の受験は自由だが、点数が本試験とすり変わるので、再試験の点数が低いと低い方が採用されることになるので注意すること。数学検定3級合格は5点、準2級合格は10点を平常点30点を超えない範囲で平常点に乗せする。 ・成績表には区間成績の平均が総合成績として記載されます。(小数第1位は四捨五入する) ・後期中間の総合成績が47点未満だと、後期末の区間成績が100点でも学年末の総合成績は60点未満となり、この時点で基礎数学 I は不可となります。			
関連科目	基礎数学 II、物理学、電気磁気学、電気回路、工学基礎			
準備学習に関するアドバイス	根気強く毎日少しでもよいから予習、復習をやって下さい。特に授業にしっかり取り組み与えられた課題を期限を守って提出することが大切です。分からなくなったら遠慮なく担当教員を訪ねて下さい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	□シラバスの説明、評価方法の説明。
4.75	数検3級の問題を用いて中学の復習	□数と式の計算・方程式と不等式・図形と関数・確率(A)
1.5	p 8 整式の加減	□次数・係数・定数項(B) □降べきの順(B)
3	p 10 整式の乗法・展開公式	□指数法則(B) □展開公式(B)
3	p 19 因数分解	□タスキがけ(B) □因数分解の公式(B)
3	p 20 整式の除法・約数・倍数	□整式の除法(B) □組み立て除法(B) □最大公約数・最小公倍数(B)
3	p 22 分数式の計算	□分数式の四則演算(B) □繁分数式の計算(B)
3	まとめと前期中間演習	演習(B)
0.75	前期中間試験	p. 8~p. 25
1.5	試験答案返却 p 26 実数・絶対値	□有理数・無理数・実数(B) □絶対値(B)
1.5	p 29 平方根の計算	□平方根の計算(B) □分母の有理化(B)
4.5	p 37 2次関数のグラフ	□頂点・軸(C) □標準形(C) □平行移動(C) □関数の決定(C)
1.5	p 45 2次関数の最大値・最小値	□最大値・最小値(C)
1.5	p 50 複素数	□虚数単位(D) □複素数の計算(D)
1.5	p 48 2次方程式	□2次方程式の解法(D) □解の公式(D)
3	p 54 判別式・解と係数の関係	□判別式(D) □解と判別式の関係(D) □解と係数の関係(D)
3	まとめと前期末演習	演習(C, D)
0.75	前期末試験	p. 26~p. 59
3	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	p 60 不等式とその解	□1次不等式(E) □連立不等式(E)
4.5	p 64 2次不等式	□2次不等式(E)
1.5	放物線と直線	□放物線と直線の交点・位置関係(E)
1.5	p 76 恒等式	□恒等式の定義(F) □未定係数法(F)
4.5	p 79 剰余の定理と因数定理	□剰余の定理(F) □因数定理(F) □高次式の因数分解(F)
1.5	p 82 高次方程式	□高次方程式の解法(F)
4.5	p 85 式と証明	□等式の証明(F) □不等式の証明(F) □相加平均・相乗平均(F)
3	まとめと後期中間演習	□演習(E, F)
0.75	後期中間試験	p. 60~p. 90
3	試験答案返却 p 106 指数の拡張	□累乗根(G) □負の指数(G) □分数の指数(G) □指数法則(F)
1.5	p 112 指数関数とそのグラフ	□指数関数のグラフ(G) □指数方程式(G) □大小関係(G)
4.5	p 117 対数とその性質	□対数の定義と性質(G) □底の変換公式(G) □対数計算(G)
3	p 122 対数関数とそのグラフ	□対数関数のグラフ(G) □対数方程式(G)
1.5	p 127 常用対数	□常用対数(G) □対数表(G)
3.75	まとめと後期末演習	演習(G)
0.75	後期末試験	p. 106~p. 130
3	試験答案返却・試験解説・確認演習	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90	最終成績：評価点 [] 点	評定： □優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
基礎数学Ⅱ	全学科	1年	通年	3
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamental Mathematics 2	必修	講義	演習	実験・実習
40.5	27	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大屋 博一	一般教育科・准教授	239 数学科	水曜日以外	h-ohya
亀山 統胤	一般教育科・助教	239 数学科	木曜日以外	n-kameyama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-1		B-1		(c)
授業概要	数学は自然科学や工学の種々の分野を記述するための言葉として必要不可欠である。本科目では数学の中でも、主に解析学・幾何学に繋がる内容について学習する。特に三角比・三角関数については重点的に講義し、本校で学習していく上での基礎力を身に付ける。			
到達目標	A. 内分点・外分点の座標、2点間の距離が求められる。 B. 直線の方程式を求めることができ、グラフが描ける。 C. 円の方程式を求めることができ、グラフが描ける。 D. 三角比を求めることができ、その性質を用いた計算ができる。 E. 一般角の考えを用いて三角関数を定義することができ、その性質を用いた計算ができる。 F. 三角関数のグラフが描け、三角方程式・三角不等式が解ける。 G. 三角関数の加法定理を学習し、使うことができる。 H. 不等式の表す領域を図示できる。 I. べき関数、分数関数、無理関数の性質を学習し、グラフが描ける。			
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 必要に応じて小テストを実施し、課題提出を課す。			
教科書	新版 基礎数学 岡本和夫(実教出版)			
補助教材	新版 基礎数学演習 岡本和夫(実教出版)			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目及びその割合 (1) 定期試験(70%) (2) 小テスト、課題等の提出物、授業態度(30%) 2. 評点算出の方法 (1) 1年を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 数学検定3級合格者は5点を平常点枠30点を超えない範囲で、平常点に加える。 (4) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は不可が確定する。 (*)再試験の受験は自由だが、得点の上下に関わらず、再試験の得点が採用されるので注意すること。			
関連科目	基礎数学Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	根気強く、毎日少しでもよいので予習・復習をしましょう。特に授業にしっかり取り組み、与えられた課題を「期限を守って」、「確実に」提出することが大切です。分からなくなったら遠慮なく先生を訪ねてください。			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画及び評価方法などの説明
1.5	第7章 図形と方程式 1. 座標平面上の点と直線 2. 数直線上の点 3. 座標平面上の点 3. 直線の方程式	<input type="checkbox"/> 直線上の内分点・外分点(A) <input type="checkbox"/> 内分点・外分点の座標、三角形の重心の座標、2点間の距離(A) <input type="checkbox"/> 直線の方程式、平行条件・垂直条件(B)
3.75	円	<input type="checkbox"/> 円の方程式、接線の方程式(C)
3	第6章 三角関数 1. 三角比 3. 鋭角の三角比 3. 三角比の拡張 3. まとめと演習(前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 正弦・余弦・正接(D) <input type="checkbox"/> 三角比の拡張、三角比の相互関係(D) <input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期中間試験	
3	正弦定理と余弦定理	<input type="checkbox"/> 正弦定理、余弦定理、三角形の面積(D)
1.5	2. 三角関数 1.5 一般角と弧度法 3 三角関数 1.5 まとめと演習	<input type="checkbox"/> 一般角、弧度法(E) <input type="checkbox"/> 三角関数の値域、相互関係、性質(E) <input type="checkbox"/> 演習
3	三角関数のグラフ 3 三角方程式・三角不等式 3 まとめと演習(前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ、平行移動(F) <input type="checkbox"/> 三角方程式と三角不等式の解法(F) <input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期末試験	
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
1.5	三角関数の復習	<input type="checkbox"/> 復習
3	3. 三角関数の加法定理 3 加法定理	<input type="checkbox"/> 加法定理(G)
4.5	4.5 加法定理の応用 1.5 まとめと演習(後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 2倍角の公式、半角の公式、積和・和積の公式(G) <input type="checkbox"/> 演習
0.75	後期中間試験	
3	第7章 図形と方程式 3. 不等式と領域 3. 不等式の表す領域 1.5 まとめと演習	<input type="checkbox"/> 不等式の表す領域の図示(H) <input type="checkbox"/> 演習
1.5	第4章 関数とグラフ 1.5 べき関数 1.5 分数関数 1.5 無理関数 1.5 まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> べき関数の性質とグラフ(I) <input type="checkbox"/> 分数関数の性質とグラフ(I) <input type="checkbox"/> 無理関数の性質とグラフ(I) <input type="checkbox"/> 演習
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
保健体育	全学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Health and Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
高野 修	一般教育科・准教授	体育教員室	火曜：15:00~16:30	takano
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜：9:30~13:00	n-murase
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
GE-2 GE-3	A-1	(i)		
授業概要	健康における様々な事柄を通して、生涯にわたって自らが適切な意志決定、行動選択を行うことができる資質や能力を養い、自身の生活に活かす事ができるようにする。また、スポーツについて種目の特性を理解し、礼儀・マナーおよび互いを尊重する態度や協力し合う姿勢を養い、学生相互の信頼関係を育む。			
到達目標	<p>A. 各種目における様々な技能を理解することができる。</p> <p>B. ルールを理解して実際に試合を行うことができる。</p> <p>C. 公正な態度を持って授業に臨むことができる。</p> <p>D. 互いに協力し合って練習・試合に取り組むことができる。</p> <p>E. 健康に関する基本的知識を理解することができる。</p> <p>F. 適切な生活行動を選択し実践するための知識を身につけることができる。</p> <p>G. 自身の健康のために生活環境を改善していく意欲を持つことができる。</p>			
授業方法	保健と体育実技を隔週で実施する。ただし学校行事の都合で順序が入れ替わる場合もあるので別途配布される年間行事予定を確認の上、対応すること。剣道とバレーボールの履修順は半期で入れ替えるがクラス毎に異なるので注意すること。			
教科書	「現代保健体育 改訂版」 高石 昌弘、加賀谷 照彦ほか (大修館書店)			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 保健素点(25%) + 体育実技素点(25%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 保健素点は定期試験(30%) + レポート(30%) + ノート(30%) + 授業態度(10%) で算出。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 保健素点(20%) + 体育実技素点(20%) + マラソン(10%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。授業意欲点の扱いについては前期と同様。 保健および体育実技素点は前期と同様の形式で算出。マラソンについては周回数に応じて素点を算出。ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業の際に指定の服装で臨まなかった場合には見学とする。怪我等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には、医師の診断書を担当教員に提出のこと。競技大会及びマラソン大会開催前は練習が行われるが、その際の授業内容の変更等は別途指示する。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	— 保 健 —	
	【前期】	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方法・評価法 健康に対する意識調査等 (G)
6.75	現代社会と健康	<input type="checkbox"/> 生活習慣病と医薬品・薬物や感染症における学習 (E) (F) (G)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 現代社会と健康について (E) (F) (G)
0.75	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 答案返却・解説・ノート確認 (E)
	【後期】	
7.5	生涯を通じる健康	<input type="checkbox"/> 思春期・結婚・妊娠および出産や医療に関する学習 (E) (F) (G)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 生涯を通じる健康について (E) (F) (G)
0.75	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 答案返却・解説・ノート確認 (E)
	— バレーボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方法・評価法・体育施設利用法について (C)
0.75	集団行動・体づくり運動	<input type="checkbox"/> 集合・整列・ストレッチ・基礎運動トレーニング (C) (G)
0.75	基礎技術	<input type="checkbox"/> キャッチボール・パス・スパイク・ブロック・サーブ (A) (D)
1.5	応用技術	<input type="checkbox"/> 三段攻撃・レシーブフォーメーション (A) (D)
1.5	実戦練習	<input type="checkbox"/> 9人制ルール・審判法・戦術説明及びゲーム (B) (C) (D)
2.25	試合	<input type="checkbox"/> 6人制ルール・審判法・戦術説明及びゲーム (B) (C) (D)
0.75	実技試験	<input type="checkbox"/> パス・スパイク・サーブ (A) (D)
	— 剣 道 —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方法・評価法・体育施設利用法について (C)
0.75	基礎体力作り	<input type="checkbox"/> ストレッチング・複合トレーニング (C) (G)
0.75	礼法	<input type="checkbox"/> 集合・座礼・立礼 (A) (C)
0.75	基本動作の習得(1)	<input type="checkbox"/> 構え・足さばき・素振り (A) (D)
1.5	基本動作の習得(2)	<input type="checkbox"/> 剣道基本技稽古法① (A) (D)
1.5	基本技能の習得(1)	<input type="checkbox"/> 剣道基本技稽古法② (A) (D)
1.5	基本技能の習得(2)	<input type="checkbox"/> 打ち込み・面・小手 (A) (D)
0.75	実技試験	<input type="checkbox"/> 技能・態度の到達度 (A) (D)
	— その他 —	
3	新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) (G)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (C) (D)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) (G)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) (G)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語	全学科	1年	通年	6
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English	必修	講義	演習	実験・実習
		35	100	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
松尾 貴哲	一般教育科・講師	236	水曜 12:30-13:00	matsuot
真島 顕子	一般教育科・講師	236	水曜 12:30-13:00	majima-a
野島 伸仁	一般教育科・非常勤講師	236	月曜 12:30-13:00	nojima
Karin Pisarikova	一般教育科・非常勤講師	236	月曜 12:30-13:00	karin
Joel Kirkham	一般教育科・非常勤講師	236	水曜 12:30-13:00	j-kirkham
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-3		C-3	(f)	
授業概要	多様なアクティビティを通して、発信力を中心に英語運用能力の基礎を築く。基本的な英文法のまとめや平易な文書読解の演習を行いながら、CEFR-J A1.2レベルの到達を目指す。			
到達目標	A. (Listening) 身近なトピックに関する話を、ゆっくりはつきり話されれば理解することができる B. (Reading) 日常生活で使われる非常に短い簡単な文章・報告を読み、理解することができる C. (Speaking) 身近なトピックに関して、限られた表現を用い、簡単な応答・やり取りができる D. (Writing) 簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近な事柄について短い文章を書くことができる E. (Grammar) 授業内で取り扱った文法項目を理解できる			
授業方法	中学英語の既習事項を確認しながら4技能習得を目的とした演習中心の授業を行う。授業はすべてTeam Teachingで行い、必要に応じてペアワーク、グループワークなどを通して、理解の促進・フォローをする。			
教科書	Get Ahead, Level 2 (Oxford)			
補助教材	ジーニアス英和辞典第5版(大修館)			
評価方法	<p>区間評価：定期試験(50%)＋小テスト(15%)＋ハフォーマンステスト(15%)＋課題(20%)</p> <p>※ 小テストは再テスト不可。</p> <p>※ ハフォーマンステストは再テスト可だが、再テスト評価表(最高9点)を用いて評価する。</p> <p>※ ハフォーマンステスト当日欠席であった場合、受験時に再テスト評価表を用いて評価する。</p> <p>※ 小テスト及びハフォーマンステストの未受験分は、0点として換算する。</p> <p>※ 定期試験の再試験は実施しない。</p> <p>総合評価は各区間の単純平均とする。</p> <p>※ 英検IBA試験を年に1回実施し(12月実施予定)、学年末評価に1区間相当として算入する。</p> <p>換算点については、別表参照。</p>			
関連科目	中学英語および「国語」			
準備学習に関するアドバイス	平常点を占める割合が大きいのので、小テストは必ずできるようになるまで練習し、しっかりと準備をしてから授業に臨んでください。この授業は「実技科目」と考えて、積極的に体を動かしてください。ただ黙って座っているだけでは評価されません。遠慮せず質問をしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業コンセプトの共有 <input type="checkbox"/> 受講上の基本ルールの理解
31	Unit 1	<input type="checkbox"/> 楽しいアクティビティについて述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在形と動詞+ing形を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> 遊園地について書かれた文章を読む事ができる (B) <input type="checkbox"/> 自分が今していることについて述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在進行形を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> 音楽祭について書かれた文章を読む事ができる (B)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
30.5	【後期末】 Unit 3	<input type="checkbox"/> 地形について述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 形容詞の比較級と最上級を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> 国立公園について書かれた文章を読む事ができる (B) <input type="checkbox"/> 自分の好きなテレビ番組について述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去形と人称代名詞を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> 疑念を表す事ができる (C, D)
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
31	【後期中間】 Unit 5	<input type="checkbox"/> 起こった事柄とその時の気持ちについて述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> couldと、感情を表す形容詞を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> マティン・ルーサー・キングについて書かれた文章を読む事ができる (B) <input type="checkbox"/> 交通機関について述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去進行形を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> 通学について書かれた文章を読む事ができる (B)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
30.5	【後期末】 Unit 7	<input type="checkbox"/> 食べ物について述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 可算名詞と不可算名詞を使う事ができる (E) <input type="checkbox"/> 健康的な食事について書かれた文章を読む事ができる (B) <input type="checkbox"/> 家事について述べる事ができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> have toとcan'tを用いて規則を述べる事ができる (C, D, E) <input type="checkbox"/> do, have, makeを使う事ができる (C, D)
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検IBA試験)	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
135 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 優良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	全学科	2年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		60	30	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
相川 智洋	一般教育科・准教授	211	火曜日以外	aikawa
村田 昌巳	一般教育科・教授	237	木曜日以外	murata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
GE-1 GE-3	A-2 C-1	(a) (f)		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ことばを通してさまざまなものの考え方・感じ方に触れ、ものごとを多角的に捉える「ことばを通して世界を見つめる力」を養う。また、そのための基礎的な知識の習得を目指す。 文章を論理的に読み解く力及び文章作成の基礎力を養う。 			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確な意味疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記①②に向けて、2年次の学習到達目標を下記2点とする。</p> <p>(A) 文と文の関係、段落と段落の関係を把握できる</p> <p>(B) 三字熟語・四字熟語などの意味を理解し、漢字で書くことができる</p> <p>(C) 文章作成の基礎を理解し、手引きに従い文章を書くことができる</p>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> 配布プリント及び「論理エンジン」に主として問題演習形式で取り組む。適宜、漢字小テストを実施する。 「論理エンジン」で学習した内容をもとに、評論文を読解する。 語彙の習得から始め、手引きに従い文章作成の基礎に演習形式で取り組む。 			
教科書	「論理エンジン」OS3(水王舎)、その他適宜プリントを配布する。			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「国語辞典」			
評価方法	<p>年間を定期試験で4区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は4区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、4区間の評価点の合計が240点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記(1)+(2)+(3)+(4)+(5)の合計を各区間の評価点とする。</p> <p>(1) 定期試験(100満点) 素点×0.7</p> <p>(2) 授業内小テスト(10点満点) 4回分の平均点</p> <p>(3) 授業内課題の評価点 最大10点分×2課題 (5段階評価 A:10点 B:8点 C:5点 D:3点 E:0点【不提出】)</p> <p>(4) 自学自習課題[減点対象] — 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-6点</p> <p>(5) 忘れ物[減点対象] — 教員入室時、授業に必要なものが机上にない場合、1回につき最大-6点</p>			
関連科目	国語(1年・3年・4年)、日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	課題への取り組み不足や提出遅れ・不提出、忘れ物にて減点をされないようにすること。小テスト・定期試験にはしっかりと準備した上で臨むこと。苦手な学生は1年次に学習した「論理エンジン」のOS1・2を復習すること。なお、日本語検定(3級以上)・漢字検定(準2級以上)の資格取得を推奨します。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価方法
2.5	前年度の復習	<input type="checkbox"/> 1年次学習内容確認
4.5	論理エンジンOS3 Lv21&Lv22	<input type="checkbox"/> 具体例・イコール(等価)関係(A)
10	文書作成基礎I~III	<input type="checkbox"/> 文章作成のルール・語彙の習得・文法力養成(C)
3	国語基礎	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
0.75	前期中間テスト	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
4.5	論理エンジンOS3 Lv23&Lv24	<input type="checkbox"/> 対立関係・因果関係(A)
3	評論文読解I	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造及び内容(A)
9	文書作成基礎IV~VI	<input type="checkbox"/> 語彙の習得・文法力養成・表現力養成など(C)
3	国語教養	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
0.75	前期期末試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
0.5	前期授業アンケート	
4.5	論理エンジンOS3 Lv25&Lv26	<input type="checkbox"/> 文章内容・段落要点(A)
3	評論文読解II	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造及び内容(A)
10	文書作成基礎VII~IX	<input type="checkbox"/> 語彙の習得・文法力養成・表現力養成など(C)
3	国語教養	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
0.75	後期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
4.5	論理エンジンOS3 Lv27&Lv28	<input type="checkbox"/> 段落相互関係・文章要旨(A)
3	評論文読解III	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造及び内容(A)
9	文書作成基礎X~XII	<input type="checkbox"/> 語彙の習得・文法力養成・表現力養成など(C)
3	国語基礎	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
0.75	後期期末試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 三字熟語・四字熟語等(B)
0.5	後期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
歴史	全学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
History	必修	講義	演習	実験・実習
45	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山館 順	一般教育科・准教授	238	火を除く随時	yamadate
柳澤 秀一	一般教育科・非常勤講師	230	水	yanagi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2		A-3		(b)
授業概要	世界の歴史、現代社会の成り立ちについて基礎的事項の理解を目指す。			
到達目標	(A) 世界の歴史、現代社会の成り立ちについて中学校レベルの基礎的事項を理解できる。(B) 現代社会の成り立ちに関する諸問題について基礎的な問題意識を持つことが出来る。(C) それら諸問題について50-100字程度の日本語で説明できる。			
授業方法	座学を中心とした授業形態、適宜課題を求める。			
教科書	学術図書出版社「新編世界の歴史」			
補助教材	適宜プリント配布			
評価方法	(1) 小テストもしくは課題、各区間の20%、(2) ノート検査もしくは課題、各区間の10%、(3) 定期試験、各区間の70%、(年に4回)、各区間成績は100点法で計算、定期試験の素点×70%、+小テスト+ノート検査、前期末、後期中間、学年末は各区間の合計点数を平均、(例) 前期末=前期中間区間+前期末区間÷2、後期中間=3つの各区間成績の合計÷3、学年末=4つの各区間成績の合計÷4、			
関連科目	1年次現代社会、5年次経済学、同技術者倫理、			
準備学習に関するアドバイス	先ず読書、238人文社会研究室の山館文庫は参考になる。又日本と世界の各種報道記事に関心を持つ事。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス、新しい歴史の方法論	<input type="checkbox"/> 授業計画、歴史研究の新しい方法論を理解できる。(A、B)
1.5	ギリシャのポリス社会	<input type="checkbox"/> ギリシャ文化、社会の特徴を理解できる。(A、B)
1.5	アテネとスパルタ	<input type="checkbox"/> 二大ポリスの特徴を理解、説明できる。(A、B)
1.5	ヘレニズム世界	<input type="checkbox"/> 東方遠征後の文化、社会について把握、説明できる。(A、B)
1.5	共和制ローマ	<input type="checkbox"/> ローマ共和制の特徴と拡大について把握、説明できる。(A、B)
1.5	帝政ローマ	<input type="checkbox"/> 帝政ローマ社会の特徴について把握、説明できる。
1.5	民族移動期	<input type="checkbox"/> 帝政末期社会とゲルマン人の特徴を理解できる。(A、B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5	フランク王国	<input type="checkbox"/> フランク王国の政治と社会について説明、理解できる。(A、B)
1.5	カール大帝の帝国	<input type="checkbox"/> カロリング朝の政治と社会について説明、理解できる。(A、B)
1.5	バイキングと10世紀のヨーロッパ	<input type="checkbox"/> バイキング侵攻と封建制形成について把握できる。(A、B)
1.5	ヨーロッパの対外拡大	<input type="checkbox"/> 十字軍とその後の西欧社会について把握できる。(A、B)
1.5	中世後期のヨーロッパ	<input type="checkbox"/> 都市の発展と交易、封建制の崩壊過程について把握できる。(A、B)
1.5	イタリアルネサンス	<input type="checkbox"/> 14-5世紀イタリア社会と文化について把握、説明できる。(A、B)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5	イタリア以外のルネサンス	<input type="checkbox"/> イタリア以外のルネサンスについて把握できる。(A、B)
1.5	三大発明と社会への影響	<input type="checkbox"/> ルネサンスの三大発明とその社会的影響について把握できる。(A、B)
1.5	宗教改革	<input type="checkbox"/> ルターとカルバンの思想と対抗宗教改革の基礎的事項の把握 (A、B)
1.5	大航海時代	<input type="checkbox"/> 大航海時代とその影響を理解できる。(A、B)
1.5	絶対王政の形成	<input type="checkbox"/> フルボン朝とその社会について理解できる。(A、B)
1.5	イギリス市民革命	<input type="checkbox"/> 17世紀イギリス社会とその政治について把握、説明できる。(A、B)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5	アメリカの独立	<input type="checkbox"/> 合衆国の独立について理解、説明できる (A、B)
1.5	フランス革命1	<input type="checkbox"/> 18世紀フランス社会について革命への推移を理解、説明できる。(A、B)
1.5	フランス革命2	<input type="checkbox"/> 革命の高揚と鎮静について把握できる。(A、B)
1.5	ナポレオンの時代1	<input type="checkbox"/> 革命後の状況とナポレオン政権について理解できる。(A、B)
1.5	ナポレオンの時代2	<input type="checkbox"/> 帝政以後のナポレオンとその衰退について理解できる。(A、B)
1.5	産業革命	<input type="checkbox"/> 産業革命について基礎的事項を理解できる。
1.5	19世紀前半のヨーロッパ	<input type="checkbox"/> 19世紀前半のヨーロッパ社会について理解できる。(A、B)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習指導の確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績：評価点 [] 点	評定：□優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
代数幾何学	全学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Algebra and geometry	必修	31.5	13.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山本 孝司	一般教育科・准教授	238	火を除く随時	yamataka
山本 和義	機械電子工学科・非常勤講師	230	毎授業終了時	ymt
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	平面ベクトルや空間ベクトルの概念とその基本的な性質、計算方法を理解し簡単な応用を学ぶ。また行列の概念とその基本的な性質、計算方法を理解し、1次変換との関係を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 平面ベクトルがイメージできて、和・差・実数倍等の基本的な作図と計算ができる。</p> <p>B. 平面ベクトルの成分表示の基本的な計算ができ位置ベクトルに活用できる。</p> <p>C. 平面ベクトルの内積の計算ができる。</p> <p>D. 直線のベクトル方程式とパラメータ表示を求めることができる。</p> <p>E. 空間座標や空間ベクトルがイメージできて、成分表示による基本的な計算ができる。</p> <p>F. 空間の直線、平面、球の方程式を求めることができる。</p> <p>G. 行列の基本的な計算ができる。</p> <p>H. 逆行列を求めることができる。</p> <p>I. 1次変換を式で表すことができる。</p> <p>J. 1次変換で点と直線の移動ができる。</p> <p>K. 合成変換と逆変換に関する基本的な計算ができる。</p>			
授業方法	教科書に添って進めるが、プリントを使う場合もある。また授業ごとに課題を出す。			
教科書	実教出版 新版 線形代数			
補助教材	なし			
評価方法	<p>各区間の評価点は、定期試験を70%、平常点(小テスト・課題等)30%として評価する。総合評価点は各区分成績の平均とする。最終区分のみ補助課題を出して、区分の評価点に、評価点が100点を超えない範囲で、補助課題点を最大で10点加えることがある。期末試験後に再試験を行うこともある。再試験の受験は自由だが、点数が本試験とすり替るので、再試験の点数が低いと低い方が採用されることになるので注意すること。</p> <p>※ 数学検定準2級合格は10点、1次ないし2次のみ合格は5点を平常点枠30点を超えない範囲で平常点に上乗せする。</p> <p>・成績表には区分評価点の平均が総合評価点として記載されます。(小数第1位は四捨五入する)</p> <p>・後期中間の総合評価点が47点未満だと、後期末の区分評価点が100点でも学年末の総合評価点は60点未満となり、この時点で代数幾何学は不可となります。</p>			
関連科目	基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、線形代数			
準備学習に関するアドバイス	授業に集中し、教科書と併せて特に課題をしっかりとやること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス 平面ベクトル	ガイダンス p8 <input type="checkbox"/> ベクトルの定義と意味(A) <input type="checkbox"/> ベクトルの加減、実数倍の作図と計算(A)
1.5	ベクトルの成分表示	p13 <input type="checkbox"/> 成分によるベクトルの計算とベクトルの大きさ(B)
1.5	ベクトルの分解と位置ベクトル	p16 <input type="checkbox"/> ベクトルの分解(B) p26 <input type="checkbox"/> 位置ベクトル、分点の位置ベクトル(B)
1.5	ベクトルの内積(1)	p18 <input type="checkbox"/> 内積の定義と基本的計算(C) <input type="checkbox"/> 成分による内積の計算(C)
1.5	ベクトルの内積(2)	p21 <input type="checkbox"/> 内積の基本的性質とベクトルのなす角(C)
1.5	前期前半の演習	前期前半の演習
1.5	前期前半確認テスト	前期前半確認テストおよび解説
0.75	前期中間試験	前期中間試験
1.5	答案返却・解説 直線のベクトル方程式(1)	答案返却・解説 p30 <input type="checkbox"/> 直線の決定条件とベクトル方程式(D) <input type="checkbox"/> パラメータ表示(D) <input type="checkbox"/> 直線のベクトル方程式演習(D)
1.5	直線のベクトル方程式(2)	
1.5	円のベクトル方程式	p33 <input type="checkbox"/> 円の復習と円のベクトル方程式(D)
1.5	空間座標と空間ベクトル(1)	p36 <input type="checkbox"/> 空間座標と空間ベクトル(E) p41 <input type="checkbox"/> 空間ベクトルの成分表示と計算(E)
1.5	空間座標と空間ベクトル(2)	p38 <input type="checkbox"/> 空間における2点間の距離、線分の分点(E) p45 <input type="checkbox"/> 空間ベクトルの内積、定義と基本計算(E) <input type="checkbox"/> 空間ベクトルの平行・垂直・なす角(E)
1.5	前期後半の演習	前期後半の演習
1.5	前期後半確認テスト	前期後半確認テストおよび解説
0.75	前期末試験	前期末試験
1.5	答案返却・解説 空間の直線のベクトル方程式	答案返却・解説 p53 <input type="checkbox"/> 空間の直線の決定条件とベクトル方程式(F) p55 <input type="checkbox"/> 平面の決定条件と平面の方程式(F)
1.5	平面の方程式	
1.5	球の方程式	p56 <input type="checkbox"/> 球の決定条件と球のベクトル方程式(F) <input type="checkbox"/> 球の方程式、その一般形と標準形(F)
1.5	行列(1)	p64 <input type="checkbox"/> 行列の定義と基本演算(和・差・実数倍)(G)
1.5	行列(2)	p70 <input type="checkbox"/> 行列の積、基本計算と性質(G) p80 <input type="checkbox"/> 転置行列(G)
1.5	後期中間の演習	後期中間の演習
1.5	後期中間確認テスト	後期中間確認テストおよび解説
0.75	後期中間試験	後期中間試験
1.5	答案返却・解説 逆行列(1)	答案返却・解説 p76 <input type="checkbox"/> 逆行列の定義、存在条件と正則性(H) <input type="checkbox"/> 2次正方行列の逆行列(H)
1.5	逆行列(2)	p79 <input type="checkbox"/> 逆行列の利用(H)
1.5	1次変換(1)	p138 <input type="checkbox"/> 1次変換の定義と行列による表現(1)
1.5	1次変換(2)	p139 <input type="checkbox"/> 1次変換による点の像、1次変換の決定(J) <input type="checkbox"/> 対称移動と1次変換(J)
1.5	1次変換(3)	p151 <input type="checkbox"/> 1次変換による直線の移動(J)
1.5	1次変換(4)	p144 <input type="checkbox"/> 合成変換と逆変換(K)
1.5	後期末試験演習	後期末試験演習
1.5	後期末試験の確認テスト	後期末試験確認テストおよび解説
0.75	後期末試験	後期末試験
1.5	答案返却・解説	答案返却・解説
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
微分積分学	全学科	2年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Differential and Integral calculus	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
西岡 広志	一般教育科・講師	239	水曜日以外	nishioka
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-1		B-1	(c)	
授業概要	数列に始まり、三角関数は一年生で習った内容を復習し逆三角関数を学習する。微分積分については整関数を基本に三角・指数・対数関数も対象とし、増減表とグラフ、接線と法線、面積、回転体の体積などについても学習する。			
到達目標	<p>A. 基本的な数列の一般項を求めることができる</p> <p>B. 基本的な数列の和を求めることができる</p> <p>C. 三角関数の公式を使いこなすことができる</p> <p>D. 三角関数と逆三角関数のグラフを書くことができる</p> <p>E. 基本的な関数の極限を求めることができる</p> <p>F. 関数の微分ができる</p> <p>G. 接線・法線の方程式を求めることができる</p> <p>H. 整関数の増減表とグラフを書くことができる</p> <p>I. 関数の積分ができる</p> <p>J. 定積分を用いて面積および回転体の体積を求めることができる</p> <p>K. 置換積分ができる</p>			
授業方法	教科書の流れに沿って講義形式で授業を進める。演習問題を解き小テストを行うことにより理解度を確保する。さらに知識を確実にするために適宜課題の提出を求める。			
教科書	新版 微分積分 I 岡元和夫(実教出版)			
補助教材	新版 微分積分 I 演習 岡元和夫(実教出版)			
評価方法	<p>1. 成績評価の根拠となる項目とその割合について</p> <p>(1) 定期試験 (70%)</p> <p>(2) 小テスト、課題、宿題ノート提出などの平常点 (30%)</p> <p>2. 評価点算出の方法</p> <p>(1) 年間を4区間に分け、上記の配分で区間成績をつける。</p> <p>(2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。</p> <p>(3) 学年末のみ再試験を行うこともあるが後期中間の総合成績が47未満の場合は不可が確定する</p>			
関連科目	基礎数学 I・II			
準備学習に関するアドバイス	公式を丸暗記するのではなく、何を意味しているか、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには授業の復習や課題の演習で練習問題を数多くこなし、確固たる知識を身に付けていく姿勢が必要です。			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
1	数列とは	<input type="checkbox"/> 数列とは何かを理解する(A)
3	等差数列	<input type="checkbox"/> 等差数列の一般項と和を求めることができる(A, B)
3	等比数列	<input type="checkbox"/> 等比数列の一般項と和を求めることができる(A, B)
3	Σの公式と性質の計算	<input type="checkbox"/> Σの公式と性質を理解し、数列の和を計算できる(B)
3	階差数列	<input type="checkbox"/> 階差数列を利用して、数列の一般項を求めることができる(A)
4	漸化式と数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 簡単な漸化式や帰納法の証明を解くことができる(A, B)
3	数列のまとめと演習	<input type="checkbox"/> 数列の対策演習問題を理解する(A, B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間試験
1	三角関数の定義と加法定理の復習	<input type="checkbox"/> 三角関数の定義と加法定理の復習する(C)
1	三角関数の合成	<input type="checkbox"/> 三角関数の合成を理解する(C)
2	三角関数のグラフ	<input type="checkbox"/> 三角関数のグラフを復習する(C, D)
3	逆三角関数	<input type="checkbox"/> 逆三角関数の定義・値・グラフを理解する(C, D)
3	関数の極限	<input type="checkbox"/> 極限の考え方を理解し、極限值を求めることができる(E)
1.5	微分係数	<input type="checkbox"/> 微分係数の定義と図形的な意味を理解する(F)
3	導関数	<input type="checkbox"/> 導関数の定義と公式を理解する(E, F)
2	関数の積・商の微分法	<input type="checkbox"/> 積・商の微分法を用いて微分できる(F)
3	三角関数と微分のまとめと演習	<input type="checkbox"/> 三角関数と整関数の微分の対策演習問題を理解する(C~F)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末試験
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説と理解が不十分な内容の補足
3	合成関数の微分法	<input type="checkbox"/> 合成関数の微分法を用いて微分できる(F)
4.5	基本的な関数の微分	<input type="checkbox"/> 三角・指数・対数関数の微分計算ができる(F)
1.5	接線・法線の方程式	<input type="checkbox"/> 接線・法線の方程式を求めることができる(G)
3	関数の増減と極大・極小	<input type="checkbox"/> 関数の増減を理解し、極値を求めることができる(H)
3	関数のグラフ	<input type="checkbox"/> 関数の増減と極値を調べてグラフを書くことができる(H)
1.5	不定積分とは	<input type="checkbox"/> 微分と積分の関係および不定積分とは何かを理解する(I)
3	整関数の不定積分	<input type="checkbox"/> 不定積分の性質を理解し、整関数の積分計算ができる(I)
1.5	微分と整関数の不定積分のまとめと演習	<input type="checkbox"/> 基本的な関数の微分と整関数の積分の対策演習問題を理解する(F~I)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間試験
1.5	整関数の不定積分の復習	<input type="checkbox"/> 不定積分の性質を理解し整関数の不定積分ができる(I)
3.75	基本的な関数の不定積分	<input type="checkbox"/> 三角・指数・対数関数の不定積分を計算できる(I)
3.75	定積分の計算	<input type="checkbox"/> 定積分が表わす面積を理解し、その積分計算ができる(I, J)
3.75	置換積分	<input type="checkbox"/> 置換積分法を理解し積分計算ができる(K)
2.25	面積と定積分	<input type="checkbox"/> 2曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる(J)
1.5	回転体の体積	<input type="checkbox"/> 回転体の体積を求めることができる(J)
3	積分のまとめと演習	<input type="checkbox"/> 積分の対策演習問題を理解する(I~K)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末試験
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説と理解不十分な内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
化学	全学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Chemistry	必修	講義	演習	実験・実習
37	4	4		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
長尾 明美	一般教育科・講師	211	金曜日以外随時	a-nagao
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	私たちも含め、全ての物質は、原子から成り立っている。物質の分類や原子の構造、電子配置や周期表についてまなぶ。また、物質の構成成分である原子、分子、イオンをまなび、それぞれの結合様式をまなぶ。さらに、化学反応式の意味することや、代表的な反応である酸塩基と酸化還元の基礎をまなぶ。			
到達目標	A. 物質の分類ができる。 B. 原子の構造を説明でき、主な元素の周期表上の位置がわかる。 C. 周期表と電子配置の関係がわかる。 D. いくつかの化学結合と周期表の元素の関係がわかる。 E. 物質量の基礎がわかり。 F. 化学反応式が書け、量的関係の計算ができる。 G. 酸と塩基について説明できる。 H. 酸化と還元について説明できる。 I. 溶解の仕組みがわかり、質量%濃度・体積モル濃度mol/Lの濃度計算ができる。			
授業方法	講義を中心に行う。適宜、実験や演示、演習を取り入れて学習内容の定着をはかる。必要に応じてプリントを配布する。			
教科書	高等学校化学(東京書籍)			
補助教材	三訂版 ダイナミックワイド化学図録(数研出版) ニューアチーブ化学(東京書籍)			
評価方法	定期試験の評点・・・・・・・・・・・・・・・・・・70% 小テスト、レポート、ノートチェック、課題の評点・・・・・・30% 総合評価は各区分評価の単純平均とする。			
関連科目	有機化学			
準備学習に関するアドバイス	比例計算など、計算の基礎をしっかりと身に付けておくこと。中学校理科で学んだ”物質の分離・精製法””元素記号やイオンの式””化学変化の基礎”を復習しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス、物質の分類、原子と元素	<input type="checkbox"/> 混合物と純物質の違いがわかり、物質の分類ができる(A) <input type="checkbox"/> 純物質とその分類(単体と化合物の違い)がわかる(A)
1.5	原子の構造と周期表	<input type="checkbox"/> 原子の構造がわかり、同素体・同位体・アイソトープがわかる(B) <input type="checkbox"/> 原子の構造と電子配置について理解する(B) <input type="checkbox"/> 最外殻電子と価電子がわかる(B) <input type="checkbox"/> 元素の周期表、族と周期(C) <input type="checkbox"/> 典型元素と遷移元素がわかる(C) <input type="checkbox"/> 金属・非金属・半金属元素がわかる(C) <input type="checkbox"/> 代表的な元素記号がわかる(C)
1.5	イオンの生成(典型元素)と周期表	<input type="checkbox"/> 陽イオン、陰イオンの生成理由がわかる(C) <input type="checkbox"/> 第一イオン化エネルギー、電子親和力がわかる(C) <input type="checkbox"/> 代表的なイオンの名称とイオン式がわかる(C)
1.5	イオン結合と組成式の作り方、イオン結合	<input type="checkbox"/> イオン結合がわかり、組成式が書ける(D) <input type="checkbox"/> イオン結合の性質がわかる(D)
1.5	硫黄の同素体	<input type="checkbox"/> 構成原子が同じでも、原子の配列で形状・性質が変わることがわかる(D)
3	化学結合 1	<input type="checkbox"/> 金属結合と自由電子がわかり、結合の特徴が説明できる(D) <input type="checkbox"/> 共有結合のできかたがわかり、分子について説明できる(D)
0.75	定期試験(第1回)	<input type="checkbox"/> 分子式、構造式、電子式、組成式がわかる(D)
1.5	化学結合 2	<input type="checkbox"/> 共有結合の極性がわかる(D) <input type="checkbox"/> ポーリングの電気陰性度がわかり、分子の形と極性がわかる(D) <input type="checkbox"/> 水素結合が説明できる(D)
1.5	原子量・分子量・式量	<input type="checkbox"/> 原子量の算出法が理解でき、分子量・式量計算ができる(E)
3	物質量	<input type="checkbox"/> 物質量の計算ができる(E) <input type="checkbox"/> 物質量の単位 molから個・g・L(気体)への換算ができる(E) <input type="checkbox"/> アボガドロ定数を算出できる(E)
1.5	溶解の仕組みと溶液の濃度	<input type="checkbox"/> 電解質・非電解質・電離がわかる(I) <input type="checkbox"/> 質量%濃度・モル濃度の基本がわかる(I)
0.75	定期試験(第2回)	
1.5	まとめ	
4.5	化学反応式 1	<input type="checkbox"/> 簡単な化学反応式がつけられる(F) <input type="checkbox"/> 化学反応式の量的関係がわかる(F) <input type="checkbox"/> 化学の基本法則がわかる(F)
1.5	熱化学方程式	<input type="checkbox"/> 反応や状態変化にともなう熱について理解できる(F) <input type="checkbox"/> 熱化学方程式がかけられる(F) <input type="checkbox"/> ヘスの法則がわかる(F)
4.5	酸と塩基	<input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義がわかる(G) <input type="checkbox"/> 無機化合物の酸塩基の代表例と価数・強弱がわかる(G) <input type="checkbox"/> 酸塩基の強弱と電離度の関係がわかる(G)
1.5	水素イオン指数pH	<input type="checkbox"/> 水のイオン積とpHの定義がわかる(G) <input type="checkbox"/> 身近な物質のpHがわかる(G)
0.75	定期試験(第3回)	
3	中和反応と中和滴定	<input type="checkbox"/> 中和について説明できる(G) <input type="checkbox"/> 中和の公式のもつ意味が理解できる(G) <input type="checkbox"/> 中和反応の式がかけられる(G) <input type="checkbox"/> 中和反応で生じる塩の液性がわかる(G) <input type="checkbox"/> 中和滴定の実験操作がわかる(G) <input type="checkbox"/> 滴定曲線がわかる(G)
1.5	酸化と還元	<input type="checkbox"/> 指示薬が選択できる(G) <input type="checkbox"/> 酸化と還元の定義を説明できる(H) <input type="checkbox"/> 無機物の単体や化合物中の原子の酸化数がわかる(H) <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤がわかる(H)
4.5	電池と電気分解	<input type="checkbox"/> 化学電池の仕組みがわかる(H) <input type="checkbox"/> 電気分解の理論がわかる(H) <input type="checkbox"/> 酸化還元反応の実用例がわかる(H)
0.75	定期試験(第4回)	
1.5	まとめ	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
基礎物理 I	全学科	2年 半期		2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Fundamental Physics I	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
伊藤 光雅	一般教育科・准教授	221	水曜日 12:30 - 17:00	itom
真島 裕樹	一般教育科・講師	221	金曜日 13:30 - 17:00	majima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
GE-1 GE-2	B-1	(c)		
授業概要	力学に関する観察・実験を通して自然現象を物理学的に探究する能力と態度を養うとともに、物理学の基本的な概念や原理法則の理解を通して科学的な自然観を身につけ、科学技術の成果を科学的に判断し、その進歩に対応できる資質を育てる。			
到達目標	<p>A. 力学に関する用語を用いて物理現象を表現できる。</p> <p>B. 簡単な物理量を原理・法則を用いて求めることができる。</p> <p>C. 物理天秤やノギスなど計測機器を使用し、物体の物理量を計測できる。</p> <p>D. 有効数字の計算を行うことができる。</p>			
授業方法	座学を主体として授業を進める。補助教材としてプリント等を配布する。授業中に提示された課題および3種類程度の実験に対するレポートの提出を求める。実験内容についてはガイダンスの際に説明する。			
教科書	「高等学校 改訂 物理基礎」(第一学習社)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	<p>開講期を2区間に分け、総合評定は各区間の評価点(100点満点)の単純平均とする。各区間の評価方法は</p> <p>試験: 70%</p> <p>課題等(含レポート、ノートチェック): 30%</p> <p>とする。期末の総合評定が確定した段階で不可であった者に対して、1回を限度として再試験を実施する場合がある。</p>			
関連科目	基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ, 代数幾何学。			
準備学習に関するアドバイス	提示された課題についてははじめに取り組み、理解の追いつかないところは積極的に教員に質問すること。授業の復習は理解を深める上でとても有効です。専門分野の基礎にもなる科目なので、気を抜かずに取り組んでください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価法を理解する。
1.5	速さと速度	<input type="checkbox"/> 速さ、変位、速度の意味を説明できる。(A)
1.5	等速直線運動	<input type="checkbox"/> 等速直線運動における速さ、変位、速度が計算できる。(B)
1.5	グラフ	<input type="checkbox"/> 時間と速度・位置に関するグラフを読むことができる。(B)
1.5	加速度	<input type="checkbox"/> 加速度の定義を説明できる。(A)
1.5	等加速度運動1	<input type="checkbox"/> 等加速度運動の速度を公式を用いて計算できる。(B)
1.5	等加速度運動2	<input type="checkbox"/> 等加速度運動の速度、位置等を公式を用いて計算できる。(B)
3	落下運動1	<input type="checkbox"/> 自由落下、鉛直投げ上げを説明できる。(A, B)
1.5	速度の合成、相対速度	<input type="checkbox"/> 合成速度、相対速度を求めることができる。(B)
3	落下運動2	<input type="checkbox"/> 水平投射、斜方投射を説明できる。(A, B)
1.5	力	<input type="checkbox"/> 力の合成と分解を作図できる。(B)
1.5	運動の法則1	<input type="checkbox"/> 運動の第1・第3法則を説明できる。(A)
1.5	運動の法則2	<input type="checkbox"/> 運動方程式を立て、加速度を求めることができる。(A, B)
1.5	摩擦	<input type="checkbox"/> 静止摩擦、動摩擦を説明できる。(A, B)
1.5	まとめ	
0.75	前期中間試験	
0.75	答案返却、試験問題解説	
0.75	実験ガイダンス	<input type="checkbox"/> 有効数字と誤差の計算ができる。(B)
1.5	運動量と力積	<input type="checkbox"/> 運動量と力積の関係を説明できる。(A, B)
1.5	運動量保存則	<input type="checkbox"/> 運動量保存則を用いて、衝突問題を説明できる。(A, B)
1.5	仕事	<input type="checkbox"/> 仕事の意味を理解し、計算で求めることができる。(A, B)
1.5	運動エネルギー	<input type="checkbox"/> 物体の運動エネルギーを計算できる。(B)
1.5	位置エネルギー	<input type="checkbox"/> 物体の位置エネルギー・弾性エネルギーを計算できる。(B)
3	力学的エネルギー保存則	<input type="checkbox"/> 力学的エネルギー保存則を用いて物体の運動を説明できる。(A, B)
6	実験	<input type="checkbox"/> 精確に測定し、結果をもとに考察することができる。(C)
		<input type="checkbox"/> 実験で使用する器具を正しく扱うことができる。(D)
1.5	まとめ	
0.75	前期末試験	
1.5	答案返却、試験問題解説	
1.5	総まとめ、個別指導	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
基礎物理Ⅱ	全学科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Fundamental Physics II	必修	講義	演習	実験・実習
		30	7.5	7.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
伊藤 光雅	一般教育科・准教授	221	水曜日 12:30 - 17:00	itom
真島 裕樹	一般教育科・講師	221	金曜日 13:30 - 17:00	majima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-2		B-1		(c)
授業概要	波動に関する観察・実験を通して自然現象を物理学的に探究する能力と態度を養うとともに、物理学の基本的な概念や原理法則の理解を通して科学的な自然観を身につけ、科学技術の成果を科学的に判断し、その進歩に対応できる資質を育てる。			
到達目標	A. 等速円運動・単振動に関する基本的な概念や用語を理解し、説明できる。 B. 波動に関する基本的な概念や専門的な用語を理解し、それらの物理現象を説明できる。 C. 簡単な物理量を原理・法則を用いて求めることができる。 D. 波動領域の具体的な事象について物理的に考察し表現することができる。			
授業方法	座学を主体として授業を進める。補助教材としてプリント等を配布する。授業中に提示された課題および3種類程度の実験に対するレポートの提出を求める。実験内容についてはガイダンスの際に説明する。			
教科書	「高等学校 改訂 物理基礎」(第一学習社)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	開講期を2区間に分け、総合評定は各区間の評価点(100点満点)の単純平均とする。各区間の評価方法は 試験:70% 課題等(含レポート、ノートチェック):30% とする。期末の総合評定が確定した段階で不可であった者に対して、1回を限度として再試験を実施する場合がある。			
関連科目	基礎数学Ⅰ, 基礎数学Ⅱ, 代数幾何学, 基礎物理Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	提示された課題についてははじめに取り組み、理解の追いつかないところは積極的に教員に質問すること。授業の復習は理解を深める上でとても有効です。専門分野の基礎にもなる科目なので、気を抜かずに取り組んでください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価法を理解する。
2.25	円運動	<input type="checkbox"/> 等速円運動の速度、加速度、向心力が計算できる。(A)
3	単振動	<input type="checkbox"/> 単振動と等速円運動の関係が説明できる。(A)
1.5	波とは	<input type="checkbox"/> 波の基本的な用語の意味を説明できる。(B) <input type="checkbox"/> 波の速さが計算できる。(C)
1.5	正弦波	<input type="checkbox"/> 正弦波の式を説明できる。(B)
3	波の干渉	<input type="checkbox"/> 重ね合わせの原理を理解し、合成波の作図ができる。(C)
1.5	ホイヘンスの原理、干渉、回折	<input type="checkbox"/> 波の干渉条件を説明できる。(B)
1.5	反射、屈折、全反射	<input type="checkbox"/> 屈折の法則を用いて屈折波の屈折角や波長等を計算できる。(C)
1.5	音波	<input type="checkbox"/> 音波の性質を説明できる。(B)
1.5	弦の固有振動	<input type="checkbox"/> 共振を理解し、弦の固有振動を説明できる。(C, D)
1.5	確認テスト	
1.5	まとめ	
0.75	後期中間試験	
1.5	答案返却、試験問題解説	
1.5	確認テスト	
1.5	気注の固有振動	<input type="checkbox"/> 気注の速さと長さから、固有振動を求めることができる。(C, D)
3	ドップラー効果	<input type="checkbox"/> ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。(C, D)
4.5	光波	<input type="checkbox"/> 光速、絶対屈折率を説明できる。(B) <input type="checkbox"/> 屈折の法則を用いて、光波の速さや波長を求めることができる。(C, D) <input type="checkbox"/> 回折格子と薄膜干渉を説明できる。(C, D) <input type="checkbox"/> 光路長を説明できる。(B)
4.5	実験	<input type="checkbox"/> 正確に測定し、結果をもとに考察することができる。
1.5	まとめ	
1.5	確認テスト	
0.75	後期末試験	
1.5	答案返却、試験問題解説	
1.5	総まとめ、個別指導	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
保健体育	全学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Health and Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
45				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
鎌田 俊司	一般教育科・教授	体育教員室	金曜: 13:00~16:00	katata
武井 俊裕	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	takei
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	健康を維持しながら豊かな人間性を養い、生涯体育を意識した健康・体力づくりを目指す。また、自らの精神と身体を巧みに使用することによって社会生活における自己の完成を目指し、互いを尊重し、協力し合うことによって発展へと結び付けていく。			
到達目標	<p>A. サッカーの特性を理解し、個人技能や集団技能を理解することができる。</p> <p>B. 試合に対してチームの目標を持ち、役割分担を決めることができる。</p> <p>C. 相互に協力し、各自の責任を果たそうとする姿勢を示すことができる。</p> <p>D. 習得したわざを実戦練習において十分に発揮することができる。</p> <p>E. 互いを尊重し、礼儀正しく練習に臨むことができる。</p> <p>F. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p>			
授業方法	2種目を半期で入れ替える形式を取る。履修順は時間割の都合で決まるので、初回ガイダンスの際に説明を行う。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・柔道着を着用すること。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	— サッカー —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 学習計画・評価法・体育施設利用法の説明・グループ分け (F)
0.75	個人技能練習(1)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> ボールに慣れる・技能テスト課題の練習 (A)(B)(C)
1.5	個人技能練習(2)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> ボールに慣れる・技能テスト課題の練習 (A)(B)(C)
1.5	個人技能練習(3)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> ボールに慣れる・技能テスト課題の練習 (A)(B)(C)
1.5	個人技能練習(4)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> ボールコントロール(ボールを意図したように扱う) (A)(B)(C)
1.5	個人技能練習(5)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> ボールコントロール(ボールを意図したように扱う) (A)(B)(C)
1.5	技能試験・ゲーム(フルコート)	<input type="checkbox"/> 1分間のボールリフティング(何度落としても良い) (A)(B)
0.75	集団技能練習(1)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> システムの理解 (A)(B)(C)
1.5	集団技能練習(2)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> 攻撃・守備戦術の理解(個人戦術) (A)(B)(C)
0.75	集団技能練習(3)・ハーフコートゲーム	<input type="checkbox"/> 攻撃・守備戦術の理解(グループ戦術) (A)(B)(C)
1.5	集団技能練習(4)・ゲーム(ハーフコート)	<input type="checkbox"/> 攻撃・守備戦術の理解(チーム戦術) (A)(B)(C)
2.25	集団技能練習(5)・ゲーム(フルコート)	<input type="checkbox"/> 攻撃・守備戦術の理解(チーム戦術) (A)(B)(C)
1.5	技能試験・ゲーム(フルコート)	<input type="checkbox"/> ボールコントロールに関する試験を実施 (A)(B)
	— 柔道 —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明 (F)
0.75	礼法	<input type="checkbox"/> 柔道着の着用法・座礼・立礼 (E)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング・回転運動 (E)
1.5	受け身	<input type="checkbox"/> 後受け身・横受け身・前受け身・前回り受け身 (E)
0.75	受け身復習	<input type="checkbox"/> 受け身に関する反復練習 (D)(E)
1.5	投げわざ	<input type="checkbox"/> 大腰・背負い投げ(一本背負い) (D)(E)
0.75	投げわざ復習	<input type="checkbox"/> 投げわざに関する反復練習 (D)(E)
1.5	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> 受け身・投げわざに関する試験を実施 (D)(E)
0.75	総合復習	<input type="checkbox"/> 受け身・投げわざ (D)(E)
1.5	寝技	<input type="checkbox"/> 袷袢固め・横四方固め・上四方固め (E)
1.5	寝技乱取り	<input type="checkbox"/> 寝技に関する反復練習及び実戦練習 (D)(E)
1.5	投げわざ	<input type="checkbox"/> 体落とし・大外刈り (D)(E)
2.25	総合練習	<input type="checkbox"/> 乱取り(投げわざ・寝技)及び習得したわざに関する反復練習 (D)(E)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> 寝技・投げわざに関する試験を実施 (D)(E)
	— その他 —	
3	新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (F)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B)(C)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (F)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (F)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語	全学科	2年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English	必修	30	60	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
石田 毅	一般教育科・教授	205	火曜日16:00-17:00	ishida
真島 顕子	一般教育科・講師	236	水曜日12:30-13:00	majima-a
Luis Marques	一般教育科・准教授	236	水曜日12:20-13:05	marques
Paul McCann	一般教育科・非常勤講師	236	月曜日12:30-13:00	paul
Michelle Sopala	一般教育科・非常勤講師	236	火曜日12:30-13:00	m-sopala
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-3		C-3	(f)	
授業概要	多様なアクティビティを通して、発信力を中心に英語運用能力の基礎を築く。基本的な英文法のまとめや平易な文書読解の演習を行いながら、CEFR-J A1.3レベルの到達を目指す。			
到達目標	A. (Listening) 簡単な用事に必要な指示や説明が、ゆっくりははっきり話されれば理解できる B. (Reading) 挿絵等を参考にしながら、簡単な語を用いて書かれた文章を理解することができる C. (Speaking) 簡単な語や基礎的な句を用いて、複数の文で意見を述べる D. (Writing) 簡単な語や基礎的な表現を用いて、短い文章を書くことができる E. (Grammar) 授業内で取り扱った文法項目を理解することができる			
授業方法	4技能習得を目的とした演習中心の授業を行う。授業はすべてTeam Teachingで行い、必要に応じてペアワーク、グループワークなどを通して、理解の促進・フォローをする。			
教科書	Get Ahead, Level 2 (Oxford)			
補助教材	ジーニアス英和辞典第5版(大修館)			
評価方法	区間評価：定期試験(50%)＋小テスト(15%)＋パフォーマンステスト(15%)＋課題(20%) ※ 小テストは再テスト不可。 ※ パフォーマンステストは再テスト可だが、再テスト評価表(最高9点)を用いて評価する。 ※ パフォーマンステスト当日欠席であった場合、受験時に再テスト評価表を用いて評価する。 ※ 小テスト及びパフォーマンステストの未受験分は、0点として換算する。 ※ 定期試験の再試験は実施しない。 総合評価は各区間の単純平均とする。 ※ 英検IBA試験を年に1回実施し(12月実施予定)、学年末評価に1区間相当として算入する。 換算点については、別表参照。			
関連科目	1年英語及び国語			
準備学習に関するアドバイス	平常点を占める割合が大きいため、小テストは必ずできるようにするまで練習し、しっかりと準備をしてから授業に臨んでください。この授業は「実技科目」と考えて、積極的に体を動かして下さい。ただ黙って座っているだけでは評価されません。遠慮せず質問して下さい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業コンセプトの共有 <input type="checkbox"/> 受講上の基本ルールの理解
19.5	Unit 3	<input type="checkbox"/> 地形を表す語彙を使って文を作ることができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 形容詞の比較級と最上級を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 国立公園について書かれた文章を読むことができる (B)
	Unit 4	<input type="checkbox"/> 自分の好きなテレビ番組について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去形と人称代名詞を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 疑問を表すことができる (C, D)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	【前期末】 Unit 5	<input type="checkbox"/> 過去の出来事を描写し、それに対する感情を説明できる (A, C, D) <input type="checkbox"/> couldと、感情を表す形容詞を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> マーティン・ルーサー・キングについて書かれた文章を読むことができる (B)
	Unit 6	<input type="checkbox"/> 交通機関について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去進行形を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 通学について書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	前期末試験	
1.5	前期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	【後期中間】 Unit 9	<input type="checkbox"/> 経験について述べたり、尋ねたりすることができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在完了形を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 過激なスポーツについて書かれた文章を読むことができる (B)
	Unit 10	<input type="checkbox"/> ハイテク製品について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 条件文を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 慈善事業について書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	【後期末】 Unit 11	<input type="checkbox"/> 素材を表す語彙を使って、身近な物を説明することができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在形の受動態を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 有名な建築家について書かれた文章を読むことができる (B)
	Unit 12	<input type="checkbox"/> 自然災害について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 適切な助動詞を用い、可能性について述べる(C, D, E) <input type="checkbox"/> よい目的のためのポスターを書くことができる (D)
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検IBA試験)	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	AD:デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井戸 美里	一般教育科・非常勤講師	211	火曜日・水曜日	ido.misato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	「ことば」を通してさまざまなものの考え方・感じ方に触れ、ものごとを多角的に捉える「ことばを通して世界を見つめる力」を養う。また、そのための基礎的な知識の習得を目指す。文章を論理的に読み解く力を養う。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記①②に向けて、3年次の学習到達目標を下記2点とする。</p> <p>(A) 文章全体の論理構造を読み解き、内容を正しく把握することができる</p> <p>(B) 文学史をはじめとする国語教養を習得することができる</p>			
授業方法	1・2年次に学習した内容をもとに、評論文を7作品程度読解する。国語教養については、便覧及び便覧問題集を活用し、自習課題とする。			
教科書	「精選 国語総合」(東京書籍)、その他適宜プリントにて配布する。			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「国語辞典」			
評価方法	<p>年間を定期試験で4区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は4区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとす。</p> <p>ただし、4区間の評価点の合計が240点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記4項目の合計を各区間の評価点とする。(①+②+③)</p> <p>①定期試験(100満点)素点×0.7</p> <p>②授業内小テスト(30点満点)の平均点</p> <p>③自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-5点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・4年) 日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	課題への取り組み不足や提出遅れ・未提出にて減点をされない様にする。小テスト・定期試験にはしっかりと準備して臨むこと。苦手な学生は「論理エンジン」OS1~3を復習し、補講には率先して参加すること。尚、日本語検定(3級以上)・漢字検定(準2級以上)の資格取得を推奨します。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	前年度の復習及び国語教養	<input type="checkbox"/> 具体例・イコール関係・対立関係・因果関係(A) <input type="checkbox"/> 文学史・同訓異字など(B)
3	論理関係の整理	<input type="checkbox"/> 順接・逆接・イコール・対比・並列など(A)
4.5	評論文教材I 「今ここにある無数の未知」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1.5	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・同音異義語など(B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・三字熟語など(B)
3.5	評論文教材II 「水の東西」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材III 「欲望と科学」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
4.5	評論文教材IV 「時間と自由の関係について」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4.5	評論文教材V 「まちの豊かさとは何か」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・四字熟語など(B)
0.75	後期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 難読語など(B)
4	評論文教材VI 「真の自立とは」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材VII 「白」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	後期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	後期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井戸 美里	一般教育科・非常勤講師	211	火曜日・水曜日	ido.misato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	「ことば」を通してさまざまなものの考え方・感じ方に触れ、ものごとを多角的に捉える「ことばを通して世界を見つめる力」を養う。また、そのための基礎的な知識の習得を目指す。文章を論理的に読み解く力を養う。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記①②に向けて、3年次の学習到達目標を下記2点とする。</p> <p>(A) 文章全体の論理構造を読み解き、内容を正しく把握することができる</p> <p>(B) 文学史をはじめとする国語教養を習得することができる</p>			
授業方法	1・2年次に学習した内容をもとに、評論文を7作品程度読解する。国語教養については、便覧及び便覧問題集を活用し、自習課題とする。			
教科書	「精選 国語総合」(東京書籍)、その他適宜プリントにて配布する。			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「国語辞典」			
評価方法	<p>年間を定期試験で4区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は4区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとす。</p> <p>ただし、4区間の評価点の合計が240点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記4項目の合計を各区間の評価点とする。(①+②+③)</p> <p>①定期試験(100満点)素点×0.7</p> <p>②授業内小テスト(30点満点)の平均点</p> <p>③自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-5点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・4年) 日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	課題への取り組み不足や提出遅れ・未提出にて減点をされない様にする。小テスト・定期試験にはしっかりと準備して臨むこと。苦手な学生は「論理エンジン」OS1~3を復習し、補講には率先して参加すること。尚、日本語検定(3級以上)・漢字検定(準2級以上)の資格取得を推奨します。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	前年度の復習及び国語教養	<input type="checkbox"/> 具体例・イコール関係・対立関係・因果関係(A) <input type="checkbox"/> 文学史・同訓異字など(B)
3	論理関係の整理	<input type="checkbox"/> 順接・逆接・イコール・対比・並列など(A)
4.5	評論文教材I 「今ここにある無数の未知」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1.5	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・同音異義語など(B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・三字熟語など(B)
3.5	評論文教材II 「水の東西」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材III 「欲望と科学」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
4.5	評論文教材IV 「時間と自由の関係について」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4.5	評論文教材V 「まちの豊かさとは何か」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・四字熟語など(B)
0.75	後期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 難読語など(B)
4	評論文教材VI 「真の自立とは」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材VII 「白」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	後期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	後期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井戸 美里	一般教育科・非常勤講師	211	火曜日・水曜日	ido.misato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応	
GE-1 GE-3	A-2 C-1		(a) (f)	
授業概要	「ことば」を通してさまざまなものの考え方・感じ方に触れ、ものごとを多角的に捉える「ことばを通して世界を見つめる力」を養う。また、そのための基礎的な知識の習得を目指す。文章を論理的に読み解く力を養う。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記①②に向けて、3年次の学習到達目標を下記2点とする。</p> <p>(A) 文章全体の論理構造を読み解き、内容を正しく把握することができる</p> <p>(B) 文学史をはじめとする国語教養を習得することができる</p>			
授業方法	1・2年次に学習した内容をもとに、評論文を7作品程度読解する。国語教養については、便覧及び便覧問題集を活用し、自習課題とする。			
教科書	「精選 国語総合」(東京書籍)、その他適宜プリントにて配布する。			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「国語辞典」			
評価方法	<p>年間を定期試験で4区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は4区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、4区間の評価点の合計が240点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記4項目の合計を各区間の評価点とする。(①+②+③)</p> <p>①定期試験(100満点)素点×0.7</p> <p>②授業内小テスト(30点満点)の平均点</p> <p>③自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-5点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・4年) 日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	課題への取り組み不足や提出遅れ・未提出にて減点をされない様にする。小テスト・定期試験にはしっかりと準備して臨むこと。苦手な学生は「論理エンジン」OS1~3を復習し、補講には率先して参加すること。尚、日本語検定(3級以上)・漢字検定(準2級以上)の資格取得を推奨します。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	前年度の復習及び国語教養	<input type="checkbox"/> 具体例・イコール関係・対立関係・因果関係(A) <input type="checkbox"/> 文学史・同訓異字など(B)
3	論理関係の整理	<input type="checkbox"/> 順接・逆接・イコール・対比・並列など(A)
4.5	評論文教材Ⅰ 「今ここにある無数の未知」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1.5	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・同音異義語など(B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・三字熟語など(B)
3.5	評論文教材Ⅱ 「水の東西」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材Ⅲ 「欲望と科学」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
4.5	評論文教材Ⅳ 「時間と自由の関係について」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4.5	評論文教材Ⅴ 「まちの豊かさとは何か」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・四字熟語など(B)
0.75	後期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 難読語など(B)
4	評論文教材Ⅵ 「真の自立とは」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材Ⅶ 「白」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	後期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	後期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	OS:情報工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井戸 美里	一般教育科・非常勤講師	211	火曜日・水曜日	ido.misato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	「ことば」を通してさまざまなものの考え方・感じ方に触れ、ものごとを多角的に捉える「ことばを通して世界を見つめる力」を養う。また、そのための基礎的な知識の習得を目指す。文章を論理的に読み解く力を養う。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記①②に向けて、3年次の学習到達目標を下記2点とする。</p> <p>(A) 文章全体の論理構造を読み解き、内容を正しく把握することができる</p> <p>(B) 文学史をはじめとする国語教養を習得することができる</p>			
授業方法	1・2年次に学習した内容をもとに、評論文を7作品程度読解する。国語教養については、便覧及び便覧問題集を活用し、自習課題とする。			
教科書	「精選 国語総合」(東京書籍)、その他適宜プリントにて配布する。			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「国語辞典」			
評価方法	<p>年間を定期試験で4区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は4区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、4区間の評価点の合計が240点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記4項目の合計を各区間の評価点とする。(①+②+③)</p> <p>①定期試験(100満点)素点×0.7</p> <p>②授業内小テスト(30点満点)の平均点</p> <p>③自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-5点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・4年) 日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	課題への取り組み不足や提出遅れ・未提出にて減点をされない様にする。小テスト・定期試験にはしっかりと準備して臨むこと。苦手な学生は「論理エンジン」OS1~3を復習し、補講には率先して参加すること。尚、日本語検定(3級以上)・漢字検定(準2級以上)の資格取得を推奨します。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	前年度の復習及び国語教養	<input type="checkbox"/> 具体例・イコール関係・対立関係・因果関係(A) <input type="checkbox"/> 文学史・同訓異字など(B)
3	論理関係の整理	<input type="checkbox"/> 順接・逆接・イコール・対比・並列など(A)
4.5	評論文教材I 「今ここにある無数の未知」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1.5	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・同音異義語など(B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・三字熟語など(B)
3.5	評論文教材II 「水の東西」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材III 「欲望と科学」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
4.5	評論文教材IV 「時間と自由の関係について」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4.5	評論文教材V 「まちの豊かさとは何か」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 文学史・四字熟語など(B)
0.75	後期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	国語教養	<input type="checkbox"/> 難読語など(B)
4	評論文教材VI 「真の自立とは」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
4	評論文教材VII 「白」	<input type="checkbox"/> 文章全体の論理構造を読み解き、内容把握(A)
0.75	後期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	後期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
倫理	AD: デザイン学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Ethics	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
小島 知博	一般教育科・教授	201	木曜日を除く	tomohiro
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-1		A-2		(a)
授業概要	本校の教育理念の一つである「良き社会人を育成する」を実現するために「人間としての在り方、生き方」の理解と自覚を促す。人間の在り方を様々な側面から分析し、「人間がどう生きているのか」を知り、「どう生きるべきか」を考察する。			
到達目標	A. 倫理に関する様々なことばの概念を捉えることができる B. 自己分析ができる C. 他者との関わりを理解できる D. 社会との関わりを理解できる E. 日本の文化を簡単であるが理解できる F. 様々な宗教の世界観を理解できる			
授業方法	毎回、それぞれテーマを設定して学習する。講義内容に応じてリアクションペーパーを書かせ、必要に応じてノート提出を求める。			
教科書	『人間を考える』ガエタノ・コンプリ著 ドン・ボスコ社			
補助教材	配布プリント なし			
評価方法	評価の算出方法 1) 各区分にて100点法で評価点を算出する。 定期試験80% 課題とりわけリアクションペーパーの内容(10%) 授業態度など(10%)とする。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス: 倫理のアウトライン	<input type="checkbox"/> 授業内容・評価方法の説明 倫理について簡単に理解できる (A)
1.5	人間を考える/個人としての人間	<input type="checkbox"/> 人格のついて考察できる (B)
1.5	第1回 青年期・人間の自覚め	<input type="checkbox"/> 自我の自覚め、関心の広がりについて理解できる (B)
1.5	第2回 感情の世界と人間/意識・思考の世界と人間	<input type="checkbox"/> 感情について・考えるということについて理解できる (B)
1.5	第3回 人間の行動	
1.5	第4回 人間として生きる基本的姿勢	<input type="checkbox"/> 欲求と意思について理解できる (B, C)
1.5	他者とかかわる人間	<input type="checkbox"/> いのちについて理解できる (B, C)
1.5	第5回 人格対人格の対話/真の愛を求めて	<input type="checkbox"/> 他者とかかわる人間を考察できる (B, C)
1.5	集団や社会とかかわる人間	<input type="checkbox"/> 人間関係・愛について理解できる (B, C)
1.5	第6回 社会生活とその条件	<input type="checkbox"/> 集団や社会とかかわる人間について考察できる (B, C, D)
1.5	中間試験	<input type="checkbox"/> 集団生活を生きることについて理解できる (B, C, D)
1.5	試験返しと確認	テスト返し
1.5	第7回 私たちが生きる現代社会	<input type="checkbox"/> 文化と生活について考察できる (D)
1.5	第8回 家庭生活・教育と人間	<input type="checkbox"/> 家庭と教育について理解できる (D)
1.5	第9回 地域社会と人間	<input type="checkbox"/> 地域社会と公共心について理解できる (D)
1.5	自然、存在、神とかかわる人間	<input type="checkbox"/> 自然、存在、神とかかわる人間について考察できる (E)
1.5	第10回 世界観・人間観の問題	<input type="checkbox"/> 人としての生き方について(哲学的な思考)理解できる (E)
1.5	科学と哲学 - 「法則」から「意味」へ	
1.5	第11回 キリスト教の世界観	<input type="checkbox"/> 科学的思考と哲学について理解できる (A)
1.5	第12回 日本の世界観	<input type="checkbox"/> 聖書とイエス・キリストについて理解できる (F)
1.5	自然、文化と人間	<input type="checkbox"/> 神道・仏教について理解できる (F)
1.5	第13回 道徳と人間	<input type="checkbox"/> 自然、文化と人間について考察できる (A, F)
1.5	第14回 宗教と人間	<input type="checkbox"/> 道徳・善悪について理解できる (A)
1.5	学年末試験	<input type="checkbox"/> 宗教とその理解について理解できる (A, F)
	試験返しと確認また補講など	テスト返し
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
時間	22.5	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
倫理	EE:電気工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Ethics	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
小島 知博	一般教育科・教授	201	木曜日を除く	tomohiro
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-1		A-2	(a)	
授業概要	本校の教育理念の一つである「良き社会人を育成する」を実現するために「人間としての在り方、生き方」の理解と自覚を促す。人間の在り方を様々な側面から分析し、「人間がどう生きているのか」を知り、「どう生きるべきか」を考察する。			
到達目標	A. 倫理に関する様々なことばの概念を捉えることができる B. 自己分析ができる C. 他者との関わりを理解できる D. 社会との関わりを理解できる E. 日本の文化を簡単であるが理解できる F. 様々な宗教の世界観を理解できる			
授業方法	毎回、それぞれテーマを設定して学習する。講義内容に応じてリアクションペーパーを書かせ、必要に応じてノート提出を求める。			
教科書	『人間を考える』ガエタノ・コンプリ著 ドン・ボスコ社			
補助教材	配布プリント なし			
評価方法	評価の算出方法 1) 各区分にて100点法で評価点を算出する。 定期試験80% 課題とりわけリアクションペーパーの内容(10%)授業態度など(10%)とする。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス: 倫理のアウトライン	<input type="checkbox"/> 授業内容・評価方法の説明 倫理について簡単に理解できる (A)
1.5	人間を考える/個人としての人間	<input type="checkbox"/> 人格のついて考察できる (B)
1.5	第1回 青年期・人間の自覚め	<input type="checkbox"/> 自我の自覚め、関心の広がりについて理解できる (B)
1.5	第2回 感情の世界と人間/意識・思考の世界と人間	<input type="checkbox"/> 感情について・考えるということについて理解できる (B)
1.5	第3回 人間の行動	
1.5	第4回 人間として生きる基本的姿勢 他者とかかわる人間	<input type="checkbox"/> 欲求と意思について理解できる (B, C) <input type="checkbox"/> いのちについて理解できる (B, C)
1.5	第5回 人格対人格の対話/真の愛を求めて 集団や社会とかかわる人間	<input type="checkbox"/> 他者とかかわる人間を考察できる (B, C) <input type="checkbox"/> 人間関係・愛について理解できる (B, C)
1.5	第6回 社会生活とその条件	<input type="checkbox"/> 集団や社会とかかわる人間について考察できる (B, C, D)
1.5	中間試験	<input type="checkbox"/> 集団生活を生きることについて理解できる (B, C, D)
1.5	試験返しと確認	テスト返し
1.5	第7回 私たちが生きる現代社会	<input type="checkbox"/> 文化と生活について考察できる (D)
1.5	第8回 家庭生活・教育と人間	<input type="checkbox"/> 家庭と教育について理解できる (D)
1.5	第9回 地域社会と人間	<input type="checkbox"/> 地域社会と公共心について理解できる (D)
1.5	自然、存在、神とかかわる人間	<input type="checkbox"/> 自然、存在、神とかかわる人間について考察できる (E)
1.5	第10回 世界観・人間観の問題	<input type="checkbox"/> 人としての生き方について(哲学的な思考)理解できる (E)
1.5	科学と哲学 - 「法則」から「意味」へ	
1.5	第11回 キリスト教の世界観	<input type="checkbox"/> 科学的思考と哲学について理解できる (A)
1.5	第12回 日本の世界観 自然、文化と人間	<input type="checkbox"/> 聖書とイエス・キリストについて理解できる (F) <input type="checkbox"/> 神道・仏教について理解できる (F)
1.5	第13回 道徳と人間	<input type="checkbox"/> 自然、文化と人間について考察できる (A, F)
1.5	第14回 宗教と人間	<input type="checkbox"/> 道徳・善悪について理解できる (A)
1.5	学年末試験 試験返しと確認また補講など	<input type="checkbox"/> 宗教とその理解について理解できる (A, F) テスト返し
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
倫理	ME:機械電子工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Ethics	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
小島 知博	一般教育科・教授	201	木曜日を除く	tomohiro
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-1		A-2	(a)	
授業概要	本校の教育理念の一つである「良き社会人を育成する」を実現するために「人間としての在り方、生き方」の理解と自覚を促す。人間の在り方を様々な側面から分析し、「人間がどう生きているのか」を知り、「どう生きるべきか」を考察する。			
到達目標	A. 倫理に関する様々なことばの概念を捉えることができる B. 自己分析ができる C. 他者との関わりを理解できる D. 社会との関わりを理解できる E. 日本の文化を簡単であるが理解できる F. 様々な宗教の世界観を理解できる			
授業方法	毎回、それぞれテーマを設定して学習する。講義内容に応じてリアクションペーパーを書かせ、必要に応じてノート提出を求める。			
教科書	『人間を考える』ガエタノ・コンプリ著 ドン・ボスコ社			
補助教材	配布プリント なし			
評価方法	評価の算出方法 1) 各区分にて100点法で評価点を算出する。 定期試験80% 課題とりわけリアクションペーパーの内容(10%) 授業態度など(10%)とする。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス: 倫理のアウトライン	<input type="checkbox"/> 授業内容・評価方法の説明 倫理について簡単に理解できる (A)
1.5	人間を考える/個人としての人間	<input type="checkbox"/> 人格のついて考察できる (B)
1.5	第1回 青年期・人間の自覚め	<input type="checkbox"/> 自我の自覚め、関心の広がりについて理解できる (B)
1.5	第2回 感情の世界と人間/意識・思考の世界と人間	<input type="checkbox"/> 感情について・考えるということについて理解できる (B)
1.5	第3回 人間の行動	
1.5	第4回 人間として生きる基本的姿勢 他者とのかかわる人間	<input type="checkbox"/> 欲求と意思について理解できる (B.C) <input type="checkbox"/> いのちについて理解できる (B.C)
1.5	第5回 人格対人格の対話/真の愛を求めて 集団や社会とのかかわる人間	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわる人間を考察できる (B.C) <input type="checkbox"/> 人間関係・愛について理解できる (B.C)
1.5	第6回 社会生活とその条件	<input type="checkbox"/> 集団や社会とのかかわる人間について考察できる (B.C.D)
1.5	中間試験	<input type="checkbox"/> 集団生活を生きることについて理解できる (B.C.D)
1.5	試験返しと確認	テスト返し
1.5	第7回 私たちが生きる現代社会	<input type="checkbox"/> 文化と生活について考察できる (D)
1.5	第8回 家庭生活・教育と人間	<input type="checkbox"/> 家庭と教育について理解できる (D)
1.5	第9回 地域社会と人間	<input type="checkbox"/> 地域社会と公共心について理解できる (D)
1.5	自然、存在、神とのかかわる人間	<input type="checkbox"/> 自然、存在、神とのかかわる人間について考察できる (E)
1.5	第10回 世界観・人間観の問題	<input type="checkbox"/> 人としての生き方について(哲学的な思考)理解できる (E)
1.5	科学と哲学 - 「法則」から「意味」へ	
1.5	第11回 キリスト教の世界観	<input type="checkbox"/> 科学的思考と哲学について理解できる (A)
1.5	第12回 日本の世界観 自然、文化と人間	<input type="checkbox"/> 聖書とイエス・キリストについて理解できる (F)
1.5	第13回 道徳と人間	<input type="checkbox"/> 神道・仏教について理解できる (F)
1.5	第14回 宗教と人間	<input type="checkbox"/> 自然、文化と人間について考察できる (A.F)
1.5	学年末試験	<input type="checkbox"/> 道徳・善悪について理解できる (A)
1.5	試験返しと確認また補講など	<input type="checkbox"/> 宗教とその理解について理解できる (A.F) テスト返し
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
時間	22.5	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
倫理	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Ethics	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
小島 知博	一般教育科・教授	201	木曜日を除く	tomohiro
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		A-2		(a)
授業概要	本校の教育理念の一つである「良き社会人を育成する」を実現するために「人間としての在り方、生き方」の理解と自覚を促す。人間の在り方を様々な側面から分析し、「人間がどう生きているのか」を知り、「どう生きるべきか」を考察する。			
到達目標	A. 倫理に関する様々なことばの概念を捉えることができる B. 自己分析ができる C. 他者との関わりを理解できる D. 社会との関わりを理解できる E. 日本の文化を簡単であるが理解できる F. 様々な宗教の世界観を理解できる			
授業方法	毎回、それぞれテーマを設定して学習する。講義内容に応じてリアクションペーパーを書かせ、必要に応じてノート提出を求める。			
教科書	『人間を考える』ガエタノ・コンプリ著 ドン・ボスコ社			
補助教材	配布プリント なし			
評価方法	評価の算出方法 1) 各区分にて100点法で評価点を算出する。 定期試験80% 課題とりわけリアクションペーパーの内容(10%)授業態度など(10%)とする。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス: 倫理のアウトライン	<input type="checkbox"/> 授業内容・評価方法の説明 倫理について簡単に理解できる (A)
1.5	人間を考える/個人としての人間	<input type="checkbox"/> 人格のついて考察できる (B)
1.5	第1回 青年期・人間の自覚め	<input type="checkbox"/> 自我の自覚め、関心の広がりについて理解できる (B)
1.5	第2回 感情の世界と人間/意識・思考の世界と人間	<input type="checkbox"/> 感情について・考えるということについて理解できる (B)
1.5	第3回 人間の行動	
1.5	第4回 人間として生きる基本的姿勢 他者とのかかわる人間	<input type="checkbox"/> 欲求と意思について理解できる (B.C) <input type="checkbox"/> いのちについて理解できる (B.C)
1.5	第5回 人格対人格の対話/真の愛を求めて 集団や社会とのかかわる人間	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわる人間を考察できる (B.C) <input type="checkbox"/> 人間関係・愛について理解できる (B.C)
1.5	第6回 社会生活とその条件	<input type="checkbox"/> 集団や社会とのかかわる人間について考察できる (B.C.D)
1.5	中間試験	<input type="checkbox"/> 集団生活を生きることについて理解できる (B.C.D)
1.5	試験返しと確認	テスト返し
1.5	第7回 私たちが生きる現代社会	<input type="checkbox"/> 文化と生活について考察できる (D)
1.5	第8回 家庭生活・教育と人間	<input type="checkbox"/> 家庭と教育について理解できる (D)
1.5	第9回 地域社会と人間	<input type="checkbox"/> 地域社会と公共心について理解できる (D)
1.5	自然、存在、神とのかかわる人間	<input type="checkbox"/> 自然、存在、神とのかかわる人間について考察できる (E)
1.5	第10回 世界観・人間観の問題	<input type="checkbox"/> 人としての生き方について(哲学的な思考)理解できる (E)
1.5	科学と哲学 - 「法則」から「意味」へ	
1.5	第11回 キリスト教の世界観	<input type="checkbox"/> 科学的思考と哲学について理解できる (A)
1.5	第12回 日本の世界観 自然、文化と人間	<input type="checkbox"/> 聖書とイエス・キリストについて理解できる (F) <input type="checkbox"/> 神道・仏教について理解できる (F)
1.5	第13回 道徳と人間	<input type="checkbox"/> 自然、文化と人間について考察できる (A.F)
1.5	第14回 宗教と人間	<input type="checkbox"/> 道徳・善悪について理解できる (A)
1.5	学年末試験	<input type="checkbox"/> 宗教とその理解について理解できる (A.F)
	試験返しと確認また補講など	テスト返し
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	AD: デザイン学科	3年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Probability Statistics	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大屋 博一	一般教育科・准教授	239 数学科	水曜日以外	h-ohya
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
GE-1		B-1		(c)

授業概要	確率の基本法則や計算方法を理解して種々の統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。
到達目標	A. 順列・組合せの意味と表記方法を理解して場合の数を求めることができる B. 確率の基本的な性質を理解している事象の確率計算ができる C. データを整理して種々の統計量を求めることができる D. 確率分布の意味を理解して種々の統計量を求めることができる E. 標本平均の確率分布を理解して種々の統計量を求めることができる
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 必要に応じて小テストを実施し、課題提出を課す。
教科書	実教出版 基礎数学(前期中間まで) 確率統計(前期中間から) 岡本和夫
補助教材	配布プリント、実教出版 確率統計演習 岡本和夫
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験 (70%) (2) 小テスト、課題、授業プリントなどの平常点 (30%) 2. 評点算出の方法 (1) 年間で4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は、不可が確定する。 (4) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。
関連科目	基礎数学ⅠⅡ、微分積分学
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのか説明できて、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習において練習問題を数多くこなし、確固たる知識を確立していく姿勢が必要です。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
1.5	集合と要素の個数	<input type="checkbox"/> 集合の表し方を理解して要素の個数の計算ができる (A)
4.5	場合の数・順列・組合せ	<input type="checkbox"/> 和の法則・積の法則を理解して場合の数の計算ができる (A) <input type="checkbox"/> 順列の意味と表記法を理解して総数の計算ができる (A) <input type="checkbox"/> 組合せの意味と表記法を理解して総数の計算ができる (A)
1.5	二項定理	<input type="checkbox"/> 二項定理を理解して二項係数を計算できる (A)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
3	確率とその基本性質	<input type="checkbox"/> 試行と事象を理解して事象の確率の計算ができる (B) <input type="checkbox"/> 確率の加法定理を理解して和事象・余事象の計算ができる (B)
4.5	いろいろな確率の計算	<input type="checkbox"/> 独立試行における確率を計算できる (B) <input type="checkbox"/> 反復試行における確率を計算できる (B) <input type="checkbox"/> 条件付き確率の意味を理解していろいろな確率を計算できる (B)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
4.5	データの整理	<input type="checkbox"/> データを整理して度数分布表・ヒストグラムを作成できる (C) <input type="checkbox"/> データを整理して平均値・中央値・最頻値を計算できる (C) <input type="checkbox"/> データを整理して分散・標準偏差を計算できる (C)
4.5	確率分布	<input type="checkbox"/> 確率分布の意味を理解して確率分布を作成できる (D) <input type="checkbox"/> 確率変数の平均・分散・標準偏差を計算できる (D) <input type="checkbox"/> 二項分布を理解して平均・分散・標準偏差を計算できる (D)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
4.5	連続分布と正規分布	<input type="checkbox"/> 確率密度関数の意味を理解して確率を計算できる (D) <input type="checkbox"/> 正規分布表を用いて確率を計算できる (D) <input type="checkbox"/> 確率変数を標準化して確率を計算できる (D)
3	母集団と標本	<input type="checkbox"/> 標本平均の平均・標準偏差を計算できる (E) <input type="checkbox"/> 中心極限定理を理解して標本平均の確率を計算できる (E)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Probability Statistics	必修	講義	演習	実験・実習
30	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川岸 裕之	一般教育科・非常勤講師	239	火曜:10:00~16:30	h-kawagishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	確率の基本法則や計算方法を理解して種々の統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。			
到達目標	A. 順列・組合せの意味と表記方法を理解して場合の数を求めることができる B. 確率の基本的な性質を理解していろいろな事象の確率計算ができる C. データを整理して種々の統計量を求めることができる D. 確率分布の意味を理解して種々の統計量を求めることができる E. 標本平均の確率分布を理解して種々の統計量を求めることができる			
授業方法	教科書および配布プリントを用いて授業および演習を行う。また理解度を確認するために演習問題を行う。			
教科書	実教出版 基礎数学(前期中間まで) 確率統計(前期中間から) 岡本和夫			
補助教材	配布プリント			
評価方法	1年を4区間に分け各区分において100点満点で評価する。各区分の評価方法は、定期試験(70%) + 課題提出・授業態度(30%)とする。総合評価は各区分の単純平均とする。			
関連科目	基礎数学ⅠⅡ、微分積分学			
準備学習に関するアドバイス	学習内容に基づいて予習を行う。授業中に理解できなかった箇所があれば講師に質問する。授業ノートを中心に復習し特に演習問題の解き方を再確認する。確率統計学の社会生活への活用例に興味を持つ。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
1.5	集合と要素の個数	<input type="checkbox"/> 集合の表し方を理解して要素の個数の計算ができる(A)
4.5	場合の数・順列・組合せ	<input type="checkbox"/> 和の法則・積の法則を理解して場合の数の計算ができる(A) <input type="checkbox"/> 順列の意味と表記法を理解して総数の計算ができる(A) <input type="checkbox"/> 組合せの意味と表記法を理解して総数の計算ができる(A)
1.5	二項定理	<input type="checkbox"/> 二項定理を理解して二項係数を計算できる(A)
1.5	まとめと演習	
0.75	前期中間試験	
3	確率とその基本性質	<input type="checkbox"/> 試行と事象を理解して事象の確率の計算ができる(B) <input type="checkbox"/> 確率の加法定理を理解して和事象・余事象の計算ができる(B)
4.5	いろいろな確率の計算	<input type="checkbox"/> 独立試行における確率を計算できる(B) <input type="checkbox"/> 反復試行における確率を計算できる(B) <input type="checkbox"/> 条件付き確率の意味を理解していろいろな確率を計算できる(B)
1.5	まとめと演習	
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
4.5	データの整理	<input type="checkbox"/> データを整理して度数分布表・ヒストグラムを作成できる(C) <input type="checkbox"/> データを整理して平均値・中央値・最頻値を計算できる(C) <input type="checkbox"/> データを整理して分散・標準偏差を計算できる(C)
4.5	確率分布	<input type="checkbox"/> 確率分布の意味を理解して確率分布を作成できる(D) <input type="checkbox"/> 確率変数の平均・分散・標準偏差を計算できる(D) <input type="checkbox"/> 二項分布を理解して平均・分散・標準偏差を計算できる(D)
1.5	まとめと演習	
0.75	後期中間試験	
4.5	連続分布と正規分布	<input type="checkbox"/> 確率密度関数の意味を理解して確率を計算できる(D) <input type="checkbox"/> 正規分布表を用いて確率を計算できる(D) <input type="checkbox"/> 確率変数を標準化して確率を計算できる(D)
3	母集団と分布	<input type="checkbox"/> 標本平均の平均・標準偏差を計算できる(E) <input type="checkbox"/> 中心極限定理を理解して標本平均の確率を計算できる(E)
1.5	まとめと演習	
0.75	後期期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Probability Statistics	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大屋 博一	一般教育科・准教授	239 数学科	水曜日以外	h-ohya
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	確率の基本法則や計算方法を理解して種々の統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。			
到達目標	A. 順列・組合せの意味と表記方法を理解して場合の数を求めることができる B. 確率の基本的な性質を理解している事象の確率計算ができる C. データを整理して種々の統計量を求めることができる D. 確率分布の意味を理解して種々の統計量を求めることができる E. 標本平均の確率分布を理解して種々の統計量を求めることができる			
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 必要に応じて小テストを実施し、課題提出を課す。			
教科書	実教出版 基礎数学(前期中間まで) 確率統計(前期中間から) 岡本和夫			
補助教材	配布プリント、実教出版 確率統計演習 岡本和夫			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験 (70%) (2) 小テスト、課題、授業プリントなどの平常点 (30%) 2. 評点算出の方法 (1) 年間で4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は、不可が確定する。 (4) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。			
関連科目	基礎数学ⅠⅡ、微分積分学			
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのか説明できて、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習において練習問題を数多くこなし、確固たる知識を確立していく姿勢が必要です。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
1.5	集合と要素の個数	<input type="checkbox"/> 集合の表し方を理解して要素の個数の計算ができる (A)
4.5	場合の数・順列・組合せ	<input type="checkbox"/> 和の法則・積の法則を理解して場合の数の計算ができる (A) <input type="checkbox"/> 順列の意味と表記法を理解して総数の計算ができる (A) <input type="checkbox"/> 組合せの意味と表記法を理解して総数の計算ができる (A)
1.5	二項定理	<input type="checkbox"/> 二項定理を理解して二項係数を計算できる (A)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
3	確率とその基本性質	<input type="checkbox"/> 試行と事象を理解して事象の確率の計算ができる (B) <input type="checkbox"/> 確率の加法定理を理解して和事象・余事象の計算ができる (B)
4.5	いろいろな確率の計算	<input type="checkbox"/> 独立試行における確率を計算できる (B) <input type="checkbox"/> 反復試行における確率を計算できる (B) <input type="checkbox"/> 条件付き確率の意味を理解していろいろな確率を計算できる (B)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
4.5	データの整理	<input type="checkbox"/> データを整理して度数分布表・ヒストグラムを作成できる (C) <input type="checkbox"/> データを整理して平均値・中央値・最頻値を計算できる (C) <input type="checkbox"/> データを整理して分散・標準偏差を計算できる (C)
4.5	確率分布	<input type="checkbox"/> 確率分布の意味を理解して確率分布を作成できる (D) <input type="checkbox"/> 確率変数の平均・分散・標準偏差を計算できる (D) <input type="checkbox"/> 二項分布を理解して平均・分散・標準偏差を計算できる (D)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
4.5	連続分布と正規分布	<input type="checkbox"/> 確率密度関数の意味を理解して確率を計算できる (D) <input type="checkbox"/> 正規分布表を用いて確率を計算できる (D) <input type="checkbox"/> 確率変数を標準化して確率を計算できる (D)
3	母集団と標本	<input type="checkbox"/> 標本平均の平均・標準偏差を計算できる (E) <input type="checkbox"/> 中心極限定理を理解して標本平均の確率を計算できる (E)
1.5	まとめと演習	
0.75	定期試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
確率統計学	CS:情報工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Probability Statistics	必修	講義	演習	実験・実習
30	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川岸 裕之	一般教育科・非常勤講師	239	火曜:10:00~16:30	h-kawagishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	確率の基本法則や計算方法を理解して種々の統計的手法による分析能力を習得することを目的とする。			
到達目標	A. 順列・組合せの意味と表記方法を理解して場合の数を求めることができる B. 確率の基本的な性質を理解していろいろな事象の確率計算ができる C. データを整理して種々の統計量を求めることができる D. 確率分布の意味を理解して種々の統計量を求めることができる E. 標本平均の確率分布を理解して種々の統計量を求めることができる			
授業方法	教科書および配布プリントを用いて授業および演習を行う。また理解度を確認するために演習問題を行う。			
教科書	実教出版 基礎数学(前期中間まで) 確率統計(前期中間から) 岡本和夫			
補助教材	配布プリント			
評価方法	1年を4区間に分け各区分において100点満点で評価する。各区分の評価方法は、定期試験(70%) + 課題提出・授業態度(30%)とする。総合評価は各区分の単純平均とする。			
関連科目	基礎数学ⅠⅡ、微分積分学			
準備学習に関するアドバイス	学習内容に基づいて予習を行う。授業中に理解できなかった箇所があれば講師に質問する。授業ノートを中心に復習し特に演習問題の解き方を再確認する。確率統計学の社会生活への活用例に興味を持つ。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
1.5	集合と要素の個数	<input type="checkbox"/> 集合の表し方を理解して要素の個数の計算ができる(A)
4.5	場合の数・順列・組合せ	<input type="checkbox"/> 和の法則・積の法則を理解して場合の数の計算ができる(A) <input type="checkbox"/> 順列の意味と表記法を理解して総数の計算ができる(A) <input type="checkbox"/> 組合せの意味と表記法を理解して総数の計算ができる(A)
1.5	二項定理	<input type="checkbox"/> 二項定理を理解して二項係数を計算できる(A)
1.5	まとめと演習	
0.75	前期中間試験	
3	確率とその基本性質	<input type="checkbox"/> 試行と事象を理解して事象の確率の計算ができる(B) <input type="checkbox"/> 確率の加法定理を理解して和事象・余事象の計算ができる(B)
4.5	いろいろな確率の計算	<input type="checkbox"/> 独立試行における確率を計算できる(B) <input type="checkbox"/> 反復試行における確率を計算できる(B) <input type="checkbox"/> 条件付き確率の意味を理解していろいろな確率を計算できる(B)
1.5	まとめと演習	
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
4.5	データの整理	<input type="checkbox"/> データを整理して度数分布表・ヒストグラムを作成できる(C) <input type="checkbox"/> データを整理して平均値・中央値・最頻値を計算できる(C) <input type="checkbox"/> データを整理して分散・標準偏差を計算できる(C)
4.5	確率分布	<input type="checkbox"/> 確率分布の意味を理解して確率分布を作成できる(D) <input type="checkbox"/> 確率変数の平均・分散・標準偏差を計算できる(D) <input type="checkbox"/> 二項分布を理解して平均・分散・標準偏差を計算できる(D)
1.5	まとめと演習	
0.75	後期中間試験	
4.5	連続分布と正規分布	<input type="checkbox"/> 確率密度関数の意味を理解して確率を計算できる(D) <input type="checkbox"/> 正規分布表を用いて確率を計算できる(D) <input type="checkbox"/> 確率変数を標準化して確率を計算できる(D)
3	母集団と分布	<input type="checkbox"/> 標本平均の平均・標準偏差を計算できる(E) <input type="checkbox"/> 中心極限定理を理解して標本平均の確率を計算できる(E)
1.5	まとめと演習	
0.75	後期期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
解析学 I	EE:電気工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analysis 1	必修	講義	演習	実験・実習
60	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
佐藤 豊	一般教育科・准教授	305 239	木曜日以外	sato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	二年生において履修した微分積分学の内容を基礎とし、関数の極限、関数の増減・グラフの凹凸、関数の近似、置換積分法、部分積分法、広義積分を学習する。			
到達目標	<p>A. 基本的な関数の極限を求められる。</p> <p>B. 基本的な関数の微分を求められる。</p> <p>C. 色々な関数の表示を学習し、その微分を求められる。</p> <p>D. 微分の意味を理解し、曲線の接線と法線を求められる。</p> <p>E. 第2次導関数を含んだ増減表を用いて曲線のグラフが描ける。</p> <p>F. 関数の近似について学習し、関数の展開ができる。</p> <p>G. 2変数関数とは何かを学び、その偏微分、全微分を計算できる。</p> <p>H. 基本的な関数の積分を求められる。</p> <p>I. 置換積分法を用いた積分の計算ができる。</p> <p>J. 部分積分法を用いた積分の計算ができる。</p> <p>K. 有理関数の積分の計算ができる。</p> <p>L. 広義積分を求めることができる。</p>			
授業方法	教科書を中心とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 必要に応じて小テストを実施し、課題提出を課す。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野健太郎、石原繁(裳華房)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	<p>1. 成績評価の根拠となる項目及びその割合</p> <p>(1) 定期試験 (70%)</p> <p>(2) 小テスト、課題、授業態度 (30%)</p> <p>2. 評点算出の方法</p> <p>(1) 1年を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。</p> <p>(2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。</p> <p>(3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は不可が確定する。</p>			
関連科目	基礎数学 I・II、微分積分学			
準備学習に関するアドバイス	二年生で履修した微分積分学の知識が必要ですから、忘れている場合は基本的な微分と積分の計算を復習しておいて下さい。解析学 I は四年生の応用数学Aにつながる重要な科目です。授業の復習や課題の演習をしっかり行い、解析学の基礎力を固めていきましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画及び評価方法などの説明
3.75	関数の極限	<input type="checkbox"/> 無理関数、指数・対数・三角関数の極限(A)
3.75	微分公式の復習	<input type="checkbox"/> 積・商・合成関数の微分の復習(B)
3	逆三角関数の微分	<input type="checkbox"/> 逆三角関数の微分(B)
3	高次導関数	<input type="checkbox"/> 高次導関数の求め方(B)
3	媒介変数表示とその微分	<input type="checkbox"/> 媒介変数表示の関数とその微分(C)
3	陰関数の微分	<input type="checkbox"/> 陰関数表示、陰関数の微分(C)
1.5	まとめと演習(前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	接線と法線	<input type="checkbox"/> 接線と法線の方程式の求め方(D)
6	関数の増減・極値	<input type="checkbox"/> 増減表・極値の復習(E)
6	曲線の凹凸とグラフ	<input type="checkbox"/> 第2次導関数を用いた関数の凹凸、変曲点の求め方(E)
2.25	関数の近似	<input type="checkbox"/> 関数の1次と2次の近似(F)
3	関数の展開	<input type="checkbox"/> テイラー展開、マクローリン展開(F)
1.5	まとめと演習(前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
1.5	2変数の関数	<input type="checkbox"/> 2変数関数の定義域、値域、極限(G)
5.25	偏微分係数と偏導関数	<input type="checkbox"/> 偏微分係数と偏導関数の表記法とその計算方法(G)
2.25	全微分と接平面	<input type="checkbox"/> 全微分の求め方、接平面の方程式(G)
4.5	積分公式の復習	<input type="checkbox"/> 整関数、無理関数、指数・三角関数の積分の復習(H)
1.5	逆三角関数の積分	<input type="checkbox"/> 逆三角関数の微分の復習と積分(H)
5.25	置換積分法	<input type="checkbox"/> 置換積分法を用いた積分の求め方(I)
1.5	まとめと演習(後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
6.75	部分積分法	<input type="checkbox"/> 部分積分法を用いた積分の求め方(J)
6.75	有理関数の積分	<input type="checkbox"/> 有理関数の積分計算(K)
5.25	広義積分	<input type="checkbox"/> 異常積分、無限積分(L)
1.5	まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
解析学 I	ME・機械電子工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analysis 1	必修	講義	演習	実験・実習
60	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
佐藤 豊	一般教育科・准教授	305 239	木曜日以外	sato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	二年生において履修した微分積分学の内容を基礎とし、関数の極限、関数の増減・グラフの凹凸、関数の近似、置換積分法、部分積分法、広義積分を学習する。			
到達目標	A. 基本的な関数の極限を求められる。 B. 基本的な関数の微分を求められる。 C. 色々な関数の表示を学習し、その微分を求められる。 D. 微分の意味を理解し、曲線の接線と法線を求められる。 E. 第2次導関数を含んだ増減表を用いて曲線のグラフが描ける。 F. 関数の近似について学習し、関数の展開ができる。 G. 2変数関数とは何かを学び、その偏微分、全微分を計算できる。 H. 基本的な関数の積分を求められる。 I. 置換積分法を用いた積分の計算ができる。 J. 部分積分法を用いた積分の計算ができる。 K. 有理関数の積分の計算ができる。 L. 広義積分を求めることができる。			
授業方法	教科書を中心とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 必要に応じて小テストを実施し、課題提出を課す。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野健太郎、石原繁(裳華房)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目及びその割合 (1) 定期試験 (70%) (2) 小テスト、課題、授業態度 (30%) 2. 評点算出の方法 (1) 1年を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は不可が確定する。			
関連科目	基礎数学 I・II、微分積分学			
準備学習に関するアドバイス	二年生で履修した微分積分学の知識が必要ですから、忘れている場合は基本的な微分と積分の計算を復習しておいて下さい。解析学 I は四年生の解析学 II につながる重要な科目です。授業の復習や課題の演習をしっかりと行い、解析学の基礎力を固めていきましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画及び評価方法などの説明
3.75	関数の極限	<input type="checkbox"/> 無理関数、指数・対数・三角関数の極限(A)
3.75	微分公式の復習	<input type="checkbox"/> 積・商・合成関数の微分の復習(B)
	3 逆三角関数の微分	<input type="checkbox"/> 逆三角関数の微分(B)
	3 高次導関数	<input type="checkbox"/> 高次導関数の求め方(B)
	3 媒介変数表示とその微分	<input type="checkbox"/> 媒介変数表示の関数とその微分(C)
	3 陰関数の微分	<input type="checkbox"/> 陰関数表示、陰関数の微分(C)
1.5	まとめと演習(前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	接線と法線	<input type="checkbox"/> 接線と法線の方程式の求め方(D)
6	関数の増減・極値	<input type="checkbox"/> 増減表・極値の復習(E)
6	曲線の凹凸とグラフ	<input type="checkbox"/> 第2次導関数を用いた関数の凹凸、変曲点の求め方(E)
2.25	関数の近似	<input type="checkbox"/> 関数の1次と2次の近似(F)
3	関数の展開	<input type="checkbox"/> テイラー展開、マクローリン展開(F)
1.5	まとめと演習(前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
1.5	2変数の関数	<input type="checkbox"/> 2変数関数の定義域、値域、極限(G)
5.25	偏微分係数と偏導関数	<input type="checkbox"/> 偏微分係数と偏導関数の表記法とその計算方法(G)
2.25	全微分と接平面	<input type="checkbox"/> 全微分の求め方、接平面の方程式(G)
4.5	積分公式の復習	<input type="checkbox"/> 整関数、無理関数、指数・三角関数の積分の復習(H)
1.5	逆三角関数の積分	<input type="checkbox"/> 逆三角関数の微分の復習と積分(H)
5.25	置換積分法	<input type="checkbox"/> 置換積分法を用いた積分の求め方(I)
1.5	まとめと演習(後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
6.75	部分積分法	<input type="checkbox"/> 部分積分法を用いた積分の求め方(J)
6.75	有理関数の積分	<input type="checkbox"/> 有理関数の積分計算(K)
5.25	広義積分	<input type="checkbox"/> 異常積分、無限積分(L)
1.5	まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
解析学 I	CS:情報工学科	3年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analysis 1	必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大屋 博一	一般教育科・准教授	239 数学科	水曜日以外	h-ohya
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
GE-1		B-1	(c)	
授業概要	二年生において履修した微積分学の内容を基礎とし、関数の極限、関数の増減・グラフの凹凸、関数の近似、置換積分法、部分積分法を学習する。			
到達目標	<p>A. 基本的な関数の極限が求まる。 B. 基本的な関数の微分が求まる。 C. 第2次導関数を含んだ増減表と曲線のグラフが描ける。 D. 色々な関数の表示を学習し、その微分が求まる。 E. 連続関数の性質について学習し、不定形の極限が求まる。 F. 関数の近似について学習し、関数の展開が求まる。 G. 基本的な関数の積分が求まる。 H. 置換積分法を用いた不定積分の計算ができる。 I. 部分積分法を用いた不定積分の計算ができる。 J. 分数関数や三角関数の不定積分が求まる。</p>			
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 必要に応じて小テストを実施し、課題提出を課す。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野健太郎、石原繁 (裳華房)			
補助教材	配布プリント			
評価方法	<p>1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験 (70%) (2) 小テスト、課題、授業プリントなどの平常点 (30%) 2. 評点算出の方法 (1) 年間を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は、不可が確定する。 (4) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。</p>			
関連科目	基礎数学、微積分学、代数幾何学、線形代数			
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのか説明できて、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習において練習問題を数多くこなす、確固たる知識を確立していく姿勢が必要です。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画及び評価方法などの説明
3.75	関数の極限	<input type="checkbox"/> 無理関数、指数・対数・三角関数の極限 (A)
1.5	微分公式の復習	<input type="checkbox"/> 積・商・合成関数の微分の復習 (B)
1.5	逆三角関数の微分	<input type="checkbox"/> 逆三角関数の微分 (B)
1.5	高次導関数	<input type="checkbox"/> 高次導関数の求め方 (B)
1.5	まとめと演習 (前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期中間試験	
1.5	関数の増減・極値	<input type="checkbox"/> 増減表・極値の復習 (C)
3	曲線の凹凸とグラフ	<input type="checkbox"/> 第2次導関数を用いた関数の凹凸、変曲点の求め方 (C)
1.5	媒介変数表示と微分	<input type="checkbox"/> 媒介変数表示の関数とその微分 (D)
1.5	極座標	<input type="checkbox"/> 極座標表示の関数 (D)
1.5	まとめと演習 (前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足
1.5	陰関数の微分	<input type="checkbox"/> 陰関数表示とその微分 (D)
1.5	不定形の極限	<input type="checkbox"/> ロピタルの定理 (E)
1.5	関数の近似	<input type="checkbox"/> 関数の近似 (F)
3	関数の展開	<input type="checkbox"/> テイラー展開、マクローリン展開 (F)
1.5	積分公式の復習	<input type="checkbox"/> 整関数、無理関数、指数・三角関数の積分の復習 (G)
1.5	まとめと演習 (後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	後期中間試験	
2.25	置換積分法	<input type="checkbox"/> 置換積分法を用いた不定積分の求め方 (H)
2.25	部分積分法	<input type="checkbox"/> 部分積分法を用いた不定積分の求め方 (I)
1.5	分数関数の不定積分	<input type="checkbox"/> 分数関数の不定積分 (J)
1.5	三角関数の不定積分	<input type="checkbox"/> 三角関数の不定積分 (J)
1.5	まとめと演習 (学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却、解説と理解不足内容の補足、学力試験
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理	EE: 電気工学科	3年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physics	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
真島 裕樹	一般教育科・講師	222	金曜日 13:30 - 17:00	majima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
GE-1 GE-2		B-1		(c)
授業概要	前期は波動光学と前期量子論を学習する。後期は熱力学の初歩を学習する。			
到達目標	<p>A. 光波に関する基本的な計算ができる</p> <p>B. 円運動の運動方程式を立てることができる</p> <p>C. 光と物質の粒子性と波動性を理解し、初等的な計算ができる</p> <p>D. 熱平衡状態を理解し、状態方程式を用いた基本計算ができる</p> <p>E. 熱力学第一法則を用いた計算ができる</p> <p>F. 状態変化の意味を理解し、基本的な計算ができる</p> <p>G. 熱機関の仕組みを理解し、簡単な熱機関の熱効率が計算できる</p> <p>H. クラウジウス関係式とエントロピーの関係を理解し、初等的な例題に適用できる。</p>			
授業方法	座学を主体として授業を進める。補助教材としてプリント等を配布する。			
教科書	なし			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	<p>各区間は試験70%、課題30%で評価する。評価点の算出は前期・後期の2区間均等法で行う。</p> <p>両区間で合格した場合のみ本科目を合格とし、評価点は両区間の平均点とする。前期・後期どちらかの評価が不可の場合の評価点を50点とする。両区間不可の場合は40点とする。</p> <p>各区間の評価点が確定した際、合格点に達しなかった者は、区間ごとに1回を限度として再試験を受験することができる。</p>			
関連科目	基礎物理 I・II, 代数学幾何学。			
準備学習に関するアドバイス	基本的な問題を何度も解きなおい、解法を確実に理解すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	年間授業計画と評価方法の説明。
1	1 光波の性質	<input type="checkbox"/> 電磁波としての光波の性質 (A) <input type="checkbox"/> 反射と屈折 (A)
1.5	1.5 光の干渉	<input type="checkbox"/> ヤングの実験 (A)
1.5	1.5	<input type="checkbox"/> 薄膜による光の干渉 (A)
1.5	1.5	<input type="checkbox"/> 回折格子 (A)
1.5	円運動	<input type="checkbox"/> 円運動のまとめ (B)
3	3 粒子性と波動性	<input type="checkbox"/> 光の粒子性 (C) <input type="checkbox"/> 光電効果 (C)
1.5	1.5	<input type="checkbox"/> 光の波動性 (C) <input type="checkbox"/> ブラッグ反射 (C)
1.5	1.5	<input type="checkbox"/> 原子モデル (C) <input type="checkbox"/> 物質波 (C)
1.5	1.5	<input type="checkbox"/> 原子のスペクトル (C)
1.5	1.5 量子化と量子力学	<input type="checkbox"/> 量子条件 (C) <input type="checkbox"/> 水素原子の構造 (C)
1.5	1.5	<input type="checkbox"/> 量子力学入門 (C)
1.5	1.5 まとめ	
1.5	1.5 熱平衡状態と温度	<input type="checkbox"/> 絶対温度 (D) <input type="checkbox"/> 熱量 (D) <input type="checkbox"/> 比熱 (D)
3	3 気体の状態方程式	<input type="checkbox"/> 理想気体 (D) <input type="checkbox"/> ボイル・シャルルの法則 (D)
3	3 熱力学第一法則	<input type="checkbox"/> 熱力学第一法則 (E) <input type="checkbox"/> 準静過程 (E, F)
3	3 熱機関	<input type="checkbox"/> 熱機関の効率 (G)
3	3 熱力学第二法則	<input type="checkbox"/> クラウジウスの不等式 (H) <input type="checkbox"/> エントロピー増大の法則 (H)
3	3 カルノーサイクル	<input type="checkbox"/> カルノーサイクル (H)
3	3 まとめ	
3	3 定期テスト (年4回)	到達度の確認
3	3 学習指導期間	定期試験の解説、理解度の確認。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physics	必修	講義	演習	実験・実習
35	10	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
伊藤 光雅	一般教育科・准教授	223	水曜日 13:30 - 17:00	itom
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-2		B-1		(c)
授業概要	前期は、光学を波動力学的に取り扱い、それに引き続いて前期量子論の入り口として原子構造を学習する。後期には、初等的な熱力学の理論を全般的に学習する。			
到達目標	A. 光学、原子構造、熱力学に関する基本的な用語を用いて、物理現象を表現できる。 B. 簡単な物理量を原理・法則を用いて求めることができる。 C. 数学計算を用いた理論的な考察を行うことができる。			
授業方法	教材プリントを用意する。これに加え下記の教科書を併用して授業を進める。教材プリントは評価用の課題としても用いられる。			
教科書	『高等学校、物理』第一学習社			
補助教材	自作教材補助プリント			
評価方法	年間を4つの区間に分け、区間評価の単純平均により総合評価を行う。 区間評価は「試験(70%)+小テスト・提出課題(30%)」の100点法によるものとする。 ただし、各区間において全ての課題、レポート、ノートを提出した者のみ成績評価をする。また授業態度も平常点として加算する。各試験において60点未満の場合は再試験を課す。通年教科であるが、2年次の基礎物理と評価方法は変わらない。			
関連科目	1・2年次の物理・数学・化学の科目			
準備学習に関するアドバイス	毎授業ごと小テストを実施する。そのため授業前には必ず前回授業の見直しをすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方針、年間計画、評価方法の解説
3.75	光の現象論	<input type="checkbox"/> 光速、反射と屈折(スネルの法則)、スペクトル、偏光と散乱 (A, B)
4.5	光の干渉	
0.75	光の回折	<input type="checkbox"/> ヤングの実験、経路差と光路差、薄膜干渉、(A, B)
0.75	まとめと補足	<input type="checkbox"/> その他光による干渉現象 (A, B) <input type="checkbox"/> 透過型回折格子 (A, B)
0.75	前期中間試験の解説	<input type="checkbox"/> 前期前半区間の内容のまとめと補足 (C)
1.5	X線回折	
3	電子の性質	
1.5	原子模型	<input type="checkbox"/> 反射型回折格子、ブラッグ反射、ラウエの斑点、(A, B)
1.5	原子核	
0.75	まとめと補足	<input type="checkbox"/> トムソンの実験と比電荷、ミリカンの実験と電気素量 (A, B)
		<input type="checkbox"/> トムソン模型、ラザフォード模型、ボーア模型 (A, B)
3.75	温度と熱量	<input type="checkbox"/> 陽子、中性子、放射線 (A, B) <input type="checkbox"/> 前期後半区間の内容のまとめと補足 (C)
2.25	理想気体	
3	分子運動論	
0.75	モル比熱	<input type="checkbox"/> 熱運動と温度、セ氏度と絶対温度、熱量、熱容量、比熱、(A, B)
0.75	まとめと補足	
0.75	後期中間試験の解説	<input type="checkbox"/> 熱量の保存、潜熱 (A, B)
0.75	熱力学的な状態	<input type="checkbox"/> 圧力、理想気体の状態方程式 (A, B)
1.5	熱力学第1法則	<input type="checkbox"/> 気体の分子運動論、内部エネルギー、エネルギー等分配則 (A, B)
3.75	気体の状態変化	
0.75	熱機関	
0.75	熱力学第2法則	<input type="checkbox"/> 定積モル比熱、定圧モル比熱、マイヤーの関係式 (A, B)
0.75	まとめと補足	<input type="checkbox"/> 後期前半区間の内容のまとめと補足
		<input type="checkbox"/> 熱平衡状態、準静的変化 (A, B)
		<input type="checkbox"/> 気体のする仕事、熱力学第1法則 (A, B)
		<input type="checkbox"/> 等積変化、等圧変化、等温変化、断熱変化、ポアソンの公式 (A, B)
		<input type="checkbox"/> 熱機関と熱効率 (A, B)
		<input type="checkbox"/> 熱力学第2法則、永久機関 (A, B)
		<input type="checkbox"/> 後期後半区間の内容のまとめと補足 (C)
		<input type="checkbox"/> 前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、後期末試験 (C)
		<input type="checkbox"/> 期末試験の解説、成績不振者がいた場合はその補習 (C)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理	CS:情報工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physics	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-2		B-1		(c)
授業概要	前期は、光学現象を取扱い、それに引き続いて前期量子論の入り口として原子構造を学習する。後期には、初等的な熱力学の理論を全般的に学習する。			
到達目標	A. 屈折率に基づいた基本計算ができる B. スペクトルや偏光といった光学の基本現象論が理解できる C. 光の干渉に基づいた基本計算ができる D. 初等量子力学における波動性と粒子性の現象を説明できる E. 原子模型の基本現象論が理解できる F. 温度と熱量に関する基本計算ができる G. 理想気体に関する基本計算ができる H. 熱力学変化の基本計算ができる I. 熱機関と熱力学法則の基本現象論が理解できる			
授業方法	講義を主とし、ある程度進んだところで演習を行う。			
教科書	『高等学校、物理』第一学習社			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	各区分は試験70%、課題30%で評価する。評価点の算出は前期・後期の2区分間均等法で行う。 両区分で合格した場合のみ本科目を合格とし、評価点は両区分の平均点とする。前期・後期どちらかの評価が不可の場合の評価点を50点とする。両区分不可の場合は40点とする。 各区分の評価点が確定した際、合格点に達しなかった者は、区分ごとに1回を限度として再試験を受験することができる。			
関連科目	1・2年次の物理・数学・化学の科目			
準備学習に関するアドバイス	授業中に配布する演習問題等を解くようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方針、年間計画、評価方法の解説
1	波動の基礎知識	<input type="checkbox"/> 2年次に学習した波動の復習、波動方程式
3	光の現象論	<input type="checkbox"/> 光速、反射と屈折、スペクトル、偏光と散乱(A, B)
4.5	光の干渉	<input type="checkbox"/> ヤングの実験、経路差と光路差、薄膜干渉(C)
1.5	光の回折	<input type="checkbox"/> 透過型回折格子(C)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の解説	<input type="checkbox"/> 前期中間試験の解説
	確認小テスト(1)	<input type="checkbox"/> 小テスト(前期中間試験範囲)
3	波動性と粒子性	<input type="checkbox"/> 光電効果、コンプトン効果、ブラッグ反射(D)
3	原子模型	<input type="checkbox"/> トムソン模型、ラザフォード模型、ボーア模型(E)
1.5	原子核	<input type="checkbox"/> 陽子、中性子、放射線(E)
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導機関	<input type="checkbox"/> 前期期末試験の解説
	確認小テスト(2)	<input type="checkbox"/> 小テスト(前期期末試験範囲)
1.5	温度と熱量(1)	<input type="checkbox"/> 熱運動と温度、セ氏度と絶対温度、熱量、熱容量、比熱(F)
1.5	温度と熱量(2)	<input type="checkbox"/> 熱量の保存、潜熱(F)
	確認小テスト(3)	<input type="checkbox"/> 小テスト(温度と熱量(1)の範囲)
1.5	理想気体(1)	<input type="checkbox"/> 圧力、パスカルの法則、分圧の法則、ボイルの法則、シャルルの法則(G)
	確認小テスト(4)	<input type="checkbox"/> 小テスト(温度と熱量(2)の範囲)
1.5	理想気体(2)	<input type="checkbox"/> ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式(G)
	確認小テスト(5)	<input type="checkbox"/> 小テスト(理想気体(1)の範囲)
1.5	分子運動論(1)	<input type="checkbox"/> 気体の分子運動論
	確認小テスト(6)	<input type="checkbox"/> 小テスト(理想気体(2)の範囲)
1.5	分子運動論(2)	<input type="checkbox"/> 内部エネルギー、エネルギー等分配則(G)
1.5	モル比熱	<input type="checkbox"/> 定積モル比熱、定圧モル比熱、マイヤーの関係式(G)
	確認小テスト(7)	
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の解説	<input type="checkbox"/> 後期中間試験の解説
	確認小テスト(8)	<input type="checkbox"/> 小テスト(後期中間試験範囲)
0.75	熱力学的な状態	<input type="checkbox"/> 熱平衡状態、準静的変化(H)
1.5	熱力学第1法則	<input type="checkbox"/> 気体のする仕事、熱力学第1法則(H)
3.75	気体の状態変化	<input type="checkbox"/> 等積変化、等圧変化、等温変化、断熱変化、ポアソンの公式(H)
0.75	熱機関	<input type="checkbox"/> 熱機関と熱効率(I)
0.75	熱力学第2法則	<input type="checkbox"/> エントロピー、永久機関(I)
0.75	後期期末試験	
1.5	学習指導機関	<input type="checkbox"/> 後期期末試験の解説および小テスト
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
鎌田 俊司	一般教育科・教授	体育教員室	金曜：13:00~16:00	kamata
高野 修	一般教育科・准教授	体育教員室	火曜：15:00~16:30	takano
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	必要とされる技能を習得および実践し、その段階に応じて作戦を立てて試合を行い、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。また、個人的技能および集団的の重要性を理解し、チームでの役割を自覚してその責任を果たせるよう、互いに協力しながら練習や試合に取り組んでいくことができるようにする。			
到達目標	<p>A. バスケットボールに関する基礎的理論を学習することができる。</p> <p>B. バスケットボールのルールを理解することができる。</p> <p>C. バスケットボールの試合を円滑に運営することができる。</p> <p>D. ソフトボールにおける捕球・送球動作を実践することができる。</p> <p>E. ソフトボールのルールを理解することができる。</p> <p>F. ソフトボールの試合を円滑に行うことができる。</p> <p>G. 学生相互の信頼関係を育み、勝敗に対して公正な態度で臨むことができる。</p> <p>H. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を身に付けることができる。</p>			
授業方法	種目を半期で入れ替える形式を取る。履修順は可能な限りクラスで決めてもらうが、天候・気温等の状況を考えるならばなるべく前期でソフトボールを履修してもらうことを勧める。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	— バスケットボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
0.75	個人技能	<input type="checkbox"/> ボール慣れ・ドリブル・ステップワーク・パス・シュート (A)
1.5	集団技能	<input type="checkbox"/> 動きながらのパス・ポストプレー・ピボット・スリーメン (A)
0.75	ルール(1)	<input type="checkbox"/> ファールとバイオレーション (B)
0.75	簡易ゲーム	<input type="checkbox"/> 3on3・リバウンド (A)(B)
0.75	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> セットショット(ボースハンド・ワンハンド) (A)
1.5	反復練習	<input type="checkbox"/> 個人技能および集団技能 (A)(B)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 実戦を想定したチーム練習 (B)(C)(G)
0.75	フォーメーション	<input type="checkbox"/> ディフェンス(ゾーン・マンツーマン) (A)(B)
0.75	ルール(2)	<input type="checkbox"/> 審判法について (B)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (B)(C)(G)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> ランニングショット(レイアップ) (A)
	— ソフトボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
2.25	個人技能	<input type="checkbox"/> キャッチボール・バットの握り方・素振り・バッティング・ボールの握り方・投法 (D)(E)
2.25	集団技能	<input type="checkbox"/> シートノック・フリーバッティング (D)(E)
1.5	総合練習	<input type="checkbox"/> 野手の守備方法について (D)(E)
1.5	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> 打撃練習・守備練習打撃(フリーバッティング) (D)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 守備方法を中心に実戦方式で練習 (D)(E)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (E)(F)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> 捕球・送球(ゴロ・フライ) (D)
	— その他 —	
	3 新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (H)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (G)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (H)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (H)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
鎌田 俊司	一般教育科・教授	体育教員室	金曜: 13:00~16:00	kamata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	必要とされる技能を習得および実践し、その段階に応じて作戦を立てて試合を行い、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。また、個人的技能および集団的技術の重要性を理解し、チームでの役割を自覚してその責任を果たせるよう、互いに協力しながら練習や試合に取り組んでいくことができるようにする。			
到達目標	<p>A. バスケットボールに関する基礎的理論を学習することができる。</p> <p>B. バスケットボールのルールを理解することができる。</p> <p>C. バスケットボールの試合を円滑に運営することができる。</p> <p>D. ソフトボールにおける捕球・送球動作を実践することができる。</p> <p>E. ソフトボールのルールを理解することができる。</p> <p>F. ソフトボールの試合を円滑に行うことができる。</p> <p>G. 学生相互の信頼関係を育み、勝敗に対して公正な態度で臨むことができる。</p> <p>H. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を身に付けることができる。</p>			
授業方法	種目を半期で入れ替える形式を取る。履修順は可能な限りクラスで決めてもらうが、天候・気温等の状況を考えるならばなるべく前期でソフトボールを履修してもらうことを勧める。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	— バスケットボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
0.75	個人技能	<input type="checkbox"/> ボール慣れ・ドリブル・ステップワーク・パス・シュート (A)
1.5	集団技能	<input type="checkbox"/> 動きながらのパス・ポストプレー・ピボット・スリーメン (A)
0.75	ルール(1)	<input type="checkbox"/> ファールとバイオレーション (B)
0.75	簡易ゲーム	<input type="checkbox"/> 3on3・リバウンド (A)(B)
0.75	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> セットショット(ボースハンド・ワンハンド) (A)
1.5	反復練習	<input type="checkbox"/> 個人技能および集団技能 (A)(B)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 実戦を想定したチーム練習 (B)(C)(G)
0.75	フォーメーション	<input type="checkbox"/> ディフェンス(ゾーン・マンツーマン) (A)(B)
0.75	ルール(2)	<input type="checkbox"/> 審判法について (B)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (B)(C)(G)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> ランニングショット(レイアップ) (A)
	— ソフトボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
2.25	個人技能	<input type="checkbox"/> キャッチボール・バットの握り方・素振り・バッティング・ボールの握り方・投法 (D)(E)
2.25	集団技能	<input type="checkbox"/> シートノック・フリーバッティング (D)(E)
1.5	総合練習	<input type="checkbox"/> 野手の守備方法について (D)(E)
1.5	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> 打撃練習・守備練習打撃(フリーバッティング) (D)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 守備方法を中心に実戦方式で練習 (D)(E)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (E)(F)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> 捕球・送球(ゴロ・フライ) (D)
	— その他 —	
	3 新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (H)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (G)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (H)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (H)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜: 9:30~13:00	n-murase
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-2 GE-3		A-1	(i)	
授業概要	必要とされる技能を習得および実践し、その段階に応じて作戦を立てて試合を行い、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。また、個人的技能および集団的技術の重要性を理解し、チームでの役割を自覚してその責任を果たせるよう、互いに協力しながら練習や試合に取り組んでいくことができるようにする。			
到達目標	<p>A. バスケットボールに関する基礎的理論を学習することができる。</p> <p>B. バスケットボールのルールを理解することができる。</p> <p>C. バスケットボールの試合を円滑に運営することができる。</p> <p>D. ソフトボールにおける捕球・送球動作を実践することができる。</p> <p>E. ソフトボールのルールを理解することができる。</p> <p>F. ソフトボールの試合を円滑に行うことができる。</p> <p>G. 学生相互の信頼関係を育み、勝敗に対して公正な態度で臨むことができる。</p> <p>H. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を身に付けることができる。</p>			
授業方法	種目を半期で入れ替える形式を取る。履修順は可能な限りクラスで決めてもらうが、天候・気温等の状況を考えるならばなるべく前期でソフトボールを履修してもらうことを勧める。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	— バスケットボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
0.75	個人技能	<input type="checkbox"/> ボール慣れ・ドリブル・ステップワーク・パス・シュート (A)
1.5	集団技能	<input type="checkbox"/> 動きながらのパス・ポストプレー・ピボット・スリーメン (A)
0.75	ルール(1)	<input type="checkbox"/> ファールとバイオレーション (B)
0.75	簡易ゲーム	<input type="checkbox"/> 3on3・リバウンド (A)(B)
0.75	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> セットショット(ボースハンド・ワンハンド) (A)
1.5	反復練習	<input type="checkbox"/> 個人技能および集団技能 (A)(B)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 実戦を想定したチーム練習 (B)(C)(G)
0.75	フォーメーション	<input type="checkbox"/> ディフェンス(ゾーン・マンツーマン) (A)(B)
0.75	ルール(2)	<input type="checkbox"/> 審判法について (B)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (B)(C)(G)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> ランニングショット(レイアップ) (A)
	— ソフトボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
2.25	個人技能	<input type="checkbox"/> キャッチボール・バットの握り方・素振り・バッティング・ボールの握り方・投法 (D)(E)
2.25	集団技能	<input type="checkbox"/> シートノック・フリーバッティング (D)(E)
1.5	総合練習	<input type="checkbox"/> 野手の守備方法について (D)(E)
1.5	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> 打撃練習・守備練習打撃(フリーバッティング) (D)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 守備方法を中心に実戦方式で練習 (D)(E)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (E)(F)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> 捕球・送球(ゴロ・フライ) (D)
	— その他 —	
	3 新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (H)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (G)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (H)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (H)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	情報工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
高野 修	一般教育科・准教授	体育教員室	火曜：15:00~16:30	takano
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	必要とされる技能を習得および実践し、その段階に応じて作戦を立てて試合を行い、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。また、個人的技能および集団的技術の重要性を理解し、チームでの役割を自覚してその責任を果たせるよう、互いに協力しながら練習や試合に取り組んでいくことができるようにする。			
到達目標	<p>A. バスケットボールに関する基礎的理論を学習することができる。</p> <p>B. バスケットボールのルールを理解することができる。</p> <p>C. バスケットボールの試合を円滑に運営することができる。</p> <p>D. ソフトボールにおける捕球・送球動作を実践することができる。</p> <p>E. ソフトボールのルールを理解することができる。</p> <p>F. ソフトボールの試合を円滑に行うことができる。</p> <p>G. 学生相互の信頼関係を育み、勝敗に対して公正な態度で臨むことができる。</p> <p>H. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を身に付けることができる。</p>			
授業方法	種目を半期で入れ替える形式を取る。履修順は可能な限りクラスで決めてもらうが、天候・気温等の状況を考えるならばなるべく前期でソフトボールを履修してもらうことを勧める。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	— バスケットボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
0.75	個人技能	<input type="checkbox"/> ボール慣れ・ドリブル・ステップワーク・パス・シュート (A)
1.5	集団技能	<input type="checkbox"/> 動きながらのパス・ポストプレー・ピボット・スリーメン (A)
0.75	ルール(1)	<input type="checkbox"/> ファールとバイオレーション (B)
0.75	簡易ゲーム	<input type="checkbox"/> 3on3・リバウンド (A)(B)
0.75	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> セットショット(ボースハンド・ワンハンド) (A)
1.5	反復練習	<input type="checkbox"/> 個人技能および集団技能 (A)(B)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 実戦を想定したチーム練習 (B)(C)(G)
0.75	フォーメーション	<input type="checkbox"/> ディフェンス(ゾーン・マンツーマン) (A)(B)
0.75	ルール(2)	<input type="checkbox"/> 審判法について (B)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (B)(C)(G)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> ランニングショット(レイアップ) (A)
	— ソフトボール —	
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (H)
0.75	体づくり運動	<input type="checkbox"/> ストレッチ・基礎運動トレーニング (H)
2.25	個人技能	<input type="checkbox"/> キャッチボール・バットの握り方・素振り・バッティング・ボールの握り方・投法 (D)(E)
2.25	集団技能	<input type="checkbox"/> シートノック・フリーバッティング (D)(E)
1.5	総合練習	<input type="checkbox"/> 野手の守備方法について (D)(E)
1.5	実技試験(1)	<input type="checkbox"/> 打撃練習・守備練習打撃(フリーバッティング) (D)
2.25	チーム練習	<input type="checkbox"/> 守備方法を中心に実戦方式で練習 (D)(E)
4.5	試合	<input type="checkbox"/> クラス内リーグ戦 (E)(F)
1.5	実技試験(2)	<input type="checkbox"/> 捕球・送球(ゴロ・フライ) (D)
	— その他 —	
	3 新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (H)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (G)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (H)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (H)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語	AD: デザイン学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English	必修	講義	演習	実験・実習
		30	60	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Luis Marques	一般教育科・准教授	236	12:20~13:05(木)	marques
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	英語の4技能を関連させながら総合的な英語力の向上を図り、CEFR-J A2.1レベルの到達を目指す。			
到達目標	<p>A. (Listening) はっきりと発音されれば、要点を理解することができる</p> <p>B. (Reading) 簡単な単語を用いて書かれた文章を理解することができる</p> <p>C. (Speaking) 簡単な意見交換をすることができる</p> <p>D. (Writing) 簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、まとまりのある文章を書くことができる</p> <p>E. (Grammar) 授業内で扱う文法項目を理解することができる</p>			
授業方法	4技能習得を目的とした演習中心の授業を行なう。授業は必要に応じてペアワーク、グループワークを取り入れたり、クラスを二分割して理解の促進とフォローを行なう。			
教科書	Get Ahead, Level 3 (Oxford)			
補助教材	ジーニアス英和辞典第5版(大修館)			
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とする。</p> <p>区間評価: 定期試験(50%) + Writing Test(15%) + Speaking Test(15%) + 課題(20%)</p> <p>※ 英検 IBA試験を年に1回実施し(12月実施予定)、学年末評価に1区間相当として算入する。</p> <p>換算点については、別表参照。</p> <p>※ Writing及びSpeaking Testは再テスト可だが、再テスト評価表(最高9点)を用いて評価する。</p> <p>また、未受験分は0点と換算する。</p> <p>※ Speaking Test当日に欠席であった場合、受験時に再テスト評価表を用いて評価する。</p> <p>※ 定期試験の再試験は実施しない。</p>			
関連科目	1・2年英語			
準備学習に関するアドバイス	本科目は、全て英語で進められます。Practice makes perfect. 臆することなく、使える英語力を修得するために、「実技科目」として積極的に取り組みましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業コンセプトの共有 <input type="checkbox"/> 受講上の基本ルールの理解
19.5	Unit 1	<input type="checkbox"/> ファッションについて述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在時制と付加疑問文を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 性格と外見について書かれた文章を読むことができる(B) <input type="checkbox"/> 場所や休暇について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去形と過去進行形を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 都会へ移ることについて書かれた文章を読むことができる(B)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	【前期末】 Unit 5	<input type="checkbox"/> 友人関係について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在完了と過去形を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> ソーシャル・ネットワーク・サービスについての文章を読むことができる(B) <input type="checkbox"/> 犯罪について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去完了を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 10代のハッカーについて書かれた文章を読むことができる(B)
0.75	前期末試験	
1.5	前期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	【後期中間】 Unit 4	<input type="checkbox"/> 病気とけがについて述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 法助動詞を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 生活習慣について、文章を読み、書くことができる(B, D) <input type="checkbox"/> お金について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 仮定法過去を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 世界の物価についての文章を読むことができる(B)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	【後期末】 Unit 10	<input type="checkbox"/> 食べ物について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 受動態を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 数量を示す表現を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 特殊な食事について書かれた文章を読むことができる(B) <input type="checkbox"/> 発明や装置について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 関係詞節を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 発明家について書かれた文章を読むことができる(B)
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検 IBA試験)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語	EE:電気工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English	必修	講義	演習	実験・実習
		30	60	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Luis Marques	一般教育科・准教授	236	12:20~13:05(木)	marques
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	英語の4技能を関連させながら総合的な英語力の向上を図り、CEFR-J A2.1レベルの到達を目指す。			
到達目標	<p>A. (Listening) はっきりと発音されれば、要点を理解することができる</p> <p>B. (Reading) 簡単な単語を用いて書かれた文章を理解することができる</p> <p>C. (Speaking) 簡単な意見交換をすることができる</p> <p>D. (Writing) 簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、まとまりのある文章を書くことができる</p> <p>E. (Grammar) 授業内で扱う文法項目を理解することができる</p>			
授業方法	4技能習得を目的とした演習中心の授業を行なう。授業は必要に応じてペアワーク、グループワークを取り入れたり、クラスを二分割して理解の促進とフォローを行なう。			
教科書	Get Ahead, Level 3 (Oxford)			
補助教材	ジーニアス英和辞典第5版(大修館)			
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とする。</p> <p>区間評価: 定期試験(50%) + Writing Test(15%) + Speaking Test(15%) + 課題(20%)</p> <p>※ 英検 IBA試験を年に1回実施し(12月実施予定)、学年末評価に1区間相当として算入する。</p> <p>換算点については、別表参照。</p> <p>※ Writing及びSpeaking Testは再テスト可だが、再テスト評価表(最高9点)を用いて評価する。</p> <p>また、未受験分は0点と換算する。</p> <p>※ Speaking Test当日に欠席であった場合、受験時に再テスト評価表を用いて評価する。</p> <p>※ 定期試験の再試験は実施しない。</p>			
関連科目	1・2年英語			
準備学習に関するアドバイス	本科目は、全て英語で進められます。Practice makes perfect. 臆することなく、使える英語力を修得するために、「実技科目」として積極的に取り組みましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業コンセプトの共有 <input type="checkbox"/> 受講上の基本ルールの理解
19.5	Unit 1	<input type="checkbox"/> ファッションについて述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在時制と付加疑問文を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 性格と外見について書かれた文章を読むことができる (B) <input type="checkbox"/> 場所や休暇について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去形と過去進行形を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 都会へ移ることについて書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 3	
19.5	【前期末】 Unit 5	<input type="checkbox"/> 友人関係について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在完了と過去形を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> ソーシャル・ネットワーク・サービスについての文章を読むことができる (B) <input type="checkbox"/> 犯罪について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去完了を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 10代のハッカーについて書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	前期末試験	
1.5	前期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 6	
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 4	<input type="checkbox"/> 病気とけがについて述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 法助動詞を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 生活習慣について、文章を読み、書くことができる (B, D) <input type="checkbox"/> お金について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 仮定法過去を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 世界の物価についての文章を読むことができる (B)
19.5	Unit 9	
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 10	<input type="checkbox"/> 食べ物について述べるができる。 (A, C, D) <input type="checkbox"/> 受動態を使うことができる。 (E) <input type="checkbox"/> 数量を示す表現を使うことができる。 (E) <input type="checkbox"/> 特殊な食事について書かれた文章を読むことができる。 (B) <input type="checkbox"/> 発明や装置について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 関係詞節を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 発明家について書かれた文章を読むことができる (B)
19.5	Unit 11	
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検 IBA試験)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語	ME:機械電子工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English	必修	講義	演習	実験・実習
		30	60	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Luis Marques	一般教育科・准教授	236	12:20~13:05(木)	marques
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	英語の4技能を関連させながら総合的な英語力の向上を図り、CEFR-J A2.1レベルの到達を目指す。			
到達目標	<p>A. (Listening) はっきりと発音されれば、要点を理解することができる</p> <p>B. (Reading) 簡単な単語を用いて書かれた文章を理解することができる</p> <p>C. (Speaking) 簡単な意見交換をすることができる</p> <p>D. (Writing) 簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、まとまりのある文章を書くことができる</p> <p>E. (Grammar) 授業内で扱う文法項目を理解することができる</p>			
授業方法	4技能習得を目的とした演習中心の授業を行なう。授業は必要に応じてペアワーク、グループワークを取り入れたり、クラスを二分割して理解の促進とフォローを行なう。			
教科書	Get Ahead, Level 3 (Oxford)			
補助教材	ジーニアス英和辞典第5版(大修館)			
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とする。</p> <p>区間評価: 定期試験(50%) + Writing Test(15%) + Speaking Test(15%) + 課題(20%)</p> <p>※ 英検IBA試験を年に1回実施し(12月実施予定)、学年末評価に1区間相当として算入する。</p> <p>換算点については、別表参照。</p> <p>※ Writing及びSpeaking Testは再テスト可だが、再テスト評価表(最高9点)を用いて評価する。</p> <p>また、未受験分は0点と換算する。</p> <p>※ Speaking Test当日に欠席であった場合、受験時に再テスト評価表を用いて評価する。</p> <p>※ 定期試験の再試験は実施しない。</p>			
関連科目	1・2年英語			
準備学習に関するアドバイス	本科目は、全て英語で進められます。Practice makes perfect. 臆することなく、使える英語力を修得するために、「実技科目」として積極的に取り組みましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業コンセプトの共有 <input type="checkbox"/> 受講上の基本ルールの理解
19.5	Unit 1	<input type="checkbox"/> ファッションについて述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在時制と付加疑問文を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 性格と外見について書かれた文章を読むことができる (B)
	Unit 3	<input type="checkbox"/> 場所や休暇について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去形と過去進行形を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 都会へ移ることについて書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
	【前期末】	
19.5	Unit 5	<input type="checkbox"/> 友人関係について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在完了と過去形を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> ソーシャル・ネットワーク・サービスについての文章を読むことができる (B)
	Unit 6	<input type="checkbox"/> 犯罪について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去完了を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 10代のハッカーについて書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	前期末試験	
1.5	前期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
	【後期中間】	
19.5	Unit 4	<input type="checkbox"/> 病気とけがについて述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 法助動詞を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 生活習慣について、文章を読み、書くことができる (B, D)
	Unit 9	<input type="checkbox"/> お金について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 仮定法過去を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 世界の物価についての文章を読むことができる (B)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
	【後期末】	
19.5	Unit 10	<input type="checkbox"/> 食べ物について述べるができる。 (A, C, D) <input type="checkbox"/> 受動態を使うことができる。 (E) <input type="checkbox"/> 数量を示す表現を使うことができる。 (E) <input type="checkbox"/> 特殊な食事について書かれた文章を読むことができる。 (B)
	Unit 11	<input type="checkbox"/> 発明や装置について述べるができる (A, C, D) <input type="checkbox"/> 関係詞節を使うことができる (E) <input type="checkbox"/> 発明家について書かれた文章を読むことができる (B)
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検IBA試験)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語	CS:情報工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English	必修	講義	演習	実験・実習
		30	60	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
松尾 貴哲	一般教育科・講師	236	火曜日 16:00~17:00	matsuot
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-3		C-3	(f)	
授業概要	英語の4技能を関連させながら総合的な英語力の向上を図り、CEFR-J A2.1レベルの到達を目指す。			
到達目標	A. (Listening)はつきりと発音されれば、要点を理解することができる B. (Reading)簡単な単語を用いて書かれた文章を理解することができる C. (Speaking)簡単な意見交換をすることができる D. (Writing)簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、まとまりのある文章を書くことができる E. (Grammar)授業内で扱う文法項目を理解することができる			
授業方法	4技能習得を目的とした演習中心の授業を行なう。授業は必要に応じてペアワーク、グループワークを取り入れたり、クラスを二分割して理解の促進とフォローを行なう。			
教科書	Get Ahead, Level 3 (Oxford)			
補助教材	ジーニアス英和辞典第5版(大修館)			
評価方法	総合評価は各区間の単純平均とする。 区間評価：定期試験(50%) + Writing Test(15%) + Speaking Test(15%) + 課題(20%) ※ 英検IBA試験を年に1回実施し(12月実施予定)、学年末評価に1区間相当として算入する。 換算点については、別表参照。 ※ Writing及びSpeaking Testは再テスト可だが、再テスト評価表(最高9点)を用いて評価する。 また、未受験分は0点と換算する。 ※ Speaking Test当日に欠席であった場合、受験時に再テスト評価表を用いて評価する。 ※ 定期試験の再試験は実施しない。			
関連科目	1・2年英語			
準備学習に関するアドバイス	本科目は、全て英語で進められます。Practice makes perfect. 臆することなく、使える英語力を修得するために、「実技科目」として積極的に取り組みましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業コンセプトの共有 <input type="checkbox"/> 受講上の基本ルールの理解
19.5	Unit 1	<input type="checkbox"/> ファッションについて述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在時制と付加疑問文を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 性格と外見について書かれた文章を読むことができる(B) <input type="checkbox"/> 場所や休暇について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去形と過去進行形を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 都会へ移ることについて書かれた文章を読むことができる(B)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 3	
0.75	前期末試験	
1.5	前期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 5	<input type="checkbox"/> 友人関係について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 現在完了と過去形を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> ソーシャル・ネットワーキング・サービスについての文章を読むことができる(B) <input type="checkbox"/> 犯罪について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 過去完了を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 10代のハッカーについて書かれた文章を読むことができる(B)
0.75	前期末試験	
1.5	前期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 6	
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 4	<input type="checkbox"/> 病気とけがについて述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 法助動詞を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 生活習慣について、文章を読み、書くことができる(B, D) <input type="checkbox"/> お金について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 仮定法過去を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 世界の物価についての文章を読むことができる(B)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験の返却・解説、学習アドバイス	
19.5	Unit 9	
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検IBA試験)	
19.5	Unit 10	<input type="checkbox"/> 食べ物について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 受動態を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 数量を示す表現を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 特殊な食事について書かれた文章を読むことができる(B) <input type="checkbox"/> 発明や装置について述べる(A, C, D) <input type="checkbox"/> 関係詞節を使うことができる(E) <input type="checkbox"/> 発明家について書かれた文章を読むことができる(B)
0.75	後期末試験	
1.5	後期末試験の返却・解説、学習アドバイス	
1.5	実力判定試験(英検IBA試験)	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90	最終成績：評価点 [] 点	
時間	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	AD:デザイン学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		15	7.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
相川 智洋	一般教育科・准教授	211	火曜日以外	aikawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	古文と漢文を扱う。古典に親しみ、古文・漢文読解の基礎力を養うことに主眼を置く。適宜、小テストを実施する。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力（開発力）の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記③に向けて、4年次の学習到達目標を下記3点とする。</p> <p>(A) 伝統文化としての古典を理解し、その多様性に触れることができる</p> <p>(B) 古典文法の基礎を理解し、古文作品に親しむことができる</p> <p>(C) 訓読法の基礎を理解し、漢文作品に親しむことができる</p>			
授業方法	古典文法の習得・平易な古文の読解、漢文訓読法の理解・平易な漢文の読解を目指す。授業担当者の講義に加え、学生が実際に古文の品詞分解・現代語訳、漢文の書き下しなどに取り組む演習を行う。小テストを適宜授業内に実施する。			
教科書	「精選 国語総合」(三省堂)			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「古語辞典」・必要に応じてプリントを配布する			
評価方法	<p>半期を定期試験で2区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は2区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、2区間の評価点の合計が120点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記(1)+(2)+(3)+(4)の合計を各区間の評価点とする。</p> <p>(1) 定期試験(100満点)素点×0.6</p> <p>(2) 授業内小テスト(5回実施・各10点満点)のうち得点上位4回分の合計点</p> <p>(3) 自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-6点</p> <p>(4) 忘れ物[減点対象]— 教員入室時、授業に必要なものが机上にない場合、1回につき最大-6点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・3年)、日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	古文・漢文を読み解く力を養い古典についての理解や関心を深めることによって、我々は何もの見方・感じ方・考え方を広くし、人生を豊かにすることが出来ます。古典の学習には地道な努力が必要となりますが、しっかり着実に歩を進めて欲しいと思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	歴史的仮名遣い・暦法	<input type="checkbox"/> 古典読解に必要な基礎知識(A)
1.5	動詞・形容詞・形容動詞 [+小テスト①]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	助動詞・助詞 [+小テスト②]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	古文読解1 [+小テスト③]	<input type="checkbox"/> 『竹取物語』の読解(A・B)
1.5	古文読解2 [+小テスト④]	<input type="checkbox"/> 『徒然草』の読解(A・B)
1.5	古文読解3 [+小テスト⑤]	<input type="checkbox"/> 『土佐日記』の読解(A・B)
1.5	古文読解4	<input type="checkbox"/> 『伊勢物語』の読解(A・B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	和歌の鑑賞	<input type="checkbox"/> 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の鑑賞(A・B)
1.5	古文読解5 [+小テスト⑥]	<input type="checkbox"/> 『奥の細道』の読解(A・B)
1.5	漢文訓読法基礎1 [+小テスト⑦]	<input type="checkbox"/> 漢文訓読法の基礎(A・C)
1.5	漢詩読解1 [+小テスト⑧]	<input type="checkbox"/> 漢詩の規則の理解、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解1 [+小テスト⑨]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解2 [+小テスト⑩]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	EE:電気工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		15	7.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
後藤 志緒莉	一般教育科・非常勤講師	211	月曜日	goto.shiori
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	古文と漢文を扱う。古典に親しみ、古文・漢文読解の基礎力を養うことに主眼を置く。適宜、小テストを実施する。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力（開発力）の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記③に向けて、4年次の学習到達目標を下記3点とする。</p> <p>(A) 伝統文化としての古典を理解し、その多様性に触れることができる</p> <p>(B) 古典文法の基礎を理解し、古文作品に親しむことができる</p> <p>(C) 訓読法の基礎を理解し、漢文作品に親しむことができる</p>			
授業方法	古典文法の習得・平易な古文の読解、漢文訓読法の理解・平易な漢文の読解を目指す。授業担当者の講義に加え、学生が実際に古文の品詞分解・現代語訳、漢文の書き下しなどに取り組む演習を行う。小テストを適宜授業内に実施する。			
教科書	「精選 国語総合」(三省堂)			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「古語辞典」・必要に応じてプリントを配布する			
評価方法	<p>半期を定期試験で2区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は2区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、2区間の評価点の合計が120点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記(1)+(2)+(3)+(4)の合計を各区間の評価点とする。</p> <p>(1) 定期試験(100満点)素点×0.6</p> <p>(2) 授業内小テスト(5回実施・各10点満点)のうち得点上位4回分の合計点</p> <p>(3) 自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-6点</p> <p>(4) 忘れ物[減点対象]— 教員入室時、授業に必要なものが机にない場合、1回につき最大-6点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・3年)、日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	古文・漢文を読み解く力を養い古典についての理解や関心を深めることによって、我々は何もの見方・感じ方・考え方を広くし、人生を豊かにすることができます。古典の学習には地道な努力が必要となりますが、しっかり着実に歩を進めて欲しいと思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	歴史的仮名遣い・暦法	<input type="checkbox"/> 古典読解に必要な基礎知識(A)
1.5	動詞・形容詞・形容動詞 [+小テスト①]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	助動詞・助詞 [+小テスト②]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	古文読解1 [+小テスト③]	<input type="checkbox"/> 『竹取物語』の読解(A・B)
1.5	古文読解2 [+小テスト④]	<input type="checkbox"/> 『徒然草』の読解(A・B)
1.5	古文読解3 [+小テスト⑤]	<input type="checkbox"/> 『土佐日記』の読解(A・B)
1.5	古文読解4	<input type="checkbox"/> 『伊勢物語』の読解(A・B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	和歌の鑑賞	<input type="checkbox"/> 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の鑑賞(A・B)
1.5	古文読解5 [+小テスト⑥]	<input type="checkbox"/> 『奥の細道』の読解(A・B)
1.5	漢文訓読法基礎1 [+小テスト⑦]	<input type="checkbox"/> 漢文訓読法の基礎(A・C)
1.5	漢詩読解1 [+小テスト⑧]	<input type="checkbox"/> 漢詩の規則の理解、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解1 [+小テスト⑨]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解2 [+小テスト⑩]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	ME:機械電子工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		15	7.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
相川 智洋	一般教育科・准教授	211	火曜日以外	aikawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	古文と漢文を扱う。古典に親しみ、古文・漢文読解の基礎力を養うことに主眼を置く。適宜、小テストを実施する。			
到達目標	<p>国語科教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記③に向けて、4年次の学習到達目標を下記3点とする。</p> <p>(A) 伝統文化としての古典を理解し、その多様性に触れることができる</p> <p>(B) 古典文法の基礎を理解し、古文作品に親しむことができる</p> <p>(C) 訓読法の基礎を理解し、漢文作品に親しむことができる</p>			
授業方法	古典文法の習得・平易な古文の読解、漢文訓読法の理解・平易な漢文の読解を目指す。授業担当者の講義に加え、学生が実際に古文の品詞分解・現代語訳、漢文の書き下しなどに取り組む演習を行う。小テストを適宜授業内に実施する。			
教科書	「精選 国語総合」(三省堂)			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「古語辞典」・必要に応じてプリントを配布する			
評価方法	<p>半期を定期試験で2区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は2区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとす。</p> <p>ただし、2区間の評価点の合計が120点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記(1)+(2)+(3)+(4)の合計を各区間の評価点とする。</p> <p>(1) 定期試験(100満点)素点×0.6</p> <p>(2) 授業内小テスト(5回実施・各10点満点)のうち得点上位4回分の合計点</p> <p>(3) 自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-6点</p> <p>(4) 忘れ物[減点対象]— 教員入室時、授業に必要なものが机上にない場合、1回につき最大-6点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・3年)、日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	古文・漢文を読み解く力を養い古典についての理解や関心を深めることによって、我々は何もの見方・感じ方・考え方を広くし、人生を豊かにすることが出来ます。古典の学習には地道な努力が必要となりますが、しっかり着実に歩を進めて欲しいと思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	歴史的仮名遣い・暦法	<input type="checkbox"/> 古典読解に必要な基礎知識(A)
1.5	動詞・形容詞・形容動詞 [+小テスト①]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	助動詞・助詞 [+小テスト②]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	古文読解1 [+小テスト③]	<input type="checkbox"/> 『竹取物語』の読解(A・B)
1.5	古文読解2 [+小テスト④]	<input type="checkbox"/> 『徒然草』の読解(A・B)
1.5	古文読解3 [+小テスト⑤]	<input type="checkbox"/> 『土佐日記』の読解(A・B)
1.5	古文読解4	<input type="checkbox"/> 『伊勢物語』の読解(A・B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	和歌の鑑賞	<input type="checkbox"/> 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の鑑賞(A・B)
1.5	古文読解5 [+小テスト⑥]	<input type="checkbox"/> 『奥の細道』の読解(A・B)
1.5	漢文訓読法基礎1 [+小テスト⑦]	<input type="checkbox"/> 漢文訓読法の基礎(A・C)
1.5	漢詩読解1 [+小テスト⑧]	<input type="checkbox"/> 漢詩の規則の理解、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解1 [+小テスト⑨]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解2 [+小テスト⑩]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
国語	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Japanese	必修	講義	演習	実験・実習
		15	7.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
後藤 志緒莉	一般教育科・非常勤講師	211	月曜日	goto.shiori
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1 GE-3		A-2 C-1		(a) (f)
授業概要	古文と漢文を扱う。古典に親しみ、古文・漢文読解の基礎力を養うことに主眼を置く。適宜、小テストを実施する。			
到達目標	<p>国語教科目標</p> <p>①『アイデアを具現化する実践力(開発力)の源となる「論理的思考力」を養う』</p> <p>②『聞き手・読み手を意識し、日本語によって適切な確かな意思疎通を図る「コミュニケーション力」を養う』</p> <p>③『言語・文化の本質及び多様性を正しく理解し受容できる「人間性」を養う』</p> <p>上記③に向けて、4年次の学習到達目標を下記3点とする。</p> <p>(A) 伝統文化としての古典を理解し、その多様性に触れることができる</p> <p>(B) 古典文法の基礎を理解し、古文作品に親しむことができる</p> <p>(C) 訓読法の基礎を理解し、漢文作品に親しむことができる</p>			
授業方法	古典文法の習得・平易な古文の読解、漢文訓読法の理解・平易な漢文の読解を目指す。授業担当者の講義に加え、学生が実際に古文の品詞分解・現代語訳、漢文の書き下しなどに取り組む演習を行う。小テストを適宜授業内に実施する。			
教科書	「精選 国語総合」(三省堂)			
補助教材	「シグマ新国語便覧」(文英堂)・「シグマ新国語便覧問題集」(文英堂)・「古語辞典」・必要に応じてプリントを配布する			
評価方法	<p>半期を定期試験で2区間に分け、単純平均方式で算出する。</p> <p>最終成績は2区間の評価点の平均とし、小数点第1位を四捨五入したものとする。</p> <p>ただし、2区間の評価点の合計が120点に満たない場合は不合格とする。</p> <p>下記(1)+(2)+(3)+(4)の合計を各区間の評価点とする。</p> <p>(1) 定期試験(100満点)素点×0.6</p> <p>(2) 授業内小テスト(5回実施・各10点満点)のうち得点上位4回分の合計点</p> <p>(3) 自学自習課題[減点対象]— 取り組み不十分・遅刻提出・不提出等の場合、各課題最大-6点</p> <p>(4) 忘れ物[減点対象]— 教員入室時、授業に必要なものが机上にない場合、1回につき最大-6点</p>			
関連科目	国語(1年・2年・3年)、日本語・日本文学(自由選択)			
準備学習に関するアドバイス	古文・漢文を読み解く力を養い古典についての理解や関心を深めることによって、我々は何もの見方・感じ方・考え方を広くし、人生を豊かにすることができます。古典の学習には地道な努力が必要となりますが、しっかり着実に歩を進めて欲しいと思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画及び評価の方法
1	歴史的仮名遣い・暦法	<input type="checkbox"/> 古典読解に必要な基礎知識(A)
1.5	動詞・形容詞・形容動詞[+小テスト①]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	助動詞・助詞[+小テスト②]	<input type="checkbox"/> 古典文法の基礎(B)
1.5	古文読解1[+小テスト③]	<input type="checkbox"/> 『竹取物語』の読解(A・B)
1.5	古文読解2[+小テスト④]	<input type="checkbox"/> 『徒然草』の読解(A・B)
1.5	古文読解3[+小テスト⑤]	<input type="checkbox"/> 『土佐日記』の読解(A・B)
1.5	古文読解4	<input type="checkbox"/> 『伊勢物語』の読解(A・B)
0.75	前期中間試験	
0.5	試験返却及び解説	
1	和歌の鑑賞	<input type="checkbox"/> 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の鑑賞(A・B)
1.5	古文読解5[+小テスト⑥]	<input type="checkbox"/> 『奥の細道』の読解(A・B)
1.5	漢文訓読法基礎1[+小テスト⑦]	<input type="checkbox"/> 漢文訓読法の基礎(A・C)
1.5	漢詩読解1[+小テスト⑧]	<input type="checkbox"/> 漢詩の規則の理解、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解1[+小テスト⑨]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
1.5	漢文読解2[+小テスト⑩]	<input type="checkbox"/> 漢文の書き下し、意味の把握(A・C)
0.75	前期期末試験	
1	試験返却及び解説	
0.5	前期授業アンケート	
合計	試験結果:前期中間試験[]点 前期期末試験[]点 後期中間試験[]点 後期末試験[]点	
22.5時間	最終成績:評価点[]点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
解析学Ⅱ	CS:情報工学科	4年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analysis 2	必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
佐藤 豊	一般教育科・准教授	305 239	木曜日以外	sato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
GE-1		B-1		(c)
授業概要	三学年までに習得した解析学の内容を基礎とし、有理関数の積分、広義積分、2変数関数の偏微分・極値問題、微分方程式を学習する。			
到達目標	A. 有理関数の積分ができ、置換積分法、部分積分法を用いた定積分の計算ができる。 B. 広義積分を求めることができる。 C. 定積分を用いて、領域の面積・体積、曲線の長さが求められる。 D. 2変数関数とは何かを学び、その偏微分、全微分が計算できる。 E. 2変数関数の極値が求められる。 F. 微分方程式の定義と解を理解できる。 G. 変数分離形を基礎とし、線形微分方程式を解くことができる。			
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 小テストを実施し、理解度を確認する。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野健太郎、石原繁 (裳華房)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目及びその割合 (1) 定期試験 (70%) (2) 小テスト、課題、授業態度 (30%) 2. 評点算出の方法 (1) 前期を2区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 前期末に再試験を行うこともあるが、前期中間の総合成績が20点未満の場合は不可が確定する。			
関連科目	基礎数学Ⅰ・Ⅱ、微分積分学、解析学Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	三年生で履修した解析学の知識を基礎としていますから、基礎ができていない場合は前に戻って公式等の確認が必要です。解析学Ⅱは後期の解析学Ⅲにつながる重要な科目です。授業の復習や課題の演習をしっかりと行い、新しい知識を確実に自分のものにしていきましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法の説明
0.75	定積分の復習	<input type="checkbox"/> 多項式関数、三角関数、指数・対数関数の定積分
2.25	有理関数の積分	<input type="checkbox"/> 有理関数の積分計算 (A)
2.25	置換積分法・部分積分法	<input type="checkbox"/> 置換積分法・部分積分法を用いた定積分 (A)
3	広義積分	<input type="checkbox"/> 異常積分、無限積分 (B)
1.5	極座標と面積	<input type="checkbox"/> 極座標変換を用いた面積の計算 (C)
1.5	曲線の長さ	<input type="checkbox"/> 定積分を用いた曲線の長さの計算 (C)
3	2変数関数と偏導関数	<input type="checkbox"/> 2変数関数、偏微分、偏微分係数、偏導関数の定義と計算 (D)
3	高次偏導関数	<input type="checkbox"/> 高次偏導関数の計算 (D)
3	まとめと演習 (前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 前期中間試験の対策問題演習 (A, B, C, D)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	全微分	<input type="checkbox"/> 全微分の定義と計算 (D)
2.25	合成関数の微分公式	<input type="checkbox"/> 合成関数の微分公式を用いた偏微分の計算 (D)
3.75	2変数関数の極値問題	<input type="checkbox"/> 極大・極小の定義、極値の判定条件 (E)
3	陰関数の極値問題	<input type="checkbox"/> 陰関数の極値、条件付き極値 (E)
2.25	1階微分方程式	<input type="checkbox"/> 微分方程式と解の定義 (F)
3	変数分離形	<input type="checkbox"/> 変数分離形の微分方程式の解法 (G)
2.25	線形微分方程式	<input type="checkbox"/> 線形微分方程式の解法 (G)
1.5	まとめと演習 (前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 前期末試験の対策問題演習 (D, E, F, G)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜: 9:30~13:00	n-murase
武井 俊裕	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	takei
三橋 遼介	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	r-mitsuhashi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-2 GE-3		A-1	(i)	
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. 1~3年次で習得した技能を発展させられるよう努力することができる。</p> <p>B. 様々なスポーツの種目特性を理解し、親しむ能力を身に付けることができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 相互に協力し、勝敗に対し公正な態度で臨むことができる。</p>			
授業方法	クラスを2グループに分け、1/4期ごとに武道と球技をローテーションして行う。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%)で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%)で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%)で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育実技<バレーボール・剣道・サッカー・柔道・バスケットボール・ソフトボール>			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75 15	一 球 技 一 授業ガイダンス 球技	<input type="checkbox"/> 授業の流れ・評価法・取り組み方 (C) <input type="checkbox"/> サッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン <input type="checkbox"/> 卓球・ソフトボール・キックベース・インディアカ <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール・ソフトラクロスのうちから 授業毎に1種目選択し実施 (A) (B) (D)
0.75 0.75 1.5 1.5 0.75 3 1.5	一 柔 道 一 授業ガイダンス 総合復習 様々なわざ 総合練習 ルール 試合 実技試験	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> 受け身・投げわざ・寝わざ (A) (B) <input type="checkbox"/> わざの連絡変化・絞めわざ・関節わざ・わざの実践 (A) (B) <input type="checkbox"/> 約束乱取り・寝わざ乱取り・乱取り (A) (B) <input type="checkbox"/> 審判法・罰則規定 (A) (B) <input type="checkbox"/> クラス内で重量別に分け個人戦を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 投げの形・乱取り (A) (B)
0.75 0.75 0.75 1.5	一 剣 道 一 授業ガイダンス 体力づくり 基本動作の習得 基本技能の習得	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> ストレッチング・トレーニング (C) <input type="checkbox"/> 構え・足さばき・素振り(小手・面・胴・突) (A) (B) <input type="checkbox"/> 素振り(前進後退・跳躍他) <input type="checkbox"/> 防具の装着・基本技能各種・互角稽古 (A) (B) <input type="checkbox"/> 試合規則・審判法の解説・試合の進め方と相互審判 (B) <input type="checkbox"/> 団体戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 個人戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 技能・態度の到達度 (A)
3 1.5 3 3 3 1.5 3 3	一 その他 一 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) <input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) (G) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (C) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) (G) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) (G)
合計 55.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜: 9:30~13:00	n-murase
武井 俊裕	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	takei
茂木 康嘉	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	y-mogi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. 1~3年次で習得した技能を発展させられるよう努力することができる。</p> <p>B. 様々なスポーツの種目特性を理解し、親しむ能力を身に付けることができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 相互に協力し、勝敗に対し公正な態度で臨むことができる。</p>			
授業方法	クラスを2グループに分け、1/4期ごとに武道と球技をローテーションして行う。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%)で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%)で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%)で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育実技<バレーボール・剣道・サッカー・柔道・バスケットボール・ソフトボール>			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75 15	一 球 技 一 授業ガイダンス 球技	<input type="checkbox"/> 授業の流れ・評価法・取り組み方 (C) <input type="checkbox"/> サッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン <input type="checkbox"/> 卓球・ソフトボール・キックベース・インディアカ <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール・ソフトラクロスのうちから 授業毎に1種目選択し実施 (A) (B) (D)
0.75 0.75 1.5 1.5 0.75 3 1.5	一 柔 道 一 授業ガイダンス 総合復習 様々なわざ 総合練習 ルール 試合 実技試験	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> 受け身・投げわざ・寝わざ (A) (B) <input type="checkbox"/> わざの連絡変化・絞めわざ・関節わざ・わざの実践 (A) (B) <input type="checkbox"/> 約束乱取り・寝わざ乱取り・乱取り (A) (B) <input type="checkbox"/> 審判法・罰則規定 (A) (B) <input type="checkbox"/> クラス内で重量別に分け個人戦を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 投げの形・乱取り (A) (B)
0.75 0.75 0.75 1.5	一 剣 道 一 授業ガイダンス 体力づくり 基本動作の習得 基本技能の習得	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> ストレッチング・トレーニング (C) <input type="checkbox"/> 構え・足さばき・素振り(小手・面・胴・突) (A) (B) <input type="checkbox"/> 素振り(前進後退・跳躍他) <input type="checkbox"/> 防具の装着・基本技能各種・互角稽古 (A) (B) <input type="checkbox"/> 試合規則・審判法の解説・試合の進め方と相互審判 (B) <input type="checkbox"/> 団体戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 個人戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 技能・態度の到達度 (A)
3 1.5 3 3 3 1.5 3 3	一 その他 一 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) <input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) (G) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (C) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) (G) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) (G)
合計 55.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜: 9:30~13:00	n-murase
武井 俊裕	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	takei
三橋 遼介	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	r-mitsuhashi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-2 GE-3		A-1	(i)	
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. 1~3年次で習得した技能を発展させられるよう努力することができる。</p> <p>B. 様々なスポーツの種目特性を理解し、親しむ能力を身に付けることができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 相互に協力し、勝敗に対し公正な態度で臨むことができる。</p>			
授業方法	クラスを2グループに分け、1/4期ごとに武道と球技をローテーションして行う。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%)で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%)で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%)で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育実技<バレーボール・剣道・サッカー・柔道・バスケットボール・ソフトボール>			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75 15	一 球 技 一 授業ガイダンス 球技	<input type="checkbox"/> 授業の流れ・評価法・取り組み方 (C) <input type="checkbox"/> サッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン <input type="checkbox"/> 卓球・ソフトボール・キックベース・インディアカ <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール・ソフトラクロスのうちから 授業毎に1種目選択し実施 (A) (B) (D)
0.75 0.75 1.5 1.5 0.75 3 1.5	一 柔 道 一 授業ガイダンス 総合復習 様々なわざ 総合練習 ルール 試合 実技試験	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> 受け身・投げわざ・寝わざ (A) (B) <input type="checkbox"/> わざの連絡変化・絞めわざ・関節わざ・わざの実践 (A) (B) <input type="checkbox"/> 約束乱取り・寝わざ乱取り・乱取り (A) (B) <input type="checkbox"/> 審判法・罰則規定 (A) (B) <input type="checkbox"/> クラス内で重量別に分け個人戦を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 投げの形・乱取り (A) (B)
0.75 0.75 0.75 1.5	一 剣 道 一 授業ガイダンス 体力づくり 基本動作の習得 基本技能の習得	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> ストレッチング・トレーニング (C) <input type="checkbox"/> 構え・足さばき・素振り(小手・面・胴・突) (A) (B) <input type="checkbox"/> 素振り(前進後退・跳躍他) <input type="checkbox"/> 防具の装着・基本技能各種・互角稽古 (A) (B) <input type="checkbox"/> 試合規則・審判法の解説・試合の進め方と相互審判 (B) <input type="checkbox"/> 団体戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 個人戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 技能・態度の到達度 (A)
3 1.5 3 3 3 1.5 3 3	一 その他 一 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) <input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) (G) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (C) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) (G) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) (G)
合計 55.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	情報工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜: 9:30~13:00	n-murase
武井 俊裕	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	takei
茂木 康嘉	一般教育科・非常勤講師	体育教員室	金曜: 12:30~13:00	y-mogi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-2 GE-3		A-1	(i)	
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. 1~3年次で習得した技能を発展させられるよう努力することができる。</p> <p>B. 様々なスポーツの種目特性を理解し、親しむ能力を身に付けることができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 相互に協力し、勝敗に対し公正な態度で臨むことができる。</p>			
授業方法	クラスを2グループに分け、1/4期ごとに武道と球技をローテーションして行う。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%)で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%)で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%)で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育実技<バレーボール・剣道・サッカー・柔道・バスケットボール・ソフトボール>			
準備学習に関するアドバイス	授業の際は指定の体育着・体育館シューズを着用のこと。持参していない場合には見学とする。また、体育施設の利用方法について授業初回での説明を理解・徹底すること。怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75 15	一 球 技 一 授業ガイダンス 球技	<input type="checkbox"/> 授業の流れ・評価法・取り組み方 (C) <input type="checkbox"/> サッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン <input type="checkbox"/> 卓球・ソフトボール・キックベース・インディアカ <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール・ソフトラクロスのうちから 授業毎に1種目選択し実施 (A) (B) (D)
0.75 0.75 1.5 1.5 0.75 3 1.5	一 柔 道 一 授業ガイダンス 総合復習 様々なわざ 総合練習 ルール 試合 実技試験	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> 受け身・投げわざ・寝わざ (A) (B) <input type="checkbox"/> わざの連絡変化・絞めわざ・関節わざ・わざの実践 (A) (B) <input type="checkbox"/> 約束乱取り・寝わざ乱取り・乱取り (A) (B) <input type="checkbox"/> 審判法・罰則規定 (A) (B) <input type="checkbox"/> クラス内で重量別に分け個人戦を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 投げの形・乱取り (A) (B)
0.75 0.75 0.75 1.5	一 剣 道 一 授業ガイダンス 体力づくり 基本動作の習得 基本技能の習得	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法の説明 (C) <input type="checkbox"/> ストレッチング・トレーニング (C) <input type="checkbox"/> 構え・足さばき・素振り(小手・面・胴・突) (A) (B) <input type="checkbox"/> 素振り(前進後退・跳躍他) <input type="checkbox"/> 防具の装着・基本技能各種・互角稽古 (A) (B) <input type="checkbox"/> 試合規則・審判法の解説・試合の進め方と相互審判 (B) <input type="checkbox"/> 団体戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 個人戦形式 (B) (D) <input type="checkbox"/> 技能・態度の到達度 (A)
3 1.5 3 3 3 1.5 3 3	一 その他 一 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会 新体カテスト 校内競技大会へ向けた練習 校内マラソン大会へ向けた練習 校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) <input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C) (G) <input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (B) (C) (D) <input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C) (G) <input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C) (G)
合計 55.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語演習	全学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
TOEIC®prep	必修	講義	演習	実験・実習
		15	30	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
岸 洋一	一般教育科・非常勤講師	230	火曜日 16:30~	kishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	当講義では前半をListeningに比重を置いた英語指導をテキストを用いて行う。音読、音読筆写、ディクテーションなどの学習活動が中心になる。後半は、TOEIC形式に慣れるための演習となる。こちらは、音読・音読筆写に加え、基礎文法の固め・Readingの基礎も築く。			
到達目標	A テキストの本文を、決められた時間内に、正しいリズムで音読できる。 B 指定された英文を決められた回数、音読筆写し、蓄積できる。 C TOEIC L&R Testの形式に慣れ、求められる一定のスコアを獲得できる。			
授業方法	①席は指定。テキストをP4~6の指示に従うように学習する。音読・ペアワーク・グループワークも含む。 ②毎回小テスト、定期的な音読テストを行う。課題文を音読筆写・ディクテーションする。 ③TOEIC L&R Testに慣れる演習をする。(即反応・音に強くなる・速読練習、など)			
教科書	「見てわかるビジュアルリスニング」(MBA出版)			
補助教材	特に指定しない(授業中に配布のプリント参照)			
評価方法	TOEIC IPスコア(80%) + 小テスト・課題など(20%) * TOEIC IPスコアは、別表に従って素点換算する。 * 評価は学期末の2回で、学年末は両区間の評点の単純平均とする。 * ベストスコア制度: 各学期のTOEIC IPスコアには、個人で受験して得た結果に替え、評価を受けることができる。但し、有効なスコアシートは原則として以下の通りであるので注意すること。 前期: 2017年4月1日から2016年8月31日までに受験して得たスコア 後期: 2017年9月1日から2017年2月29日の間に受験して得たスコア ベストスコア制度を利用する場合、スコアシートを提出すること(コピー不可)。 尚、定期試験不正行為等、担当教員が適切でないと判断した場合、ベストスコア制度適用不可とする場合がある。 * 小テストは、すべての小テストの平均点とする。再テストは原則として不可。			
関連科目	1年~3年までの「英語」、4年次「選択英語」各科目、および1年~3年までの「国語」			
準備学習に関するアドバイス	音読筆写用ノート(ルーズリーフ不可)を毎時、持参・提示してください。講師が確認印を押します。押していないものは無効です。提出を求めることもあります。与えられた範囲の英文(難しいものは原則として出しません)は、日本語を見たら、すぐに英語で書けるようにして来てください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【Term 1前期】 プレイズメントテスト&授業ガイダンス (音読筆写ノート手順説明など)	<input type="checkbox"/> プレイズメントテストを受験・自己採点し、現在地を知る。 <input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認
16.5	Round 1~11	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(B) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、TOEIC形式になれる(C) <input type="checkbox"/> テキストの「使い方」にそって音読中心に学習する(A)
1.5	TOEIC 模擬試験	<input type="checkbox"/> Part 1~7まで、ミニテストを受験し、IPに備える(C)
1.5	TOEIC IPテスト	
1.5	TOEIC IPテスト スコア返却とフィードバック	
1.5	【Term 2後期】 後期授業ガイダンス&特別トレーニング	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認(前期との違い) <input type="checkbox"/> タスクと学習内容を把握する
13.5	Round 12~20	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(B) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、TOEIC形式になれる(C) <input type="checkbox"/> テキストの「使い方」にそって音読中心に学習する(A)
4.5	TOEIC 形式集中演習	<input type="checkbox"/> TOEICテストの過去問題等を解き、形式になれる。(C) <input type="checkbox"/> TOEICIPテストである程度のスコアが取れる力をつける。(C)
1.5	TOEIC IPテスト	
1.5	TOEIC IPテスト スコア返却とフィードバック	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語I	全学科	4年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 1	選択必修	15	30	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Paul McCann	一般教育科・非常勤講師	236	月曜 12:30-13:00	paul
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
GE-3		C-3	(f)	
授業概要	Based on Business English to provide students the skills which will help them gain a practical command of spoken English in order to communicate effectively in their future careers. We also wish to consolidate and reinforce listening and speaking skills from past years.			
到達目標	A. The students will create their own dictionaries and increase their vocabulary. B. The students' ability to listen to and understand native speakers will improve. C. The students will become more confident in using simple English in business situations.			
授業方法	Creating their own dictionaries. Oral practice. Listening for specific information. Some games and tasks for consolidation.			
教科書	Business Venture Beginner - Roger Bernard & Jeff Cady			
補助教材	English/Japanese dictionary, notebook and loose-leaf folder with at least 30 pages.			
評価方法	Grading will be based on class participation, tests, and how well they prepare the personal dictionaries. Marks are 1. 60% - end of term tests. 2. 20% - class participation 3. 20% - homework and personal dictionary			
関連科目	English in the previous grades.			
準備学習に関するアドバイス	Relax and enjoy the class. Try to practice a little but often. Practice makes perfect.			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
	Term 1	
4.5	Business Venture Beginner - Unit 1	<input type="checkbox"/> Introducing yourself(greetings / introductions)A-B-C
4.5	Business Venture Beginner - Unit 4	<input type="checkbox"/> Company information A-B-C <input type="checkbox"/> Countries, Nationalities, street address
1.5	1 and 4 Review A-B-C	1 and 4 review A-B-C
0.75	End of term 1 test	
	Term 2	
4.5	Business Venture Beginner - Unit 6	<input type="checkbox"/> In the office (things and life in the office) -A-B-C
4.5	Business Venture Beginner - Unit 8	<input type="checkbox"/> Appointments (times, days, dates, scheduling) - A-B-C
1.5	6 and 8 Review A-B-C	6 and 8 Review A-B-C
0.75	End of term 2 test	
	Term 3	
4.5	Business Venture Beginner - Unit 9	<input type="checkbox"/> Buying things (money, gifts) -A-B-C <input type="checkbox"/> Directions (on the phone, the city center) -A-B-C
4.5	Business Venture Beginner - Unit 10	<input type="checkbox"/> Reservations (flight, restaurant, hotel) - A-B-C <input type="checkbox"/> times - A-B-C
1.5	9 and 10 review A-B-C	9 and 10 Review - A-B-C
0.75	End of term 3 test	
	Term 4	
4.5	Business Venture Beginner - Unit 11	<input type="checkbox"/> Requests - (could you ...?) <input type="checkbox"/> Offers - (Should I...?)
4.5	Business Venture Beginner - Unit 12	<input type="checkbox"/> Socializing (coffee shop, restaurant,) <input type="checkbox"/> Invitations
1.5	11 and 12 Review - A-B-C	11 and 12 Review
0.75	End of term 4 test	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語Ⅱ	全学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 2	選択必修	講義	演習	実験・実習
30	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
石田 毅	一般教育科・教授	205	火曜日16:00-17:00	ishida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	平易な英語資料の読解を通じて必要な情報を拾い読む読み方を訓練しながら、都市国家シンガポールの社会=文化的知識を習得する。帰国後の後期前半では、研修旅行中の「気づき」をもとにビデオクリップ制作プロジェクトに取り組み、グループのメンバーと協働しながら英語でシンガポール事情を発信する体験をする。			
到達目標	A. 平易な英語で書かれた文書から、必要な情報を拾い読む読み方を実践できる。 B. シンガポールに関する基本的な知識を習得し、発信することができる。 C. シンガポール紹介のビデオクリップ制作課題を通じて、クラスメートと協働できる。			
授業方法	座学の区間での教室内活動は、①英文資料に基づくグループワーク、②課題に関する議論・解説、③学生からの質問事項への解説、④語彙・表現に関する復習テスト、とする。			
教科書	プリント教材を配布する。			
補助教材	なし			
評価方法	<p>□年間を、前期前半、前期後半、後期前半、後期後半の4区間に分け、それぞれで評価を行う。</p> <p>□学年末での総合成績は、各区間の評価点の単純平均とする。これは、各区間で要求される技能がほぼ同じで、扱う英語素材を変えながらスパイラル方式で向上させようとする授業目的による。</p> <p>□各区間の評価点は、以下の3項目の成果に基づいて算出する。</p> <p>①授業参加およびリフレクションシートの提出 … 20%</p> <p>②授業内で実施する語彙テストの平均得点 … 20%</p> <p>③定期試験の得点(教材から情報を拾い読む課題) … 60%</p> <p>□ビデオクリップ制作プロジェクトでは、①出席・参加度(20%)、②途中課題の提出状況(20%)、③提出作品のピア評価結果(60%)の結果を総合して評価する。</p>			
関連科目	1～3年次の英語			
準備学習に関するアドバイス	ある程度の基礎知識を持ってシンガポール研修旅行に臨み、さまざまな「気づき」を経験して欲しいという願いから開設された科目です。渡航前研修での知識習得は、異文化環境での「気づき」のセンサーを研ぎ澄まします。知らなければ見えないものがあることを知り、英語力と同様またはそれ以上に異文化への感受性を高めて欲しいと思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス シンガポールに関する予備知識調査(クイズ)	<input type="checkbox"/> 授業の概要、評価方法や授業運営の基本ルールを理解した <input type="checkbox"/> シンガポールの位置を地図上で指し示することができる
2.5	Reading #01 About Singapore	<input type="checkbox"/> シンガポールの位置を英語で説明することができる
3	Reading #02 Faces of Singapore	<input type="checkbox"/> 4つの時代区分ごとに主な出来事を大雑把に説明することができる
1.5	Reading #03 Getting Around Singapore	<input type="checkbox"/> シンガポールを構成する5つのエスニシティを挙げることができる
1	Reading #04 Local Dishes	<input type="checkbox"/> 代表的なシンガポールの料理を複数挙げるができる
0.75	定期試験①	理解の確認 プリント教材を参照しながら…
1.5	Reading #06 The Story of Sang Nila Uta	<input type="checkbox"/> シンガポールの名前の由来を簡単に説明できる
1.5	Reading #07 Founding of Singapore	<input type="checkbox"/> シンガポールが貿易港として開かれた経緯が簡単に説明できる
1.5	Reading #08 Farquhar's Contributions to	<input type="checkbox"/> ウィリアム・ファーカーの功績を1つ以上指摘することができる
1.5	Reading #09 Raffles' Contributions to	<input type="checkbox"/> トーマス・ラッフルズの功績を1つ以上指摘することができる
1.5	Reading #10 The Early Settlers and Thei	<input type="checkbox"/> 初期の移民はどこから来たのかを簡単に説明できる
1.5	Review Session	理解の確認
0.75	定期試験②	前期末試験の返却と解説、授業アンケートの実施
1.5	学習指導期間	
1	ビデオクリップ制作ガイダンス	<input type="checkbox"/> 平易な英語でシンガポールを紹介する取り組みに参画した
9.5	グループでの作業(構想→絵コンテ作成→ナ	<input type="checkbox"/> グループのメンバーと協働して作品を完成させた
0.75	定期試験③	ビデオ作品のピア・レビュー プリント教材を参照しながら…
1.5	Reading #11 Singapore Under British Ru	<input type="checkbox"/> シンガポールが独立するまでの大まかな流れを説明できる
1.5	Reading #12 Return to British Rule + S	<input type="checkbox"/> シンガポールが独立するまでの大まかな流れを説明できる
1.5	Reading #13 Contributions of Seingapor	<input type="checkbox"/> デイビット・マーシャルが何者かを簡単に説明できる
1.5	Reading #14 Gaining Independence from + Becoming a Fully Indepe	<input type="checkbox"/> シンガポールがなぜマレーシアから分離したかを簡単に説明できる
1.5	Reading #15 Lee Kuan Yew	<input type="checkbox"/> リー・クワン・ユーが何者かを簡単に説明できる
1.5	Reading #16 National Symbols and Singa	<input type="checkbox"/> シンガポールの国旗の意味を簡単に説明できる
0.75	定期試験④	理解の確認
1.5	学習指導期間	後期末試験の返却と解説、達成度アンケートの実施
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語Ⅲ	全学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 3	選択必修	講義	演習	実験・実習
		15	30	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
松尾 貴哲	一般教育科・講師	236	火曜日 16:30~	matsuot
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	当講義ではReadingに比重を置いた英語指導を行う。語彙や文法の理解は前提とした上で、スキミングやフレーズリーディング、パラグラフリーディングなど、英文を流暢に(fluently)読むためのコツを講じる。			
到達目標	<p>A. 修飾語句や主語、動詞などの文構造を理解することができる</p> <p>B. 流暢に読むためのTips(コツ)を理解し、実践することができる</p> <p>C. 英文エッセイの構造を理解することができる</p> <p>D. TOEICや進学などで必要とされる英語力の基盤を作ることができる</p>			
授業方法	一方的な訳読の講義形式を取らず、ペアワークやグループワークを通じた、アクティブな演習形式を基本とする。毎時、授業の最後で確認テストを行い、理解の定着を狙う。			
教科書	なし(毎時、ワークシートを配布する)			
補助教材	特に指定しない			
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とし、算出方法は以下の通りとする。</p> <p>① 定期試験(各4回) : 50%</p> <p>② 確認テスト : 30% 毎時実施される小クイズ。合計点数を30%換算する。欠席した場合は0点となる。再受験は不可とする。</p> <p>③ 課題 : 20% 必要に応じて課題提出を求め、20%換算で算出する。締切厳守を原則とするが、公欠などの理由があれば後日提出を認めることがある。</p>			
関連科目	1年~3年までの「英語」、4年次「英語演習」および1年~3年までの「国語」			
準備学習に関するアドバイス	辞書とメモ用ノート(ルーズリーフ可)を毎時、持参してください。「予習」に関し、こちらから指示を出しませんが、「復習」は徹底して行ってください。授業内で学んだことを自分のものにできるよう、その日のうちに振り返り、実践する必要があります。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【Term 1】 授業ガイダンス&実力クイズ	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認 <input type="checkbox"/> 現状の英文読解力を把握できる (D)
9	Unit1 ~ 3	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングを理解できる (A, B) <input type="checkbox"/> スキミング、スキヤニングが理解できる (B, D) <input type="checkbox"/> エッセイの内容を要約し、他者に説明できる (A, C, D)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験レビュー	
	【Term 2】	
7.5	Unit4 ~ 6	<input type="checkbox"/> エッセイの内容を予測(プレディクティング)できる (B, C) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容を大雑把に理解することができる (C, D) <input type="checkbox"/> エッセイの内容を要約し、他者に説明できる (A, C, D)
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間 : 前期末試験レビュー	
	【Term 3】	
1.5	後期授業ガイダンス&特別トレーニング	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認 <input type="checkbox"/> 現状の英文読解力、文法力を把握できる (A, D)
9	Unit7~9	<input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容を正確に理解することができる (A, B, D) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容を簡単に要約することができる (B, C, D) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容をリスニングで理解できる (D)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験レビュー	
	【Term 4】	
7.5	Unit10~Unit12	<input type="checkbox"/> 流暢な読解のためのコツを実践できる (A, B, C) <input type="checkbox"/> エッセイ全体の内容を正確に要約することができる (B, C, D) <input type="checkbox"/> エッセイ全体の内容を正確に他者に説明できる (B, C, D) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容をリスニングで理解できる (D)
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間 : 学年末試験レビュー	
合計	試験結果 : 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績 : 評価点 [] 点 評定 : <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語Ⅳ	全学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 4	選択必修	講義	演習	実験・実習
15	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
岸 洋一	一般教育科・非常勤講師	230	火曜日 16:30~	kishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	当講義ではWritingに比重を置いた英語指導を行う。短い英文→長い英文、フレーズ→センテンス、なぞり書き→視写→ディクテーション→日英・英作文、基本となる英文の一部を変える英借文、基本となる英文と同じ構造で自由作文、KATARUTAを用いた応用も行う。易→難へと、毎回、毎区間、ステップアップしていく。			
到達目標	A. 基本文200+αを、決められた回数音読筆写ノート記入を達成できる B. E-mailやReviewなど、英文のなぞり書き→視写など、決められた回数の筆写を達成できる。 C. 自由英作文、また、接続語句を決められた条件下での作文ができるようになる。			
授業方法	受講者のレベル、特徴、などに合わせ、個人・ペア・グループワークを柔軟に取り入れた形で進める。課題の提出は必須。また、授業時間内に行うWritingレクも必ず終わらせてから退室する。提出する課題(英文)については、全て「音読」できることが求められるので、各自練習が必要である。			
教科書	English Trainer Vol. 51 (MBA出版)			
補助教材	特に指定しない			
評価方法	総合評価は各区間の単純平均とし、算出方法は以下の通りとする。 ① 定期試験(各4回): 50% ② 確認テスト: 30% 毎時実施される基本英作文テスト。合計点数を30%換算する。欠席した場合は0点となる。 再受験は不可とする。 ③ 課題: 20% 音読筆写ノートの課題提出を求め、20%換算で算出する。 締切厳守を原則とするが、公欠などの理由があれば後日提出を認めることがある。			
関連科目	1年~3年までの「英語」、4年次「英語演習」および1年~3年までの「国語」			
準備学習に関するアドバイス	音読筆写用ノート(ルーズリーフ不可)を毎時、持参・提示してください。講師が確認印を押します。押していないものは無効です。提出を求めるときもあります。与えられた範囲の英文(難しいものは原則として出しません)は、日本語を見たら、すぐに英語で書けるようにして来てください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【Term 1】 授業ガイダンス&音読筆写ノート手順説明など	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認 <input type="checkbox"/> タスクと学習内容を把握する
9	Unit1 ~ 6	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験レビュー	
7.5	【Term 2】 Unit7 ~ 11	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間: 前期末試験レビュー	
1.5	【Term 3】 後期授業ガイダンス&特別トレーニング	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認(前期との違い) <input type="checkbox"/> タスクと学習内容を把握する
9	Unit12~17	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験レビュー	
7.5	【Term 4】 Unit18~Unit22	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間: 学年末試験レビュー	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語V	全学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 5	選択必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大槻 知世	一般教育科・非常勤講師	230 (非常勤講師室)	火曜: 12:20-13:00	t-ootsuki
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	品詞、語順といった英文法の基本を概観し、時制、助動詞、受身などの各単元を学習する。			
到達目標	<p>A. 日本語と異なる英語の語順で英文を理解する、または書くことができる。</p> <p>B. 動詞や形容詞、副詞といった品詞が文中で果たす機能を理解できる。</p> <p>C. 英語の観点から、時制や助動詞などの概念を理解できる。</p> <p>D. TOEICや進学のために必要となる、今後の英語学習の基盤を作ることができる。</p>			
授業方法	講義形式で文法を解説した後、単元理解のための演習問題に取り組む。翌授業時に復習のための小テストを行い、理解の定着を図る。			
教科書	Murphy, Raymond. 2010. Basic Grammar in Use Student's Book. Cambridge University Press.			
補助教材	『総合英語 Forest 7th edition』桐原書店。			
評価方法	<p>〈成績評価の根拠となる項目とその割合〉</p> <p>クラス内レビュークイズ 30%</p> <p>課題 10%</p> <p>各定期試験 60%</p> <p>〈評点算出の方法〉</p> <p>通年科目であるため、全4区間で上記の評価項目に基づいて評点を算出する。総合成績は各区間評定の平均値で算出する。原則として追試験は行わない。</p>			
関連科目	1-3年の英語、国語			
準備学習に関するアドバイス	講義をよく聞いて理解し、復習を徹底して小テストに臨みましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 授業ガイダンス、実力クイズ	<input type="checkbox"/> 授業の内容を概観できた。 <input type="checkbox"/> 実力クイズによって自身の弱みに気付いた。
3	英文法基礎	<input type="checkbox"/> 英文の要素と修飾語句の違い、関係を理解できた(B) <input type="checkbox"/> 「語」「句」「節」の内容を理解できた(B)
4.5	単文構造 動詞句: 時制	<input type="checkbox"/> 過去、現在、未来の基本時制の概念を理解できた(C) <input type="checkbox"/> 基本時制を用いて正しい英文が書けた(A, D) <input type="checkbox"/> 進行形、完了形の概念を理解し、正しい英文が書けた(A, D)
0.75	前期中間試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
3	【前期末】 単文構造 動詞句: 助動詞	<input type="checkbox"/> 助動詞の意味と用法を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 助動詞の実際の文脈での使用法を学び、英文に出来た(A, D)
1.5	単文構造 動詞句: 受身	<input type="checkbox"/> 動詞の過去分詞を理解し、英語で書くことができた(A, B, D) <input type="checkbox"/> 受け身構文の構造を理解し、正しい英文が書けた(A, D)
3	単文構造 名詞句: 動名詞と不定詞	<input type="checkbox"/> 動名詞と不定詞の意味と用法を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 動名詞、不定詞を用いて正しい英文が書けた(A)
1.5	単文構造 名詞句: 指示詞と代名詞	<input type="checkbox"/> 可算名詞と不可算名詞の違いを理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> someとany, bothとeitherなどの違いを理解できた(B, C)
0.75	前期末試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
3	【後期中間】 単文構造 修飾語句: 分詞	<input type="checkbox"/> 現在分詞と過去分詞の意味と用法を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 分詞を用いて正しい英文が書けた(A)
1.5	単文構造 修飾語句: 前置詞	<input type="checkbox"/> 場所や時間等の前置詞の用法を理解し正しい英文が書けた(A-D)
4.5	複文構造 接続詞と仮定法	<input type="checkbox"/> 接続詞の意味と用法を理解し、正しい英文が書けた(A-D) <input type="checkbox"/> 仮定法の概念を理解し、正しい英文が書けた(A, C, D)
0.75	後期中間試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
2.25	【学年末】 複文構造: 関係代名詞	<input type="checkbox"/> 関係詞を用いた文のつなぎ方を理解できた(B, C)
2.25	複文構造: 関係副詞	<input type="checkbox"/> 関係代名詞と関係副詞の違いを理解し、英文に出来た(A, D)
4.5	複文構造: 比較	<input type="checkbox"/> 同等比較、比較級、最上級といった基本事項を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 比較表現を用いた正しい英文が書けた(A, D)
0.75	学年末試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語VI	全学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 6	選択必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Michelle Sopala	一般教育科・非常勤講師	236	火曜: 12:30~13:00	m-sopala
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	与えられたトピックに対して自分の意見を英語で書き、それを発表する訓練を行なう。1文から始め、構造を持った文章が書けるように実践を重ねる。			
到達目標	A-自分の考えを英語式の論理構造でわかりやすく整理し ・ B-他者に伝えることが出来る			
授業方法	表現や発音の仕方、伝え方を学び、実践を繰り返す。			
教科書	Speech Navigator 1,2,3 (mpi) / From reading to writing (Longman) / Reading and writing (Longman)			
補助教材	Loose-leaf notebook to keep prints and paper to take notes.			
評価方法	1区間: 定期試験(70%) + 課題(30%) 総合評価は単純平均方式で算出する。			
関連科目	English Courses of the previous years.			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	【Term 1】	
1.5	授業ガイダンス	
1.5	Introduction	About myself / school A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 1)	Family and friends A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 1)	Family and friends A-B
1.5	Unit 2 (Navigator 1)	School Subjects / Money A-B
1.5	Unit 2.3 (Navigator 1)	Club Activities A-B
1.5	Unit 3 (Navigator 1)	Next year A-B
0.75	定期試験	
	【Term 2】	
1.5	Unit 7 (Navigator 1)	One day last week (past) A-B
1.5	Unit 7.8 (Navigator 1)	Activities of the day A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 1)	Next Year (future) Resolution for next year A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 2)	The place I live A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 2)	Aspects and particularities A-B
1.5	Unit 2 (Navigator 2)	People around me A-B
1.5	Unit 2 (Navigator 2)	Family or friends characteristics A-B
0.75	定期試験	
	【Term 3】	
1.5	Unit 7 (Navigator 2)	Traveling A-B
1.5	Unit 7 (Navigator 2)	Places particular characteristics A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 2)	Jobs A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 2)	Speak foreign languages A-B
1.5	Unit 4 (Navigator 3)	The Bullet Train
1.5	Unit 4 (Navigator 3)	Japanese Shinkansen A-B
1.5	Unit 4 (Navigator 3)	How Shinkansen compete with other Bullet Trains? A-B
0.75	定期試験	
	【Term 4】	
1.5	Unit 8 (Navigator 3)	About Tokyo A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 3)	History A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 3)	Festivals, sightseeing, architecture A-B
1.5	Personal Speech	Personal Speech
1.5	Personal Speech	Personal Speech
1.5	Personal Speech	Personal Speech
1.5	Personal Speech	Personal Speech
0.75	定期試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
鎌田 俊司	一般教育科・教授	体育教員室	金曜：13:00~16:00	kamata
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜：9:30~13:00	n-murase
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. スポーツの種目毎における楽しさを理解しよとすることができる。</p> <p>B. 相互に協力し合いながらより高い技能を発揮できるよう努力することができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 勝敗に対し公正な態度を持って望むことができる。</p> <p>E. 生涯にわたってスポーツに親しむために必要な事柄を理解することができる。</p>			
授業方法	4年次までに履修した種目を授業毎に1~2種目選択し実施する。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%)で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%)で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%)で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育(1~4年次履修の全種目) ※武道は除く			
準備学習に関するアドバイス	天候もしくは他クラスの体育施設の利用状況等により、必ずしも上記の順番で授業を進行していくとは限らないので、毎回必ず授業前に実施場所を確認のこと。また、怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (C)
3	バレーボール	<input type="checkbox"/> 1年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
2.25	卓球	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	バドミントン	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ドッジボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	ソフトボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	サッカー	<input type="checkbox"/> 2年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	インディアカ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトバレーボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	バスケットボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ユニホック	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトラクロス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	グラウンドゴルフ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	テニス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	キックベース	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	新体力テスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (A) (D)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	電気工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
鎌田 俊司	一般教育科・教授	体育教員室	金曜：13:00~16:00	kamata
高野 修	一般教育科・准教授	体育教員室	火曜：15:00~16:30	takano
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. スポーツの種目毎における楽しさを理解しよとすることができる。</p> <p>B. 相互に協力し合いながらより高い技能を発揮できるよう努力することができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 勝敗に対し公正な態度を持って望むことができる。</p> <p>E. 生涯にわたってスポーツに親しむために必要な事柄を理解することができる。</p>			
授業方法	4年次までに履修した種目を授業毎に1~2種目選択し実施する。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%)で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%)で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%)で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育(1~4年次履修の全種目) ※武道は除く			
準備学習に関するアドバイス	天候もしくは他クラスの体育施設の利用状況等により、必ずしも上記の順番で授業を進行していくとは限らないので、毎回必ず授業前に実施場所を確認のこと。また、怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (C)
3	バレーボール	<input type="checkbox"/> 1年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
2.25	卓球	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	バドミントン	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ドッジボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	ソフトボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	サッカー	<input type="checkbox"/> 2年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	インディアカ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトバレーボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	バスケットボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ユニホック	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトラクロス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	グラウンドゴルフ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	テニス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	キックベース	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	新体カテスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (A) (D)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
高野 修	一般教育科・准教授	体育教員室	火曜：15:00~16:30	takano
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜：9:30~13:00	n-murase
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. スポーツの種目毎における楽しさを理解しよとすることができる。</p> <p>B. 相互に協力し合いながらより高い技能を発揮できるよう努力することができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 勝敗に対し公正な態度を持って望むことができる。</p> <p>E. 生涯にわたってスポーツに親しむために必要な事柄を理解することができる。</p>			
授業方法	4年次までに履修した種目を授業毎に1~2種目選択し実施する。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育(1~4年次履修の全種目) ※武道は除く			
準備学習に関するアドバイス	天候もしくは他クラスの体育施設の利用状況等により、必ずしも上記の順番で授業を進行していくとは限らないので、毎回必ず授業前に実施場所を確認のこと。また、怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (C)
3	バレーボール	<input type="checkbox"/> 1年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
2.25	卓球	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	バドミントン	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ドッジボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	ソフトボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	サッカー	<input type="checkbox"/> 2年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	インディアカ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトバレーボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	バスケットボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ユニホック	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトラクロス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	グラウンドゴルフ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	テニス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	キックベース	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	新体カテスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (A) (D)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
体育実技	情報工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physical Education	必修	講義	演習	実験・実習
45				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
高野 修	一般教育科・准教授	体育教員室	火曜：15:00~16:30	takano
村瀬 直樹	一般教育科・講師	体育教員室	金曜：9:30~13:00	n-murase
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-2 GE-3		A-1		(i)
授業概要	生涯体育を意識し、健康の保持増進と人間性・社会性を養うとともに、基本的な身体能力と調整能力の向上および基礎的知識の理解力を身につける。			
到達目標	<p>A. スポーツの種目毎における楽しさを理解しよとすることができる。</p> <p>B. 相互に協力し合いながらより高い技能を発揮できるよう努力することができる。</p> <p>C. 自身の体力づくりのために積極的に運動に取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>D. 勝敗に対し公正な態度を持って望むことができる。</p> <p>E. 生涯にわたってスポーツに親しむために必要な事柄を理解することができる。</p>			
授業方法	4年次までに履修した種目を授業毎に1~2種目選択し実施する。			
教科書	なし			
補助教材	「アクティブ スポーツ 2017」 (大修館書店)			
評価方法	<p>【前期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(50%) で算出する。 授業意欲点は欠課があった際に1コマにつき3点減点する。 体育実技素点は実技試験(60%) + 授業態度点(40%) で算出。</p> <p>【後期】 授業意欲点(50%) + 体育実技素点(25%) + マラソン(25%) で算出したものを前期末の成績と平均化して算出する。 授業意欲点及び体育実技素点の扱いについては前期と同様。 マラソンについては周回数に応じて素点を算出。 ただし本大会の成績が良好だった者には加点を行う。</p>			
関連科目	保健体育・体育(1~4年次履修の全種目) ※武道は除く			
準備学習に関するアドバイス	天候もしくは他クラスの体育施設の利用状況等により、必ずしも上記の順番で授業を進行していくとは限らないので、毎回必ず授業前に実施場所を確認のこと。また、怪我・病気等で長期にわたる見学及び実技試験受験不可となった場合には医師の診断書を提出の上、指示を受けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価法・体育施設利用方法説明・グループ分け (C)
3	バレーボール	<input type="checkbox"/> 1年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
2.25	卓球	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	バドミントン	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ドッジボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	ソフトボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	サッカー	<input type="checkbox"/> 2年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	インディアカ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトバレーボール	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
4.5	バスケットボール	<input type="checkbox"/> 3年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ユニホック	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	ソフトラクロス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	グラウンドゴルフ	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	テニス	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
1.5	キックベース	<input type="checkbox"/> 4年次の復習・応用技術・リーグ戦方式によるゲーム (A) (B) (D) (E)
3	新体カテスト	<input type="checkbox"/> 各項目において体力測定を実施 (C)
1.5	校内競技大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 各自出場する種目に関しクラス内で練習を行う (A) (D)
3	校内マラソン大会へ向けた練習	<input type="checkbox"/> 定められた距離を走破する (C)
3	校内マラソン大会	<input type="checkbox"/> 男子13km・女子9kmのコースを規定時間内に走破する (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語I	全学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 1	選択必修	講義	演習	実験・実習
15	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Paul McCann	一般教育科・非常勤講師	236	月曜 12:30-13:00	paul
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	Based on Business English to provide students the skills which will help them gain a practical command of spoken English in order to communicate effectively in their future careers. We also wish to consolidate and reinforce listening and speaking skills from past years.			
到達目標	A. The students will create their own dictionaries and increase their vocabulary. B. The students' ability to listen to and understand native speakers will improve. C. The students will become more confident in using simple English in business situations.			
授業方法	Creating their own dictionaries. Oral practice. Listening for specific information. Some games and tasks for consolidation.			
教科書	Business Venture Beginner - Roger Bernard & Jeff Cady			
補助教材	English/Japanese dictionary, notebook and loose-leaf folder with at least 30 pages.			
評価方法	Grading will be based on class participation, tests, and how well they prepare the personal dictionaries. Marks are 1. 60% - end of term tests. 2. 20% - class participation 3. 20% - homework and personal dictionary			
関連科目	English in the previous grades.			
準備学習に関するアドバイス	Relax and enjoy the class. Try to practice a little but often. Practice makes perfect.			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
Term 1		
4.5	Business Venture Beginner - Unit 1	<input type="checkbox"/> Introducing yourself(greetings / introductions)A-B-C
4.5	Business Venture Beginner - Unit 4	<input type="checkbox"/> Company information A-B-C <input type="checkbox"/> Countries, Nationalities, street address
1.5	1 and 4 Review A-B-C	1 and 4 review A-B-C
0.75	End of term 1 test	
Term 2		
4.5	Business Venture Beginner - Unit 6	<input type="checkbox"/> In the office (things and life in the office) -A-B-C
4.5	Business Venture Beginner - Unit 8	<input type="checkbox"/> Appointments (times, days, dates, scheduling) - A-B-C
1.5	6 and 8 Review A-B-C	6 and 8 Review A-B-C
0.75	End of term 2 test	
Term 3		
4.5	Business Venture Beginner - Unit 9	<input type="checkbox"/> Buying things (money, gifts) -A-B-C <input type="checkbox"/> Directions (on the phone, the city center) -A-B-C
4.5	Business Venture Beginner - Unit 10	<input type="checkbox"/> Reservations (flight, restaurant, hotel) - A-B-C <input type="checkbox"/> times - A-B-C
1.5	9 and 10 review A-B-C	9 and 10 Review - A-B-C
0.75	End of term 3 test	
Term 4		
4.5	Business Venture Beginner - Unit 11	<input type="checkbox"/> Requests - (could you ...?) <input type="checkbox"/> Offers - (Should I...?)
4.5	Business Venture Beginner - Unit 12	<input type="checkbox"/> Socializing (coffee shop, restaurant,) <input type="checkbox"/> Invitations
1.5	11 and 12 Review - A-B-C	11 and 12 Review
0.75	End of term 4 test	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語Ⅲ	全学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 3	選択必修	講義	演習	実験・実習
		15	30	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
松尾 貴哲	一般教育科・講師	236	火曜日 16:30~	matsuot
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	当講義ではReadingに比重を置いた英語指導を行う。語彙や文法の理解は前提とした上で、スキミングやフレーズリーディング、パラグラフリーディングなど、英文を流暢に(fluently)読むためのコツを講じる。			
到達目標	<p>A. 修飾語句や主語、動詞などの文構造を理解することができる</p> <p>B. 流暢に読むためのTips(コツ)を理解し、実践することができる</p> <p>C. 英文エッセイの構造を理解することができる</p> <p>D. TOEICや進学などで必要とされる英語力の基盤を作ることができる</p>			
授業方法	一方的な訳読の講義形式を取らず、ペアワークやグループワークを通じた、アクティブな演習形式を基本とする。毎時、授業の最後で確認テストを行い、理解の定着を狙う。			
教科書	なし(毎時、ワークシートを配布する)			
補助教材	特に指定しない			
評価方法	<p>総合評価は各区間の単純平均とし、算出方法は以下の通りとする。</p> <p>① 定期試験(各4回) : 50%</p> <p>② 確認テスト : 30% 毎時実施される小クイズ。合計点数を30%換算する。欠席した場合は0点となる。再受験は不可とする。</p> <p>③ 課題 : 20% 必要に応じて課題提出を求め、20%換算で算出する。締切厳守を原則とするが、公欠などの理由があれば後日提出を認めることがある。</p>			
関連科目	1年~3年までの「英語」、4年次「英語演習」および1年~3年までの「国語」			
準備学習に関するアドバイス	辞書とメモ用ノート(ルーズリーフ可)を毎時、持参してください。「予習」に関し、こちらから指示を出しませんが、「復習」は徹底して行ってください。授業内で学んだことを自分のものにできるよう、その日のうちに振り返り、実践することが必要です。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【Term 1】 授業ガイダンス&実カクイズ	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認 <input type="checkbox"/> 現状の英文読解力を把握できる (D)
9	Unit1 ~ 3	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングを理解できる (A, B) <input type="checkbox"/> スキミング、スキヤニングが理解できる (B, D) <input type="checkbox"/> エッセイの内容を要約し、他者に説明できる (A, C, D)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験レビュー	
	【Term 2】	
7.5	Unit4 ~ 6	<input type="checkbox"/> エッセイの内容を予測(プレディクティング)できる (B, C) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容を大雑把に理解することができる (C, D) <input type="checkbox"/> エッセイの内容を要約し、他者に説明できる (A, C, D)
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間 : 前期末試験レビュー	
	【Term 3】	
1.5	後期授業ガイダンス&特別トレーニング	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認 <input type="checkbox"/> 現状の英文読解力、文法力を把握できる (A, D)
9	Unit7~9	<input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容を正確に理解することができる (A, B, D) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容を簡単に要約することができる (B, C, D) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容をリスニングで理解できる (D)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験レビュー	
	【Term 4】	
7.5	Unit10~Unit12	<input type="checkbox"/> 流暢な読解のためのコツを実践できる (A, B, C) <input type="checkbox"/> エッセイ全体の内容を正確に要約することができる (B, C, D) <input type="checkbox"/> エッセイ全体の内容を正確に他者に説明できる (B, C, D) <input type="checkbox"/> 各パラグラフの内容をリスニングで理解できる (D)
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間 : 学年末試験レビュー	
合計	試験結果 : 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績 : 評価点 [] 点 評定 : <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語Ⅳ	全学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 4	選択必修	講義	演習	実験・実習
15	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
岸 洋一	一般教育科・非常勤講師	230	火曜日 16:30~	kishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	当講義ではWritingに比重を置いた英語指導を行う。短い英文→長い英文、フレーズ→センテンス、なぞり書き→視写→ディクテーション→日英・英作文、基本となる英文の一部を変える英借文、基本となる英文と同じ構造で自由作文、KATARUTAを用いた応用も行う。易→難へと、毎回、毎区間、ステップアップしていく。			
到達目標	A. 基本文200+αを、決められた回数音読筆写ノート記入を達成できる B. E-mailやReviewなど、英文のなぞり書き→視写など、決められた回数の筆写を達成できる。 C. 自由英作文、また、接続語句を決められた条件下での作文ができるようになる。			
授業方法	受講者のレベル、特徴、などに合わせ、個人・ペア・グループワークを柔軟に取り入れた形で進める。課題の提出は必須。また、授業時間内に行うWritingレクも必ず終わらせてから退室する。提出する課題(英文)については、全て「音読」できることが求められるので、各自練習が必要である。			
教科書	English Trainer Vol. 51 (MBA出版)			
補助教材	特に指定しない			
評価方法	総合評価は各区間の単純平均とし、算出方法は以下の通りとする。 ① 定期試験(各4回): 50% ② 確認テスト: 30% 毎時実施される基本英作文テスト。合計点数を30%換算する。欠席した場合は0点となる。 再受験は不可とする。 ③ 課題: 20% 音読筆写ノートの課題提出を求め、20%換算で算出する。 締切厳守を原則とするが、公欠などの理由があれば後日提出を認めることがある。			
関連科目	1年~3年までの「英語」、4年次「英語演習」および1年~3年までの「国語」			
準備学習に関するアドバイス	音読筆写用ノート(ルーズリーフ不可)を毎時、持参・提示してください。講師が確認印を押します。押していないものは無効です。提出を求めるときもあります。与えられた範囲の英文(難しいものは原則として出しません)は、日本語を見たら、すぐに英語で書けるようにして来てください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【Term 1】 授業ガイダンス&音読筆写ノート手順説明など	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認 <input type="checkbox"/> タスクと学習内容を把握する
9	Unit1 ~ 6	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	前期中間試験	
1.5	前期中間試験レビュー	
7.5	【Term 2】 Unit7 ~ 11	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間: 前期末試験レビュー	
1.5	【Term 3】 後期授業ガイダンス&特別トレーニング	<input type="checkbox"/> シラバスの説明、学習達成目標の確認(前期との違い) <input type="checkbox"/> タスクと学習内容を把握する
9	Unit12~17	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	後期中間試験	
1.5	後期中間試験レビュー	
7.5	【Term 4】 Unit18~Unit22	<input type="checkbox"/> 音読筆写ノート課題を提示する(A) <input type="checkbox"/> 小テストを受験し、現在地をつかむ(A) <input type="checkbox"/> 講師のしているなぞり書きや模写、Dictationを実践する(B) <input type="checkbox"/> 英借文、自由英作文にチャレンジし、英文を完成する(C)
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間: 学年末試験レビュー	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語V	全学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 5	選択必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大槻 知世	一般教育科・非常勤講師	230 (非常勤講師室)	火曜: 12:20-13:00	t-ootsuki
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		C-3		(f)
授業概要	品詞、語順といった英文法の基本を概観し、時制、助動詞、受身などの各単元を学習する。			
到達目標	<p>A. 日本語と異なる英語の語順で英文を理解する、または書くことができる。</p> <p>B. 動詞や形容詞、副詞といった品詞が文中で果たす機能を理解できる。</p> <p>C. 英語の観点から、時制や助動詞などの概念を理解できる。</p> <p>D. TOEICや進学のために必要となる、今後の英語学習の基盤を作ることができる。</p>			
授業方法	講義形式で文法を解説した後、単元理解のための演習問題に取り組む。翌授業時に復習のための小テストを行い、理解の定着を図る。			
教科書	Murphy, Raymond. 2010. Basic Grammar in Use Student's Book. Cambridge University Press.			
補助教材	『総合英語 Forest 7th edition』桐原書店。			
評価方法	<p>〈成績評価の根拠となる項目とその割合〉</p> <p>クラス内レビュークイズ 30%</p> <p>課題 10%</p> <p>各定期試験 60%</p> <p>〈評点算出の方法〉</p> <p>通年科目であるため、全4区間で上記の評価項目に基づいて評点を算出する。総合成績は各区間評定の平均値で算出する。原則として追試験は行わない。</p>			
関連科目	1-4年の英語、国語			
準備学習に関するアドバイス	講義をよく聞いて理解し、復習を徹底して小テストに臨みましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	【前期中間】 授業ガイダンス、実力クイズ	<input type="checkbox"/> 授業の内容を概観できた。 <input type="checkbox"/> 実力クイズによって自身の弱みに気付いた。
3	英文法基礎	<input type="checkbox"/> 英文の要素と修飾語句の違い、関係を理解できた(B) <input type="checkbox"/> 「語」「句」「節」の内容を理解できた(B)
4.5	単文構造 動詞句: 時制	<input type="checkbox"/> 過去、現在、未来の基本時制の概念を理解できた(C) <input type="checkbox"/> 基本時制を用いて正しい英文が書けた(A, D) <input type="checkbox"/> 進行形、完了形の概念を理解し、正しい英文が書けた(A, D)
0.75	前期中間試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
3	【前期末】 単文構造 動詞句: 助動詞	<input type="checkbox"/> 助動詞の意味と用法を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 助動詞の実際の文脈での使用法を学び、英文に出来た(A, D)
1.5	単文構造 動詞句: 受身	<input type="checkbox"/> 動詞の過去分詞を理解し、英語で書くことができた(A, B, D) <input type="checkbox"/> 受け身構文の構造を理解し、正しい英文が書けた(A, D)
3	単文構造 名詞句: 動名詞と不定詞	<input type="checkbox"/> 動名詞と不定詞の意味と用法を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 動名詞、不定詞を用いて正しい英文が書けた(A)
1.5	単文構造 名詞句: 指示詞と代名詞	<input type="checkbox"/> 可算名詞と不可算名詞の違いを理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> someとany, bothとeitherなどの違いを理解できた(B, C)
0.75	前期末試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
3	【後期中間】 単文構造 修飾語句: 分詞	<input type="checkbox"/> 現在分詞と過去分詞の意味と用法を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 分詞を用いて正しい英文が書けた(A)
1.5	単文構造 修飾語句: 前置詞	<input type="checkbox"/> 場所や時間等の前置詞の用法を理解し正しい英文が書けた(A-D)
4.5	複文構造 接続詞と仮定法	<input type="checkbox"/> 接続詞の意味と用法を理解し、正しい英文が書けた(A-D) <input type="checkbox"/> 仮定法の概念を理解し、正しい英文が書けた(A, C, D)
0.75	後期中間試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
2.25	【学年末】 複文構造: 関係代名詞	<input type="checkbox"/> 関係詞を用いた文のつなぎ方を理解できた(B, C)
2.25	複文構造: 関係副詞	<input type="checkbox"/> 関係代名詞と関係副詞の違いを理解し、英文に出来た(A, D)
4.5	複文構造: 比較	<input type="checkbox"/> 同等比較、比較級、最上級といった基本事項を理解できた(B, C) <input type="checkbox"/> 比較表現を用いた正しい英文が書けた(A, D)
0.75	学年末試験	
1.5	試験答案返却、試験解説	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
選択英語VI	全学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 6	選択必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Michelle Sopala	一般教育科・非常勤講師	236	火曜: 12:30~13:00	m-sopala
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2)との対応	
GE-3		C-3	(f)	
授業概要	与えられたトピックに対して自分の意見を英語で書き、それを発表する訓練を行なう。1文から始め、構造を持った文章が書けるように実践を重ねる。			
到達目標	A-自分の考えを英語式の論理構造でわかりやすく整理し ・ B-他者に伝えることが出来る			
授業方法	表現や発音の仕方、伝え方を学び、実践を繰り返す。			
教科書	Speech Navigator 1,2,3 (mpi) / From reading to writing (Longman) / Reading and writing (Longman)			
補助教材	Loose-leaf notebook to keep prints and paper to take notes.			
評価方法	1区間: 定期試験 (70%) + 課題 (30%) 総合評価は単純平均方式で算出する。			
関連科目	English Courses of the previous years.			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
	【Term 1】	
1.5	授業ガイダンス	
1.5	Introduction	About myself / school A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 1)	Family and friends A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 1)	Family and friends A-B
1.5	Unit 2 (Navigator 1)	School Subjects / Money A-B
1.5	Unit 2.3 (Navigator 1)	Club Activities A-B
1.5	Unit 3 (Navigator 1)	Next year A-B
0.75	定期試験	
	【Term 2】	
1.5	Unit 7 (Navigator 1)	One day last week (past) A-B
1.5	Unit 7.8 (Navigator 1)	Activities of the day A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 1)	Next Year (future) Resolution for next year A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 2)	The place I live A-B
1.5	Unit 1 (Navigator 2)	Aspects and particularities A-B
1.5	Unit 2 (Navigator 2)	People around me A-B
1.5	Unit 2 (Navigator 2)	Family or friends characteristics A-B
0.75	定期試験	
	【Term 3】	
1.5	Unit 7 (Navigator 2)	Traveling A-B
1.5	Unit 7 (Navigator 2)	Places particular characteristics A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 2)	Jobs A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 2)	Speak foreign languages A-B
1.5	Unit 4 (Navigator 3)	The Bullet Train
1.5	Unit 4 (Navigator 3)	Japanese Shinkansen A-B
1.5	Unit 4 (Navigator 3)	How Shinkansen compete with other Bullet Trains? A-B
0.75	定期試験	
	【Term 4】	
1.5	Unit 8 (Navigator 3)	About Tokyo A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 3)	History A-B
1.5	Unit 8 (Navigator 3)	Festivals, sightseeing, architecture A-B
1.5	Personal Speech	Personal Speech
1.5	Personal Speech	Personal Speech
1.5	Personal Speech	Personal Speech
1.5	Personal Speech	Personal Speech
0.75	定期試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

Ⅱ.デザイン学科 必修専門科目

デザイン学科の学習・教育目標

AD-1	造形表現に必要な知識、技能を身につける事ができる。
AD-2	デザイン提案に必要なコンセプト構築力、設計能力を身につける事ができる。
AD-3	産学共同研究および卒業研究などにおいて、総合的な視点から問題をとらえ、適切な目標設定に応じた創造的かつリアリティーある提案ができる
AD-4	話し言葉、文章、図表などで効果的なコミュニケーションができる。
AD-5	デザインが社会や環境に及ぼす影響について理解し、常に使い手の立場に立ったものづくりをすることができる。
AD-6	生活文化の固有性や多様な価値観を理解した上で、デザイン活動に活かすことができる。

JABEE基準1

(a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力
(d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 (1)専門工学(融合・複合領域)の知識と能力 (2)実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (3)創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力 (4)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
(e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g)	自主的、継続的に学習する能力
(h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i)	チームで仕事をするための能力

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

	健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者
(A-1)	健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
(A-2)	過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
(A-3)	近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
(A-4)	我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
(A-5)	自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる

	自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者
(B-1)	数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
(B-2)	自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
(B-3)	異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
(B-4)	実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる

	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者
(C-1)	国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
(C-2)	コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる
(C-3)	国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる

	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者
(D-1)	自律的に新たなことにチャレンジする心(プロダクトマインド)を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
(D-2)	問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
(D-3)	実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
平面基礎デザイン演習 I	AD: デザイン学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
2-Dimensional Basic Design 1	必修	講義	演習	実験・実習
		0	45	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420	水曜日以外	y-sakamoto
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	観察・考察・描写の演習をとおして、具象から抽象へと表現の幅が広がることを目的とする。 加えて、立体的な描写の基本的仕組みについても学ぶ			
到達目標	A. 既成概念にとらわれず対象物を観察し、徹底した描写を行うことができる B. 抽象的な表現について理解と実施ができる C. 他者に対して作品の説明ができる D. 立体的な描写のための基本的な仕組みを利用した表現が出来る			
授業方法	学習、観察、考察、計画、表現、プレゼンテーション			
教科書	特になし。適宜 必要に応じてプリントを配布予定。			
補助教材	クロッキーブック 鉛筆 色鉛筆 サインペン黒 消しゴム 三角定規 直定規 テンプレート コンパス カッター カッター替え刃 カッティングマット			
評価方法	年間2回(前期末、後期末)の評価。 課題評価100%として各区間を評価する。 課題提出の遅れは原則として認めない。 やむを得ない場合は評価比率を変更する。 未提出課題は0点として扱う。 成績表評価としての総合評価は、区間評価の単純平均とする。 必要に応じて、追加補講・理解度評価テスト(課題として扱う)などを行う。			
関連科目	平面基礎デザイン演習II、平面基礎デザイン演習IV			
準備学習に関するアドバイス	日々目にする抽象表現をよく観察し、その意味と表現方法について考察すること。 また、人間の目をレンズという機能で捉えたときに、周囲がどの様に見えるのかを意識的に観察するしておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	導入授業	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や授業への取り組み方などのガイダンスと予備的演習 □取り組むべき事柄、態度の理解
14.5	演習課題 具象表現から抽象表現へ 課題は複数行う予定だが、学生全体の進行度合いによって量と内容を調整する	<ul style="list-style-type: none"> ・表現対象の観察と描写(A~C) □徹底的に対象物を観察できる □徹底的に対象物を描写できる □対象を抽象化できる □作品を適切に丁寧に仕上げる事ができる □道具の使い方を習得する
20	演習課題 抽象表現 課題は複数行う予定だが、学生全体の進行度合いによって量と内容を調整する	<ul style="list-style-type: none"> ・表現対象の観察と描写(A~C) □意味と形との結びつきを提案できる □課題に対して複数のアイデア展開ができる □グループ内でディスカッションが出来る □グループで協力して作品を作る □人前で作品の説明が的確に出来る □質問に的確に答える事が出来る
8	演習課題 立体的な描写演習 課題は複数行う予定だが、学生全体の進行度合いによって量と内容を調整する	<ul style="list-style-type: none"> ・立体表現のための基礎的な仕組みを学ぶ(D) □レンズとしての目の機能を理解する □他者と共有できる立体表現の方法を学ぶ
2	科目別補講	見学会実施
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
平面基礎デザイン演習Ⅱ	AD: デザイン学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
2-Dimensional Basic Design 2	必修	講義	演習	実験・実習
10	35	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
相田 智之	デザイン学科・非常勤講師	420	木AM	t-aida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
授業概要	これから学んでいくデザインの基礎となる形態や質感を観察し、平面に表現する技術を実習形式で学ぶ ※クラス2分割によるローテーション形式授業			
到達目標	A. 鉛筆デッサンに必要な道具を使う事ができる B. モチーフの形態や明暗、質感を捉える観察力を身につけることができる C. 鉛筆デッサンの基礎的な表現方法を習得できる			
授業方法	さまざまなモチーフを、しっかりと時間をかけて観察し、鉛筆を使い紙に表現していきます			
教科書	なし			
補助教材	B3スケッチブック、鉛筆各種、消しゴム、練り消しゴム、カッター、デスケル、計り棒			
評価方法	評価は年2回、授業内課題の作品点数、到達度で評価する。			
関連科目	平面基礎デザイン演習Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	課題を良い物に仕上げるためには、集中力の有無が大事な要素となります。集中力や描く力は、すぐに身につけられるものではありません。ひとつひとつの課題に出来る限りの時間を費やし、課題毎に自分の力の底上げができるように努力しましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	はじめに	<input type="checkbox"/> 授業目的、授業の進め方、評価の方法
1.5	表現技量の確認	<input type="checkbox"/> 自分の鉛筆デッサンの力量の確認
3	鉛筆デッサンの道具の使用法	<input type="checkbox"/> 鉛筆デッサンに必要な道具の使い方(A)
6	基礎立体の鉛筆デッサン	<input type="checkbox"/> 基礎立体の構造(A, B) <input type="checkbox"/> モチーフの明暗(A, B) <input type="checkbox"/> 基礎立体の形の紙への再現(A, B, C)
9	相貫体の鉛筆デッサン	<input type="checkbox"/> 相貫体の構造(A, B) <input type="checkbox"/> 相貫体の明暗(A, B) <input type="checkbox"/> 相貫体の紙への再現(A, B, C)
21	質感のあるモチーフのデッサン	<input type="checkbox"/> モチーフの構造(A, B) <input type="checkbox"/> モチーフの明暗(A, B) <input type="checkbox"/> モチーフの質感(A, B) <input type="checkbox"/> モチーフの紙への再現(A, B, C)
3	科目別補講(見学)	見学先、内容は授業内で連絡します。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→ 認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
平面基礎デザイン演習Ⅲ	AD:デザイン学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
2-Dimensional Basic Design 3	必修	講義	演習	実験・実習
0	45	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420	水曜日を除く	y-sakamoto
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	立体物を平面表現するための論理的な手法を学ぶことで、平面と立体の関係について理解を促すと共に、基礎的な表現力を身につけることを目的とする。			
到達目標	A. 簡単な立体物を平面上で表現できる B. 簡単な立体物を平面上で計画できる C. 安全に作業できる D. 道具の基本的な使用ができる E. 簡単な立体物の制作ができる F. 1年次の基準を満たす丁寧で正確な美しい仕上げが出来る G. 立体物の美しさとその基準について自分の意見を持つことができる H. 簡単な機能を持った立体物の設計が出来る I. 簡単な機能を持った立体物の製作が出来る J. 製作の期限を守ることが出来る			
授業方法	解説、演習、確認(発表)			
教科書	特になし。適宜 必要に応じてプリントを配布予定			
補助教材	クロッキーブック 鉛筆 色鉛筆 サインペン黒 消しゴム 三角定規 直定規 テンプレート コンパス カッター カッター替え刃 カッティングマット 接着剤 その他必要な教材は適宜指示する			
評価方法	年間2回(前期末、後期末)の評価。 課題評価100%として各区間を評価する。 課題提出の遅れは原則として認めない。 やむを得ない場合は評価比率を変更する。 未提出課題は0点として扱う。 成績表評価としての総合評価は、区間評価の単純平均とする。 必要に応じて、追加補講・理解度評価テスト(課題として扱う)などを行う。			
関連科目	立体基礎デザイン演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ			
準備学習に関するアドバイス	日常的に周囲をよく観察すること。立体物は表面にとられず、裏はどうなっているのか、どうやって組み立てられているのかなどについて、実際にひっくり返せるものは裏を確認する、中をのぞき込むなどして、成り立ちを考えることが技能向上のポイントとなる。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	導入授業	・授業内容や授業への取り組み方などのガイダンスと予備的演習 <input type="checkbox"/> 取り組むべき事柄、態度の理解
0.5	道具の使い方基礎	・安全な作業、道具の使い方 <input type="checkbox"/> 安全な作業について理解する(C)
12	立体物を平面表現する訓練	・立体と平面との関係を理解するためのトレーニング <input type="checkbox"/> 立体と平面を結びつける描写の方法を学ぶ(A, B)
6	簡単な立体の平面表現と制作訓練	・平面と立体を結びつけるための基礎的トレーニング(全てA~J) <input type="checkbox"/> 立体物の組み立てを平面上で計画する <input type="checkbox"/> 正確な製作を行う <input type="checkbox"/> 美しい仕上げを行う <input type="checkbox"/> 制作物の評価が出来る
24	簡単な機能を持った立体作品の制作	・平面と立体と機能を結びつけるための基礎的トレーニング(全てA~J) <input type="checkbox"/> 機能を持った立体物を構想することが出来る <input type="checkbox"/> 立体物の組み立てを平面上で計画する <input type="checkbox"/> 正確な製作を行う <input type="checkbox"/> 美しい仕上げが出来る <input type="checkbox"/> 制作物の評価が出来る
2	科目別補講	見学会実施
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
立体基礎デザイン演習 I	AD: デザイン学科	2年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
3-Dimensional Basic design 1	必修	講義	演習	実験・実習
5	20	20		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
比留間 真	デザイン学科・准教授	420	木曜日を除く	hiruma
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
AD-1				
授業概要	スケッチや図面を用いた造形表現、造形展開力を養う。 作図をもとに異なる材料を用いた立体制作・立体構成を行う。			
到達目標	A. 対象の特徴を理解し、平面的・立体的な表現を行う。 B. 立体を理解して、スケッチや三面図の表現を行う。 C. スケッチや作図を通して立体形状の造形展開・検討を行う。 D. 作図によって立体物を制作するプロセスを体験する。			
授業方法	クラスを2グループに分け、立体基礎デザイン演習Ⅱの授業と前期中間・前期末・後期中間・学年末ごとにローテーションし授業を行う。			
教科書	デザイン技術			
補助教材				
評価方法	評価は前期末と学年末の年間2回行う。 すべての提出物の評価を合計したものの平均とするが、一つでも未提出があった場合は不可となる。			
関連科目	デザイン実習 I			
準備学習に関するアドバイス	実技の課題は、一度やった程度では身に付きません。本年度取り組んだ内容が3年生の課題で応用できるように、授業の内容をしっかりと理解するために反復して制作に取り組むことが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業目的、進め方、評価方法、ねらいを理解する
3	【彫塑】	
3	彫塑のためのデッサン	<input type="checkbox"/> モチーフの質感の特徴をとらえ、描くことができる(A)
3	土土による立体作品制作	<input type="checkbox"/> モチーフの質感の特徴をとらえ、立体的に表現できる(A)
3	【三面図による立体表現】	
3	ハイライト・レンダリングによる相関立体	<input type="checkbox"/> 立体物を三面図に基づき作図し、立体的に表現した(B)
3	連続断面による立体表現一作図	<input type="checkbox"/> 立体物を想像しながら三面図の作図を行った(B)
3	連続断面による立体表現一制作	<input type="checkbox"/> 作図をもとにスチレンボードで作品を制作できた(D)
1.5	【スケッチによる造形展開】	
1.5	スケッチによる造形展開-1	<input type="checkbox"/> 想像した形をスケッチにより描き出した(C)
1.5	スケッチによる造形展開-2	<input type="checkbox"/> スケッチをしながら形を検討した(C)
1.5	【ペーパーモデルによる三次曲面の表現】	
1.5	作図と部品作成	<input type="checkbox"/> 水平断面の部品と垂直断面の部品の構成を理解した(D)
1.5	骨組み組み立て・微調整、計測による作図	<input type="checkbox"/> 表皮を作図するための方法を理解した(D)
1.5	表皮作成、張込み	<input type="checkbox"/> 平面素材を使った三次曲面の表現のしかたを理解できた(D)
1.5	【ペーパーモデルによる相関立体の表現1】	
1.5	部品作図	<input type="checkbox"/> 作図のねらいと考え方が理解できた(B)
1.5	部品作成・試作	<input type="checkbox"/> 試作をとおして作図が正しかったことを確認した(D)
1.5	【ペーパーモデルによる相関立体の表現2】	
1.5	応用組み合わせ作図	<input type="checkbox"/> 習作で身につけたことを応用できた(B)
1.5	部品作成・試作	<input type="checkbox"/> 試作をとおして作図が正しかったことを確認した(D)
3	【有機形態の制作】	
3	スケッチによるアイデア展開	<input type="checkbox"/> 有機的なかたちを複数の視点から想像して描いた(C)
3	アイデアの図面化	<input type="checkbox"/> スケッチで描いたかたちに具体的な寸法を設定して図面化した(C)
3	立体作品制作	<input type="checkbox"/> 作図に基づき立体物を制作するプロセスを理解した(D)
3	撮影・レンダリング	<input type="checkbox"/> 写真や描画を用いた立体作品の表現を学んだ(A)
3	学習指導期間 (上記項目のいずれか)	
3	科目別補講	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
立体基礎デザイン演習Ⅱ	AD: デザイン学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
3-Dimensional Basic Design 2	必修	講義	演習	実験・実習
0	45	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
相田 智之	デザイン学科・非常勤講師	420	火AM	t-aida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1 AD-4				
授業概要	[デッサン] 様々なモチーフを用いて観察力と表現力、構成力を養う。 [スケッチ] 様々な立体の観察と表現を通して、立体物を把握する力とスケッチ表現力を養う。 [着彩] 様々なモチーフを用いて、観察力と表現力、色彩感覚を養う。			
到達目標	[デッサン] A. モチーフの造形的特徴や描く構図に配慮してモチーフの組み方を検討できる。 B. エスキースを通して構図を検討することができる。 C. 形態や質感を平面に表現する技術を向上させる。 [スケッチ] D. 基礎的な線を鉛筆で描ける。 E. 立体物を観察し理解し描ける。 [着彩] F. エスキースを通して構図を検討することができる G. 絵具の特性を活かし、質感の違いを描き分けることができる。			
授業方法	クラスを2グループに分け、立体基礎デザイン演習Ⅰとのローテーションで授業をおこなう。			
教科書				
補助教材	なし			
評価方法	評価は年2回(前期末、後期末)提出課題100%で算出する。 提出期限内に提出された[デッサン]と[スケッチ]および[着彩]の課題は100%で評価。 提出期限に遅れたものは減点評価とし、全課題の単純評価を総合評価とする。 ※未提出作品がある場合は、不合格になる可能性があります。			
関連科目	平面基礎デザイン演習Ⅰ、平面基礎デザイン演習Ⅱ、平面基礎デザイン演習Ⅲ、平面基礎デザイン演習Ⅳ、デザイン実習Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	課題ごとに、自分の目標を立てて制作にとりかかりましょう。自分に何が足りないのかを理解し、次の課題や他の授業にも活かせるようにしてください。作品制作には時間がかかります。授業外の時間も出来る限り利用し、丁寧に作品を仕上げるよう心掛けてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業目的、進め方、評価方法、ねらいを理解する
6	[デッサン] 卓上デッサン	<input type="checkbox"/> 意図をもってモチーフを組むことができる (A) <input type="checkbox"/> エスキースを通して適切な構図を検討することができる (B) <input type="checkbox"/> 適切なプロポーションで基本立体を描く事が出来る (A, C) <input type="checkbox"/> 遠近感や立体感、空間を意識して表現することができる (A, C) <input type="checkbox"/> 客観的に自分の作品を見る事が出来る (A, B, C)
6	静物デッサン(組みモチーフ)	<input type="checkbox"/> エスキースを通して適切な構図で描く事が出来る (B) <input type="checkbox"/> 質感の違いを描き分ける事が出来る (C) <input type="checkbox"/> 時間をかけて描き込む事が出来る C
6	想定デッサン(基礎立体)	<input type="checkbox"/> 意図をもってモチーフを組むことができる (A) <input type="checkbox"/> エスキースを通して適切な構図を検討することができる (B) <input type="checkbox"/> 適切なプロポーションで基本立体を描く事が出来る (A, C) <input type="checkbox"/> 遠近感や立体感、空間を意識して表現する事が出来る (A, C)
6	石膏像	<input type="checkbox"/> 適切な構図で下図を描くことができる (B) <input type="checkbox"/> 画面全体の明暗のバランスをとりながら描く事が出来る C
3	[スケッチ] 基礎描画表示を確認する	<input type="checkbox"/> 直線・円・正方形・立方体を描く (D, E)
4.5	基礎スケッチ	<input type="checkbox"/> 幾何形体を描く (D, E)
4.5	基礎造形	<input type="checkbox"/> 幾何形体を造形する (D, E)
5.5	[着彩] 静物着彩	<input type="checkbox"/> エスキースを通して適切な構図で描く事が出来る (F) <input type="checkbox"/> 絵具の特性を活かし、質感の違いを描き分ける事が出来る (G) <input type="checkbox"/> 時間をかけて描き込む事が出来る (G)
3	科目別補講(見学)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
立体基礎デザイン演習Ⅲ	AD: デザイン学科	2年	通年	3
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
3-Dimensional Basic Design 3	必修	講義	演習	実験・実習
0	67.5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
李 盛姫	デザイン学科・准教授	420	火・日曜以外	lee
西野 隆司	デザイン学科・准教授	420	火・日曜以外	nishino
谷上 欣也	デザイン学科・准教授	420	水・日曜以外	tanigami
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	各テーマ課題ごとの造形体験を通して実素材に触れ、素材の特性を知り、ものづくりのプロセスを学ぶ。			
到達目標	<input type="checkbox"/> 材料に触れ、特性を知る <input type="checkbox"/> ものづくりのプロセスを知る <input type="checkbox"/> 大量生産(複製)の方法を知る <input type="checkbox"/> 生産上の制約を理解する			
授業方法	クラスを3グループに分け授業を行う。A, B, Cの3つのテーマ課題をローテーションにより履修し、各課題とともに実習作品を制作する。			
教科書	なし			
補助教材	適宜配布			
評価方法	評価は学年末の1回とする。 3つの課題作品の平均評価(100%)とする。 ただし、いずれかの課題で未完成や未提出があった場合は不可となる。 また、提出期限は厳守する事とし、提出が遅れた場合は大幅な減点になるので注意すること。			
関連科目	2年 立体基礎デザイン演習Ⅰ,Ⅱ、3年 デザイン演習Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	休んだ場合や授業内に終わらなかった作業がある場合は、放課後の時間を使って作業し、授業スケジュールに遅れないようにすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
2.25	(A) 陶土による造形 セラミックスについて	セラミックス材料の特徴と成形方法 ・紐作りによる水差の制作
6.75	素材感覚と成形	<input type="checkbox"/> アイディア展開、完成予想図をもとに成形する ・型成形による組葉子皿の制作
4.5	素材特性と成形プロセス	<input type="checkbox"/> 条件を基にアイディア展開、図面作成、ゲージ作成をする <input type="checkbox"/> 原型と石膏型を作成する <input type="checkbox"/> 原型から作品を作成する
2.25	原型と型	<input type="checkbox"/> 仕上げ 焼成 釉かけ 焼成仕上げをする
2.25	型からの成形	<input type="checkbox"/> 菓子切りの制作
2.25	釉かけ	<input type="checkbox"/> 撮影・制作レポートまとめ
2.25	まとめ	
	(B) 樹脂による造形	プラスチック材料の特徴と成形方法
2.25	スケッチ練習	<input type="checkbox"/> スケッチによる立体把握ができる
2.25	アイディア展開	<input type="checkbox"/> スケッチと工業用クレイによるアイディア展開をする
2.25	クレイによる原型作成	<input type="checkbox"/> 工業用クレイによる彫塑をする
4.5	注型-1	<input type="checkbox"/> シリコン樹脂による型取りをする
2.25	注型-2	<input type="checkbox"/> ウレタン・不飽和ポリエステル樹脂による注型をする
2.25	研磨仕上げ	<input type="checkbox"/> サンドペーパー、コンパウンドによる研磨をする
3	ハイライトレンダリング	<input type="checkbox"/> 色鉛筆を使った透明素材の立体表現ができる
2.25	真空成形機を使った成形	<input type="checkbox"/> ポリ塩化ビニルによる成形を体験する
1.5	まとめ	<input type="checkbox"/> 写真撮影とファイリングをする
	(C) プリンティング	複製技術とその役割 凸版、凹版、平版、孔版の4版式印刷技術
2.25	印刷について	<input type="checkbox"/> 印刷について基本的な知識を理解する
6.75	シルクスクリーンプロセス	<input type="checkbox"/> 印刷プロセスを体験する
4.5	原画作成(版下)	<input type="checkbox"/> 版下原図の作成ができる
2.25	製版	<input type="checkbox"/> ネガ版の作成ができる
4.5	プリンティング	<input type="checkbox"/> 各種素材に印刷、修正、構成、仕上げなどができる
2.25	まとめ	<input type="checkbox"/> まとめレポートを作成できる
	学習指導期間(年2回)	(上記項目の中から実施)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報処理	AD: デザイン学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Computer Literacy	必修	講義	演習	実験・実習
		0	45	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
西野 隆司 その他	デザイン学科・准教授	420	火・日曜以外	nishino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	デザイン業界で一般的に使用されているグラフィック系ソフトウェア「Illustrator」「Photoshop」の基礎を学ぶ			
到達目標	<input type="checkbox"/> Illustratorの基本操作を習得する <input type="checkbox"/> Photoshopの基本操作を習得する			
授業方法	演習形式で行い、与えられた課題を仕上げる。			
教科書	なし			
補助教材	適宜配布			
評価方法	評価は、年間2回の総合評価。提出課題(100%)によって評価する。 ★前期末評価 各課題に対する点数から平均点を算出する。 (課題1+課題2+課題3・・・=課題点の合計) / 課題数=課題の平均点 ★後期末取得点 各課題に対する点数から平均点を算出する。 (課題1+課題2+課題3・・・=課題点の合計) / 課題数=課題の平均点 ★学年末評価：前期末評価と後期末評価との平均点 (Photoshop課題+Illustrator課題の平均点の平均点) / 2 = 学年末評価 ※課題の平均点は、分母はこちらが指示した課題数で固定される。			
関連科目	コンピュータグラフィックス1.2.3			
準備学習に関するアドバイス	休んだ場合や授業内に終わらなかった作業がある場合は、放課後の時間を使って作業し、授業スケジュールに遅れないようにすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5 6	Illustrator ガイダンス 演習課題「基本操作演習」	<input type="checkbox"/> ソフトの基本概念を理解する <input type="checkbox"/> 各種ツールの基本操作ができる <input type="checkbox"/> 各種メニューの基本操作ができる
7.5	課題1「地図の制作」	<input type="checkbox"/> 課題の内容を理解する <input type="checkbox"/> 課題に必要な図形を適切に、効率よく作成できる <input type="checkbox"/> レイヤーの概念を理解し、レイヤー操作できる <input type="checkbox"/> 完成図どおりに課題を仕上げるができる
7.5	課題2「応用課題」	<input type="checkbox"/> 課題の内容を理解する <input type="checkbox"/> 課題に必要な各種設定ができる <input type="checkbox"/> 課題に必要な図形を適切に、効率よく作成できる <input type="checkbox"/> レイヤーを効率よく操作できる <input type="checkbox"/> 文字に関する編集や操作ができる <input type="checkbox"/> 写真に関する編集や操作ができる <input type="checkbox"/> 完成図どおりに課題を仕上げるができる
1.5 4.5	Photoshop ガイダンス 演習課題「基本操作演習」	<input type="checkbox"/> ソフトの基本概念を理解する <input type="checkbox"/> 各種ツールの基本操作ができる <input type="checkbox"/> 各種メニューの基本操作ができる <input type="checkbox"/> フォトショップのレイヤーの概念を理解し、レイヤー操作できる <input type="checkbox"/> 調整レイヤーの概念を理解し、基本操作ができる
6	課題1「基本課題」	<input type="checkbox"/> 各種ツールの操作が適切にできる <input type="checkbox"/> マスクの概念を理解し、基本操作ができる <input type="checkbox"/> 調整レイヤーの操作が適切にできる <input type="checkbox"/> 画像の合成ができる <input type="checkbox"/> 文字入力の基本操作ができる <input type="checkbox"/> 完成図どおりに課題を仕上げるができる
9	課題2「応用課題」	<input type="checkbox"/> 各種ツールの操作が適切にできる <input type="checkbox"/> 調整レイヤーの操作が適切にできる <input type="checkbox"/> レイヤーの応用操作ができる <input type="checkbox"/> 画像合成の応用操作ができる <input type="checkbox"/> 完成図どおりに課題を仕上げることができる
1.5	「複数の応用課題」	<input type="checkbox"/> 説明書だけを見て自分で課題を作成できる
	※共通項目 ※科目別補講の内容は上記に含む	<input type="checkbox"/> 基本的なショートカットキーを操作できる
合計 45 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度	2017	クラス:		番号:		氏名:	
科目名(和文)	デザイン実習Ⅰ[平面,立体]	学科	AD:デザイン学科	学年	3年	開講期間	通年
科目名(英文)	Design Practice I [2D, 3D]	履修形態		講義		授業形態の時間内訳 (hour)	通年
Seminar on Creativity Ⅰ		*必修		講義	6	演習	84
担当教員	李 盛姫	所属学科・職名	デザイン学科・准教授	研究室	420	実験・実習	0
	比留間 真		デザイン学科・准教授		420		
	谷上 欣也		デザイン学科・准教授		420		
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応			
#N/A							
授業概要	[平面]タイポグラフィの基礎を習得し、コミュニケーション活動におけるデザインの基礎を習得する [立体]モノの機能や形態の持つ意味を学び、ユーザーの使い方を意識した立体デザインの基礎を習得する						
到達目標	A. 平面・立体デザイン分野の基礎知識を理解する B. コンセプトに応じたアイデアの発想・展開ができる C. アイデアを視覚化するための基礎的な表現力や技術力を習得し、リアリティある提案に繋げることができる D. 提案内容を第三者に解り易く伝える工夫ができる E. 社会や生活、使う人に配慮して提案内容を検討することができる						
授業方法	[平面]調査、立案・計画、アイデア展開、カンパ制作、仕上げ、プレゼンテーション [立体]図面作成、切削、仕上げ、プレゼンテーション						
教科書	[平面]配布資料、デザイン技術 [立体]デザイン技術、デザイン材料、デザイン製図						
補助教材	[平面]PmpadA3、紙類、筆記具、色鉛筆、製図道具、カッター、カッティングマット、等 [立体]クロッキーブック、筆記具、製図道具、カッター、カッター替え刃、カッティングマット						
評価方法	評価は前期末評価と学年末の2回とする ・前期末評価：前期コースごとの課題に対する点数から平均点を算出する ・学年末評価：後期選択コースから課題に対する点数から平均点を算出する 学年末総合評価(100%) = 前期末評価40% + 後期末評価60% 提出期限遅れについては、大幅な減点とするので要注意 また、未完成・未提出・プロセスを踏まないで制作、提出したものは不可とする ※本科目は学年修了要件科目である。未修得(不可)とならないように十分留意する						
関連科目	デザイン実習Ⅱ、応用デザイン実習Ⅰ						
準備学習に関するアドバイス	各プロセスの課題が授業時間内で終了していない場合は、翌週までに宿題として終了しておくこと 安全確保のため、工房作業は担当教員同伴で行うこと						

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	●前期 [平面コース]ローテーション ガイダンス(共通)	□授業の進め方、課題内容、評価、ねらいを理解した
1.5	1. 講義:グラフィックデザイン基礎	□「グラフィックデザイン」の概要を理解した
16.5	16.5 課題説明	□課題の意図を理解した
2.	2. 調査(スクラップ)	□レタリング(和文・かな・漢字、英文・数字)ができた
6.	6. プレゼンテーション	□タイポグラフィのスケッチチェック
5.	5. 制作、まとめ	□他者のプレゼンテーションを聞くことができた
3	#REF!	#REF!
	[立体コース]ローテーション ガイダンス(共通)	
1.5	1. 課題説明 調査・分析	□使う人の生活や使用シーンをイメージすることができた
3.	3. コンセプト立案(スケッチ・試作)	□与えられたテーマに配慮して目標を設定した
3.	3. アイデア展開(スケッチ・試作)	□目標を具体化する方法を複数発想し、スケッチ・試作検討した
3.	3. 試作による修正、制作図面	□作品制作に必要な図面を作成した
3.	3. 制作	□制作材料に適した構造、加工方法について考えた
3.	3. 制作・プレゼン準備	□提案のポイントを解り易く伝えるための検討を行った
3.	3. プレゼンテーション	□デザインプロセスに応じた工程で提案をまとめることができた
42	●後期 [平面コース]選択(42時間数) コース決め	□平面or立体のコースを決めた
1.	1. 講義:グラフィックデザインについて 課題説明	□課題の意図を理解できた
2.	2. 調査、分析(発表)	□調査内容の分析、発表ができた
3.	3. 立案・計画、中間チェック	□コンセプトや考え方などを立案、計画を立てた
4.	4. アイデア展開、中間チェック	□複数のアイデア展開し、中間チェックを受けた
5.	5. 制作、まとめ	□最終提案を指示に沿ってブラッシュアップできた
6.	6. プレゼンテーション	□提案内容をプレゼンボードにまとめて自分の考えや成果をわかりやすく説明できた
	#REF! #REF!	#REF!
	[立体コース]選択(42時間数) コース決め ガイダンス、立体デザインについて 課題未定 前年は「テープディスベンサー」	□平面or立体のコースを決める
	調査・分析	□デザインの基本的な考え方とプロセスを知る
	スケッチ	□必要な調査と分析がおこなえる
	図面作成	□幅の広い様々なアイデアが出せる
	モデル作成	□スケッチイメージを図面に置き換える事ができる
	仕上げ	□無駄の少ない材取りができる
	まとめと講評	□機械を使って材料を切ったり削ったりする事ができる
		□形状を仕上げ、塗装ができる
		□適切な発表資料が作成できる
6	科目別補講(見学)	□レポートにまとめることができた
		※授業内容は進行によって前後することもある
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90	最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
制作演習	AD: デザイン学科	3年	通年	3
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Production Training	必修	講義	演習	実験・実習
		0	67.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
谷上 欣也	デザイン学科・准教授	420	水・日曜日以外	tanigami
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420	水・日曜日以外	y-sakamoto
西野 隆司	デザイン学科・准教授	420	火・日曜日以外	nishino
木下 直樹	デザイン学科・非常勤講師	AD工房	水・木曜日	n-kinoshita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	各種素材による立体造形の魅力を制作体験する。また造形制作に必要な知識と技能、技術を習得する。			
到達目標	A. 各種素材を理解する B. 造形のための道具、機器、機械の操作技能を習得する C. 工房内の安全管理、危険予知を習得する D. 模型によるスケール感と空間感を習得する			
授業方法	ローテーションにて木材、金属・複合材料、模型制作の3コースを履修する。各コース、課題テーマを基本に制作実習をおこなう。			
教科書				
補助教材	必要に応じて適宜プリントを配布する			
評価方法	評価は年1回(学年末)おこなう。 3コースでの課題作品(80%)、制作過程での技能習熟度(20%)により総合評価する。 ※指定された課題がすべて提出された場合のみ合格とする。			
関連科目	3年: デザイン実習Ⅰ 4年: デザイン実習Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	危険な作業を伴うので、担当教員の注意を必ず守ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
2.25	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業内容や評価方法、ねらいを理解する <input type="checkbox"/> 授業計画、各課題の説明を聞き、趣旨を理解する
	A【木材加工】 角材を構造物とするホゾ組椅子の制作	
2.25	木工機械の使用法	<input type="checkbox"/> 安全管理の理解・危険予知訓練(C)
2.25	1/5スケールモデルの制作	<input type="checkbox"/> スケール感覚を身につける(D)
2.25	長尺材料からの部材取り	<input type="checkbox"/> 効率的な材料取りの方法が理解できる(A)(B)(C)
8	丸鋸、帯鋸、カンナ	<input type="checkbox"/> 手道具、機械加工の基礎が理解できる(B)(C)
3	仮組と接着	<input type="checkbox"/> 組み立て方法が理解できる(A)(B)
3	仕上げ・塗装	<input type="checkbox"/> 塗装の必要性と方法が理解できる(A)
	B【複合材料と金属】 (1)複合材料によるモビールの制作	
3	デザイン展開	<input type="checkbox"/> アイディア展開力の訓練 <input type="checkbox"/> 最適な材料選びができる(A)
6.75	モデル制作	<input type="checkbox"/> 素材の特性を理解し、加工できる(B)
1	まとめ	<input type="checkbox"/> 適切なプレゼン資料が準備できる
	(2)手作業での金属加工	
2	スケッチによるアイディア展開	<input type="checkbox"/> 金属の特性を理解し、アイディアが展開できる(A)
5	加工・仕上げ	<input type="checkbox"/> 金属の加工と表面仕上げができる(A)(B)(C)
1	まとめ	<input type="checkbox"/> 適切なプレゼン資料が準備できる
2	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 自分のアイディアを説明できる
	C【模型制作】 リノベーション計画	
5.5	図面作成	<input type="checkbox"/> 図面作図ができる(B)
9.25	加工制作	<input type="checkbox"/> 素材に合わせた加工と仕上げができる(A)(B)
5	仕上げ	<input type="checkbox"/> スケール感覚を理解できる(D)
1	評価会	<input type="checkbox"/> 空間感を理解できる(D)
3	科目別補講	見学を予定
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
表現法	AD: デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Drawing & Rendering	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
三河 一郎	デザイン学科・非常勤講師	420	火曜: 11:00~13:00	mikawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	アナログ画材からデジタル画材まで、特性と扱い方を学ぶ			
到達目標	(A) 用紙の特性を知り表現にあった選択が出来る (B) ドライメディア(鉛筆・パステル等)で、様々な表現が出来る (C) ウェットメディア(水彩・アクリル絵具等)の特性を知り使いこなすことが出来る (D) ペンタブレットを使用してCGソフトで自由な線を描画出来る (E) アナログ画材とCGの複合表現が出来る			
授業方法	様々な画材をつかった作品例や教員のデモンストレーションを参考に、課題作品を制作する			
教科書	なし、必要に応じてプリント等を配布			
補助教材	各種アナログ画材(授業前に指示) クロッキーブックと鉛筆(スケッチ用)は通年持参			
評価方法	基本的に1課題100点満点とし、 前期:理解度50%・作品50%を評価 後期:課題作品の評価を100%(内訳、クオリティ40%・作業スピード20%・発想力40%) 提出遅れは一切認めない。 やむをえぬ理由にて遅滞の場合は事由を申告すること。その際は一日につき4点を減ずる 課題未提出の場合、評価点は0点とする。 学年末:前後期評価を乗じて総合評価			
関連科目	CGII			
準備学習に関するアドバイス	身の回りのものをよく見る事から始めましょう、通学時にも参考になるものは沢山あるはず。また抽象表現で創られた作品にも注目してみましょう。いろんなものを見て引きだし(脳内の)に入れるようにしてください			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス アナログ描画トライアル課題	
1.5	鉛筆スケッチ	<input type="checkbox"/> 第三者に見せるためのスケッチを反復練習(A)
1.5	各種画材によるカラーチャート作成	<input type="checkbox"/> 画材と基底材の特性を理解(A)(B)
1.5	鉛筆 立方体 円柱下書き	<input type="checkbox"/> 直接光と間接光の違い、素材による反射の違いを細密描写(B)
1.5	鉛筆 円柱 静物 下書き	<input type="checkbox"/> 様々なマチエールの題材を細密描写(B)
1.5	色鉛筆 静物	<input type="checkbox"/> 点描・ハッチング等色鉛筆による細密描写。水彩による着色テクニックを学
1.5	パステル・マーカーによるドローイング	<input type="checkbox"/> ドライメディアと油性ウエットメディアによる複合表現が出来る(B)(C)
1.5	自然を描く	<input type="checkbox"/> 鉛筆と絵具により「石」を表現(A)(B)(C)
1.5	偶然性を活かした表現	<input type="checkbox"/> デカルコマニー・スパッタリングによる表現を学ぶ(A)(C)
4.5	各種画材による模写	<input type="checkbox"/> 既成のアートやデザインを鑑賞・評価・模写し、美的感覚を養う(A)(B)(C)
1.5	デフォルメ表現	<input type="checkbox"/> リアルな形・質感を求めない表現を学ぶ(A)(B)(C)
3	コラージュ作品を制作	<input type="checkbox"/> 雑誌等の切り抜きをコラージュ+アクリルペインティング(A)(B)(C)
3	CGトライアル課題	
3	CG表現基礎 (Illustrator)	<input type="checkbox"/> ベジェ曲線を自在に描く(D)
3	CG表現基礎 (Photoshop+タブレット)	<input type="checkbox"/> 最小の手順で求めるCG表現が出来る(D)
3	CG表現応用1 (アナログ+CG複合表現)	<input type="checkbox"/> 手描イラスト・写真とCGを組み合わせたオリジナル作品を作成(E)
3	CG表現応用2 (オリジナル作品制作)	<input type="checkbox"/> 抽象描画により、表現の幅を広げる(D)(E)
4.5	コース別自由課題	<input type="checkbox"/> 自由な発想で、学んできたテクニックを表現出来る(D)(E)
3	科目別補講	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション
	学習指導期間	上記内容の中から実施
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度	2017	クラス:		番号:		氏名:			
科目名(和文)	色彩学	学科	AD:デザイン学科	学年	3年	開講期間	通年	単位数	2
科目名(英文)	Color Science	履修形態	必修	講義	42	授業形態の時間内訳 (hour)	3	演習	0
担当教員	李 盛姫	所属学科・職名	デザイン学科・准教授	研究室	420	オフィスアワー	火曜日を除く	メールアドレス	lee
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	AD-1	JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応					
授業概要	色彩理論を、色の役割、物理的・心理的な色彩の世界、色の表し方と色再現、配色と色彩調和、光から生まれる色、色が見える仕組み、混色と色再現など色を幅広く捉え造形表現に必要な色彩の知識を習得する								
到達目標	A. 色彩学の基本を学ぶ B. 造形表現に必要な色彩の知識を習得する C. カラーコーディネーター検定試験（又は色彩検定試験）を受ける								
授業方法	教科書を中心に進める 小テストやレポートを課する 演習課題やノート確認を行う								
教科書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所								
補助教材	必要に応じて補足資料を用いたり、プリントを配布する								
評価方法	年4区間評価 各区間、定期試験（80%）＋ミニ演習（ノート確認、小テスト、レポート、演習課題）（20%）＝100%評価 総合評価は区間評価の単純平均とする								
関連科目	デザイン実習Ⅱ、応用デザイン実習Ⅰ								
準備学習に関するアドバイス	持ち物の忘れがないように前日までに支度を済ましてください 予習をしてきてください 丁寧にモノ・コトを行ってください								

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業全体の概要、シラバスの確認ができた <input type="checkbox"/> カラーコーディネーター検定試験について理解できた
1.5	色の性質 色と心理	<input type="checkbox"/> 生活のなかで色がどのような役割を果たしているか理解できた <input type="checkbox"/> 色を正しく見るために必要な条件を知ることができた <input type="checkbox"/> 物理的・心理的・色の世界の概要がわかった <input type="checkbox"/> 色の連想と感情、象徴について理解できた
3	#REF!	#REF! <input type="checkbox"/> 色(三属性)が人間にもたらす心理的効果が理解できた
4.5	色を表し、伝える方法	<input type="checkbox"/> 色を表し、伝えるための様々な方法を知り、その特徴が理解できた <input type="checkbox"/> 三属性の概念が分かった <input type="checkbox"/> 様々なカラーオーダーシステム(表色系)の学習ができた
4.5	配色と色彩調和	<input type="checkbox"/> 色の属性別の配色の特徴が理解できた <input type="checkbox"/> 代表的な調和論を学び、配色調和の原則が理解できた
4.5	光から生まれる色	<input type="checkbox"/> 自然界における物理的な現象として色が理解できた <input type="checkbox"/> 光源の種類やそれらの特性を理解できた
4.5	色が見える仕組み	<input type="checkbox"/> 眼の役割について理解できた <input type="checkbox"/> 色覚の多様性について理解できた <input type="checkbox"/> 色覚と知覚、残像、色覚理論の学習ができた
3	混色と色再現	<input type="checkbox"/> 混色の種類と原理が理解できた <input type="checkbox"/> 混色を利用して作られた機器を通して色再現方法が理解できた
5	各領域のデザインと色彩 グラフィック、プロダクト、インテリア等	<input type="checkbox"/> デザイン各領域の分野や特性が理解できた <input type="checkbox"/> 各領域における色彩の役割が理解できた
#REF!	#REF!	#REF!
3	検定試験対策（カラーコーディネーター） ※授業進行によって変更有り	<input type="checkbox"/> わからないところの復習ができた <input type="checkbox"/> 過去問が解けた（70点-100点を目指す）
4	定期試験（学年末）	<input type="checkbox"/> 試験勉強に取り組んだ
6	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 定期試験の目標達成できた <input type="checkbox"/> 定期試験内容の補習、解答が理解できた
※授業内容は進行によって前後することもある		
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 （→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格）

開講年度	2017	クラス:	番号:	氏名:
科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
色彩構成	AD:デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳(hour)		
Color Composition	必修	講義	演習	実験・実習
		10	35	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
李 盛姫	デザイン学科・准教授	420	火曜日を除く	lee
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	色彩、形態、構成について基礎的な理論の把握と造形要素としての特性を理解する。更に、動作によって動き(時間)をつくり、時間をもたらし情報伝達について理解し、視覚以外の知覚を利用するコミュニケーションツールの可能性を学ぶ			
到達目標	A. デザインを図る上での色彩・形態・構成など、造形に関する基礎的な知識・技能を習得できるようになる B. 各造形要素が伝える意味とその特性を理解し、独創的な提案ができるようになる			
授業方法	実技授業である。講義、課題説明→演習・制作→講評・評価(提出)の手順で授業を進める 色彩演習課題は主に絵具、水張りケント紙を用いる			
教科書	無し			
補助教材	デザイン技術、宜授業中に紹介、配布			
評価方法	年2区間(前期末、学年末)評価 各区間: 課題n+定期試験点数=合計/課題数=100% 総合評価は区間評価の単純平均とする 評価基準 A+:90~100点 A:90~80点 B:79~70点 C:69~60点 D:60点未満 ※定期(実技)試験は課題の一つとしてカウントする ※一つでも未提出課題があると不可となる ※遅れ提出は原則認めません(やむを得ずの事情がある場合は相応の減点有り)			
関連科目	デザイン実習II、応用デザイン実習I			
準備学習に関するアドバイス	持ち物の忘れがないように前日までに支度を済ましてください 授業時間内に完結しない課題は宿題となる 丁寧にモノ・コトを行ってください			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価などガイダンス内容がわかった
1.5	色彩心理課題文、グループ編成、テーマ決め	<input type="checkbox"/> 課題内容が理解ができた <input type="checkbox"/> テーマ決めができた <input type="checkbox"/> 水張りができた
1.5	講評会(提出) #REF!	#REF!
1.5	ハレーション課題文、水張り、作図	<input type="checkbox"/> 課題説明が理解できた
1.5	色彩計画、制作	<input type="checkbox"/> 色彩計画ができた
1.5	講評会(提出)	<input type="checkbox"/> 講評・提出ができた
1.5	面の構成(3次元的面) 課題文	<input type="checkbox"/> 課題説明が理解できた
1.5	水張り、色彩計画	<input type="checkbox"/> 色彩計画ができた
1.5	作図	<input type="checkbox"/> 正確に作図ができた
1.5	制作	<input type="checkbox"/> 意図に沿って作品制作ができた
1.5	講評会(提出)	<input type="checkbox"/> 講評・提出ができた
1.5	夏期演習課題文(DbA)	<input type="checkbox"/> 課題説明が理解できた
1.5	透明感(前期末試験)	<input type="checkbox"/> 試験を受けた
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験、前期課題(評価)確認ができた
1.5	DbA講評会(提出)	
1.5	動作とコミュニケーション課題文	<input type="checkbox"/> 課題説明が理解できた
1.5	調査、研究方向決め	<input type="checkbox"/> 事前調査、コンセプト決めができた
3	製作(動作、技法、紙研究)	<input type="checkbox"/> 動作、技法、紙の研究ができた
1.5	プレゼンボード作成	<input type="checkbox"/> プレゼンボードを作成する事ができた
1.5	ダミー講評会	<input type="checkbox"/> 講評ができた
#REF!	#REF!	#REF!
1.5	本製作に向けた課題内容、テーマ確認	<input type="checkbox"/> 課題説明が理解できた
1.5	製作(台割計画、仕上げ)	<input type="checkbox"/> 台割表の作成ができた
1.5	製作(動作の確認、製本)	<input type="checkbox"/> 製本作業ができた
1.5	プレゼンボード作成	<input type="checkbox"/> プレゼンボードを作成する事ができた
1.5	講評会(提出)	<input type="checkbox"/> 講評ができた
1.5	画面構成(後期末試験)	<input type="checkbox"/> 試験を受けた
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験、後期課題(評価)確認ができた
※授業内容は進行によって前後することもある		
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
製図	AD: デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Drafting	必修	講義	演習	実験・実習
		10	35	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
谷上 欣也	デザイン学科・准教授	420	水・日曜日以外	tanigami
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	第三角法による立体の2次元化作図法と機械製図の基礎習得			
到達目標	A. 製図用具を知り、正しく使うことができる B. 製図のルールを理解する C. 正投影図が描ける D. 寸法記入ができる E. 立体投影図が描ける			
授業方法	教科書・プリントを用いて解説をおこなった後、演習課題を実施する。 前期末・学年末試験で成果を確認する。			
教科書	デザイン製図			
補助教材	適宜プリントを配布する			
評価方法	評価は年2回おこなう。 演習課題を70%、試験を30%として各区間の評価とする。 総合評価は区間評価の単純平均とする。 ※提出期限遅れについては、大幅な減点(遅延1日につき3点)となるので注意すること。 ただし、やむを得ない理由での提出遅れは考慮する。 ※未完成や不正(他人のを見る、写すなど)によって課題を出した場合は未提出扱いとする。 ※指定された課題すべてを提出した場合のみ合格とする。			
関連科目	3年:デザイン実習Ⅰ 4年:デザイン実習Ⅱ 5年:デザイン実習Ⅲ			
準備学習に関するアドバイス	製図のルールをしっかりと理解し、丁寧な作業を心がけること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業のねらいやルール、評価方法を理解する <input type="checkbox"/> 製図用具の種類と正しい使い方を知る(A)
4	図学	<input type="checkbox"/> 円柱の展開図、円錐の断面図を描くことができる(A)
2	製図の目的	<input type="checkbox"/> 製図の目的を理解し、図面の種類を知る(A)
6	製図規約 -1	<input type="checkbox"/> 製図に使われる線の種類を知る(A)(B) <input type="checkbox"/> 線の使い分けができる(A)(B)
2	製図規約 -2	<input type="checkbox"/> 製図のルール(JISやISOなど)について学ぶ(B) <input type="checkbox"/> 投影法の種類を学ぶ(B)
12	作図(第三角法による三面図)	<input type="checkbox"/> 三面図が描ける(A)(C)(D)
2	製図規約 -3	<input type="checkbox"/> 寸法記入の方法について学ぶ(D) <input type="checkbox"/> 寸法補助記号について学ぶ(D) <input type="checkbox"/> 表題欄について学ぶ(D)
2	作図(補助となる図法)	<input type="checkbox"/> 補助投影図について学ぶ(B) <input type="checkbox"/> 部分投影図について学ぶ(B) <input type="checkbox"/> 局部投影図について学ぶ(B) <input type="checkbox"/> 回転投影図について学ぶ(B)
2	作図(断面図)	<input type="checkbox"/> 全断面図について学び、作図ができる(A)(C) <input type="checkbox"/> 片側断面図について学び、作図ができる(A)(C) <input type="checkbox"/> 組み合わせによる断面図について学び、作図ができる(A)(C) <input type="checkbox"/> 部分断面図、回転図示断面図について学ぶ(C) <input type="checkbox"/> ハッチング、スマッジングを使うことができる(C)
4	立体投影	<input type="checkbox"/> 軸測投影法(等角図)について学び、作図ができる(A)(E) <input type="checkbox"/> 斜投影法(キャビネット図)について学び、作図ができる(A)(E)
2	応用課題	<input type="checkbox"/> 自分でデザインしたものを図面に落とし込める(A)(B)(C)(D)
3	定期試験(年4回)	前期末・学年末(100分) 試験返却と解説、成熟度の確認
3	学習指導期間(年2回)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
コンピュータグラフィックスI	AD: デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Graphics 1	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
西野 隆司	デザイン学科・准教授	420	火・日曜以外	nishino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	グラフィックソフト「Adobe Illustrator」、CADソフト「Auto CAD」の使用方法を学び、各ソフトの専門的な使用法を習得する。			
到達目標	<input type="checkbox"/> コンピュータグラフィックスの基礎となるアプリケーションソフト「Adobe Illustrator」を道具として使用できる <input type="checkbox"/> CADソフト「Auto CAD」の操作法を理解し、工業デザインに不可欠な製図作成技術を身に付ける <input type="checkbox"/> 複数のソフトを効果的に使用した表現力が身につく			
授業方法	クラスを2グループに分け授業をおこなう。演習を中心とした課題設定をし、パート毎の理解を深められるように進行する。演習で身につけた技法を利用し、各自の作品を制作する。			
教科書	なし			
補助教材	適宜配布			
評価方法	評価は年2回(前期末、後期末)課題(100%)課題提出日時を厳守すること。守れなき場合は1日5点の減点とする。未提出作品がある場合には不可評価とする。			
関連科目	2年 情報処理, 3年 コンピュータグラフィックスII			
準備学習に関するアドバイス	データ紛失に注意し自己管理を怠らぬ事			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス Illustrator の基本機能復習	<input type="checkbox"/> 使用方法の再確認、習熟度がわかる <input type="checkbox"/> 基本ツールの使い方が理解できる
4.5	Illustrator を用いたレンダリング	<input type="checkbox"/> 質感表現が理解できる
6	計算機、腕時計の作図	<input type="checkbox"/> 液晶画面の表現陰影表現ができる
3	Auto CAD による作図	<input type="checkbox"/> ボタンの表現ができる
4.5	基本ツールの説明	<input type="checkbox"/> 陰影表現、質感表現の応用できる
4.5	基本立体の手描きからCAD への作図	<input type="checkbox"/> 基本操作を理解できる
4.5	部品の作図	<input type="checkbox"/> 3面図を書き起こす作業が理解できる
1.5	工業製品の作図	<input type="checkbox"/> 複数部材から構成される製品の作図ができる
2	ファイル形式の理解	<input type="checkbox"/> 複数部材から構成される製品の作図応用ができる
6	複数ソフトを用いたレンダリング	<input type="checkbox"/> 複数ソフト間でのデータ使用方法が理解できる
3	自主課題制作	<input type="checkbox"/> CAD で作図したデータをもとにillustrator で着彩できる
	学習指導期間(年2回)	(上記項目の中から実施)
4	科目別補講日	校外見学
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
工業技術概論	AD: デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Industrial Technology	必修	講義	演習	実験・実習
40	5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
谷上 欣也	デザイン学科・准教授	420	水・日曜日以外	tanigami
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1 AD-2				
授業概要	工業製品の形態を構成する素材についての理解を深め、形態を成立させるための加工方法や仕上げについて学び、デザイン造形に必要な工業技術の知識を習得する。			
到達目標	A. 代表的な材料を知り、その特性を学ぶ B. 製作技術を学び、デザイン造形への対応ができる知識を習得する			
授業方法	スライドにて説明と解説をおこなうのでノートを記述してもらい、必要に応じてサンプルを紹介し、理解を深める。			
教科書	デザイン材料			
補助教材				
評価方法	評価は年4回おこなう。 定期試験を80%、課題(ノート)を20%として各区間の評価とする。 総合評価は区間評価の単純平均とする。 必要に応じて追加レポートを出す場合がある。			
関連科目	3年: デザイン実習Ⅱ 4年: デザイン実習Ⅱ・応用デザイン実習Ⅰ 5年: デザイン実習Ⅲ・応用デザイン実習Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	主な製品の材料、生産方法、仕上げ等を想像し、時には分解や組み立てを試みるとより理解が深まる。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業内容や評価方法、ねらいを理解する
1	生活と材料	<input type="checkbox"/> 生活の中にある材料について学ぶ(A)
1	材料の種類	<input type="checkbox"/> 有機材料、無機材料について学ぶ(A)
12	【木材】 木とは 木が材料になるまで 木材の種類 木材加工と処理	<input type="checkbox"/> 木を知る(A) <input type="checkbox"/> 木が材料になるまでの過程を学ぶ(A) <input type="checkbox"/> 木材の種類と特性を学ぶ(A) <input type="checkbox"/> 木材の加工方法を学ぶ(B) <input type="checkbox"/> 木材の処理について学ぶ(B)
12	【プラスチック】 プラスチックとは プラスチックの歴史 プラスチックの種類 プラスチック成型	<input type="checkbox"/> プラスチックを知る(A) <input type="checkbox"/> プラスチックの歴史を学ぶ(A) <input type="checkbox"/> プラスチックの種類と特性を学ぶ(A) <input type="checkbox"/> プラスチックの加工方法を学ぶ(B)
10	【金属】 金属とは 金属の種類 金属加工	<input type="checkbox"/> 金属を知る(A) <input type="checkbox"/> 金属の種類と特性を学ぶ(A) <input type="checkbox"/> 金属の加工方法を学ぶ(B)
2	その他の材料(石、紙、セラミックスなど)	<input type="checkbox"/> その他の材料について学ぶ(A)
3	定期試験(年4回)	前期中間・前期末・後期中間・学年末
3	学習指導期間(年2回)	試験返却と解説、成熟度の確認
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン史	AD: デザイン学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
History of Design	必修	講義	演習	実験・実習
		42	3	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
比留間 真	デザイン学科・准教授	420	木曜日を除く	hiruma
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-6				
授業概要	近代デザイン史に名を残した作品や出来事について、それぞれの社会背景や生活環境、技術などと照らしながら、デザインが生み出された理由や、その果たすべき役割について考える。			
到達目標	A. デザインの基礎知識として、過去の著名な人物や主要な事例について理解する。 B. デザインが社会や人々の生活や技術などとの関わりにおいて形成されている事を理解する。 C. 日本固有の芸術・文化が欧米のデザインに及ぼした影響の一端を理解する。			
授業方法	教科書に沿って座学を中心に行う。また、教科書の補助教材としてプリントを配付する。			
教科書	「世界デザイン史」阿部公正監修(美術出版社)			
補助教材	必要に応じてプリント資料を配布する。			
評価方法	定期試験 100% 評価は年間4回の定期試験(前期中間、前期末、後期中間、学年末)の点数を平均して算出する。			
関連科目	デザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
準備学習 に関する アドバイス	授業で扱う項目をもとに、展覧会等で実物を見たり教科書以外で紹介されている資料に目を通すと、興味の対象が広がり、デザインへの理解を深めることにつながります。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	デザイン史を理解するために	<input type="checkbox"/> デザイン史を学ぶ目的について理解できた
1.5	近代デザインの兆し	<input type="checkbox"/> 近代デザインが成立した背景が理解できた
3	イギリスの伝統と革命	<input type="checkbox"/> アーツ・アンド・クラフツ運動の目的が理解できた
3	アール・ヌーヴォーの世界	<input type="checkbox"/> モリスの思想と実践と、その広がりを理解できた <input type="checkbox"/> 名称の由来、その源泉的要素や特徴について理解できた <input type="checkbox"/> バリにおける主要なアール・ヌーヴォーの展開を理解できた <input type="checkbox"/> 分離派、ウィーン工房の考え方が理解できた
1.5	ウィーンの風土	
0.75	前期中間試験	
0.75	試験答案返却・解説	
1.5	芸術と産業	<input type="checkbox"/> ドイツ工作連盟の目的とベーレンスの実践について理解できた
3	バウハウス—芸術と技術の統一 都市感覚とデザイン	<input type="checkbox"/> 3つの教育の柱とそのねらいについて理解できた <input type="checkbox"/> デザインの展開について、設計意図から造形を理解できた
1.5	オランダの近代運動	<input type="checkbox"/> アール・デコの造形的な特徴について理解できた
1.5	ロシアのユートピア	<input type="checkbox"/> 新造形主義の考え方や造形表現について理解できた
1.5	市民社会のグラフィック・デザイン	<input type="checkbox"/> ロシア構成主義の考え方の概略を理解できた
1.5	市民社会のグラフィック・デザイン 近代の視覚イメージ	<input type="checkbox"/> グラフィック・メディアの成長について概観する事ができた <input type="checkbox"/> 社会背景の変化と技術の発展という視点から理解できた
0.75	前期末試験	
0.75	試験答案返却・解説	
3	アメリカのインダストリアル・デザイン	<input type="checkbox"/> IDがアメリカで発展した理由とその役割がわかった <input type="checkbox"/> 第一世代のデザイナーとその仕事について理解できた <input type="checkbox"/> 異なる歴史文化を持つ欧州各国の諸相を概観する事ができた
4.5	ヨーロッパの現代デザイン	<input type="checkbox"/> 各国を代表する企業やデザイナーを把握する事ができた <input type="checkbox"/> 特定の企業やデザイナーについて調査し発表する事ができた
3	アメリカの現代デザイン	<input type="checkbox"/> デザインポリシーやCIの役割について理解できた <input type="checkbox"/> ポスト・モダンの考え方とその実践について理解できた
0.75	後期中間試験	
0.75	試験答案返却・解説	
3	美術誕生と商業美術の時代	<input type="checkbox"/> 日本のデザインの揺籃期を概観した <input type="checkbox"/> 女性の社会的地位付けの変化に伴うデザインの展開を概観した
3	産業工芸と商業美術の時代	<input type="checkbox"/> 商工省工芸指導所をはじめとする工芸の動向を概観した <input type="checkbox"/> 商業美術の定着からグラフィックデザイン確立までを概観した
3	大量消費社会とデザイン	<input type="checkbox"/> 戦後復興期から高度経済成長期のデザインの変遷を概観した <input type="checkbox"/> 世界デザイン会議と東京オリンピック以降の動向を概観した
0.75	学年末試験	
0.75	試験答案返却・解説	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン実習Ⅱ(平面)	AD:デザイン学科	4年	通年	6
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Seminar on Creativity 2 (2D Design)	*必修	31.5	講義	103.5
			演習	
			実験・実習	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
幸島 伸	デザイン学科・非常勤講師	420	火曜日午後・水曜日	koujima.shin
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-2 AD-3 AD-4 AD-5				
授業概要	伝達媒体をデザインするために必要な知識と技術を実習形式で学ぶ。			
到達目標	<p>A. 平面デザインを行う上で必要な知識を身につける</p> <p>B. 豊かで分かりやすい視覚伝達表現ができる</p> <p>C. それぞれの媒体に有効な表現方法を理解し、適切にまとめる事ができる</p> <p>D. デザインプロセスを理解し、それぞれのステージに沿って作業を進める事ができる</p> <p>E. 生活の中でのデザインの役割を理解し、ユーザーの立場に立って提案することができる</p>			
授業方法	実践的なデザイン制作を身につけるために、それぞれのステージに必要なデザインプロセスに沿って作品製作を行い、自らの考えを成果物としてまとめていく。			
教科書	無し			
補助教材	適宜プリントを配布			
評価方法	<p>評価は年2回(前期末、後期末)提出課題100%で算出する。</p> <p>提出期限内に提出された課題は100%で評価、提出期限に遅れたものは一律80%の評価とし、全課題の単純評価を総合評価とする。未提出課題は0点評価となり、科目として不可になる可能性があります</p> <p>※本科目は【学年終了要件科目】であるため未修得(不可)になった場合は原級留置になります。十分注意してください。(Info2017参照)</p>			
関連科目	デザイン実習Ⅰ(平面)、デザイン実習Ⅲ(平面)			
準備学習に関するアドバイス	授業内でできることは限られています。授業時間を充実したものにするために、毎回の授業の終わりに、次の授業までに何をどこまで進めておくことが望ましいのかをよく考え、授業外の時間を使ってしっかり準備しておきましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	はじめに	<input type="checkbox"/> 授業目的、授業の進め方、評価の方法を理解する
10.5	視覚伝達	<input type="checkbox"/> 色彩とイメージについて(A. B) <input type="checkbox"/> 形態とイメージについて(A. B) <input type="checkbox"/> 文字とイメージについて(A. B)
42	視覚言語	<input type="checkbox"/> タイプフェイスについて(A. B) <input type="checkbox"/> タイポグラフィについて(A. B) <input type="checkbox"/> ダイアグラムについて(A. B) <input type="checkbox"/> ピクトグラムについて(A. B)
54	媒体制作	<input type="checkbox"/> イラストレーションポスターについて(A. B. C) <input type="checkbox"/> ブックカバーについて(A. B. C) <input type="checkbox"/> 写真について(A. B. C) <input type="checkbox"/> 写真詩集コンセプト(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> 写真詩集の編集(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> 写真詩集の製本(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> 広告のコンセプト(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> 広告のビジュアル展開(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> CDジャケットのコンセプト(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> CDジャケットの製品提案(A. B. C. D. E) <input type="checkbox"/> CDジャケットのプレゼン(A. B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 楽しさを演出するデザインの企画(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> 楽しさを演出するデザインのビジュアル展開(A. B. C. D) <input type="checkbox"/> 楽しさを演出するデザインのプレゼン(A. B. C. D. E)
9	学習指導期間	(上記の中から実施)
18	科目別補講(年間3回実施)	(上記の中から実施)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
135時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン実習Ⅱ(立体)	AD:デザイン学科	4年	通年	6
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Seminar on Creativity 2(3D Design)	*必修	講義	演習	実験・実習
135				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
比留間 真	デザイン学科・准教授	420	木、日曜日以外	hiruma
竹内 明	デザイン学科・非常勤講師	420	水、木曜日pm	takeuchi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-2 AD-3 AD-4 AD-5				
授業概要	火曜日授業：空間をデザインするために必要な知識と技能を講義・演習・実習形式で学ぶ 水曜日授業：課題に沿ったデザインの表現（スケッチ、レンダリング、製図、モデリング、プレゼンテーション）の基礎技能を身に付けるため、講義・演習・実習形式で体験する。			
到達目標	A. デザインを行う上で必要な基礎知識、基礎技能にふれる。 B. デザインプロセスを体験しながら、それぞれのステージに沿って計画的に作業を進める事が出来る。 C. 課題を判り易く伝えるために必要な表現方法について効率的に作業を進める。 D. 生活の中でデザインの役割や、使い手の立場に立った提案について検討することができる。			
授業方法	様々な課題に対して、提出期限を意識して、高品質なアウトプットを目指して、各自で計画的にデザイン作業を進める。			
教科書	デザイン技術（文部科学省）、デザイン材料（文部科学省）			
補助教材	なし			
評価方法	評価は前期末と学年末の年間2回行う。 すべての提出物の評価を平均し、火曜日授業：33%、水曜日授業：67%の配分で総合評価を算出する。 評価ポイント ・ 課題書に記載された提出物の要件を満たしていること ・ 提出期限に遅れた場合は、相応に減点する。 ・ 提出作品の品質が著しく低い場合は、再提出（手直し）を求める。 ※本科目は、学年修了要件科目である。未習得（不可）とならないよう十分留意すること。			
関連科目	デザイン実習Ⅲ、応用デザイン実習Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	授業の時間内に出来ることは限られています。毎回授業の終わりに次の授業までに準備が必要な内容を確認し、自分の時間を使って出来ることを進めましょう。 常日頃から身の回りのモノに興味を持って取り組むこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
5	<火曜日授業> 図面トレース演習	<input type="checkbox"/> 各図面や表の役割を概観した(A) <input type="checkbox"/> 縮尺で表記される寸法を、実寸で確認できる(A) <input type="checkbox"/> インテリアの構成を伝える設計図書の内容を理解した(A)
5	模型製作演習	<input type="checkbox"/> 図面を基に出来るだけ正確に模型を造ることが出来る(C) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション効果を考へて模型を作成できる。 <input type="checkbox"/> 木材の特徴と木構造の種類を概観した(A)
32	空間設計	<input type="checkbox"/> 対象の実地調査を通して問題点の抽出(B) <input type="checkbox"/> 使用者の使用目的・ライフスタイルに基づき提案を考えられる(D) <input type="checkbox"/> 空間の計画のポイントを概観した(C) <input type="checkbox"/> 人体の寸法や人間の行動の特性について概観した(D) <input type="checkbox"/> 環境要素（光・熱・空気・音）について概観した(A)
15	<水曜日授業> アイデアスケッチ	<input type="checkbox"/> サムネールスケッチを数多く描く(A,C) <input type="checkbox"/> アイデアスケッチを素早く描く(A,C) <input type="checkbox"/> 提案スケッチを魅力的に描く(A,C,D)
12	製図	<input type="checkbox"/> デザイン概要図を作図する(A,C) <input type="checkbox"/> モデル製作図面を作図する(A,C) <input type="checkbox"/> ボンチ絵図面を作図する(A,C)
15	レンダリング	<input type="checkbox"/> 樹脂製品のレンダリングを描く(A,C) <input type="checkbox"/> 金属製品のレンダリングを描く(A,C) <input type="checkbox"/> 透明製品のレンダリングを描く(A,C) <input type="checkbox"/> 木製品のレンダリングを描く(A,C)
36	モデリング	<input type="checkbox"/> 目的に沿ったモデル製作する(B,C) <input type="checkbox"/> 材料を選択・計画する(B,C) <input type="checkbox"/> 製作スケジュールの立案する(B,C) <input type="checkbox"/> 工具・機械の使い方を知る(B,C)
6	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> ポートフォリオをまとめる(A,B,C,D) <input type="checkbox"/> 口頭で作品の提案説明ができる(A,B,C,D)
9	科目別補講	<input type="checkbox"/> 上記課題の補修時間を別途設ける
合計 135 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 （一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格）	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用デザイン実習Ⅰ(平面)	AD:デザイン学科	4年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Applied Design Project 1 (2D Design)	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420・418	水・日曜以外	ujjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AD-3 AD-4 AD-5 AD-6				
授業概要	グラフィックデザインに必要な技法の習得、更にデザインを行う上で重要な「発想法」について、実習を通して習得していく。デザインプロセス、商品企画を通して、各自が独自で物事を「考える」力を養う。 ※校外デザインコンペ等への作品出品も考慮する予定。			
到達目標	A. 商品企画に必要な発想法・企画手法を実践的な実習を通して理解する。 B. グラフィックデザインを考えていく際の基礎知識を理解する。 C. 自分の得意・不得意な分野を理解し、個々にあった実践的な発想・アイデア展開ができる。 D. 作品の表現に必要な、基本的な表現およびカンパ・ダミー製作ができる			
授業方法	実際に販売・掲出されているデザイン物について研究・考察し、その内容を参考に自分たちで新たな表現物を企画・制作・提案していく。年間4つのプロジェクトによる作品制作およびプレゼンテーションを行う。			
教科書	無し(授業内でプリントを配布する)			
補助教材	無し			
評価方法	半期毎の年2回評価を行う 年間4件のPROJECT作品を制作し、それぞれ個別に評価し半期毎に集計、年度末に総合評価を行う。 年度末最終評価は、半期毎評価の単純平均とする 総合評価配点：最終作品評価40%・プレゼンテーション30%+授業内での小課題30%評価。 (授業内で中間チェック時にレポート等の小課題を行い、その内容を総合評価に含めます。) 原則として提出遅れは認めません。就職活動・病気など、やむを得ない事情がある場合には、その状況を考慮して評価比率を変更します。また、未提出課題は0点評価となり、科目として不可になる可能性があります。			
関連科目	応用デザイン実習Ⅱ、デザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(平面)			
準備学習に関するアドバイス	デザインは総合芸術です。一人ひとり幅広い視点と奥深い自己分析が求められます。日常生活の中でもデザインに対する問題意識を持ち、特に「人間」に興味を持って、常に日常を観察するようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	授業計画、評価方法の説明
2.25	商品とその開発手法について	<input type="checkbox"/> 代表的な印刷媒体・広告などの企画開発手法を把握する(講義・研究)
3	商品研究	<input type="checkbox"/> 印刷技術応用商品をサンプルに開発手法を分析し理解する
	PROJECT#1	新分野について研究し、関連した商品を提案
3	新規企画提案へのトライ(菓子)	<input type="checkbox"/> 現在の商品を分析し特徴を把握できる
9	アイデア展開 試作・実製作	<input type="checkbox"/> 新たな生活提案を目標に、それを具現化した表現を考えられる提案作品について発表・講評会
3	まとめ・プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 新商品に見合ったプレゼンツールの表現ができる
	PROJECT#2	現行(インターフェイス)物を分析し、改善をテーマに提案
3	新改善型企画提案へのトライ	<input type="checkbox"/> 自分でテーマ商品を選定、その商品について分析できる
9	アイデア展開 試作	<input type="checkbox"/> 考え方を整理し、計画的に制作を進行できる提案作品について発表・講評会
3	まとめ・プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 提案物を簡潔に説明できる
	PROJECT#3	コスト・生産までを考慮したトータルな商品提案
3	トータル・コーディネーション	<input type="checkbox"/> 要求される内容を整理し、応えられる表現の企画を立案できる
9	アイデア展開 試作・実製作	<input type="checkbox"/> 制作費用からその数まで、製品企画の基本を理解できる提案作品について発表・講評会
3	まとめ・プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 指定時間内に、簡潔に提案内容を発表できる
	PROJECT#4	与えられたテーマ内で様々な商品デザインを分析し新提案を行う
3	自由(自主)提案	ウェルフェアデザインコンテストチャレンジ 総合ガイダンス(立体・平面含)
6	調査・企画立案	<input type="checkbox"/> テーマに沿った手法を考え、しっかり調査できる
3	中間プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 調査結果を的確に整理し、簡潔に発表できる
12	企画立案 アイデア展開 実製作	<input type="checkbox"/> 企画案を立案し、その内容に沿って作品を自分で判断できる
3	まとめ・プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 作品を含めて、計画的・総合的・効果的な発表ができる
6	学習指導機関	半期ごとの作品まとめ修正作業を行います
6	科目別補講(見学・取材)	PROJECT#4に関連した取材・調査活動を行う予定(詳細未定) ※校外授業の内容については、変更になる可能性があります
6		
6		
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
102時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用デザイン実習Ⅰ(立体)	AD:デザイン学科	4年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Applied Design Project 1 (3D Design)	必修	講義	演習	実験・実習
				90
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
石黒 猛	デザイン学科・非常勤講師	420	木曜日午前	ishiguro
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-3 AD-4 AD-4 AD-6				
授業概要	プロダクトデザインに必要な技法の習得、更にデザインを行う上で重要な「発想法」について、実習を通して習得していく。デザインプロセス、商品企画を通して、各自が独自で物事を「考える」力を養う。 ※校外デザインコンペ等への作品出品も考慮する予定。			
到達目標	A. 商品企画に必要な発想法・企画手法を実践的な実習を通して理解する。 B. プロダクト・インテリアデザインを考えていく際の基礎知識を理解する。 C. 自分の得意・不得意な分野を理解し、個々にあった実践的な発想・アイデア展開ができる。 D. 作品の表現に必要な、基本的な表現およびモデル製作ができる。			
授業方法	実際に販売・掲出されているデザイン物について研究・考察し、その内容を参考に自分たちで新たな表現物を企画・制作・提案していく。年間4つのプロジェクトによる作品制作およびプレゼンテーションを行う。			
教科書	無し(授業内でプリントを配布する)			
補助教材	無し			
評価方法	半期毎の年2回評価を行う 年間4件のPROJECT作品を制作し、それぞれ個別に評価し半期毎に集計、年度末に総合評価を行う。 年度末最終評価は、半期毎評価の単純平均とする 総合評価配点：最終作品評価40%・プレゼンテーション30%+授業内での小課題30%評価。 (授業内で中間チェック時にレポート等の小課題を行い、その内容を総合評価に含めます。) 原則として提出遅れは認めません。就職活動・病気など、やむを得ない事情がある場合には、その状況を考慮して評価比率を変更します。また、未提出課題は0点評価となり、科目として不可になる可能性があります。			
関連科目	応用デザイン実習Ⅱ、デザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(立体)			
準備学習に関するアドバイス	デザインは総合芸術です。一人ひとり幅広い視点と奥深い自己分析が求められます。日常生活の中でもデザインに対する問題意識を持ち、特に「人間」に興味を持って、常に日常を観察するようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	授業計画、評価方法の説明
2.25	履歴プレゼンテーション	授業の概要を過去作品に触れながら説明
	PROJECT#1 (Observation 法)	OBSERVATION(観察技法)を習得する 観察技法の一連の技法を製品開発のプロセスを通して習得する 企画立案・アイデア展開・モデル、発表用パネル製作 <input type="checkbox"/> 観察技法を用いて、顧客観察技法を習得する
6	Observation 法解説+実践	<input type="checkbox"/> 新商品に開発にそってモデル制作及びプレゼンツールの表現ができる
6	アイデア展開	
3	簡易試作	
3	プレゼンテーション・講評	
	PROJECT#2 (Rapid Prototyping 法)	RAPID PROTOTYPING(試作発想法)を習得する 試作発想法の一連の技法を製品開発のプロセスを通して習得する 企画立案・試作展開・モデル、発表用パネル製作 <input type="checkbox"/> 試作発想法を用いて、試作発想法を習得する
3	Rapid Prototyping 法解説+実践	<input type="checkbox"/> 試作を通しての思考、アイデアの発展が出来る
3	アイデア展開	
9	Rapid Prototyping の実践	
3	プレゼンテーション・講評	
	PROJECT#3 (トータル・デザインコーディネーション)	TOTAL DESIGN(全体視点での製品開発)を体験する コスト・生産までを考慮したトータルな商品提案 要求される内容を整理し、応えられる表現の企画を立案する 企画立案・アイデア展開・ラフ・実作品製作、まとめ作業 <input type="checkbox"/> 制作費用からその数まで、製品企画の基本を理解できる 提案作品について発表・講評会 <input type="checkbox"/> 使用する工作機械の特性を理解してデザインに付加出来る
3	トータル・デザインコーディネーション解説	
6	計画・試作・製作	
3	プレゼンテーション・講評	
	PROJECT#4 (応用デザイン)	与えられたテーマ内で様々な商品デザインを分析し新提案を行う ウェルフェアデザインコンテストチャレンジ 総合ガイダンス(立体・平面含)
3	自由(自主)提案	<input type="checkbox"/> テーマに沿った手法を考え、しっかり調査できる
6	調査・企画立案	
	中間プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 調査結果を的確に整理し、簡潔に発表できる
12	企画立案 アイデア展開 実製作	<input type="checkbox"/> 企画案を立案し、その内容に沿って作品を自分で判断できる
	まとめ・プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 作品を含めて、計画的・総合的・効果的な発表ができる
6	学習指導機関	半期ごとの作品まとめ修正作業を行います
6	科目別補講(見学・取材)	PROJECT#2, PROJECT#3, PROJECT#4に関連した取材・調査活動を行う予定(詳細※校外授業の内容については、変更になる可能性あり)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
コンピュータグラフィックスⅡ(平面)	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Graphics 2 (2D Design)	必修	0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
三河 一郎	デザイン学科・非常勤講師	420	火曜: 11:00~13:00	mikawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	Adobe Illustrator・Adobe Photoshopを使用し、二次元CG技能を習得する			
到達目標	(A) Illustratorにおいて自由にベジエ曲線を描画出来る (B) Photoshopにおいて各種ツール、特にレイヤー機能を自在に扱うことが出来る (C) Photoshopにおいてスタイル機能を使いこなし、制作のスピードアップを図ることが出来る (D) IllustratorとPhotoshop、或いはデジタルとアナログ画材との連携が自由に出来る (E) CGソフトの機能制約に縛られず、アイデアを自由に具現化出来る			
授業方法	教員が制作過程をデモし、機能をステップバイステップで学ぶ。応用力をつけるため、必要なテクニックを教員が学生各々にアドバイスする			
教科書	無し。必要に応じてプリント配布			
補助教材	クロッキーブック・筆記具は必ず持参のこと			
評価方法	基本的に1課題100点満点とし、前期:理解度50%・作品50%を評価後期:課題作品の評価を100%(内訳、クオリティー40%・作業スピード20%・発想力40%)作品の提出遅れは一切認めないやむを得ない事情にて提出遅れが生ずる場合は申告すること。但し、遅延1日ごとに4点を減する課題未提出の場合、評価点は0点とする学年末:前後期評価を乗じて総合評価			
関連科目	表現法			
準備学習に関するアドバイス	知的好奇心を持つ、普段からいろいろな物をよく観察する、ジャンルにとらわれず様々な作品を見る。それが作品制作の糧になります。スピード感をもって制作に取り組むこと。するとそのうち脳とデジタルツールが直結する瞬間が訪れます			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法を説明
1.5	トライアル課題	<input type="checkbox"/> 各々の現時点でのスキルを見極める
1.5	デモンストレーション	<input type="checkbox"/> 担当教員によるデモンストレーション
3	Illustrator ブラッシュアップ	<input type="checkbox"/> より効率の良いオブジェクトの描画、ルーチンワークの効率化(A)
4.5	Photoshop ブラッシュアップ	<input type="checkbox"/> レイヤーの効果的な使い方、描画系ツール以外の表現習得(B)(C)
3	表現手法 1	<input type="checkbox"/> 質感表現を習得(D)
3	表現手法 2	<input type="checkbox"/> アナログイメージ・写真を効果的に取り入れる(D)(E)
4.5	課題制作 1	<input type="checkbox"/> 過去アート・デザインムーブメントのオマージュ的作品制作(D)(E)
7.5	課題制作 2	<input type="checkbox"/> 自然の中からモチーフを見つけ制作(E)
12	自由課題	<input type="checkbox"/> 表現手法にとらわれず、オリジナル作品を制作(E)
3	科目別補講	<input type="checkbox"/> オリジナル作品プレゼンテーション・講評
	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 上記内容の中から実施
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
コンピュータグラフィックスⅡ(立体)	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Graphics 2 (3D Design)	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
織田 豊一	デザイン学科・非常勤講師	420	火: AM/木: PM	oda
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-4				
授業概要	デザインを表現するツールのひとつとして、CG制作に必要な基礎的な知識や技能を演習を通じて学ぶ。			
到達目標	A 作業環境の基本設定ができる B コマンドラインの意味を理解しコマンドプロンプトを使用することができる C 座標システムを理解し三次元上にオブジェクトを配置できる D モデリングに必要な基本曲線が描ける E サーフェスツールを使用し基本的な形をつくれる F ソリッドとサーフェスの違いを理解する G レンダリングの基本設定ができる			
授業方法	実習形式で授業を行う。 3Dモデリングソフト(Rhinoceros)を使用し、課題制作を通してCG作成の基本を学ぶ。			
教科書	なし(必要に応じてプリントを配布)			
補助教材	なし			
評価方法	評価は年間2回(前期末、後期末)。 各区間の評価は課題(100%)で行う。 学年末総合評価は前期末、後期末評価の単純平均とする。 作品の提出遅れは認めない。 やむを得ない事情にて提出遅れが生ずる場合は申告すること。理由によって、評価比率を変更します。 課題未提出の場合は、評価点を0点とする。			
関連科目	コンピュータグラフィックスⅠ			
準備学習 に関する アドバイス	CG制作するためには、物がどのような形で構成されているのか読み解く力が必要です。 また、図面を正しく読み解く能力、物を図面化できる能力も重要です。 普段からさまざまな物をじっくり観察し立体把握能力を養うようにすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス、3DCAD/CGの基本	<input type="checkbox"/> 授業の概要説明、評価方法
4.5	～基本操作～ 画面構成と操作 メニューとコマンド ビューポート モデリング補助機能 座標システム オブジェクトの選択 レイヤ	<input type="checkbox"/> モデリングソフト(Rhino)のインターフェイス(A) <input type="checkbox"/> メニュー、ツールの使い方(A) <input type="checkbox"/> コマンドプロンプト(B) <input type="checkbox"/> ビューポート設定と切り替え(A) <input type="checkbox"/> ビューポートタイルの設定と編集(A) <input type="checkbox"/> ビューポート表示モード(A) <input type="checkbox"/> オブジェクトスナップ、スマートトラック(A) <input type="checkbox"/> 直行モード(A) <input type="checkbox"/> カーソルの動きと拘束(A) <input type="checkbox"/> 座標の種類と入力(B,C) <input type="checkbox"/> 絶対座標と相対座標(B,C) <input type="checkbox"/> 選択窓を使ったオブジェクトの選択(A) <input type="checkbox"/> レイヤの作成と編集(A)
3	<モデリング 課題-1> 箱のモデリング	<input type="checkbox"/> 曲線の作成と変形(D) <input type="checkbox"/> サーフェスの作成と変形(E)
3	<モデリング 課題-2> 各種機械部品のモデリング	<input type="checkbox"/> 曲線利用したサーフェスの作成と編集(B,C,D,E)
3	<モデリング 課題-3> コーヒーマグのモデリング	<input type="checkbox"/> 二次曲線を用いた立体物の作成(B,C,D,E)
1.5	～ソリッドとサーフェスの作成～ ソリッドモデルとサーフェスモデルの違い	<input type="checkbox"/> ソリッドモデルとサーフェスモデルを作成(E,F) <input type="checkbox"/> オープンエッジの見方と処理方法(E,F)
3	サーフェス作成ツール(基本編) エッジ、ネットワーク、ロフト、ブレン	<input type="checkbox"/> サーフェス作成に必要な基本ツールの解説(E,F)
4.5	<モデリング 課題-4> ボートのモデリング(ソリッドモデルの作	<input type="checkbox"/> ソリッドモデルの作成(D,E,F)
3	～表現～ レンダリングに必要な各種設定	<input type="checkbox"/> マテリアル設定とマッピング(G) <input type="checkbox"/> 光源と環境の設定と編集(G) <input type="checkbox"/> カメラの設定と編集(G) <input type="checkbox"/> レンダリング設定とファイル保存(G)
7.5	<モデリングとレンダリング 課題-5> ホイールのモデリング	<input type="checkbox"/> 画像データをもとにモデリング(C,D,E,F) <input type="checkbox"/> レンダリングの作成(G)
7.5	<モデリングとレンダリング 課題-6> デスクのモデリング	<input type="checkbox"/> 実測をもとにモデリング(C,D,E,F) <input type="checkbox"/> レンダリングの作成(G)
3	科目別補講	
合計 45 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン概論	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Introduction to Design	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
石黒 猛	デザイン学科・非常勤講師	420	木曜午前	ishiguro
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AD-1 AD-5 AD-6				
授業概要	前期: デザイナーとして知っておくべき情報通信に関する知識を身に付け、情報デザインについて学ぶ 後期: 様々な視点(クリエイターの手法を紹介しながら)で、デザインを捉えることにより、デザインとは何か?について考え、自分のデザインに対する考え方を作り上げていく			
到達目標	A. 普段使っている電子メールを問題なく利用できる B. 普段使っているインターネットの危険性を理解でき、問題なく利用できる C. 無線LANについて簡単に説明できる D. Bluetoothについて簡単に説明できる E. 情報デザインの世界を知ることができる F. デザインに隠れている数学的要素を簡単に理解できる G. プログラミング言語を体験できる H. 様々なデザインとその成り立ち・概要を理解できる。 I. デザインが関連する幅広い分野の事象を理解できる。 J. 複数の視点を持って、身の回りの商品やメディアを独自に考察できる。 L. 「デザインとは何か?」「良いデザインとは?」について考え、自分の考え方をまとめその内容を、小論文にまとめられる			
授業方法	座学、講義を主として実施する。適宜課題を課し提出を求める。			
教科書	無し(授業内でプリント等を配布する)			
補助教材	無し			
評価方法	前期・各試験までを1区間として全2区間で評価する。 ・各試験までに3回程度の課題を提示する。(課題は指定日までにレポートとして提出すること) ・中間区間(授業始めから中間試験まで) 課題(20%) + 試験(80%) = 100点 ・期末区間(中間試験後から期末試験まで) 課題(20%) + 試験(80%) = 100点 ・最終評価(中間区間評価点 + 期末区間評価点) ÷ 2 = 最終評価点 後期・各試験までを1区間として全2区間で評価する。 各区間の評価方法 定期試験80%(資料持ち込み可、論文形式)+授業内での小課題20%評価 (授業内で中間チェック時にレポート等の小課題を行い、その内容を総合評価に含めます。) ・総合評価は区間評価の単純平均とする。			
関連科目	デザイン心理、デザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、応用デザイン実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究			
準備学習に関するアドバイス	普段使っているメールなど、IT技術に興味をもつことが大切です。 また、身の周りの様々な商品やデザインをよく見て、その意味を考えるようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
前期分		
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の狙いや進め方、評価の仕方を理解する
1.5	メール技術について	<input type="checkbox"/> メール技術の概要について理解する (A)
1.5	インターネット技術について	<input type="checkbox"/> インターネット技術の概要について理解する (B)
1.5	無線LAN技術について	<input type="checkbox"/> 無線LAN技術の概要について理解する (C)
1.5	Bluetoothについて	<input type="checkbox"/> Bluetooth技術の概要について理解する (D)
3	ネットワーク実習	<input type="checkbox"/> 実習 (A, B, C, D)
0.75	中間試験	
1.5	情報デザインとは	<input type="checkbox"/> 情報デザインについて理解する (E)
1.5	情報デザインの作品紹介	<input type="checkbox"/> 情報デザインの作品、情報デザインの世界について理解する (E)
1.5	数学とデザインの関係	<input type="checkbox"/> デザインの数学的要素について理解する (F)
4.5	情報デザイン実習	<input type="checkbox"/> プログラミング言語について理解する (E, F, G)
0.75	期末試験	
1.5	作品展	<input type="checkbox"/> クラスメイトの作品をみて評価をする (E, F, G)
後期分		
1.5	ガイダンス、デザインとクリエイティビティ	<input type="checkbox"/> 授業の狙いや進め方、評価の仕方を理解する
4.5	表現とは	<input type="checkbox"/> 様々な表現についてジャンルを超えて考える事が出来る
4.5	表現者としての自分	<input type="checkbox"/> 表現者としての自分を客観視できる
0.75	中間試験	
1.5	ガイダンス、デザインの意味	
1.5	表現の源について	<input type="checkbox"/> 「表現の源」について理解できる
1.5	記号とデザインについて	<input type="checkbox"/> 「記号とデザイン」について理解できる
1.5	好奇心とデザインについて	<input type="checkbox"/> 「表好奇心とデザイン」について理解できる
1.5	装飾とデザインについて	<input type="checkbox"/> 「装飾とデザイン」について理解できる
1.5	観察とデザインについて	<input type="checkbox"/> 「観察とデザイン」について理解できる
1.5	まとめ及び試験解説	
0.75	期末試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン方法論	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Design Methodology	必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
比留間 真	デザイン学科・准教授	420	木曜日以外	hiruma
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420	水曜日以外	y-sakamoto
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AD-1 AD-2				
授業概要	デザインを進めていく上で必要となるさまざまなアプローチの手法を、講義を中心に修得していく。			
到達目標	A. デザイン表現に必要な基本的アプローチ方法と知識を理解できる B. デザイナーに必要な能力や資質について理解できる C. 提案を行うために必要なデザインプロセスを理解できる			
授業方法	適宜課題を課し、提出を求める			
教科書	無し(授業内でプリントを配布する場合がある)			
補助教材	なし			
評価方法	評価は前期末と学年末の年2回とする。 授業内で行う演習課題の評価を100%として各区間の評価とする。 総合評価は区間評価の単純平均とする。			
関連科目	デザイン実習Ⅱ・Ⅲ、卒業研究			
準備学習 アドバイス	デザインの幅を広げ、豊かなアイデアを発想できるようにするために、さまざまな作品に触れ、感性を磨くように心がけましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	前期 ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の狙いや進め方、評価の仕方を理解する
20.5	テーマ検索 背景調査 問題の整理、調査、分析 コンセプト検討 解決法アイデア展開 提案スケッチ作成 プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 様々なメディアからテーマを見つけ出す <input type="checkbox"/> テーマの背景を探り、現状を明らかにする <input type="checkbox"/> 現状から問題を整理する、問題点について調査を行い分析する <input type="checkbox"/> 変化すべき将来像を設定する <input type="checkbox"/> 将来像を可能にするためのアイデアを探る <input type="checkbox"/> 具体的な提案のスケッチを行う <input type="checkbox"/> 他者に理解してもらえるように説明する 以上全て(A, B, C)
	後期 【気付きと着想】 社会貢献とデザイン、使い手と価値観	<input type="checkbox"/> 広義から狭義に至るデザインの役割を概観した
	【発想とアイデア展開】 川上、川下の発想	<input type="checkbox"/> 新規提案から問題解決までアイデア展開について概観した
	【デザイン要件と造形の展開】 構造、レイアウト、ゾーニング 素材、生産加工技術、テクノロジー	<input type="checkbox"/> デザインを検討する際の材料となる項目について概観した
	【情報とビジュアル表現】 レイアウト演習 ビジュアルコミュニケーション演習	<input type="checkbox"/> 紙面を構成する秩序について概観した <input type="checkbox"/> 情報の伝達方法とその表現について実践した
	【コンセプトとデザイン表現】 一貫性がある指向と表現、アイデンティティ	<input type="checkbox"/> デザインポイントと優先順位付けの関係を概観した
	検討・検証 つくりながら考える	<input type="checkbox"/> アイデアを手早くかたちにしながら検討・検証を行った
		以上全て(A, B, C)
	科目別補講(授業に関連した見学を予定)	
合計 21 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
造形論	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Production Theory	必修	講義	演習	実験・実習
		21.5	23.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420	水曜日を除く	y-sakamoto
李 盛姫	デザイン学科・准教授	420	火曜日を除く	lee
西野 隆司	デザイン学科・准教授	420	火曜日を除く	nishino
谷上 欣也	デザイン学科・准教授	420	水曜日を除く	tanigami
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
AD-1				
授業概要	基本的な形の特徴と成り立ちを理解するために、様々な表現の事例を参考に論理的に考えて、形や造形に対する基礎知識を習得していきます。より大きな「造形」という視点から、物事を捉えてみましょう。			
到達目標	A デザインで必要とされる、形の基本的な理論・知識を理解する。 B 様々な形から、その形の成り立ちを分解し考えることができる。			
授業方法				
教科書				
補助教材	無し			
評価方法	評価は年2回(前期末、学年末) 各区切りごとの提出課題・レポート等を評価する。(平常点は課題・レポート等の評価に含める) (1) 前期末成績: 前期開始から前期末試験までの終了課題・レポート評価を集計し、平均値を前期末成績とする。 (2) 後期末成績: 後期開始から後期末試験までの終了課題・レポート評価を集計し、平均値を後期末成績として、前期末成績との平均値を学年末の評価とする。 原則として提出遅れは認めません。また、未提出課題が一つでもあった場合、科目として不可になる可能性が有ります。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	日頃から美術展やデザイン展等に足を運び、自分なりのテーマと形に対する問題意識をもって、絵画・デザイン物や彫刻、造形物をよく見てください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス(李)	<input type="checkbox"/> 形の基本的要素を理解する
1.5	講義: 形の基本について (点・線・面の考え方)	<input type="checkbox"/> 形の様々な表現方法や作品を知る
8.5	演習: グラフィックデザイン	<input type="checkbox"/> 平面作品を意図に沿って制作できる
0.5	ガイダンス(谷上)	<input type="checkbox"/> 生物の進化と造形について知る
7	講義: 自然界における造形	<input type="checkbox"/> 生活環境と造形の関係について分析できる
3	演習: テーマに沿ったレポート課題	<input type="checkbox"/> テーマに沿ったレポートが書ける
0.5	ガイダンス(坂元)	<input type="checkbox"/> 現代のデザインに至る過程を知る
7	講義: デザインの成り立ち	<input type="checkbox"/> デザインについて自分なりのスタンスを持つことが出来る
3	演習: テーマに沿ったレポート課題	<input type="checkbox"/> キーワードを理解し、考えをまとめて表現することができる
0.5	ガイダンス(西野)	<input type="checkbox"/> “flow”形の流れについて
7	講義・演習: 時間構成	<input type="checkbox"/> モチーフの選定とアイデア展開
3	制作・提出: GIFアニメーション制作	<input type="checkbox"/> GIFアニメーション制作
3	科目別補講(授業に関連した見学を予定)	
※学習指導期間は上記授業に含まれます		
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン心理	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Design Psychology	必修	講義	演習	実験・実習
		20	25	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
谷上 欣也	デザイン学科・准教授	420	水・日曜日以外	tanigami
比留間 真	デザイン学科・准教授	420	木・日曜日以外	hiruma
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AD-1 AD-2 AD-4				
授業概要	生活の中で目にする色や形が及ぼす心理的な影響について理解し、デザイナーとしておこなうべき造形表現について考える。			
到達目標	A. デザイン提案に必要な造形表現や設計等にかかわるデザイン心理を身につける B. チャレンジドや高齢者の心理に触れる			
授業方法	テーマごとの実例をもとに解説をおこない、簡単な演習を通して理解を深める。			
教科書				
補助教材	必要に応じて適宜プリントを配布する			
評価方法	評価は前期末と学年末の年2回おこなう。 課題やレポートの評点を100%として評価する。 ※指定された課題がすべて提出された場合のみ合格とする。			
関連科目	5年: デザイン実習Ⅲ・応用デザイン実習Ⅱ・卒業研究			
準備学習に関するアドバイス	問題意識を持って、身の回りの生活、製品、広告を見ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業内容や評価方法、ねらいを理解する
2	五感と心理	<input type="checkbox"/> 考え方の違い、感じ方の違いについて知る(A) <input type="checkbox"/> 五感について学ぶ(A) <input type="checkbox"/> 人間の五感について知る(A)
1	バリアフリーとユニバーサルデザイン	<input type="checkbox"/> バリアフリーについて知る(A)(B) <input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインについて知る(A)(B)
9	高齢者・障害者体験	<input type="checkbox"/> 体験を通してシニアやハンディキャップを持つ方の心理に触れる(B)
6	体験を通しての演習課題とレポート	<input type="checkbox"/> 課題やレポートを意図に沿って仕上げるができる
2	色彩心理	<input type="checkbox"/> 色が及ぼす心理的影響について知る(A)
7	かたちの心理 -1	<input type="checkbox"/> かたちの見え方について知る(A) (図と地/錯視/群化の法則 他) <input type="checkbox"/> 課題を意図に沿って仕上げるができる
7	かたちの心理 -2	<input type="checkbox"/> 視覚と聴覚(A)
7	かたちの心理 -3	<input type="checkbox"/> 大きさが及ぼす心理的影響について知る(A)
3	科目別補講(見学)	視覚体験ができる施設を訪問予定
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プレゼンテーション	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Presentations	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	22.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
西野 隆司	デザイン学科・准教授	420	火・日曜以外	nishino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AD-4				
授業概要	プレゼンテーションの必要能力である「情報収集力」「アウトプット表現力」「スピーチ力」を身につける。			
到達目標	<input type="checkbox"/> 情報を収集する能力が身につく <input type="checkbox"/> 各種プレゼンテーションツールを効果的に用いる事が出来る <input type="checkbox"/> 他者に対して的確に情報を伝える事が出来る			
授業方法	プリント・スライドを用いて課題主旨を説明し課題作成を行う。また同時に演習による実践的な授業も行う。			
教科書	なし			
補助教材	適宜配布			
評価方法	課題 (60%) と発表演習 (40%) によって評価する。 評価は年2回 (前期末、後期末)			
関連科目	卒業研究			
準備学習に関するアドバイス	日頃から文章作成の習慣を心がけること。同時に様々な広報物を見て自己表現の手法を研究すること。また、課題作成にあたっては理論的裏付けをしっかりと固めること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス (エントリーシートによるスピーチ)	<input type="checkbox"/> 授業概要説明, 評価方法の確認
4.5	エントリーシートの書き方	<input type="checkbox"/> エントリーシートの役割が理解できる
4.5	スピーチ演習	<input type="checkbox"/> 話し方の留意点を解説し面談意識の演習を行う
6	(パネルによるプレゼン) プレゼンパネル作成	<input type="checkbox"/> 文章表現・図表表現について解説するパネルが作成できる
4.5	プレゼンパネルによるプレゼン演習	<input type="checkbox"/> 作成したパネルを用いて効果的なプレゼンができる
6	(ポートフォリオによるプレゼン) ポートフォリオ作成方法	<input type="checkbox"/> 構成方法・表現方法について理解しポートフォリオを作成できる
4.5	ポートフォリオによるプレゼン演習	<input type="checkbox"/> ポートフォリオを効果的に使用して発表ができる
6	(パワーポイントによるプレゼン) パワーポイント・スライド作成方法	<input type="checkbox"/> PCを利用してスライドを作る能力が身につく
	パワーポイントによるプレゼン演習	<input type="checkbox"/> PCを利用した効果的なプレゼンスキルが身につく
4.5	学習指導期間 (年2回)	(上記項目の中から実施)
3	科目別補講日	卒業研究発表審査聴講
3	自主課題制作	<input type="checkbox"/> CAD で作図したデータをもとにillustrator で着彩できる
	学習指導期間 (年2回)	(上記項目の中から実施)
4	科目別補講日	校外見学
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
52 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
自然科学概論	AD: デザイン学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Science	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	12.5	10.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
長尾 明美	一般教育科・講師	211	金曜日を除く随時	a-nagao
山本 孝司	一般教育科・准教授	238	火曜を除く随時	yamatoka
伊藤 光雅	一般教育科・准教授	221	水曜日 12:30 - 17:00	itom
真島 裕樹	一般教育科・講師	221	金曜日 13:30 - 17:00	imajima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AD-1				
授業概要	化学:物質の色の見え方や実際に使われる化学物質についてを問題演習を通して身に付ける。 数学:身の回りの現象を、デザインを視野に入れて捉えなおす。また作図ソフトで基本的な作図を行う。 物理:身の回りの現象は物理的にはどう捉えられるか、製作・計測・講義を通して理解する。			
到達目標	A. 化学結合を理解し、化学と生命・社会活動の関わりが説明できる。 B. 接着剤・塗料や他の新素材の用途と特性を説明できる。 C. 白銀長方形と黄金長方形の性質を理解し黄金比が導ける。 D. 黄金三角形の性質を理解し正五角形の作図ができる。 E. フィボナッチ数列と植物の成長の関係をつかむ。等角らせんとアルキメデスらせんの違いが分かる。 生命・宇宙の中にある螺旋を知る。 F. フラクタル図形とは何かをいえる。ソフトを使ってフラクタル図形が作れる。 G. 作図ソフトを使って五角形の重心が作図できる。 H. 物体が飛行する原理を空力的に説明できる。 I. 軽く丈夫な構造物の原理を知り、設計・製作できる。 J. 物理現象がデザインにどのように生かされているかを、実例を元に説明できる。			
授業方法	化学: 演示実験を見せながら座学中心に進める。 数学: 座学とコンピューターによる演習を中心に進める。 物理: 製作を主体に講義を織り交ぜ、できるだけ体験的に物理を学ぶ。			
教科書	「新版 基礎数学」 岡本 和夫 監修 (実教出版)			
補助教材	雪月花の数学「桜井進」(祥伝社)、数学の隠された能力「石田 恭嗣」(数研出版)			
評価方法	前期前半(化学)、前期後半(数学)、後期前半(物理)、後期後半(物理)の4つの区間に分け、各 区間で評価を算出する。各分野の評定の算出は以下の通りである。 化学: 課題50%, 定期試験50% 数学: 課題30%, 定期試験70% 物理: 製作物の性能20%, 定期試験30%, レポート50% 総合評価点はそれまでの区間の評価の平均とするが、すべての区間で合格しないと不可となる。た だし、後期は前・後半の評価点の平均が60点未満の場合に不可とし、後期前半の区間評価点のみが60点未 満でも不可とはしない。 不可の場合の総合評価点は、1区間のみ不可の場合55点、2区間不可の場合は50点、4区間不可の場合は 40点とする。区間評価点が付加の場合、区間毎に再試験を行うことがある。再試験で合格した場合はそ の区間の成績が60点となり、それまでの区間の評価の平均が総合評価点となる。			
関連科目	化学, 基礎物理 I・II, 基礎数学 I・II, 平面基礎デザイン, 立体基礎デザイン			
準備学習 に関する アドバイス	集中して授業を受けること。特に課題にしっかり取り組むこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.3	ガイダンス	シラバスの説明
2.7	元素の誕生と周期表	<input type="checkbox"/> 周期表で金属・非金属・半金属がどの領域に属するかを説明できる。(A)
1.5	化学結合と物質	<input type="checkbox"/> 化学結合について理解できる(A)
1.5	溶解と溶剤	<input type="checkbox"/> 溶解のメカニズムや代表的な有機溶剤がわかる(B)
1.5	接着剤	<input type="checkbox"/> 代表的な接着剤について、説明できる(B)
1.5	新素材	<input type="checkbox"/> 産業上利用されている新素材とその用途について説明できる(B)
1.5	生命と物質	<input type="checkbox"/> 生命活動にかかわる代表的な物質を説明できる(B)
0.75	前期中間試験	前期中間試験
1.5	答案返却 答え合せ 黄金長方形と白銀長方形	<input type="checkbox"/> 答案返却 答え合せ 黄金長方形と白銀長方形の性質を学び 折り紙を折って理解を深める。(C)
1.5	黄金三角形と正五角形	<input type="checkbox"/> 黄金三角形の性質を理解し正五角形の成り立ちから 作図原理を理解する。(D)
1.5	フィボナッチ数列と螺旋	<input type="checkbox"/> 植物の成長とフィボナッチ数列の関係をつかみ、黄金比との関係 を確認する。またフィボナッチ長方形から螺旋を導入し、螺旋の 性質を確認して、生命、宇宙との関係を知る。(E)
1.5	フラクタル図形とは	<input type="checkbox"/> フラクタル図形とは何かを実例を通して学ぶ。 簡単なフラクタル図形を生成する。(F)
1.5	フラクタル図形の作成	<input type="checkbox"/> フリーソフト:ドラゴンジュミレーター、パーチャルツリーを使って フラクタル図形を作る。(F)
1.5	五角形の重心の作図	<input type="checkbox"/> 幾何ソフトカブリを使って五角形の重心を作図する。(G)
0.75	前期末試験	前期末試験
1.5	答案返却 命の花とは	答案返却と答え合せ: 命の花の秘密。
4.5	ペットボトルロケット製作	<input type="checkbox"/> ロケットの飛ぶ原理、運動量保存則を説明できる。(H) <input type="checkbox"/> ペットボトルロケットを製作し、距離を出すにはどうしたらよ いか考察することができる。(H)
6	プーメランの製作	<input type="checkbox"/> 重心、揚力、ジャイロ効果を理解し、説明できる。(H) <input type="checkbox"/> プーメランの作り方を理解し、製作することができる。(H)
0.75	後期中間試験	後期中間試験
6	物理とデザイン	<input type="checkbox"/> 物理とデザインの関係の初歩を理解し、説明できる。(I, J)
4.5	バスタブリッジの製作	<input type="checkbox"/> それぞれの羽の持つ働きを理解し、説明できる。(H) <input type="checkbox"/> 部材の性質、構造の強さを理解し、橋の設計に活かすことが できる。(I)
0.75	後期末試験	<input type="checkbox"/> 一定の基準を超える強い構造体(橋)を作ることができる。(I) 後期末試験
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン実習Ⅲ(平面)	AD:デザイン学科	5年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Seminar on Creativity 3 (2D Design)	*必修	10	講義	80
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420・418	水・日曜以外	ujjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-2 AD-3 AD-4 AD-5				
授業概要	4年までに学んだグラフィックデザインの考え方を基本にして、様々な広告・印刷メディア・デジタルメディアについて研究し、それぞれに使用されるグラフィックスの作成手法まで含めて、総合的に実習を通して修得していく			
到達目標	<p>A. 広告と各種印刷関連メディアの基本的な製作手法を理解し説明できる</p> <p>B. 自由に、自分のアイデア・イメージを表現できる</p> <p>C. ラフスケッチの段階で正確なイメージ表現できる</p> <p>D. 日常的に使用するDTP関連ソフト(イラストレータ・フォトショップ)が自由に使用できる</p>			
授業方法	個々の進路希望を考慮した上で、課題の中からテーマを選び、アイデア展開やラフイメージ作成のための、イラスト・写真を利用した画像制作の実習を行うとともに、それらをプレゼンテーションする			
教科書	無し(必要に応じて授業内でプリント配布)			
補助教材	無し			
評価方法	<p>半期毎の年2回評価を行う</p> <p>年間4件の課題作品をそれぞれ個別に評価し半期毎に集計、および年度末に平均をとって最終評価とします。</p> <p>総合評価配点:最終作品評価40%・プレゼンテーション40%+授業内での小課題20%評価。(授業内で中間チェック時にレポート等の小課題を行い、その内容を総合評価に含めます。)</p> <p>原則として提出遅れは認めません。就職活動・病気など、やむを得ない事情がある場合には、その状況を考慮して評価比率を変更します。また、未提出課題は0点評価となり、科目として不可になる可能性が有ります。</p> <p>※本科目は【学年終了要件科目】であるため未修得(不可)になった場合は原級留置になります。十分注意してください。(Info2017参照)</p>			
関連科目	応用デザイン実習Ⅱ、卒業研究			
準備学習に関するアドバイス	身の回りの書籍・広告など、印刷に関連したデザイン物が参考資料になります。日頃から、様々なメディアで使用されるコピー・イラスト・写真を良く見るように心がけてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	前期授業ガイダンス	年間授業計画の説明 進路希望相談 他
2.25	■ イメージ表現 パッケージと広告の企画提案	印刷デザインにおける表現手法を学ぶ <input type="checkbox"/> イラスト・写真作成時のポイント・色の特製を把握する
3	イラスト表現の調査・分析	<input type="checkbox"/> パッケージを題材に特種印刷などの技術を把握する
3	制作作品のテーマ設定	<input type="checkbox"/> 何をどのような手法で制作するのか、その企画案を作成できる
3	ラフアイデア作成 ラフ製作実習	<input type="checkbox"/> ラフスケッチ作成時の留意点を把握し自由に描ける
6	イラスト製作演習	<input type="checkbox"/> イラストを作成しながら、画材の特製など基本的な技術を学ぶ
6	写真製作演習	<input type="checkbox"/> 写真撮影しながら、光と色など基本的な技術を習得学ぶ
3	色の基礎知識	<input type="checkbox"/> RGB方式とCMYK方式の特性など、表現のための色の扱い方を学ぶ
6	ラフ作成・ラフに基づいた制作実習	<input type="checkbox"/> ラフSKを作成しイメージに合わせたグラフィック制作ができる
6	実制作	作品まとめ、およびフィニッシュワーク作業
3	プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 計画的・効果的に考えたプレゼンテーションができる
0.75	後期授業ガイダンス	後期授業計画の説明 進路相談 他
2.25	■ メディアと表現 遊具提案	印刷デザイン制作の流れに沿って総合的に企画提案する
3	個別テーマ設定	<input type="checkbox"/> 設定テーマに合わせて自在に資料集めができる
3	企画書/資料作成	<input type="checkbox"/> 考え方をまとめて、提案企画書(レポート)が作成できる
6	ラフ作成・実制作	<input type="checkbox"/> 制作ボリュームを把握し計画的に制作を進行できる
6	実制作	作品まとめ、およびフィニッシュワーク作業
3	プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 計画的・効果的に考えたプレゼンテーションができる
3	自主課題制作(取材を伴うリーフレット提案)	<input type="checkbox"/> 自主的に作品を企画し、制作計画を立案できる
4	資料まとめ・企画立案	<input type="checkbox"/> 提案作品のポイントをまとめた企画書が作成できる
9	実制作	作品まとめ、およびフィニッシュワーク作業
3	プレゼンテーション・講評	<input type="checkbox"/> 製作状況・仕上がりを自分で判断しフィニッシュできる
		<input type="checkbox"/> 計画的・効果的に考えたプレゼンテーションができる
	学習指導期間(上記項目から実施)	プレゼンテーション・講評会になる予定
8	科目別補講(見学・取材)	後期課題に関連した取材・調査活動を行う予定(詳細未定) ※校外授業の内容については、変更になる可能性あり
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザイン実習Ⅲ(立体)	AD:デザイン学科	5年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Seminar on Creativity 3 (3D Design)	必修	講義	演習	実験・実習
10	0	80		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420	水曜日以外	y-sakamoto
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-2				
授業概要	ここまで学んできたデザインの考え方を基本にしながら、自らの美の形を追求した造形表現を行う。また製作を通して造形技術の向上を図り、デザイン表現の可能性を探る。			
到達目標	A. 美を追求した造形の計画ができる B. 具体的な製作の手順を構築して実施できる C. 製作品の魅力伝えて共感を得ることが出来る			
授業方法	授業のはじめに課題の説明を行い、制作に取り組む			
教科書	特に指定しない			
補助教材	授業内で通達する			
評価方法	評価は年2回(前期末、学年末)とする。 課題評価100%として各区間を評価する。 課題提出の遅れは原則として認めない。 やむを得ない場合は評価比率を変更する。 未提出課題は0点として扱う。 成績表評価としての総合評価は、区間評価の単純平均とする。 必要に応じて追加補講などを行う。 ※本科目は【学年終了要件科目】であるため未修得(不可)とならぬように十分留意すること。			
関連科目	デザイン実習Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	日常的に身の回りにある表現を観察してその造形の魅力や効果について考えること。 またこれまでに発見した様々な表現に挑戦することが、技能向上のポイントとなる。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	導入授業	・授業内容や授業への取り組み方などのガイダンスと予備的演習 □取り組みむべき事柄、態度の理解
機能のある造形		・機能を獲得するための構造的解決と美の共存
11	1. 課題説明・講義・ディスカッション	□条件を満たす造形計画ができる(A, B, C)
20	2. 設計	□課題に対して複数のアイデア展開ができる(A, B)
50	3. 製作	□造形物の図面化ができる(A, B)
4. 発表		□スケールモデルによる検討ができる(A, B) □必要な道具を適切に使うことができる(B) □作品を適切に丁寧に仕上げる事ができる(A, B) □人前で作品の説明が的確に出来る(C) □質問に的確に答える事が出来る(C)
4	科目別補講	見学会実施予定
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用デザイン実習 II	AD:デザイン学科	5年	通年	4
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Applied Design Project II	必修	講義		
		演習		実験・実習
Applied Design Project II	必修	10		80
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
織田 豊一	デザイン学科・非常勤講師	420	火AM/木PM	oda
竹内 明	デザイン学科・非常勤講師	420	水PM/木PM	takeuchi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
AD-2 AD-3 AD-4 AD-5				
授業概要	実践的なデザインワークを行うとともに、提案先からの評価を受ける。グループワークを通じてチームワークの重要性を体験する。			
到達目標	A. デザインワークを主体的に行える。 B. 提案先の要望に沿ったデザイン展開ができる。 C. 提案先に対して実践的なプレゼンテーションができる。 D. 様々な人材と協力してグループワークができる。			
授業方法	課題毎に設定するグループワークで、スケジュールに沿ったデザイン展開を行い、期限までにまとめて提案プレゼンテーションを行う。			
教科書	特になし			
補助教材	特になし			
評価方法	評価は年貢2回（前期末と後期末） 前期総合評価と後期総合評価の単純平均とする。グループとしてのアウトプットを50%として、個人の貢献度を50%とする。自己評価とグループ内の相互評価を参考に評価する。			
関連科目	卒業研究 応用デザイン実習 I			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 本授業の目的を理解する
64.5	サレジオ幼稚園への提案 現状分析調査 企画構想立案 # 1 構想提案 デザイン展開 デザイン案まとめ # 2 具体的提案 制作 # 3 最終提案	<input type="checkbox"/> 必要な調査と分析 (A, B) <input type="checkbox"/> 分析された課題に沿った提案立案 (A, B, D) <input type="checkbox"/> 判り易く簡潔なプレゼンテーション (C) <input type="checkbox"/> 提案先からの要望に沿ったデザイン展開 (A, B, D) <input type="checkbox"/> 具体的なアイデアを整理する (A, D) <input type="checkbox"/> 判り易く簡潔なプレゼンテーション (C) <input type="checkbox"/> 実際に使用できる提案物を制作する (A, D) <input type="checkbox"/> 判り易く簡潔なプレゼンテーション (C)
18	【体験授業】新規提案 現状分析調査 企画構想 # 1 構想立案 デザイン展開 デザイン案まとめ # 2 具体的提案	<input type="checkbox"/> 必要な調査と分析 (A, B) <input type="checkbox"/> 分析された課題に沿った提案立案 (A, B, D) <input type="checkbox"/> 判り易く簡潔なプレゼンテーション (C) <input type="checkbox"/> 提案先からの要望に沿ったデザイン展開 (A, B, D) <input type="checkbox"/> 具体的なアイデアを整理する (A, D) <input type="checkbox"/> 判り易く簡潔なプレゼンテーション (C)
6	科目別補講	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
コンピュータグラフィックスⅢ(平面)	AD:デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Graphics 3 (2D Design)	必修	講義	演習	実験・実習
45				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420・418	水・日曜以外	ujjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1 AD-4				
授業概要	4年で学んだコンピュータグラフィックスⅡの基礎知識、技術力をもとに、DTPエキスパート認証試験テキストを利用して、模擬試験および制作課題を行うことでDTPをより深く学ぶ。			
到達目標	<p>A 「Illustrator」「Photoshop」「InDesign」を使いこなすことができる。</p> <p>B 組版ルールを理解できる。</p> <p>C サムネールにより、自分のアイデアを表現できる。</p> <p>D 他者が理解できるような制作指示書を作成することができる。</p> <p>E 現在の印刷物作成に必要な知識を身につけ、それを活用できる。</p>			
授業方法	前期は「InDesign」による制作課題を中心に基本的な使い方を学び、後期は過去のDTPエキスパート認証模擬試験とDTP関連ソフトのより進んだ使い方を学ぶ。			
教科書	DTPエキスパート試験 スーパーカリキュラム (JAGAT認証)			
補助教材	無し (内容に合わせて、参考資料を自分で探してください)			
評価方法	<p>半期毎の年2回評価を行う 両区間とも合格した場合のみ本科目を合格したものとする。</p> <p>前期は制作課題(100%)で、後期はDTPエキスパート認証模擬試験(50%)および制作課題(50%)で評価する。 学年末の総合成績は前期末と後期末の単純平均とする。</p> <p>原則として提出遅れは認めません。就職活動・病気など、やむを得ない事情がある場合には、その状況を考慮して評価比率を変更します。 また、未提出課題は0点評価となり、科目として不可になる可能性があります。</p>			
関連科目	コンピュータ・グラフィックスⅡ(平面)			
準備学習に関するアドバイス	コンピュータソフトについては、自ら考えて使うことが習得への近道といえます。テキストを参考にしながら、とにかく使ってみましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	本授業のねらい、課題説明、評価の仕方を理解する
4.5	DTP演習 雑誌ページ作成(1)	<input type="checkbox"/> InDesignのインターフェースが理解できる <input type="checkbox"/> フレームグリッド、テキストフレームを理解できる <input type="checkbox"/> 画像の配置、画像サイズの調整ができる <input type="checkbox"/> 図形オブジェクトの描画、色指定、変形ができる <input type="checkbox"/> テキストの入力、割り注の設定、文字揃えの設定ができる <input type="checkbox"/> 表組みの作成ができる
4.5	DTP演習 雑誌ページ作成(2)	<input type="checkbox"/> マスターページの設定ができる <input type="checkbox"/> レイヤーを適切に使いこなすことができる <input type="checkbox"/> 段落スタイル、オブジェクトスタイルの登録と適用ができる <input type="checkbox"/> 作品を印刷用としてプリントアウトできる
9	DTPおよびその周辺状況について	<input type="checkbox"/> DTPの役割、DTP技術などDTP全般について理解できる <input type="checkbox"/> 編集、デザインなど印刷発注側知識を身につけることができる <input type="checkbox"/> 組版、製版など印刷工程について理解できる <input type="checkbox"/> 印刷物作成に必要な色の知識を身につけることができる <input type="checkbox"/> アプリ、通信などコンピュータ全般について理解できる <input type="checkbox"/> 模擬試験の概略を理解できる
1.5	DTPエキスパート認証模擬試験	模擬試験実施
1.5	ガイダンス	
6	DTPエキスパート認証実技試験演習(1)	<input type="checkbox"/> 制作課題の内容を理解できる <input type="checkbox"/> 「制作の手引き」通りに作品のレイアウトができる <input type="checkbox"/> 作品中の画像の取り扱いを適切に処理できる <input type="checkbox"/> 作品中の文字組版が組版ルールに則り適切に処理できる <input type="checkbox"/> 作品の設計、要素、表現が適切であるか確認できる
9	DTPエキスパート認証実技試験演習(2)	<input type="checkbox"/> 他者が理解できる「制作指示書」を作成することができる
4.5	応用課題(旅行リーフレット作成)	<input type="checkbox"/> 制作課題の内容をもとに取材して展開できる
3	科目別補講日(校外見学および取材)	<input type="checkbox"/> 見学によりの確な取材活動ができる
	学習指導期間(上記内容から実施)	<input type="checkbox"/> 課題の達成度を確認できる
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
コンピュータグラフィックスⅢ(立体)	AD:デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Graphics 3 (3D Design)	一選択してください	講義	演習	実験・実習
		0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
織田 豊一	デザイン学科・非常勤講師	420	火: AM/木: PM	oda
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-4				
授業概要	4年のコンピュータグラフィックスⅡで学んだ基礎的なモデリングやレンダリング方法をもとに、デザインワークで必要となる実践的な表現方法を課題制作を通して学ぶ。			
到達目標	A サーフェス作成に必要なベース曲線が描ける B 三次曲面で構成されたオブジェクトを作成できる C エッジやサーフェスの編集ができる D オブジェクト構成を理解し基本的な制作工程を考えられる E 目的に合ったモデリングデータ及びCGの制作ができる			
授業方法	実習形式で授業を行う。 3Dモデリングソフト (Rhinoceros) を使用し、課題制作を通してCG作成の基本を学ぶ。			
教科書	なし (必要に応じてプリントを配布)			
補助教材	なし			
評価方法	評価は年間2回(前期末、後期末)。 各区間の評価は課題(100%)で行う。 学年末総合評価は前期末、後期末評価の単純平均とする。 原則として提出遅れは認めません。やむを得ない事情がある場合には、その状況を考慮して評価比率を変更します。また、未提出課題は0点評価となり、科目として不可になる可能性があります。			
関連科目	コンピュータ グラフィックスⅠ、コンピュータ グラフィックスⅡ			
準備学習 に関する アドバイス	デザインワークにおけるCGはアイデアを表現するひとつの手段です。 「何を表現したいのか」「何を伝えたいのか」を意識して制作することが重要です。 カタログなど様々な事例をよく見て、構図や配色について日頃から研究すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス ～サーフェスの作り方～	<input type="checkbox"/> 授業の概要説明、評価方法
1.5	<モデリング 課題-1> ワイヤーフレームから自由曲面をつくる	<input type="checkbox"/> ワイヤーフレームをつくる (A) <input type="checkbox"/> ワイヤーフレームをもとにサーフェスをつくる (B, C)
1.5	<モデリング 課題-2> サーフェスを編集しながらモデリング	<input type="checkbox"/> サーフェスの制御点を利用して形をつくる (A) <input type="checkbox"/> 変形ツールを使用してサーフェスの編集ができる (B, C)
1.5	<モデリング 課題-3> サーフェス上に曲面をつくる	<input type="checkbox"/> サーフェス上に曲線を投影できる (A) <input type="checkbox"/> サーフェスエッジの編集ができる (B, C)
1.5	<モデリング 課題-4> サーフェスの一部に凸をつくる	<input type="checkbox"/> サーフェス上の曲線をオフセットできる (A, B, C)
1.5	<モデリング 課題-5> フィレット処理	<input type="checkbox"/> フィレット処理に必要な補助曲線を生成できる (A) <input type="checkbox"/> フィレットツールがつかえる (B, C)
	～デザインとモデリング～	
6	<デザインとCG制作 課題-6> 懐中電灯のデザインとCG作成	<input type="checkbox"/> デザインしたものを3D化する (A, B, C, D, E)
6	<デザインとCG制作 課題-7> カトラリーセットのデザインとCG作成	<input type="checkbox"/> デザインしたものを3D化する (A, B, C, D, E)
21	<デザインとCG制作 課題-8> 自由テーマ アイデア展開/スケッチ・図面 モデリング レンダリング プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> デザインしたものを3D化する (A, B, C, D, E) <input type="checkbox"/> モデリングデータを用いてデザイン検証をする (A, B, C, D, E) <input type="checkbox"/> マテリアルやカラーシミュレーションができる (E) <input type="checkbox"/> デザイン提案書の作成 (E)
3	科目別補講	校外見学を予定
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
経営論	AD: デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Management	必修	講義	演習	実験・実習
45				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420・418	水・日曜以外	ujjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-5				
授業概要	講義を中心に、企業の資料をもとにして経営学の概要を学んでいきます。その中で、現代社会の中で大きな存在であり、生活を支える企業について学んでいきます。			
到達目標	<p>A 経営学の全体像について理解することができる。</p> <p>B 経営学と会計学の関連を理解することができる。</p> <p>C 経営学と経済学の関連を理解することができる。</p> <p>D 現代の会社とその仕組みについて理解することができる。</p> <p>E 企業と市場とのかかわりについて理解することができる。</p> <p>F 企業のマネジメントについて理解することができる。</p>			
授業方法	教科書をもとに講義を中心として授業を進め、定期試験(記述式)にて理解度を確認する。			
教科書	1からの経営学 第2版(中央経済社)			
補助教材	日経新聞、日経MJ、日経トレンディ等			
評価方法	1年を4区間に分け、各区間の評価方法は定期試験(80%)+レポート課題・小テスト(20%)とする。各区間で不合格の場合はレポート課題、補講等により補足する。総合評価は区間評価の単純平均とする。			
関連科目	マーケティング、デザインマネジメント			
準備学習に関するアドバイス	日頃から、企業の動きに着目し何をやろうとしているか、考えてみてください。TV東京のワールドビジネスサテライトも参考になりますので、見るようにしましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス・企業と経営学	授業の進め方、評価についてのガイダンス
1.5	経営学の全体像	<input type="checkbox"/> 経営学の概要を理解する
3	企業と会社について	<input type="checkbox"/> 企業の成り立ちと仕組みを理解する
1.5	企業と資本について	<input type="checkbox"/> 企業と資本、金融市場との関係を理解する
1.5	企業と人について	<input type="checkbox"/> 企業とそれを支える人との関係を理解する
0.75	前期中間試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	経営学の概要と、企業についての理解度確認
1.5	企業のアウトプット	<input type="checkbox"/> 企業活動の概要を理解する
1.5	経営戦略と商品について	<input type="checkbox"/> 企業が進める経営戦略の概要を理解する
1.5	経営とマーケティングについて	<input type="checkbox"/> 経営戦略上のマーケティングの概要を理解する
1.5	マネジメント事例研究(1)	<input type="checkbox"/> マネジメントの基本的な考え方を知る
1.5	マネジメント事例研究(2)	<input type="checkbox"/> 違いを作る基本戦略を知る
1.5	マネジメント事例研究(3)	<input type="checkbox"/> 多角化、国際化のマネジメント事例を知る
0.75	前期期末試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	企業活動の概要とマネジメントについての理解度確認
4.5	マネジメント事例研究(3)	<input type="checkbox"/> 組織マネジメントの重要性を理解する
4.5	キャリアデザイン	<input type="checkbox"/> 組織の中でのキャリアデザインを考える
0.75	後期中間試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	組織マネジメントとキャリアデザインについての理解度確認
4.5	総合事例研究(1)	<input type="checkbox"/> ファミリービジネスのマネジメントについて知る
4.5	総合事例研究(2)	<input type="checkbox"/> 特殊な法人のマネジメントについて知る
0.75	後期末試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	経営論のまとめと総合的な理解度確認(キャリアデザインを含む)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
環境論	AD: デザイン学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Environmental Studies	必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
西野 隆司	デザイン学科・准教授	420	火・日曜以外	nishino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AD-5				
授業概要	今日注目されている「環境問題」について身近な事例から地球規模の問題まで幅広く取りあげる。			
到達目標	<input type="checkbox"/> 環境問題に関する専門用語の理解 <input type="checkbox"/> 環境問題に関する社会的背景の理解 <input type="checkbox"/> 環境問題に関する様々な事例の理解 <input type="checkbox"/> 環境問題について自ら考え、解決策をデザインに活かし提案できる力を身につける事ができる			
授業方法	座学を中心としてプリント、スライド、映像教材を利用し講義を行う。			
教科書	なし			
補助教材	適宜配布			
評価方法	1年を2区間に分け（前期末、後期末）、各区間の評価方法は定期試験(90%)+レポート課題・リアクションペーパー・ノート提出(10%)とする。 各区間で不合格の場合はレポート課題あるいは補講などにより補足する。 各区間にはノート提出を求め、未提出者・内容不備の者は区間評価より減点する。 総合評価は区間評価の単純平均とする。			
関連科目	経営論			
準備学習に関するアドバイス	ノート未提出 (-10点) や記述内容に不備がある場合には減点となるため、しっかりとノートをとること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価の仕方、環境問題の概要を理解する <input type="checkbox"/> 地球規模の環境問題とは何かを理解する
3	言葉の定義	<input type="checkbox"/> 頻出する基本用語の理解
1.5	持続可能な開発	<input type="checkbox"/> 環境問題に対する世界潮流の理解
1.5	地球と自然環境 (1)	<input type="checkbox"/> 地球の歴史、自然環境の構成要素の理解
1.5	地球と自然環境 (2)	<input type="checkbox"/> 生物多様性、大気の影響の理解
1.5	地球と自然環境 (3)	<input type="checkbox"/> 海と川の役割、水循環、土壌と森林の役割の理解
3	公害から環境問題へ	<input type="checkbox"/> 公害問題から、地球規模の環境問題への変化の理解
1.5	四大公害 (1)	<input type="checkbox"/> 水俣病、イタイイタイ病の理解
1.5	四大公害 (2)	<input type="checkbox"/> 四日市ぜんそく、新潟水俣病の理解
1.5	地球温暖化 (1)	<input type="checkbox"/> 基本的な考え方、用語の理解
1.5	地球温暖化 (2)	<input type="checkbox"/> 世界の取り組み、京都議定書の理解
3	環境問題への懐疑	<input type="checkbox"/> 環境ホルモンや地球温暖化に関する懐疑的な学説の理解
3	環境と社会 (1)	<input type="checkbox"/> 循環型社会への転換の理解
3	環境と社会 (2)	<input type="checkbox"/> 拡大生産者責任の理解
3	環境と社会 (3)	<input type="checkbox"/> モータリゼーションの理解
3	環境問題を解決する試み (1)	<input type="checkbox"/> 環境と経済の関係を理解する
3	環境問題を解決する試み (2)	<input type="checkbox"/> バイオミクリー、デザインの役割を理解する
1.5	定期試験 (年2回)	前期末、学年末
3	学習指導期間	学習事項の定着確認
3	科目別補講	見学を予定
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
マーケティング	AD: デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Marketing	必修	講義	演習	実験・実習
25	20			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420・418	水・日曜以外	ujjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-6				
授業概要	マーケティングの概要・概念・戦略、さらにそのマネジメントと、企業、そして開発部門との関係性について事例をもとに解説し、マーケティングの全体的な概要とデザインの関係性を習得していく。			
到達目標	<p>A マーケティングとは何か?について、全体像を簡潔に答えられる</p> <p>B マーケティング活動における、デザインの位置づけを答えられる</p> <p>C 商品を冷静に見て、その特徴とコンセプトを予測できる</p> <p>D 販売促進政策について理解できる。</p> <p>E 広い視野で事象や人を見て、状況の中から重要と思われるポイントを探ることができる</p> <p>F 自分なりの考察を加え、新たな提案を構築できる</p>			
授業方法	企業活動におけるマーケティングの位置づけと考え方、市場・消費者動向とそのとらえ方について、テキスト「1からのマーケティング」に沿って、事例をもとに解説していく。講義による解説と、テーマ商品を題材としたトライアル課題にトライし、レポート作成を行う。			
教科書	1からのマーケティング(中央経済社)			
補助教材	日経MJ 日経トレンドなど			
評価方法	1年を4区間に分け、各区間の評価方法は定期試験(80%)+レポート課題(20%)とする。各区間で不合格の場合はレポート課題、補講等により補足する。総合評価は区間評価の単純平均とする。			
関連科目	デザイン実習Ⅲ、応用デザインⅡ、卒業研究			
準備学習に関するアドバイス	身の回りのものに、参考になる資料がたくさんあります。日ごろから、様々な商品や環境の変化について、注意を払うようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	前期授業ガイダンス マーケティングについて調査	前期授業計画ガイダンス、評価方法の説明 <input type="checkbox"/> マーケティングの概要について理解する (インターネット・書籍を中心に個々に調べてみる)
4.5	マーケティングとは? マーケティングの成り立ちと基本概念	マーケティングについて解説。調査結果を検証 <input type="checkbox"/> 商品・市場分析の手法について解説。考え方を理解する
4.5	戦略的マーケティング	<input type="checkbox"/> マーケティングにおける戦略を理解する
0.75	前期中間試験	マーケティングの全体像に関する記述式試験
4.5	マーケティングマネジメント 製品・価格・広告	<input type="checkbox"/> 実際の商品におけるマネジメントを理解する <input type="checkbox"/> 製品開発、価格設定、広告活動について理解する
6	チャンネル・チェーン・営業	<input type="checkbox"/> チャンネル、チェーン戦略と営業について理解する
0.75	前期末試験	マーケティングマネジメントに関する記述式試験
1.5	後期授業ガイダンス	後期授業計画ガイダンス
4.5	顧客との関係のマネジメント	<input type="checkbox"/> 売り手と顧客の関係を理解する
4.5	ブランディング	<input type="checkbox"/> 売り手と顧客の関係を理解する
0.75	後期中間試験	市場環境分析に関する記述式試験
1.5	将来予測への分析	「人」を中心にした考え方の解説
4.5	生活の変化、環境の変化と将来	<input type="checkbox"/> 市場形成と消費活動の中心が「人」であることを理解する
4.5	将来予測 トライアル課題	<input type="checkbox"/> 将来予測に関する手法について解説～考え方を理解する <input type="checkbox"/> 市場形成に影響するモノ・コトの中で変わるものと変わらないものを理解する
0.75	後期末試験	将来予測に関する記述式試験
※学習指導期間は、試験返却・解説と、上記内容のガイダンスなどを行う予定		
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス：

番号：

氏名：

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デザインマネージメント	AD:デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Design Management	必修	講義	演習	実験・実習
		36	9	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
比留間 真	デザイン学科・准教授	420	木曜日を除く	hiruma
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-5				
授業概要	デザインは製品の色や形のみならず企業の経営や戦略を担う重要な要素となっている。様々な事例を通して、マネージメントを行ううえで広義の「デザイン」が果たすべき役割について考える。			
到達目標	A.マーケティングとイノベーションの重要性を理解できた。 B.デザインは社会において企業が事業を行い発展させて行くために重要な要素であることが理解できた。 C.製品の色や形だけでなく企業から提供されるあらゆる情報やサービスは一貫性が求められる事が解った。			
授業方法	講義を主体に、簡単な演習を織り交ぜながら得られた知識を定着させてゆく。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	前期中間,前期末,後期中間,学年末の各区分で、定期試験・授業内の演習レポート、ノート提出により総合評価を行う。 評価の内訳は、定期試験80%+授業内の演習レポート、ノート20%とし、各区分の平均により算出する。			
関連科目	マーケティング			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	マネージメントとは	<input type="checkbox"/> マネージメントの定義について概観した <input type="checkbox"/> マネージメントの役割について理解した
1.5	自らの事業を定義する	<input type="checkbox"/> 事業3つの定義について事例を通して理解した
3	セルフマネージメント【演習】	<input type="checkbox"/> 自分をマネージメントする3つの条件を理解した
1.5	目標を設定する	<input type="checkbox"/> 目標設定の考え方についてマーケティングとイノベーションの視点から概観した <input type="checkbox"/> 人を中心としたマネージメント開発について概観した
1.5	人を活かす	
0.75	前期中間試験	
0.75	試験答案返却・解説	
3	デザインの領域	<input type="checkbox"/> デザインの定義を確認した <input type="checkbox"/> デザインの分野、デザイナーのスキルを概観した
3	プロセスとしてのデザイン	<input type="checkbox"/> 創造的プロセスとしてのデザインを概観した <input type="checkbox"/> 歴史的視点からのデザインの役割を概観した
3	デザインとビジネスのパフォーマンス【演習】	<input type="checkbox"/> デザインを取り巻く環境を概観した
0.75	前期末試験	
0.75	試験答案返却・解説	
3	デザインマネージメントとは	<input type="checkbox"/> デザインマネージメントの定義とその範囲を概観した
3	デザインとマーケティング	<input type="checkbox"/> デザインとマーケティングの関係について概観した <input type="checkbox"/> デザインによる差異化、デザイン形態の役割について概観した <input type="checkbox"/> デザインの消費者行動に与える効果を概観した
3	ブランディングを通じたデザイン差異化【演習】	<input type="checkbox"/> ブランドの機能、定義を概観した
1.5	デザインとマーケティングリサーチ	<input type="checkbox"/> ブランドアイデンティティ確立の為にデザインの役割を概観した <input type="checkbox"/> 消費者ニーズの調査方法について概観した
0.75	後期中間試験	
0.75	試験答案返却・解説	
3	戦略的デザインマネージメントのための枠組	<input type="checkbox"/> デザインの戦略的位置づけに関する事例を概観した
1.5	戦略的デザインへの認知的アプローチ	<input type="checkbox"/> CIの創造と実行について概観した
1.5	コーポレートコミュニケーションとデザイン	<input type="checkbox"/> 会社のアイデンティティ表現について概観した
1.5	戦略的価値	
1.5	戦略的デザインへの経済的アプローチ	<input type="checkbox"/> デザイン的競争は経営資源や知識の源泉であることを概観した
1.5	組織的協同のデザイン	<input type="checkbox"/> デザインは組織変化の一助となり、組織協同に役立つことを概観した
0.75	学年末試験	
0.75	試験答案返却・解説	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
技術者倫理	AD: デザイン学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Engineering ethics	必修	講義	演習	実験・実習
45	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山館 順	一般教育科・准教授	238	火を除く随時	yamadate
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AD-1		A-3	(b)	
授業概要	技術者、デザイナーは社会に対する責任を負う存在であり倫理観が要求される。現代にいたる科学技術の成立とそれを支えた思想、また社会史的背景を概観しながら技術者倫理を学ぶ。			
到達目標	(A) 科学技術を発展させた思想と、その社会史的な背景を理解できる。(B) 科学技術が社会や自然に及ぼす影響、又背景となった自然や社会からの影響を理解出来る。(C) 21世紀の技術者、デザイナーとして社会に対する責任を自覚する能力を育成する。(D) 技術者倫理の背景と必要性を理解できる。(E) 環境倫理、デザイナー倫理を理解できる。(F) グローバル化の問題点とユニバーサルデザインについて理解できる。(G) 内部告発について理解できる。(H) 知的財産権について理解できる。			
授業方法	座学を中心とした授業形態、適宜課題を求める。			
教科書	丸善出版社「JABEE対応技術者倫理入門」小出泰士			
補助教材	適宜プリント配布			
評価方法	定期試験の評価は70%、課題・発表の評価は30%、(課題15%、発表15%)、各区間の単純平均とする。但し前期・後期それぞれの総合成績が合格基準をクリアしていない場合不可となり、再試験の対象となる。(例) 前期総合成績が50点、後記総合成績が80点の場合、前期末総合成績は不可となる。この場合前期のみが再試験の対象となる。 課題：前期と後期で各2回、発表：前期と後期で各2回、※発表を課題もしくはノートチェックで代行する場合もある。			
関連科目	1年次現代社会、2年次歴史、5年次一般選択経済学、			
準備学習に関するアドバイス	先ず読書、238人文社会研究室の山館文庫は参考になる。又日本と世界の各種報道記事に関心を持つ事。報道における企業やデザイン関連記事に注意を払うことが必要。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	【前期】	【科学技術史からアプローチする技術者倫理】
1.5	授業計画	<input type="checkbox"/> 授業計画
1.5	IT革命と情報化社会	<input type="checkbox"/> 情報通信革命とユビキタス社会。(A-C)
1.5	冷戦と共存	<input type="checkbox"/> 核の恐怖、環境と科学、科学思想の現在、(A-C)
3	二十世紀の科学技術	<input type="checkbox"/> 総力戦と大量破壊兵器、二十世紀の科学思想、大正、昭和日本の科学技術、アメリカの科学技術、産軍複合、(A-C)
3	第二次産業革命	<input type="checkbox"/> 化学と電気の実用化、情報通信の発展、大都會の成立、(A、B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-D)
1.5	近世日本の科学技術	<input type="checkbox"/> 江戸のからくり、蘭学から洋学へ、幕末の技術移転(A、B)
3	産業革命	<input type="checkbox"/> イギリス実用主義の風土、発明家と技術者たち、19世紀のドイツ技術、(A、B)
3	中世科学から近代科学へ	<input type="checkbox"/> ヨーロッパの自然観、ルネサンスの発明、大航海時代の科学技術、(A、B)
1.5	古代の科学思想	<input type="checkbox"/> 古代ギリシャとローマの科学思想、
3	事例研究発表	<input type="checkbox"/> (A-D)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> (A-D)
	【後期】	【事例からアプローチする技術者倫理】
1.5	授業計画	<input type="checkbox"/> 授業計画
1.5	技術者倫理の必要性とその背景	<input type="checkbox"/> 技術者倫理が求められるその背景を理解する(D)
1.5	倫理の課題	<input type="checkbox"/> 専門職の公衆に対する責任を理解する(D)
1.5	環境倫理	<input type="checkbox"/> 社会的環境負荷低減に配慮した技術を理解、リスクを具体的に考える。(B、C、E)
3	21世紀を生きる技術者として	<input type="checkbox"/> 国際化社会の中での倫理の在り方を考える(B、C)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> (B、C、D、E、H)
1.5	内部告発	<input type="checkbox"/> 公益通報者保護法とその精神を理解する(G)
1.5	デザイナー倫理	<input type="checkbox"/> デザイナーに関わる不正の事例、又知的財産権について理解する(E、G)
1.5	ユニバーサルデザイン	<input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインを理解する(F)
3	事例研究発表	<input type="checkbox"/> 事例研究発表を通じてデザイナーの責任を理解する(B-H)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> (B、C、D、E、H)
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習指導の確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
卒業研究	AD: デザイン学科	5年	通年	8
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Graduation Project	必修	講義	演習	実験・実習
180				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420・418	水・日曜以外	ujjie
李 盛姫	デザイン学科・准教授	420・418	火・日曜以外	lee
比留間 真	デザイン学科・准教授	420・313・314	木・日曜以外	hiruma
坂元 愛史	デザイン学科・准教授	420・313・314	水・日曜以外	y-sakamoto
その他 2名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-3 AD-4 AD-5 AD-6				
授業概要	5年間の集大成として、個々が研究室担当教員との相談のうえでテーマを設定、計画を立案し調査・分析・考察・試作・確認・修正、最終提案へと総合的なデザイン開発を行う。			
到達目標	<p>A 前年までに学習してきた内容をベースにして、研究・制作の計画を立案できる。</p> <p>B 創造性をもって提案の実現可能性・リアリティを考えながら、コンセプトを立案できる。</p> <p>C 幅広く、社会への影響を予想しながら、受け手の立場に立った提案を考えられる。</p> <p>D 考えたアイデアや提案内容を、論理的に文章にまとめることができる。</p> <p>E 提案すべく、考えてきた内容を的確に伝えるプレゼンテーションができる。</p>			
授業方法	諸注意、連絡事項についてはHRにて実施(都度連絡)、通常は各研究室へ別れて研究・作業を進める。各研究室では、随時担当教員へ報告・連絡・相談を行いながら、スケジュールに沿って研究を進めること。年間で3回の全体中間発表、学年末に最終審査発表を行う予定。			
教科書	無し			
補助教材	調査に必要な資料はそれぞれで探し入手してください。			
評価方法	<p>年3回の全体中間発表、最終審査発表を行っていることを前提とします。</p> <p>各中間発表時には、デザイン学科卒業研究担当教員が、個別に発表内容を審査し、アドバイスを提示するので時期ステップへの参考にして研究を続行してください。</p> <p>最終審査評価方法 卒業研究担当教員が以下の区分でそれぞれ100点法で採点した後、全体審議による確認・補正を行う。 各区分は、研究態度(指導教員 20%) + 提案作品の内容(40%) + プレゼンテーション(40%) 集計後60点に満たない場合は不合格となる。</p> <p>最終審査後、卒業研究作品展示を行うことが大前提となる。</p>			
関連科目	デザイン実習 I・II・III、応用デザイン I・II 他			
準備学習に関するアドバイス	1年間継続の長期研究制作になります。自主的にスケジュールを修正しながら、各タイミングの発表に遅れることの無いように、研究を進めてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス 研究テーマ策定・計画書作成 各研究室での報告	<input type="checkbox"/> 研究の進め方、年間スケジュール、評価についてを理解する <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめテーマと年間スケジュールを立案できる <input type="checkbox"/> 計画に沿って進行させ、それぞれのタイミングで報告できる
6	第1回 中間発表(夏休み前) 調査結果および提案への方向性発表 (夏休み終了後担当教員へ報告書提出)	<input type="checkbox"/> テーマに沿って実施した調査内容と考察を的確に発表できる <input type="checkbox"/> 発表用ツールが作成できる <input type="checkbox"/> 進捗状況をまとめて報告書が作成できる
1.5	ガイダンス	
12	第2回 中間発表(育英祭) ポスターセッション	<input type="checkbox"/> 研究テーマ、内容をポスターにまとめることができる <input type="checkbox"/> 作品に込めた考えを、簡潔に発表できる
1.5	ガイダンス	
6	第3回 中間発表(年末) 提案作品事前確認のための発表	<input type="checkbox"/> 進捗状況をまとめて報告書が作成できる <input type="checkbox"/> 検証確認の計画を立案できる
12	卒研概要・提案作品提出 最終プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 提出期限に遅れずに提案作品を提出すること <input type="checkbox"/> まとめた作品内容を的確に発表し、質疑に回答できる
138	年間通じての研究、制作	<p>※ 就職・進学活動、出校停止疾患などのやむを得ない場合を除き原則として提出遅れは認めません。</p> <p>各発表を欠席したり、怠学により提出が遅れた場合は、不合格になる可能性があります</p>
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
180 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

Ⅲ.電氣工学科 必修専門科目

電気工学科の学習・教育目標

EE-1	電気工学の基礎知識を学び実験・実習を通して技能と技術を習得し、それらを具体的・実践的な課題に活用でき、問題解決活動に活用できる基礎を修得する。
EE-2	コンテスト型教育(電動ビークルコンテスト、ミニソーラーカーコンテスト、学科ロボコン)やプロジェクト型教育(プロジェクト実習)、創造設計、実験、卒業研究を通して、問題の現状把握から原因の分析・調査、研究を行い、アイデアを実現できる実践力を修得する。
EE-3	実験・実習などで実際に起きている現象の性質を観測(計測)し、結果をまとめて報告することができる。また、コンテスト型教育やプロジェクト型教育などの活動を通して、問題を解決した成果を、文章や口頭発表で報告することができる。
EE-4	自分が描いたアイデアを第三者に伝えることが出来ると同時に、第三者の意見を取り入れながら自分の発想を修正・改善できる。また、チームワークの大切さを認識し協調性やリーダーシップを修得する。
EE-5	技術が生活環境に与える影響について理解し、電気工学の目的や社会との関わりと責任を認識する。また、国際化した国内外の社会状況に関心を持ち生活文化や価値観の多様化を理解したうえで、自らの行動に反映することができる能力を育成する。

JABEE基準1

(a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力
(d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 (1)専門工学(融合・複合領域)の知識と能力 (2)実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (3)創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力 (4)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
(e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g)	自主的、継続的に学習する能力
(h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i)	チームで仕事をするための能力

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(A)	健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者	
	(A-1)	健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
	(A-2)	過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
	(A-3)	近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
	(A-4)	我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
(A-5)	自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる	

(B)	自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者	
	(B-1)	数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
	(B-2)	自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
	(B-3)	異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
(B-4)	実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる	

(C)	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者	
	(C-1)	国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
	(C-2)	コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる
(C-3)	国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる	

(D)	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者	
	(D-1)	自律的に新たなことにチャレンジする心(プロダクトマインド)を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
	(D-2)	問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
(D-3)	実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路	EE:電気工学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> オームの法則の理解に基づいた直列回路における電流値、電圧値、抵抗値の算出法の解説。 交流回路を理解するために必要な数学的知識の学習と、それらを用いた交流回路の基礎知識の解説。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> A. 直列回路を学ぶ上で基礎となる指数関数や連立方程式の計算ができる。 B. 電流、電圧、抵抗の定義を説明できる。 C. オームの法則を説明できる。 D. 合成抵抗の計算ができる。 E. キルヒホッフの法則を説明できる。 F. 導体の形状から抵抗値を計算できる。 G. ジュール熱の算出ができる。 H. 電力、電力量の計算ができる。 I. 正弦波交流波形を描く際に必要な三角関数、ベクトルの表現・計算ができる。 J. 交流回路における抵抗、コイル、コンデンサの働きを説明できる。 K. 交流回路における電力の算出ができる。 			
授業方法	座学を主として授業を行う。適宜演習問題を解き、小テストを実施して理解度を高める。また、課題提出を求める。			
教科書	「わかりやすい 電気基礎」 高橋 寛, 増田 英二 (コロナ社)			
補助教材	なし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験毎に評価し(全4回)、各区間の平均を総合評価とする。 各区間の評価方法は、以下のものとする。 - 定期試験 (70%) - ノート提出 (10%) - 小テスト (10%) - 課題 (10%) 			
関連科目	電気回路(2年、3年、4年)			
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分をよく読み、基礎知識を身につけた上で授業に望むこと。授業では、重点テーマおよび重点ポイントを中心に板書にて講義を行う。板書は必ずノートにとり、家での復習では重点テーマに沿って、自分が理解した内容を別のノートにまとめ直すことで、十分な理解と知識の定着を図ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス、数学的知識の復習	<input type="checkbox"/> 電気回路を学ぶ上で必要な数学的知識を理解できる(A)
	[電流と電圧]	
1.5	電子と電流	<input type="checkbox"/> 原子と電子、電流の定義を説明できる(B)
1.5	電位、電圧、起電力	<input type="checkbox"/> 電位、電圧、起電力の定義を説明できる(B)
4.5	オームの法則	<input type="checkbox"/> オーム法則により回路内の電圧・電流・抵抗値を算出できる(C)
	[直列回路]	
1.5	並列回路①	<input type="checkbox"/> 並列接続された抵抗に対する合成抵抗を算出できる(C, D)
1.5	並列回路②	<input type="checkbox"/> キルヒホッフの第1法則を理解し、利用できる(E)
1.5	直列回路①	<input type="checkbox"/> 直列接続された抵抗に対する合成抵抗を算出できる(C, D)
1.5	直列回路②	<input type="checkbox"/> キルヒホッフの第2法則を理解し、利用できる(E)。
4.5	直並列回路	<input type="checkbox"/> 回路網に対してキルヒホッフの法則を適用できる(C, D, E)。
	[抵抗の性質]	
2	導体の形状と抵抗	<input type="checkbox"/> 導体の形状から抵抗値を算出できる(F)
2	電流の作用とジュール熱	<input type="checkbox"/> 電流値からジュール熱を算出できる(G)
2	電力と電力量	<input type="checkbox"/> 電力や電力量を算出できる(H)
	[交流回路]	
3	正弦波交流波形①	<input type="checkbox"/> 三角関数・ベクトルの基礎を理解できる(I)
2	正弦波交流波形②	<input type="checkbox"/> ベクトル表示による正弦波交流波形の合成を理解できる(I)
1.5	交流回路の基礎①	<input type="checkbox"/> 交流回路での抵抗の役割を説明できる(J)
1.5	交流回路の基礎②	<input type="checkbox"/> 交流回路でのコイルの役割を説明できる(J)
1.5	交流回路の基礎③	<input type="checkbox"/> 交流回路でのコンデンサの役割を説明できる(J)
4	交流回路における電力	<input type="checkbox"/> 交流電流・電圧の情報から交流電力を算出できる(K)
3	定期テスト(年4回)	
3	学習指導期間(テスト返却・解説)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
CAD	EE:電気工学科	1年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Aided Design	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	裁量日以外	y-ikumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
EE-1		B-3	(d) (1) (d) (3) (i)	
授業概要	製図に関する基本的技能を身につけるとともに規格を正しく理解する。CADを活用し設計を効率よく出来るようになることを目標とする。第三角法での製図能力や3DCADの形状作成能力を養う。			
到達目標	A. 製図の基本が理解できる。 B. 投影図が理解できる。 C. 機械部品の製図が描ける。 D. CADによる平面図の製図ができる。 E. CADによる3次元図の製図ができる。 F. 主要な電気用図記号が理解できる。 G. 屋内配線図が理解できる。			
授業方法	初期は手書きで製図の規格・基礎を修得する。その後、コンピュータを用いたCADの使用・製図方法を修得する。第三角法による製図や3次元図および屋内配線図が作成を目標とする。適宜課題の提出を求める。			
教科書	「電気製図」 実教出版			
補助教材	授業で配布するプリント			
評価方法	1年間を2区間に分け、前期末と学年末で評価する 前期区間:課題の範囲で評価 後期区間:課題の範囲で評価 課題評価 = 作品の評価(0~10点) × 提出状況(1~0.8) 区間評価 = 全課題評価の平均 × 10 総合評価 = (前期区間評価 + 後期区間評価) / 2 ※期日から提出が遅れた場合は課題ごとに最大で20%減点する。 ※各区間末の最終提出期日で課題未提出がある場合は不合格として扱う。			
関連科目	機械工学(3年)、材料基礎工学A・B(4,5年選択科目)、機械要素設計A・B(4,5年選択科目)			
準備学習に関するアドバイス	課題を期日を守って提出する習慣を身に付けてください。提出遅れが多いと全課題を提出していても合格点に達せず不可評価になってしまう可能性があるため注意すること。授業時間のみではなく放課後などを利用して自習で取り組むようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明
2.25	[製図の基礎]製図の基礎	<input type="checkbox"/> 製図の基本(A)
1.5	(手書製図)線、文字、図枠の描き方	<input type="checkbox"/> 線と文字の描き方(A) : 課題(手書製図)線と文字図枠の描き方(A)
3	(手書製図)投影図の描き方	<input type="checkbox"/> 正投影図(B) : 課題(手書製図)正投影図
4.5	[CADによる製図]CADの使用法	<input type="checkbox"/> CADの基本的な使用方法(C) : 課題(CAD製図)製品製図
6	CADによる投影図製図	<input type="checkbox"/> 立体図形の第三角法による製図(C) <input type="checkbox"/> 課題(CAD製図)第三角法による製図
6	CADによる断面図製図	<input type="checkbox"/> 立体図形の断面図の製図(C) : 課題(CAD製図)断面図
6	CADによる機械部品の製図	<input type="checkbox"/> ねじの略画法(B, C) : 課題(CAD製図)ねじ <input type="checkbox"/> 機械部品の製図(B, C) : 課題(CAD製図)機械部品
6	CADによる三次元モデリング製図	<input type="checkbox"/> 立体図形の三次元モデリング(B, C, E) : 課題(CAD製図)立体図形のモデリング
3	[電気製図の基礎]電気製図の基礎	<input type="checkbox"/> 電気用図記号(F) : 課題(手書製図)電気用図記号
6	(手書製図)電気用図記号の描き方	<input type="checkbox"/> 屋内配線用建築平面図(F, G) <input type="checkbox"/> 課題(CAD製図)屋内配線用建築平面図
	CADによる屋内配線図	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
工学基礎	EE:電気工学科	1年	通年	3
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Electrical Engineering	*必修	20	10	37.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期末以外・後期末以外	t-kazama
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	前期末以外・後期末以外	y-ikumi
齋藤 純	電気工学科・非常勤講師	312	当授業終了後	saitoj
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1 EE-2 EE-3 EE-4		B-4		(d) (2)
授業概要	講義・実験を通して電気工学の基礎的な理論・現象に対する理解を深める。物理量を測定するための方法や、ものづくりの基礎となる工具の使い方を学習し、技術者としての根幹となる技能と技術を習得する。レポート作成では、測定結果を技術的に分かりやすくまとめ、記述する方法を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 電気工学の基礎的な理論・現象を理解し、簡単な電気計算を行うことができる。</p> <p>B. 工具の正しい使い方を理解し、安全に使うことができる。</p> <p>C. 簡単な回路製作や工作ができる。</p> <p>D. 電圧や電流などの基本的な物理量を測定することができる。</p> <p>E. 電力・電力量の計算を行うことができる。</p> <p>F. レポートの書式に従って測定結果を技術的にわかりやすくまとめ、表現することができる。</p> <p>G. 自分たちが製作した成果物について説明・発表をすることができる。</p> <p>H. 他者の意見を取り入れながら自分の発想を修正・改善できる。</p> <p>I. 電気工学に関わる技術の見識を広げることができる。</p>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・電気工学の学習に必要な基本的知識を講義で学習し、繰り返し演習を行う。 ・4つのテーマの製作実習や測定実験を行い、これについてレポート提出する。 ・年1回の校外見学、卒業研究発表の聴講を行いレポートにまとめる。 			
教科書	授業中に配布する資料			
補助教材	「わかりやすい電気基礎」高橋寛, 増田英二(コロナ社)			
評価方法	<p>□評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートおよび指示された提出物を全て提出することが評価の前提となる。 ・レポートが一通でも未提出の場合は不合格になるので期日厳守で提出すること。 ・1年間で4区間にわけ、総合評価は区間評価の単純平均とする。 ・各区間の成績は、定期試験におけるテスト点(50%)、課題・報告書の提出(40%)、各区間において実施する電気計測の実技テスト(10%)により評価する。 ・授業態度に応じて10%の範囲で減点する。 ・必要に応じて補講や再試を行うことがあるが、その点数の反映は合格を満たす点数を上限とする。 <p>□要注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は学年修了要件科目である。 			
関連科目	電気工学実験(2年、3年、4年、5年)			
準備学習に関するアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・未提出のレポートがある場合は評価が不可になる。必ず期日を守って提出すること。 ・電気工学科1年生の関門科目(最終評価が不合格の場合は留年になる)なので注意すること。 ・基本的な電気現象の測定方法、レポートの書き方を身に付けること。 			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	授業ガイダンス・工具の使用方法	<input type="checkbox"/> 正しい工具の使い方を理解できる(B)
2.5	リード線の製作・テスター製作	<input type="checkbox"/> リード線、テスターを製作し、簡単な電気測定ができる(B, C)
3	[LED点灯回路の製作] 直流回路 演習	<input type="checkbox"/> 直流回路に関する基礎的な知識を使った回路解析ができる(A) <input type="checkbox"/> LED点灯回路の設計・製作ができる(A, C)
1	LED点灯回路の製作	<input type="checkbox"/> 測定機器を用いたLED点灯回路内の電圧・電流測定ができる(A, D)
1.25	LED点灯回路の測定実験	<input type="checkbox"/> 正しい書式・表現を理解した上で、レポートを作成できる(F)
1.5	レポート指導①	
4.25	[調光器の製作] 調光器の製作	<input type="checkbox"/> 調光器として用いる回路の製作ができる(B, C)
1.25	調光器の動作検証	<input type="checkbox"/> テスターを用いた調光器の動作検証ができる(A, D)
1.25	レポート指導②	<input type="checkbox"/> 正しい書式・表現を理解した上で、レポートを作成できる(F)
0.75	前期中間試験	
0.75	前期中間試験解説	
3	[測定器の取り扱い] 直流回路 演習	<input type="checkbox"/> 直流回路に関する基礎的な知識を使った回路解析ができる(A)
4	直流電流・電圧の測定法の学習・実技試験	<input type="checkbox"/> 直流電流計・電圧計の正しい使い方を理解できる(D)
4.5	複雑な回路網に対する電気測定・実技試験	<input type="checkbox"/> 複雑な直流回路網を組み、回路内の電流・電圧を測定できる(D)
1.25	レポート指導③	<input type="checkbox"/> 正しい書式・表現を理解した上で、レポートを作成できる(F)
0.75	前期末試験	
2.25	試験答案返却、試験解説、確認演習	
3	[電動カートの製作] 直流回路 演習	<input type="checkbox"/> 直流回路に関する基礎的な知識を使った回路解析ができる(A)
1.5	グループ話し合い、設計	<input type="checkbox"/> グループでの話し合い、電動カートを設計することができる(H)
1	発表	<input type="checkbox"/> 自分たちの製作物の設計や特徴を発表することができる(H)
1.25	工作機械の使用説明	<input type="checkbox"/> 工作機械の使用法を理解し、安全に使うことができる(B)
4.75	電動カートの製作(車体製作)	<input type="checkbox"/> 電動カートを製作することができる(B, C)
0.75	後期中間試験	
0.75	後期中間試験解説	
4	直流回路 演習	<input type="checkbox"/> 直流回路に関する基礎的な知識を使った回路解析ができる(A)
7	電動カートの製作(電装組み付け)	<input type="checkbox"/> 電動カートを製作することができる(B, C)
2.5	走行試験	<input type="checkbox"/> 電動カートを走行させ、消費電力を計測できる(A, D, E)
1	発表	<input type="checkbox"/> 製作した電動カートの特色をまとめ発表することができる(G)
1.25	レポート指導④	<input type="checkbox"/> 正しい書式・表現を理解した上で、レポートを作成できる(F)
0.75	学年末試験	
2.25	試験答案返却、試験解説、確認演習	
1.5	卒業研究の聴講 校外見学	<input type="checkbox"/> 聴講した内容をまとめる(I) <input type="checkbox"/> 電気工学の知識を広げ、見学内容をまとめる(I)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気磁気学	EE:電気工学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electromagnetism	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山本 和義	機械電子工学科・非常勤講師	230	毎授業終了時	ymt
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	電気磁気学の基本的部分を学ぶ。静電気・静磁気の性質と、電磁誘導の初等計算までを取り扱う。			
到達目標	<p>A. オームの法則・ジュールの法則という最も基本的な法則が理解できる。</p> <p>B. 電界・磁界・電気力・磁気力をベクトル量として理解できる。</p> <p>C. 電荷の間に働く力、および電荷が作る電界に関する初等的な計算ができる。</p> <p>D. 電位が電気的な位置エネルギーであることが理解できる。</p> <p>E. コンデンサの定義を理解し、その接続に関する初等的な計算ができる。</p> <p>F. コンデンサにたまる電気的エネルギーの初等的な計算ができる。</p> <p>G. 電流が作る磁界と磁気モーメントに関する初等的な計算ができる。</p> <p>H. 磁界中で電流がどのような力を受けるかを理解できる。</p> <p>I. 磁気ヒステリシス現象に対する定性的な理解ができる。</p> <p>J. 電磁誘導・自己誘導・相互誘導を理解し、誘導起電力に関する初等的な計算ができる。</p>			
授業方法	下記の教科書に沿った講義を行う。また、適宜補足プリント・小テスト・課題提出を実施する。			
教科書	『絵ときでわかる 電気磁気』高橋 寛 監修, オーム社			
補助教材	なし			
評価方法	年間で4つの区間に分け、区間評価の単純平均により総合評価を行う。区間評価は「試験(70%)+小テスト・提出課題(30%)」の100点法によるものとする。試験等の素点は100点満点とは限らないので適宜点数を換算する。点数比率・点数換算の詳細は答案返却時に説明される。小テスト・提出課題は学習指導期間において再提出が可能になる場合がある。後期後半の区間においては特別の課題提出を求めることがある。これが行われる場合は、後期後半の区間評価に25%(25点)を限度とした加点・減点があり得る。			
関連科目	4年次の「電気磁気学」			
準備学習に関するアドバイス	補足プリント・小テスト・提出課題を活用し、確実な理解を務めてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	授業方針, 年間計画, 評価方法の解説
0.75	電荷と電流	<input type="checkbox"/> 電荷, 電流, オームの法則, ジュールの法則(A)
3	点電荷の間に働く力	<input type="checkbox"/> クーロンの法則(B, C)
3	電界と電気力線	<input type="checkbox"/> 電界の強さと電気力線(B, C)
3	ガウスの法則	<input type="checkbox"/> 面電荷等が作る電界(C)
0.75	前期中間試験	
0.75	前期中間試験の解説	
0.75	電界と電位	<input type="checkbox"/> 電気的なエネルギー(D)
1.5	コンデンサと静電容量	<input type="checkbox"/> コンデンサの定義(E)
4.5	コンデンサの接続	<input type="checkbox"/> コンデンサ接続の諸計算(E)
1.5	静電エネルギー	<input type="checkbox"/> コンデンサにたまる電気的エネルギー(F)
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導期間	
1.5	磁界と磁力線	<input type="checkbox"/> 磁界の強さと磁力線・磁束線(B, G)
4	電流が作る磁界	<input type="checkbox"/> 電流が作る磁界次回の基本, アンペールの法則(B, G)
4	磁界中で電流が受ける力	<input type="checkbox"/> ローレンツ力・フレミングの法則(H)
0.75	磁気モーメント	<input type="checkbox"/> 磁気モーメントの定義と性質(G)
0.75	磁化曲線とヒステリシス	<input type="checkbox"/> 磁気ヒステリシス現象(I)
0.75	後期中間試験	
0.75	後期中間試験の解説	
3.75	電磁誘導	<input type="checkbox"/> ファラデー・レンツの電磁誘導の法則(J)
4	自己誘導・相互誘導	<input type="checkbox"/> インダクタンスと誘導起電力(J)
0.75	後期期末試験	
1.5	学習指導期間	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路	EE:電気工学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則の理解に基づいた直列回路における電流値、電圧値、抵抗値の算出法の解説。 ・交流回路を理解するために必要な数学的知識の学習と、それらを用いた交流回路の基礎知識の解説。 			
到達目標	<p>A. 必須数学(三角関数、指数関数、微積分、微分方程式)の基本問題が解ける。 B. 直列回路、並列回路等の基本的な計算ができる。 C. 各素子の交流特性を言える。 D. 交流電力を計算できる。 E. RLC直列回路の交流特性を説明できる。 F. LCR回路の共振に関する計算ができる。</p>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書をベースに講義形式で行うと共に、適宜参考資料を配布し理解の補助とする。 ・毎回の授業においては演習プリントを用意し、30分程度の演習・解説の時間を設ける。 ・理解度を調べるために定期的に小テストを実施する。 			
教科書	「電気学会大学講座 電気回路論 [3版改訂]」平山 博、大附辰夫(電気学会)			
補助教材	なし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験毎に評価し(全4回)、各区間の平均を総合評価とする。 ・各区間の評価方法は、以下のものとする。 - 定期試験 (70%) - ノート提出 (10%) - 小テスト (10%) - 課題 (10%) 			
関連科目	電気回路(1年、3年、4年)			
準備学習に関するアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書の該当部分を読み、不明点を列挙しておくこと。 ・授業で不明点が解決できなければ、授業終了後個別に質問すること。 ・より高水準の学力を目指す人には、参考図書で演習を行うことを勧める。 			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 電気工学科における本科目の位置付け、重要性を理解している。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方、評価方法等を理解している。
3	1年の復習および電気回路の基礎	<input type="checkbox"/> キルヒホッフの法則、回路素子の特性を理解している。(B) <input type="checkbox"/> 直列回路の基礎を理解している。 <input type="checkbox"/> 直列回路、並列回路等の基本的な計算ができる。(B)
4.5	数学の準備(1)	<input type="checkbox"/> 三角関数(円関数)の理解と各種公式をマスターしている。(A) <input type="checkbox"/> 指数関数、対数関数の性質を理解している。(A) <input type="checkbox"/> 三角関数と交流の対応を理解している。(A)
0.75	前期中間試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	
7.5	数学の準備(2)	<input type="checkbox"/> 微分・積分の概要を理解し、基本関数の微積分ができる。(A) <input type="checkbox"/> 簡単な微分方程式の解法を理解できる。(A)
0.75	前期期末試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	
7.5	交流電圧・電流	<input type="checkbox"/> 正弦波電圧・電流と周波数、波長、実効値を理解している。(C) <input type="checkbox"/> 交流回路における抵抗、コイル、コンデンサの交流特性を説明できる。(C)
1.5	電力	<input type="checkbox"/> 交流電力の計算ができる。(D)
0.75	後期中間試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	
10.5	交流回路	<input type="checkbox"/> RLC直列回路の交流特性を説明できる。(E) <input type="checkbox"/> LCR回路の共振に関する計算ができる。(F)
0.75	学年末試験	
1.5	試験答案返却・試験解説	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気法規	EE:電気工学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electrical Regulations	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
陶山 和信	電気工学科・非常勤講師	312	水曜日12:30~13:00	suyama.kazunobu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
EE-1		B-2	(d) (1)	
授業概要	危険があるから法があり、その関連で資格がある。現に電気設備技術基準には、感電や火災防止のための規定が多く、電気工事士には、これら危険を回避する義務がある。そこで、本授業では、電気法規の実践的な入門として、第二種電気工事士の筆記試験の基本的な部分を学習する。			
到達目標	<p>A. 第二種電気工事士試験に必要な範囲の基本的な電気回路の計算法を理解できる。</p> <p>B. 低圧使用場所における配電線路の回路計算と設計法の基礎を理解できる。</p> <p>C. 電気関連法規のうち、第二種電気工事士の業務と関連性の深い内容の基礎を理解できる。</p> <p>D. 低圧屋内配線に関する電気設備技術基準・解釈を電気工事を行う視点から理解できる。</p> <p>E. 基本的な配電回路とその主要部分について、単線図を複線図に書き替えることができる。</p> <p>F. 電気工事に使用するおもな電線や器具、工具等の形状と役割を認識できる。</p>			
授業方法	教科書をベースに講義を行い、問題演習で知識と理解を定着させる。また、総合的な理解を深めるため、知識系と計算系を平行して行う。なお、イメージ系は、慣れの要素が強いので、夏休みの宿題とする。			
教科書	2017年版 第二種電気工事士試験 完全攻略 筆記試験編(技術評論社)			
補助教材	2017年度版 第二種電気工事士 筆記試験 標準解答集(オーム社)を紹介する。 (* 購入は任意とする。)			
評価方法	<p>1年間を前期中間、前期末、後期中間、後期末に分け各区間の平均を学年末の評価とする。各区間は定期試験70%、授業中の演習・課題提出30%として評価する。</p> <p>本授業は内容に連続性が強いので、試験範囲は前回までの関連部分がある程度含めざるをえない。そこで、学年途中で不合格の危険がある学生に対しては、救済策としてレポート等の課題を課し、合格すれば、そこまでの範囲の定期試験を60点に引き上げる。</p> <p>本音で語れる授業を目指したいので、授業中の口頭解答や発言等は、誤答であっても減点しない。</p>			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	本授業は実務に直結する。在学中に電気工事資格を取得できれば、就職に有利になることはもちろん、20代(法律上は実務経験3年)でも、独立することもできる。是非、目的意識を持って臨んでほしい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス *カッコ内は対応する教科書の章	<input type="checkbox"/> 年間の授業計画、評価法の説明 <input type="checkbox"/> 第二種電気工事士試験の概要(A, B, C, D, E, F)
7.5	[1] 計算系(計算・演習を中心とする領域) 1. 電気計算の基礎……(第6章) 1-1 直流回路 1-2 交流回路	<input type="checkbox"/> オームの法則(A)、 <input type="checkbox"/> 直列と並列(A)、 <input type="checkbox"/> 電線の抵抗(A) <input type="checkbox"/> 合成抵抗(A)、 <input type="checkbox"/> 分圧と分流(A)、 <input type="checkbox"/> 電力(A)、 <input type="checkbox"/> 電力量と発熱(A) <input type="checkbox"/> 正弦波交流(A)、 <input type="checkbox"/> リアクタンス(A)、 <input type="checkbox"/> インピーダンス(A) <input type="checkbox"/> 位相(L遅れ、C進み)(A)、 <input type="checkbox"/> 電力(有効、無効、皮相)と力率(A)
7.5	2. 配電理論と配電設計……(第7章) 3-1 配電方式 3-2 事故対策	<input type="checkbox"/> 三相配電(Δ結線、Y結線)(A, B)、 <input type="checkbox"/> 単相3線式(B) <input type="checkbox"/> 三相と単相3線の違いが理解できる(A, B) <input type="checkbox"/> 配電方式と消費電力(B)、 <input type="checkbox"/> 配電線路の電圧降下、電力損失(B) <input type="checkbox"/> 配電線路の断線(B)、 <input type="checkbox"/> 電線の許容電力(B) <input type="checkbox"/> 幹線の許容電流と過電流遮断器の定格電流(B, E) <input type="checkbox"/> 分岐回路の過電流遮断器の施設(B, E) <input type="checkbox"/> 分岐回路の電線の太さと接続できるコンセント(B, E) <input type="checkbox"/> 過電流遮断器と動作時間(B, E)
3	3. 電気計測と検査……(第4章)	<input type="checkbox"/> 計器の種類と記号(A, B)、 <input type="checkbox"/> 電圧・電流・電力・力率の測定(A) <input type="checkbox"/> 接地抵抗の測定(B, D)、 <input type="checkbox"/> 絶縁抵抗の測定(B, D)、 <input type="checkbox"/> 竣工検査(B, C)
0.75	[2] イメージ系(写真や記号に慣れること) *夏休みの宿題とする。説明時間のみ。 1. 機器・器具・工具など……(第1章) 2. 配線図に用いる図記号……(第2章)	<input type="checkbox"/> 写真を見て、名称と使用目的を反射的に答えられること。(F) <input type="checkbox"/> 回路図(単線図)上でみても、その意味がわかること。(B, E, F)
4.5	[3] 知識系(知識・理解を中心とする領域) 1. 電気工事士関連の法令……(第5章) 1-1 電気設備技術基準(電技)・解釈 1-2 電気事業法 1-3 電気工事士法 1-4 電気事業法 1-5 電気用品安全法 2. 電気工事の方法……(第3章) (*電技・解釈の各論として) 2-1 接地工事 2-2 電気工事と施行できる場所	<input type="checkbox"/> 各法律の目的(C)、 <input type="checkbox"/> 基本的な用語の定義(C) <input type="checkbox"/> 電技・解釈の概要(C)、 <input type="checkbox"/> 電圧の区分(C)、 <input type="checkbox"/> 屋内内線路の対地電圧(C) <input type="checkbox"/> 電気工作物の種類(事業用、家用、一般)法改正あり(C) <input type="checkbox"/> 電気工事士の資格、義務、免状(C) <input type="checkbox"/> 電気事業者の登録、義務(C) <input type="checkbox"/> 電気用品の区別、特定気用品、製造又は輸入する事業者の義務(C) <input type="checkbox"/> 電気工事に関する事項を電技・解釈に基づき理解する。(D) <input type="checkbox"/> C種、D種接地工事(D)、 <input type="checkbox"/> 接地の種類と接地抵抗値(D) <input type="checkbox"/> 低圧屋内施設場所における工事の種類(場所と工事可の対応)(C) <input type="checkbox"/> ケーブル工事(D)、 <input type="checkbox"/> 金属管工事(D)、 <input type="checkbox"/> がいし引き工事(D) <input type="checkbox"/> 合成樹脂管工事(D)、 <input type="checkbox"/> 金属可とう電線管工事(D) <input type="checkbox"/> 金属線び工事(D)、 <input type="checkbox"/> 金属ダクト工事(D) <input type="checkbox"/> ライティングダクト工事(D)、 <input type="checkbox"/> フロアダクト工事(D) <input type="checkbox"/> 地中埋設工事(直接埋設、管路、暗きょ)(D) <input type="checkbox"/> ショーウィンドー・ショウケース内工事(D)、 <input type="checkbox"/> ネオン放電灯工事(D) <input type="checkbox"/> 小勢力回路の工事(D) <input type="checkbox"/> 低圧架空引込線と引込口配線(D)、 <input type="checkbox"/> 漏電遮断器の施設の省略(D) <input type="checkbox"/> 電気工事と使う工具の組合せ(D)、 <input type="checkbox"/> 電線の接続(D) <input type="checkbox"/> 三相誘導電動機(D)
4	[4] 総合系 (配線図を用いた本試験問題の対策) 1. 電灯配線と複線図の描き方(第8章) 2. 過去問を用いた総合演習	<input type="checkbox"/> 単線図と複線図(E)、 <input type="checkbox"/> 複線図の描き方の基本(E) <input type="checkbox"/> 電灯配線の複線図の描き方(E) <input type="checkbox"/> 接続する電線とリングスリーブの組合せ(E) <input type="checkbox"/> 単線図から実際の工事をイメージできる。(B, E, F)
3	定期試験 (年4回)	<input type="checkbox"/> 前期中間、前期末、後期中間、後期末(学年末)
3	学習指導期間(年2回)	<input type="checkbox"/> 期末試験返却、解説、各自の弱点補強
合計 45 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定期試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気工学実験	EE:電気工学科	2年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments in Electrical Engineering	*必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	火曜日以外	y-ikumi
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
吉澤 伸幸	電気工学科・非常勤講師	312	金曜日12:30~13:00	yosizawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1 EE-2 EE-3		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	直流・交流回路における基礎的な電気的事象・基本量を知るために、測定方法の習得と測定機器の原理・構造・取り扱いの理解等に主眼をおき、理論と実際のかかわり合いについて『考える習慣』を身につける。			
到達目標	<p>A. 基礎的な電気的事象・基本量を測定するための機器の種類を覚えることができる。</p> <p>B. 測定機器の原理・構造を理解し、取り扱うことができる。</p> <p>C. 実験内容を理解し、要求された項目を満たすレポートを書くことができる。</p> <p>D. 与えられる実験内容に関連したテーマについて調査し、発表することができる。</p> <p>E. 電気工学に関わる技術の知識を広げることができる。</p>			
授業方法	1年を4つのラウンドに分け、各ラウンド4つの実験テーマを行う。クラスを4グループに分け、各ラウンド4つのテーマをローテーションして行う。レポートは1つの実験に対して1通提出する。長期休暇明けには電気工学で必須である数学力を確認する問題を補助教材から出題する。各ラウンドの最後にはまとめとして発表を行う。また年1回の校外見学、卒業研究聴講を行い、レポートにまとめる。			
教科書	ガイダンスで配布する実験指導書			
補助教材	電気回路および電気磁気学の教科書 中学10分間復習ドリル/計算1~3年(受験研究社) ISBN978-4-424-63403-4 新課程版 ドラゴン桜式 数学カドリル 数学I・A(講談社) ISBN978-4-06-154299-0			
評価方法	実験レポート、実験ノートおよび指示された提出物を全て提出し、各個人が割り当てられた発表を行っていることが評価の前提となる。 各区分での評価は、レポート(80%)+実験ノート(10%)+実験態度(10%)とする。 【区分ごとの評価対象となるレポートと評価】 ※遅刻レポートは30%まで減点する。 前期中間：第1ラウンド評価 = 第1ラウンドの評価 前期末：第2ラウンド評価 = 第1ラウンドと第2ラウンドの評価の平均 後期中間：第3ラウンド評価 = 第1ラウンド・第2ラウンド・第3ラウンドの評価の平均 後期末：総合評価 = 第1~第4ラウンド評価の平均(70%) + 発表(10%) + 数学力(10%) + 発表聴講まとめ・見学レポート(10%) ※各ラウンドの最終期日までにレポートが提出されない場合、当該レポートの評価を0点として評点を算出する。レポート未提出は不可で扱うため、当該区分評価が60点以上の場合これを60-(未提出数)に置換える。 ※各ラウンドでの最終期日を超過した場合でもレポートは提出すること。学年末の最終期日までに全て			
関連科目	工学基礎(1年)、電気工学実験(3,4,5年)			
準備学習に関するアドバイス	ガイダンスをしっかりと聞き実験内容をよく理解しておくこと。実験前に予習して実験ノートを準備すること。実験はグループで行うが、一人一人が責任を持って実験に取り組んで他人任せにならないようにすること。この科目は学年修了要件科目であるため、不合格となった場合は進級できません。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	総合ガイダンス	□実験に関する諸注意、レポートの書き方の説明。(C)
3	<第1ラウンド>	
3	(1) 第1ラウンドガイダンス	□第1ラウンドの実験内容の理解
3	(2) 円形コイルによる磁界の測定	□コイル内の磁界を方位磁針を用いて測定(A, B, C)
3	(3) オシロスコープによる波形観測と測定	□オシロスコープを用いた電圧波形の計測(A, B, C)
3	(4) 電位差計による起電力測定と計器校正	□直流電位差計を用いた電圧計の較正(A, B, C)
3	(5) ホイートストン・ブリッジによる中抵抗の測定	□ホイートストン・ブリッジを用いた抵抗値の測定(A, B, C)
3	(6) 第1ラウンド発表	□与えられたテーマについてまとめて発表する(D)
3	<第2ラウンド>	
3	(1) 第2ラウンドガイダンス	□第2ラウンドの実験内容の理解
3	(2) Sパラメータの測定	□ネットワークアナライザを用いた高周波フィルタの周波数特性の計測(A, B, C)
3	(3) 交流回路におけるR・L・C単独素子の測定	□交流回路における電圧、電流、位相の関係を計測(A, B, C)
3	(4) インピーダンス・ブリッジによるL・Cの測定	□インピーダンス・ブリッジを用いてインダクタンスや静電容量を測定(A, B, C)
3	(5) 等電位線の測定	□電極間の電位分布を計測(A, B, C)
3	(6) 第2ラウンド発表	□与えられたテーマについてまとめて発表する(D)
3	(実験予備日) レポート整理	
3	<第3ラウンド>	
3	(1) 第3ラウンドガイダンス及び数学力確認	□第3ラウンドの実験内容の理解と電気工学実験に必要な数学力の確認
3	(2) 電磁誘導	□電磁誘導の計測(A, B, C)
3	(3) R-L直列接続回路の測定	□交流回路における電圧、電流、位相の関係を計測(A, B, C)
3	(4) 電磁力の測定	□微小な電磁力の測定(A, B, C)
3	(5) 太陽電池の特性測定	□太陽電池の基本特性を測定(A, B, C)
3	(6) 第3ラウンド発表	□与えられたテーマについてまとめて発表する(D)
3	<第4ラウンド>	
3	(1) 第4ラウンドガイダンス及び数学力確認	□第4ラウンドの実験内容の理解と電気工学実験に必要な数学力の確認
3	(2) 電位降下法による中抵抗測定法	□抵抗値や電流・電圧計の接続法の違いによる誤差補正(A, B, C)
3	(3) 単相電力計による交流電力の測定	□波形観察による単相電力と力率の測定(A, B, C)
3	(4) ケルビン・ダブルブリッジによる低抵抗の測定	□棒状導体の抵抗を測定し、固有抵抗を算出(A, B, C)
3	(5) ミニソーラーカーの製作と走行試験	□電気エネルギーを有効に運動エネルギーに変換する(A, B, C)
3	(6) 第4ラウンド発表	□与えられたテーマについてまとめて発表する(D)
6	実験予備日、レポート整理	
3	卒業研究発表聴講	□聴講した内容をまとめる(E)
3	校外見学	□電気工学の知識を広げ、見学内容をまとめる(E)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (一認定期試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		36	9	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	交流回路の基礎、回路の諸定理、相互誘導回路、共振回路について勉強する。また、対称三相交流回路の基礎を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 正弦波交流の基礎を理解できる。</p> <p>B. 交流回路網(単相)の計算ができる。</p> <p>C. 相互誘導回路の計算ができる。</p> <p>D. 共振回路の計算ができる。</p> <p>E. 三相平衡回路の基本的な計算ができる。</p>			
授業方法	授業毎に「授業プリント」を配布する。授業は基本的に「授業プリント」を用いて行い、教科書を参考書として使用する。また、授業終了数分前に白紙プリントを配布し、授業内容をまとめた「授業まとめプリント」を提出してもらう。			
教科書	「電気回路Ⅰ」黒木 修隆(オーム社)			
補助教材	「基礎からの交流理論」小亀 英己, 石亀 篤司, 小郷 寛(電気学会)			
評価方法	<p>定期試験を7割、平常点(授業まとめプリント+授業プリント)を3割、定期試験毎に評価し(全4回)、その合計の単純平均によって合否を判定する。遅刻欠席居眠りなど(欠席回数等)は最大20%の減点(平常点の66.6%を超えない)とする。</p> <p>成績計算方法 総合成績=各区間の成績の和/4</p> <p>区間の成績=定期試験*0.7+(提出物提出回数-提出物未提出回数)/提出物提出回数*30-欠席回数等/授業回数*20</p> <p>※ひどい居眠りや授業を妨げるおしゃべり等も欠席回数等にカウントする場合がある。 ※欠席回数等による減点は自学学習などにより軽減する場合がある。</p>			
関連科目	電気回路(1年次、2年次、4年次)			
準備学習に関するアドバイス	公式等をただ覚えるのではなく、数学的な考え方や物理現象をイメージできるようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	1. ガイダンス、電気回路の基礎	<input type="checkbox"/> 基礎である「電流」、「電圧」、「電力」等を理解できる(A)。
1.5	2. RLCの基本的性質	<input type="checkbox"/> 回路素子の性質について理解できる(A)。
1.5	3. 回路要素の接続と性質1	<input type="checkbox"/> 接続による回路特性を理解できる(A)。
1.5	4. 回路要素の接続と性質2	<input type="checkbox"/> 各接続の等価変換を理解できる(A)。
1.5	5. 交流の基礎1	<input type="checkbox"/> 瞬時値、周波数、周期、位相等が理解できる(A, B)。
1.5	6. 交流の基礎2	<input type="checkbox"/> 実効値、平均値等を理解できる(A, B)。
1.5	7. 前期中間範囲のまとめ	
0.75	前期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	8. フェーザ表示と複素数表示1	<input type="checkbox"/> 複素平面、オイラーの式、ベクトルを理解できる(A, B)。
1.5	9. フェーザ表示と複素数表示2	<input type="checkbox"/> 複素平面の考え方を電気回路に応用できる(A, B)。
1.5	10. フェーザによる交流回路解析	<input type="checkbox"/> フェーザ図を用いて回路解析ができる(A, B)。
1.5	11. インピーダンスとアドミタンス	<input type="checkbox"/> インピーダンスとアドミタンスを理解できる(A, B)。
1.5	12. 交流の電力	<input type="checkbox"/> 交流の電力を理解できる(A, B)。
1.5	13. 前期末範囲のまとめ	
0.75	前期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	14. 回路網の諸定理1	<input type="checkbox"/> キルヒホッフの法則、網目電流法を理解できる(B)。
1.5	15. 回路網の諸定理2	<input type="checkbox"/> 節点電位法、重ね合わせの理等を理解できる(B)。
1.5	16. 回路網の諸定理3	<input type="checkbox"/> 風・テブナンの定理、ノートンの定理を理解できる(B)。
1.5	17. 電磁誘導結合回路1	<input type="checkbox"/> 相互誘導について説明でき、相互誘導回路の計算ができる(C)。
1.5	18. 電磁誘導結合回路2	<input type="checkbox"/> 変圧器の計算ができる(C)。
1.5	19. 共振回路	<input type="checkbox"/> 共振現象を理解できる(D)。
1.5	20. 後期中間範囲のまとめ	
0.75	後期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	21. 三相交流回路1	<input type="checkbox"/> 単相交流や多相交流について説明できる(B, E)。
1.5	22. 三相交流回路2	<input type="checkbox"/> 多相交流の結線方法及び各部の名称について説明できる(E)。
1.5	23. 三相交流回路3	<input type="checkbox"/> ベクトルオペレータを理解し、計算で用いることができる(E)。
1.5	24. 三相交流回路4	<input type="checkbox"/> 線間電圧と相電圧、線電流と相電流の関係を説明できる(E)。
1.5	25. 三相交流回路5	<input type="checkbox"/> 対称三相交流回路の計算ができる(E)。
1.5	26. 学年末範囲のまとめ	
0.75	学年末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電子工学	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electronics	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・真空中における電界・磁界中での電子運動、固体中での電子の運動の説明。 ・各種半導体素子(ダイオード・トランジスタ等)の構造・動作原理・基本特性に関する解説。 ・基本的な電子回路の動作原理および回路構成に対する学習。 			
到達目標	<p>A. 電子運動の表現に必要なベクトル・微分積分の基礎を理解し、それらを用いた計算ができる。</p> <p>B. 電荷素量の導出法を理解し、説明できる。</p> <p>C. 光の粒子性、電子の波動性を理解し、説明できる。</p> <p>D. 任意の軌道における電子のエネルギー準位を算出できる。</p> <p>E. 導体・誘電体・半導体内におけるエネルギーバンド構造と電子の動きを理解し、説明できる。</p> <p>F. ダイオードの動作原理を理解し、説明できる。</p> <p>G. バイポーラトランジスタの動作原理を理解し、説明できる。</p>			
授業方法	座学を主として授業を行う。適宜、演習問題を解き、小テストを実施して理解度を高める。また、課題提出を求める。			
教科書	「電子工学基礎」中澤達夫、藤原勝幸(コロナ社)			
補助教材	なし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験毎に評価し(全4回)、各区間の平均を総合評価とする。 ・各区間の評価方法は、以下のものとする。 - 定期試験(70%) - ノート提出(10%) - 小テスト(10%) - 課題(10%) 			
関連科目	パワーエレクトロニクス(4年)、電子回路(4年)、応用物理(4年)、電気電子材料(4年)			
準備学習に関するアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業:積極的に授業に取り組み、ノート整理による知識の整理を心がけること。 ・試験:問題は記述・論述式の問題を中心とする。 ・その他:学んだことについて、第三者に説明できるような理解を心がけること。 			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業のガイダンス, 数学的知識の復習	<input type="checkbox"/> 電子工学に必要な電気磁気学の基礎知識を理解できる(A)
3	[電子と結晶]	
1.5	電子の電荷量	<input type="checkbox"/> トムソン・ミリカンの実験に基づき電子電荷を算出できる(B)
1.5	光の粒子性	<input type="checkbox"/> 光を持つエネルギーを算出できる(C)
1.5	電子の波動性	<input type="checkbox"/> ドブロイの関係式による物質波の波長を算出できる(C)
1.5	電子軌道	<input type="checkbox"/> ボーア理論、パウリの排他律について説明できる(D)
	[エネルギー準位]	
1.5	エネルギー準位①	<input type="checkbox"/> 原子内電子の位置エネルギー、運動エネルギーを算出できる(D)
3	エネルギー準位②	<input type="checkbox"/> 原子内の各軌道における電子のエネルギー準位を算出できる(D)
3	エネルギーバンド①	<input type="checkbox"/> エネルギーバンドの形成について説明できる(D)
3	エネルギーバンド②	<input type="checkbox"/> 自由電子が出来るメカニズムについて説明できる(D)
	[半導体の電荷キャリア]	
3	半導体の電荷キャリア①	<input type="checkbox"/> 真性半導体内のエネルギーバンド構造を説明できる(E)
3	半導体の電荷キャリア②	<input type="checkbox"/> P形/N型半導体内のエネルギーバンド構造を説明できる(E)
	[ダイオード]	
1.5	ダイオード①	<input type="checkbox"/> PN接合におけるエネルギーバンド構造の変化を説明できる(F)
1.5	ダイオード②	<input type="checkbox"/> ダイオードの電圧電流特性を説明できる(F)
1.5	ダイオード③	<input type="checkbox"/> ダイオードの静特性を説明できる(F)
	[トランジスタ]	
3	バイポーラトランジスタ①	<input type="checkbox"/> トランジスタ内部のエネルギーバンド構造を説明できる(G)
3	バイポーラトランジスタ②	<input type="checkbox"/> 接地方式と増幅度の関係性を理解できる(G)
3	バイポーラトランジスタ③	<input type="checkbox"/> 電流増幅回路、スイッチング回路の設計の基礎を理解できる(G)
	3 定期テスト(年4回)	
	3 学習指導期間(テスト解説)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報処理	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Information Processing	必修	講義	演習	実験・実習
10.5	34.5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期末曜日/後期末曜日 15:00-	t-kazama
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	305	水、金放課後	utsugi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1	B-1	(c)		
授業概要	[C言語] ソフトウェア開発に広く使われているC言語のプログラミングの基礎を習得する。 [アセンブラ] PIC対応アセンブラ言語のプログラミングを通じ、制御の基本概念を習得する。			
到達目標	[C言語] A. 変数と四則演算を使うことができる。 B. 分岐処理を使うことができる。 C. 繰り返し処理を使うことができる。 D. 配列を使うことができる。 [アセンブラ] E. 10進数・2進数・16進数の取り扱いができる。 F. 2進数の加算・減算ができる。 G. アセンブラ文法が理解できる。 H. 教材を使いプログラミングができる。 I. 制御プログラムが作成できる。			
授業方法	クラスを2分割して前期・後期で入れ替えてアセンブラとC言語を学ぶ。 [C言語] プログラミングを中心に授業を進める。適宜レポート提出を求める。 [アセンブラ] PICマイコンの教材を使用する。授業中適宜課題提出を求める。			
教科書	[C言語] やさしいC第4版 高橋麻奈 (ソフトバンク) [アセンブラ] PIC入門アセンブラ編 キットで遊ぼう電子回路研究会 (アドウィン)			
補助教材	授業で配布するプリント			
評価方法	1年間を2区間に分け、前期末・学年末で評価する。 総合評価は区間評価の単純平均とする。 [C言語] 区間評価 = 定期試験の平均点 × 0.5 + 提出されたレポートの平均点 × 0.5 [アセンブラ] 区間評価 = 筆記試験の平均点 × 0.5 + 課題の平均点 × 0.5 課題 = (内容(0~1) × 提出期限(0~1))の総和 / 課題数 × 30 授業態度(居眠り・私語等)によっては、最大で10%の範囲で減点する。			
関連科目	電子計算機(4年)			
準備学習に関するアドバイス	アセンブラとC言語を習得すれば、他の開発言語に対応することは比較的容易である。また、コンピュータ上だけでなくマイコンなどにも応用でき、卒業研究等で外部装置を用いた制御や計測のプログラム作成の基礎にもなる。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	[C言語] ガイダンス	
1.5	標準出力	<input type="checkbox"/> プログラムの作成と文字の出力
3	演算	<input type="checkbox"/> 変数や四則演算を用いたプログラムを作成できる。(A)
3	分岐	<input type="checkbox"/> if文を用いたプログラムを作成できる。(B)
4.5	繰り返し	<input type="checkbox"/> for文やwhile文を用いたプログラムを作成できる。(C)
4.5	配列	<input type="checkbox"/> 一次元配列、二次元配列、文字列を用いたプログラムを作成できる。(D)
1.5	総合演習	<input type="checkbox"/> 習得した技術を用いてプログラムが作成できる。(A、B、C、D)
0.75	中間試験	
0.75	期末試験	
1.5	試験解説と復習	
	[アセンブラ]	
1.5	ガイダンス	
1.5	データの取り扱い、2進数の計算	<input type="checkbox"/> 10進・2進・16進の変換(E) <input type="checkbox"/> 2進数による加算・減算(F) <input type="checkbox"/> マイコンの基本構成・動作(G)
1.5	マイコンの基礎	<input type="checkbox"/> 基本的な命令(G)
1.5	命令とプログラミング技法	<input type="checkbox"/> LED点灯プログラムの作成(H, I)
6	基礎プログラミング演習	<input type="checkbox"/> 遅延タイムプログラムの作成(H, I) <input type="checkbox"/> ネオンサインプログラムの作成(H, I) <input type="checkbox"/> LED点滅プログラムの作成(H, I)
7.5	応用プログラミング演習	<input type="checkbox"/> LEDカウンタプログラムの作成(H, I)
0.75	中間試験	
0.75	期末試験	
1.5	試験解説と復習	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
創造設計	EE:電気工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Creative Design	必修	3	講義	演習
			実験・実習	19.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	裁量日以外	y-ikumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1 EE-2 EE-3 EE-4		B-4		(d) (2)
授業概要	提示された条件に対して個々が独自かつ互いに影響し合いながら製作物を作り上げるための方法を実践的に学ぶ。さらに学習成果を活かす場として「学科コンテスト」を実施し、経験による学習成果の実感をより確かなものとする。			
到達目標	A. 与えられた課題を理解し設計に反映することができる B. スケジュール管理が行える C. 設計通りに作品を製作することができる D. 機構が理解できる E. 設計を修正できる F. 他者と協力して実現できる			
授業方法	必要スキルの講義を行った後、各自の創造性に基づく製作実習を行う。最終目標として「コンテスト」を実施し、製作物について評価を行う。評価時は設計図、企画書、動作データ等を仕様書形式でまとめて提出を課す。			
教科書	なし			
補助教材	実習用プリント			
評価方法	コンテストを実施し、区間評価を期末で平均する。 区間評価：課題+成果発表会の評価（教員・学生）50% コンテストの評価 50% 課題の提出なき場合は不合格となる。 コンテストでは表彰を予定している ・ 優勝、準優勝、3位までを決定する ・ アイデア賞、デザイン賞、ギミック賞、その他特別賞			
関連科目	メカトロニクス(4年)			
準備学習に関するアドバイス	課題は必ず期日を守って提出すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法の説明
3	コンセプト作成・発表	<input type="checkbox"/> アイデアの立案(A, B)
0.75	基本材料配布	<input type="checkbox"/> 機構の基礎 (C)
16.5	コンテスト用課題の製作	<input type="checkbox"/> 設計に応じた部材の加工 (C) <input type="checkbox"/> 本体の組み立てと調整および調整作業 (C)
1.5	製作物評価発表会	<input type="checkbox"/> 大会運営の補助 (F)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気エネルギー概論	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Electrical Energy	必修	講義	演習	実験・実習
		21	24	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
加藤 雅彦	電気工学科・教授	214	金曜日以外	kato-m
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	火曜: 16:30~17:00	watanabe
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	水曜日以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
EE-1		B-2	(d)(1)	
授業概要	電気エネルギーの発生から応用まで、様々な原理・現象・技術について各教員の専門分野を含めた内容で講義する。さらに電気の理論や計算問題を解くために必要な電気数学を学び、電気工学の理解を深める。			
到達目標	A. 講義内容の概要を理解することができる。 B. 聴講した内容を自分なりに考察してレポートに文章化することができる。 C. 与えられた期日を守って、完成した課題を提出することができる。 D. 与えられたテーマについて報告することができる。			
授業方法	7人の教員で4週ごとに交代してオムニバス形式で講義を行い、各テーマごとにレポートを提出する。また、理解を深めるための電気数学を学び演習を行う。最終報告では、電気エネルギーに関するテーマについて報告する。			
教科書	プリント			
補助教材	なし			
評価方法	各テーマごとのレポートを70[%]と確認テストを20[%]、最終報告を10[%]で評価する。最終報告が未提出の場合は不合格とする。授業態度によっては10[%]の範囲で減点する。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	理解しにくいところは積極的に質問をすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	総合ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明
6	「プロジェクト活動と電機システム」(渡辺) 「数学の基本事項」	<input type="checkbox"/> 各設定テーマに関する内容や周辺技術についての解説(A) <input type="checkbox"/> 各設定テーマに関するレポートの作成(B, C) <input type="checkbox"/> 電気工学の数学的表記と演習(A)
6	「光を用いた非侵襲診断の発展性」(吉田) 「式の計算」	
6	「ソーラーカーと電気自動車」(井組) 「方程式」	
5.5	「ワイヤレス電力伝送」(水谷) 「関数とグラフ」	
6	「機能性マテリアル」(加藤) 「三角関数」	
6	「海洋再生可能エネルギー」(山下(健)) 「ベクトルと複素数」	
6	「生物に学ぶシステムと制御」(風間) 「対数と利得」	
	(※講義の順番は入れ替わる場合がある。)	
3	最終報告	<input type="checkbox"/> 電気エネルギーに関するテーマについての報告(D)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気機器	EE:電気工学科	3年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Machinery	必修	講義	演習	実験・実習
		37	8	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	火曜: 16:30~17:00	watanabe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	電気を機械エネルギー動力に変換する直流発電機・電動機と、交流電力の変成機器としての変圧器についての原理・理論・取扱いについて学習し、これら電気機器の基礎を学ぶ。			
到達目標	A. 直流発電機・電動機, 変圧器の原理・構造・用途・特徴が理解できる。 B. 直流発電機・電動機, 変圧器の等価回路及び、特性計算が理解できる。 C. 直流発電機・電動機, 変圧器の運用方法について理解できる。			
授業方法	機器の原理・構造・理論特性を理解するための講義と、理解を深めるための小テストを単元ごとに行う。			
教科書	「電気機器」深尾 正 他著 (実教出版)、「電気技術A演習ノート」新井芳明・多田正美著 (実教出版)			
補助教材	「電気機器工学」天野寛徳・常広譲 共著 (電気学会)			
評価方法	1年を4区間に分け、各区間ごとに確認小テスト(課題含む)と定期試験を行い、定期テスト60%、小テスト・普段点(ノート、課題等)40%の比率とし区間の評価する。区間の評価を平均して総合評価とする。			
関連科目	電機設計(5年)			
準備学習に関するアドバイス	授業時間中に実施する単元ごと小テストを、常に高得点が取れるように予習をする。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5 3 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 3 3 3	ガイダンス 直流発電機の原理と構造 直流発電機の理論 直流発電機の種類と特性 直流電動機の理論 直流電動機の特徴 始動と速度制御 直流発電機の定格 直流電動機の定格 変圧器の構造 変圧器の理論 変圧器の等価回路 変圧器の電圧変動率 変圧器の損失と効率 変圧器の温度上昇と冷却 並列結線 三相結線 特殊変圧器 6 まとめ (年4回) 3 定期試験 (年4回) 3 学習指導期間 (年2回)	<input type="checkbox"/> 電機機器の種類と利用について理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 発電原理および整流子とブラシの役割が理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 電機子反作用についてその原因と対策について理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 電機子と界磁巻線の接続方法が理解できる。(A) <input type="checkbox"/> トルクの発生原理および電機子反作用について理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 分巻・直巻・複巻の各特性と用途が理解できる。(A) (B) <input type="checkbox"/> 始動器の必要性と速度制御について理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 電圧変動率と効率について理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 速度変動率と効率について理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 変圧器の構造が理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 変圧器の誘導起電力および励磁電流について理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 変圧器の等価回路を描くことができる。(B) <input type="checkbox"/> 百分率抵抗,リアクタンス降下,電圧変動率が理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 規約効率が理解できる。(B) (C) <input type="checkbox"/> 温度の上昇と冷却方法について理解できる。(C) <input type="checkbox"/> 並列結線する場合の注意点や結線方法が理解できる。(C) <input type="checkbox"/> 三相結線の方法を理解できる。(C) <input type="checkbox"/> 三相変圧器、特殊、計器用変成器の原理が理解できる。(A)
合計 45 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計測工学	EE:電気工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Instrumentation Technology	必修	講義	演習	実験・実習
19.5	3			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	裁量日以外	y-ikumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-3		(d)(1) (d)(3) (i)
授業概要	計測技術の中特に電気電子計測技術について、直流、交流を中心とした計測技術の基礎理論を習得する。			
到達目標	<p>A. 計測の基準や測定した値が示す意味を理解できる。</p> <p>B. 計測値に対する精度や誤差を理解できる。</p> <p>C. 計器の原理を理解できる。</p> <p>D. 直流計測の原理を理解できる。</p> <p>E. 交流計測の原理を理解できる。</p> <p>F. 抵抗・インピーダンスの測定の原理を理解できる</p>			
授業方法	座学にて授業を進める。授業中適宜小テストを実施したり、課題を出して提出することを求める。			
教科書	「電気・電子計測」阿部武雄／村山実（森北出版）			
補助教材	なし			
評価方法	<p>中間と期末で分けてそれぞれの区間で評価します。それまでの区間評価を単純平均したものを総合成績とします。</p> <p>区間評価(100点満点) = 定期試験(70%) + ノート・演習課題(30%)</p> <p>定期試験(70%) 中間試験、期末試験を実施します。</p> <p>ノート・演習課題(30%) 適宜、演習課題を実施します。ノート提出を求めてチェックすることがあります。 なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点します。</p>			
関連科目	計測工学(5年)			
準備学習に関するアドバイス	これまでの電気工学実験などを振り返りながら、授業前に教科書の該当部分をよく読んで授業に望むこと。ノートや課題の提出を怠らないこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	授業計画、評価方法の説明
2.25	計測の基礎	<input type="checkbox"/> 誤差と測定値の処理(A)
2.25	単位系と標準	<input type="checkbox"/> 単位系・計測標準・校正(B)
3.75	電気・電子計器の基礎	<input type="checkbox"/> 指示計器、電子計器の原理 <input type="checkbox"/> 可動コイル形計器 <input type="checkbox"/> 可動鉄片形計器 <input type="checkbox"/> 電流力形
1.5	直流電圧、直流電流の測定	<input type="checkbox"/> 電圧・電流の測定の原理(D)
0.75	中間試験	
1.5	直流電力の測定	<input type="checkbox"/> 電力の測定の原理(D)
1.5	抵抗の測定	<input type="checkbox"/> 種々の抵抗測定法とその原理(F)
3	交流電圧、交流電流、交流電力の測定	<input type="checkbox"/> 交流電圧・電流・電力測定法の原理
3	インピーダンスの測定	<input type="checkbox"/> インピーダンスの測定法(F)
0.75	期末試験	
1.5	試験の解説、理解不十分内容の確認	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械工学	EE:電気工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Mechanical Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
19.5	3			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	裁量日以外	y-ikumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-3		(d)(1) (d)(3) (i)
授業概要	「ものづくり」において力や応力、材料特性などについて知ることは、壊れない製品を設計する上で重要である。本講義では材料力学の基礎を習得することを目的とする。			
到達目標	A. 機械の仕組みを理解できる。 B. 力のモーメントと偶力の関係を理解できる。 C. 動力と仕事について理解できる。 D. 材料の強さと使い方について理解できる。 E. 曲げを受ける部材の強さについて理解できる。 F. せん断・ねじりを受ける部材の強さについて理解できる。			
授業方法	座学にて授業を進める。授業中適宜小テストの実施や課題提出を求める。			
教科書	「新機械設計」 実教出版			
補助教材	なし			
評価方法	中間と期末で分けてそれぞれの区間で評価します。それまでの区間評価を単純平均したものを総合成績とします。 区間評価(100点満点) = 定期試験(70%) + ノート・演習課題(30%) 定期試験(70%) 中間試験、期末試験を実施します。 ノート・演習課題(30%) 適宜、演習課題を実施します。ノート提出を求めてチェックすることがあります。 なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点します。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分をよく読んで授業に望むこと。ノートや課題の提出を怠らないこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価方法の説明
0.75	機械に働く力と仕事	<input type="checkbox"/> 機械のしくみ(A)
3	仕事と動力	<input type="checkbox"/> 力(B,C) <input type="checkbox"/> 仕事(B,C) <input type="checkbox"/> エネルギーと動力(B,C)
4.5	材料の強さと使い方	<input type="checkbox"/> 材料の機械的性質(D) <input type="checkbox"/> 引張・圧縮荷重と材料の変形(D) <input type="checkbox"/> 主な機械的性
0.75	演習課題	
0.75	中間試験	
1.5	引っ張り・圧縮を受ける部材の強さ	<input type="checkbox"/> 荷重を支える部材に生じる応力
6	曲げを受ける部材の強さ	<input type="checkbox"/> はりに加わる力
1.5	せん断・ねじりを受ける部材の強さ	<input type="checkbox"/> はりに作用する曲げモーメント(E) <input type="checkbox"/> 曲げ応力(E) <input type="checkbox"/> せん断・ねじりを受
0.75	演習課題	
0.75	期末試験	
1.5	試験解説と復習	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気工学実験	EE:電気工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments in Electrical Engineering	*必修	9	24	57
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	火曜:16:30~17:00	watanabe
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	水曜日以外	t-kazama
井組 裕貴	電気工学科・助教	215	水曜日以外	y-ikumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1 EE-2 EE-3		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	電気機器、電気電子回路、メカトロニクス、電子物性等の基礎的な現象について測定、製作、解析、考察する。またMCで使用する7-加工と各種工作機械の基本操作を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 電気配線や電子回路製作などを行うことができる。</p> <p>B. 基本的な装置や機器を取り扱うことができる。</p> <p>C. 工作機械で基礎的な機械加工ができる。</p> <p>D. 実験で得られた結果や考察などを第三者に正確に伝えることができる。</p> <p>E. 電子制御の基礎が理解できる。</p> <p>F. 素子やセンサーを取り扱うことができる。</p> <p>G. エネルギー変換の概念を理解できる。</p> <p>H. 技術や知識をまとめ融合し発展的に考察できる。</p>			
授業方法	18の実験テーマをローテーションで行う。始めに実験に関する諸注意等が教員より説明され、その後各自実験を行う(実験開始前に指導書を良く読んでおくこと)。実験終了時に実験結果の書かれた実験ノートを担当教員へ提出し、確認印とレポートの表紙を受け取る。ローテーション後レポート指導と演習を行う。			
教科書	プリント・電気工学実験指導書・実験心得			
補助教材	プリント			
評価方法	<p>前期9回、後期9回行われる全ての実験に参加し、全レポート及び実験ノートを提出することと学年末に行なわれる「口述試験」に合格することが評価の前提となる。</p> <p>評価はレポートを80%、実験ノートを10%、口述試験を10%とし、未完成及び遅刻レポートは総合得点から最大30%の減点となる。</p> <p>総合評価=(レポート評価の合計/18×10×0.8+実験ノートの点数+口述試験の点数) - (未完成・遅れレポート数/18×30)</p> <p>※実験ノートや口述試験の点数の点数は10点とする。</p> <p>※レポートの配点(10点×18回)は教員によって評価方法が異なるため、ガイダンスで説明が行われる。</p>			
関連科目	電子工学(3年)			
準備学習に関するアドバイス	実験の内容を予習しておくこと。実験中は積極的に取り組み、良く観察し理解を深めること。レポートの遅延は大幅な減点になるので期日を守ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	<第一ブロック>	
3	ガイダンス	<input type="checkbox"/> カリキュラムにおける第一ブロックの位置づけを理解する
3	①小型モータの特性試験 I	<input type="checkbox"/> 小型モータの諸特性のはかり方を理解できる。(B) (D)
3	②小型モータの特性試験 II	<input type="checkbox"/> 小型モータの基本特性を理解することができる。(B) (D)
3	③小型モータの速度制御	<input type="checkbox"/> 小型モータの特性を理解し応用できる。(B) (D)
3	④I/O実験装置(センサ/入力装置)の製作 I	<input type="checkbox"/> 製作する回路の動作説明ができる。(A) (D) (F)
3	⑤I/O実験装置(表示器)の製作 II	<input type="checkbox"/> 回路図を基に回路基板の製作ができる。(A) (D) (F)
3	⑥I/O実験装置の製作・動作確認	<input type="checkbox"/> 制御概念を理解できる。(A) (E)
3	⑦ダイオードの静特性	<input type="checkbox"/> 半導体の静特性の測定方法とその性質が理解できる。(F) (D)
3	⑧最小二乗法によるデータ処理	<input type="checkbox"/> 最小二乗法による実験のデータ処理ができる。(D)
3	⑨デジタル基本回路	<input type="checkbox"/> デジタル回路の基本回路が理解できる。(F) (D)
12	予備日、レポート・課題指導	<input type="checkbox"/> 適切な報告書を作成でき、実験について説明できる。(D)
	<第二ブロック>	
3	ガイダンス	<input type="checkbox"/> カリキュラムにおける第二ブロックの位置づけを理解する
3	①風力発電装置の基礎特性測定	<input type="checkbox"/> 風力発電の出力曲線を理解することができる。(G) (B) (D)
3	②直流分巻電動機の特性試験	<input type="checkbox"/> 産業界で用いられる直流機の諸特性を理解できる。(B) (D)
3	③高電圧試験	<input type="checkbox"/> 1kV以上の電圧の特性について理解や考察ができる。(B) (D)
3	④機械工作実習 I	<input type="checkbox"/> 工作機械全般の取り扱い、注意事項が理解できる。(C) (D)
3	⑤機械工作実習 II	<input type="checkbox"/> 旋盤の使い方が理解できる。(C) (D)
3	⑥機械工作実習 III	<input type="checkbox"/> アーク溶接機の取り扱いが理解できる。(C)
3	⑦PWMによる小型直流モータの速度制御 I	<input type="checkbox"/> 回路の動作説明、回路製作ができる。(A) (D)
3	⑧PWMによる小型直流モータの速度制御 II	<input type="checkbox"/> PWM制御信号による電圧-速度特性が理解できる。(A) (F) (D)
3	⑨PWMによる小型直流モータの速度制御 III	<input type="checkbox"/> 各部回路動作が理解できる。(B) (F) (D)
3	校外学習(施設、展示等の見学)	<input type="checkbox"/> 自分が学んでいる電気工学の位置づけや価値を理解できる。(H)
12	予備日、レポート・課題指導、口述試験	<input type="checkbox"/> 適切な報告書を作成でき、実験について説明できる。(D)
3	5年卒業研究発表聴講	<input type="checkbox"/> 第三者の発表を聞き、技術的な質問をすることができる。(H)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定期間試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気磁気学	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electromagnetism	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山本 和義	機械電子工学科・非常勤講師	230	毎授業終了時	ymt
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	微積分・ベクトル解析といった「言葉」を用い、原理に基づいて電気磁気学の「理論」を構成していく。前期は静電磁場、後期は時間に依存する電磁場について学んでいく。			
到達目標	<p>A. ベクトル解析の初等計算ができる。</p> <p>B. 静電場・電位といったものの意味と数式との関係が理解できる。</p> <p>C. 静電磁場の基本法則の積分形から微分形を導出できる。</p> <p>D. 電流密度と静磁場、ローレンツ力に関する初等的な計算ができる。</p> <p>E. 基本的な保存則(電荷およびエネルギー)が理解できる。</p> <p>F. 誘導電場・変位電流の必要性が理解でき、マクスウェル方程式を書き下すことができる。</p> <p>G. マクスウェル方程式から出発して、電磁波の基本的な性質が理解できる。</p>			
授業方法	下記の教科書に沿った講義を行う。また、ほぼ毎回小テストが行われる。			
教科書	『新・演習電気磁気学』阿部 龍蔵著, サイエンス社			
補助教材	(参考書) 『単位が取れる電気磁気学演習帳』橋本 淳一郎著, 講談社			
評価方法	年間で4つの区間に分け、区間評価の単純平均により総合評価を行う。区間評価は「試験(70%)+小テスト・提出課題(30%)」の100点法によるものとする。試験等の素点は100点満点とは限らないので適宜点数を換算する。点数比率・点数換算の詳細は答案返却時に説明される。小テスト・提出課題は学習指導期間において再提出が可能になる場合がある。後期後半の区間においては特別の課題提出を求めることがある。これが行われる場合は、後期後半の区間評価に25%(25点)を限度とした加点・減点があり得る。			
関連科目	2年次の「電気磁気学」			
準備学習に関するアドバイス	ほぼ毎回20分程度の小テストを行います。この小テストをうまく利用して、電気磁気学の言葉であるベクトル解析をマスターしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	授業方針, 年間計画, 評価方法の解説
3	電荷密度と電場	<input type="checkbox"/> クーロンの法則からガウスの法則へ (B)
3	電場と電位	<input type="checkbox"/> 電場と電位, 電気力のする仕事とエネルギー (A, B)
1.5	静電場の基本法則	<input type="checkbox"/> 微分形を主体とした静電場の基本法則 (A, C)
1.5	ベクトル解析	<input type="checkbox"/> 微積分とベクトル解析の計算の演習 (A)
0.75	まとめと補足	前期前半区間の内容のまとめと補足
0.75	前期中間試験	
0.75	前期中間試験の解説	
3	電流密度と磁場	<input type="checkbox"/> アンペールの法則とその微分形 (D)
3	動く電荷と磁場, 保存則	<input type="checkbox"/> ローレンツ力, 電荷保存則 (D, E)
1.5	静磁場の基本法則	<input type="checkbox"/> 微分形を主体とした静磁場の基本法則 (C)
0.75	まとめと補足	前期後半区間の内容のまとめと補足
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導期間	前期期末試験の解説。成績不振者がいた場合はその補習
3.75	電磁誘導と変位電流	<input type="checkbox"/> ファラデーの電磁誘導の法則, マクスウェルの変位電流 (F)
3	マクスウェル方程式	<input type="checkbox"/> 電場と磁場の統合, マクスウェル方程式 (F)
3	電磁場のエネルギー	<input type="checkbox"/> 静電エネルギーと磁気エネルギー (E)
0.75	まとめと補足	後期前半区間の内容のまとめと補足
0.75	後期中間試験	
0.75	後期中間試験の解説	
3	ポインティングベクトル	<input type="checkbox"/> エネルギーの流れとポインティングベクトル (E)
4.5	電磁波	<input type="checkbox"/> マクスウェル方程式の解, 進行電磁波 (G)
0.75	まとめと補足	後期後半区間の内容のまとめと補足
0.75	後期期末試験	
1.5	学習指導期間	後期期末試験の解説。成績不振者がいた場合はその補習
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		36	9	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	交流回路の周波数特性, 基本的な回路の過渡現象について学ぶ。また, 正弦波交流だけでなく, ひずみ波交流についても学習する。さらに, 分布定数回路について学ぶ。特に, 部分積分などの数学を駆使した授業となるため, 数学的準備が必須である。			
到達目標	A. 交流の周波数特性やフィルタの原理を理解ができる。 B. 直流回路の過渡特性解析の基本的な演算ができる。 C. ひずみ波交流の基本的な計算ができる。 D. 分布定数回路を理解し, 基本的な計算を行うことができる。			
授業方法	授業は板書を中心とし講義形式で進める。適宜、プリントを配布し、小テストで理解度確認を行う。			
教科書	「電気回路Ⅱ」竹野裕正(オーム社)			
補助教材	「基礎からの交流理論」小亀、石亀、小郷(電気学会)			
評価方法	<p>区間評価(100点満点) = ①定期試験(70%) + ②小テスト(30%)</p> <p>各区間ごとの評価を単純平均したものを総合成績とします。</p> <p>①定期試験 70% 中間試験、期末試験を実施します。 ②小テスト 30% 適宜、前回までの学習内容を確認し、知識の整理と定着を促すため、小テストを実施します。</p> <p>これらの内容を本項目として評価します。</p> <p>なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点をします。</p>			
関連科目	電気回路(1年、2年、3年)			
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分をよく読み、基礎知識を身につけた上で授業に望むこと。授業では、重点テーマおよび重点ポイントを中心に板書にて講義を行う。板書は必ずノートにとり、家での復習では重点テーマに沿って、自分が理解した内容を別のノートにまとめ直すことで、十分な理解と知識の定着を図ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	1. ガイダンス	
6.75	2. 交流回路の周波数特性	<input type="checkbox"/> 各素子や組み合わせ回路の周波数特性を理解できる。(A) <input type="checkbox"/> フィルタとその特性を理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 変数分離型で微分方程式を解くことができる。(B)
3	3. 数学的準備	
0.75	前期中間試験	
4.5	4. 基本回路の過渡現象	<input type="checkbox"/> 各素子の電圧方程式を理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 初期値や時定数を理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 微分方程式を用いた基本的な過渡解析ができる。(B)
4.5	5. ラプラス変換	<input type="checkbox"/> ラプラス変換と逆ラプラス変換の使用法を理解できる。(B) <input type="checkbox"/> ラプラス変換を用いた基本的な計算ができる。(B) <input type="checkbox"/> ラプラス変換による電気回路の基本的な解析ができる。(B)
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導(確認演習等)	
10.5	6. ひずみ波交流とフーリエ級数展開	<input type="checkbox"/> ひずみ波交流とフーリエ級数展開について理解できる。(C) <input type="checkbox"/> ひずみ波交流のフーリエ係数と直流成分を計算できる。(C) <input type="checkbox"/> 偶関数と奇関数について理解できる。(C) <input type="checkbox"/> ひずみ波交流の実効値計算など、基本的な計算ができる。(C) <input type="checkbox"/> ひずみ波の電力やひずみ率について理解できる。(C) <input type="checkbox"/> ひずみ波交流の基本的な回路計算ができる。(C)
0.75	後期中間試験	
1.5	7. 二端子対回路	<input type="checkbox"/> 基本的な二端子対回路について理解することができる。(D) <input type="checkbox"/> 電信方程式や伝搬定数などを理解できる。(D) <input type="checkbox"/> 電磁波の反射や透過等の現象について理解できる。(D) <input type="checkbox"/> 分布定数回路の基本的な素子について理解できる。(D)
7.5	8. 分布定数回路	
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導(確認演習等)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電子回路	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electronic Circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 電子回路素子(ダイオード、トランジスタ、FETなど)の基本特性・動作の解説 上記の回路素子を用いた増幅回路、発振回路を例とした基本的な電子回路の構成・動作の学習 			
到達目標	<p>A. 電子回路素子(ダイオード、トランジスタ、FETなど)の基本特性・動作を理解することができる。</p> <p>B. 増幅回路の基本的な構成・動作を理解することができる。</p> <p>C. 負帰還増幅回路や電力増幅回路など各種増幅回路の構成・動作を理解することができる。</p>			
授業方法	座学を主として授業を行う。適宜、演習問題を解き、小テストを実施して理解度を高める。また、課題提出を求める。			
教科書	「わかりやすい電子回路」篠田庄司監修、和泉勲編著 コロナ社			
補助教材	適宜配布する演習問題、プリント			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験毎に評価し(全4回)、各区間の平均を総合評価とする。 各区間の評価方法は、以下のものとする。 - 定期試験(70%) - ノート提出(10%) - 小テスト(10%) - 課題(10%) 			
関連科目	電子工学(3年)			
準備学習に関するアドバイス	電気系エンジニアをめざす学生にとって基礎となる大事な科目です。積極的な予習・復習を行い、授業をしっかりと聴いて理解してください。また、わからないところは、自分で調べたり質問(授業中や授業後)をしたりして、理解に努めてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 電気工学科における本科目の位置付け、重要性を理解している。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方、評価方法を理解している。
1.5	<電子回路素子> ダイオード	<input type="checkbox"/> ダイオードの構造、特性を理解できる(A)。
4.5	トランジスタ	<input type="checkbox"/> トランジスタの基本特性、基本回路について理解できる(A)。
3.75	電界効果トランジスタ	<input type="checkbox"/> 電界効果トランジスタ(FET)の構造、特性を理解できる(A)。
1.5	集積回路	<input type="checkbox"/> 集積回路(IC)の種類、動作について理解できる(A)。
0.75	前期中間試験	
0.75	前期中間試験の解説	
1.5	<増幅回路の基礎> 増幅回路の構成	<input type="checkbox"/> 増幅回路の構成、しくみについて理解できる(B)。
2.25	増幅回路の動作	<input type="checkbox"/> 増幅回路の動作、バイアスについて理解できる(B)。
3	トランジスタの等価回路	<input type="checkbox"/> トランジスタの等価回路、hパラメータを理解できる(A, B)。
2.25	増幅回路の特性変化	<input type="checkbox"/> トランジスタのバイアス変動、周波数特性が理解できる(A, B)。
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間	
4.5	<いろいろな増幅回路> 負帰還増幅回路	<input type="checkbox"/> 負帰還増幅回路の動作を理解し、増幅度の計算ができる(C)。
2.25	エミッタフォロア	<input type="checkbox"/> エミッタフォロア増幅回路の動作が理解できる(C)。
1.5	差動増幅回路	<input type="checkbox"/> 差動増幅回路動作を理解できる(C)。
0.75	後期中間試験	
0.75	後期中間試験の解説	
3	OP アンプ回路	<input type="checkbox"/> OP アンプ(演算増幅器)の動作、使い方が理解できる(C)。
3	電力増幅回路	<input type="checkbox"/> 電力増幅回路の動作が理解できる(C)。
2.25	低周波増幅回路と高周波増幅回路	<input type="checkbox"/> 低周波増幅回路と高周波増幅回路の基本が理解できる(C)。
0.75	後期末試験	
1.5	学習指導期間	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電子計算機	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-1		(c)
授業概要	コンピュータのハードウェアの基礎を習得する。特に、前半はノイマン型コンピュータの基礎として2進数およびブール代数、論理回路等を習得し、後半はコンピュータを構成する各装置やネットワーク等について習得する。			
到達目標	<p>A. 2進数による基本的な算術演算ができる。</p> <p>B. 数の表現(補数等)の基本問題が解ける。</p> <p>C. ブール代数と論理回路の基本問題が解ける。</p> <p>D. 2進演算と算術回路の対応に関する基本問題が解ける。</p> <p>E. アドレスやメモリの構成、種類等を理解している。</p>			
授業方法	授業は板書を中心とし講義形式で進める。適宜、プリントを配布し、小テストで理解度確認を行う。			
教科書	「計算機システム(改訂版)」春日、館泉(コロナ社)			
補助教材	なし			
評価方法	<p>区間評価(100点満点)＝①定期試験(70%)＋②小テスト(30%)</p> <p>各区間ごとの評価を単純平均したものを総合成績とします。</p> <p>①定期試験 70% 中間試験、期末試験を実施します。</p> <p>②小テスト 30% 適宜、前回までの学習内容を確認し、知識の整理と定着を促すため、小テストを実施します。</p> <p>これらの内容を本項目として評価します。 なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点をします。</p>			
関連科目	情報処理(3年)			
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分をよく読み、基礎知識を身につけた上で授業に望むこと。授業では、重点テーマおよび重点ポイントを中心に板書にて講義を行う。板書は必ずノートにとり、家での復習では重点テーマに沿って、自分が理解した内容を別のノートにまとめ直すことで、十分な理解と知識の定着を図ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 本授業の位置付けと年間授業計画、評価方法を理解している。
0.75	1. コンピュータの概要	<input type="checkbox"/> 基本的なシステム構成およびハードウェア構成を理解している。
9	2. コンピュータでのデータ表現	<input type="checkbox"/> 2進数および基数の変換を理解し、基本的な問題が解ける。(A) <input type="checkbox"/> 数の表現(補数、浮動小数点表示等)の基本問題が解ける。(B) <input type="checkbox"/> 2進数による基本的な算術演算ができる。(A)
0.75	前期中間試験	
9	3. ブール代数とデジタル回路	<input type="checkbox"/> ブール代数の基本問題が解ける。(C) <input type="checkbox"/> 基本組み合わせ回路の基本問題が解ける。(C) <input type="checkbox"/> 論理回路の簡単化の基本問題が解ける。(C) <input type="checkbox"/> 順序回路の基本問題が解ける。(C)
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導(演習等)	
10.5	4. 2進演算と算術回路	<input type="checkbox"/> 2進演算と算術回路の対応に関する基本問題が解ける。(D)
0.75	後期中間試験	
4.5	5. マイクロプロセッサのアーキテクチャ	<input type="checkbox"/> 命令セット、アドレス等を理解している。(E)
4.5	6. メモリ	<input type="checkbox"/> メモリの構成、種類等を理解している。(F)
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導(演習等)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
メカトロニクス	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Mechatronics	必修	講義	演習	実験・実習
16.5	24	4.5		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期末以外/後期末以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-4		(d) (2)
授業概要	メカトロニクスとは、メカニクス(機械工学)とエレクトロニクス(電子工学)を組み合わせた世界で通用する和製英語であり、機械工学、電気工学、電子工学、情報工学の知識・技術を融合させることによって機能性の高い機械システムを提供するものである。本講義ではこれらの要素技術を修得する。			
到達目標	<p>A. メカトロニクスの基本的な概念を理解する。</p> <p>B. LabVIEWの基本的な使用方法を習得する。</p> <p>C. LabVIEWを用いて計測することができる。</p> <p>D. LabVIEWを用いて外部回路へ出力することができる。</p> <p>E. AD変換の基本原則を理解できる。</p> <p>F. 物理現象をセンサを用いて計測することができる。</p> <p>G. 対象物を制御する基礎を理解できる。</p>			
授業方法	関連する基本的な座学を行いながら、演習を中心に授業を進める。演習や実習では適宜課題を出し、提出することを求める。			
教科書	「図解LabVIEW実習」、堀桂太郎著、森北出版			
補助教材	授業中に配布するプリント			
評価方法	1年を2区間に分けて前期末と後期末に評価する。総合評価は区間評価の単純平均とする。 区間評価 = 定期試験(70%) + 各区間での演習・実習課題(提出期限・内容)(30%) 授業態度に応じて10%の範囲で減点する。			
関連科目	創造設計(3年)			
準備学習に関するアドバイス	製作ではハンダやニッパーなどの基本的な工具を使用するので授業開始までに準備しておくこと。卒業研究にも応用できる内容なので積極的に参加してもらいたい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	年間授業計画、評価方法の説明
1.25	メカトロニクスの基本	<input type="checkbox"/> メカトロニクスの基本概念の理解(A)
1.5	LabVIEWの基本的な使い方	<input type="checkbox"/> LabVIEWの基本操作方法の習得(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)値の入出力	<input type="checkbox"/> 制御器・表示器・変数(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)ストラクチャ(1)	<input type="checkbox"/> ストラクチャ・タイミング(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)ストラクチャ(2)	<input type="checkbox"/> ブール関数・チャート・グラフ・シフトレジスタ・フィードバックノード(C)
1.5	LabVIEW(基礎編)ストラクチャ(3)	<input type="checkbox"/> ケースストラクチャ(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)ストラクチャ(4)	<input type="checkbox"/> シーケンスストラクチャ・フォーミュラノード(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)スイッチ	<input type="checkbox"/> スイッチ動作(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)配列(1)	<input type="checkbox"/> 配列変数(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)配列(2)	<input type="checkbox"/> 配列関数・クラスタ(B)
1.5	LabVIEW(基礎編)配列(3)	<input type="checkbox"/> クラスタ関数(B)
3	LabVIEW(基礎編)ファイル操作(1)	<input type="checkbox"/> ファイル保存、エクセルでデータ処理(B)
0.75	前期末試験	
1.5	試験答案返却・解説	
3	アナログ回路の基礎	<input type="checkbox"/> 素子の基本的な使用方法(F)
		<input type="checkbox"/> 動作確認用の回路を製作・動作試験(F)
1.5	センサ回路の製作	<input type="checkbox"/> センサ回路の製作・出力特性測定(F)
1.5	計測器の基礎	<input type="checkbox"/> A/Dコンバータ、計測関数(C, E)
1.5	LabVIEW(計測編)アナログ計測(1)	<input type="checkbox"/> アナログ入力を用いた計測(C)
1.5	LabVIEW(計測編)デジタル入力	<input type="checkbox"/> デジタル入力を用いたブール入力
1.5	LabVIEW(計測編)アナログ計測(2)	<input type="checkbox"/> 製作したセンサを用いた計測
3	LabVIEW(計測編)ファイル操作(2)	<input type="checkbox"/> 計測値をファイル保存、エクセルでデータ処理
1.5	LabVIEW(出力編)デジタル出力	<input type="checkbox"/> デジタル出力を用いて外部回路に出力(D, G)
1.5	LabVIEW(出力編)デジタル出力	<input type="checkbox"/> アナログ出力を用いて外部回路に出力(D, G)
4.5	LabVIEW(応用編)制御実習	<input type="checkbox"/> モータ制御実習(G)
0.75	学年末試験	
1.5	試験答案返却・解説	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
パワーエレクトロニクス	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Power Electronics	必修	講義	演習	実験・実習
		37	8	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	火曜: 16:30~17:00	watanabe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	誘導電動機、同期機器について原理・構造・理論・特性について学習し、さらに電気機器及びエネルギー変換の制御方法の技術としてパワーエレクトロニクスの基礎を学ぶ。			
到達目標	A. 電気機器の原理・構造・用途・特徴が理解できる。 B. 電気機器の等価回路における特性計算が理解できる。 C. 電気機器の特性や制御方法について理解できる。 D. 電気機器の運用方法について理解できる。 E. 電力変換の基礎を理解することができる。			
授業方法	機器の原理・構造・理論特性を理解するための講義と、理解を深めるための小テストを単元ごとに行う。			
教科書	「電気機器」深尾 正 他著(実教出版)、「電気技術A演習ノート」新井芳明・多田正美著(実教出版)			
補助教材	「電気機器工学」天野寛徳・常広譲 共著(電気学会)			
評価方法	1年を4区間に分け、各区間ごとに確認小テスト(課題含む)と定期試験を行い、定期テスト60%、小テスト・普段点(ノート、課題等)40%の比率とし区間の評価する。区間の評価を平均して総合評価とする。			
関連科目	電子工学(3年)			
準備学習に関するアドバイス	授業時間中に実施する単元ごと小テストを、常に高得点が取れるように予習をする。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 電機機器の種類と利用について理解できる。(A)
1.5	三相誘導電動機の原理	<input type="checkbox"/> 回転の原理、移動磁界について理解できる。(A)
1.5	三相誘導電動機の構造と理論	<input type="checkbox"/> 固定子・回転子の構造や誘導起電力が理解できる。(A)
1.5	三相誘導電動機の等価回路	<input type="checkbox"/> 等価回路を理解できる。(B)
2	三相誘導電動機の特性	<input type="checkbox"/> 滑りや回転速度などの算出方法を理解できる。(B)
1.5	三相誘導電動機の運転	<input type="checkbox"/> 始動や速度制御の方法について理解できる。(C)
1.5	円線図	<input type="checkbox"/> 円線図から各種特性を読み取ることができる。(B)(C)
1.5	特殊かご型誘導電動機	<input type="checkbox"/> 特殊かご型の構造と特性について理解できる。(A)
1.5	単相誘導電動機	<input type="checkbox"/> 単相誘導電動機の構造と特性について理解できる。(A)
1.5	誘導電圧調整器	<input type="checkbox"/> 誘導電圧調整器について理解できる。(A)
3	三相同期発電機の原理と構造	<input type="checkbox"/> 同期発電機の起電力の原理と構造が理解できる。(A)
2	三相同期発電機の等価回路	<input type="checkbox"/> 電機子反作用と等価回路について理解できる。(B)
1.5	三相同期発電機の特性	<input type="checkbox"/> 各種特性曲線を理解できる。(C)
2	三相同期発電機の出力と並行運転	<input type="checkbox"/> 出力、負荷角や並列接続の負荷が理解できる。(C)(D)
1.5	三相同期電動機の原理	<input type="checkbox"/> 同期速度で回転することが理解できる。(A)
3	三相同期電動機の特性	<input type="checkbox"/> 入力、出力、トルクの特性を理解できる。(B)
1.5	三相同期電動機の始動とその利用	<input type="checkbox"/> 同期電動機の始動や調相機への利用について理解できる。(D)
3	電力変換方式	<input type="checkbox"/> 電力変換装置の原理が理解できる。(E)
6	まとめ (年4回)	<input type="checkbox"/> 復習や関連項目の講義で学習項目を確認する。
3	定期試験 (年4回)	前期定期試験 I, II、後期定期試験 I, II
3	学習指導期間 (年2回)	学習事項の定着確認。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
発電工学	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Power Generation and Transformation Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉澤 伸幸	電気工学科・非常勤講師	312	木曜日 12:30~13:00	yosizawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
EE-1		B-2	(d) (1)	
授業概要	水力発電、火力発電、原子力発電などの従来の発電システムから燃料電池、太陽光発電などの新しい発電システムまでの原理やそれに付随する理論について学ぶ。また、得られた電力を安定して供給するために必要となる変電設備について学習する。			
到達目標	A. 水力発電、火力発電、原子力発電など従来の発電システムについて説明できる。 B. 送配電の基礎的な計算ができる。 C. 燃料電池、太陽光発電など新しい発電システムについて説明できる。			
授業方法	教科書を中心として行い、適宜演習を行う。			
教科書	「発電工学入門」矢野、大石(森北出版)			
補助教材	プリントを適時配布			
評価方法	定期試験は、前期中間、前期期末、後期中間および学年末の計4回行う。 講義期間中に、「達成目標」に基づく内容の小テストおよびレポート課題を行う。 各区間の成績は、定期試験素点70[%]、小テストおよび課題レポート点が30[%]とし、総合成績は各区分成績の平均とする。			
関連科目	高電圧工学(5年)			
準備学習に関するアドバイス	演習問題は自分自身で解くようにしてください。参考とする文献は多くあるが、的(まと)を絞って学習し、自分にあった書籍でしっかりと基礎を固めて欲しい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	年間授業計画、評価方法の説明
1.5	発電の現状	<input type="checkbox"/> 我国における発電システム(A, B, C)
2.25	水の性質	<input type="checkbox"/> 水力発電における水の性質(A)
1.5	水力、水車、発電	<input type="checkbox"/> 基本的な水力発電(A)
1.5	揚水発電	<input type="checkbox"/> 揚水式の水力発電(A)
1.5	比速度	<input type="checkbox"/> 比速度(A)
0.75	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 前期中間区間の内容の復習
0.75	前期中間試験	
0.75	前期中間試験の解説	
1.5	火力発電	<input type="checkbox"/> 火力発電(A)
2.25	熱サイクル・コンバインドサイクル	<input type="checkbox"/> 熱サイクル・コンバインドサイクル(A)
1.5	各種効率	<input type="checkbox"/> 火力発電システムの発電効率(A)
1.5	熱消費率、蒸気消費率	<input type="checkbox"/> 熱消費率、蒸気消費率(A)
1.5	タービン発電機	<input type="checkbox"/> タービン発電機(A)
0.75	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 前期末区間の内容の復習
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間	
1.5	単位法と%Z	<input type="checkbox"/> 単位法、%Z(B)
2.25	単位法による事故電圧の求め方	<input type="checkbox"/> 単位法を用いた基本計算(B)
1.5	負荷分担	<input type="checkbox"/> 負荷分担(B)
1.5	遮断容量	<input type="checkbox"/> 遮断容量(B)
1.5	潮流計算	<input type="checkbox"/> 基本的な潮流計算(B)
1.5	変電所の調相・力率改善	<input type="checkbox"/> 調相や力率改善(B)
0.75	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 後期中間区間の内容の復習
0.75	後期中間試験	
0.75	後期中間試験の解説	
0.75	原子力発電の基本	<input type="checkbox"/> 原子力発電(A)
2.25	核燃料サイクル、高速増殖炉	<input type="checkbox"/> 核燃料サイクルや高速増殖炉(A)
1.5	地熱発電	<input type="checkbox"/> 地熱発電(C)
1.5	太陽光発電	<input type="checkbox"/> 太陽光発電(C)
1.5	燃料電池	<input type="checkbox"/> 燃料電池(C)
0.75	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 学年末の区間の内容の復習
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電力系統工学	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Power System Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
35	10	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉澤 伸幸	電気工学科・非常勤講師	312	木曜日 12:30~13:00	yosizawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	電力は我々の生活に身近であり必要不可欠なエネルギーである。本授業では電力システムの基本構成、等価回路、送電線の計算、系統安定度、系統事故などについて学ぶ。			
到達目標	<p>A. 電力システムの構成について説明ができる。</p> <p>B. 三相交流計算および単位法計算ができる。</p> <p>C. 送電システムの基本的な解析ができる。</p> <p>D. 故障計算および安定度計算について理解し基本的な事象の解析ができる。</p> <p>E. 電気事業にかかわる諸設備を理解し説明ができる。</p>			
授業方法	教科書を中心として行い、適宜演習を行う。			
教科書	「送配電の基礎」、山口・家村・中村著(森北出版)			
補助教材	プリントを適時配布			
評価方法	<p>定期試験は、前期中間、前期期末、後期中間および学年末の計4回行う。</p> <p>講義期間中に、「達成目標」に基づく内容の小テストおよびレポート課題を行う。</p> <p>各区間の成績は、定期試験素点70[%]、小テストおよび課題レポート点が30[%]とし、総合成績は各区分成績の平均とする。</p>			
関連科目	高電圧工学(5年)			
準備学習に関するアドバイス	演習問題は自分自身で解くようにしてください。参考とする文献は多くあるが、的(まと)を絞って学習し、自分にあった書籍でしっかりと基礎を固めて欲しい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	年間授業計画、評価方法の説明
6.75	単相・三相交流回路 電力系統の構成 1. 日本の電力系統 2. 発電方式 3. 三相送電 4. 電力系統の運用・制御	<p>交流回路の復習</p> <p><input type="checkbox"/>日本の電力系統の特徴(A)</p> <p><input type="checkbox"/>系統内の代表的な電源の特徴(A)</p> <p><input type="checkbox"/>三相送電について理解し電圧、力率などの基本演算(B)</p> <p><input type="checkbox"/>電力系統の運用・制御、給電運用(A)</p>
	3 送変電機器・設備 1. 送電方式 2. 送電方式 3. 送変電設備	<p><input type="checkbox"/>送電方式および電圧階級(A)</p> <p><input type="checkbox"/>送電方式および送電線の種類(A)</p> <p><input type="checkbox"/>変電所、開閉器、調相機器などの電力設備(E)</p>
0.75	前期中間試験	
3.75	送電線の電気特性 1. 送電線の等価回路と線路定数 2. 単位法表現 3. 送電容量の決定	<p><input type="checkbox"/>送電線等価回路(B, C)</p> <p><input type="checkbox"/>単位法表現(B, C)</p> <p><input type="checkbox"/>送電容量(B, C)</p>
5.25	電力円線図と潮流 1. 電力円線図の意味と作図 2. 電力円線図と送電特性 3. 電力潮流計算	<p><input type="checkbox"/>電力円線図(B, C)</p> <p><input type="checkbox"/>電力円線図による送電特性(B, C)</p> <p><input type="checkbox"/>電力潮流、潮流計算(B, C)</p>
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間	
5.25	安定度 1. 安定度について 2. 安定度の向上 3. 電圧安定性	<p><input type="checkbox"/>安定度の種類(D)</p> <p><input type="checkbox"/>安定度の向上(D)</p> <p><input type="checkbox"/>電圧安定性(D)</p>
5.25	故障計算 1. 故障事象について 2. 故障計算 3. 送電システムの故障計算	<p><input type="checkbox"/>電力系統の代表的な故障(D)</p> <p><input type="checkbox"/>電代表的な故障についての基本的計算(D)</p> <p><input type="checkbox"/>送電系統における故障についての基本的計算(D)</p>
0.75	後期中間試験	
4.5	配電系統 1. 配電系統 2. 負荷特性	<p><input type="checkbox"/>配電系統の基本的事項(A)</p> <p><input type="checkbox"/>配電系統における負荷特性(A, E)</p>
4.5	新電力システム 1. 分散電源・スマートグリッド 2. 再生可能エネルギー	<p><input type="checkbox"/>新電力システム(A, E)</p> <p><input type="checkbox"/>自然エネルギーなどの再生可能エネルギー(A, E)</p>
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気工学実験	EE:電気工学科	4年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments in Electrical Engineering	*必修	9	9	72
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
加藤 雅彦	電気工学科・教授	214	金曜日以外	kato-m
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	金曜日以外	watanabe
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	水曜日以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1 EE-2 EE-3		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	電気機器、電気電子回路、計測・制御、電子物性等の基礎的な現象について測定、製作、解析、考察する。様々な実験を通じて創造性や論理的思考を育成する。			
到達目標	A. 基礎となる配線や回路製作などを行うことができる。 B. 基本的な装置を取り扱うことができる。 C. 実験で得られた結果や考察などを第三者に正確に伝えることができる。 D. 第三者の説明や発表を理解し、考えることができる。			
授業方法	18の実験を前期9、後期9に分けてローテーションで行う(教室での諸注意の後、各部屋に分かれて実験を行い、実験終了時に実験ノートを担当教員へ提出し終了となる)。また、マイコン計測制御実習を全5回、発表資料指導、発表、校外学習、口述試験、卒研聴講をそれぞれ1回ずつ行う。			
教科書	プリント・電気工学実験指導書・実験心得			
補助教材	なし			
評価方法	・前期9回、後期9回行われる「実験」、5回行われる「マイコン計測制御実習」に参加し、全てのレポート並びに実験ノートを提出すること、学年末に行なわれる「口述試験」に合格することが評価の前提となる。評価はレポートを65%、マイコン計測制御実習を15%、実験ノートを5%、口述試験を10%、発表を5%とし、合否を判別する。なお、未完成レポート等は総合得点から最大30%の減点となる。総合評価=(レポート評価の合計/18×6.5+マイコン計測制御実習の点数+実験ノートの点数+口述試験の点数+発表の点数-遅れレポート数/18×30) ・レポート配点(10点×18回)は教員によって評価方法が異なるため、ガイダンスで説明が行われる。例えば、山下の場合、12個の評価項目(事前レポート、表紙、実験目的、実験方法、使用器具、接続図、実験結果、特性算出、検討事項、考察、結論、参考文献)を考察を除いて各1点とし(考察は5点)、初回提出時の点数(合計値/3.2で最大5点)と最終提出時の点数(合計値/3.2で最大5点)の合計をレポートの点数とする。なお、初回の提出期限に遅れてしまった場合には初回提出点0点、最終提出期限に遅れてしまった場合には修正個所の点数を0点とする。			
関連科目	工学基礎、電気工学実験(2年次、3年次、5年次)			
準備学習に関するアドバイス	事前に実験指導書を必ず読み、率先して実験を行うこと。理解することにより、実験は楽しくなり、楽しくなることより、理解が進みます。実験を行ったら一つでも二つでも良いので何かを吸収してください。「こういうものか」ではなく「なぜこうなるのか」と疑問を持つようにしましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	<第一ブロック> 3 ガイダンス/レポート指導① 3 ①X線回折による定性分析演習 3 ②金属間化合物の作製とX線回折 3 ③半導体の電気抵抗の温度特性 3 ④M-Gセットの制御に関する試験 3 ⑤柱上変圧器の特性試験 3 ⑥同期発電機のパラメータ測定 I 3 ⑦リニアモーターの製作と動作実験 3 ⑧三相整流回路の実験 3 ⑨誘導電動機の特性実験	<input type="checkbox"/> 実験概要を理解でき、レポートの書き方を習得できる(C, D)。 <input type="checkbox"/> X線回折データより物質を同定する手法を理解できる。 <input type="checkbox"/> 原料から合金を溶製し、X線回折による定性分析ができる。 <input type="checkbox"/> 半導体の電気抵抗測定から活性化エネルギーを算出できる。 <input type="checkbox"/> 同期発電機の制御について理解できる。 <input type="checkbox"/> 変圧器の効率測定試験ができる。 <input type="checkbox"/> 同期機の無負荷飽和曲線や三相短絡曲線を測定できる。 <input type="checkbox"/> リニアモーターの移動磁界を理解し走行試験ができる。 <input type="checkbox"/> 整流回路を理解し、変圧器の電圧・電流を実測できる。 <input type="checkbox"/> 誘導電動機の等価回路を理解し特性試験ができる。
	<第二ブロック> 3 ガイダンス/レポート指導② 3 ①PN接合の電圧電流特性 3 ②PN接合の接合容量の測定 3 ③インピーダンスブリッジによる静電容量の測定 3 ④同期発電機のパラメータ測定 II 3 ⑤碍子のフラッシュオーバー試験 3 ⑥風力発電装置の最大電力追従制御実験 3 ⑦三相インバータの制作 1 3 ⑧三相インバータの制作 2 3 ⑨三相インバータの制作 3	<input type="checkbox"/> 実験概要を理解でき、レポートの書き方を工夫できる(C, D)。 <input type="checkbox"/> ダイオードの理想係数と飽和電流を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ダイオードの拡散電位差、空乏層の幅を算出できる。 <input type="checkbox"/> 損失係数、損失抵抗が測定でき、原理を理解できる。 <input type="checkbox"/> 同期機の逆相インピーダンスの測定ができ、対象座標法を理解できる。 <input type="checkbox"/> 高電圧発生装置を用いて碍子の特性試験ができる。 <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーの制御について理解できる。 <input type="checkbox"/> 三相インバータの回路を理解し回路製作ができる。 <input type="checkbox"/> 三相インバータの動作を理解できる。 <input type="checkbox"/> 三相インバータの動作を理解し波形観測ができる。
	<マイコン計測制御実習> 3 マイコン計測制御実習 1 3 マイコン計測制御実習 2 3 マイコン計測制御実習 3 3 マイコン計測制御実習 4 3 マイコン計測制御実習 5	<input type="checkbox"/> マイコンを用いたデータ記録の基礎を理解できる(A)。 <input type="checkbox"/> マイコンとセンサーを組合せ、ノードを製作できる(B)。 <input type="checkbox"/> 小規模なセンサー網を構築し、データを収集できる(B)。 <input type="checkbox"/> センサーで収集したデータを使って、マイコンに接続したアクチュエータを制御できる(B)。 <input type="checkbox"/> 取得データに対して考察をし、報告書を作成できる(C)。 <input type="checkbox"/> 発表資料の作成ができる(C)。 <input type="checkbox"/> 実験内容について発表できる(C, D)。 <input type="checkbox"/> 電気工学の位置づけや価値を理解できる(D)。 <input type="checkbox"/> 適切な報告書を作成でき、行った実験について説明できる(C)。 <input type="checkbox"/> 第三者の発表を理解し、質疑応答に参加できる(D)。 注意：到達目標について特に記述のないものはすべて(A, B, C)
	<その他・発表見学等> 3 実験内容発表資料作成指導 3 実験内容の発表 3 校外学習(施設、展示等の見学) 3 口述試験(実験予備日、レポート指導③) 3 5年卒業研究発表聴講	<input type="checkbox"/> 発表資料の作成ができる(C)。 <input type="checkbox"/> 実験内容について発表できる(C, D)。 <input type="checkbox"/> 電気工学の位置づけや価値を理解できる(D)。 <input type="checkbox"/> 適切な報告書を作成でき、行った実験について説明できる(C)。 <input type="checkbox"/> 第三者の発表を理解し、質疑応答に参加できる(D)。 注意：到達目標について特に記述のないものはすべて(A, B, C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (一認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用物理	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Applied Physics	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	電気系の技術者にとって、電子物性は電磁気学、電気回路と同様に欠くことのできない重要な分野である。電子物性における基本的知識を修めることがこの科目の目標であり、具体的には固体について取扱い、特に半導体を中心に勉強する。			
到達目標	A. 結晶構造の表現手法や解析手法を理解することができる。 B. 固体中の自由電子の運動を表現することができる。 C. フェルミエネルギーについて理解することができる。 D. 電界中の固体電子の運動を表現することができる。			
授業方法	教科書に用いる「物性科学」の中で、結晶と電気伝導に関する章を中心に講義を行う。理解を深めるために適宜演習問題を行う。			
教科書	理工学基礎 物性科学, 坂田亮, 培風館			
補助教材				
評価方法	各区間の評価は、定期試験を70%、授業中の演習問題を30%とする。総合評価は各区間の単純平均とする。演習で間違った問題はそのままにしておかず、解説をよく聞いて間違いを赤ペンなどで直し、完全な解答を再提出すれば減点しない。ただし、計算過程を省略すると減点となるので注意すること。再提出は原則次の授業が始まるまでとする。			
関連科目	電子工学(3年)、電気電子材料(5年)			
準備学習に関するアドバイス	3年生までの数学・物理関連科目を修得していること。特に、指数関数、微分・積分についてよく復習しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価について理解する。
2.25	結晶(1)	<input type="checkbox"/> 空間格子と格子定数を理解できる。(A)
1.5	結晶(2)	<input type="checkbox"/> 格子方向と格子面を求めることができる。(A)
1.5	結晶(3)	<input type="checkbox"/> フラベ格子を理解できる。(A)
1.5	結晶(4)	<input type="checkbox"/> プラッグの回折条件を使って計算できる。(A)
1.5	結晶(5)	<input type="checkbox"/> X線回折による物質の同定について理解できる。(A)
1.5	結晶(6)	<input type="checkbox"/> 格子欠陥の種類について理解できる。(A)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間までの範囲の理解度を確認する。(A)
0.75	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(A)
2.25	金属中の自由電子(1)	<input type="checkbox"/> 金属中の自由電子の運動について理解できる。(B)
2.25	金属中の自由電子(2)	<input type="checkbox"/> 衝突時間、流動速度、オームの法則の式を理解できる。(B)
2.25	金属中の自由電子(3)	<input type="checkbox"/> 緩和時間と移動度について理解できる。(B)
1.5	金属中の自由電子(4)	<input type="checkbox"/> 合成緩和時間、合成抵抗率について理解できる。(B)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末までの範囲の理解度を確認する。(B)
1.5	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(B)
1.5	固体中の電子(1)	<input type="checkbox"/> 水素原子中の電子のエネルギー準位と量子数について理解できる。(B)
1.5	固体中の電子(2)	<input type="checkbox"/> 水素分子中の電子のエネルギー、結晶中の電子のエネルギー帯について理解できる。(B)
1.5	固体中の電子(3)	<input type="checkbox"/> 結晶中のポテンシャルエネルギーについて理解できる。(B)
1.5	固体中の電子(4)	<input type="checkbox"/> 固体中の自由電子における粒子性と波動性について理解できる。(B)
2.25	固体中の電子(5)	<input type="checkbox"/> 周期的ポテンシャル場中の電子とブリュアン領域について理解できる。(B)
2.25	固体中の電子(6)	<input type="checkbox"/> フェルミ-ディラック分布、フェルミ・エネルギーについて理解できる。(C)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間までの範囲の理解度を確認する。(B,C)
0.75	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(B,C)
1.5	固体中の電子(7)	<input type="checkbox"/> 電子数密度と状態密度とフェルミ分布関数の関係を理解できる。(C)
1.5	固体中の電子(8)	<input type="checkbox"/> 自由電子のフェルミ波数、フェルミ速度、フェルミ温度について理解できる。(C)
2.25	固体中の電子(9)	<input type="checkbox"/> 群速度と有効質量について理解できる。(D)
1.5	固体中の電子(10)	<input type="checkbox"/> 周期的ポテンシャル場中の電子のエネルギー、速度、有効質量と波数の関係について理解できる。(D)
1.5	固体中の電子(11)	<input type="checkbox"/> エネルギーと波数の関係から、導体、絶縁体、半導体を説明できる。(D)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末までの範囲の理解度を確認する。(C,D)
1.5	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(C,D)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用数学A	EE:電気工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Applied Mathematics A	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
亀山 統胤	一般教育科・助教	239	木曜日以外	n-kameyama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-1		(c)
授業概要	三学年までに習得した微分積分の内容を基礎とし、2変数関数の偏微分や極値問題、微分方程式、さらに重積分の解法を学習する。			
到達目標	A. 2変数関数の偏微分に関して様々な計算ができる B. 2変数関数の極値問題を解くことができる C. 微分方程式の意味を理解し、微分方程式を解くことができる D. 様々な重積分の計算ができる			
授業方法	教科書の流れに沿って講義形式で授業を進める。配布プリントに沿って演習問題を解き、小テストを行うことにより理解度を確認する。さらに知識を確実にするために適宜課題の提出を求める。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野・石原(裳華房)			
補助教材	授業プリント			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験(70%) (2) 小テスト, 課題, 授業プリントなどの平常点(30%) 2. 評点算出の方法 (1) 年間を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は、不可が確定する。 (4) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。			
関連科目	基礎数学I, 基礎数学II, 微分積分学, 代数幾何学, 解析学I			
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのかを説明できて、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習において練習問題を数多くこなし、確固たる知識を確立していく姿勢が必要です。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
0.75	偏微分に関する復習	<input type="checkbox"/> 2変数関数の合成関数について偏微分ができる (A) <input type="checkbox"/> 連鎖律について理解できる (A)
3	偏微分の合成関数	<input type="checkbox"/> 2変数関数の極値問題について計算できる (B) <input type="checkbox"/> 陰関数の仕組みを理解し、極値を計算できる (B)
3	2変数関数の極値と判定条件	<input type="checkbox"/> 2変数関数の極値を求める対策演習問題を理解する (A, B)
3	陰関数の極値・2変数関数の条件付き極値	<input type="checkbox"/> 前期中間試験
0.75	前期中間試験	
1.5	微分方程式の定義と解について	<input type="checkbox"/> 微分方程式の定義とその解について理解できる (C) <input type="checkbox"/> 変数分離形の微分方程式について計算できる (C)
3	変数分離形と線形微分方程式	<input type="checkbox"/> 1階微分方程式を解くことができる (C)
3	1階微分方程式に対する解法	<input type="checkbox"/> 微分方程式に関する対策演習問題を解くことができる (C)
1.5	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 前期末試験
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 試験の解説, 理解が不十分な内容の補足
1.5	学習指導期間	
3	2階微分方程式の定義と解について	<input type="checkbox"/> 2階微分方程式を解くことができる (C)
1.5	非同次の微分方程式に対する解法	<input type="checkbox"/> 非同次の微分方程式を解くことができる (C)
3	重積分の復習・累次積分	<input type="checkbox"/> 基本的な重積分の計算ができる (D)
3	積分の順序交換	<input type="checkbox"/> 2重積分において積分の順序交換の仕組みを理解できる (D) <input type="checkbox"/> 微分方程式ならびに重積分に関する対策演習問題を理解する (C, D)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間試験
3	変数変換と重積分	<input type="checkbox"/> 2重積分において積分の変数変換の仕組みを理解できる (D)
1.5	3重積分の定義と計算方法	<input type="checkbox"/> 3重積分の定義と計算方法を理解できる (D)
3	重積分を用いて体積を求める	<input type="checkbox"/> 3重積分を用いて体積を求めることができる (D)
1.5	まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 重積分の対策演習問題を理解する (D)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末試験
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説, 理解が不十分な内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
高電圧工学	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
High Voltage Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
35	10			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	火曜: 16:30~17:00	watanabe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧環境下における放電現象の発生メカニズムに関する解説。 高電圧の発生及び測定方法についての基礎知識・基礎技術の解説。 電力システムにおける過電圧と、その保護法に関する解説。 			
到達目標	<p>A. 高電圧工学の理解に必要な微積分・ベクトルの表記が理解できる。 B. 絶縁破壊のメカニズムを理解するために必要な電界強度の計算方法が理解できる。 C. 気体中における放電の発生メカニズムを理解することができる。 D. 液体・固体中における放電の発生メカニズムを理解することができる。 E. 高電圧の発生及び測定方法の原理を理解することができる。 F. 電力システムにおける過電圧の保護法に関して理解することができる。</p>			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業は教科書をベースに講義形式で行う。また適宜参考資料を配布し、理解の補助とする。 理解度を調べるために定期的に課題提出を実施する。 			
教科書	電気学会大学講座 高電圧工学[3版改訂] 河村達雄、河野照哉、柳父悟著、大日本法令印刷株式会社			
補助教材	授業中に配布する演習プリント			
評価方法	1年を4区間に分け、各区間ごとに確認小テスト(課題含む)と定期試験を行い、定期テスト70%、普段点(ノート、課題等)30%の比率とし区間の評価する。区間の評価を平均して総合評価とする。			
関連科目	電子工学(3年)			
準備学習に関するアドバイス	授業時間中に実施する単元ごとの小テストを、常に高得点が取れるように予習をする。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス、電気数学の基礎の復習	<input type="checkbox"/> 電気数学の基礎を用いた簡単な計算ができる(A)
1.5	[静電界の性質] 1.5 ガウスの法則	<input type="checkbox"/> 静電界の数式表現ができる(B)
1.5	様々な形状の電極	<input type="checkbox"/> 各種電極により生じる電界強度を算出できる(B)
1.5	[気体中の放電] 1.5 気体粒子の衝突 3 励起と電離 1.5 放電開始現象① 1.5 放電開始現象② 1.5 放電開始現象③ 3 コロナ放電	<input type="checkbox"/> 気体中における粒子の衝突について説明できる(C) <input type="checkbox"/> 気体分子の励起と電離の違いについて説明できる(C) <input type="checkbox"/> タウンゼント理論を説明できる(C) <input type="checkbox"/> パッシュェンの法則を説明できる(C) <input type="checkbox"/> ストリーマ理論を説明できる(C) <input type="checkbox"/> コロナ放電の発生、性質について説明できる(C)
1.5	[液体中・固体中の放電] 1.5 液体における絶縁破壊 1.5 液体の絶縁破壊理論 1.5 固体絶縁物における絶縁破壊 1.5 固体に対するインパルス電圧の印加	<input type="checkbox"/> 高電圧下の液体に対する電圧電流特性を理解できる(D) <input type="checkbox"/> 絶縁油の絶縁破壊の要因を理解できる(D) <input type="checkbox"/> 高電圧下の固体における絶縁破壊の要因を理解できる(D) <input type="checkbox"/> インパルス電圧印加時の絶縁物の性質変化を説明できる(D)
1.5	[高電圧・大電流の発生・測定] 1.5 各種電極における放電特性① 1.5 各種電極における放電特性② 3 高電圧大電流の発生① 3 高電圧大電流の発生② 3 高電圧大電流の発生③	<input type="checkbox"/> 平行平板電極の放電特性を説明できる(E) <input type="checkbox"/> 球ギャップの放電特性を説明できる(E) <input type="checkbox"/> 交流高電圧の発生とその測定を説明できる(E) <input type="checkbox"/> 直流高電圧の発生とその測定を説明できる(E) <input type="checkbox"/> インパルス高電圧の発生とその測定を説明できる(E)
1.5	[過電圧対策] 1.5 様々な過電圧 3 電力システムにおける過電圧	<input type="checkbox"/> 過電圧の発生要因を理解できる(F) <input type="checkbox"/> 電力システムにおける過電圧とその保護法を説明できる(F)
3	定期試験(年4回)	
3	学習指導期間(年2回)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気応用	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electrical Application	必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
陶山 和信	電気工学科・非常勤講師	312	水曜日12:30~13:00	suayama.kazunobu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	この科目は、電気エネルギーを他のエネルギーに変換して工業的に利用することを学ぶ。そこで、本授業は、代表的な電気応用として、照明・電熱・電動機応用・電気化学の4分野に絞る。各分野の学習を通して、電気技術が工業技術の中で果たす有用性と独自性を再認識する。			
到達目標	<p>A. 照明を利用する上での概念や理論の基礎を理解できる。</p> <p>B. 電熱を利用する上での概念や理論の基礎を理解できる。</p> <p>C. 電動機を利用する上での概念や理論の基礎を理解できる。</p> <p>D. 電気化学の概念や理論の基礎を理解できる。</p>			
授業方法	照明と電熱は、教科書をプリントで補いながら、問題演習をくり返して実力をつける。電動機応用と電気化学は、プリントをベースに、問題演習をくり返して実力をつける。			
教科書	「照明・電熱」佐藤清史著 東京電機大学出版局 その他、授業中、配布したプリント			
補助教材	特に用いないが、理解を深める上で有用な書籍は随時紹介する。(* 購入は任意とする。)			
評価方法	<p>1年間を前期中間、前期末、後期中間、後期末に分け各区間の平均を学年末の評価とする。各区間は定期試験70%、授業中の演習・課題提出30%として評価する。</p> <p>各分野の独立性が強いので、1つの分野でも60点を切ったら、原則不合格とするが、救済策として、該当する学生には不合格分野に関するレポート等の課題を課し、合格すればその分野は60点とする。</p> <p>本音で語れる授業を目指したいので、授業中の口頭解答や発言等は、誤答であっても減点しない。</p>			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	計算問題は、面倒でも必ず自分で解いてみる。特に、独自の単位系に注意すること。用語や要点等の知識は、こまめに、整理すること。機械器具の選択は、適材適所がキーワードとなる。配布したプリントは、授業の主軸となるほか、試験対策にもなるので、確実に理解して整理すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間の授業計画、評価法の説明 <input type="checkbox"/> 電気応用という科目の独自性と特殊性(A, B, C, D)
5.25	[1] 照明の分野 (*教科書・第1編) 1. 照明の基礎 (演習も含む)	<input type="checkbox"/> 光は可視(粒子か波動かより直線、三角比による分解) (A) <input type="checkbox"/> 用語と単位(光束ルーメン、光度カンデラ、照度ルクス、立体角) (A) <input type="checkbox"/> 光束発散度と照度(照らす側と照らされる側、光源の形状と扱い) (A) <input type="checkbox"/> 逆2乗の法則(光度と照度の関係) (A) <input type="checkbox"/> 入射角の余弦の法則(法線照度、垂直照度、水平照度の扱い) (A) <input type="checkbox"/> 光の通過(反射率、透過率、吸収率) (A) <input type="checkbox"/> 輝度(完全拡散面の扱いを含む) (A) <input type="checkbox"/> 測光と分光器、光束、光度、照度の測定 (A) <input type="checkbox"/> 長形光度計、球形光度計 (A)
1.5	2. 測光法	<input type="checkbox"/> 電気を光に変換する方法(温度放射・ルミネセンス等) (A) <input type="checkbox"/> 照明の目的・方式・経済 (A) <input type="checkbox"/> ランプの性能(演色性、ランプ寿命、ランプ効率) (A) <input type="checkbox"/> 各種ランプの特徴、白熱電球、蛍光灯ランプ、高圧放電ランプ (A) <input type="checkbox"/> 配光曲線(入射角余弦の法則とのcosの扱いの違いを含む) (A) <input type="checkbox"/> 丸いテーブル面の平均照度の計算 (A) <input type="checkbox"/> 床面の照度の計算(保守率、照明率を含む) (A) <input type="checkbox"/> 複数の照明(配光特性の異なるものを含む) による照度の計算 (A) <input type="checkbox"/> 必要な照明器具数の算定 (A)、 <input type="checkbox"/> 反射と部屋指数 (A)
3	3. 光源のしくみと照明器具	<input type="checkbox"/> 温度と熱(比熱、溶解熱、蒸発熱、加熱電力の理解を含む) (B) <input type="checkbox"/> 熱の伝わり方(放射、対流、伝導) (B) <input type="checkbox"/> 熱の放射で、ステファンボルツマンの法則 (B) <input type="checkbox"/> 熱の伝導で、熱回路のオームの法則(温度差、熱流、熱抵抗) (B) <input type="checkbox"/> 形状と熱抵抗率から熱抵抗を求める式(電気抵抗との対応) (B)
4.5	4. 照明に関する実務的な計算 (演習も含む)	<input type="checkbox"/> 発熱体、電極、絶縁、耐熱材料 (B) <input type="checkbox"/> 各電気加熱方法の特徴(抵抗加熱、誘電加熱、誘導加熱、赤外線加熱、アーク加熱、マイクロ波加熱) (B) <input type="checkbox"/> 電気炉(アーク炉、誘導炉等) (B) <input type="checkbox"/> 電気溶接(アーク溶接、抵抗溶接等) (B) <input type="checkbox"/> ヒートポンプ(成績係数(COP)の計算を含む) (B) <input type="checkbox"/> 電気冷凍、家庭用電熱(エアコン、電子レンジ) (B)
4.5	3. 電熱に関する実務的な計算 (演習も含む)	<input type="checkbox"/> 水の沸騰、木材の乾燥、金属の融解等、電力や時間の算定 (B) <input type="checkbox"/> 電熱における効率の扱い (B) <input type="checkbox"/> ヒートポンプを用いた加熱電力の算定(省エネの計算を含む) (B)
1.5	[3] 電動機応用の分野 (*プリントのみ対応) 1. 回転に関する力学	<input type="checkbox"/> 慣性モーメント、はずみ車が蓄える回転エネルギー (C) <input type="checkbox"/> 回転数[mim-1]、(ほか固有の単位 (C)、トルクと電力の関係 (C)
1.5	2. 電動機応用に関する実務的な計算 (演習も含む)	<input type="checkbox"/> 巻上機・エレベータ電動機の計算 (C) <input type="checkbox"/> ポンプ、送風機の計算 (C)、 <input type="checkbox"/> 剛体と流体の扱いの差異 (C)
6	3. 電動機の選定法	<input type="checkbox"/> 回生ブレーキ、発電ブレーキ (C)、 <input type="checkbox"/> 電動機速度制御 (C) <input type="checkbox"/> 各種電動機のトルク特性 (C) <input type="checkbox"/> 負荷トルクと電動機トルク、運転点 (C)
1.5	[4] 電気化学の分野 (*プリントのみ対応) 1. 1. 化学と電気の間連	<input type="checkbox"/> 溶液中の電子の動き、電気分解と電池の対比 (D)
1.5	2. 電池のしくみ	<input type="checkbox"/> 電池のしくみ (D)、 <input type="checkbox"/> 二次電池(蓄電池) (D)、 <input type="checkbox"/> 燃料電池 (D)
1.5	3. 析出する物質量を求める計算 (演習も含む)	<input type="checkbox"/> ファラデーの法則 (D) <input type="checkbox"/> めっき、電気精製、燃料電池等における析出量、電力量 (D)
3	定期試験 (年4回)	<input type="checkbox"/> 前期中間、前期末、後期中間、後期末 (学年末)
3	学習指導期間 (年2回)	<input type="checkbox"/> 期末試験返却、解説、各自の弱点補強
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定期試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電機設計	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Machine Design	必修	講義	演習	実験・実習
		36	9	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	電磁気学や発変電工学、電気機器の応用として、各電気機器の原理と特徴を理解する。そして、機器に要求される特性を満たすための設計方法について理解し、基本的な設計を行う。			
到達目標	<p>A. 代表的な電気機器の原理と特徴を理解することができる。</p> <p>B. 代表的な電気機器の実践的な設計方法を理解することができる。</p> <p>C. 代表的な電気機器の設計を行い、その方法を理解することができる。</p>			
授業方法	授業毎に「授業プリント」を配布する。授業は基本的に「教科書」を用いて行い、電気機器関連の書籍を参考書として使用する。また、授業終了数分前に白紙プリントを配布し、授業内容をまとめた「授業まとめプリント」を提出してもらう。			
教科書	「大学課程・電機設計学」、竹内寿太郎 原著 西方正司 監修 (オーム社)			
補助教材	電気機器関連の書籍			
評価方法	<p>2回実施する課題レポートの提出を前提とし、定期試験を7割、平常点(授業まとめプリント)を3割、定期試験毎に評価し(全4回)、その合計の単純平均によって合否を判定する。遅刻欠席居眠りなど(欠席回数等)は最大20%の減点(平常点の66.6%を超えない)とする。</p> <p>成績計算方法 総合成績=各区間の成績の和/4</p> <p>区間の成績=定期試験*0.7+(提出物提出回数-提出物未提出回数)/提出物提出回数*30-欠席回数等/授業回数*20</p> <p>※ひどい居眠りや授業を妨げるおしゃべり等も欠席回数等にカウントする場合がある。 ※欠席回数等による減点は自学学習などにより軽減する場合がある。</p>			
関連科目	電気機器 (3年)			
準備学習に関するアドバイス	公式等をただ覚えるのではなく、数学的な考え方や物理現象をイメージできるようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	1. ガイダンス、電気機器の本質	<input type="checkbox"/> 電気機器がどのようなものか理解でき、またその本質を理解できる(A)。
1.5	2. 電気機器の基礎② 変圧器	<input type="checkbox"/> 変圧器の基礎について理解できる(A)。
1.5	3. 電気機器の基礎③ 誘導機	<input type="checkbox"/> 誘導機の基礎について理解できる(A)。
1.5	4. 電気機器の基礎③ 同期機	<input type="checkbox"/> 同期機の基礎について理解できる(A)。
1.5	5. 電気機器の基礎③ 直流機	<input type="checkbox"/> 直流機の基礎について理解できる(A)。
1.5	6. 電気機器設計の基礎原理①	<input type="checkbox"/> 電機設計の基礎原理である電気装荷と磁気装荷を理解できる(A,B)。
1.5	7. 電気機器設計の基礎原理②	<input type="checkbox"/> 電機設計の基礎原理である微増加比例法を理解できる(A,B)。
0.75	前期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	8. 三相同期発電機の設計①	<input type="checkbox"/> 三相同期機の巻線法について理解できる(A,B)
1.5	9. 三相同期発電機の設計②	<input type="checkbox"/> 三相同期発電機の基本的な設計を行うことができる(B,C)
1.5	10. 三相同期発電機の設計③	
1.5	11. 三相同期発電機の設計④	
1.5	12. 三相同期発電機の設計⑤	
1.5	13. 前期末範囲のまとめ	
0.75	前期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	14. 誘導電動機の設計①	<input type="checkbox"/> 三相誘導電動機の巻線法について理解できる(A,B)
1.5	15. 誘導電動機の設計②	<input type="checkbox"/> 三相誘導電動機の基本的な設計方法を理解することができる(B,C)
1.5	16. 誘導電動機の設計③	
1.5	17. 誘導電動機の設計④	
1.5	18. 誘導電動機の設計⑤	
1.5	19. 変圧器の設計①	<input type="checkbox"/> 変圧器の巻線について理解できる(A,B)
1.5	20. 変圧器の設計②	<input type="checkbox"/> 変圧器の基本的な設計を行うことができる(B,C)
0.75	後期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
1.5	21. 直流機の設計①	<input type="checkbox"/> 直流電動機の巻線法について理解できる(A,B)
1.5	22. 直流機の設計②	<input type="checkbox"/> 直流電動機の基本的な設計方法を理解することができる(B,C)
1.5	23. 直流機の設計③	
1.5	24. 直流機の設計④	
1.5	25. 直流機の設計⑤	
1.5	26. 学年末範囲のまとめ	
0.75	学年末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説・確認演習	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計測工学	EE:電気工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Instrumentation Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		15	7.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	3年次に履修した計測工学を基礎として、工業計測(主に温度・圧力・液位・流量・成分の計測)およびプロセス計測・計測管理の基礎を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 計測の基本構成や動作の基礎を理解できる。</p> <p>B. 変位計測について測定方法やセンサの原理について理解できる。</p> <p>C. 温度計測について測定方法やセンサの原理について理解できる。</p> <p>D. 圧力計測について測定方法やセンサの原理について理解できる。</p> <p>E. 液位計測について測定方法やセンサの原理について理解できる。</p> <p>F. 流量計測について測定方法やセンサの原理について理解できる。</p> <p>G. 工業用分析計について測定方法やセンサの原理について理解できる。</p> <p>H. 計測システムの基礎を理解できる。</p>			
授業方法	座学を主として授業を行う。適宜、演習問題を解き、小テストを実施して理解度を高める。また、課題提出を求める。			
教科書	「よくわかる電気電子計測」 南谷晴之・山下久直 (オーム社)			
補助教材	なし			
評価方法	<p>区間評価(100点満点)=(1) 試験 (70%)+ (2) ノート・課題・小テスト (30%)</p> <p>各区間ごとの評価を単純平均したものを総合評価とする。</p> <p>(1) 試験 70% 中間試験、期末試験を実施する。</p> <p>(2) ノート・課題・小テスト 30% 適宜、演習問題や小テストを実施する。また、ノート提出を求めチェックすることもある。 これらの内容を本項目として評価する。 なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点する。</p>			
関連科目	計測工学 (3年)			
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分をよく読み、基礎知識を身につけた上で授業に望むこと。授業では、重点テーマおよび重点ポイントを中心に板書にて講義を行う。板書は必ずノートにとり、家での復習では重点テーマに沿って、自分が理解した内容を別のノートにまとめ直すことで、十分な理解と知識の定着を図ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	年間授業計画、評価方法の説明
2.25	計測器の構成	<input type="checkbox"/> 計測方法と計器の構成(検出・変換・拡大)の基礎(A)
0.75	差動変圧器による変位計測	<input type="checkbox"/> 計器の動作(指示・記録・計数)の基礎(A)
0.75	ホール素子による変位計測	<input type="checkbox"/> 差動変圧器の原理およびセンサへの応用(B)
0.75	インダクタンスおよび容量による変位計測	<input type="checkbox"/> ホール効果の応用で変位を検出、センサへの応用(B)
0.75	ストレーンゲージによる変位計測	<input type="checkbox"/> 変位をインピーダンスの変化に換えて測定、センサへの応用(B)
0.75	バイメタル・熱膨張型センサによる温度計測	<input type="checkbox"/> 変位を電気抵抗の変化に換えて測定、センサへの応用(B)
0.75	白金測温抵抗体による温度計測	<input type="checkbox"/> 温度変化をバイメタル・液体・あるいは気体封入測温体で測定。
0.75	サーミスタ・トランジスタ等による温度計測	<input type="checkbox"/> 温度変化を電気抵抗変化による測定、白金測温抵抗体の特性(C)
0.75	熱電対センサによる温度計測	<input type="checkbox"/> 温度変化を電気抵抗変化、VBE 電圧変化により測定(C)
0.75	非接触型センサによる温度計測	<input type="checkbox"/> 温度変化を起電力変化による測定、ゼーベック効果の基礎(C)
0.75	まとめ	<input type="checkbox"/> ポロメータ、サーモパイルの原理と特徴、温度センサの設置方法。
0.75	中間試験	
1.5	ブルドン管・ベローズ・ダイヤフラム等による圧力計測	<input type="checkbox"/> 各種圧力計の動作原理と特徴(D)
0.75	差圧伝送器による圧力・差圧計測	<input type="checkbox"/> 差圧伝送器の動作原理と特徴、圧力・絶対圧・差圧の測定(D)
0.75	フロート・静水圧・気泡式による液位計測	<input type="checkbox"/> 各種液位計の動作原理と特徴(E)
0.75	絞り機構と差圧式による流量計測	<input type="checkbox"/> 絞り機構を組み合わせた差圧式流量計の動作原理と特徴(F)
0.75	面積式による流量計測	<input type="checkbox"/> 面積式流量計の動作原理と特徴(F)
0.75	電磁式による流量計測	<input type="checkbox"/> 電磁式流量計の動作原理と特徴(F)
0.75	渦流速度式による流量計測	<input type="checkbox"/> 渦流速度式流量計の動作原理と特徴(F)
0.75	各種工業用分析計	<input type="checkbox"/> PH 計、電極式および電磁導電率計、密度計の動作原理と用途(G)
2.25	プロセス計装と計測管理	<input type="checkbox"/> 計装システムの基本構成及び構成例(H) <input type="checkbox"/> センサおよび制御機器の選定とプロセス計装 <input type="checkbox"/> 計装機器の保守および計測管理(H)
0.75	期末試験	
1.5	試験の解説、理解不十分内容の確認	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気電子材料	EE: 電気工学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electrical and Electronic Materials	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	科学技術の発展は材料の進歩と共にあり、電気電子材料は電気系の技術の進歩と密接に関わっている。本講義では、材料の基礎を学ぶと共に応用できる能力を身につける。			
到達目標	A. 半導体の伝導機構や作製法について理解できる。 B. 原子間の結合について理解できる。 C. 金属の導電性について理解できる。 D. 絶縁体・誘電体の特性について理解できる。 E. 磁性体・超伝導材料の特性について理解できる。			
授業方法	教科書を中心に講義を進めるが、理解を深めるために適宜演習問題を行う。			
教科書	理工学基礎 物性科学, 坂田亮, 培風館 電気・電子材料, 中澤達夫他, コロナ社			
補助教材				
評価方法	各区間の評価は、定期試験を70%、授業中の演習問題を30%とする。総合評価は各区間の単純平均とする。演習で間違った問題はそのままにしておかず、解説をよく聞いて間違いを赤ペンなどで直し、完全な解答を再提出すれば減点しない。ただし、計算過程を省略すると減点となるので注意すること。再提出は原則次の授業が始まるまでとする。			
関連科目	電子工学(3年)、応用物理(4年)			
準備学習に関するアドバイス	応用物理(4年)の内容を復習しておくこと。また、教科書の次回予定部分に目を通しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価について理解する。
2.25	正孔とホール効果	<input type="checkbox"/> 正孔とホール効果を理解し、ホール係数を計算できる。(A)
1.5	半導体材料 (1)	<input type="checkbox"/> 半導体の導電性の特徴について理解できる。(A)
2.25	半導体材料 (2)	<input type="checkbox"/> 真性半導体の伝導機構について理解できる。(A)
2.25	半導体材料 (3)	<input type="checkbox"/> 不純物半導体の伝導機構について理解できる。(A)
1.5	半導体材料 (4)	<input type="checkbox"/> 半導体材料の作製法について理解できる。(A)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間までの範囲の理解度を確認する。(A)
0.75	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(A)
1.5	原子間の結合 (1)	<input type="checkbox"/> 原子内の電子配置について理解できる。(B)
1.5	原子間の結合 (2)	<input type="checkbox"/> 原子のポテンシャルエネルギーと諸特性の関係について理解できる。(B)
1.5	原子間の結合 (3)	<input type="checkbox"/> 原子間の各種結合様式と電気的特性の関係について理解できる。(B)
1.5	導電材料・抵抗材料 (1)	<input type="checkbox"/> 導電性とオームの法則について理解できる。(C)
1.5	導電材料・抵抗材料 (2)	<input type="checkbox"/> 電気抵抗発生の要因について理解できる。(C)
1.5	導電材料・抵抗材料 (3)	<input type="checkbox"/> 各種導電材料、抵抗材料の性質について理解できる。(C)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末までの範囲の理解度を確認する。(C)
1.5	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(C)
3	誘電体材料 (1)	<input type="checkbox"/> 誘電分極の種類、誘電分散、誘電損について理解できる。(D)
1.5	誘電体材料 (2)	<input type="checkbox"/> 強誘電体の特性、絶縁破壊について理解できる。(D)
1.5	誘電体材料 (3)	<input type="checkbox"/> キャパシタ、圧電体、焦電体などの応用例について理解できる。(D)
1.5	磁性材料 (1)	<input type="checkbox"/> 磁性の根源、物質の磁性の種類について理解できる。(E)
3	磁性材料 (2)	<input type="checkbox"/> 強磁性体の磁化機構について理解できる。(E)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間までの範囲の理解度を確認する。(D,E)
0.75	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(D,E)
1.5	磁性材料 (3)	<input type="checkbox"/> 透磁率、静磁エネルギー、磁気エネルギーについて理解できる。(E)
1.5	磁性材料 (4)	<input type="checkbox"/> 軟磁性・硬磁性のB-H 曲線が示す特徴について理解できる。(E)
3	磁性材料 (5)	<input type="checkbox"/> 電気・電子機器における磁性材料の応用について理解できる。(E)
1.5	超伝導材料	<input type="checkbox"/> 超伝導の起源、超伝導を示す材料、応用例について理解できる。(E)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末までの範囲の理解度を確認する。(E)
1.5	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。(E)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
自動制御	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Automatic Control	必修	講義	演習	実験・実習
		36	9	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期末以外/後期末以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	講義ではフィードバック自動制御をメインに扱う。すなわち制御量と目標値が一致するように、制御装置に訂正動作を行わせる、動的システムを制御することを学習する。			
到達目標	<p>A. ラプラス変換を用いた計算を行うことができる。</p> <p>B. 基本的な系の伝達関数を取り扱うことができる。</p> <p>C. 基本的な系のブロック線図を求めることができる。</p> <p>D. 基本的な過渡応答を求めることができる。</p> <p>E. 周波数応答を理解し、表現することができる。</p> <p>F. 制御系の安定判別法が理解できる。</p> <p>G. 制御系の性能について理解することができる。</p> <p>H. 制御系の特性補償について理解することができる。</p>			
授業方法	講義では教科書を中心に学習し、更に講義の内容を理解できているか演習問題を行う。			
教科書	「自動制御工学」 北川能 他共著 森北出版			
補助教材	授業中に配布するプリント			
評価方法	<p>一年間を4区間に分けてそれぞれの区間で評価します。それぞれの中間・期末で出す評価は、それまでの区間評価を単純平均したものを総合成績とします。</p> <p>区間評価(100点満点) = 定期試験(70%) + ノート・課題・小テスト(30%)</p> <p>定期試験(70%) : 中間試験、期末試験を実施します。</p> <p>ノート・課題・小テスト(30%) : 適宜、課題や小テストを実施します。ノート提出を求めてチェックすることがあります。</p> <p>なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点します。</p>			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	その日授業でにやった内容をきちんとノートに整理すること、授業にしっかりと参加することが大事である。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス、自動制御とは	<input type="checkbox"/> 自動制御の概要を理解できる。
0.75	ラプラス変換①	<input type="checkbox"/> ラプラス変換の定義を理解できる(A)。
1.5	ラプラス変換②	<input type="checkbox"/> 基本的なラプラス変換を行うことができる(A)。
1.5	ラプラス変換③	<input type="checkbox"/> 基本的なラプラス逆変換を行うことができる(A)。
1.5	伝達関数①	<input type="checkbox"/> 伝達関数の概念を理解できる(B)。
1.5	伝達関数②	<input type="checkbox"/> 種々な系の伝達関数を求めることができる(B)。
1.5	伝達関数③	<input type="checkbox"/> 伝達関数の基本形を理解できる(B)。
1.5	前期中間のまとめと演習	
0.75	前期中間試験	
0.75	試験答案返却・解説	
0.75	ブロック線図	<input type="checkbox"/> ブロック線図を求め、変形することができる(G)。
1.5	過渡応答①	<input type="checkbox"/> 基本的な過渡応答について理解することができる(D)。
1.5	過渡応答②	<input type="checkbox"/> 一次、二次遅れ要素の過渡応答を理解できる(D)。
1.5	周波数応答①	<input type="checkbox"/> 周波数応答について理解することができる(E)。
1.5	周波数応答②	<input type="checkbox"/> ベクトル軌跡、ボード線図を理解することができる(E)。
1.5	前期後半のまとめと演習	
0.75	前期末試験	
1.5	試験答案返却・解説、前期のまとめ	
1.5	安定判別①	<input type="checkbox"/> 安定判別について理解することができる(F)。
1.5	安定判別②	<input type="checkbox"/> ラウスの安定判別を理解できる(F)。
1.5	安定判別③	<input type="checkbox"/> ナイキストの安定判別を理解できる(F)。
1.5	定常偏差と過渡偏差①	<input type="checkbox"/> ゲイン余裕と位相余裕を理解できる(F)。
1.5	定常偏差と過渡偏差②	<input type="checkbox"/> 各種定常偏差について理解できる(G)。
1.5	定常偏差と過渡偏差③	<input type="checkbox"/> 過渡偏差について理解できる(G)。
1.5	後期中間のまとめと演習	
0.75	後期中間試験	
0.75	試験答案返却・解説	
0.75	制御系の特性補償①	<input type="checkbox"/> 位相進み補償を理解できる(H)。
1.5	制御系の特性補償②	<input type="checkbox"/> 位相遅れ補償を理解できる(H)。
1.5	制御系の特性補償③	<input type="checkbox"/> 位相進み遅れ補償を理解できる(H)。
1.5	制御系の特性補償④	<input type="checkbox"/> フィードバック補償を理解できる(H)。
1.5	制御系の特性補償⑤	<input type="checkbox"/> プロセス調節計を理解できる(H)。
1.5	後期中間のまとめと演習	
0.75	学年末試験	
1.5	試験答案返却・解説、全体のまとめ	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017	クラス :	番号 :	氏名 :	
科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
システム工学	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
System Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
35	10	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
平岡 一則	電気工学科・非常勤講師	209	授業前後30分	hiraoka
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-3		(d) (1) (d) (3) (i)
授業概要	製造業者には顧客から「品質」「納期」「コスト」が厳しく要求される。これに対応して企業が行っている品質管理、生産管理、原価管理の方法を学ぶ。本授業の目的は、製品の開発・設計段階から性能以外の様々なことにも配慮できる技術者や経営者になることを目指して、それに必要な基礎知識を修得することである。			
到達目標	<p>A. 品質、納期、コストの内容を理解し、これらの相互関連から生産管理の必要性を説明できる。</p> <p><品質管理> B. 品質管理の7つ道具を数学的な意味も含めて理解し、使いこなすことができる。 C. 品質や信頼性に関わる基礎数理を理解し、故障率などを計算することができる。 D. 統計的品質管理手法について、数学的な意味も含めて理解し、工程異常やロット合否判定ができる。 E. 品質マネージメントシステム、環境マネージメントシステムの意義を説明できる。</p> <p><生産管理> F. 生産計画の一環として、線形計画法を理解し、定式化して計算ができる。 H. 様々な生産方式の長所と短所を説明できる。</p> <p><原価管理> I. 損益分岐点を計算できる。</p>			
授業方法	教科書と担当教員作成のプリント資料を用いて講義を行う。計算問題を中心とした小テスト(演習)を適宜実施して、知識の定着化を図る。			
教科書	「すぐに役立つ生産管理の基本としくみ」 田島悟 (アノモ出版) 担当教員作成のプリント資料(配布)			
補助教材	数表等を適宜配布			
評価方法	<p>(1) 年4回の定期試験を行う。</p> <p>(2) 定期試験とは別に、年間を通して10回、授業中に小テストを行う。各テストは3点満点とするので、小テストの合計は30点満点となる。</p> <p>(3) 後期中間までの3区間では、通知票に記載する評点は以下の式による。 前期中間評点 = 前期中間試験の素点 前期期末評点 = (前期中間素点 + 前期期末素点) / 2 後期中間評点 = (前期中間素点 + 前期期末素点 + 後期中間素点) / 3</p> <p>(4) 学年末の評価(最終評点)は以下の式による。 最終評点 = (前期中間素点 + 前期期末素点 + 後期中間素点 + 後期期末素点) / 4 × 0.7 (70点満点) + 小テスト合計点 (30点満点)</p> <p>以上のように、全定期試験の平均点を70%、小テストの合計点を30%で最終評価する。 小テストの点数は平均化されずに積み上がるので、授業中に行う小テスト1点の重みは大きい。</p>			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	本科目の内容は、これまで学習してきた専門科目とは関連が薄く馴染みがないかもしれないが、企業では広く行われている事柄である。日頃から、ニュースや新聞を通して企業活動に関心を持ってほしい。そうすれば理解が深まり、就職してから役に立つ。授業中での活発な発言を期待する。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス、システム工学概論(教科書1章、配付資料)	年間授業計画・評価方法の説明、講義全体の概要 <input type="checkbox"/> 品質管理・生産管理・原価管理の目的、QCDの相互関連 (A)
4.5	品質管理概論(配付資料)	品質管理の目的および生産現場で使われる品質管理方法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> グラフ、パレート図、特性要因図、チェックシート (B) <input type="checkbox"/> ヒストグラム、散布図と相関図、管理図 (B, C) <input type="checkbox"/> 以上の手法を体系化した品質改善方法 (B)
4.5	品質管理の基礎数理(配付資料)	科学に基づく品質管理を行うための数学的裏付けを学ぶ <input type="checkbox"/> 数値の種類、データの種類、信頼性の尺度 (C) <input type="checkbox"/> 母集団とサンプリング、正規分布、中心極限定理 (C)
0.75	中間試験	
7.5	統計的品質管理(配付資料)	統計的方法の有用性と限界を理解する。 <input type="checkbox"/> シューハート管理図、工程異常の統計的定義 (D) <input type="checkbox"/> 検査の種類、抜き取り検査、O C曲線、統計的誤り (D)
1.5	品質マネージメントシステム(配付資料、教科書4章)	統計的方法とは異なるアプローチによる品質管理を学ぶ。 <input type="checkbox"/> ISO 9001 (QMS)、ISO 14001 (EMS) (E)
0.75	期末試験	
1.5	学習指導	試験解説、総まとめ、個別指導
4.5	生産管理概論(教科書1章、2章、配付資料)	工場における生産管理の役割と方法を学ぶ <input type="checkbox"/> 生産管理の役割、3M、注文方式 (A) <input type="checkbox"/> ものの情報の流れ、生産形態、リードタイム (A) <input type="checkbox"/> 安全管理、5S (A)
3	生産計画(教科書3章、配付資料)	生産計画の概要と立案方法について学ぶ <input type="checkbox"/> 生産計画概要、生産基本情報 (F) <input type="checkbox"/> MRP(資材所要量計画) (F)
3	購買・在庫計画(教科書5章、配付資料)	購買・生産・在庫の関連について学ぶ <input type="checkbox"/> 購買管理、発注方式、外注 (G) <input type="checkbox"/> 在庫のリスクとメリット (G)
0.75	中間試験	
3	工程管理と最適化(教科書7章、配付資料)	様々な工程管理方法を学ぶ <input type="checkbox"/> トヨタ生産方式(カンバン方式)、セル生産方式 (H) <input type="checkbox"/> 制約条件の理論、サプライチェーンマネージメント (H)
6	原価管理(配付資料)	製品価格を決める原価の内訳を学ぶ <input type="checkbox"/> 原価管理と利益、原価の分類 (I) <input type="checkbox"/> 変動費、固定費、直接費、間接費 (I) <input type="checkbox"/> 原価計算、損益分岐点 (I)
0.75	期末試験	
1.5	学習指導	試験解説、総まとめ、個別指導
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
通信工学概論	EE:電気工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Communication Engineering	必修	15	7.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-2		(d) (1)
授業概要	無線通信を例にとり通信の基本について学ぶ。企業などで即戦力として無線通信の回線設計をするために必要な理論、手順などについてその概要を学習し、簡単な無線通信の回線設計について演習する。			
到達目標	A. 通信技術の基礎を理解することができる。 B. 電波の伝わり方、変調方式など通信の基本事項を理解することができる。 C. 簡単な無線通信の回線設計ができる。			
授業方法	板書を基本とし講義形式で進める。学生は事前に該当箇所を予習し、不明な点は講義中に質問をすることで確実にものにすること。毎回、小テストを行う。			
教科書	吉野、山下、吉田、水谷、斉藤「無線通信工学の基礎と演習」コロナ社			
補助教材	なし			
評価方法	区間評価(100点満点) = ①定期試験(70%) + ②小テスト(30%) 各区間ごとの評価を単純平均したものを総合成績とします。 ①定期試験 70% 中間試験、期末試験を実施します。 ②小テスト 30% 適宜、前回までの学習内容を確認し、知識の整理と定着を促すため、小テストを実施します。 これらの内容を本項目として評価します。 なお、授業態度が悪い場合は、本項目内から最大で10%の範囲で減点をします。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分をよく読み、基礎知識を身につけた上で授業に望むこと。授業では、重点テーマおよび重点ポイントを中心に板書にて講義を行う。板書は必ずノートにとり、家での復習では重点テーマに沿って、自分が理解した内容を別のノートにまとめ直すことで、十分な理解と知識の定着を図ること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法について理解できる。
6	1. 通信技術の基礎	<input type="checkbox"/> レベルダイヤグラム等について理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 変調の役割、種類について理解できる。(A, B)
3.75	2. 電波伝搬の基礎	<input type="checkbox"/> 電波の発生、電波の伝搬等について理解できる。(B)
0.75	中間試験	
9	3. 無線通信の回線設計	<input type="checkbox"/> 簡単な無線通信の回線設計ができる。(C)
0.75	期末試験	
1.5	学習指導(演習等)	
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気工学実験	EE:電気工学科	5年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments in Electrical Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		3	3	39
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	水曜日以外	t-kazama
竹本 泰敏	電気工学科・非常勤講師	312	実験終了後	takemoto
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1 EE-2 EE-3		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	送電技術、電子回路、電気機器、計測制御の分野に関する専門知識を習得する。			
到達目標	A. 電気電子技術者としての専門的な送電技術に関しての測定ができる。 B. 電気電子技術者として、電気機器、制御技術に関して理解することができる。 C. 電気電子技術者として学習した理論を用いて要求仕様を満たす設計をすることができる。 D. 実験で得られた結果や考察などを第三者に正確に伝えることができる。			
授業方法	12の実験テーマが用意されており、3班に分けてローテーションで行う。はじめに実験に関する諸注意等が教員より説明され、その後各自実験を行う。			
教科書	なし			
補助教材	必要に応じて担当教員によりプリントを配布する。			
評価方法	3人の担当教員がそれぞれ以下の評価を行い、3人の評価を平均する。 レポート評価点(80%) + 実験ノート(10%) + 実験態度(10%)			
関連科目	工学基礎(1年)、電気工学実験(2年、3年、4年)			
準備学習に関するアドバイス	実験前に指導書をよく読んで必要な知識を復習し、場合によっては予習し、段取り良く実験できるように十分に準備しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	実験ガイダンス	半期実験スケジュールの確認および各教員からの実験ガイダンス
12	実験テーマ① (1) 回路設計 (2) 試作・評価 (3) 改善設計 (4) 改善試作・改善効果確認	<input type="checkbox"/> 開発のPDCAをまわせる。(C) <input type="checkbox"/> 仕様にしたがって設計できる。(C) <input type="checkbox"/> 分布定数回路について理解している。(C) <input type="checkbox"/> 設計の妥当性等を考慮した開発報告書を作成できる。(D)
12	実験テーマ② (1) 制御系基本要素 (2) ステップ応答 (3) リレーシーケンス制御の基礎・応用 (4) PLC制御の基礎・応用	<input type="checkbox"/> 制御系基本要素について理解できる。(B,D) <input type="checkbox"/> 制御系基本要素のステップ応答について理解できる。(B) <input type="checkbox"/> リレーシーケンス制御の回路を組み立てることができる。(A,B) <input type="checkbox"/> PLCを使いリレーと同じ動作の制御を行うことができる。(A,B)
12	実験テーマ③ (1) ナイキスト線図 (2) ボード線図 (3) 保護継電器試験 (4) 模擬送電線	<input type="checkbox"/> ナイキスト線図について理解できる。(B) <input type="checkbox"/> ボード線図の安定、不安定について理解できる。(B) <input type="checkbox"/> 保護継電器の特性試験について理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 模擬送電線を用い電氣的特性を理解できる。(A,D)
3	校外学習	<input type="checkbox"/> 世の中の電気工学の位置づけや価値が理解できる。(B)
3	レポート指導	<input type="checkbox"/> 得られた結果や考察などを適切な報告書を作成できる。(D)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用数学B	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Applied Mathematics B	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
亀山 統胤	一般教育科・助教	239	木曜日以外	n-kameyama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		B-1		(c)
授業概要	線形代数は、行列式とその応用、ベクトル空間、線形写像、固有値とその応用、2次形式を学習する。統計学は、3年次に学んだ統計の基礎を復習し検定と推定、回帰分析を学習する。			
到達目標	<p>A. 行列の和・差・積・逆行列等の基本的な計算を行うことができる</p> <p>B. 行列式の求め方と性質を理解し、連立1次方程式の解法など他の問題で使うことができる</p> <p>C. ベクトル空間について理解し、1次独立の判定や基底の変換を行うことができる</p> <p>D. 固有方程式を解き、固有値と固有ベクトルを求めることができる</p> <p>E. 固有値と固有ベクトルについて理解し、行列を対角化することができる</p> <p>F. 行列の対角化について理解し、2次形式の標準形への変形など他の問題で使うことができる</p> <p>G. 統計学の基礎を理解し、母数の検定、回帰分析ができる</p>			
授業方法	教科書の流れに沿って講義形式で授業を進める。演習問題を解き、小テストを行うことにより理解度を確実にする。さらに、知識を確実にするために適宜課題の提出を求める。			
教科書	理工系のための線形代数 長坂・駒木(裳華房)			
補助教材	授業プリント			
評価方法	<p>1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合</p> <p>(1) 定期試験(70%)</p> <p>(2) 小テスト、課題、授業プリントなどの平常点(30%)</p> <p>2. 評点算出の方法</p> <p>(1) 年間を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける</p> <p>(2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする</p> <p>(3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後中間の総合成績が47点未満の場合は、不可が確定する</p>			
関連科目	基礎数学I, 基礎数学II, 代数幾何学, 確率統計学			
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのか説明できて、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習において練習問題を数多くこなす、確固たる知識を確立していく姿勢が必要です。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
2	行列の復習	<input type="checkbox"/> 行列の和・差・積・逆行列の基本を理解できる (A)
4.5	行列式	<input type="checkbox"/> 行列式の定義より行列式を求めることができる (B) <input type="checkbox"/> 余因子展開を用いて行列式を求めることができる (B)
1.5	連立1次方程式	<input type="checkbox"/> 掃き出し法を用いて連立1次方程式を解くことができる (B) <input type="checkbox"/> 連立1次方程式の対策演習問題を理解する (B)
1.5	まとめと演習(前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 行列式と連立1次方程式の対策演習問題を理解する (A, B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間試験
3	ベクトル空間	<input type="checkbox"/> 1次独立と1次従属について理解できる (C) <input type="checkbox"/> 基底と次元を理解し、基底の変換を行うことができる (C)
1.5	線形写像	<input type="checkbox"/> 線形性や線形写像の表現行列を理解できる (C)
3	固有値と固有ベクトル	<input type="checkbox"/> 固有値と固有ベクトルを求めることができる (D) <input type="checkbox"/> 固有値と線形変換の関係を理解できる (D)
1.5	まとめと演習(前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> ベクトル空間と固有値の対策演習問題を理解する (C, D)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末試験
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
3	行列の対角化	<input type="checkbox"/> 固有値・固有ベクトルにより行列を対角化できる (E) <input type="checkbox"/> 対角化の応用として行列のべき乗等の計算を理解できる (E)
3	対称行列	<input type="checkbox"/> 対称行列の性質とその対角化を理解できる (E)
3	2次形式	<input type="checkbox"/> 2次形式を対称行列で表すことができる (F) <input type="checkbox"/> 2次形式の標準形へ変形することができる (F) <input type="checkbox"/> 対角化と2次形式の対策演習問題を理解する (E, F)
1.5	まとめと演習(後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 後期中間試験
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 区間推定 (G) <input type="checkbox"/> 仮説検定 (G) <input type="checkbox"/> 回帰モデル、回帰係数の検定 (G)
4.5	推定と検定	<input type="checkbox"/> 演習(小テスト実施)
3	回帰分析	<input type="checkbox"/> 学年末試験
1.5	まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 試験の返却と解説、理解が不十分な内容の補足
0.75	学年末試験	#REF!
1.5	学習指導期間	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
技術者倫理	EE:電気工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Engineering ethics	必修	講義	演習	実験・実習
45	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米澤 一孝	電気工学科・非常勤講師	230	木曜10:30-12:00	k-yonezawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
EE-1		A-3		(b)
授業概要	技術者、科学者は社会に対する責任を負う存在であり倫理観が要求される。現代にいたる科学技術の成立とそれを支えた思想、また社会的背景を概観しながら技術者倫理を学ぶ。			
到達目標	(A) 科学技術を発展させた思想と、その社会史的な背景を理解できる。(B) 科学技術が社会や自然に及ぼす影響、又背景となった自然や社会からの影響を理解出来る。(C) 21世紀の技術者、科学者として社会に対する責任を自覚する能力を育成する。(D) 技術者倫理の背景と必要性を理解できる。(E) 環境倫理、科学者倫理を理解できる。(F) 相互認証JABEE、APEGエンジニアについて理解できる。(G) 内部告発について理解できる。(H) 知的財産権について理解できる。			
授業方法	座学を中心とした授業形態、適宜課題を求める。			
教科書	丸善出版社「JABEE対応技術者倫理入門」小出泰士			
補助教材	適宜プリント配布			
評価方法	定期試験の評価は70%、課題・発表の評価は30%、(課題15%、発表15%)、各区間の単純平均とする。但し前期・後期それぞれの総合成績が合格基準をクリアしていない場合不可となり、再試験の対象となる。(例) 前期総合成績が50点、後記総合成績が80点の場合、前期末総合成績は不可となる。この場合前期のみが再試験の対象となる。課題：前期と後期で各2回、発表：前期と後期で各2回、 ※発表を課題もしくはノートチェックで代行する場合もある。			
関連科目	1年次現代社会、2年次歴史、5年次一般選択経済学、			
準備学習に関するアドバイス	先ず読書、238人文社会研究室の山館文庫は参考になる。又日本と世界の各種報道記事に関心を持つ事。報道における企業関連記事に注意を払うことが必要。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	【前期】	【科学技術史からアプローチする技術者倫理】
1.5	授業計画	<input type="checkbox"/> 授業計画
1.5	1.5 IT革命と情報化社会	<input type="checkbox"/> 情報通信革命とユビキタス社会。(A-C)
1.5	1.5 冷戦と共存	<input type="checkbox"/> 核の恐怖、環境と科学、科学思想の現在。(A-C)
3	20世紀の科学技術	<input type="checkbox"/> 総力戦と大量破壊兵器、20世紀の科学思想、大正、昭和日本の科学技術、アメリカの科学技術、産軍複合。(A-C)
3	第二次産業革命	<input type="checkbox"/> 化学と電気の実用化、情報通信の発展、大都会の成立。(A、B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-D)
1.5	1.5 近世日本の科学技術	<input type="checkbox"/> 江戸のからくり、蘭学から洋学へ、幕末の技術移転(A、B)
3	産業革命	<input type="checkbox"/> イギリス実用主義の風土、発明家と技術者たち、19世紀のドイツ技術。(A、B)
3	中世科学から近代科学へ	<input type="checkbox"/> ヨーロッパの自然観、ルネサンスの発明、大航海時代の科学技術。(A、B)
1.5	1.5 古代の科学思想	<input type="checkbox"/> 古代ギリシャとローマの科学思想、
3	事例研究発表	<input type="checkbox"/> (A-D)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> (A-D)
	【後期】	【事例からアプローチする技術者倫理】
1.5	1.5 授業計画	<input type="checkbox"/> 授業計画
1.5	1.5 技術者倫理の必要性とその背景	<input type="checkbox"/> 技術者倫理が求められるその背景を理解する(D)
1.5	1.5 倫理の課題	<input type="checkbox"/> 専門職の公衆に対する責任を理解する(D)
1.5	1.5 環境倫理	<input type="checkbox"/> 社会的環境負荷低減に配慮した技術を理解、リスクを具体的に考える。(B、C、E)
3	21世紀を生きる技術者として	<input type="checkbox"/> 国際化社会の中での倫理の在り方を考える(B、C)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> (B、C、D、E、H)
1.5	1.5 内部告発	<input type="checkbox"/> 公益通報者保護法とその精神を理解する(G)
1.5	1.5 科学者倫理	<input type="checkbox"/> 科学者に関わる不正の事例、又知的財産権について理解する(E、G)
1.5	1.5 知的財産権	<input type="checkbox"/> 青色発光ダイオード訴訟事件の背景と影響を理解する(H)
3	事例研究発表	<input type="checkbox"/> 事例研究発表を通じて科学者の責任を理解する(B-H)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> (B、C、D、E、H)
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習指導の確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	
時間		

開講年度 2017	クラス :	番号 :	氏名 :	
科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
卒業研究	EE:電気工学科	5年	通年	8
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Graduation Research	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	180
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	金曜日以外	watanabe
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期:木以外 後期:木以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
EE-1 EE-2 EE-3 EE-4 EE-5	C-2 D-1 D-2 D-3	(d) (4) (e) (f) (g) (h)		
授業概要	高専教育の集大成として実施するものであり、それぞれが自主的にテーマを選定し、計画立案し、まとめて研究論文とするものである。ここでは学生個人の自主・創造・実践・分析・解析・まとめ・発表までを総合的に行う。			
到達目標	A. 研究計画を立てることができる。 B. 問題解決に向かって継続的に研究することができる。 C. 科学的・論理的に文書を書くことができる。 D. わかりやすく発表することができる。			
授業方法	授業開始時は教室に集合し、諸注意及び伝達事項確認後に各研究室に分かれて卒業研究を実施する。各自の卒業研究進行状態の確認のために、随時実験ノート等のチェックを行い、年2回の中間発表を実施する。学年末に卒業論文としてまとめ、発表を行う。			
教科書				
補助教材				
評価方法	指示された報告書を全て提出し、年2回の中間発表および最後の卒研発表を行っていることが評価の前提となる。評価は電気工学科卒研担当教員全員で行い、論文内容・発表・理解度・研究態度・創造性の5項目についてそれぞれ5点満点で評価し、それらの平均点を2.0倍した点数について指導教員(60%)、その他の教員の平均(40%)にて評価する。評価が60点に満たない場合は再審査を行う。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	卒業研究は、週1回の授業時間内だけでは到底終わりませんので、毎日研究室に顔を出し、自主的にスケジュールを立てて研究を実施していくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
180	ガイダンス 研究テーマの策定と年間計画の作成 各研究室での研究活動 第1回中間発表 育英祭卒研概要の提出 育英祭パネル作成・展示・説明 第2回中間発表 卒業論文・卒研概要の提出 卒研発表	<input type="checkbox"/> 卒業研究の進め方、年間スケジュール、評価について理解する。 <input type="checkbox"/> 1年間の研究計画を立てることができる。(A) <input type="checkbox"/> 問題解決に向かって継続的に研究することができる。(B) <input type="checkbox"/> 研究背景、研究目的、研究計画を中心にパワーポイントで作成し、口頭発表することができる。(D) <input type="checkbox"/> 中間報告の概要を文書で作成することができる。(C) <input type="checkbox"/> 中間報告のパネルを作成し、ポスター発表することができる。(C,D) <input type="checkbox"/> 研究計画に沿って得られた結果、今後の計画を中心にパワーポイントで作成し、口頭発表することができる。(D) <input type="checkbox"/> 背景、目的、方法、結果、考察、結論の順に科学的・論理的に記述された論文を書くことができる。(C) <input type="checkbox"/> パワーポイントでわかりやすく口頭発表し、質疑に対する的確に回答することができる。(D)
合計 180 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

IV.機械電子工学科 必修専門科目

機械電子工学科(ME) 専門科目 教育課程表(2008年度入学以降)

区分	科目名	履修 単位数	JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連														分野別要件 (①~⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					機械電子工学科の学習・教育目標との関連																
			学年別単位数					A					B				C			D		①設計・システム系科目群					②情報・論理系科目群		③材料・バイオ系科目群	④力学系科目群	⑤社会技術系科目群	ME						
			1年	2年	3年	4年	5年	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	1	2	3	4	5	6	7									
必修科目	電気回路Ⅰ	2			2							◎																										
	電気回路Ⅱ	2				2						◎																										
	アナログ電子回路	2				2						◎																										
	デジタル電子回路	2							2			◎																										
	電気磁気Ⅰ	2				2						◎																										
	電気磁気Ⅱ	2					2					◎																										
	計測工学	2							2			◎											◎															
	制御工学	2							2			◎											◎								◎							
	電子計算機	2			2							◎																		◎								
	アルゴリズム理論	2					2					◎																										
	計算機プログラミング	2							2			◎												◎										◎				
	通信工学	2					2					◎																										
	アンテナ工学	2							2			◎																										
	電気通信法規	1								1		◎																										
	工業材料	2						2				◎																										
	半導体デバイス	2							2			◎																										
	製図	1	1									◎																										
	機械加工	2				2						◎			◎								◎															
	計算機援用設計	2						2				◎																										
	機構学	2							2			◎																										
	材料力学	2								2		◎																										
	機械デザイン	2								2		◎											◎															
	信号処理	2								2				◎														◎										
	音響工学	2								2				◎																								
	工学基礎	3	3									◎																										
	機械電子工学実験	12			4	4	4								◎									◎														
	創造演習	7	3	2		2									◎							◎																
創造設計学	2							2						◎														◎										
解析学Ⅱ	2						2							◎																								
線形代数	2						2							◎																								
物理学	2							2						◎																								
技術者倫理	2							2							◎																							
卒業研究	8							8																														
履修単位数計	86	7	10	18	24	27								◎	◎			◎	◎	◎								◎	◎	◎	◎	◎	◎					

2010~2015年度入学 履修単位表	要修得単位	履修単位数				
一般科目 必修科目 履修単位計	79	26	25	17	7	4
一般科目 選択科目 履修単位計	2	0	0	0~2	0~2	2~4
一般科目履修単位合計	81	26	25	17~19	7~9	6~8
専門科目 必修科目 履修単位計	86	7	10	18	24	27
専門科目 選択科目 履修単位計	0	0	0	0	0~3	0~3
専門科目履修単位合計	86	7	10	18	24~27	27~30
履修単位合計	167	33	35	35~37	31~36	33~38

◎ 一般選択科目C群の法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

2016年度入学 履修単位表	要修得単位	履修単位数				
一般科目 必修科目 履修単位計	79	24	24	19	8	4
一般科目 選択科目 履修単位計	2	0	0	0	0~2	2~4
一般科目履修単位合計	81	24	24	19	8~10	6~8
専門科目 必修科目 履修単位計	86	7	10	18	24	27
専門科目 選択科目 履修単位計	0	0	0	0	0~3	0~3
専門科目履修単位合計	86	7	10	18	24~27	27~30
履修単位合計	167	31	34	37	32~37	33~38

◎ 一般選択科目C群の法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

◎ 一般選択科目A群有機化学は2016年度入学生より専門選択科目D群 4-5年へ移行する
※2018年度A群3年有機化学は開設なし、2019年度よりD群4-5年で開設する

機械電子工学科の学習・教育目標

ME-1	【倫理観・国際性】 国際社会の一員として、技術者の一般的な倫理観を持ち、技術・工学が社会に貢献でき、また社会に及ぼす影響を認識することができる
ME-2	【チームワーク】 理解力や表現力に富み、チームの一員として、与えられた制約の下で計画的に仕事を成し得ることができる
ME-3	【基礎力】 情報通信・産業システム・電子デバイスの分野の理解に必要な基礎的な数学・自然科学の知識と応用能力およびコンピュータを活用できる基礎能力を習得でき、それらの分野の相互関係を理解することができる
ME-4	【分析・抽出力】 学際的・グローバルな視点から、社会環境や生活におけるニーズや解決すべき課題を見出すことができる
ME-5	【実践・具現力】 技術・工学の基礎を習得し、アイデアを具現する開発型技術者としての基礎的知識を持ち、情報を利用し、実践的に活用できる
ME-6	【発展性・継続性・チャレンジ精神】 総合的な観点から自主的・継続的に学習でき、技術・工学の考え方を活用してマネジメントや起業のような分野に積極的に参加できる
ME-7	【討論・論理的思考】 日本語で論理的に考え、記述・発表・討論することができ、英語で基本的な会話ができる

JABEE基準1

(a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力
(d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力 (1)専門工学(融合・複合領域)の知識と能力 (2)実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (3)創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力 (4)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
(e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g)	自主的、継続的に学習する能力
(h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i)	チームで仕事をするための能力

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(A)	健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者
	(A-1) 健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
	(A-2) 過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
	(A-3) 近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
	(A-4) 我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
	(A-5) 自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる

(B)	自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者
	(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
	(B-2) 自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
	(B-4) 実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる

(C)	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者
	(C-1) 国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
	(C-2) コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる
	(C-3) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる

(D)	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者
	(D-1) 自律的に新たなことにチャレンジする心(プロダクトマインド)を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
	(D-2) 問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
	(D-3) 実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
製図	ME:機械電子工学科	1年	通年	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Drafting Design	必修	10	12.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山口 貢	機械電子工学科・助教	301	月曜放課後	yamaguchi.mitsugu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-5		B-2		(d) (1)
授業概要	製図の基本学習に重点を置き、基本的技能を身に付けさせると共に製図の規格を正しく理解させる。機械要素設計図面および電子回路図面の描画を通し、機械工学および電子工学の理解を深める。			
到達目標	(A) 基本的な製図規格を覚える (B) 基礎的な図面を正しく読める (C) 図面規格に沿って基礎的な図面を正しく描けるようになる			
授業方法	各課題の説明終了後に手描きによる課題制作実習をする。			
教科書	林 洋次:『機械製図』、実教出版			
補助教材	技能士の友編集部:『技能ブックス12 機械図面のヨミカタ』、大河出版			
評価方法	提出課題(提出期限・課題評価)(100%)にて行い、前期末、後期末の2回に分けて評価する。総合評価は2回の評価の平均とする。			
関連科目	力学、材料学、機構学、機械加工、機械設計、計算機援用			
準備学習に関するアドバイス	締め切りは守ること。丁寧な図面作成を心掛けて下さい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス 文字の描き方	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明、ガイダンスを行う 図面に用いる文字:課題1 文字の練習 <input type="checkbox"/> 製図文字について学ぶ(A)
3	線の描き方	線の種類・用法:課題2 線 <input type="checkbox"/> 製図道具の使用法について学ぶ(A) <input type="checkbox"/> 線の種類について学ぶ(C)
1.5	平面図形の描き方	直線と円弧を用いた線のつなぎ方:課題3 平面図形 <input type="checkbox"/> 基礎的な図形の描き方について学ぶ(A, C)
4.5	立体を平面で表わす方法	投影図の練習:課題4 第三角法による図形 <input type="checkbox"/> 投影法について学ぶ(A, B) <input type="checkbox"/> 投影図の配置について学ぶ(A, B) <input type="checkbox"/> 三面図の描き方について学ぶ(C)
1.5	寸法の描き方	基本的な寸法記入の方法:課題5 寸法記入 <input type="checkbox"/> 寸法の描き方について学ぶ(A, B) <input type="checkbox"/> 特別な図示方法について学ぶ(A, C)
4.5	ボルト、ナットの製図	ネジの名称と種類・ネジの表しかた:課題6 ネジの製図 <input type="checkbox"/> ネジの種類について学ぶ(A) <input type="checkbox"/> ボルト・ナットの製図方法について学ぶ(A, B, C) <input type="checkbox"/> はめ合いについて学ぶ(A)
6.75	屋内配線図の製図	電気記号の製図:課題7 電気記号 屋内配線図の設計:課題8 屋内配線図 <input type="checkbox"/> 製図に用いる電気記号について学ぶ(A, B) <input type="checkbox"/> 配線図の描き方について学ぶ(A, C)
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
工学基礎	ME:機械電子工学科	1年	通年	3
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamental of Engineering	*必修	講義	演習	実験・実習
		27	18.75	21.75
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日以外	tomita
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	水曜日以外	kuroki
山口 貢	機械電子工学科・助教	301	金曜日以外	yamaguchi.mitsugu
坂口 雅人	機械電子工学科・助教	322	金曜日以外	sakaguchi.masato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-5		B-2		(d) (1)
授業概要	工学的なセンスを養うために、エレクトロニクス技術の基礎、工作機械技術の基礎や体験実習を通して、「道具の使い方」「作業方法の基礎」「データの測定・読み方」「報告書の書き方」を教授する。			
到達目標	<p>A. 報告書を作成して提出する</p> <p>B. べき乗計算ができる</p> <p>C. 補助単位が使える</p> <p>D. 電卓を使って計算ができる</p> <p>E. アナログメータを読むことができる</p> <p>F. グラフが書ける</p> <p>G. 基本的な直流回路の計算ができる</p> <p>H. 旋盤の基礎を身に着ける</p> <p>I. 電子回路を組み立てられる</p>			
授業方法	座学と実習によって授業を進める。なお、座学は講義を中心とし、必要に応じて理解を深めるための演習を行う。また、実習はグループに分かれて実験もしくは作業を行う。必要に応じてプリントを配布する。適宜課題を出し報告書の提出を求める。補講または特別講義を実施することがある。			
教科書	新入生のための電気工学 東京電機大学出版			
補助教材	なし			
評価方法	<p>区間成績はその区間までに実施した試験成績の累計と報告書・課題の累計から算出する。なお、各々の成績評価に対する配分は以下の通りである。</p> <p>試験成績(70%)</p> <p>報告書・課題の内容評価(30%)</p> <p>必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その点数の反映は合格を満たす点数を上限とする。</p> <p>なお、報告書作成の重要性を身に着けることで目標に掲げた関門教科であることから、すべての課題及び報告書が提出されないと上記成績とは関係なく不合格となり、留年が確定する。</p> <p>なお、実習ノートは課題提出に利用するので、講義ノートと分けて用意すること。</p>			
関連科目	すべての専門科目			
準備学習に関するアドバイス	技術やテクニックは自分の身体に覚えさせるべきものである。何事にも自分の力で挑戦し、身につけることを意識するとよい。また、反復練習による実力向上を目指してもらいたい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	□シラバスの利用方法を理解する
1.5	[実習]基礎計算能力の確認	□基礎計算能力の確認をして自習すべき課題を見つける(B, C, D)
2.25	[講義]抵抗のカラーコード	□抵抗のカラーコードを覚える(B, C)
	[講義]10のべき乗	□10のべき乗を使った数値表現ができるようになる(B)
	[講義]補助単位	□補助単位を使った単位が作れるようになる(C)
2.25	[実習]はんだ付けと回路製作	□はんだ付けの作業環境を含め、手順を追った作業ができる(A, I)
0.75	[講義]テスターの使い方	□複合メータを読むことができる(E)
1.5	[実習]テスターを使った計測	□テスターを使った抵抗の測定ができる(A, E)
4.5	[講義]直流回路	□テスターを使った電圧の測定ができる(E)
2.25	[講義]合成抵抗と等価回路	□オームの法則を理解し、直流回路設計ができる(G)
		□直並列回路の合成抵抗が計算でき、等価回路が書ける(G)
0.75	前期中間試験	前期前半までの内容確認
2.25	[ガイダンス]実験ガイダンス	□実験実習についての予備知識(レポート作成、安全管理など)(A)
9	[実習]1週ごとに各テーマを実施	□金属の切断ができる。旋盤の各部名称を覚える(A, H)
	・機械加工	□センサーの役割を理解する(A, I)
	・メカトロ実習	□電圧の分圧及び電流の分流の計算ができる(A, G)
	・回路演習I	□直列回路・並列回路の解析ができる(A, E, G, I)
	・回路実習	□実習で得た知識について確認(A~I)
2.25	[実習]演習についてのまとめ	□実習で得た知識について確認(A~I)
2.25	[実習]前期のまとめ	□機械加工、メカトロ知識、回路解析の知識・技術の確認(A~I)
0.75	前期期末試験	前期後半までの内容確認
9	[実習]1週ごとに各テーマを実施	□金属加工におけるねじ加工ができる(A, H)
	・機械加工	□アルゴリズムを考え、フローチャートが理解できる(A, I)
	・メカトロ実習	□各種法則を用いて回路設計ができる(A, G, I)
	・回路演習II	□グラフ作成の方法を身につける(A, F)
	・グラフ演習	
6	[講義]キルヒホッフの法則	□キルヒホッフの第一法則を回路に適用できる(G)
		□キルヒホッフの第二法則を回路に適用できる(G)
2.25	[実習]後期中間のまとめ	後期前半内容の確認
0.75	後期中間試験	後期前半までの内容確認
2.25	[演習]キルヒホッフの法則	□回路方程式から枝路電流が求められる(G)
2.25	[講義]電力、ジュール熱	□ジュールの法則から電気による熱エネルギーを計算できる(G)
6.75	[講義]複雑な回路	□各種法則を用いて回路計算ができる(G, I)
2.25	[演習]1年間のまとめ	後期後半内容の確認
0.75	後期期末試験	後期後半までの内容確認
2.25	[講義]学習指導	試験解説(各定期試験後に実施)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5	最終成績: 評価点 [] 点	評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
創造演習	ME:機械電子工学科	1年	通年	3
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Practice for Creative Thinking	必修	講義	演習	実験・実習
		10	0	57.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	tomita
山口 貢	機械電子工学科・助教	301	裁量日以外	yamaguchi.mitsugu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-2 ME-3 ME-4 ME-5 ME-7		B-3 D-2		(d) (1) (d) (3) (h) (i)
授業概要	発想、設計、ものづくり、テストラン、試合、発表会、報告書作成という流れの中で、随時ディスカッションを行う。PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを基本に据えた創造活動を通して、自分が発想したことを実現する強い意志と計画力、およびそれを他者に伝えるコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。			
到達目標	<p>A.ブレインストーミング法が行える</p> <p>B. KJ法が行える</p> <p>C. 評価関数を設定してアイデアの評価ができる</p> <p>D. 考えたことを書面などで見える化できる</p> <p>E. 製作工程表を記入して管理できる</p> <p>F. 仕事量を計測・記録し、それをもとに作業見積りができる</p> <p>G. 日程配分およびグループ内で仕事配分が出来る</p> <p>H. 自己の考えや仕事を文や図表にまとめ、相手に伝えることができる</p>			
授業方法	主として実習形態で実施する。この授業では、出来上がった作品の優劣よりも、知識を吸収する姿勢、その知識を解体して新たなアイデアをまとめる能力を向上させることに重きを置く。したがって、製作プロセスでの発想活動とコミュニケーション、および報告を大事にする。			
教科書	メカトロニクス入門(実教出版)			
補助教材	なし			
評価方法	<p>テーマは下記の通りである。</p> <p>(1)競争ロボット・・・個人レベルで創造活動の導入訓練</p> <p>(2)ムードランプ・・・個人レベルで創造活動の実習</p> <p>(3)相撲ロボット・・・グループ活動での創造活動の訓練</p> <p>各テーマごとに創造力育成のための作業を行う。その作業成果ごとに以下の観点で()内に示す配分で評価し、最終的に全てのテーマについて均等評価を取る。</p> <p>①目的に対する達成度(20%):作品の出来映え(競技大会成績およびパフォーマンス)</p> <p>②創造に必要なコミュニケーション(20%):発表会資料・発表会での態度と内容・グループ討議の参加姿勢</p> <p>③創造活動の習熟(40%)・・・アイデア発散および収束を記した報告書類の質と量</p> <p>④授業への参加姿勢(20%)・・・毎回振り返りノートの記載内容について質を評価</p>			
関連科目	工学基礎、表現			
準備学習に関するアドバイス	じっくり考え、人の話を聞き、意見を出し合うことが重要である。また、作業を計画的に進めることも重要である。いい物を考えても、期限までに完成しないと評価は0点である。			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
9	総合ガイダンス、自己紹介、講義	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明 <input type="checkbox"/> 高専の特徴説明、機械電子工学科の紹介 <input type="checkbox"/> 自己紹介 <input type="checkbox"/> 発想練習(ブレインストーミング)(A, B, D, H)
13.5	競争ロボットの製作	<input type="checkbox"/> 解説、ルール・制約条件説明 <input type="checkbox"/> 発想、設計(Plan):アイデアの発散収束を体験する(A, B, C, D, G, H) <input type="checkbox"/> 製作・テストラン(Do):機能の確認をする(C, D, F, H) <input type="checkbox"/> 問題点の抽出改善(Check/Action):あるべき姿を定義する(C, D, E, F, H) <input type="checkbox"/> 改良・テストラン(オープン戦)・試合:実行力を発揮する(A~H) <input type="checkbox"/> まとめ、発表、報告書提出(Check):評価する(定量化)(D, H)
22.5	LEDムードランプ(学園祭展示)の製作	<input type="checkbox"/> 解説、ルール・制約条件説明、LEDの使い方実験 <input type="checkbox"/> LEDの使い方実験:知識の吸収(D, H) <input type="checkbox"/> アクリル板加工の練習(升の作成):経験の積み重ね(E, F) <input type="checkbox"/> 発想、設計(Plan):アイデアの発散収束を実施する(A, B) <input type="checkbox"/> 紙による試作・評価、工程表(Plan):概略評価を体験する(G~H) <input type="checkbox"/> 工程表の作成(Plan):実行計画を体験する(E, F, G) <input type="checkbox"/> 製作、随時手直し(Do):実行力を発揮する(D, E, F, H) <input type="checkbox"/> 育英祭展示(D, H) <input type="checkbox"/> 発表会、報告書提出(Check):評価する(定量化)(D, H)
18	相撲ロボットをグループで製作	<input type="checkbox"/> 解説、ルール・制約条件説明、グループ分け発表 <input type="checkbox"/> 個人の発想、グループの発想:アイデアの発散・収束を行う(A, B, D, H) <input type="checkbox"/> 役割分担、設計(Plan):チーム活動と合意形成を体験する(D, H) <input type="checkbox"/> 工程表作成(早く、正確に、無駄なく)(Plan)(C, E, F, G) <input type="checkbox"/> 製作(Do):チーム活動を実施する(D, E, F, G) <input type="checkbox"/> テストラン(オープン戦)(Do, Check):機能の確認をする(C) <input type="checkbox"/> 試合(Check):評価する(定量化)(C, H) <input type="checkbox"/> 発表会、報告書提出(個人、グループ)(Check):評価する(C, D, H)
4.5	工場見学	メカトロニクス関連の企業や施設を見学し、視野を広げる
合計	試験結果:前期中間試験[]点 前期末試験[]点 後期中間試験[]点 後期末試験[]点	
67.5	最終成績:評価点[]点	
時間	評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電子計算機	ME:機械電子工学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Embedded system Technology	必修	講義	演習	実験・実習
		30	0	15
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日以外の平日	tomita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		A-2		(a)
授業概要	電子計算機は、パーソナルコンピュータ(PC)に代表されるように身近なものになった。本授業では、計算機の基本から、現在最も普及しているワンチップ・マイクロコンピュータによる組み込み技術の基礎までを教授する。			
到達目標	A. コンピュータの分類ができる B. コンピュータの発展について説明ができる C. コンピュータの五大機能を説明できる D. 基本論理回路が説明できる E. 組み合わせ論理回路の入力から出力を導くことができる F. 順序回路への入力から出力を導くことができる G. マイコンの構成図からデータの流を読むことができる H. 機械語、アセンブラ言語、C言語の関係について説明できる I. マイコンの開発環境を利用できる J. C言語の基本的な命令を使うことができる K. 簡単な処理についてをアルゴリズム作成できる			
授業方法	座学を基本とする。項目ごとに課題を与える。随時プリントを配布し、教科書と合わせて授業を進めるので保存用ファイルを用意すること。			
教科書	ハードウェア技術(実教出版), 授業にて随時配布するプリント			
補助教材	なし			
評価方法	前期中間、前期末、後期中間、後期末の4回評価を行う。 評価は下記に示す配分を適用して該当区間の成績を計算し、それまでの評価との単純平均で算出する。 試験成績(80%) 課題の評価(20%) 必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その点数の反映は合格を満たす点数を上限とする。			
関連科目	電子工学, 工学基礎, 創造演習			
準備学習に関するアドバイス	配布されるプリントは全て保管すること。課題については一部を除き、基本的には授業中に終了できる内容なので、集中して取り組み、宿題とならないようにすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	年間授業、評価方法について
2.25	電子計算機の基本知識	<input type="checkbox"/> コンピュータの種類(A, B) <input type="checkbox"/> コンピュータの基本構成(B, C) <input type="checkbox"/> 2進数、10進数、16進数について相互に変換できる(D, E, F, J) 前期前半に学んだ知識の確認
1.5	前期前半のまとめ	
0.75	定期試験	
6	論理回路と応用回路	<input type="checkbox"/> 基本論理回路を理解する(D) <input type="checkbox"/> 組み合わせ回路とブール代数の関係を理解する(E) <input type="checkbox"/> 半加算機と全加算機の動作と構成を理解する(E) <input type="checkbox"/> 並列加算機、直列加算機の構成を理解する(E) <input type="checkbox"/> エンコーダ、デコーダの動作を理解する(E)
3	順序回路	<input type="checkbox"/> フリップフロップ回路の動作と構成を理解する(F) <input type="checkbox"/> レジスタの構成と動作を理解する(F) <input type="checkbox"/> カウンタの構成と動作を理解する(F)
0.75	前期後半のまとめ	
0.75	定期試験	前期後半に学んだ知識の確認
6.75	電子計算機プログラミング① ～処理と命令の基本概念～	<input type="checkbox"/> アクキュレータ、レジスタ、メモリの役割を理解する(G) <input type="checkbox"/> プログラム言語と特徴について理解する(H) <input type="checkbox"/> 電子計算機が命令を処理する手順を理解する(I) <input type="checkbox"/> 変数とメモリの関係を理解する(G, K) <input type="checkbox"/> データの移動について理解する(G, K) <input type="checkbox"/> 条件分岐命令が使えるようになる(G)
0.75	後期前半のまとめ	
0.75	定期試験	後期前半に学んだ知識の確認
10.5	電子計算機プログラミング② ～電子計算機をプログラムする～	<input type="checkbox"/> I/Oの制御プログラムを作成できるようになる(I, J, K) <input type="checkbox"/> 繰り返し処理のプログラムを作成できるようになる(I, J, K) <input type="checkbox"/> 条件分岐を行うプログラムを作成できるようになる(I, J, K)
9	電子計算機プログラミング③ ～電子計算機の実用～	<input type="checkbox"/> センサを使ったプログラムを作成できるようになる(G, I, J, K) <input type="checkbox"/> DCモーターを制御するプログラムを作成できるようになる(F, I, J, K)
0.75	後期後半のまとめ	
0.75	定期試験	後期後半に学んだ知識の確認
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械加工	ME:機械電子工学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Machining Process	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
坂口 雅人	機械電子工学科・助教	322	金曜日以外	sakaguchi.masato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
ME-3		B-2	(d)(1)	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 加工学は、1) 機械加工の基礎知識 2) 材料の切り出し 3) 旋盤加工 4) フライス加工 5) 溶接とロウ付け 6) 特殊加工 の内容の基礎的な事項についての講義を行う。 Computer Aided Design (CAD) では、2次元のスケッチについて演習形式でCADを扱えるように講義する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> A. 機械加工を始める前の基礎知識を理解する B. 材料の種類と特徴について説明ができる C. 旋盤を使った加工について理解する D. フライス盤を使った加工について理解する E. 溶接とロウ付けについて理解する F. Numerical Control (NC) 旋盤とマシニングセンタについて理解する G. Fiber Reinforced Plastics (FRP) の加工、接着剤について理解する H. CADソフトのAutoCADで何が出来るのか理解する I. 基本的な部品を作成するための2次元スケッチができる 			
授業方法	前後期に分けて加工学とCADの授業を行う。 加工学の分野は、機械加工について理解を深めるための内容を主に座学で行う。 CADはAutoCADを用いて、演習形式で実践することでCADIに対する基礎的な理解を深める。			
教科書	平田宏一著 「絵解き 機械加工 基礎のきそ」 日刊工業新聞社			
補助教材	阿武芳朗他著 「機械製作法」 朝倉書店 適宜プリントを配布することがある			
評価方法	各期ごとの成績は、その時点までの定期試験の点数の平均点(80%)と課題(20%)で評価する。 ただし、必要に応じて再試験を行い試験点に反映する場合がある。			
関連科目	力学, 材料学, 機構学, 機械加工, 製図, 機械設計, 計算機援用			
準備学習に関するアドバイス	予習は必要ないが、授業で習った基礎的な事項を十分に理解することが重要である。チャンスを見つけて多くの機械を見たり、加工工程を見学する機会を作ることを薦める。 CADでは授業外でも積極的に使用することで「慣れる」ことが重要である。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画, 評価方法の説明, ガイダンスを行う
1.5	加工学	<input type="checkbox"/> 加工の種類, 測定, けがき, ドリル加工について理解する (A)
1.5	材料の種類	<input type="checkbox"/> 鉄鋼材料, アルミニウム合金, 銅合金について理解する (B)
1.5	材料の切り出し	<input type="checkbox"/> 帯鋸盤, 弓鋸盤, 高速切断, ガス切断について理解する (A, B)
1.5	旋盤を使った加工	<input type="checkbox"/> バイトの種類と旋盤加工について理解する (C)
2.25	演習	<input type="checkbox"/> 今まで学んできた内容の演習を行う
0.75	前期中間試験	今まで学んできた内容の試験を行う
1.5	前期中間試験の解説	<input type="checkbox"/> 試験答案を返却し, 解答と解説を行う
1.5	フライス盤を使った加工	<input type="checkbox"/> ドリル, エンドミルを使ったフライス加工について理解する (D)
1.5	溶接とロウ付け	<input type="checkbox"/> アーク溶接, ガス溶接, TIG溶接, ロウ付けについて理解する (E)
1.5	その他の加工	<input type="checkbox"/> FRPの加工, 接着剤について理解する (F, G)
1.5	安全な作業のために	<input type="checkbox"/> 加工中の危険, 安全な機械加工のためについて理解する (A)
2.25	演習	<input type="checkbox"/> 中間からの内容の演習を行う
0.75	前期期末試験	期末までの内容の試験を行う
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験答案を返却し解答と解説を行い不十分な個所の補習を行う
	CAD	
3	CADシステムの基礎知識	<input type="checkbox"/> CADに関する基礎知識について学ぶ (H)
3	AutoCADの基礎	<input type="checkbox"/> AutoCADを使い, AutoCADで何が出来るのかを理解する (H)
3	スケッチの基礎知識	<input type="checkbox"/> 基礎的な部品の2次元スケッチができるようになる (I) 2次元スケッチの作図能力を試験する
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験答案を返却し解答と解説を行う
1.5	後期中間試験の解説	<input type="checkbox"/> 基本的な部品の図面作成ができるようになる (I)
6	図面作成	<input type="checkbox"/> 単位系を指定し, 中級程度の部品が製作できるようになる (I)
3	演習	
0.75	後期期末試験	<input type="checkbox"/> 図面作成能力を試験する
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験答案を返却し解答と解説を行い, 不十分な個所の補習を行う
0.75	1年間のまとめ	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械電子工学実験	ME:機械電子工学科	2年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments of Mechanical & Electronic Engineering	*必修	15		75
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	裁量日以外	kuroki
齋藤 努	機械電子工学科・非常勤講師	318	金曜午後	saitot
稲毛 達朗	機械電子工学科・非常勤講師	318	金曜午後	inage
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-5 ME-7		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	工学実験における基本事項である測定器の使用法やレポート作成、グラフの作成、考え方について学ぶ。また、基本的回路の作り方や法則、現象の確認実験を通じて電気回路、電子素子、電磁気学の理解を深める。さらに機械加工の基礎の一つである溶接・折り曲げ・穴あけを体験する。			
到達目標	<p>A. 指導書の実験内容に従って実験を行い、報告書を提出できる。</p> <p>B. 計測装置、実験機器、電子部品の名称や使い方を学ぶことができる。</p> <p>C. 事実に基づいて自分の行なった内容や結論を表現できる。</p> <p>D. 口頭発表の準備と発表ができる。</p> <p>E. 電気回路の法則、現象を観測・測定及び計算により確認することができる。</p> <p>F. 機械加工について、溶接・折り曲げ・穴あけができる。</p>			
授業方法	第1ラウンドから第4ラウンドまでであり、各々のラウンドには4テーマ実験が用意されている。大きく4つのグループに分かれ、1週で1回ローテーションする。年間では計16テーマのレポートを作成し提出を求める。その他、見学におけるレポート作成、実験内容の発表がある。			
教科書	実験指導書			
補助教材	各実験テーマに対して指導書を配布する			
評価方法	<p>全てのテーマについて実験し、レポート提出することを合格の最低条件とする。ただし期限に遅れた場合は減点対象となる。一方、実験発表時の意欲的な質問と製作課題の動作は加点対象とする。</p> <p>評価項目は以下の3つである。</p> <p>①実験レポートの平均点。ただし、期限に遅れた場合は減点とする。</p> <p>②実験発表(各教員の平均点)</p> <p>③見学レポート</p> <p>④加点対象(製作課題、発表時の質問など)</p> <p>総合評価の算出方法は、 総合評価 = (①×70% + ②×20% + ③×10% + ④) とする。ただし④は10点を超えないものとする。 なお、本科目は学年修了要件科目である。 レポートの未提出がある場合には不可となる。</p>			
関連科目	工学基礎、電子計算機、機械加工			
準備学習に関するアドバイス	実験はチームワークが大切である。各自指導書を充分予習して前レポートを作成の上、実験に臨むように。ただし後半はグループではなく個人作業となるので前半から人に頼り切らないよう注意すること。また前レポートの提出がない場合は実験に取り掛かれないので注意すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方と評価方法が理解できる <input type="checkbox"/> レポートの書き方が理解できる
3	第1ラウンドガイダンス	<input type="checkbox"/> 実験の概要が理解できる
12	第1ラウンド	<input type="checkbox"/> 201 ジュールの法則に関する実験(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 202 交流波形の測定(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 203 電磁力に関する実験(1)(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 204 直流回路に関する実験(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 第1グループ発表(D)
3	実験発表	
3	実験補講日	
3	第2ラウンドガイダンス	<input type="checkbox"/> 実験の概要が理解できる
12	第2ラウンド	<input type="checkbox"/> 205 基本論理回路に関する実験(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 206 整流回路の測定(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 207 電磁力に関する実験(2)(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 208 コンデンサの充放電に関する実験(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 第2グループ発表(D)
3	実験発表	
3	実験補講日、達成度・授業アンケート実施	
3	第3ラウンドガイダンス	<input type="checkbox"/> 実験の概要が理解できる
12	第3ラウンド	<input type="checkbox"/> 209 順序回路に関する実験(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 210 ダイオードの静特性測定(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 211 アーク溶接の実習(A, B, C, F) <input type="checkbox"/> 212 交流回路の基礎実験(1)(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 第3グループ発表(D)
3	実験発表	
3	実験補講日	
3	第4ラウンドガイダンス	<input type="checkbox"/> 実験の概要が理解できる
12	第4ラウンド	<input type="checkbox"/> 213 2石ラジオの製作実習(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 214 AFアンプの製作実習(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 215 機械加工の実習(A, B, C, F) <input type="checkbox"/> 216 交流回路の基礎実験(2)(A, B, C, E) <input type="checkbox"/> 第4グループ発表(D)
3	実験発表	
3	実験補講日、達成度・授業アンケート実施	
3	校外見学	<input type="checkbox"/> 生産現場や研究現場を見学し、見学内容を報告できる(C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
創造演習	ME:機械電子工学科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Practice for Creative Thinking	必修	講義	演習	実験・実習
			45	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
山口 貢	機械電子工学科・助教	301	裁量日以外	yamaguchi.mitsugu
坂口 雅人	機械電子工学科・助教	322	裁量日以外	sakaguchi.masato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
ME-4		D-2	(h)	
授業概要	ものづくりを通して、グループ作業、問題の評価と解決策を科学的に行い、PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを基本に据えた創造活動を体験的に理解することで、今後の専門分野に対する取り組み方や、工学的センスを身に付けることを目標とする。			
到達目標	A. PDCAを意識してものづくりを実行できる。 B. 数値では表せない問題を定量的に表現する技術の概念を身につける。 C. 疑問点に関して解答を生み出すアイデアを発想することができる。 D. 他人と意見交換ができる。 E. 自分の行った作業・結果を記録することができ、他人にわかりやすく説明することができる。			
授業方法	主として実習形態で実施する。PDCAのうち、2年生ではPDCを意識的に実施し、グループ作業も行う。			
教科書				
補助教材	適宜配布する。			
評価方法	前期と後期の2回に分けて評価する。 総合成績はそれらの平均とする。 各区間の評価はPDCサイクルに準拠して、アイデア創出(P)、グループ活動及び活動記録(D)、プレゼンテーション(C)を下記配分で算出する。 ・アイデア創出活動(個人評価)(25%) ・グループ活動の評価(課題の成績)(25%) ・活動記録(振り返りノート)(25%) ・プレゼンテーション(グループ評価)(25%) 作品や報告書が提出できなかった者は不合格となる。 必要に応じて提出物の不備について指導を行う。 また、振り返りノートの提出忘れや未記入は減点される。			
関連科目	工学基礎、表現、電子計算機、機械電子工学実験			
準備学習に関するアドバイス	1年次の創造演習の延長であるが、意識してPDCAサイクル活動につとめること。グループ作業では役割を確実に果たすこと。自発的な行動を要する授業であるので、メリハリある行動で参加すること。振り返りノートを配布するので指示された項目について、十分に振り返って記載を行うこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5 3 15	ガイダンス 課題: エンジニアリングデザイン 課題: レゴロボグランプリ(前半)	<input type="checkbox"/> 授業の進め方と評価方法が理解できる <input type="checkbox"/> アイスブレイクとアイデア発想(B, C, D) <input type="checkbox"/> 課題1: 規定距離走行(A, C, D) <input type="checkbox"/> 課題2: ライトレース(A, C, D) <input type="checkbox"/> 課題3: スラローム(A, C, D) <input type="checkbox"/> 課題4: 障害物競走(A, C, D) <input type="checkbox"/> グループ発表(E)
1.5 10.5	達成度アンケート・授業評価実施 課題: レゴロボグランプリ(後半)	<input type="checkbox"/> 課題5: 迷路脱出(A, C, D) <input type="checkbox"/> グループ発表(E)
1.5	課題: 最適解を考える	<input type="checkbox"/> 道具の使い方(C) <input type="checkbox"/> アイデア発想(C)
7.5	課題: 生産管理演習	<input type="checkbox"/> 生産管理の基礎(A, B) <input type="checkbox"/> 合意形成(C, D) <input type="checkbox"/> 工程の標準化と実践(A, E) <input type="checkbox"/> グループ発表(E)
1.5 3	達成度アンケート・授業評価実施 校外研修	<input type="checkbox"/> 総合演習(B, C, D, E)
合計 45 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路 I	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits 1	必修	講義	演習	実験・実習
30	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日以外の平日	tomita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3	B-2	(d) (1)		
授業概要	交流回路の基礎となる正弦波交流について、その性質と取り扱いを学習する。			
到達目標	A. 交流の基礎を理解できる。 B. 交流の性質を理解できる。 C. 受動素子の働きを説明できる。 D. 各素子の直並列接続回路の計算ができる。 E. 交流電力を計算できる。 F. 複素数を用いた回路計算ができる。 G. 共振回路の性質を理解できる。			
授業方法	基本的に座学で講義する。講義内容確認のために課題および演習を実施する。			
教科書	「基礎からの交流理論」小亀 英己, 石亀 篤司, 小郷 寛, 電気学会			
補助教材	なし			
評価方法	評価項目は以下の3つである。 ①定期試験の平均点 ②課題レポートの平均点(遅延は50%評価、未提出は0%) ③授業時に実施する演習課題の平均点 総合評価の算出方法は、 総合評価 = (①×60%+②×20%+③×20%) とする。 必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その点数の反映は合格を満たす点数を上限とする。 ②の課題提出は6回以上の出題に対し、5回以上の提出を義務づける。4回以下の場合、足りない回数文を0点として平均点を算出する。また、遅れて提出した者はその遅れに応じて減点するので注意すること。			
関連科目	工学基礎、工学実験			
準備学習に関するアドバイス	三角関数および、ベクトルを用いた計算が多用される。また、知識の積み上げが重要であることから、予習・復習によって、つねに学んだことを整理していくことを進める。また、講義には関数電卓を持参すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方と評価方法が理解できる
3	複素数	<input type="checkbox"/> 複素平面とオイラーの公式(F) <input type="checkbox"/> 直角座標表示と極座標表示(F)
3	正弦波	<input type="checkbox"/> 正弦波の波形(A) <input type="checkbox"/> 正弦波の瞬時値と位相差(B) <input type="checkbox"/> 交流における受動素子(C) <input type="checkbox"/> 回路計算の演習(D, F)
1.5	受動素子	
1.5	回路演習(1)	
0.75	前期中間試験(演習)	
0.75	試験答案返却・試験解説	
2.25	フェーザとインピーダンス	<input type="checkbox"/> 正弦波の瞬時値とフェーザズ(A, B) <input type="checkbox"/> インピーダンスとリアクタンス(C)
4.5	2素子の直列回路	<input type="checkbox"/> RL直列回路(D, F) <input type="checkbox"/> RC直列回路(D, F) <input type="checkbox"/> LC直列回路(D, F) <input type="checkbox"/> 回路計算の演習(D, F)
1.5	回路演習(2)	
0.75	後期期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	達成度アンケート・授業評価実施	
1.5	RLC直列回路	<input type="checkbox"/> RLC直列回路(D, F)
1.5	並列回路	<input type="checkbox"/> 並列回路とアドミタンス計算(D, F)
1.5	直並列回路	<input type="checkbox"/> 直並列回路(D)
3	共振回路	<input type="checkbox"/> 直列共振回路(G) <input type="checkbox"/> 並列共振回路(G) <input type="checkbox"/> 交流回路の諸定理の演習(D, F)
3	回路演習(3)	
0.75	後期中間試験(演習)	
0.75	試験答案返却・試験解説	
2.25	交流電力	<input type="checkbox"/> 有効電力、無効電力、皮相電力(E) <input type="checkbox"/> 複素電力と供給電力最大条件(E) <input type="checkbox"/> 自己インダクタンスと相互インダクタンス(C) <input type="checkbox"/> 等価変換と理想変圧器(C)
3	相互誘導回路	<input type="checkbox"/> 交流ブリッジ回路(D) <input type="checkbox"/> 回路計算の演習(D, F)
1.5	交流ブリッジ回路	
1.5	回路演習(4)	
0.75	後期期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	達成度アンケート・授業評価実施	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気磁気 I	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electromagnetics 1	必修	講義	演習	実験・実習
30	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日を除く	yoshino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	電磁気学は、電気・電子工学を学ぶ際の基礎科目であり極めて重要である。本科目は、電磁気学の導入講座として物理現象を体感的に理解することを目的とする。さらに、演習・課題を通して理解を深める。			
到達目標	A. 直流の電気回路に関する物理現象を理解し、各種法則を利用できる。 B. 静電気(静電誘導・電束・コンデンサ)に関する物理現象を理解し、各種法則を利用できる。 C. 磁気(磁石・磁界・磁束・電磁誘導・コイル)に関する物理現象を理解し、各種法則を利用できる。 D. 磁気回路に関する物理現象を理解し、各種法則を利用できる。			
授業方法	座学を主体として講義を進める。授業中適宜演習問題を出題し、レポートで提出を求める場合と黒板へ出て解いてもらう場合の2通りある。講義の一部はディスカッション方式で学生と対話しながら講義を進める場合もある。			
教科書	「電磁気学の基礎と演習」吉野純一著 (コロナ社)			
補助教材	なし			
評価方法	各区間の評価方法は、試験(70%)＋授業内(課題、レポート、演習加点、授業態度)(30%)とする。総合評価は各区間の評点(100点満点)の単純平均とする。最終的な成績評価は、総合80点以上で「優」、70点以上で「良」、60点以上で「可」とする。通常のレポート、課題の提出状況、授業態度等の取り組み状況を鑑みて、再試験を実施する場合がある。			
関連科目	電気回路、電子回路、電子材料、電子デバイス、通信工学、アンテナ工学、工業材料、物理			
準備学習に関するアドバイス	提出物は必ず所定の様式で期日を厳守して提出すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法を理解できる。
3	静電気	<input type="checkbox"/> クーロンの法則、静電誘導を理解できる。(A)、(B)
3	電界、電位と電位差	<input type="checkbox"/> 電界、電位、電界の強さと電位の傾きを理解できる。(B)
3	電気力線・電束と電束密度	<input type="checkbox"/> 電気力線、電束と電束密度を理解できる。(B)
3	ガウスの定理	<input type="checkbox"/> ガウスの定理を理解できる。(B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間区間における理解の確認ができる。(A)
3.5	コンデンサ	<input type="checkbox"/> 静電容量、コンデンサの接続法を理解できる。(B)
3.25	誘電体	<input type="checkbox"/> 誘電率と比誘電率、誘電体の分極を理解できる。(B)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末区間における理解の確認ができる。(B)
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 前期区間における理解不足箇所を把握し、補充できる。(B)
1.5	磁気	<input type="checkbox"/> 磁極、磁気に関するクーロンの法則を理解できる。(C)
1.5	磁界 I	<input type="checkbox"/> 磁力線、右ねじの法則、周回路の法則を理解できる。(C)
1.5	磁界 II	<input type="checkbox"/> ビオ・サバールの法則、コイルの磁界を理解できる。(C)
1.5	磁位と磁位差	<input type="checkbox"/> 磁位、磁位差を理解できる。(C)
1.5	磁束と磁束密度	<input type="checkbox"/> 磁束、磁束密度を理解できる。(C)
1.5	磁気モーメントと磁化線	<input type="checkbox"/> 磁気モーメント、磁化線、B-H曲線を理解できる。(C)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間区間における理解の確認ができる。(C)
1.5	電磁誘導 I	<input type="checkbox"/> 電磁誘導、レンツの法則、フレミングの右手の法則を理解できる。(C)
1.5	電磁誘導 II	<input type="checkbox"/> 誘導起電力、フレミングの左手の法則、電磁力を理解できる。(C)
1.5	コイル I	<input type="checkbox"/> 相互、自己インダクタンス、誘導起電力を理解できる。(C)
1.5	コイル II	<input type="checkbox"/> Lの計算、電磁エネルギー、結合係数を理解できる。(C)
1.5	磁気回路 I	<input type="checkbox"/> 磁気に関するオームの法則を理解できる。(D)
1.5	磁気回路 II	<input type="checkbox"/> 磁気に関するキルヒホッフの法則を理解できる。(D)
1.5	磁気抵抗	<input type="checkbox"/> 磁気抵抗の合成、磁位差と起磁力、漏れ磁束を理解できる。(D)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末区間における理解の確認ができる。(D)
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 後期区間における理解不足箇所を把握し、補充できる。(C, D)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
アルゴリズム理論	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction of Algorithm	必修	31.5	13.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	本授業では アルゴリズムの概念を理解し、効率よく問題を解決する方法を学ぶ。またアルゴリズムをプログラムに実装して検証を行う。アルゴリズムを表現する手段の一つとして、フローチャートを取扱い、アルゴリズムを文書化していく方法も学ぶ。			
到達目標	A. フローチャートでアルゴリズムが表現できる B. アルゴリズムの計算量を理解できる。 C. 簡単なアルゴリズムを自分でトレースできる。 D. アルゴリズムをC言語でプログラミングし、実行できる E. サーチアルゴリズム(線形探索、二分探索)が理解できる F. ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、クイックソート、マージソート)が理解できる。			
授業方法	講義と演習にて実施する			
教科書	なし			
補助教材	Javaデータ構造とアルゴリズム基礎講座 長尾和彦著 技術評論社, データ構造とアルゴリズム 五十嵐健夫著 数理工学社			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を4区間に分割して評価を行う。 ・各区間の評価方法は、割合は演習課題30%、試験70%で評価。 試験の評価は、その時点で行われた試験の算術平均×0.7で計算、演習課題の評価は、当該区間に行われた演習課題を30点満点で評価する。 計算方法は 前期中間：前期中間試験の点×0.7+前期中間試験までの課題点(30点満点) 前期期末：前期中間試験と前期末試験の算術平均×0.7+中間試験以降期末試験までの課題点(30点満点) 後期中間：前期中間試験・前期末試験・後期中間試験の算術平均×0.7+後期開始から中間試験までの課題点(30点満点) 後期期末：前期中間・期末・後期中間・期末試験の算術平均×0.7+後期中間以降から期末試験までの課題点(30点満点) 			
関連科目	電子計算機・基礎数学・数値解析			
準備学習に関するアドバイス	演習やプログラミング課題は、授業時間だけではなく、PCルームを使用して完成させてください。時間内に完成する場合でも、復習を別途行うことを特にプログラミングでは勧めます。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法 プログラムの書き方・開発環境について
9	アルゴリズムと計算量	<input type="checkbox"/> アルゴリズムとは何か(A) <input type="checkbox"/> 構造とフローチャート(A) <input type="checkbox"/> 計算量の評価(B)
0.75	中間試験	
0.75	試験解説	前期前半の総まとめ
9	アルゴリズムのプログラム化	<input type="checkbox"/> C言語の基本(D) <input type="checkbox"/> 順次処理のプログラミング(D) <input type="checkbox"/> 分岐処理のあるプログラミング(D) <input type="checkbox"/> 反復処理のあるプログラミング(D)
0.75	期末試験	
0.75	試験解説、前期総まとめ、個別指導	前期後半の総まとめ、個別指導
1.5	前期復習およびアルゴリズムの種類	<input type="checkbox"/> カブツ法(C) <input type="checkbox"/> 分割統治法(C)
9	サーチ	<input type="checkbox"/> 線形探索(C, D, E) <input type="checkbox"/> 二分探索(C, E)
0.75	中間試験	
0.75	試験解説	後期前半の総まとめ
8.25	ソート	<input type="checkbox"/> バブルソート(C, D, F) <input type="checkbox"/> 選択ソート(C, D, F) <input type="checkbox"/> 挿入ソート(C, D, F) <input type="checkbox"/> クイックソート(C, F) <input type="checkbox"/> マージソート(C, F)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説、総まとめ、個別指導	総まとめ、個別指導
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
通信工学	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Communication Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
42	3			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	通信システムの基本構成、信号変換、主要構成要素である伝送路に関する基本理論と要素技術を習得するとともに、その役割を理解する。また、無線電話装置、レーダー及び衛星通信装置の理論、構造、機能を紹介する。			
到達目標	A. 有線通信システムの概要が理解できる B. 無線通信システムの概要が理解できる C. アナログ変調方式の概要が理解できる D. デジタル変調方式の概要が理解できる E. 通信伝送理論の基礎が理解できる F. 周波数、波長、光速の関係がわかる			
授業方法	基本的に座学で講義する。講義内容確認のために課題及び演習を実施する。			
教科書	「無線通信工学の基礎と演習」 吉野純一編著、コロナ社			
補助教材				
評価方法	評価項目は以下の3つである。 ① 定期試験の平均点 ② 課題レポートの平均点(遅延は50%評価、未提出は0%評価) ③ 授業時に実施する演習課題の平均点 総合評価の算出方法は、 総合評価 = (①×60%+②×20%+③×20%) とする。 ③の課題提出は6回以上の出題に対し、5回以上の提出を義務付ける。4回未満の場合は足りない回数分を0点として平均点を算出する。また、遅れて提出した者はその遅れに応じて減点するので注意すること。			
関連科目	電子回路、信号処理、電気通信法規			
準備学習に関するアドバイス	三角関数および対数を用いた計算が多用されるので、予習・復習しておくこと。また講義時には関数電卓を持参すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方と評価方法が理解できる
4.5	通信系のモデルと伝送理論の基礎	<input type="checkbox"/> 通信系のモデル(A, B, E) <input type="checkbox"/> 伝送単位と伝送量(E) <input type="checkbox"/> レベルダイアグラムと通信妨害(E) <input type="checkbox"/> フィルタとアンプ(A, B, E)
4.5	有線通信技術の基礎	<input type="checkbox"/> データ伝送方式(A) <input type="checkbox"/> 伝送制御と誤り制御(A) <input type="checkbox"/> PCMと階層モデル(A)
0.75	前期中間試験(演習)	
0.75	試験答案返却・試験解説	
3.75	無線通信技術の基礎	<input type="checkbox"/> 電波と伝搬環境(F) <input type="checkbox"/> 電波伝搬(E, F)
4.5	アナログ変調方式	<input type="checkbox"/> AM, FM, PMの基礎(C) <input type="checkbox"/> 送受信機の構成(C)
0.75	前期期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	達成度アンケート・授業評価実施	
6	デジタル変調方式	<input type="checkbox"/> デジタル通信システム(D) <input type="checkbox"/> ASK, FSK, PSKの基礎(D) <input type="checkbox"/> BERとSN比(D, E) <input type="checkbox"/> TDMA, FDMA, CDMA(D)
4.5	通信路の多重化	
0.75	後期中間試験(演習)	
0.75	試験答案返却・試験解説	
8.25	無線通信の応用	<input type="checkbox"/> 無線通信システム(B) <input type="checkbox"/> 携帯電話とPHSの概要(B) <input type="checkbox"/> 衛星通信の概要(B) <input type="checkbox"/> レーダーの原理と概要(B) <input type="checkbox"/> 電波航法システムの概要(B)
0.75	後期期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	達成度アンケート・授業評価実施	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
工業材料	ME: 機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Industrial Materials	必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 聖隆	機械電子工学科・非常勤講師			kato.kiyotaka
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	工業製品に使用される構造材料および機能材料について、基本的性質と具体的な使用例についての解説を行う。			
到達目標	<p>A. 各種材料の化学的・物理的性質を理解した上で分類することができる。</p> <p>B. 機械的構造材料の機能と各種測定方法について説明できる。</p> <p>C. 電気・磁気的機能材料の働きと用途を示すことができる。</p> <p>D. 金属・高分子・セラミックス材料の特徴と機能発現について説明できる。</p>			
授業方法	講義を中心とする			
教科書	材料科学・材料工学-基礎から応用まで- JAMES NEWELL (滝澤、関野、林訳) 東京化学同人			
補助教材	プリント等			
評価方法	<p>評価項目は以下の2つである。</p> <p>(1) 定期試験の点数</p> <p>(2) 課題レポートの平均点 (未提出は0%評価)</p> <p>総合評価の算出方法は、 総合評価 = ((1) × 70% + (2) × 30%) とする。 必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その場合の総合評価は合格を満たす点数を上限とする。</p>			
関連科目	物理、化学、電気磁気学、数学			
準備学習に関するアドバイス	講義中のノートをしっかり取り、復習を心がけること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1	授業ガイダンスおよび評価方法の説明	
2	工業材料の用途と特性	<input type="checkbox"/> 各種工業材料の用途と特性について述べるができる (A)
2	工業材料の分類	<input type="checkbox"/> 各種工業材料を分類することができる (A)
3	物質中の化学結合	<input type="checkbox"/> 様々な化学結合の性質について述べるができる (A)
3	金属とセラミックスの結晶構造	<input type="checkbox"/> 結晶性物質の特徴について述べるができる (A)
2	結晶格子欠陥	<input type="checkbox"/> 各種格子欠陥の特徴を述べるができる (A)
2	結晶の生成と成長	<input type="checkbox"/> 結晶成長について述べるができる (A)
0.75	前期中間試験	
3	機械的性質の測定	<input type="checkbox"/> 引張、圧縮、曲げ、硬さ試験について説明できる (A) (B)
6	電磁気的性質の測定	<input type="checkbox"/> 抵抗率、ホール効果、光透過率・反射率・吸収率について説明できる (A) (C)
0.75	前期期末試験	
2	金属材料	<input type="checkbox"/> 金属材料の加工法について述べるができる (A) (B) (D) <input type="checkbox"/> 合金と状態図について述べるができる (A) (B) (D) <input type="checkbox"/> アルミニウムとその合金について説明できる (A) (B) (D) <input type="checkbox"/> 金属材料のリサイクルについて述べるができる (A) (B) (D)
2	高分子材料	<input type="checkbox"/> ポリマーの定義と種類について述べるができる (A) (D)
6	セラミックス材料	<input type="checkbox"/> セラミックス材料の分類について述べるができる (A) (C) (D) <input type="checkbox"/> セラミックス材料の合成方法について説明できる (A) (D) <input type="checkbox"/> セラミックス材料のリサイクルに関して説明できる (A) (D)
0.75	後期中間試験	
8	電子および光学材料	<input type="checkbox"/> 電子材料を分類できる (A) (C) (D) <input type="checkbox"/> 誘電体について説明できる (C) <input type="checkbox"/> 光学材料の性質とその応用について述べるができる (A) (C)
0.75	後期期末試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算機援用設計	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Computer-aided design	必修	講義	演習	実験・実習
		4.5	40.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
稲毛 達朗	機械電子工学科・非常勤講師	301	金曜日放課後	inage
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	裁量日以外	kuroki
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
ME-3 ME-5		B-2	(d) (1)	
授業概要	設計・開発の現場ではコンピュータによる援用システムは必須となった。本授業では、機械系CAD「Inventor」をはじめとする複合分野における援用システムを演習形式によって学習することで設計・開発についての基礎を教授する。			
到達目標	<p>A. AutoCADの基本的な操作ができる。</p> <p>B. CAD利用技術者試験2級を受験することができる。</p> <p>C. 基本的なデータ処理ができる。</p> <p>D. 基本的な結晶構造の理解を深める。</p> <p>E. 論理回路について理解を深める。</p>			
授業方法	実際にPCを操作して技術を会得する演習を中心に実施していく。 前期を機械系CADとし、後期中間区間ではデータ処理および結晶格子について学び、後期末区間ではFPGAについて授業を行う。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	1年間を2区間に分け、前期末・学年末で評価する。 総合評価は2回の評価の単純平均とする。 各区間の評価方法は、区間における全ての課題を提出することを合格の最低条件とする。 提出課題(提出期限:課題内容)(50%:50%)にて評価する。			
関連科目	製図(1年)、工学基礎(1年)、機械電子工学実験、電気回路I/II、電子回路、工業材料			
準備学習に関するアドバイス	演習中心であるが、操作だけに注力せずに理論的な面からも理解すること。分からないことは積極的に質問し、操作方法についてはとにかく練習して身につけること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	シラバスの配布, 説明
10.5	二次元機械系CADの演習	Inventorを用いた演習(A)
12	三次元機械系CADの実習	Inventorを用いた演習(A),(B)
1.5	授業概要の説明	
4.5	近似計算方法について	データ処理に関する演習(C)
4.5	結晶構造のモデリングについて	結晶構造の基礎について, モデリングソフトを使用した演習(D)
1.5	授業概要の説明	
9	電子回路に関する応用	FPGAを用いた演習(E)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械電子工学実験	ME:機械電子工学科	3年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments of Mechanical & Electronic Engineering	*必修	0	0	90
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304・318	火曜日以外	yoshino
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	火曜日以外	yonemori
山口 貢	機械電子工学科・助教	301	金曜日以外	yamaguchi.mitsugu
坂口 雅人	機械電子工学科・助教	322	金曜日以外	sakaguchi.masato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-5 ME-7		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	機械・電子工学を学ぶ上で基礎となる回路実験、半導体デバイス測定、マイコン技術、通信実験、電機実験、力学、機械加工など幅広い分野について、実験を通じて理解を深める。			
到達目標	<p>A. 指導書に従い回路や装置を組み立て、自ら実験できる。</p> <p>B. 得られた結果を考察を含めて報告することができる。</p> <p>C. 自身で調べた内容を他人に分かるようにプレゼンテーションすることができる。</p>			
授業方法	クラスを4グループに分け、各分野を担当する4人の担当教員のもとで実験を行う。実験終了後にはレポートを期日までに提出し、内容について担当教員の指導を受ける。また、実験テーマに沿った実験発表を行う。			
教科書	「実験指導書」(サレジオ高専)			
補助教材	各教員が配布する補助プリント、および各テーマが属する分野の教科書等			
評価方法	<p>すべてのテーマについて実験の実施と共にレポート提出(含工場見学)が合格の最低条件となる。また、テーマを決めて実験発表(プレゼンテーション)を1回行う。最終評価は、提出するレポート点80%+プレゼンテーション点20%として、担当教員4人の平均点をもって総合評価とする。なお、発表時の質問は回数に応じて総合評価に加点する。</p> <p>※報告書などの未提出や実験発表をしていない場合は不合格となる。</p> <p>※本科目は学年修了要件科目である。</p>			
関連科目	工学基礎、電気回路、電子回路、半導体デバイス、創造演習			
準備学習に関するアドバイス	常に他人に報告できることを念頭に実験に挑み、疑問点についてはその場で解決するように努めることが望ましい。実験終了後は速やかにデータ整理を行って理解を深めておくことが重要である。座学で習う科目との関連に気づけば、一生忘れない技術を習得したことになる。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法、本授業の達成目標を理解する。
36	【第1ラウンド】 自律制御ロボット「落ちない君」の製作(担当:米盛) 回路に関する実験(担当:吉野) 測定に関する実験(担当:山口) 力学に関する実験(担当:坂口)	<input type="checkbox"/> 基板のエッチング、部品のはんだ付け、制御プログラムを理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> 電位降下法、最大電力伝達、直並列共振回路を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> マイクロメータ、旋盤加工を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> 熱力学、流体力学、材料力学を理解する(A, B)
12	【第2ラウンド】 電機に関する実験(担当:米盛) 半導体デバイスに関する実験(担当:吉野) NC加工に関する実験(担当:山口) 材料に関する実験(担当:坂口)	<input type="checkbox"/> 小型DCモータの特性を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> トランジスタの静特性測定を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> CAD/CAMを理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> 硬さ試験を理解する。(A, B)
12	【第3ラウンド】 ソーラーパネルに関する実験(担当:米盛) 通信に関する実験(担当:吉野) 仕上げ加工に関する実験(担当:山口) 機械要素に関する実験(担当:坂口)	<input type="checkbox"/> ソーラーパネルの特性を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> レーダーの原理を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> 仕上げ加工を理解する。(A, B) <input type="checkbox"/> 歯車の伝達を理解できる。(A, B)
9	レポート指導、発表準備、発表	<input type="checkbox"/> レポート指導、必要に応じて再実験、発表用資料の作成を行う。(A, B, C)
12	実験発表(4回)	<input type="checkbox"/> 自分の行った実験に関わるテーマで発表を行う。(B, C)
3	卒業研究聴講	<input type="checkbox"/> 卒業研究を聴講し、将来の自分の卒業研究選択に生かす。(B)
3	見学	<input type="checkbox"/> 企業等の見学によりキャリアを向上する。(B)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
創造演習	ME:機械電子工学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Practice for Creative Thinking	必修	講義	演習	実験・実習
22.5		22.5		0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	放課後	yonemor i
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-2 ME-3 ME-4 ME-5 ME-7		B-3 D-2		(d) (1) (d) (3) (h) (i)
授業概要	【製作】機械電子工学実験とタイアップして自律制御ロボット「落ちない君」の製作を行う。単純に製作するだけではなく、PDCAサイクルを意識して座学-製作-動作確認-動作改善の実習を行う。【座学】品質管理(QC)やQCに用いられる科学的手法を理解する。			
到達目標	A. PDCAを意識して“ものづくり”ができる。 B. 製作物の各要素について動作を説明できる。 C. 今以上に知識が欲しいと感じることができる。 D. 指示された作業を制約条件を意識して計画通りに行動できる。 E. 過去に学んだ経験や知識を発展させることができる。 F. 問題を分析し、仮説を立てて検討することができる。 G. アイディアを発想し、適切に取捨選択できる。 H. 品質管理の基本を説明できる。 I. 解析手法の基本を説明できる。 J. 製品作りの姿勢の基本を説明できる。 K. 安全衛生活動の基本を説明できる。			
授業方法	【製作】製作に必要な知識を教授してから各自で製作を行う。製作後は、各自で動作チェック⇒不良箇所の修正⇒試走⇒動作改善等を行う。【座学】座学を中心として品質管理に関する知識を教授する。前期後期共に振り返りノートを作成し、毎回の授業で理解したこと、作業内容をまとめる。			
教科書	【製作】「実験指導書」(サレジオ高専)、自作プリント、【座学】(一財)日本規格協会:「品質管理検定(QC検定)4級の手引き」			
補助教材	【製作】電子部品・PIC・メカトロニクス関連書籍、【座学】品質管理検定をキーワードにした参考書			
評価方法	【製作】試験(50%)+作品・課題達成度(40%)+試合結果(10%)で評価を行う。 【座学】試験(70%)+課題達成度(30%)とする。 【総合評価】学年末評価は前期末評価と後期末評価の単純平均とする。			
関連科目	工学基礎、機械電子工学実験、創造演習、電気回路、電子回路、表現、電子計算機、機械加工			
準備学習に関するアドバイス	製作時間は個人差があるのでスケジュールから遅延しそうなときは授業時間だけでなく放課後等を活用して自主的に作業を行うこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	総合ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間スケジュールを理解できる。
0.75	落ちない君のブロック図	<input type="checkbox"/> 落ちない君の製作手順を理解できる。(C, E)
1.5	各基板の設計・動作説明①	<input type="checkbox"/> 位置センサと色センサ、電源回路を理解できる。(B, E)
1.5	各基板の設計・動作説明②	<input type="checkbox"/> 駆動回路とギヤ比を理解できる。(B, E)
1.5	ギヤBOX組み立て	<input type="checkbox"/> ギヤBOXの組み立てができる。(A, B, D, E)
1.5	接続ケーブル製作	<input type="checkbox"/> 各自で端子の圧着作業ができる。(A, D, E)
1.5	動作パターン製作	<input type="checkbox"/> ワークシートを使用して動作パターンを作成できる。(A, D, E)
1.5	PICマイコンの説明	<input type="checkbox"/> Wレジスタ、ファイルレジスタを理解できる。(B, E)
1.5	基本プログラムの説明	<input type="checkbox"/> 各自で書き換える箇所を理解できる。(B, E)
1.5	各基板の動作チェックと特性測定①	<input type="checkbox"/> 位置センサの動作確認ができ、報告書が書ける。(B, D, E)
1.5	各基板の動作チェックと特性測定②	<input type="checkbox"/> 色センサの動作確認ができ、報告書が書ける。(B, D, E)
1.5	各基板の動作チェックと特性測定③	<input type="checkbox"/> 駆動・電源回路の動作確認ができ、報告書が書ける。(B, D, E)
1.5	ロボットの組み立て	<input type="checkbox"/> ギヤBOXと各基板を配線できる。(A, B, D, E)
1.5	ロボットの動作チェック	<input type="checkbox"/> 配線後、試走・回路修理ができる。(A)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期区間における理解の確認ができる。(B)
0.75	試験解答	<input type="checkbox"/> 前期区間における理解不足箇所を把握し、補充できる。(B, C)
0.75	ロボットの動作チェック	<input type="checkbox"/> 試走・回路修理ができる。(A, C, E, F)
1.5	試走・改良①	<input type="checkbox"/> 回路調整、PICのプログラム修正ができる。(A, C, E, F, G)
1.5	試走・改良②	<input type="checkbox"/> 回路調整、PICのプログラム修正ができる。(A, C, E, F, G)
1.5	試走・改良③	<input type="checkbox"/> 回路調整、PICのプログラム修正ができる。(A, C, E, F, G)
1.5	試走・改良④	<input type="checkbox"/> 回路調整、PICのプログラム修正ができる。(A, C, E, F, G)
1.5	予選リーグ大会①(前半戦)	<input type="checkbox"/> Aリーグを実施し、成果を発揮できる。(C, F)
1.5	予選リーグ大会②(後半戦)	<input type="checkbox"/> Bリーグを実施し、成果を発揮できる。(C, F)
1.5	本戦・敗者復活戦:育英祭イベント 【課題】製作のまとめ	<input type="checkbox"/> 本戦+敗者復活3位決定戦を実施し、成果を発揮できる。(C, F) <input type="checkbox"/> 総合報告書を作成し、達成度を確認できる。(A, B, C, D, E, F)
1.5	QC的問題解決	<input type="checkbox"/> 品質、品質管理、品質優先の考え方を理解できる。(H)
1.5	管理活動、仕事の進め方	<input type="checkbox"/> 維持活動、改善活動、仕事の進め方を理解できる。(H)
1.5	重点指向、標準化	<input type="checkbox"/> 改善とQCストーリー、重点指向、標準化、検査を理解できる。(H)
1.5	工程、データ解析	<input type="checkbox"/> 工程、事実とデータに基づく判断を理解できる。(H, I)
1.5	QC7つ道具	<input type="checkbox"/> バラート図、特性要因図、ヒストグラム、グラフ、チェックシート、散布、管理図、層別を理解できる。(I)
1.5	製品づくりの心構え	<input type="checkbox"/> ほうれんそう、5WIH、三現主義、5ゲン主義、マナー、5Sを理解できる。(J)
1.5	安全衛生活動(1)	<input type="checkbox"/> 安全衛生を理解できる。(K)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 後期区間における理解の確認ができる。(H, I, J, K)
0.3	試験解答	<input type="checkbox"/> 後期区間の理解不足箇所を把握し、補充できる。(H, I, J, K)
1.2	安全衛生活動(2)	<input type="checkbox"/> 安全衛生活動を実行できる。(K)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路Ⅱ	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits 2	必修	講義	演習	実験・実習
36	9			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応		
ME-3	B-2	(d) (1)		
授業概要	電気・電子工学の基礎としての電気回路解析手法について講義する			
到達目標	A. 三相交流回路の基礎的問題を解くことができる B. 回路理論の諸定理を利用して線形回路網を解くことができる C. 4端子パラメータを用いた基礎的計算を行うことができる D. 線形回路の過渡現象を解くことができる E. 歪波交流の基礎について理解することができる			
授業方法	基本的に座学で講義する。講義内容確認のために課題及び演習を実施する。			
教科書	「続 電気回路の基礎と演習」 吉野純一編著、コロナ社			
補助教材				
評価方法	評価項目は以下の3つである。 ① 定期試験の平均点 ② 課題レポートの平均点 (遅延は50%評価、未提出は0%評価) ③ 授業時に実施する演習課題の平均点 総合評価の算出方法は、 総合評価 = (①×60%+②×20%+③×20%) とする。 ③の課題提出は6回以上の出題に対し、5回以上の提出を義務付ける。4回未満の場合は足りない回数分を0点として平均点を算出する。また、遅れて提出した者はその遅れに応じて減点するので注意すること。			
関連科目	工学基礎、電気回路Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	三角関数および対数を用いた計算が多用されるので、予習・復習しておくこと。また講義時には関数電卓を持参すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方と評価方法が理解できる
6	三相交流	<input type="checkbox"/> 三相交流の概要 (A) <input type="checkbox"/> 電源と負荷の接続 (A) <input type="checkbox"/> 三相交流電力 (A) <input type="checkbox"/> 電圧源と電流源 (B) <input type="checkbox"/> 重ねの理による回路解析 (B)
1.5	電圧源と電流源	
1.5	重ねの理	
0.75	前期中間試験 (演習)	
0.75	試験答案返却・試験解説	
2.25	閉路解析法と接点解析法	<input type="checkbox"/> 回路方程式からの回路解析 (B) <input type="checkbox"/> 回路解析の演習 (B)
1.5	回路演習 (1)	<input type="checkbox"/> 鳳・テブナンの定理 (B) <input type="checkbox"/> ノーソンの定理 (B) <input type="checkbox"/> 最大電力供給の定理 (B) <input type="checkbox"/> 回路解析の演習 (B)
3	等価回路	
1.5	回路演習 (2)	
0.75	後期期末試験 (演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	達成度アンケート・授業評価実施	
6	四端子回路網	<input type="checkbox"/> Fパラメータと継続接続 (C) <input type="checkbox"/> Yパラメータと並列接続 (C) <input type="checkbox"/> Zパラメータと直列接続 (C) <input type="checkbox"/> hパラメータと等価変換 (C) <input type="checkbox"/> RL直列回路 (D) <input type="checkbox"/> RC直列回路 (D) <input type="checkbox"/> RLC直列回路 (D)
4.5	微分方程式を用いた過渡解析	
0.75	後期中間試験 (演習)	
0.75	試験答案返却・試験解説	
3.75	ラプラス変換を用いた過渡解析	<input type="checkbox"/> ラプラス変換の基礎 (D) <input type="checkbox"/> 逆ラプラス変換の基礎 (D) <input type="checkbox"/> 回路解析への応用 (D)
4.5	ひずみ波交流	<input type="checkbox"/> 周期関数の表現 (E) <input type="checkbox"/> 繰り返し周期波形の周波数解析 (E)
0.75	後期期末試験 (演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	達成度アンケート・授業評価実施	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
アナログ電子回路	ME・機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analog electronic circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	放課後	yonemor i
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	多くの電子機器に利用されている代表的な電子回路について、回路構成や動作原理、解析手法を教授する。また、簡単な電子回路について諸計算をすることで回路を設計させる。さらに、設計例や実用回路例を多く取り上げて、ものづくりに必要な基本的概念や資質を高める。			
到達目標	<p>A. 電子回路で使用する素子を理解できる。</p> <p>B. 代表的な電子回路の動作原理を理解できる。</p> <p>C. 簡単な電子回路を設計できる。</p> <p>D. 適当な参考書を参照しながら自らのアイデアのもとに回路設計ができる。</p>			
授業方法	座学を中心として講義を進める。補助教材として自作プリントを適宜配布する。配布するプリントは、補助的内容の他に実用的な回路とその波形を示し、回路動作を体感的に理解させるものである。さらに、講義で取り上げる素子を実際に見せることで回路に対する興味・好奇心を高める。			
教科書	「入門 電子回路 アナログ編」 家村道雄 監修 (オーム社)			
補助教材	「アナログ電子回路」 大類重範 著 (日本理工出版会)、自作プリント			
評価方法	各区間の評価方法は、試験(70%)+課題・レポート(30%)とする。総合評価は、各区間の評点(100点満点)の単純平均とする。			
関連科目	電気回路、電気磁気、半導体デバイス			
準備学習に関するアドバイス	基本的な素子の特徴を把握すると回路動作の理解がしやすい。部品数が多い回路でも、案外簡単に理解できるので怯まずに取り組んで欲しい。実際に使える回路例を多く示すので、興味のある学生は自作してみると面白いだろう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法を理解できる。
0.75	ダイオードの特性	<input type="checkbox"/> ダイオードの特性曲線、負荷線を理解できる。(A, B)
1.5	ダイオード回路	<input type="checkbox"/> ダイオード回路、波形操作回路を理解できる。(A, C)
1.5	増幅回路の基礎	<input type="checkbox"/> 増幅度とデシベル、Trの種類と動作原理を理解できる。(A, B)
1.5	トランジスタの増幅作用	<input type="checkbox"/> トランジスタの接地方式と増幅作用を理解できる。(B)
1.5	バイアス回路と安定指数	<input type="checkbox"/> 各種バイアス回路、温度変化と安定指数を理解できる。(B)
1.5	等価回路と負荷線	<input type="checkbox"/> 増幅回路の等価回路、直流・交流の負荷線を理解できる。(B, C)
1.5	hパラメータ	<input type="checkbox"/> hパラメータを理解できる。(B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間区間における理解の確認ができる。(A, B, C, D)
1.5	CR結合増幅回路の周波数特性(1)	<input type="checkbox"/> 入力側結合コンデンサの影響を理解できる。(B, C)
1.5	CR結合増幅回路の周波数特性(2)	<input type="checkbox"/> 出力側結合コンデンサの影響を理解できる。(B, C)
1.5	CR結合増幅回路の周波数特性(3)	<input type="checkbox"/> エミッタバイパスコンデンサの影響を理解できる。(B, C)
1.5	A級電力増幅回路	<input type="checkbox"/> トランス結合A級電力増幅回路を理解できる。(B, C)
1.5	B級電力増幅回路・SEPP回路	<input type="checkbox"/> B級電力増幅回路、SEPP回路を理解できる。(B, C)
1.5	電界効果トランジスタの基礎	<input type="checkbox"/> FETの特性、電圧増幅作用とバイアス回路を理解できる。(A, B, C)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末区間における理解の確認ができる。(A, B, C, D)
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 前期区間の理解不足箇所を把握し、補充できる。(A, B, C, D)
1.5	負帰還増幅回路	<input type="checkbox"/> 負帰還増幅回路を理解できる。(B, C)
1.5	高周波増幅回路	<input type="checkbox"/> 高周波増幅回路を理解できる。(B, C)
1.5	差動増幅回路	<input type="checkbox"/> 同相利得、差動利得、同相除去比を理解できる。(B, C)
1.5	演算増幅器の基本特性	<input type="checkbox"/> 理想OPアンプ、理想条件を理解できる。(B, C)
1.5	演算増幅回路の設計(1)	<input type="checkbox"/> 増幅回路、算術演算回路を理解できる。(B, C)
1.5	演算増幅回路の設計(2)	<input type="checkbox"/> 比較回路、非線形回路、フィルタ回路を理解できる。(B, C)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間区間における理解の確認ができる。(A, B, C, D)
1.5	発振回路の基礎	<input type="checkbox"/> 発振原理、発振の条件を理解できる。(B, C)
1.5	RC発振回路	<input type="checkbox"/> RC発振回路を理解できる。(B, C)
1.5	LC発振回路	<input type="checkbox"/> 同調発振回路、3素子発振回路を理解できる。(B, C)
1.5	水晶発振回路	<input type="checkbox"/> 水晶発振動子の特性、各種水晶発振回路を理解できる。(A, B, C)
1.5	電源回路の整流・平滑回路	<input type="checkbox"/> 各種整流方式、各種平滑回路を理解できる。(B, C)
1.5	安定化電源回路(1)	<input type="checkbox"/> シリーズドロップ型電源回路を理解できる。(B, C)
1.5	安定化電源回路(2)	<input type="checkbox"/> スイッチング型電源回路を理解できる。(B, C)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末区間における理解の確認ができる。(A, B, C, D)
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 後期区間の理解不足箇所を把握し、補充できる。(A, B, C, D)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定期間試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気磁気Ⅱ	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electromagnetics2	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山本 和義	機械電子工学科・非常勤講師	230	毎授業終了時	ymt
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	微積分・ベクトル解析といった「言葉」を用い、原理に基づいて電磁気学の「理論」を構成していく。前期は静電磁場、後期は時間に依存する電磁場について学んでいく。			
到達目標	<p>A. ベクトル解析の初等計算ができる。</p> <p>B. 静電場・電位といったものの意味と数式との関係が理解できる。</p> <p>C. 静電磁場の基本法則の積分形から微分形を導出できる。</p> <p>D. 電流密度と静磁場、ローレンツ力に関する初等的な計算ができる。</p> <p>E. 基本的な保存則(電荷およびエネルギー)が理解できる。</p> <p>F. 誘導電場・変位電流の必要性が理解でき、マクスウェル方程式を書き下すことができる。</p> <p>G. マクスウェル方程式から出発して、電磁波の基本的な性質が理解できる。</p>			
授業方法	下記の教科書に沿った講義を行う。また、ほぼ毎回小テストが行われる。			
教科書	『新・演習電磁気学』阿部 龍蔵著, サイエンス社			
補助教材	(参考書) 『単位が取れる電磁気学演習帳』橋本 淳一郎著, 講談社			
評価方法	年間で4つの区間に分け、区間評価の単純平均により総合評価を行う。区間評価は「試験(70%)+小テスト・提出課題(30%)」の100点法によるものとする。試験等の素点は100点満点とは限らないので適宜点数を換算する。点数比率・点数換算の詳細は答案返却時に説明される。小テスト・提出課題は学習指導期間において再提出が可能になる場合がある。後期後半の区間においては特別の課題提出を求めることがある。これが行われる場合は、後期後半の区間評価に25%(25点)を限度とした加点・減点があり得る。			
関連科目	3年次「電気磁気Ⅰ」			
準備学習に関するアドバイス	ほぼ毎回20分程度の小テストを行います。この小テストをうまく利用して、電磁気学の言葉であるベクトル解析をマスターしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	授業方針, 年間計画, 評価方法の解説
3	電荷密度と電場	<input type="checkbox"/> クーロンの法則からガウスの法則へ (B)
3	電場と電位	<input type="checkbox"/> 電場と電位, 電気力のする仕事とエネルギー (A, B)
1.5	静電場の基本法則	<input type="checkbox"/> 微分形を主体とした静電場の基本法則 (A, C)
1.5	ベクトル解析	<input type="checkbox"/> 微積分とベクトル解析の計算の演習 (A)
0.75	まとめと補足	前期前半区間の内容のまとめと補足
0.75	前期中間試験	
0.75	前期中間試験の解説	
3	電流密度と磁場	<input type="checkbox"/> アンペールの法則とその微分形 (D)
3	動く電荷と磁場, 保存則	<input type="checkbox"/> ローレンツ力, 電荷保存則 (D, E)
1.5	静磁場の基本法則	<input type="checkbox"/> 微分形を主体とした静磁場の基本法則 (C)
0.75	まとめと補足	前期後半区間の内容のまとめと補足
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導期間	前期期末試験の解説。成績不振者がいた場合はその補習
3.75	電磁誘導と変位電流	<input type="checkbox"/> ファラデーの電磁誘導の法則, マクスウェルの変位電流 (F)
3	マクスウェル方程式	<input type="checkbox"/> 電場と磁場の統合, マクスウェル方程式 (F)
3	電磁場のエネルギー	<input type="checkbox"/> 静電エネルギーと磁気エネルギー (E)
0.75	まとめと補足	後期前半区間の内容のまとめと補足
0.75	後期中間試験	
0.75	後期中間試験の解説	
3	ポインティングベクトル	<input type="checkbox"/> エネルギーの流れとポインティングベクトル (E)
4.5	電磁波	<input type="checkbox"/> マクスウェル方程式の解, 進行電磁波 (G)
0.75	まとめと補足	後期後半区間の内容のまとめと補足
0.75	後期期末試験	
1.5	学習指導期間	後期期末試験の解説。成績不振者がいた場合はその補習
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算機プログラミング	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Embedded System Technology	必修	講義	演習	実験・実習
		30	0	15
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日以外の平日	tomita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEE標準1(2)との対応		
ME-6		B-2		(d) (1)
授業概要	アルゴリズム論にて学んだ知識をベースとし、電子計算機とC言語の両面からプログラミングの基礎となる知識と発想を学ぶ			
到達目標	<p>A. 使用するマイコンに合わせて開発環境の設定ができる</p> <p>B. C言語で記述された初歩的なマイコン・プログラム・ソースを読むことができる</p> <p>C. マイコン周辺機能を説明でき、基本的な利用ができる</p> <p>D. システム構成図を見てふさわしいプログラムを作成できる</p> <p>E. 開発環境とCコンパイラの関係を理解する</p> <p>F. アルゴリズムの図式化ができる</p>			
授業方法	講義と実習の混成形式にて授業を行う。実習は課題を自分で解決する形式とし、結果については報告書の提出を義務づける。			
教科書	授業にて配布するプリント			
補助教材	なし			
評価方法	<p>前期中間、前期末、後期中間、後期末の4回評価を行う。</p> <p>評価は下記に示す配分を適用して該当区間の成績を計算し、それまでの評価との単純平均で算出する。</p> <p>試験成績 (80%)</p> <p>課題の評価 (20%)</p> <p>必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その点数の反映は合格を満たす点数を上限とする。</p>			
関連科目	電子計算機、メカトロニクス、情報基礎、基礎数学、数値解析			
準備学習に関するアドバイス	座学において説明する内容については注意深くノートに残し、実習ではノートも参考にしながら実際にプログラミングを行いながら理解を深めること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	年間授業・評価方法の説明	
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 計算機の活躍とプログラミングの現状を理解する
0.75	計算機の開発環境	<input type="checkbox"/> 統合開発環境とその役割について理解する(A)
3.75	マイコンの構造と命令	<input type="checkbox"/> ヘッドファイルの役割について理解する(B, C, D, E)
		<input type="checkbox"/> スタック、ポインタおよび割り込み処理について理解する(B, C, E)
3.75	C言語による計算機プログラミング	<input type="checkbox"/> プログラムリストの基本的な構成を理解する(B, D)
		<input type="checkbox"/> 関数と引数について理解する(B, C, D)
		<input type="checkbox"/> 変数と変数宣言について理解する(B, C, D, E)
		<input type="checkbox"/> 電子計算機における負の値の扱について理解する(B)
0.75	前期前半のまとめ	
0.75	定期試験	前期前半に学んだ知識の確認(B, C, D, E)
9.75	C言語命令の理解	<input type="checkbox"/> 分岐命令(if, switch)を使えるようになる(B, C, D)
		<input type="checkbox"/> 繰り返し命令(while, for)を使えるようになる(B, C, D)
		<input type="checkbox"/> 配列(1次、2次)を使えるようになる(B, C, D)
		<input type="checkbox"/> 構造体を使ったプログラムを作れるようになる(B, C, D)
0.75	前期後半のまとめ	
0.75	定期試験	前期後半に学んだ知識の確認
9.75	電子計算機プログラミング1	<input type="checkbox"/> 開発環境とCコンパイラの関係を理解する(A, B, C, D, E)
		<input type="checkbox"/> 状態遷移図について理解する(F)
		<input type="checkbox"/> シーケンス図について理解する(F)
		<input type="checkbox"/> コンフィグレーションレジスタについて理解する(C, D)
		<input type="checkbox"/> SFRの役割を理解する(C, D)
		<input type="checkbox"/> リセット時の動作を理解する(C, D)
		<input type="checkbox"/> ポインタについて理解する(B, D)
0.75	後期前半のまとめ	
0.75	定期試験	後期前半に学んだ知識の確認
9.75	電子計算機プログラミング2	以下の役割とC言語での設定方法を理解する
		<input type="checkbox"/> I/Oを利用したプログラムを作成する(B, C, D, E, F)
		<input type="checkbox"/> タイマを使ったプログラムを作成する(B, C, D, E, F)
		<input type="checkbox"/> A/D変換器を使ったプログラムを作成する(B, C, D, E, F)
		<input type="checkbox"/> 割り込みを用いたプログラムを理解する(B, C, D, E, F)
0.75	後期後半のまとめ	
0.75	定期試験	後期後半に学んだ知識の確認
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
アンテナ工学	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Antenna engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日を除く	yoshino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	ワイヤレス通信に関する主要な項目をすべて取り上げ、電磁波、アンテナ、伝搬、変調の基本技術を解説する。また、電波伝搬の理論、空中線系の理論、構造、機能の教授も行う。			
到達目標	A. 電波の性質、電磁波の基本法則を理解する。 B. アンテナ利得が計算できる。 C. アンテナの概要が理解できる。 D. アンテナの指向性について理解できる。 E. 電波暗室の役割がわかる。			
授業方法	座学を主体として講義を進める。授業中適宜演習問題を出題し、レポートで提出を求める場合と黒板へ出て解いてもらう場合の2通りある。講義の一部はディスカッション方式で学生と対話しながら講義を進める場合もある。			
教科書	無線通信工学の基礎と演習 吉野純一編著 (株)コロナ社			
補助教材	なし			
評価方法	各区間の評価方法は、試験(70%)＋授業内(課題、レポート、演習加点、授業態度)(30%)とする。総合評価は各区間の評点(100点満点)の単純平均とする。最終的な成績評価は、総合80点以上で「優」、70点以上で「良」、60点以上で「可」とする。通常のレポート、課題の提出状況、授業態度等の取り組み状況を鑑みて、再試験を実施する場合がある。			
関連科目	応用電磁気学、信号処理			
準備学習に関するアドバイス	提出物は必ず所定の様式で期日を厳守して提出すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法、本授業の達成目標を理解する。
3	電波の性質と利用	<input type="checkbox"/> 電波の定義を理解できる。(A)
1.5	伝送線路の基礎(1)	<input type="checkbox"/> 伝送線路と分布定数回路を理解できる。(A)
1.5	伝送線路の基礎(2)	<input type="checkbox"/> 無損失線路の電圧と電流を理解できる。(A, B)
3	伝送線路の基礎(3)	<input type="checkbox"/> 無損失線路における反射と定在波を理解できる。(A, B)
1.5	電磁波の基礎(1)	<input type="checkbox"/> 電磁波の基本法則を理解できる。(A, B)
1.5	電磁波の基礎(2)	<input type="checkbox"/> 平面電磁波を理解できる。(A, B)
3	給電線と整合回路(1)	<input type="checkbox"/> 各種伝送線路を理解できる。
1.5	給電線路と整合回路(2)	<input type="checkbox"/> 導波管、導波管回路素子が理解できる。(C, D)
3	アンテナの基礎(1)	<input type="checkbox"/> 微小ダイポールからの電波の放射が理解できる。(C, D)
3	アンテナの基礎(2)	<input type="checkbox"/> 半波長アンテナが理解できる。(C, D)
3	アンテナの基礎(3)	<input type="checkbox"/> アンテナ利得の定義、計算が理解できる。(B, C)
3	アンテナの実際(1)	<input type="checkbox"/> 線状アンテナ、アレーアンテナが理解できる。(C, D)
3	アンテナの実際(2)	<input type="checkbox"/> 平面アンテナが理解できる。(C, D)
3	アンテナの実際(3)	<input type="checkbox"/> 開口面アンテナが理解できる。(C, D)
3	アンテナの実際(4)	<input type="checkbox"/> アンテナの分類、アンテナに関する計測が理解できる。(D, E)
3	定期試験(年4回)	<input type="checkbox"/> 前期中間、前期末、後期中間、学年末
3	学習指導期間(年2回)	<input type="checkbox"/> 学習事項の定着確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
半導体デバイス	ME: 機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Semiconductor Devices	必修	講義	演習	実験・実習
45	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 聖隆	機械電子工学科・非常勤講師			kato.kiyotaka
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d)(1)
授業概要	半導体物性の基礎理論を学んだ後、ダイオードとトランジスタの基本構造と動作原理を学び、情報通信技術産業の基盤となっているLSIと光デバイスの理解につなげていく。また、プロセス技術およびデバイスの故障について、その概要を学ぶ。			
到達目標	<p>A 真空中と固体中で、電子の振る舞いに違いのあることが説明できる。</p> <p>B. ダイオードとトランジスタの動作原理と基本特性が説明できる。</p> <p>C. 光デバイスの動作原理と基本特性が説明できる。</p> <p>D. 集積回路の構造と機能が説明できる。</p> <p>E. 半導体デバイス製造のためのプロセス技術が説明できる。</p> <p>F. 半導体デバイスの故障メカニズムが説明できる。</p>			
授業方法	講義を中心とする。			
教科書	「半導体工学」 渡辺英夫著 (コロナ社)			
補助教材	プリント等			
評価方法	<p>評価項目は以下の2つである。</p> <p>(1) 定期試験の点数</p> <p>(2) 課題レポートの平均点(未提出は0%評価)</p> <p>総合評価の算出方法は、 総合評価 = ((1) × 70% + (2) × 30%) とする。 必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その場合の総合評価は合格を満たす点数を上限とする。</p>			
関連科目	物理、化学、機械電子工学実験			
準備学習に関するアドバイス	講義中のノートをしっかり取り、復習を心がけること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.0	授業ガイダンス	年間授業計画、評価方法、本授業の達成目標を理解する <input type="checkbox"/> 半導体デバイスの概要
2.0	真空中の電子	電子の性質を学び、ニュートン力学との違いを理解する <input type="checkbox"/> 電子の粒子性と波動性 (A)
3.0	固体中の電子	固体中での電子の振舞いを学び、真空中とは異なることを理解する <input type="checkbox"/> 電子のエネルギー準位 (A) <input type="checkbox"/> 固体中での電子のエネルギー準位 (A)
4.5	電気伝導と伝導体の種類	電気伝導のメカニズムを学び、三種類の伝導体を理解する <input type="checkbox"/> 電気伝導のメカニズム (A) <input type="checkbox"/> 導体、半導体、絶縁体での電気伝導 (A)(B) <input type="checkbox"/> 移動度 (B)
0.75	前期中間試験	
4.5	半導体中のキャリア濃度	半導体のバンド構造を学び、添加不純物の効果を理解する <input type="checkbox"/> バンド構造とフェルミ準位 (B) <input type="checkbox"/> 不純物添加によるp型・n型半導体の形成 (B) <input type="checkbox"/> ホール効果
4.5	pn接合の電気的特性	pn接合のバンド構造を学び、ダイオード特性を理解する <input type="checkbox"/> pn接合における空乏層とバンド構造 (B) <input type="checkbox"/> pn接合ダイオードの順方向・逆方向特性 (B)
0.75	前期期末試験	
1.5	前期のまとめ	
6.0	バイポーラトランジスタ	バイポーラトランジスタの構造を学び、その特性を理解する <input type="checkbox"/> バイポーラトランジスタの組成構造とバンド理論 (B) <input type="checkbox"/> バイポーラトランジスタの基本電気特性 (B)
4.5	電界効果トランジスタ	電界効果トランジスタの構造を学び、その特性を理解する <input type="checkbox"/> 電界効果トランジスタの基本的な構造と動作原理 (B) <input type="checkbox"/> 電界効果トランジスタの基本的電気特性 (B)
0.75	後期中間試験	
3.0	オプトエレクトロニクス素子	光と電気との関係を学び、光デバイスの動作原理を理解する <input type="checkbox"/> 光と電気エネルギーの関係 (C) <input type="checkbox"/> 化合物半導体 (C) <input type="checkbox"/> 発光ダイオード、レーザーダイオードの動作原理と特性 (C)
3.0	集積回路	集積回路技術の発展の歴史を学び、電気的特性との関係を理解する <input type="checkbox"/> 集積回路の構造 (D) <input type="checkbox"/> 集積回路の機能と応用 (D)
2.0	プロセス技術	半導体デバイスの製造技術を学び、電気的特性との関係を理解する <input type="checkbox"/> プレーナプロセス技術 (E) <input type="checkbox"/> 前工程と後工程 (E)
1.0	信頼性	デバイスの故障メカニズムを学び、高信頼化技術を理解する <input type="checkbox"/> 故障メカニズムと信頼性評価法 (F) <input type="checkbox"/> 高信頼化技術 (F)
0.75	後期期末試験	
1.5	1年間のまとめ	
合計45時間		
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
0	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機構学	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Theory of Mechanism	必修	講義	演習	実験・実習
33	12			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山口 貢	機械電子工学科・助教	301	月曜放課後	yamaguchi.mitsugu
栗原 健	機械電子工学科・非常勤講師	301・318	月曜放課後	k-kurihara
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-5		B-2		(d) (1)
授業概要	機械に所定の運動をさせるために行われる基本的な機構を学び、その構成により機械ができていることを知ると共に、機構や機械の設計をおこなうための基礎的知識と応用力を養う。			
到達目標	(A) 機構が果たす役割や構成などの基礎知識を理解する (B) 基礎的な機構の運動について理解する (C) リンクについて理解する (D) カムについて理解する (E) 摩擦車について理解する (F) 歯車について理解する (G) ベルト伝動について理解する			
授業方法	機構が果たす役割や機素による構成を理解し、「リンク」、「カム」、「摩擦車」、「歯車」、「ベルト伝動」の運動について理解を深める。			
教科書	住野和夫・林 俊一：『絵ときでわかる機構学』、オーム社			
補助教材	日本機械学会：『機構学 機械の仕組みと運動』、丸善出版株式会社			
評価方法	(A) 前期中間試験、(B) 前期期末試験、(C) 後期中間試験、(D) 後期期末試験を実施する。 評価については、前期中間は(A)を評点とし、前期期末は(A)+(B)、後期中間は(A)+(B)+(C)、後期期末は(A)+(B)+(C)+(D)の平均点をそれぞれ評点とする。但し、必要に応じて再試験を行い、評価に反映する場合がある。			
関連科目	力学、材料学、機械加工、製図、機械デザイン			
準備学習に関するアドバイス	分からないこと、理解できないことを自ら見出して質問し、疑問を持ち越さないようにする。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明、ガイダンスを行う
3	機構の基礎	<input type="checkbox"/> 機構の役割、機素と待遇、リンク機構の構成について学ぶ(A、B)
3	機構と運動の基礎	<input type="checkbox"/> 物体の運動、機構における位置・速度・加速度、機構の自由度について学ぶ(A、B)
4.5	リンク機構の種類と運動	<input type="checkbox"/> 平面リンク機構、スライダクランク機構、立体リンク機構、リンク機構の運動、リンク機構の使われ方について学ぶ(C)
3	カム機構の種類と運動	<input type="checkbox"/> カム機構の種類、各種カムの運動とカム線図、特殊カムと機構、カム機構の使われ方について学ぶ(D)
3	摩擦伝動の種類と運動	<input type="checkbox"/> 摩擦伝動の種類、摩擦車の運動、使われ方について学ぶ(E)
4.5	歯車伝動機構の種類と運動	<input type="checkbox"/> 歯車の種類と名称、歯車運動について学ぶ(F)
7.5	巻掛け伝動の種類と運動	<input type="checkbox"/> ロープ伝動、滑車伝動、ベルト伝動などについて学ぶ(G)
6	定期試験前のまとめと演習	各定期試験前のまとめと演習を行う
3	定期試験	各学期の内容について試験を行う
6	学習指導期間	各学期の試験答案を返却し、回答と解説を行うと共に理解不十分な箇所の補習を行う
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
材料力学	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Strength of materials	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
武沢 英樹	機械電子工学科・非常勤講師		火曜日 授業の後	h-takezawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	機械設計において強度計算を行うことは必須です。構造物に外力が作用した場合の変形を予測し、構造物の破壊を防止するための基礎知識の習得を目指します。材料に生じる垂直応力やせん断応力、応力を受けることによる曲げモーメントの概念や、薄板に生じる応力分布を学習します。			
到達目標	<p>A: 物体に作用する力のつり合いについて理解する B: 物体に外力が作用した際の、材料内部に生じる応力とひずみの関係を理解する C: 棒に生じる引張り応力と圧縮応力について理解する D: 曲げが作用するはりに生じる曲げモーメントを理解する E: 曲げが作用するはりに生じる曲げ応力とたわみを理解する F: 薄板に作用する平面応力とモールの応力円を理解する G: ひずみエネルギーについて理解する</p>			
授業方法	教科書に従い座学を中心とした授業を行う。各回の授業では、授業で理解した内容を復習できる演習課題を出すこととする。演習課題のいくつかはレポートとして次回の授業時に提出してもらうこともある。			
教科書	基礎から学ぶ材料力学 立野昌義/後藤芳樹/武沢英樹ほか オーム社			
補助教材	なし			
評価方法	(A) 前期中間、(B) 前期期末、(C) 後期中間、(D) 後期末の4回の試験を行い、前期は(A)+(B)の平均、後期中間は(A)+(B)+(C)の平均、後期末は4回の試験の平均で評価する。ただし、最終合格点に達しない場合でも、通常のレポート課題の提出状況、演習における取り組み状況を鑑み、再試験を実施する場合がある。			
関連科目	力学, 材料学, 機構学, 機械設計, 機械加工, 製図			
準備学習に関するアドバイス	材料力学は、機械や構造物を設計する上での強度確認に必須の学問です。機械技術者として基本的な構造物設計ができるよう、基礎理解に努めて下さい。そのために、数多くの例題を実際に解いて具体的なイメージを身につけて下さい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間の授業計画と評価方法、材料力学の基本について説明する
0.75	材料力学で扱う単位	<input type="checkbox"/> 材料力学で扱う単位とその関係について学ぶ (A)
1.5	外力と内力、力のモーメントのつり合い	<input type="checkbox"/> 物体に作用する外力と内力、力のモーメントについて学ぶ (A)
1.5	応力とひずみ、フックの法則	<input type="checkbox"/> 棒に作用する応力とひずみ、フックの法則について学ぶ (B)
1.5	フックの法則その2、垂直応力とせん断応力	<input type="checkbox"/> 垂直応力とせん断応力、フックの法則その2について学ぶ (C)
1.5	直列および並列接続の棒に生じる応力	<input type="checkbox"/> 組み合わせ棒に生じる応力について学ぶ (C)
1.5	棒の不静定問題と熱応力	<input type="checkbox"/> 棒の不静定問題と熱応力について学ぶ (C)
0.75	前期中間試験	
1.5	試験答案返却, 試験解説	
1.5	はりの基礎および支点反力	<input type="checkbox"/> 各種はりの概要と支点反力の導出方法を学ぶ (D)
1.5	はりにおける仮想断面と各種内力	<input type="checkbox"/> はりのつり合いを考える仮想断面について学ぶ (D)
1.5	はりに生じるせん断力と曲げモーメント	<input type="checkbox"/> 仮想断面に生じるせん断力と曲げモーメントについて学ぶ (D)
4.5	各種はりにおける曲げモーメント	<input type="checkbox"/> 各種はりにおける曲げモーメントの導出方法について学ぶ (D)
0.75	前期期末試験	
1.5	試験答案返却, 試験解説	
1.5	はりの曲げ応力と中立軸	<input type="checkbox"/> 曲げ応力の基礎と中立軸の考え方を学ぶ (E)
1.5	断面1次モーメントと断面2次モーメント	<input type="checkbox"/> 断面1次モーメントと断面2次モーメントを学ぶ (E)
1.5	各種形状の断面2次モーメント	<input type="checkbox"/> 各種断面形状の断面2次モーメントを計算する (E)
1.5	断面係数と曲げ応力	<input type="checkbox"/> 断面係数と曲げ応力の計算式を学ぶ (E)
1.5	はりのたわみ	<input type="checkbox"/> はりに生じるたわみ量の計算式を学ぶ (E)
1.5	不静定はりの取り扱い	<input type="checkbox"/> 不静定はりの取り扱いを学ぶ (E)
0.75	後期末試験	
1.5	試験答案返却, 試験解説	
1.5	薄板に生じる平面応力	<input type="checkbox"/> 平面応力状態と傾斜面上の応力について学ぶ (F)
1.5	2次元応力	<input type="checkbox"/> 2次元応力について学ぶ (F)
1.5	モールの応力円	<input type="checkbox"/> モールの応力円の描画方法とその理解について学ぶ (F)
3	各種応力とひずみエネルギー	<input type="checkbox"/> 各種応力が生じる際のひずみエネルギーを学ぶ (G)
1.5	カステリアーノの定義	<input type="checkbox"/> カステリアーノの定理について学ぶ (G)
0.75	後期末試験	
1.5	試験答案返却, 試験解説	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械電子工学実験	ME:機械電子工学科	4年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments of Mechanical & Electronic Engineering	*必修	9		81
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	水曜日以外	kuroki
森 幸男	機械電子工学科・教授	202および303	金曜日以外	mor i
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	火曜日以外	yonemor i
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	水曜日以外	yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-4 ME-5 ME-6 ME-7		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	エレクトロニクス回路の設計製作実習を通して、課題をこなす能力、デザイン能力、具現化技能を養う。また工程のマネジメントを行うことによってPDCAサイクルを意識した行動ができるようになる。製作物の性能測定や各種の計測実習を行うことによって回路の理解や測定技術を養う。			
到達目標	<p>A. 事実に基づいて自分の行った内容や結論を表現できる。(課題をこなす能力)</p> <p>B. 計測装置、電子部品を適切に使うことができ、各テーマの内容を理解できる。(専門技術力)</p> <p>C. 与えられた制約の下で回路や内装、外観を設計できる。(デザイン能力)</p> <p>D. 他者の成果の聴講や企業見学によって、自分のキャリアをデザインできる。(デザイン能力)</p> <p>E. 設計通りに回路を実装し、具現化することができる。(具現化技能)</p> <p>F. PDCAサイクルを意識し、工程表に基づいて作業することができる。(管理能力)</p> <p>G. 安全衛生の概念を理解できる。(管理能力)</p>			
授業方法	作業報告書や実験報告書の提出を求める。見学を行い、広く情報収集を行う予定である。プレゼンテーション等を利用し、発表力向上を目指す。			
教科書	なし(指導書を配布する)			
補助教材	なし(指導書を配布する)			
評価方法	<p>前期末、後期末において、その区間までにおける作業報告書や実験報告書の提出状況・内容(60%)、製作物の内容(20%)、プレゼン等(20%)として評価する。</p> <p>学年末の成績は前期末と後期末の評価の単純平均とする。各期間の評価点は各担当教員の評価の単純平均とする。</p> <p>報告書など未提出がある場合には不合格となる。</p> <p>※本科目は学年修了要件科目である</p>			
関連科目	電子回路 電気回路 電気磁気学 通信工学 機械加工 工業材料 計測工学 音響工学 他専門科目全般			
準備学習に関するアドバイス	PDCA(計画→実行→評価→改善)のサイクルを意識しながら実習に参加すること。納期を意識した作業計画を行うこと。きっかけを生かすも殺すも自分自身の行動次第である(責任感を意識せよ)。			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	総合ガイダンス	<input type="checkbox"/> 実験の進め方、評価の仕方、安全衛生等を理解する (G)
3	【オーディオアンプの設計・製作】設計計画	<input type="checkbox"/> 管理技術による魅力作り (C, F)
27	ローテーション実験Ⅰ(3テーマ×3週) 右記のテーマに関して、特性等をテスター、電圧電流計、オシロスコープ、高周波電力計(スペクトラムアナライザ)を運用し計測する。さらに回路基板を製作する。	<p>1. CR 結合増幅回路</p> <p><input type="checkbox"/> 直流バイアス回路と結合コンデンサを理解する (B, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 入力特性・周波数特性を理解する (B, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 回路を実装する</p> <p>電圧計、電流計、テスタ等で動作チェックする (A, B, E, F)</p> <p>2. B 級プッシュプル電力増幅回路</p> <p><input type="checkbox"/> コンプリメンタリ動作を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> クロスオーバー歪の改善法を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 回路を実装する</p> <p>電圧計、電流計、テスタ等で動作チェックする (A, B, E, F)</p> <p>3. 直流安定化電源</p> <p><input type="checkbox"/> 非安定化電源[変圧・整流・平滑]を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> シリズドドロップ型安定化電源を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 回路を実装する</p> <p>電圧計、電流計、テスタ等で動作チェックする (A, B, E, F)</p>
9	システムの構築(総合作業)	<p><input type="checkbox"/> ハーネスを作成し、回路の接続、動作をチェックする(A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 回路の特性測定(出力電力・周波数特性・歪率特性)を測る(A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 機械加工(シャーシ設計・製作)(C)</p> <p><input type="checkbox"/> 模擬販売の準備(パンフレット制作など)を行う(A, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 文化祭における模擬販売を行う(A, E, F)</p>
36	ローテーション実験Ⅱ(4テーマ×3週) 右記のテーマに関して、特性等をテスター、電圧電流計、オシロスコープ、高周波電力計(スペクトラムアナライザ)を運用し計測する。	<p>4. デジタル無線通信に関する実験</p> <p><input type="checkbox"/> VCOの出力特性を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> ASKの周波数分布を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 伝搬環境の違いによるBER特性の変化を理解する (A, B, E, F)</p> <p>5. 電子部品の微細構造と機能に関する実験</p> <p><input type="checkbox"/> 各種顕微鏡の構造と基本操作を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 電子部品を試料として、観察のための準備方法を理解する (A, B, C, E, F, G)</p> <p><input type="checkbox"/> 電子部品をSEM観察し、その微細構造を理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 電子部品についてその機能を微細構造の観点から考察する (A, B, E, F)</p> <p>6. 音響の実験</p> <p><input type="checkbox"/> マイクロフォンの周波数特性と指向特性を測定し理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> スピーカの周波数特性と指向特性を測定し理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> エンクロージャの特性を測定し理解する (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 音響空間の特性を測定し理解する (A, B, E, F)</p> <p>7. メカトロニクスの実験</p> <p><input type="checkbox"/> 各種アクチュエータ、センサ、アナログ・デジタル回路等による制御回路を組み合わせた実験テーマを決定できる。(C, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 実験テーマに沿った実験計画・予算が立案できる (C, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 計画を実行し、データを取得できる (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 取得したデータについて、理論と比較・検討できる (A, B, E, F)</p> <p><input type="checkbox"/> 実験手順等の問題点を把握し、改善・実行することができる (A, B, E, F)</p>
9	実験発表 (3回の発表日のいずれか1回に発表する)	
3	見学	<input type="checkbox"/> 企業等の見学によりキャリアを向上する (D)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
90時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定期試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
解析学Ⅱ	ME・機械電子工学科	4年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analysis2	必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
亀山 統胤	一般教育科・助教	239	木曜日以外	n-kameyama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-4		B-1		(c)
授業概要	三学年までに習得した微分積分の内容を基礎とし、2変数関数の偏微分や極値問題、重積分、さらに微分方程式の解法を学習する。			
到達目標	A. 2変数関数の偏微分に関して様々な計算ができる B. 2変数関数の極値問題を解くことができる C. 微分方程式の意味を理解し、微分方程式を解くことができる D. 様々な重積分の計算ができる			
授業方法	教科書の流れに沿って講義形式で授業を進める。配布プリントに沿って演習問題を解き、小テストを行うことにより理解度を確認する。さらに知識を確実にするために適宜課題の提出を求める。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野・石原(裳華房)			
補助教材	授業プリント			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験(70%) (2) 小テスト, 課題, 授業プリントなどの平常点(30%) 2. 評点算出の方法 (1) 年間を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は、不可が確定する。 (4) 授業態度により大幅に平常点を減点する可能性がある。			
関連科目	基礎数学I, 基礎数学II, 微分積分学, 代数幾何学, 解析学I			
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのかを説明できて、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習において練習問題を数多くこなし、確固たる知識を確立していく姿勢が必要です。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
0.75	偏微分に関する復習	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法を理解する
3	偏微分の合成関数	<input type="checkbox"/> 2変数関数の合成関数について偏微分ができる (A) <input type="checkbox"/> 連鎖律について理解できる (A)
3	2変数関数の極値と判定条件	<input type="checkbox"/> 2変数関数の極値問題について計算できる (B)
3	陰関数の極値・2変数関数の条件付き極値	<input type="checkbox"/> 陰関数の仕組みを理解し、極値を計算できる (B) <input type="checkbox"/> 2変数関数の極値を求める対策演習問題を理解する (A, B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間試験
1.5	微分方程式の定義と解について	<input type="checkbox"/> 微分方程式の定義とその解について理解できる (C)
3	変数分離形と線形微分方程式	<input type="checkbox"/> 変数分離形の微分方程式について計算できる (C)
3	1階微分方程式に対する解法	<input type="checkbox"/> 1階微分方程式を解くことができる (C)
1.5	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 微分方程式に関する対策演習問題を解くことができる (C)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期末試験
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説, 理解が不十分な内容の補足
3	2階微分方程式の定義と解について	<input type="checkbox"/> 2階微分方程式を解くことができる (C)
1.5	非同次の微分方程式に対する解法	<input type="checkbox"/> 非同次の微分方程式を解くことができる (C)
3	重積分の復習・累次積分	<input type="checkbox"/> 基本的な重積分の計算ができる (D)
3	積分の順序交換	<input type="checkbox"/> 2重積分において積分の順序交換の仕組みを理解できる (D) <input type="checkbox"/> 微分方程式ならびに重積分に関する対策演習問題を理解する (C, D)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間試験
3	変数変換と重積分	<input type="checkbox"/> 2重積分において積分の変数変換の仕組みを理解できる (D)
1.5	3重積分の定義と計算方法	<input type="checkbox"/> 3重積分の定義と計算方法を理解できる (D)
3	重積分を用いて体積を求める	<input type="checkbox"/> 3重積分を用いて体積を求めることができる (D)
1.5	まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 重積分の対策演習問題を理解する (D)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 学年末試験
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説, 理解が不十分な内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
線形代数	ME:機械電子工学科	4年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Linear Algebra	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
佐藤 豊	一般教育科・准教授	305 239	木曜日以外	sato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
ME-3		B-1		(c)
授業概要	線形代数は、行列式とその応用、ベクトル空間、線形写像、固有値とその応用、2次形式を学習する。統計学は、3年次に学んだ統計の基礎を復習し推定と検定、回帰分析を学習する。			
到達目標	<p>A. 行列の基本変形ができる。</p> <p>B. 行列の性質を用いて連立1次方程式が解ける。</p> <p>C. 線形空間を学習し、1次独立の判定および基底を求めることができる。</p> <p>D. 行列式の求め方と性質を理解し、連立1次方程式の解法へ応用できる。</p> <p>E. 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。</p> <p>F. 対称行列を対角化できる。</p> <p>G. 統計学の基礎を理解し、母数の推定、仮説検定、回帰分析ができる。</p>			
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 小テストを実施し、理解度を確認する。			
教科書	理工系のための線形代数 長坂建二、駒木悠二 (裳華房)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	<p>1. 成績評価の根拠となる項目及びその割合</p> <p>(1) 定期試験 (70%)</p> <p>(2) 小テスト、課題等の提出物、授業態度 (30%)</p> <p>2. 評点算出の方法</p> <p>(1) 1年を4区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。</p> <p>(2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。</p> <p>(3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が47点未満の場合は不可が確定する。</p>			
関連科目	基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、代数幾何学、確率統計学			
準備学習に関するアドバイス	教科書の公式を暗記するのではなく、それが何を意味しているのか、どこで使うのかを意識して取り組むことが重要です。そのためには、授業の復習や課題の演習をしっかりと行い、確固たる知識を身に付けていきましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画及び評価方法などの説明
0.75	行列の復習	<input type="checkbox"/> 行列の和、差、積、逆行列の計算法
6	連立1次方程式の解法	<input type="checkbox"/> 行列の基本変形と階数 (A)
		<input type="checkbox"/> 掃き出し法を用いた連立1次方程式の解法 (B)
		<input type="checkbox"/> 連立1次方程式が解をもつ条件 (B)
1.5	線形空間	<input type="checkbox"/> 線形空間の定義、1次独立、1次従属、基底、次元 (C)
1.5	まとめと演習 (前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
7.5	行列式	<input type="checkbox"/> 置換と互換、行列式の定義とサラスの方法 (D)
		<input type="checkbox"/> 行列式の性質 (D)
		<input type="checkbox"/> 余因子を用いた行列式の展開 (D)
		<input type="checkbox"/> クラメルの公式を用いた連立1次方程式の解法 (D)
1.5	まとめと演習 (前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却と解説、理解が不十分な内容の補足
3	固有値、固有ベクトル	<input type="checkbox"/> 固有値と固有ベクトルの求め方 (E)
6	行列の対角化	<input type="checkbox"/> 行列の対角化可能条件 (F)
		<input type="checkbox"/> 対称行列の対角化 (F)
1.5	まとめと演習 (後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
4.5	推定と検定	<input type="checkbox"/> 点推定、区間推定 (G)
		<input type="checkbox"/> 仮説検定 (G)
3	回帰分析	<input type="checkbox"/> 回帰モデル、回帰係数の求め方 (G)
1.5	まとめと演習 (学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 演習
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の返却と解説、理解が不十分な内容の補足
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デジタル電子回路	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Digital Electronic Circuit	必修	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
福岡 久雄	機械電子工学科・非常勤講師			h-fukuoka
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	デジタル電子回路はコンピュータを始めとするデジタル電子機器の中核を構成するものである。本科目はデジタル電子回路の基礎を体感的に理解するとともに、その典型的な応用例に関する知識を得ることを目的とする。			
到達目標	<p>A. アナログシステムとでデジタルシステムの違いが理解できる。</p> <p>B. 種々の進数表現を理解し、それらの間の変換(進数変換)が理解できる。</p> <p>C. 論理演算に関する諸定理を理解し、利用できる。</p> <p>D. 論理ゲートを理解し、利用できる。</p> <p>E. 組み合わせ論理回路を理解し、利用できる。</p> <p>F. フリップフロップを理解し、利用できる。</p> <p>G. 順序回路を理解し、利用できる。</p> <p>H. ハードウェア記述言語(HDL)の初歩的な内容を理解できる。</p>			
授業方法	座学を中心に授業を進める。補助教材として適宜プリントを配布する。			
教科書	論理回路入門(第3版) 浜辺隆二著 森北出版株式会社			
補助教材	プリント等			
評価方法	<p>評価項目は以下の2つである。</p> <p>(1) 定期試験の点数</p> <p>(2) 課題レポートの平均点(未提出は0点評価)</p> <p>総合評価の算出方法は次式に従う。</p> $\text{総合評価} = (1) \times 70\% + (2) \times 30\%$ <p>必要に応じて補講や再試験を行うことがあるが、その場合の総合評価は合格を満たす点数を上限とする。</p>			
関連科目	アナログ電子回路			
準備学習に関するアドバイス	講義中にノートをしっかり取り、復習を心がけて下さい。なお、ノートは「板書のデッドコピーではない」ことに注意して下さい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	年間授業計画、評価方法などを理解する
0.75	アナログシステムとデジタルシステム	アナログとデジタルの違いを直感的に理解する(A)
4.5	2進符号による情報表現	数体系(2進数, 10進数, 16進数)が理解できる(B) 進数変換(基数変換)が理解できる(B) 補数表現が理解できる(B) 代表的な符号体系が理解できる(浮動小数点表現を含む)(B)
4.5	ブール代数と論理関数の単純化	論理関数の定理・法則が理解できる(C) 真理値表を作成することができる(C) 演算による論理関数の単純化ができる(C) カルノー図による論理関数の単純化ができる(C)
0.75	前期中間試験	前期中間区までの学習内容に関する試験(A, B, C)
9	組み合わせ論理回路	基本論理回路が説明できる(D) 論理関数を回路化できる(D) 半加算器, 全加算器, 並列加算器を理解できる(D, E) エンコーダとデコーダを理解できる(D, E) マルチプレクサとデマルチプレクサを理解できる(D, E)
0.75	前期期末試験	前期の学習内容に関する試験(A, B, C, D, E)
1.5	学習指導	試験解説と復習
10.5	フリップフロップと順序回路	フリップフロップ(FF)の基本原則を理解できる(E, F) FFの種類と動作を理解できる(E, F) 状態遷移表と状態遷移図を理解し、作成できる(F, G) レジスタの動作を理解できる(E, F, G) カウンタの動作を理解できる(E, F, G)
0.75	後期中間試験	後期中間区までの学習内容に関する試験
6	順序回路の設計	順序回路の設計手順を理解できる(E, F, G) レジスタの設計手順が理解できる(E, F, G) 同期式カウンタの設計手順が理解できる(E, F, G)
3	ハードウェア記述言語入門	ハードウェア記述言語の初歩的な内容が理解できる(D, E, F, G, H)
0.75	後期期末試験	後期の学習内容に関する試験(E, F, G, H)
1.5	学習指導	試験解説と復習
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計測工学	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Measuring Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		39	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	水曜日を除く	kuroki
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
ME-3		B-2	(d) (1)	
授業概要	工業計測の基礎、およびその具体的な応用例について解説する。			
到達目標	A. 適切な計測手法を選択することができる。 B. 計測データを適切に処理することができる。 C. 各種センサを適切に使い分けることができる。 D. 長さ、角度、形状計測の原理について述べるができる。			
授業方法	工業計測の基礎的事項一般についての講義を行う。 またその具体的な応用として、各種物性計測について解説する。			
教科書	「計測工学」前田良昭、木村一郎、押田至啓(コロナ社)			
補助教材	特になし			
評価方法	各区間の評価方法は、試験(70%)+課題・レポート(30%)とする。 総合評価は、各区間の評点(100点満点)の単純平均とする。 必要に応じて特別課題や再試験を行うこともあるが、その場合の総合評価は合格を満たす点数を上限とする。			
関連科目	電気回路、電子回路、物理、物理学			
準備学習に関するアドバイス	基礎事項を中心に、丁寧に復習することを推奨する。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス(授業計画と評価方法の説明)	
1.5	単位と標準	<input type="checkbox"/> 基本単位の基準について述べるができる。
1.5	単位と次元	<input type="checkbox"/> 基礎的な組立単位の次元を示すことができる。
1.5	測定的基本的手法	<input type="checkbox"/> 測定的基本的な手法について述べるができる。
1.5	測定誤差と不確かさ	<input type="checkbox"/> 誤差と不確かさの関係を述べるができる。
1.5	測定データの統計処理	<input type="checkbox"/> 測定データの統計処理を行うことができる。
1.5	まとめと演習	
1.5	前期中間試験・学習指導	
1.5	計測システムの基本構成	<input type="checkbox"/> 計測システムの基本構成を示すことができる。
1.5	計測システムにおける信号変換(アナログ)	<input type="checkbox"/> アナログ信号の変換について述べるができる。
1.5	計測システムにおける信号変換(デジタル)	<input type="checkbox"/> デジタル信号の変換について述べるができる。
1.5	計測データの表示と記録	<input type="checkbox"/> 計測データの表示および記録について述べるができる。
1.5	計測システムの特性とシステム解析	<input type="checkbox"/> 計測システムの特性評価について述べるができる。
1.5	まとめと演習	
1.5	前期末試験・学習指導	
1.5	機械式センサ	<input type="checkbox"/> 機械式センサを例示して働きを述べるができる。
1.5	電気電子式センサ	<input type="checkbox"/> 電気電子式センサを例示して働きを述べるができる。
1.5	流体式センサ	<input type="checkbox"/> 流体式センサを例示して働きを述べるができる。
1.5	光学式センサ	<input type="checkbox"/> 光学式センサを例示して働きを述べるができる。
1.5	その他のセンサ	
1.5	まとめと演習	
1.5	後期中間試験・学習指導	
1.5	長さの測定	<input type="checkbox"/> 長さ測定の測定原理や測定方法を述べるができる。
1.5	角度の測定	<input type="checkbox"/> 角度測定の測定原理や測定方法を述べるができる。
1.5	幾何偏差の測定	<input type="checkbox"/> 幾何偏差の定義および表示の概要を述べるができる。
1.5	表面性状の測定	<input type="checkbox"/> 表面性状を表すための規格および測定方法を述べるができる。
3	物性計測事例	<input type="checkbox"/> 物性計測の応用例について述べるができる。
1.5	まとめと演習	
1.5	後期末試験・学習指導	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
制御工学	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Control Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		35	10	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
真島 裕樹	一般教育科・講師	222	金曜日 13:30 - 17:00	majima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-5		B-2		(d) (1)
授業概要	古典制御の基礎である伝達関数の概念を理解し、伝達関数に基づいた制御系の解析と設計を、主に振動論を通して学ぶ。後期後半には現代制御の初歩を概観する。			
到達目標	<p>A. 自由振動や強制振動をモデル化できる</p> <p>B. 簡単な制御系を伝達関数で表現できる</p> <p>C. 伝達関数をブロック図で表現できる</p> <p>D. 初等的な制御系において、伝達関数の応答が計算できる</p> <p>E. 簡単なラプラス変換・逆変換が計算できる</p> <p>F. 伝達関数の極から制御系の安定判別が計算できる</p> <p>G. PID制御の概要が理解できる</p> <p>H. 現代制御の状態方程式を作り、伝達関数と応答を求めることができる。</p>			
授業方法	座学を主体として授業を進める。補助教材としてプリント等を配布する。			
教科書	なし			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	<p>1年を定期試験毎の4区間(区間1, 2, 3, 4と呼ぶ)に分ける。区間評価点は試験70%, 課題30%で評価する。総合評価点の算出は下記の通りとする:</p> <p>前期中間: 区間1評価点と同じ</p> <p>前期末: (区間2評価点+区間2評価点×2)/3</p> <p>後期中間: (区間1評価点+区間2評価点×2+区間3評価点×3)/6</p> <p>後期末: (区間1評価点+区間2評価点×2+区間3評価点×3+区間4評価点×2)/8</p> <p>学年末に総合評価点が確定した際、合格点に達しなかった者は、1回を限度として再試験を受験することができる。</p>			
関連科目	機械電子工学実験(3年), 解析学II, 線形代数, 信号処理, 物理学, 電気電子演習, 物理学特論A・B,			
準備学習に関するアドバイス	手間を厭わず、自分の手で計算すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	授業の内容・計画および評価方法の説明. 制御工学の必要性.
1.5	振動の力学モデルと数学モデル	<input type="checkbox"/> 数学と物理の復習
1.5		<input type="checkbox"/> サスペンションのモデルとしての単振動・減衰振動
1.5		<input type="checkbox"/> 倒立振子のPD制御
4.5		<input type="checkbox"/> ラプラス変換(初等関数のラプラス変換. 各種定理)
1.5	まとめ	
0.75	前期中間試験	
1.5	答案返却. 試験問題解説.	
1.5	ラプラス逆変換	<input type="checkbox"/> ラプラス変換の復習
4.5		<input type="checkbox"/> ラプラス逆変換
0.75	前期末試験	
1.5	答案返却. 試験問題解説.	
3	ブロック線図	<input type="checkbox"/> ブロック線図と伝達関数
1.5	制御系の応答	<input type="checkbox"/> インパルス応答・畳み込み積分
1.5		<input type="checkbox"/> 1次遅れ・2次遅れ系の過渡・定常応答
1.5	周波数応答	<input type="checkbox"/> 伝達関数と周波数応答
1.5	制御系の安定性	<input type="checkbox"/> 伝達関数と応答・零点
1.5	まとめ	
0.75	後期中間試験	
1.5	答案返却. 試験問題解説.	
1.5	PID制御	<input type="checkbox"/> PID制御の概要
4.5	現代制御理論入門	<input type="checkbox"/> 状態方程式と伝達関数・応答
1.5	まとめ	
0.75	後期末試験	
1.5	答案返却. 試験問題解説.	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気通信法規	ME:機械電子工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electronic Communication Regulation	必修	講義	演習	実験・実習
		15	7.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日を除く	yoshino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	電波通信法令および関連事項について解説する。			
到達目標	A 電波法の目的について述べるができる。 B 無線従事者資格について述べるができる。 C 無線通信業務について述べるができる。			
授業方法	教科書に基づいて講義を行い、授業時間内に適宜演習を行う。			
教科書	「無線技術者のための電波法概説」相河聡 (森北出版)			
補助教材	なし			
評価方法	各区間の評価方法は、試験(70%)＋授業内(課題、レポート、演習加点、授業態度)(30%)とする。総合評価は各区間の評点(100点満点)の単純平均とする。 最終的な成績評価は、総合80点以上で「優」、70点以上で「良」、60点以上で「可」とする。 通常のレポート、課題の提出状況、授業態度等の取り組み状況を鑑みて、再試験を実施する場合がある。			
関連科目	通信工学、アンテナ工学			
準備学習に関するアドバイス	授業前に教科書の該当部分を通読し、講義後に重要事項を整理することが肝要			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス (授業計画、評価方法)	
1.5	電波法関連法令の概要 (関連条約)	<input type="checkbox"/> 電波法に関連する条約を示すことができる。(A)
1.5	電波法関連法令の概要 (電波・通信法令)	<input type="checkbox"/> 電波および通信に関連する法律を示すことができる。(A)
1.5	電波法関連法令の概要 (電気通信事業法)	<input type="checkbox"/> 電気通信事業法について述べるができる。(A)
1.5	電波法 (構成、目的、定義)	<input type="checkbox"/> 電波法の構成、目的、定義を述べるができる。(A)
1.5	電波法 (電波型式、周波数表示)	<input type="checkbox"/> 電波の型式および周波数の表示について示すことができる。(C)
1.5	電波法 (関連条約)	<input type="checkbox"/> 電波に関する条約について述べることができる。(C)
1.5	中間試験・学習指導	<input type="checkbox"/> 無線従事者資格について述べることができる。(B)
1.5	無線従事者 (資格)	<input type="checkbox"/> 無線従事者免許および証明について述べるができる。(B, C)
1.5	無線従事者 (免許、証明)	<input type="checkbox"/> 通信方法および通信法について述べることができる。(B, C)
1.5	運用	<input type="checkbox"/> 検査、免許取り消し、電波利用法について述べることができる。(C)
1.5	監督	<input type="checkbox"/> 保守・監督について述べることができる。(C)
1.5	異議申し立て (手続き)	<input type="checkbox"/> 異議申し立て手続きについて述べることができる。(C)
1.5	異議申し立て (電波監理審議会)	<input type="checkbox"/> 電波監理審議会について述べることができる。(B, C)
1.5	期末試験・学習指導	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械デザイン	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Mechanical Design	必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
坂口 雅人	機械電子工学科・助教	322	金曜日以外	sakaguchi.masato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3		B-2		(d) (1)
授業概要	機械工学はモノづくりの基礎となる学問であり、機械工学を学ぶことにより身の回りに存在する様々な工業製品がいかにして作られているかを理解することができる。			
到達目標	A. 材料力学についての基礎知識を理解し、実際に使用されている分野について学ぶ B. 金属材料についての基礎知識を理解し、実際に使用されている分野について学ぶ C. 流体力学についての基礎知識を理解し、実際に使用されている分野について学ぶ D. 熱力学についての基礎知識を理解し、実際に使用されている分野について学ぶ			
授業方法	機械工学の基礎を講義形式で行う。課題として命題を克服する製作物の設計により機械工学への理解を深める。			
教科書	門田和雄著「もの創りのためのやさしい機械工学」技術評論社			
補助教材	有光隆・八木修次著「もの創りのためのやさしい機械設計」技術評論社 適宜プリントを配布することがある			
評価方法	前期中間、前期末、後期中間、学年末の4回の試験を行い、各試験結果のその各期間までの平均点(80%)と課題(20)%で評価する。ただし、必要に応じて再試験を行い、試験点に反映する場合がある。			
関連科目	創造演習、材料力学、材料学、機構学、機械加工、製図、機械設計			
準備学習に関するアドバイス	予習は必要ないが、授業で習った基礎的事項を復習で十分に理解することが重要である。分からない、理解できないことは遠慮しないで質問し、疑問を持ち越さないことが肝心である。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明、ガイダンスを行う
7.5	材料の強さ	<input type="checkbox"/> 部品設計のための基礎的な強度計算ができるようになる (A)
2.25	演習	<input type="checkbox"/> 今まで学んできた内容の演習を行う
0.75	前期中間テスト	材料力学について試験を行う
1.5	試験解説	<input type="checkbox"/> 試験を返却し解答と解説を行う
6	機械材料	<input type="checkbox"/> 金属、高分子、セラミックについて学び、適材適所の選択について理解する (B)
2.25	演習	<input type="checkbox"/> 今まで学んできた内容の演習を行う
0.75	前期末テスト	機械材料について試験を行う
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験を返却し解答と解説を行う
7.5	流体力学	<input type="checkbox"/> 流体力学について学び、ベルヌーイの式による計算ができる (C)
2.25	演習	<input type="checkbox"/> 今まで学んできた内容の演習を行う
0.75	後期中間テスト	流体力学について試験を行う
1.5	試験解説	<input type="checkbox"/> 試験を返却し解答と解説を行う
6	熱力学	<input type="checkbox"/> 熱力学について学び、熱機関の原理を理解する (D)
2.25	演習	<input type="checkbox"/> 今まで学んできた内容の演習を行う
0.75	後期末テスト	熱力学について試験を行う
0.75	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験を返却し解答と解説を行う
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
信号処理	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Signal Processing	必修	講義	演習	実験・実習
		39	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
ME-3 ME-4		B-3		(d) (1) (d) (3) (i)
授業概要	電子工学・通信工学の分野で用いられる信号のアナログまたはデジタル的な周波数解析・伝送処理などの基礎理論を学習する。代表的な技術であるデジタルフィルタを例とし、実践的な知識についても学ぶ。また、信号処理の現状や応用的な例についても解説する。			
到達目標	A. 信号処理の目的と意義が説明できる B. 信号解析手法が理解できる C. サンプリングやエイリアシングを理解できる D. 離散時間システムを表現することができる E. 離散時間システムの応答が計算できる F. z変換が理解できる G. インパルス応答と伝達関数が理解できる H. デジタルフィルタの構成法・設計法が理解できる I. デジタルフィルタにおける誤差が理解できる J. 信号処理の現状や応用例が説明できる			
授業方法	主として講義を行い、演習や課題を出題する。			
教科書	「はじめて学ぶデジタル・フィルタと高速フーリエ変換」 三上直樹 CQ出版			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 前期中間評価 = 前期中間試験素点 前期末評価 = “前期中間評価” × 0.35 + 前期末試験素点 × 0.35 + 前期課題点 後期中間評価 = “前期末評価” × 0.5 + 後期中間試験素点 × 0.5 後期末評価 = (後期中間試験素点 × 0.35 + 後期末試験素点 × 0.35 + 後期課題点 + “前期末評価”) ÷ 2 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする) * 各期末試験後に再試験を行う場合がある。			
関連科目	通信工学, 制御工学, 音響工学, 離散数学, 統計数学, 微分積分学			
準備学習に関するアドバイス	予習復習をしっかりと行い、特に計算問題は必ず自分の手を動かして解くこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
0.75	デジタル信号処理の概要	<input type="checkbox"/> 目的と意義 (A)
7.5	信号解析	<input type="checkbox"/> Fourier 解析の基礎 (B) <input type="checkbox"/> Fourier 級数, Fourier 変換 (B) <input type="checkbox"/> 離散Fourier 変換 (B) <input type="checkbox"/> Fourier 解析の問題点 (B)
1.5	前期前半のまとめ・演習	
0.75	前期中間試験	
1.5	試験解説と復習	
6	離散時間システムの基礎	<input type="checkbox"/> 標本化、量子化、サンプリング定理、エイリアシング (C) <input type="checkbox"/> 差分方程式とシステム表現 (D) <input type="checkbox"/> ブロック図 (D) <input type="checkbox"/> システムの応答 (E, G)
1.5	前期後半のまとめ・演習	
0.75	前期末試験	
1.5	試験解説と復習	
3	システムの伝達関数と応答	<input type="checkbox"/> 伝達関数と周波数応答 (E, G) <input type="checkbox"/> 簡単なデジタルフィルタの応答 (E, G)
3	z変換と離散時間システム	<input type="checkbox"/> z変換 (F) <input type="checkbox"/> z変換とインパルス応答 (F, G)
3	デジタルフィルタ	<input type="checkbox"/> フィルタの分類、システムの安定性 (H) <input type="checkbox"/> FIR, IIR 型フィルタの構成と特徴 (H)
1.5	後期前半のまとめ・演習	
0.75	後期中間試験	
1.5	試験解説と復習	
4.5	デジタルフィルタの設計法	<input type="checkbox"/> FIR フィルタの設計法 (窓関数法) (H) <input type="checkbox"/> FIR フィルタの設計法 (Parks-McClellan 法) (H) <input type="checkbox"/> IIR フィルタの設計法 (双一次変換法) (H) <input type="checkbox"/> デジタルフィルタにおける誤差 (I) <input type="checkbox"/> 信号処理の現状や応用例 (J)
1.5	信号処理の応用	
1.5	後期後半のまとめ・演習	
0.75	後期末試験	
1.5	試験解説と復習	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
音響工学	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Acoustic Engineering	必修	講義	演習	実験・実習
		39	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山本 崇史	機械電子工学科・非常勤講師			yamamoto.takashi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-3 ME-4		B-3		(d) (1) (d) (3) (i)
授業概要	自動車、鉄道、家電製品などの機械構造物は、エンジンやモーターなどの部品が動いたり、外部から力が作用したりすることで振動し、それが原因で音が発生します。本講義では、構造物の振動や発生する騒音について基礎となる理論およびモデル化を習得することを目的としています。			
到達目標	<p>A. 1自由度振動系の固有振動数を求めることができる</p> <p>B. 1自由度振動系の周波数応答を求め図示することができる</p> <p>C. 振動における減衰の影響を理解できる</p> <p>D. 音の基本的な性質を理解できる</p> <p>E. 音と振動の関係を理解できる</p> <p>F. 質量則による遮音特性を求めることができる</p> <p>G. 吸音現象を理解できる</p>			
授業方法	講義形式で授業を行う。期末試験の出題範囲は半期の学習項目すべてが対象となる。			
教科書	必要に応じてプリント資料を配布する。			
補助教材	なし			
評価方法	各期末の点数 = 課題 (20%) + 中間試験 (30%) + 期末試験 (50%) ※課題は提出状況を評価する。 総合点数は前期末と後期末の点数の平均とし、60点以上で本科目を合格とする。 なお、必要に応じて補講や再試験等を行うことがあるが、その場合の総合評価は合格となる最低点とする。			
関連科目	物理、応用物理、微積分学、三角関数、複素数			
準備学習に関するアドバイス	音・振動ともにすべての工業製品で品質に直結する非常に重要な性能です。数式が若干複雑に見えるかもしれませんが、基本は運動方程式です。音・振動ともに実現象は視覚ではとらえにくいので、振動をイメージすることを心掛けて下さい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間の講義計画および評価方法を理解する
2	機械構造物の振動・騒音	<input type="checkbox"/> 身近にある機械製品が発生する振動や騒音について理解する
3	1自由度系の自由振動・固有振動数	<input type="checkbox"/> ばね・マス系の運動方程式から固有振動数を求める
3	1自由度の強制振動	<input type="checkbox"/> 周波数応答関数について理解し図示する
1.5	まとめと演習 (前期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 対策演習問題を理解する
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> 前期中間までの内容についての理解度を確認する
4	2自由度系の振動	<input type="checkbox"/> 2自由度系に展開して考えられるようにする
4	板の振動	<input type="checkbox"/> 2次元に展開して考えられるようにする
0.75	まとめと演習 (前期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 対策演習問題を理解する
1.5	前期末試験	<input type="checkbox"/> 前期の内容についての理解度を確認する
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 後期の内容でわかりにくい項目について補講する
2	音響の基本理論	<input type="checkbox"/> 音波の基本的な性質について理解する
3	自由空間における音響	<input type="checkbox"/> 大気空間中での音の伝播について理解する
3	閉空間における音響	<input type="checkbox"/> 室内で発生する音の共鳴現象について理解する
1.5	まとめと演習 (後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 対策演習問題を理解する
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 後期中間までの内容についての理解度を確認する
4	吸音・遮音	<input type="checkbox"/> 静粛性を確保するための基本的な考え方について理解する
4	音と振動の連成	<input type="checkbox"/> 振動と音の相互作用について理解する
1.5	まとめと演習 (後期末試験対策)	<input type="checkbox"/> 対策演習問題を理解する
0.75	後期末試験	<input type="checkbox"/> 後期の内容についての理解度を確認する
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 後期の内容でわかりにくい項目について補講する
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
創造設計学	ME・機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Creative Design	必修	講義	演習	実験・実習
15	30	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
森 幸男	機械電子工学科・教授	303	金曜日以外の平日	mori
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日以外の平日	tomita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-2 ME-3 ME-4 ME-5 ME-6 ME-7		A-5 B-3 D-1 D-2		(b) (d) (1) (d) (3) (d) (4) (e) (h) (i)
授業概要	1~3年において展開してきた創造演習に対する集大成である。体系的な手順により価値の創造を行うVE(Value Engineering)の考え方を学び、チーム活動の進め方を演習を通して体感する。なお、本科目は、VEリーダー受験資格要件である12時間以上のVEL研修に相当する。			
到達目標	<p>A. (基礎力) VEリーダーのもとにVE活動ができる。</p> <p>B. (基礎力) VEの基本・詳細ステップが理解できる。</p> <p>C. (基礎力) マネジメント思考が理解できる。</p> <p>D. (分析・抽出力) 問題点を明らかにし、仮説を立てて検討できる。</p> <p>E. (発展性) 過去に学んだ経験・知識を発展させ、最後まであきらめずにやり抜ける。</p> <p>F. (討論・論理的思考) アイディアを発散し、適切に取捨選択できる。</p> <p>G. (チームワーク) 制約条件を意識し、メンバーとともに計画通りに行動できる。</p> <p>H. (エンジニアリング・デザイン能力) デザインが結果に与える影響を客観的に評価できる。</p> <p>I. (エンジニアリング・デザイン能力) 複合的で解が複数存在する課題に対して妥当な解を導き出せる。</p>			
授業方法	座学および演習により教授する。適宜課題を課し提出を求める。			
教科書	VEリーダー認定試験問題集, 産業能率大学出版部, 日本バリュー・エンジニアリング協会編著			
補助教材	産能大学VE研究グループ(著), 「新・VEの基本」, 産業能率大学出版 はじめてのVE, 土屋裕著, 日本バリュー・エンジニアリング協会			
評価方法	<p>試験と課題(演習成果)により評価する。</p> <p>区間評価 = 試験素点(50%) + 課題点(50%)</p> <p>総合評価 = 区間評価の単純平均</p> <p>課題点は演習の成果物の内容、演習の参加度を複数の担当教員によって総合的に評価し採点する。</p> <p>課題が未提出の場合不合格となる。</p> <p>必要に応じて補講や再試験を行なうことがある。</p>			
関連科目	創造演習(1~3年次)			
準備学習に関するアドバイス	座学と実習を組み合わせた授業であるので、座学で理解しにくい内容は実習で体験的に理解するように心掛けること。すなわち、積極的な活動を望む。また、VEリーダーの受験にも是非チャレンジすべし。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> はじめに、授業の進め方
0.75	1. VEの基礎	<input type="checkbox"/> 企業経営とVE (B)
1.5		<input type="checkbox"/> VEの定義、VEの基本原則 (B)
1.5		<input type="checkbox"/> VE実施手順 (B)
1.5		<input type="checkbox"/> VEの適用対象と適用段階 (B)
1.5		<input type="checkbox"/> VEと情報 (B)
1.5		<input type="checkbox"/> グループ活動の心構え (B)
1.5	まとめ	前期前半で学んだ知識の振り返り
1.5	2. 演習(ホチキスリムーバーの改善)	
1.5	I. 機能定義	<input type="checkbox"/> リムーバーの情報収集(それは何か?) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 機能の定義の練習(その働きは何か?) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 機能の定義(部品ごとの機能を定義する) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 機能の整理(機能系統図の作成) (A, D, E, F, G, H, I)
3		<input type="checkbox"/> 機能系統図の確認、プレゼンテーション(討論) (A, D, E, F, G, H, I)
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導	試験解説と復習
1.5	II. 機能評価	<input type="checkbox"/> 機能別コスト分析(そのコストはいくらか?) (A, D, E, F, G, H, I)
0.75		<input type="checkbox"/> 機能の評価(その価値はどうか?) (A, D, E, F, G, H, I)
0.75		<input type="checkbox"/> 対象分野の選定 (A, D, E, F, G, H, I)
1.5	III. 代替案作成	<input type="checkbox"/> アイデア発想(他に同じ動きをするものはないか?) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 概略評価(そのコストはいくらか?) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 具体化(複数の代替案の作成) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 機能別代替案の総合化 (A, D, E, F, G, H, I)
0.75		<input type="checkbox"/> 特許情報プラットフォームJ-Plat Patを用いた選考アイデアの情報収集
0.75		<input type="checkbox"/> 詳細評価(それは必要な機能を確実に果たすか?) (A, D, E, F, G, H, I)
0.75		<input type="checkbox"/> 制約条件を満たすための代替案の洗練(詳細評価) (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> 提案書の作成 (A, D, E, F, G, H, I)
1.5	3. マネジメント論	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション (A, D, E, F, G, H, I)
1.5		<input type="checkbox"/> マネジメント思考(マネジメントの定義) (C)
1.5		<input type="checkbox"/> マネジメント思考(マネジメントの課題) (C)
3	学年末試験	<input type="checkbox"/> マネジメント思考(会議と合意) (C)
1.5		<input type="checkbox"/> 知的財産(創造設計における活用) (D, H, I)
1.5	学習指導	<input type="checkbox"/> 副次的内容(VEリーダー受験対策) (A, B, D, E, F, G)
0.75		後期内容の確認
1.5		試験解説と復習
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理学	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Physics	必修	講義	演習	実験・実習
45	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
伊藤 光雅	一般教育科・准教授	223	水曜: 13:00~17:00	itom
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
ME-3		B-1		(c)
授業概要	力学を中心とする物理学の基礎について解説し、エンジニアとしての素養を育成する。			
到達目標	A. 単位系・物理量を理解し、有効数字の計算を行うことができる B. 座標の基本であるデカルト座標、極座標を理解する。 C. 質点の運動を微積分を用いて扱うことができる。 D. 剛体の運動について基本的な理解ができる。 E. 振動を運動方程式を解くことによって解析できる。			
授業方法	力学の基本、力と運動、回転と剛体の各分野における基本的な用語と概念の理解、および簡単なモデルについて、数学計算、特に微積分を用いた理論的な考察を行う能力を養うこと。			
教科書	『第4版 基礎物理学』原康夫著 (学術図書出版社) および自作授業プリント			
補助教材	自作演習プリント			
評価方法	年間を「前期前半」、「前期後半」、「後期前半」、「後期後半」の4区間に分ける。各区間における評価は「演習」30%+「試験」70%とし、科目としての評価は各期の評価の平均とする。 つまり、前期前半の評価を「前期1」、前期後半の評価を「前期2」、後期前半の評価を「後期1」、後期後半の評価を「後期2」とすると、前期中間、前期末、後期中間、学年末の評価は以下の式で表される。 「前期中間の評価」=「前期1」「前期末の評価」=(「前期1」+「前期2」)/2 「後期中間の評価」=(「前期1」+「前期2」+「後期1」)/3 「学年末の評価」=(「前期1」+「前期2」+「後期1」+「後期2」)/4 また演習では、演習プリントの提出による採点結果により評価する。			
関連科目	1年から4年までの数学および物理			
準備学習に関するアドバイス	微積分、線型代数および代幾何など数学的知識を多用しますので、これまでに学んだ数学をよく見直すこと。工学を学ぶ上で必要な力学にウエイトを置き、演習問題を重視しますので演習プリントをしっかりとりまとめること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	導入ガイダンスおよび評価方法の説明	
1.5	物理量の表し方	<input type="checkbox"/> 国際単位系、物理量、次元を理解する。(A)
3	力	<input type="checkbox"/> 力の表し方、デカルト座標、極座標を理解する。(B)
3	運動の表し方	<input type="checkbox"/> ベクトル、導関数、微分、不定積分、定積分を理解する。(C)
1.5	いろいろな力	<input type="checkbox"/> 摩擦力、重力を理解する。(C,D)
3	速度と加速度	<input type="checkbox"/> 速度や加速度をベクトル表記できる。(A)
3	運動の法則	<input type="checkbox"/> 質量、速度、加速度の定量的関係を示すことができる。(C,D)
3	微積分を用いた距離、速度、加速度の表し方	<input type="checkbox"/> 微分方程式を理解する。(C,D)
1.5	慣性力	<input type="checkbox"/> 質量と加速度から慣性力を求めることができる。(C,D)
3	エネルギー	<input type="checkbox"/> 力学的エネルギー保存の法則を述べる。(C,D)
1.5	質点系の重心	<input type="checkbox"/> 質点系の重心を示すことができる。(C,D)
3	運動量	<input type="checkbox"/> 質量と速度から運動量を求めることができる。(C,D)
3	角運動量	<input type="checkbox"/> 質量、速度、回転半径から角運動量を求めることができる。(C,D,E)
1.5	固定軸まわりの回転	
3	慣性モーメント	<input type="checkbox"/> 剛体の回転運動の方程式を示すことができる。(C,D,E)
3	剛体の自由運動	<input type="checkbox"/> 慣性モーメントの性質を述べる。(C,D)
	3 定期試験 (4回)	<input type="checkbox"/> 剛体の自由運動の方程式を示すことができる。(C,D)
	3 小テスト (4回)	
0.75	学習指導期間 (2回)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
技術者倫理	ME:機械電子工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Engineering Ethics	必修	45		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日を除く	yoshino
齋藤 努	機械電子工学科・非常勤講師	318	木曜日	saitot
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
ME-1		A-4	(b)	
授業概要	技術者は社会に対し特別の責任を負う職業である。科学技術が社会や環境に及ぼす影響の理解と高い倫理観が要求される。技術と社会の関係を理解しつつ、技術者としてのあるべき姿を理解する			
到達目標	A. 科学技術が社会や自然環境に与える影響を理解する B. 技術者倫理の背景と必要性を理解する C. 環境倫理、研究者倫理を理解する D. 相互承認、JABEE、APECエンジニアを理解する E. 知的財産権を理解する F. 内部告発を理解する			
授業方法	座学を主体として講義を進める。グループ討議・発表、課題の出来具合を踏まえ座学で補強する。課題は、当日の授業内容に関することを中心とした問題を出題し、授業終了後に提出する。講義の一部はディスカッション方式で学生と対話しながら講義を進める場合もある。			
教科書	JABEE対応・技術者倫理入門 小出泰士著			
補助教材	なし 適宜プリント配布			
評価方法	各区間の評価方法は、試験(70%)＋授業内(課題、レポート)(30%)とする。総合評価は各区間の評点(100点満点)の単純平均とする。最終的な成績評価は、総合80点以上で「優」、70点以上で「良」、60点以上で「可」とする。			
関連科目	創造演習、法学、卒研			
準備学習に関するアドバイス	提出物は必ず所定の様式で期日を厳守して提出すること。自分の専門に捉われず技術全般、社会との関連性にも視野を広げる努力をすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	前期] 授業計画	<input type="checkbox"/> 授業計画、進め方、評価について
4.5	技術者倫理の必要性とその背景	<input type="checkbox"/> 倫理とはなにか (B) <input type="checkbox"/> 技術者倫理の必要性 (B) <input type="checkbox"/> 技術者倫理は3次元で考える (B)
4.5	技術は人のために(民生と軍事)	<input type="checkbox"/> 研究者と技術者の違い (A) <input type="checkbox"/> 技術が社会に与える影響 (A) <input type="checkbox"/> 技術の目的外利用を考える(討議、発表) (A, B)
0.75	前期中間試験	
1.5	専門職と公衆	<input type="checkbox"/> 専門職と公衆の関係 (B) <input type="checkbox"/> 専門職の3つの特色 (B) <input type="checkbox"/> 技術者は専門職か (B)
1.5	アカウントビリティ	<input type="checkbox"/> インフォームドコンセント (B) <input type="checkbox"/> アカウントビリティ (B)
3	リスクとヒューマンエラー	<input type="checkbox"/> 日常生活におけるリスクを考える(討議、発表) (B) <input type="checkbox"/> ヒューマンエラーと安全対策 (B)
3	研究者倫理(1)	<input type="checkbox"/> 卒研、実験の授業を例に考える (A, C) <input type="checkbox"/> データの重要性 (A, C) <input type="checkbox"/> 論文作成の原則 (FFP他) (A, C)
0.75	前期末試験	
【後期】		
4.5	技術者倫理と企業倫理	<input type="checkbox"/> 集団の中での倫理(会社の常識と世の中の常識) (B) <input type="checkbox"/> 経営的判断と技術的判断の対立(ジレンマ) (B) <input type="checkbox"/> リコール (B)
4.5	技術は人のために(環境)	<input type="checkbox"/> 社会負荷低減を考慮した設計を考える(討議、発表) (A, C) <input type="checkbox"/> 本当に環境にやさしいのか(フロン排出規制ほか) (A, C) <input type="checkbox"/> 技術の本来の利用目的 (A, C)
1.5	技術者資格の相互承認	<input type="checkbox"/> 技術士資格、JABEE、APECエンジニア (D) <input type="checkbox"/> 倫理綱領、社是、校是とはどのようなものか (D) <input type="checkbox"/> 守秘義務 (D)
0.75	後期中間試験	
3	知的財産権	<input type="checkbox"/> 知的財産権 (E) <input type="checkbox"/> 青色発光ダイオード訴訟事件の背景と影響 (E)
3	内部告発	<input type="checkbox"/> 内部告発の事例 (F) <input type="checkbox"/> 未改正の公益通報者保護法、告発前にすべきこと (F)
3	研究者倫理(2)	<input type="checkbox"/> 論文ねつ造の背景と過去の事例 (B, C) <input type="checkbox"/> ねつ造が与える影響 (B, C)
0.75	学年末試験	
3	学習指導期間	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
卒業研究	ME:機械電子工学科	5年	通年	8
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Graduation Research	必修	5	175	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日を除く	yoshino
森 幸男	機械電子工学科・教授	202・303	金曜日を除く	mori
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日を除く	tomita
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	水曜日を除く	kuroki
その他 2名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
ME-1 ME-2 ME-3 ME-4 ME-5 ME-6 ME-7	C-2 D-2 D-3		(f) (g) (h)	
授業概要	卒業研究は教員の下で少人数で実施する研究性の高い授業科目である。各教員の専門分野に基づいたテーマを選択し、学生自らがこれまでに学んだ専門の知識を利用して問題解決に取り組み、その成果を論文として取りまとめ、口頭発表する。独創性の涵養と専門知識の更なる向上を期待している。			
到達目標	A. テーマに沿って目標を設定することができる B. 研究プランを作成し、遂行することができる C. 得られた成果を評価し、改善策を考えることができる D. 得られた成果を論文としてまとめることができる E. 得られた成果を口頭によって発表することができる			
授業方法	各担当教員の研究室において、学生が主体となって問題解決に取り組む。研究室内での輪講や学外組織との交流会を行うこともある。			
教科書	特になし			
補助教材	特になし			
評価方法	研究態度、論文内容、口頭発表内容等を複数の教員で審査し、総合的に評価する。 [計算方法] 各教員の評価点から最大評価点と最小評価点を除いて求めた平均値を卒業研究の評価点とする。ただし指導教員の評価点は2人分として扱う。 [合格基準] 平均評価点が60点以上の場合、卒業研究を合格とする。			
関連科目	すべての専門科目			
準備学習に関するアドバイス	単位時間数は8単位科目であるが、時間割内では5校時分しか確保していない。不足の3校時分は学生が自ら積極的に活動し、補うことを期待している。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
180	各研究室での卒業研究活動 主要日程 11月4日～5日 文化祭 中間発表(ポスター形式) 2月9日 概要提出締切 2月10日 論文提出締切 2月13日～2月17日 卒研審査	○電子通信研究室(吉野) 平常時、災害時における電源確保、安否確認システム及び農業支援システムに関する研究等を行う。 ○信号処理研究室(森) 音響や画像、生体に関する信号処理の研究等を行う。 また教育工学として創造性教育、e-learning 開発等も行う。 ○制御システム研究室(富田) 電子機器が関係するシステムについて、制御の観点から捉えた研究等を行う。 ○電子セラミック研究室(黒木) 蛍光体や電子材料の合成および評価に関する研究等を行う。 ○情報通信工学研究室(吉田) 位置情報を利用したセンサネットワークに関する研究等を行う。 ○産業応用研究室(米盛) パワーエレクトロニクス応用として、IH クッキングヒーターと太陽光発電システムに関する研究等を行う。 他、他学科の研究室で卒業研究を行うことがある。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
180 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

V.情報工学科 必修専門科目

情報工学科(CS)専門科目 教育課程表(2012年度入学)

区分	科目名	履修 単位数	JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連													情報工学科の学習・教育目標との関連												専門科目A			専門科目B	関連科目							
			学年別単位数					A			B			C			D			CS												情報工学基 礎に関する科 目	計算機シス テムに関する科 目	情報処理に 関する科目	電気電子・通 信・システム に関する科目	情報工学に 関する演習・ 実験・実習科 目	工学の基礎と なる科目	工学及び用 意技術等に 関する科目	
			1年	2年	3年	4年	5年	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	1	2	3	4	5	6	7	8	9								10
必 修 科 目	情報社会論	1	1								◎																												
	情報工学概論	2	2								◎																												
	電気回路I	1	1								◎												◎																
	電気回路II	1	1								◎												◎																
	電気回路III	1		1							◎												◎																
	電気回路IV	1		1							◎												◎																
	電子回路	1			1						◎												◎																
	プログラミング基礎I	2	2									◎												◎															
	プログラミング基礎II	2		2								◎												◎															
	プログラミング基礎III	1		1								◎												◎															
	アルゴリズム論I	1			1							◎												◎															
	アルゴリズム論II	1			1							◎												◎															
	プログラミング応用I	1				1						◎											◎																
	プログラミング応用II	1				1						◎											◎																
	プログラミング応用III	1					1					◎											◎																
	プログラミング応用IV	1					1					◎											◎																
	数値計算I	1				1						◎											◎																
	数値計算II	1				1						◎											◎																
	ソフトウェア工学I	1					1					◎											◎																
	ソフトウェア工学II	1					1					◎											◎																
	論理回路I	1		1								◎												◎															
	論理回路II	1			1							◎												◎															
	デジタル回路設計	1			1							◎												◎															
	計算機概論I	1			1							◎												◎															
	計算機概論II	1			1							◎												◎															
	計算機アーキテクチャI	1				1						◎											◎																
計算機アーキテクチャII	1				1						◎												◎																
OS概論I	1					1					◎												◎																
OS概論II	1					1					◎												◎																
情報通信システムI	1			1							◎												◎																
情報通信システムII	1			1							◎												◎																
情報ネットワーク	1				1						◎												◎																
ビジネス情報システム	1				1						◎												◎																
経営工学概論	1			1								◎											◎																
オペレーションズ・リサーチI	1				1						◎												◎																
オペレーションズ・リサーチII	1				1						◎												◎																
数理工学概論	1					1					◎												◎																
品質管理論	1					1					◎												◎																
マーケティング論	1				1						◎												◎																
地理情報システム概論	1			1							◎												◎																
データベース概論	1				1						◎												◎																
データベースシステム	1				1						◎												◎																
人工知能I	1					1					◎												◎																
人工知能II	1					1					◎												◎																

情報工学科の学習・教育目標

CS-1	情報工学(情報数学、確率、アルゴリズム等)の基礎が理解できる。
CS-2	電気回路、論理回路などの電気に関する知識を基礎に、コンピュータハードウェア、計算機アーキテクチャに関して基礎的な理解ができる。
CS-3	プログラミング言語、コンパイラ、オペレーティングシステムの基礎が理解できる。
CS-4	情報ネットワーク環境、データベース環境の基礎的知識を理解できる。
CS-5	計算機ハードウェアを理解し、組み立て調整するとともに、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトウェアの導入調整や、トラブル発生時に問題箇所発見や調整を専門家の支援を基に実施できる。
CS-6	サーバ環境、ネットワーク環境やデータベース環境の構築や調整が専門家の支援を基に実施できる。
CS-7	複数のプログラミング言語を知っており、専門家の支援のもとでプログラミング支援環境を使ってソフトウェア開発を行うことができる。またプロダクトマインドの精神がなんであるか理解できている。
CS-8	情報分野が支える環境(経営情報など)の社会ニーズについて知識を持ち、応用ソフトウェアを利用してデータ処理を行うことができる。
CS-9	情報技術を使って、社会に必要な技術的な仕事に関する報告書を期日を守って提出する能力と習慣を身につける。
CS-10	プロジェクトなど、多人数で相互に協調してプロダクトを開発する状況で、スケジュールを立てて分担して取り組み、相互に連絡を取り、対応できる必要十分なコミュニケーションをすることができる。
CS-11	情報に関するシステム利用者と提供者の社会性と倫理規範を理解し、情報技術者として社会に貢献できる。
CS-12	国際的に広がって利用されるインターネット社会の中で情報発信・検索・交換を通じ、情報技術の国際社会に与える影響を十分理解し、国際社会に貢献できる。

JABEE基準1

(a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力
(d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力 (1)専門工学(融合・複合領域)の知識と能力 (2)実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (3)創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力 (4)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
(e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g)	自主的、継続的に学習する能力
(h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i)	チームで仕事をするための能力

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(A)	健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者
	(A-1) 健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
	(A-2) 過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
	(A-3) 近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
	(A-4) 我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
(A-5) 自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる	

(B)	自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者
	(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
	(B-2) 自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
(B-4) 実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる	

(C)	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者
	(C-1) 国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
	(C-2) コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる
(C-3) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる	

(D)	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者
	(D-1) 自律的に新たなことにチャレンジする心(プロダクトマインド)を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
	(D-2) 問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
(D-3) 実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報社会論	CS:情報工学科	1年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Information Society	必修	16.5	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
仙波 良	情報工学科・非常勤講師	305	木曜日	r-semba
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-8 CS-11		B-2		(d) (1)
授業概要	情報社会とは?、デジタル情報とは?、デジタル情報が出来るようになったか?。企業、社会、個人へのインパクトは?等を学び、デジタル情報に対する理解を深める。			
到達目標	A. 情報社会とはどのような社会かを説明できる B. デジタル情報とはどのようなもので、どのようなことができるようになったかを説明できる C. 企業における情報通信システムの利活用の事例を説明できる D. 社会における情報通信システムの利活用の事例を説明できる E. 生活における情報通信システムの利活用の事例を説明できる F. 日本の情報通信システムの状況を説明できる G. デジタル情報社会の課題を説明できる H. 与えられたテーマをグループで討議し、成果をまとめることができる			
授業方法	講義と質疑応答・意見交換 グループによる討議と成果発表及び意見交換			
教科書	プリント(講義のプロジェクタースライドコピー)			
補助教材	なし			
評価方法	中間評価: 中間試験(100%) 中間試験の素点をそのまま報告する 期末評価: 中間試験(35%) + 期末試験(35%) + グループ討議及び授業出席度(30%) 尚、場合によっては、再試験を行うこともある			
関連科目	経営工学概論、 ビジネス情報システム			
準備学習に関するアドバイス	毎週の講義で示す復習の項目について説明できるようにしておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	オリエンテーション	授業の概要、デジタル情報との関わり方のヒアリング
1.5	情報社会とデジタル情報	<input type="checkbox"/> 情報社会とは(A)、 <input type="checkbox"/> デジタル情報はどのようにやってできるか(B)
1.5	デジタル情報とは	<input type="checkbox"/> デジタル情報で何ができるようになったか(B)
3	ITの利活用: 企業	<input type="checkbox"/> 企業におけるIT利活用(C)
1.5	ITの利活用: 社会	<input type="checkbox"/> 社会におけるIT利活用(D)
1.5	ITの利活用: 生活	<input type="checkbox"/> 生活におけるIT利活用(E)
0.75	前期中間試験	
1.5	ITの利活用: 生活2、試験の解説	<input type="checkbox"/> 生活におけるIT利活用2(E)、 <input type="checkbox"/> 中間試験の解説
1.5	日本のIT状況	<input type="checkbox"/> 日本のIT整備状況及び活用状況、他国との比較(F)
1.5	デジタル情報社会の課題と今後	<input type="checkbox"/> デジタル情報社会の課題(G)
4.5	グループ討議	<input type="checkbox"/> グループ別の討議、成果発表、質疑応答(H)
0.75	前期期末試験	
1.5	試験の解説	期末試験の解説
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学概論	CS:情報工学科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Information Engineering	必修	6	0	39
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
石川 純夫	情報工学科・非常勤講師	402	授業後	ishikawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-5		B-2		(d)(1)
授業概要	情報工学科の学生にとって、ハードウェアに関する知識の修得は必須のものである。PCの解体・組立ての作業を通してハードウェアの知識と取扱いの技能を修得することを旨とする。また、本校での5年間を通して必要となるレポートの書き方についても学ぶ。			
到達目標	A. 授業配布資料に従い、グループと協調し主体的に授業に参加実施できる。 B. コンピュータや関連機器を、適切に分解・組み立てができる。 C. 必要事項を随時記録、報告書にまとめ期限内に提出することができる。			
授業方法	実習形式の授業である。授業開始時に指示された演習テーマをグループで行う。			
教科書	なし			
補助教材	授業内容に沿って、適宜教員制作のプリントを配布する。			
評価方法	<input type="checkbox"/> 本授業は定期試験を実施しない。 <input type="checkbox"/> 評価：実技試験(50%)＋実験レポート(30%)＋その他提出課題(20%)で評価する。 <input type="checkbox"/> 評価の対象となる条件は、以下の2つを全て満たしていることである。この条件を満たしていない場合は、評価点を0点とする。 条件1：実験レポートを提出し、受理されていること。 条件2：2回の実技試験を全て受験していること。			
関連科目	中学校における情報関連科目			
準備学習に関するアドバイス	初年度の専門科目ですが、不安な気持ちにならずに手を動かしてみましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業概要、評価方法、担当教員の紹介、学生自己紹介等。
3	報告書の作成について1	<input type="checkbox"/> 情報工学科における報告書(レポート)等の作成方法の解説。(C)
3	アナログマルチメータを用いた測定実験	<input type="checkbox"/> アナログマルチメータを用いた抵抗、電流、電圧の測定(A,B) <input type="checkbox"/> 測定報告書の作成(C)
3	OSのインストール実習	<input type="checkbox"/> Windows OSのインストール。(A,C)
6	PCの分解・組立て作業実習	<input type="checkbox"/> PCをパーツ単位に分解し、再び組立てる。(A,B,C)
3	実技試験1	<input type="checkbox"/> 実習授業で習得した知識と技術の確認。
3	ネットワークの設定	<input type="checkbox"/> ネットワークケーブルの作成・ネットワークへの接続。(A,B)
4.5	周辺機器の接続	<input type="checkbox"/> プリンターの接続(A,B) <input type="checkbox"/> デバイスドライバの入手とインストール(A,B)
4.5	PCパーツの増設	<input type="checkbox"/> ハードディスク、メモリの増設および設定(A,B)
3	報告書の作成について2	<input type="checkbox"/> 測定報告書の添削指導(C)
3	PCの分解・組立て作業実習	<input type="checkbox"/> PCをパーツ単位に分解し、再び組立てる。(A,B,C)
3	実習内容の確認	<input type="checkbox"/> 各グループで今までの実習内容を確認(A,B)
3	実技試験2	<input type="checkbox"/> 実習授業で習得した技術の確認。 <input type="checkbox"/>
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路 I	CS:情報工学科	1年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits I	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
CS-2		B-2	(d) (1)	
授業概要	電気回路分野のうちオームの法則・キルヒホッフの法則・電流による発熱・電池の種類について講義形式で理解する			
到達目標	A. オームの法則や抵抗の性質について資料をみながら概要を説明することができる。 B. キルヒホッフの法則について資料をみながら概要を説明することができる。 C. 電流による発熱について資料をみながら概要を説明することができる。 D. 電池の種類について資料をみながら概要を説明することができる。			
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのレポート課題を実施する。			
教科書	なし			
補助教材	電気電子の基礎, 高橋著, オーム社			
評価方法	中間評価=中間試験(70%)+課題その1(30%) 期末評価=期末試験(70%)+課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。			
関連科目	電気回路II、電気回路III、電気回路IV、電子回路、デジタル回路設計			
準備学習に関するアドバイス	連立方程式の計算を繰り返し行うので不安のある学生は計算方法を予習しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	授業概要の説明	
0.75	直流回路その1	<input type="checkbox"/> 電流・電位と電圧・抵抗とはなにか説明できる(A)
1.5	直流回路その2	<input type="checkbox"/> オームの法則を説明できる(A)
1.5	直流回路その3	<input type="checkbox"/> 抵抗の直列接続・並列接続の合成抵抗計算ができる(A)
1.5	直流回路その4	<input type="checkbox"/> 起電力と電圧降下を説明できる(A)
1.5	直流回路その5	<input type="checkbox"/> キルヒホッフの第一法則・第二法則を説明できる(B)
1.5	直流回路その6	<input type="checkbox"/> キルヒホッフの法則を使った方程式が作成できる(B)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
0.75	中間試験問題解説	
0.75	電流による発熱作用その1	<input type="checkbox"/> ジュールの法則が説明できる(C)
1.5	電流による発熱作用その2	<input type="checkbox"/> 電力・電力量とその単位についてを説明できる(C)
1.5	電流による発熱作用その3	<input type="checkbox"/> 熱量とその単位について説明できる(C)
1.5	電池その1	<input type="checkbox"/> 化学電池の種類とその用途について説明できる(D)
1.5	電池その2	<input type="checkbox"/> 電池の内部抵抗について説明できる(D)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	学習のまとめ	
	課題その1 (中間試験)	抵抗のデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
	課題その2 (期末試験)	電池のデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路Ⅱ	CS:情報工学科	1年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits 2	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
CS-2		B-2	(d) (1)	

授業概要	電気回路分野のうち磁気の性質と静電気の性質について理解する
到達目標	A. 磁気の性質について資料をみながら概要を説明することができる。 B. コイルと電磁力の性質について資料をみながら概要を説明することができる。 C. コンデンサと静電気の性質について資料をみながら概要を説明することができる。
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのレポート課題を実施する。
教科書	なし
補助教材	電気電子の基礎, 高橋著, オーム社
評価方法	中間評価＝中間試験(70%)+課題その1(30%) 期末評価＝期末試験(70%)+課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。
関連科目	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅲ、電気回路Ⅳ、電子回路、デジタル回路設計
準備学習に関するアドバイス	比例・反比例・指数の考え方を繰り返し使うので不安のある学生は計算方法等の予習をしておくこと。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業概要の説明	
0.75	磁気その1	<input type="checkbox"/> 磁気と磁気に関するクーロンの法則とはなにか説明できる(A)
1.5	磁気その2	<input type="checkbox"/> 磁界による力の合成を説明できる(A)
1.5	磁気その3	<input type="checkbox"/> 磁束と磁束密度の違いについて説明できる(A)
1.5	磁気と電流その1	<input type="checkbox"/> アンペールの右ねじの法則を説明できる(B)
1.5	磁気と電流その2	<input type="checkbox"/> コイルと電磁力の関係を説明できる(B)
1.5	磁気と電流その3	<input type="checkbox"/> DCモータの原理を説明できる(B)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験問題解説	
1.5	磁気と電流その4	<input type="checkbox"/> 電磁誘導と発電機の原理について説明できる(B)
1.5	静電気その1	<input type="checkbox"/> 静電力と静電気に関するクーロンの法則を説明できる(C)
1.5	静電気その2	<input type="checkbox"/> 静電容量の性質について説明できる(C)
1.5	静電気その3	<input type="checkbox"/> 直列・並列接続について説明できる(C)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	学習のまとめ	
	課題その1(中間試験)	コイルのデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
	課題その2(期末試験)	コンデンサのデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング基礎 I	CS:情報工学科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Programming 1	必修	講義	演習	実験・実習
1.5		43.5		0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	305	水、金の放課後	utsugi
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-3		B-2		(d) (1)
授業概要	C言語を通じてプログラミングの基礎を習得する。			
到達目標	A. 変数を用いた演算のプログラムを書くことができる。 B. 分岐 (if文) を理解し、プログラムを書くことができる。 C. 繰り返し (for文やwhile文) を理解し、プログラムを書くことができる。 D. 論理演算を理解し、プログラムを書くことができる。 E. 簡単な (1次元) 配列を理解し、プログラムを書くことができる。			
授業方法	簡単なプログラムを何度も組むことでプログラミングを習得するため、演習を中心に授業をおこなう。レポートは毎週提出とする。また、適宜、理解度確認のための小テストをおこなう。			
教科書	新訂 新C言語入門 シニア編 林 晴比古 著 (ソフトバンククリエイティブ)			
補助教材	授業で配布するプリント			
評価方法	毎週提出のレポートで100%評価する。 各レポートを100点満点とし、その平均点を評価点とする。 レポート内の上級課題や自由課題をこなすことにより、高得点が得られる。 レポートの遅刻提出は10点分の減点とする。 小テストでの評価はおこなわない。また中間評価もおこなわない。 隠れて授業に関係のない行動 (ブラウザゲーム、携帯ゲーム、絵画鑑賞、動画鑑賞、音楽鑑賞、等々) や演習室での飲食をしていた場合に大きく減点する (一回で不合格もありうる)。 レポートのコピーが発覚した場合はコピーした側もコピーさせた側も同じく大きく減点する (一回で不合格もありうる)。 「友人と一緒にやった」「友人に教えてもらいながらやった」という言い訳は通用しないので注意すること。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	演習で学んだことを利用して、自発的にプログラムを組むことを勧める。予習よりも復習に重点を置くのが良い。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
1.5	プログラミングの基本	
4.5	変数と演算	<input type="checkbox"/> 変数と演算を用いたプログラミングができる (A)
6	分岐を用いたプログラミング	<input type="checkbox"/> 分岐を用いたプログラミングができる (B)
1.5	総合演習その1	
10.5	繰り返しを用いたプログラミング	<input type="checkbox"/> 繰り返しを用いたプログラミングができる (C)
1.5	総合演習その2	
6	論理演算を用いたプログラミング	<input type="checkbox"/> 論理演算を用いたプログラミングができる (D)
10.5	配列を用いたプログラミング	<input type="checkbox"/> 配列を用いたプログラミングができる (E)
1.5	総合演習その3	
合計	試験結果 : 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績 : 評価点 [] 点 評定 : <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路Ⅲ	CS:情報工学科	2年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits 3	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	電気回路のうち手動スイッチ・電子式スイッチ・機械式スイッチをつかった回路について資料をみながら概要を説明することができる。			
到達目標	A. 電気回路のうち手動スイッチについて資料をみながら概要を説明することができる。 B. 電気回路のうち機械式スイッチについて資料をみながら概要を説明することができる。 C. 電気回路のうち電子式スイッチについて資料をみながら概要を説明することができる。			
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのレポート課題を実施する。			
教科書	なし			
補助教材	電気電子の基礎, 高橋著, オーム社			
評価方法	中間評価＝中間試験(70%)+課題その1(30%) 期末評価＝期末試験(70%)+課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。			
関連科目	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、電気回路Ⅳ、電子回路、デジタル回路設計			
準備学習に関するアドバイス	電気回路で使うスイッチ部品の端子や実際の価格を見たことのない学生はWeb上のカタログ等を探しておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業概要の説明	
0.75	回路記号	<input type="checkbox"/> スイッチ/ダイオード/トランジスタの回路記号を理解できる(A)(B)○
1.5	手動スイッチと論理回路	<input type="checkbox"/> 手動スイッチと論理回路の関係を説明できる(A)
1.5	電磁リレー(1)原理	<input type="checkbox"/> スイッチを電磁石で動かす原理を説明できる(B)
1.5	電磁リレー(2)NOT回路	<input type="checkbox"/> スイッチを使ったNOT回路について説明できる(A)(B)
1.5	電磁リレー(3)NAND回路	<input type="checkbox"/> スイッチを使ったNAND回路について説明できる(A)(B)
1.5	電磁リレー(4)AND・OR回路	<input type="checkbox"/> スイッチを使ったAND・OR回路について説明できる(A)(B)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験問題解説	
1.5	ダイオードその1	<input type="checkbox"/> ダイオードの静特性グラフを読み取ることができる(C)
1.5	ダイオードその2	<input type="checkbox"/> ダイオードを使ったOR回路/AND回路の動作を説明できる(C)
1.5	NPN形トランジスタその1	<input type="checkbox"/> NPN形トランジスタの静特性グラフを読みとることができる(C)
1.5	NPN形トランジスタその2	<input type="checkbox"/> NPN形トランジスタを使ったNOT回路の動作を説明できる(C)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	学習のまとめ	
	課題その1(中間試験)	コイルのデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
	課題その2(期末試験)	コンデンサのデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気回路Ⅳ	CS:情報工学科	2年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric Circuits 4	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
CS-2		B-2	(d) (1)	

授業概要	電気回路分野のうちコイルの性質・コンデンサの性質・交流回路計算について講義形式で理解する
到達目標	A. 電気回路のうちコイルの性質について資料をみながら概要を説明することができる。 B. 電気回路のうちコンデンサの性質について資料をみながら概要を説明することができる。 C. 電気回路のうちベクトル図と交流回路計算について資料をみながら概要を説明することができる。
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのレポート課題を実施する。
教科書	なし
補助教材	電気電子の基礎, 高橋著, オーム社
評価方法	中間評価＝中間試験(70%)＋課題その1(30%) 期末評価＝期末試験(70%)＋課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。
関連科目	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、電気回路Ⅲ、電子回路、デジタル回路設計
準備学習に関するアドバイス	電気回路で使うスイッチ部品の端子や実際の価格を見たことのない学生はWeb上のカタログ等を探しておくこと

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業概要の説明	
0.75	コイルその1	<input type="checkbox"/> コイルの誘導リアクタンスの計算をすることができる(A)
1.5	コイルその2	<input type="checkbox"/> 交流の周波数に対する誘導リアクタンスのグラフの描画ができる(A)
1.5	コイルその3	<input type="checkbox"/> 正弦波電圧に対するL回路の電流グラフを描画できる(A)
1.5	コンデンサその1	<input type="checkbox"/> コンデンサの容量リアクタンスの計算をすることができる(B)
1.5	コンデンサその2	<input type="checkbox"/> 交流の周波数に対する容量リアクタンスのグラフの描画ができる(B)
1.5	コンデンサその3	<input type="checkbox"/> 正弦波電圧に対するC回路の電流グラフを描画できる(B)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験問題解説	
1.5	RL直列回路	<input type="checkbox"/> RL直列回路における合成インピーダンスの計算ができる(C)
1.5	RC直列回路	<input type="checkbox"/> RC直列回路における合成インピーダンスの計算ができる(C)
1.5	RLC直列回路	<input type="checkbox"/> RLC直列回路における合成インピーダンスの計算ができる(C)
1.5	RLC並列回路	<input type="checkbox"/> RLC並列回路における合成インピーダンスの逆数の計算ができる(C)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	学習のまとめ	
	課題その1(中間試験)	オシロスコープのデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
	課題その2(期末試験)	インピーダンスが表記されている製品のデータシートを1つ調査する。 その中で使われている専門用語を3つ選び解説する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング基礎Ⅱ	CS:情報工学科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Programming 2	必修	講義	演習	実験・実習
1.5	43.5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	305	水、金の放課後	utsugi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-3		B-2		(d) (1)
授業概要	C言語を通じて関数や構造体などの基本的な機能を使用したプログラミングを習得する。			
到達目標	<p>A. 通常クラス：プログラミングにおける関数を理解し、プログラムを書くことができる。 初級クラス：逐次実行のプログラムを理解し、書くことができる。</p> <p>B. 通常クラス：構造体を理解し、プログラムを書くことができる。 初級クラス：条件分岐のあるプログラムを理解し、書くことができる。</p> <p>C. 通常クラス：ファイル入出力を理解し、プログラムを書くことができる。 初級クラス：繰り返しのあるプログラムを理解し、書くことができる。</p> <p>D. 通常クラス：配列やポインタを引数とする関数を理解し、プログラムを書くことができる。 初級クラス：配列を理解し、プログラムを書くことができる。</p>			
授業方法	簡単なプログラムを何度も組むことでプログラミングを習得するため、演習を中心に授業をおこなう。レポートはほぼ毎週提出とする。			
教科書	新訂 新C言語入門 シニア編 林 晴比古 著 (ソフトバンククリエイティブ)			
補助教材	授業で配布するプリント			
評価方法	<p>クラスを通常クラスと初級クラスに分ける。 最初のガイダンスで希望者は初級クラスを選択することができる。</p> <p>通常クラスのレポートは講義課題を60点を基準とし、通常課題満点で+20点、さらに上級課題満点で+20点とし、遅刻レポートは-10点とする。すべてのレポートの平均点を最終の評価点とする。 ただし、講義課題は全て正解することが合格の条件である。</p> <p>初級クラスは、評価は69点満点とする。毎週演習後にレポートを提出し、提出されたレポートの平均点を評価点とする。</p> <p>いずれのクラスにおいても中間評価はおこなわない。</p>			
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	演習で学んだことを利用して、自発的にプログラムを組むことを勧める。予習よりも復習に重点を置くのが良い。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
6	関数	<input type="checkbox"/> 関数を用いたプログラミングができる。(A)
	初級クラス：逐次実行のプログラム	<input type="checkbox"/> 初級クラス：逐次実行のプログラムが読める、書ける。(A)
6	配列復習	<input type="checkbox"/> 簡単なソートを用いたプログラミングを理解して以降の演習に備える。
	初級クラス：条件分岐のプログラム	<input type="checkbox"/> 初級クラス：条件分岐のあるプログラムが読める、書ける。(B)
6	構造体	<input type="checkbox"/> 構造体を用いたプログラミングができる。(B)
	初級クラス：繰り返しのプログラム	<input type="checkbox"/> 初級クラス：繰り返しのあるプログラムが読める、書ける。(C)
6	ファイル入出力	<input type="checkbox"/> ファイル入出力を用いたプログラミングができる。(C)
	初級クラス：配列	<input type="checkbox"/> 1次元配列を理解し、プログラムが読める(D)
6	ポインタと関数	<input type="checkbox"/> ポインタを引数とする関数を用いたプログラミングができる。(D)
	初級クラス：配列	<input type="checkbox"/> 1次元配列を用いたプログラムが書ける(D)
6	配列と関数	<input type="checkbox"/> 配列を引数とする関数を用いたプログラミングができる。(D)
	初級クラス：総合演習	<input type="checkbox"/> 習得した内容のプログラムを読む、書く(A、B、C、D)
7.5	総合演習	<input type="checkbox"/> 習得した内容を駆使してプログラムを作成する。(A、B、C、D)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング基礎Ⅲ	CS:情報工学科	2年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Programming 3	必修	講義	演習	実験・実習
0.75	21.75	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	305	水、金の放課後	utsugi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-3		B-2		(d) (1)
授業概要	これまでに習得したC言語プログラミングの技術を用いて規模の大きめのプログラムを作成する。			
到達目標	<p>A. 通常クラス：指示内容に沿ったプログラムを書くことができる。 初級クラス：プログラミングにおける関数を理解し、プログラムを書くことができる。</p> <p>B. 通常クラス：プログラムの動作を記述した簡単な仕様書を書くことができる。 初級クラス：ファイル入出力を理解し、プログラムを書くことができる。</p> <p>C. 通常クラス：プログラムの動作確認ができる。 初級クラス：構造体を理解し、プログラムを書くことができる。</p>			
授業方法	指示に従って規模の大きめのプログラムを複数の週にまたがって作成する。 また、作成したプログラムの簡単な仕様書も作成する。			
教科書	新訂 新C言語入門 シニア編 林 晴比古 著 (ソフトバンククリエイティブ)			
補助教材	授業で配布するプリント			
評価方法	<p>クラスを通常クラスと初級クラスに分ける。 最初のガイダンスで希望者は初級クラスを選択することができる。</p> <p>通常クラスのレポートはプログラムを60点、仕様書を40点とする。 遅刻レポートは-10点とする。すべてのレポートの平均点を最終の評価点とする。</p> <p>初級クラスは評価は69点満点とする。毎週演習後にレポートを提出し、提出されたレポートの平均点を評価点とする。</p> <p>いずれのクラスにおいても中間評価はおこなわない。</p>			
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ、プログラミング基礎Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	これまでに習得したC言語プログラミングの技術を全て駆使できるようになっていることが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
2.25	仕様書作成演習	<input type="checkbox"/> 簡単な仕様書を書くことができる。(B)
6	プログラム作成演習その1	<input type="checkbox"/> 初級クラス：関数を用いたプログラムを読む、書く。(A) <input type="checkbox"/> 指示内容に沿ったプログラムとその仕様書を書くことができる。(A、B)
1.5	プログラム動作確認その1	<input type="checkbox"/> 初級クラス：関数を用いたプログラムを読む、書く。(A) <input type="checkbox"/> 他人が作成したプログラムの動作確認ができる。(C)
10.5	プログラム作成演習その2	<input type="checkbox"/> 初級クラス：ファイル入出力を用いたプログラムを読む、書く。(B) <input type="checkbox"/> 指示内容に沿ったプログラムとその仕様書を書くことができる。(A、B)
1.5	プログラム動作確認その2	<input type="checkbox"/> 初級クラス：構造体を用いたプログラムを読む、書く。(C) <input type="checkbox"/> 他人が作成したプログラムの動作確認ができる。(C) <input type="checkbox"/> 初級クラス：構造体を用いたプログラムを読む、書く。(C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
論理回路 I	CS:情報工学科	2年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Logic Circuits 1	必修	19.5	3	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	コンピュータをはじめとするデジタル回路の構成要素である論理回路の基本的な事項について解説する。具体的には、2進数による数値表現・加減算、基本論理演算、論理回路と論理式の関係、およびブール代数について学習する。			
到達目標	A. 2進数から10進数の相互変換、2進数の演算ができる B. 論理回路から論理式を導き、真理値表を作成することができる C. 論理式から論理回路を作図することができる D. ブール代数の公理・定理を理解し、論理式の変形や定理の証明ができる E. 真理値表から論理式を導くことができる F. カルノー図を用いて論理式の簡単化ができる			
授業方法	主として講義を行い、演習や課題を出題する。			
教科書	「基礎から学べる論理回路」森北出版			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = "中間評価"×0.35 + 期末試験素点×0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする)			
関連科目	論理回路 II			
準備学習に関するアドバイス	本授業に先行して情報工学実験 I にて実習が行われている。 実験指導書を読み返し、復習を行うこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
1.5	2進数の変換と演算	<input type="checkbox"/> 2進数 (A)
3	論理回路と真理値表	<input type="checkbox"/> 論理回路から論理式の導出と真理値表の作成 (B) <input type="checkbox"/> 論理回路の作図 (C)
3	ブール代数とその公理	<input type="checkbox"/> ブール代数 (D)
1.5	試験前演習	
0.75	中間試験	
1.5	試験解説、中間までのまとめ	
1.5	最小項と真理値表	<input type="checkbox"/> 真理値表から論理式の導出 (E)
4.5	カルノー図と論理式の簡単化	<input type="checkbox"/> カルノー図 (F)
1.5	試験前演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験解説、まとめ	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学実験 I	CS:情報工学科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments 1	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜日以外 9-17時	h-kawamura
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	305	水・金放課後	utsugi
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
CS-2 CS-9	B-4 D-3	(d) (2) (g)		
授業概要	実験を通じて情報工学科で学習する専門科目への理解を深める。 個人作業では自主性を、グループ作業では協調性を養う。 さらに、実験テーマごとにレポートを作成することでレポート作成の基本を学ぶ。			
到達目標	A. 実験指導書の内容を理解し実験を実施できる。 B. 実験機器を適切に使う事ができる。 C. 提出期日までに決められた形式に従って実験結果を報告書にまとめることができる。			
授業方法	実験は個人や数名のグループで実施する。 二週間で一つのテーマに取り組み、その結果をレポートとして提出する。 また、校外見学を予定している。			
教科書	実験指導書を配布する。			
補助教材	実験指導書の参考文献欄を参照する。			
評価方法	評価： 出席点20点+レポート評価点80点=100点満点とする。(※中間は評価を出さない) 出席点=20×出席回数/15とする。 各実験に対する全6通のレポート(様式50点+内容50点=100点満点) 評価点の平均点×0.8とする。 期日に遅れたレポートより再提出のレポートの評価点を採点結果×0.75とする。 ただし、未提出のレポートがある場合は、前述の評価点によらず0点となり不合格とする。 履修上の注意： 本実験が不合格の場合、情報工学実験IIが不合格となる可能性が高くなる。 情報工学実験IIを履修する際にシラバスの評価方法欄を参照すること。			
関連科目	情報工学概論			
準備学習に関するアドバイス	実験指導書を熟読し安全に実験を遂行する。 実験内容・手順・結果を記録・整理するために、実験ノートを活用すること。 実験ノートを用いて適切な報告書作成を心掛けること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス	実験テーマ、報告書作成の指針、評価方法について説明
24	第一ラウンド 211 プログラミング	EV3プログラミング入門 (A, B, C) <input type="checkbox"/> EV3の仕組みを理解し、簡単なプログラムで制御できる <input type="checkbox"/> DCモータの特性をグラフで表現できる
	212 論理回路	論理演算と論理ゲート (A, B, C) <input type="checkbox"/> 論理回路シミュレータQuartusIIの基本操作ができる <input type="checkbox"/> ブール代数演算の基礎を理解し、QuartusII上で論理ゲートで実現できる
	213 電気回路	直流回路 (A, B, C) <input type="checkbox"/> オームの法則を確かめることを通じて内部抵抗を理解できる <input type="checkbox"/> 分圧分圧の法則を確かめることを通じて誤差計算を理解できる
	214 半導体回路	ダイオードと論理回路 (A, B, C) <input type="checkbox"/> ダイオードの特性を理解できる <input type="checkbox"/> ダイオードを用いて論理ゲートを構成できる
12	第二ラウンド 221 プログラミング	カラーセンサとその応用 (A, B, C) <input type="checkbox"/> カラーセンサの原理と理解し、簡単なプログラムで利用できる <input type="checkbox"/> カラーセンサの特性をグラフで表現できる
	222 論理回路	論理式の簡単化 (A, B, C) <input type="checkbox"/> 論理式の簡単化手法を理解し利用できる <input type="checkbox"/> QuartusII上で簡単化が論理回路に与える影響を確認できる
	223 電気回路	コイルとコンデンサ (A, B, C) <input type="checkbox"/> 交流電源とオシロスコープの使い方を理解できる <input type="checkbox"/> コイルとコンデンサで電流に対して電圧の位相がずれることを理解できる
	224 半導体回路	トランジスタと論理回路 (A, B, C) <input type="checkbox"/> トランジスタの特性を理解できる <input type="checkbox"/> トランジスタを用いて論理ゲートを構成できる
3	レポート指導	提出された報告書(レポート)のレビュー (C)
3	校外見学	※見学先未定(別途連絡をする)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学実験I	CS:情報工学科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments 2	*必修	0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜日以外 9-17時	h-kawamura
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	305	水・金放課後	utsugi
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応		
CS-2 CS-9	B-4 D-3	(d) (2) (g)		
授業概要	実験を通じて情報工学科で学習する専門科目への理解を深める。 個人作業では自主性を、グループ作業では協調性を養う。 さらに、実験テーマごとにレポートを作成することでレポート作成の基本を学ぶ。			
到達目標	A. 実験指導書の内容を理解し実験を実施できる。 B. 実験機器を適切に使う事ができる。 C. 提出期日までに決められた形式に従って実験結果を報告書にまとめることができる。			
授業方法	実験は個人や数名のグループで実施する。 二週間で一つのテーマに取り組み、その結果をレポートとして提出する。 また、5年プログラミング応用の最終発表の見学を予定している。			
教科書	実験指導書を配布する。			
補助教材	実験指導書の参考文献欄を参照する。			
評価方法	評価： 出席点20点+レポート評価点80点=100点満点とする。(※中間は評価を出さない) 出席点=20×出席回数/15とする。 各実験に対する全6通のレポート(様式50点+内容50点=100点満点)評価点の平均点×0.8とする。 期日に遅れたレポートより再提出のレポートの評価点を採点結果×0.75とする。 ただし、※未提出レポートがある場合 ※情報工学実験Iが不合格でその原因が解消されていない場合 前述の評価によらず不合格とする。 履修上の注意： 本授業は次年度に進級する上で最低限必要であると考えられる知識・能力を 習得するための科目(学年終了要件科目)である。			
関連科目	情報工学概論、情報工学実験I			
準備学習に関するアドバイス	実験指導書を熟読し安全に実験を遂行する。実験内容・手順・結果を記録・整理するために、実験ノートを活用すること。実験ノートを用いて適切な報告書作成を心がける。また、情報工学実験Iが不合格の場合は、別途配布される指導通知に従い、不合格の原因を解消しなければならない。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス	実験テーマ、報告書作成の指針、評価方法について説明
24	第二ラウンド 221 プログラミング	カラーセンサとその応用 (A, B, C) <input type="checkbox"/> カラーセンサの原理を理解し、簡単なプログラムで利用できる <input type="checkbox"/> カラーセンサの特性をグラフで表現できる
	222 論理回路	論理式の簡単化 (A, B, C) <input type="checkbox"/> 論理式の簡単化手法を理解し利用できる <input type="checkbox"/> QuartusII上で簡単化が論理回路に与える影響を確認できる
	223 電気回路	コイルとコンデンサ (A, B, C) <input type="checkbox"/> 交流電源とオシロスコープの使い方を理解できる <input type="checkbox"/> コイルとコンデンサで電流に対して電圧の位相がずれることを理解できる
	224 半導体回路	トランジスタと論理回路 (A, B, C) <input type="checkbox"/> トランジスタの特性が理解できる <input type="checkbox"/> トランジスタを用いて論理ゲートを構成できる
12	第三ラウンド 231 プログラミング	ライトレールと超音波センサの利用 (A, B, C) <input type="checkbox"/> ライトレールの原理を理解し、プログラムで実装できる <input type="checkbox"/> 超音波センサの原理を理解し、簡単なプログラムで利用できる
	232 論理回路	組み合わせ論理回路の設計 (A, B, C) <input type="checkbox"/> 組み合わせ論理回路の設計手順を理解し実施できる <input type="checkbox"/> 設計の各段階で論理回路シミュレータの有用性を確認できる
	233 電気回路	交流回路 (A, B, C) <input type="checkbox"/> 交流回路(直列回路)の周波数に対する合成インピーダンスの性質を理解できる <input type="checkbox"/> 交流回路(並列回路)の周波数に対する合成インピーダンスの性質を理解できる
	234 半導体回路	組み合わせ論理回路 (A, B, C) <input type="checkbox"/> 汎用ロジックICの動作が理解できる <input type="checkbox"/> 汎用ロジックICを用いて組み合わせ論理回路を構成できる
3	レポート指導	提出された報告書(レポート)のレビュー (C)
3	見学	5年プログラミング応用の最終発表を見学する
合計 45 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電子回路	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electronic Circuits	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)

授業概要	半導体に関連する電子回路について講義形式で理解する
到達目標	A. ダイオードを利用した電子回路について資料をみながら概要を説明することができる。 B. バイポーラトランジスタを利用した電子回路について資料をみながら概要を説明することができる。 C. 電界効果トランジスタ(FET)を利用した電子回路について資料をみながら概要を説明することができる。
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのレポート課題を実施する。
教科書	なし
補助教材	電気電子の基礎, 高橋著, オーム社
評価方法	中間評価=中間試験(70%)+課題その1(30%) 期末評価=期末試験(70%)+課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。
関連科目	電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱ、電気回路Ⅲ、電気回路Ⅳ、デジタル回路設計
準備学習に関するアドバイス	ダイオード・トランジスタの各素子や実際の価格を見たことのない学生はWeb上のカタログ等を探しておくこと。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	業概要の説明	
0.75	回路記号	<input type="checkbox"/> 半導体素子に関する回路記号を説明できる(A)(B)(C)
1.5	ダイオード	<input type="checkbox"/> ダイオードの動作原理と静特性グラフを読み取ることができる(A)
1.5	ダイオードと論理回路	<input type="checkbox"/> ダイオードを使ったOR回路/AND回路の動作を説明できる(A)
1.5	バイポーラトランジスタその1	<input type="checkbox"/> NPN・PNPトランジスタの動作原理について説明できる(B)
1.5	バイポーラトランジスタその2	<input type="checkbox"/> NPN・PNPトランジスタの静特性グラフの読み取ることができる(B)
1.5	バイポーラトランジスタと論理回路	<input type="checkbox"/> NPN・PNPトランジスタを使った論理回路の動作を説明できる(B)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験問題解説	
1.5	FETその1	<input type="checkbox"/> nMOS-FET, pMOS-FETの動作原理について説明できる(C)
1.5	FETその2	<input type="checkbox"/> nMOS-FET, pMOS-FETの静特性グラフを読み取ることができる(C)
1.5	FETと論理回路その1	<input type="checkbox"/> MOS-FETを使ったNOT・NAND回路の動作を説明できる(C)
1.5	FETと論理回路その2	<input type="checkbox"/> MOS-FETを使ったAND回路・OR回路の動作を説明できる(C)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	学習のまとめ	
	課題その1(中間試験)	NPN形・PNP形トランジスタのデータシートを1つずつ(計2つ)調査する。 その中で使われている専門用語を3つずつ(計6つ)選び解説する。
	課題その2(期末試験)	MOS-FET, pMOS-FETのデータシートを1つずつ(計2つ)調査する。 その中で使われている専門用語を3つずつ(計6つ)選び解説する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
アルゴリズム論 I	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Algorithms 1	必修	講義	演習	実験・実習
7.5		15		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-1		B-2		(d) (1)
授業概要	効率の良いプログラムを作成する上で、アルゴリズムとデータ構造の理解は重要である。本講義では、基本的なデータ構造とアルゴリズムについて学習する。			
到達目標	A. アルゴリズムの考え方を正しく理解できる。 B. アルゴリズムの計算量を理解できる。 C. 簡単なアルゴリズムを自分でトレースできる。 D. 配列、スタックと待ち行列 (キュー) が理解できる。 E. スタックと待ち行列の簡単なプログラムが理解できる。			
授業方法	講義と演習にて実施する			
教科書	なし			
補助教材	Javaデータ構造とアルゴリズム基礎講座 長尾和彦著 技術評論社, データ構造とアルゴリズム 五十嵐健夫著 数理工学社			
評価方法	・ 中間試験、期末試験と、演習課題によって評価する。割合は演習課題30%、試験70%で評価。 ・ 試験の評価は中間と期末の平均点で行う。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法 プログラムの書き方・開発環境について
9	アルゴリズムと計算量	<input type="checkbox"/> アルゴリズムとは何か (A) <input type="checkbox"/> 構造とフローチャート (A) <input type="checkbox"/> 計算量の評価 (B)
0.75	中間試験	
0.75	試験解説	前半の総まとめ
5	アルゴリズムの設計法	<input type="checkbox"/> カズク法 (B, C) <input type="checkbox"/> 欲張り法 (B, C) <input type="checkbox"/> 分割統治法 (B, C) <input type="checkbox"/> 動的計画法 (B, C)
4	配列、スタック、キュー	<input type="checkbox"/> 配列 (D, E) <input type="checkbox"/> スタック (D, E) <input type="checkbox"/> キュー (D, E)
0.75	期末試験	
0.75	試験解説、総まとめ、個別指導	後半の総まとめ、個別指導
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
アルゴリズム論Ⅱ	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Algorithms 2	必修	講義	演習	実験・実習
7.5	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-1		B-2		(d) (1)
授業概要	効率の良いプログラムを作成する上で、アルゴリズムとデータ構造の理解は重要である。本講義では、基本的なデータ構造とアルゴリズムについて学習する。			
到達目標	A. リスト構造が理解できる B. 2分木の走査法 (2分木の各ノードをたどるアルゴリズム) が理解できる。 C. 整列アルゴリズム (バブルソート、選択ソート、挿入ソート、クイックソート、マージソート、ヒープソート) が理解できる。			
授業方法	講義と演習にて実施する			
教科書	なし			
補助教材	Javaデータ構造とアルゴリズム基礎講座 長尾和彦著 技術評論社, データ構造とアルゴリズム 五十嵐健夫著 数理工学社			
評価方法	・ 中間試験、期末試験と、演習課題によって評価する。割合は演習課題30%、試験70%で評価。 ・ 試験の評価は中間と期末の平均点で行う。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法
3	リスト	<input type="checkbox"/> 単方向リスト (A) <input type="checkbox"/> 双方向リスト (A)
6	ソート	<input type="checkbox"/> バブルソート (C) <input type="checkbox"/> 選択ソート (C) <input type="checkbox"/> 挿入ソート (C) <input type="checkbox"/> クイックソート (C) <input type="checkbox"/> マージソート (C)
0.75	中間試験	
0.75	試験解説	前半の総まとめ
8.25	木構造	<input type="checkbox"/> 木構造 (B) <input type="checkbox"/> 二分木 (B) <input type="checkbox"/> 二分探索木 (B) <input type="checkbox"/> ヒープ木 (B) <input type="checkbox"/> ヒープソート (B)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説 総まとめ、個別指導	総まとめ、個別指導
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
論理回路Ⅱ	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Logic Circuits 2	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	入出力の条件に合った動作をする論理回路(組み合わせ回路・順序回路)について学習する.			
到達目標	A. ブロック図やタイミングチャートが理解できる B. 回路の簡単化が理解できる C. 組み合わせ回路について要求に沿った設計を行うことができる D. 順序回路について要求に沿った設計を行うことができる			
授業方法	主として講義を行い、課題を出題する.			
教科書	「基礎から学べる論理回路」森北出版			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う. 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = "中間評価"×0.35 + 期末試験素点×0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする)			
関連科目	論理回路Ⅰ			
準備学習 に関する アドバイス	論理回路Ⅰで学んだ事項について復習を行うこと.			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
0.75	ブロック図とタイミングチャート	<input type="checkbox"/> ブロック図とタイミングチャートの記号要素を理解できる (A)
3	カルノー図	<input type="checkbox"/> 論理式からカルノー図を作成できる (B) <input type="checkbox"/> カルノー図における論理式の簡単化ができる (B)
6	組み合わせ回路	<input type="checkbox"/> エンコーダ回路・デコーダ回路の動作を説明できる (C) <input type="checkbox"/> セレクタ回路の動作を説明できる (C) <input type="checkbox"/> 加減算回路の動作を説明できる (C)
0.75	中間試験	
0.75	試験解説	
0.75	組み合わせ回路と順序回路	<input type="checkbox"/> 組み合わせ回路と順序回路について説明できる (C, D)
1.5	フリップフロップ	<input type="checkbox"/> フリップフロップについて説明できる (D)
1.5	状態遷移図	<input type="checkbox"/> 状態遷移図の記号要素を理解できる (D)
4.5	順序回路	<input type="checkbox"/> メモリ回路(レジスタ)について説明できる (D) <input type="checkbox"/> カウンタ回路について説明できる (D) <input type="checkbox"/> CPUの構成要素について説明できる (D)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説, まとめ	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デジタル回路設計	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Digital Circuit Design	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	22.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d)(1)
授業概要	簡単な論理回路を与えられた仕様に基づき設計し、開発ツールを用いてFPGA(Field Programmable Gate Array)上に実装する。回路図エディタによる記述、論理回路シミュレータによる動作確認、実装回路での動作検証を体験する。			
到達目標	A. 組み合わせ回路を開発ツール上で作成・検証し、FPGAに実装、動作を確認できる B. 順序回路を開発ツール上で作成・検証し、FPGAに実装、動作を確認できる C. 要求仕様を理解し、回路を設計できる D. 設計書に基づき、開発ツール上で回路設計・検証ができる E. 設計した回路をFPGAに実装し、実装した回路の動作を確認できる			
授業方法	実習形式で講義を行う。設計した論理回路を開発ツールを用いてFPGA上に実装し、動作の確認を行う。			
教科書	授業資料を配布			
補助教材	なし			
評価方法	実習状況(60%)+実装回路(40%) ・自習状況：実装体験の報告書2通(20点)、実装回路の設計報告書1通(20点)、実装回路の発表(20点) ・実装回路(最終課題)：仕様通りに動作することを4段階で評価(20点)、追加機能の設計(10点)、追加機能の実装(10点)			
関連科目	計算機概論Ⅰ、Ⅱ 論理回路Ⅰ、Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	論理回路Ⅰ、Ⅱで学習した基本的な内容の復習を行っておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
4.5	開発環境による回路の実装体験 組み合わせ回路の設計と実装	<input type="checkbox"/> 開発ツール上で論理ゲートを入力し、組み合わせ回路を作成できる (A) <input type="checkbox"/> 開発ツール上で組み合わせ回路の動作を確認できる (A) <input type="checkbox"/> 組み合わせ回路をFPGA上に実装しLED等で動作確認できる (A)
6	順序回路の設計と実装	<input type="checkbox"/> 開発ツール上で記憶素子を入力し、順序回路を作成できる (B) <input type="checkbox"/> 開発ツール上で順序回路の動作を確認できる (B) <input type="checkbox"/> 順序回路をFPGA上に実装できる (B) <input type="checkbox"/> スイッチやLED等を用いて順序回路の動作を確認できる (B)
3	回路設計と実装(最終課題) 仕様設計	<input type="checkbox"/> 要求仕様を理解し、回路をブロック図等で表現できる (C)
3	回路設計	<input type="checkbox"/> 設計書に基づき開発ツール上で回路を作成できる (D) <input type="checkbox"/> 論理回路シミュレータで回路の動作を確認できる (D)
3	回路実装・動作確認	<input type="checkbox"/> 回路をFPGAに実装しデバッグができる (E) <input type="checkbox"/> 実装した回路が仕様通りに動作するかを確認できる (E)
1.5	発表(デモンストレーション)	<input type="checkbox"/> 実装した回路の動作を実装機を用いて説明できる (E)
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算機概論 I	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Computer Engineering I	必修	講義	演習	実験・実習
		21	1.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	コンピュータの基本は計算処理である。この計算処理の基本要素として、コンピュータ内部で用いられる数値や文字などの表現方法について学習する。ここでは、有限語長という制約下における、数値・文字表現の様々な工夫や留意点について解説する。			
到達目標	<p>A. 2, 8, 10, 16進数で整数値を表現することができる。</p> <p>B. 補数などいくつかの方法によって負数を表現することができる。</p> <p>C. 固定小数点数によって整数値を表現することができる。</p> <p>D. 浮動小数点数によって実数値を表現することができる。</p> <p>E. 半角英数字や漢字を文字コードによって表現することができる。</p>			
授業方法	講義形式で授業を行う。各試験区間で3回(半期6回)程度の演習課題を提示する。これらの課題を次回授業までに報告書として提出することを求める。なお、期末試験の出題範囲は半期の学習項目すべてが対象となる。			
教科書	必要に応じてプリント資料を配布する。			
補助教材	D. Patterson, J. Hennessy (著), 成田光彰 (訳): コンピュータの構成と設計第5版(上), 日経BP社, 2014年。			
評価方法	<p>中間: 中間試験 (100%) ※中間試験の素点をそのまま報告する。</p> <p>期末: 課題 (20%) + 中間試験 (30%) + 期末試験 (50%) ※課題は提出状況の評価する。</p>			
関連科目	情報工学概論, 論理回路 I			
準備学習に関するアドバイス	10進数と2進数による数値表現, 10進数と2進数での基数変換について復習しておく。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> カリキュラムにおける本授業の位置付けを理解する。 <input type="checkbox"/> 2進数による数値表現と10進数との基数変換を復習する。
1.5	n進数による数値表現	<input type="checkbox"/> 8, 16進数により数値を表現できる (A)。 <input type="checkbox"/> 2, 8, 10, 16進数間相互の基数変換ができる (A)。
3	負数の表現	<input type="checkbox"/> 符号+絶対値表現を用いて負数を表現できる (B)。 <input type="checkbox"/> ゲタばき表現を用いて負数を表現できる (B)。 <input type="checkbox"/> 補数表現を用いて負数を表現できる (B)。
3	数値表現	<input type="checkbox"/> 固定小数点数により整数値を表現できる (C)。 <input type="checkbox"/> 浮動小数点数により実数値を表現できる (D)。
0.75	中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	試験の講評	<input type="checkbox"/> 答案返却, 試験解説
3	IEEE754形式	<input type="checkbox"/> IEEE754形式により実数値を表現できる (D)。
3	文字の表現	<input type="checkbox"/> 半角英数字, カナ文字を文字コードで表現できる (E)。 <input type="checkbox"/> 漢字等全角文字を文字コードで表現できる (E)。
1.5	その他の数値表現	<input type="checkbox"/> 2進化10進数により10進数を表現できる。 <input type="checkbox"/> グレイ符号の特徴を理解しグレイ符号を生成できる。
1.5	期末直前演習	<input type="checkbox"/> 授業のまとめと演習
0.75	期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	試験の講評	<input type="checkbox"/> 答案返却, 試験解説
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算機概論Ⅱ	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Computer Engineering 2	必修	講義	演習	実験・実習
0	22.5	0		0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	コンピュータの基本は計算処理である。この計算処理の基本要素として、コンピュータ内部で用いられる数値や文字などの表現方法について学習する。ここでは、有限語長という制約下における、数値・文字表現の様々な工夫や留意点についてプログラミング演習を通じて体験する。			
到達目標	A. 2, 8, 10, 16進数で整数値を表現することができる。 B. 補数などいくつかの方法によって負数を表現することができる。 C. 固定小数点数によって整数値を表現することができる。 D. 浮動小数点数によって実数値を表現することができる。 E. 半角英数字や漢字を文字コードによって表現することができる。			
授業方法	演習形式で授業を行う。固定小数点数、浮動小数点数、文字コードの3分野について各2テーマ・計6テーマの演習に取り組む。各テーマにおいて「計算機概論Ⅰでの学習項目」と「演習内容」との関連を明確にするための報告書(学習項目のまとめ)を作成してもらう。さらに、PCを使った実技試験を予定している。			
教科書	プリント資料を配布する。			
補助教材	配布プリントの末尾に参考文献のリストを添付する。			
評価方法	中間： 評価を出さない。 ※定期試験を実施しないので注意する。 期末： 演習状況(30%) + 報告書(20%) + 小テスト(50%) ※定期試験を実施しないので注意する。 ・演習状況：PC演習に関する効果測定(実技試験)により判断する。 ・報告書：6通の報告書の提出状況により評価する。 ・小テスト：小テストの平均点(各50点満点×6回実施)により評価する。			
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 計算機概論Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	数値表現(固定小数点数, 浮動小数点数), 文字表現, およびC言語の基本構文について復習しておく。報告書の作成においては「計算機概論Ⅰ」の授業資料・ノートおよび参考文献を利用する。本授業では定期試験を実施しないので、授業の欠席や報告書の未提出に注意する。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> カリキュラムにおける本授業の位置付けを理解する。 <input type="checkbox"/> プログラム、報告書作成・提出のための演習環境を整える。
6	固定小数点数による整数値表現 ・コンピュータでの整数値表現の確認 ・整数値による数値計算事例 ・小テスト(前期学習項目の確認)2回	<input type="checkbox"/> 語長や符号の有無による整数値表現の違いを整理する(A, B, C)。 <input type="checkbox"/> 整数型変数をC言語プログラム中で使用できる(A, B, C)。 <input type="checkbox"/> 数値計算における有限語長の影響について観察する(C)。 <input type="checkbox"/> 前期学習項目と演習結果を対応づけることができる(A, B, C)。
6	浮動小数点数による実数値表現 ・コンピュータでの実数値表現の確認 ・実数値による数値計算事例 ・小テスト(前期学習項目の確認)2回	<input type="checkbox"/> 語長や符号の有無による実数値表現の違いを整理する(A, B, D)。 <input type="checkbox"/> 実数型変数をC言語プログラム中で使用できる(A, B, D)。 <input type="checkbox"/> 数値計算における有限語長の影響について観察する(D)。 <input type="checkbox"/> 前期学習項目と演習結果を対応づけることができる(A, B, D)。
6	文字コードによる文字表現 ・コンピュータでの実数値表現の確認 ・実数値による数値計算事例 ・小テスト(前期学習項目の確認)2回	<input type="checkbox"/> 文字コードによる文字表現の違いを整理する(A, E)。 <input type="checkbox"/> 実数型変数をC言語プログラム中で使用できる(A, E)。 <input type="checkbox"/> 数値計算における有限語長の影響について観察する(E)。 <input type="checkbox"/> 前期学習項目と演習結果を対応づけることができる(A, E)。
1.5	効果測定	<input type="checkbox"/> 数値・文字表現をプログラム等で自分で確認できる(C, D, E)。
1.5	演習のまとめ	<input type="checkbox"/> 学習項目の達成度を確認する。
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報通信システム I	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Communication System 1	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-4		B-2		(d)(1)
授業概要	コンピュータネットワーク内のコンピュータは、通信するためのルールに従ってお互いに情報交換を行っている。本授業では、コンピュータネットワークの基本概念やその動作原理について理解し、コンピュータネットワークを構築するための基礎知識を習得する。			
到達目標	A. コンピュータネットワークの歴史と内容を説明できる B. プロトコルの歴史と内容を説明できる C. TCP/IPの歴史と内容を説明できる D. 通信方式を説明できる E. IPアドレスなどが計算できる F. IPプロトコルについて説明できる			
授業方法	主として講義を行い、課題を出題する。			
教科書	「マスタリングTCP/IP入門編第5版」オーム社			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = “中間評価”×0.35 + 期末試験素点×0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする)			
関連科目	情報通信システムⅡ, 情報ネットワーク			
準備学習に関するアドバイス	ネットワーク機器(インターネットなど)について興味を持っていることが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
4.5	ネットワークの基礎知識	<input type="checkbox"/> スタンドアロンコンピュータ (A) <input type="checkbox"/> WAN, LAN (A, B, C, D) <input type="checkbox"/> バッチ処理, TSS, コンピュータ間通信 (A, B, C, D) <input type="checkbox"/> プロトコル, ISO, IETF, OSI参照モデル (B, C) <input type="checkbox"/> コネクション型とコネクションレス型 (D)
4.5	TCP/IP基礎知識	<input type="checkbox"/> ARPANET, TCP/IP (A, B, C) <input type="checkbox"/> RFC (B, C) <input type="checkbox"/> ISP (C) <input type="checkbox"/> 階層モデル (B, C) <input type="checkbox"/> パケットヘッダ (B, C)
0.75	中間試験	
4.5	データリンク	<input type="checkbox"/> MACアドレス (B, C, D) <input type="checkbox"/> イーサネット (B, C, D) <input type="checkbox"/> IEEE802.11, Bluetooth, WiMAX, ZigBee (B, C, D) <input type="checkbox"/> PPP, PPPoE (B, C, D) <input type="checkbox"/> ATM, POS, FDDI (B, C, D)
4.5	IPプロトコル	<input type="checkbox"/> IPアドレス, サブネットマスク, ブロードキャストアドレス (B, C, E) <input type="checkbox"/> インターネット層 (B, C, F) <input type="checkbox"/> 経路制御 (B, C, F) <input type="checkbox"/> IPv6 (B, C, F)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説, まとめ	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報通信システムⅡ	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Communication System 2	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-4		B-2		(d)(1)
授業概要	本授業では、情報通信システムⅠに引き続きコンピュータネットワークの基本概念やその動作原理について理解し、コンピュータネットワークを構築するための基礎知識を習得する。			
到達目標	A. IPIに関連する技術について説明できる B. TCPとUDPについて内容を説明できる C. ルーティングアルゴリズムについて説明できる D. アプリケーションプロトコルを説明できる E. 遠隔ログインについて説明できる F. メールプロトコルについて説明できる G. Webの基礎知識について説明できる			
授業方法	主として講義を行い、課題を出題する。			
教科書	「マスタリングTCP/IP入門編第5版」オーム社			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = “中間評価”×0.35 + 期末試験素点×0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする)			
関連科目	情報通信システムⅠ, 情報ネットワーク			
準備学習に関するアドバイス	情報通信システムⅠで学んだことについて復習を行うこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
4.5	IPIに関する技術	<input type="checkbox"/> DNS (A) <input type="checkbox"/> ARP (A) <input type="checkbox"/> ICMP (A) <input type="checkbox"/> DHCP (A) <input type="checkbox"/> NAT (A)
4.5	TCPとUDP	<input type="checkbox"/> トランスポート層 (B) <input type="checkbox"/> ポート番号 (B) <input type="checkbox"/> UDP, TCP (B)
0.75	中間試験	
4.5	ルーティングプロトコル	<input type="checkbox"/> 経路制御, 経路制御アルゴリズム (C) <input type="checkbox"/> RIP, OSPF, BGP, MPLS (C)
4.5	アプリケーションプロトコル	<input type="checkbox"/> TELNET, SSH (D, E) <input type="checkbox"/> FTP (D) <input type="checkbox"/> MIME, SMTP, POP, IMAP (D, F) <input type="checkbox"/> URI, HTML, HTTP (D, G) <input type="checkbox"/> SNMP (D)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説, まとめ	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
経営工学概論	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Industrial Engineering	必修	16.5	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
仙波 良	情報工学科・非常勤講師	305	木曜日	r-semba
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
CS-8		B-3	(d) (1) (d) (3) (i)	
授業概要	経営工学について、その考え方と必要性を理解するとともに、活用される主な手法や理論を学ぶ			
到達目標	A. 経営工学とは何かを説明できる B. 生産マネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる C. 品質マネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる D. コストマネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる E. ヒューマンマネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる F. 製品開発マネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる G. 情報マネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる H. 環境マネジメントの考え方及びやり方の基礎を説明できる I. 経営戦略の考え方及びやり方の基礎を説明できる J. 経営における情報通信システムの活用事例を説明できる K. 与えられたテーマをグループで討議し、成果をまとめることができる			
授業方法	講義と質疑応答・意見交換 グループによる討議と成果発表及び意見交換			
教科書	プリント (授業のプロジェクタースライドコピー)			
補助教材	なし			
評価方法	中間評価: 中間試験 (100%) 中間試験の素点をそのまま報告する 期末評価: 中間試験 (35%) + 期末試験 (35%) + グループ討議及び授業出席度 (30%) 尚、場合によっては、再試験を行うこともある			
関連科目	情報社会論、ビジネス情報システム			
準備学習に関するアドバイス	毎週の講義で示す復習の項目を説明できるようにしておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	オリエンテーション	<input type="checkbox"/> 授業の概要、経営とは (A)
1.5	経営工学の序論	<input type="checkbox"/> 経営の考え方、経営工学の考え方と発展過程 (A)
3	生産マネジメント	<input type="checkbox"/> 生産計画、資材管理、在庫管理 (B)
1.5	品質マネジメント	<input type="checkbox"/> 品質管理、QCツール (C)
1.5	コストマネジメント	<input type="checkbox"/> コストとは、経済性分析、原価計算 (D)
1.5	ヒューマンマネジメント	<input type="checkbox"/> 人間工学、行動科学 (E)
0.75	後期中間試験	
1.5	製品開発マネジメント、経営戦略、試験解説	<input type="checkbox"/> 製品開発プロセス (F)、 <input type="checkbox"/> 経営戦略 (I)、中間試験の解説
1.5	情報マネジメント、環境マネジメント	<input type="checkbox"/> 知的財産、セキュリティ他 (G)、 <input type="checkbox"/> 環境問題 (H)
1.5	経営と情報	<input type="checkbox"/> 経営と情報 (J)
4.5	グループ討議	<input type="checkbox"/> グループ討議、成果発表と質疑 (K)
0.75	後期期末試験	
1.5	試験の解説	期末試験の解説
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
地理情報システム概論	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Geographic Information System	必修	22.5	講義	演習 実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜日 12:20~13:00	simakawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
CS-8	B-2	(d) (1)		
授業概要	本講義では情報工学実験の地理情報工学実験と関連させて地理情報システムの基本についてごく概説的に講義する。計算幾何学の基本アルゴリズム、大規模な地図データをプログラムで扱う方法やデータ構造について説明する。			
到達目標	A 現代の情報化社会において基盤技術・基盤情報としての地理情報システムを説明できる。 B 基本的なデータ構造の理解と実装方法を理解できる。 C 線分の交差や凸包のアルゴリズムを例に計算幾何学について基本的な事柄を説明できる。			
授業方法	座学			
教科書	特になし(必要があれば適宜プリントを配布する)			
補助教材	特になし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 試験範囲については中間試験では中間試験まで扱ったところ、期末試験では中間試験を含む全期間とする。 評価は中間試験が40%、期末試験が60%である。つまり中間試験素点をx1、期末試験素点をx2とした場合、総合評価は$0.4*x1+0.6*x2$の値となる。 中間試験ごの成績表に記載される点数はx1、期末試験後の成績表に記載される点数は$X=0.4*x1+0.6*x2$である。 合格点は60%である。 ノート点、出席による加点、課題による加点は一切行わない。 本講義への質問(特に試験前)は自筆のノートを持参することと課題の提出が条件である。 			
関連科目	情報工学実験(地理情報システム実験)			
準備学習に関するアドバイス	授業後に必ずノートを見返し、わからないことは教員に質問に行く。また、プログラミング系の疑問点は410計算機室にソフトウェアがインストールされているので試しに動かしてみるのもよいだろう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、教育目標、評価の方法についての説明
3	情報工学における地理情報処理	<input type="checkbox"/> 地理情報システムの発展形成過程 (A) <input type="checkbox"/> 計算幾何学の特徴、歴史、現状と将来 (A) <input type="checkbox"/> 地理情報システムにおける数値計算 (A)
1.5	地理情報システムおける用語と記法	<input type="checkbox"/> ユークリッド空間、直線、平面、線形多様体 (B) <input type="checkbox"/> グラフ・ネットワーク (B)
4.5	基本データ構造	<input type="checkbox"/> リスト・スタック・キュー (B) <input type="checkbox"/> ヒープ、二分木探索 (B) <input type="checkbox"/> 実装方法
1.5	中間試験前演習	
0.75	中間試験	
0.75	中間試験の講評	
4.5	線分の交差判定問題と凸包	<input type="checkbox"/> 3角形の符号付面積による判定方法 (C) <input type="checkbox"/> 平面走査法 (C) <input type="checkbox"/> 包装法、グラハムの走査法 (C) <input type="checkbox"/> 実装方法
1.5	計算幾何学のアルゴリズム	<input type="checkbox"/> ドローネ三角形分割、ポロノイ図 (C)
1.5	期末試験前演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験の講評(学習指導期間)	<input type="checkbox"/> 発展的勉強のために (A)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
文書作成概論 I	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Documentation 1	必修	講義	演習	実験・実習
6	16.5			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-9		C-1		(f)
授業概要	書類を書くうえで、正確で読みやすい文章を作成する能力は必須のものである。本授業では実験レポート等をはじめとして、やがて記述する卒業論文に生かせるように、技術文章作成で必要な基本事項を習得する。			
到達目標	<p>A. 句読点や送り仮名等の文書作成ルールが理解できる。</p> <p>B. 自身で書いた文書を再確認(校正)できる。</p> <p>C. 適する文書作成の基本ルールを取り込んだ文書が書ける。</p> <p>D. 指示された文書書式に従い文書作成(校正)ができる。</p> <p>E. 図や表の書き方ルールが理解できる。</p> <p>F. 図表等を取り込んだ分かりやすい文書作成ができる。</p>			
授業方法	講義では文章作成の基本的ルールを理解し、演習では自主的な文書作成をする。講義で基礎的事項の解説をして、演習で確認する授業構成である。			
教科書	適宜プリント資料を配布			
補助教材	適宜プリント資料を配布			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価は実施しない。 ・ 各演習課題についての課題を100点満点で採点し、それらの単純平均により授業評価点を算出する。 ・ 課題評価は、内容評価をする課題と提出だけをチェックする課題の2種類が存在する。 ・ 内容評価をする課題は、以下の2つの観点をもとに評価する。 <p>(1) 課題項目理解度</p> <p>(2) 課題完成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提出期日は厳守すること。提出が遅れた場合は以下の通り課題点(100点)から原点をする。 ・ 提出期限より1週間以内提出の場合は20減点、以後1日につき2点減点。 ・ 授業中に指示する「最終提出期限」を越えて提出された課題については0点として扱い、授業評価点が60点を越えた場合は授業評価点を60点にする。 ・ 「最終提出期限」後も未提出の課題については、1課題につき10点を授業評価点から減ずる。 			
関連科目	情報工学実験、文書作成概論Ⅱ、技術文書作成、プレゼンテーション			
準備学習に関するアドバイス	情報技術者の基礎として「文書作成」の授業に取り組んで欲しいと願っています。演習主体の科目である以上、学生諸君の自主的な文書作成への取り組みを期待しています。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 添削用文章の作成
1.5	文書作成の基本ルール(1)	<input type="checkbox"/> 文書作成の基本ルール[講義] (A)
		<input type="checkbox"/> 添削用文章の校正 (B)
1.5	文書作成の基本ルール(2)	<input type="checkbox"/> 文書作成の基本ルール[講義] (A)
		<input type="checkbox"/> 添削用文章の校正 (B)
1.5	文書作成の基本ルール(3)	<input type="checkbox"/> 文書作成の基本ルール[講義] (A)
		<input type="checkbox"/> 添削用文章の校正 (B)
1.5	文章作成演習(1)	<input type="checkbox"/> 基本ルールに従った文章の作成 (A, C)
1.5	文章作成演習(2)	<input type="checkbox"/> 基本ルールに従った文章の校正 (A, D)
1.5	MS-WORDを用いた図の作成(1)	<input type="checkbox"/> 図の作成 (E)
1.5	MS-WORDを用いた図の作成(2)	<input type="checkbox"/> 図の作成 (E)
1.5	MS-EXCELを用いたグラフの作成(1)	<input type="checkbox"/> グラフの作成 (E)
1.5	MS-EXCELを用いたグラフの作成(2)	<input type="checkbox"/> グラフの作成 (E)
1.5	図や表を含んだ文書作成の基本ルール	<input type="checkbox"/> 図や表を含んだ文書作成の基本ルール[講義] (E, F)
6	図や表を含んだ文書作成(1)	<input type="checkbox"/> 図や表を含んだ文書作成 (A, C, D, E, F)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
文書作成概論Ⅱ	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Documentation 2	必修	講義	演習	実験・実習
3		19.5		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-9		C-1		(f)
授業概要	科学論文等ではグラフや数式が多く登場する。本授業では実験レポート等をはじめとして、やがて執筆する卒業論文に生かせるように必要な技能を習得する。			
到達目標	<p>A. 式の書き方ルールが理解できる。</p> <p>B. 式等を取り込んだ分かりやすい文書作成ができる。</p> <p>C. 適する文書作成の基本ルールを取り込んだ文書が書ける。</p> <p>D. グラフ作成ソフトを用いて見やすいグラフが書ける。</p> <p>E. 指示された文書書式に従い文書作成 (校正) ができる。</p>			
授業方法	講義では文章作成の基本的ルールやLATEXの文法などを述べる。講義で基礎的事項の解説をして、演習で確認する授業構成である。			
教科書	適宜プリント資料を配布			
補助教材	適宜プリント資料を配布			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末評価はするが中間評価は実施しない。 ・ 各演習の提出課題について100点満点で採点し、それらの単純平均により評価する。 ・ 課題評価は、以下の三つの観点をもとに算出する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 提出期日 (提出期限より1週間以内提出の場合は20減点、以後1日につき2点減点、3週間以上経過したものについては未提出とする。) (2) 課題項目理解度 (いくつかの提出課題に対して評価する) (3) 課題完成度 (いくつかの提出課題に対して評価する) <p>未提出の課題については、1課題につき10点を評価点から減ずる。</p>			
関連科目	情報工学実験、文書作成概論Ⅰ、技術文書作成、プレゼンテーション			
準備学習に関するアドバイス	情報技術者の基礎として「文書作成」の授業に取り組んで欲しいと願っています。演習主体の科目である以上、学生諸君の自主的な文書作成への取り組みを期待しています。授業を欠席した場合は、自ら欠席時の課題を調べて期限内に提出すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス 数式を含んだ文章作成	<input type="checkbox"/> 授業方針、年間計画、評価方法の解説 <input type="checkbox"/> 添削用文章の作成
4.5	数式を含んだ文章作成	<input type="checkbox"/> 数式を含んだ文書作成の基本ルール[講義] (A) <input type="checkbox"/> 数式を含んだ文書作成 (A, B, C)
4.5	2次元グラフの作成	<input type="checkbox"/> Ngraphの利用法[講義] (D) <input type="checkbox"/> Ngraphを用いたグラフの作成 (D)
9	LATEXを用いた文章作成	<input type="checkbox"/> LATEXの利用法[講義] (A) <input type="checkbox"/> LATEXを使った数式を含んだ文書作成 (A, B, C)
3	文章作成演習	<input type="checkbox"/> 総合演習 (A, B, C, D, E)
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報数学概論	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Information Mathematics	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜日以外の9:00-17:00	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1		B-2		(d) (1)
授業概要	情報技術を理解するための基礎的な知識やその利用方法を理解することを目的に講義を行う			
到達目標	<p>A. 10進数とN進数間の変換方法を理解し、和・差の演算を行うことができる</p> <p>B. 集合とは何かを理解し、集合の演算を行うことができる</p> <p>C. 写像とは何かを理解し、合成写像や逆写像を求めることができる</p> <p>D. 命題とは何かを理解し、論理演算子を用いた演算と真理値を得ることができる</p>			
授業方法	講義形式で行う			
教科書	なし			
補助教材	情報数学の基礎 幸谷智紀・國持良行、森北出版			
評価方法	<p>・中間評価時：中間試験80%＋中間評価時までに実施の小テスト20%で評価</p> <p>・期末評価時：中間試験40%＋期末試験40%＋前期内に実施の小テスト20%の割合で評価</p> <p>なお、小テストは授業時間内に実施する</p>			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	授業中に習ったことは授業時間内に理解するようにし、疑問が生じた場合には早めに確認すること			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
0.75	数の表記と指数・対数関数(復習)	<input type="checkbox"/> 自然数や整数、有理数、実数について例を挙げて説明できる(B)
3	N進数表現	<input type="checkbox"/> 10進数⇔N進数の変換ができる(A) <input type="checkbox"/> 2進数での和、差の計算ができる(A)
6	集合	<input type="checkbox"/> 集合の表記方法を理解し、記号で表現することができる(B) <input type="checkbox"/> 集合の包含関係を理解し、ベン図で表現することができる(B) <input type="checkbox"/> 集合の演算(和、差、積)を求めることができる(B) <input type="checkbox"/> ドモルガンの法則や分配則を理解し、集合の演算を行うことができる(B)
0.75	中間試験	
1.5	中間試験解説	
3	写像	<input type="checkbox"/> 写像か否かを判定できる(C) <input type="checkbox"/> 写像に対し、単射、全射、全単射を判定することができる(C) <input type="checkbox"/> 複数の写像を合成することができる(C) <input type="checkbox"/> 置換の特徴を理解し、置換の合成を求めることができる(C)
4.5	命題と論理演算	<input type="checkbox"/> 命題の特徴を理解し、真偽を判定することができる(D) <input type="checkbox"/> 論理演算子を用いて命題を表現することができる(D) <input type="checkbox"/> 命題の真理値表を作成することができる(D) <input type="checkbox"/> 命題の必要・十分条件を判定することができる(D) <input type="checkbox"/> 逆、裏、対偶関係にある命題を作成することができる(D)
0.75	期末試験	
1.5	期末試験解説とまとめ	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017	クラス :	番号 :	氏名 :	
科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学実験Ⅲ	CS:情報工学科	3年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Experiments 3	必修	講義	演習	実験・実習
				45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜日 12:20~13:00	simakawa
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9-17時	h-kawamura
石川 純夫	情報工学科・非常勤講師	402		ishikawa
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	401		utsugi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応		
CS-2 CS-5 CS-6 CS-9	B-4 D-3	(d) (2) (g)		
授業概要	地理情報システム・UNIX・画像処理・電子回路をテーマにした実験を通じて情報工学における基礎的な技能を体験的に学習する。グループ作業により協調性を、個人作業では責任感を養う。レポートを作成し技術文書の体裁について基本的なことを学ぶ。			
到達目標	<p>A 実験指導書等の参考資料に基づき電気・電子回路の構成やプログラムを作成できる。</p> <p>B 測定機などの実験装置を適切に使用することができる。</p> <p>C 実験中に生じたトラブルに対して指導者の指示に従い適切に対応することができる。</p> <p>D 内容を理解できるように報告書を過不足なくまとめることができる。</p>			
授業方法	6テーマの課題を実施する。具体的には各実験担当者から指示がある。2週間（6時間）で1つの課題に取り組みレポートにまとめる。			
教科書	実験指導書（プリント）			
補助教材	場合によっては各担当から参考図書の指定がある。			
評価方法	<p>中間：評価を出さない</p> <p>期末：出席点（20%）＋報告点（80%）</p> <p>* 出席点：遅刻や欠席をせずに実験作業に参加できた場合1テーマにつき20/6点、全テーマの合計点（20点満点）を出席点とする。</p> <p>* 報告点：各実験報告書を100点満点で評価し、全6通の平均点×0.8を報告点とする。期日に遅れた報告書の評価点は採点結果に0.8をかけた値を用いる。</p> <p>ただし、未提出の報告書がある場合や未終了のテーマがある場合は、前述の評価点によらず不合格とする。</p>			
関連科目	情報工学実験Ⅰ、Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	ガイダンス時に渡される実施要項をもとに関連する授業科目の実験に該当する部分をあらかじめ調べておくことが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
3	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 実験計画・評価方法・実験を行う上での注意事項 <input type="checkbox"/> レポート作成の注意事項
18	1回目実験 地理情報システム実験 UNIX実験	<input type="checkbox"/> 地理情報処理の基本的な処理の体験的学習 (A, B, D) 地理情報システムを利用して地図と空間データのオーバレイ等の基本的なオペレーションができる。 <input type="checkbox"/> PC-UNIXのインストールと端末上での基本操作 (A, C, D) PC-UNIXの端末（コマンドライン）上で対話的な作業ができるようになる。
	電子回路実験 画像処理実験	<input type="checkbox"/> 非安定マルチバイブレータの作成と波形の観測 (A, B, D) トランジスタを用いた矩形波の発生について理解できる。 <input type="checkbox"/> Windows系上で画像の入出力 (A, C, D) BMPやPNG, JPEGファイルを読み込んで画面表示する メモリ上にある画像をファイルとして保存する
18	2回目実験（以下から2テーマ） 地理情報システム実験 UNIX実験	<input type="checkbox"/> 国土数値情報、統計局のデータを利用した空間分析 (A, B, D) 地理情報システムを利用して統計データを加工し、分析を行うことができる。 <input type="checkbox"/> PC-UNIXで利用可能なプログラミング言語処理系とその利用方法 (A, C, D) PC-UNIX上でのプログラミング基本手順を身に付けることができる。
	電子回路実験 画像処理実験	<input type="checkbox"/> 増幅回路の作成と特性の測定 (A, B, D) オペアンプを用いた増幅回路の特性を理解できる。 <input type="checkbox"/> Windows上で画像の操作 (A, C, D) Matの構造を理解し、画像の幾何変換を行うことができる 画像のフィルタリング処理を行うことができる
3	校外見学	<input type="checkbox"/> 生産現場見学
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
42時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 （←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格）	

開講年度 2017	クラス :	番号 :	氏名 :	
科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学実験Ⅳ	CS:情報工学科	3年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Experiments 4	必修	講義	演習	実験・実習
45				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜日 12:20~13:00	simakawa
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9-17時	h-kawamura
石川 純夫	情報工学科・非常勤講師	402		ishikawa
宇都木 修一	情報工学科・非常勤講師	401		utsugi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2)との対応		
CS-2 CS-5 CS-6 CS-9	B-4 D-3	(d) (2) (g)		
授業概要	地理情報システム・UNIX・画像処理・電子回路をテーマにした実験を通じて情報工学における基礎的な技能を体験的に学習する。グループ作業により協調性を、個人作業では責任感を養う。レポートを作成し技術文書の体裁について基本的なことを学ぶ。			
到達目標	<p>A 実験指導書等の参考資料に基づき電気・電子回路の構成やプログラムを作成できる。</p> <p>B 測定機などの実験装置を適切に使用することができる。</p> <p>C 実験中に生じたトラブルに対して指導者の指示に従い適切に対応することができる。</p> <p>D 内容を理解できるように報告書を過不足なくまとめることができる。</p>			
授業方法	6テーマの課題を実施する。具体的には各実験担当者から指示がある。2週間（6時間）で1つの課題に取り組みレポートにまとめる。			
教科書	実験指導書（プリント）			
補助教材	場合によっては各担当から参考図書の指定がある。			
評価方法	<p>中間：評価を出さない</p> <p>期末：出席点（20%）＋報告点（80%）</p> <p>* 出席点：遅刻や欠席をせずに実験作業に参加できた場合1テーマにつき20/6点、全テーマの合計点（20点満点）を出席点とする。</p> <p>* 報告点：各実験報告書を100点満点で評価し、全6通の平均点×0.8を報告点とする。期日に遅れた報告書の評価点は採点結果に0.8をかけた値を用いる。</p> <p>ただし、未提出の報告書がある場合や未終了のテーマがある場合は、前述の評価点によらず不合格とする。</p>			
関連科目	情報工学実験Ⅰ、Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	ガイダンス時に渡される実施要項をもとに関連する授業科目の実験に該当する部分をあらかじめ調べておくことが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
18	1回目実験	
	地理情報システム実験	<input type="checkbox"/> 国土数値情報、統計局のデータを利用した空間分析(A, B, D) 地理情報システムを利用して統計データを加工し、分析を行うことができる。
	UNIX実験	<input type="checkbox"/> PC-UNIXで利用可能なプログラミング言語処理系とその利用方法(A, C, D) PC-UNIX上でのプログラミング基本手順を身に付けることができる。
	電子回路実験	<input type="checkbox"/> 増幅回路の作成と特性の測定(A, B, D) オペアンプを用いた増幅回路の特性を理解できる。
	画像処理実験	<input type="checkbox"/> Windows上で画像の操作(A, C, D) Matの構造を理解し、画像の幾何変換を行うことができる 画像のフィルタリング処理を行うことができる
18	2回目実験	
	地理情報システム実験	<input type="checkbox"/> 国土数値情報、統計局のデータを利用した空間分析(A, B, D) 地理情報システムを利用して統計データを加工し、分析を行うことができる。
	UNIX実験	<input type="checkbox"/> PC-UNIX環境を自分の利用目的に合わせてカスタマイズする(A, C, D) PC-UNIXの構成を学習し、環境設定方法を身に付けることができる。
	電子回路実験	<input type="checkbox"/> アクティブフィルタの作成と特性の測定(A, B, D) オペアンプを用いたアナログフィルタの特性を理解できる。
	画像処理実験	<input type="checkbox"/> Windows上で画像データの扱い(A, C, D) 画像領域上に、線分、矩形、円を色、サイズを指定して描画できる 画像中の個々の画素値を抽出、変更することができる
3	卒研聴講	<input type="checkbox"/> 卒研聴講
6	追実験（予備日）	<input type="checkbox"/> 追実験予備日
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 （←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格）	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
線形代数 I	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Linear Algebra 1	必修	15.5	7	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1		B-1		(c)
授業概要	多くの工学の分野において、線形性はその根底に流れる重要な概念である。本講義では線形代数の初等理論を概観するとともに、多くの計算をこなすことにより計算力を高める。			
到達目標	A. 行列の計算ができる B. 行列の基本変形を使った計算ができる C. 連立1次方程式を解くことができる D. 置換や互換に関する計算ができる E. 行列式の計算ができる F. 逆行列が計算できる			
授業方法	適宜プリントを配布し、授業の理解に役立てる。授業は、小テストを実施し学力を点検しながらすすめる。定期試験前にシラバスを回収し、学習状況を確認するのでシラバスの「学習内容欄」のチェックを常にとすること。			
教科書	実数出版 新版 線形代数			
補助教材	宜プリントを配布する。2年次に代数幾何で用いた問題集。			
評価方法	評価点の算出法 1) 各区分にて100点法で評価点を算出する。この評価点を「区間評価点」と呼ぶ。 区間評価点 = 区間中の定期試験点数 × 0.7 + 区間中のレポート・小テストの点数 × 0.3 ※区間中のレポート・小テストの点数の算出 区間中に課されるレポート・小テストをそれぞれ100点法で評価する。それらの中で点数の良い上位のもの平均点を区間中のレポート・小テストの点数とする。 (未提出(欠席のため小テストを受けられなかった場合も含む)の場合は0点扱いとする。) 2) 総合評価点 成績通知書に記載される評価点(これを「区分評価点」と呼ぶ)の算出は以下の通り。 i) 前期中間区分の評価点…前期中間区間評価点と同じ ii) 前期末区分の評価点…(前期中間区分評価点 + 2 × 前期末区間評価点) / 3			
関連科目	代数幾何学			
準備学習に関するアドバイス	授業中に配布した問題集は全て解くようにすること。多くの問題をこなすようにすること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス・復習	<input type="checkbox"/> 2年次で学習した内容についての復習
1.5	行列(1)	<input type="checkbox"/> 行列の種類 (A) <input type="checkbox"/> 和・スカラー倍 (A) <input type="checkbox"/> 積演算 (A)
1.5	行列(2)	<input type="checkbox"/> 正則行列・逆行列 (A) <input type="checkbox"/> 行列の分割表示 (A)
	確認演習(1)	<input type="checkbox"/> 前回(行列(1))までの確認 (点)
1.5	行列の基本変形	<input type="checkbox"/> 基本変形 (B) <input type="checkbox"/> 行列の階数 (B)
1.5	連立1次方程式(1)	<input type="checkbox"/> 掃き出し法 (B, C)
	確認演習(2)	<input type="checkbox"/> 前回(行列の基本変形)までの確認 (点)
1.5	連立1次方程式(2)	<input type="checkbox"/> 連立1次方程式(解が存在しない場合) (B, C)
	確認演習(3)	<input type="checkbox"/> 連立1次方程式(解が無限に存在する場合) (B, C)
1.5	連立1次方程式(3)	<input type="checkbox"/> 前回(連立方程式(1))までの確認 (点)
	確認演習(4)	<input type="checkbox"/> 連立1次方程式(自明な解) (B, C)
		<input type="checkbox"/> 前回(連立方程式(2))までの確認 (点)
0.75	前期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	確認演習(5)	<input type="checkbox"/> 前期中間試験範囲の確認 (点)
1.5	行列式(1)	<input type="checkbox"/> 置換 (D) <input type="checkbox"/> 互換 (D) <input type="checkbox"/> 行列式の定義 (D, E)
1.5	行列式(2)	<input type="checkbox"/> サラスの行列式計算 (E) <input type="checkbox"/> 行列式の性質 (E)
	確認演習(6)	<input type="checkbox"/> 前回(行列式(1))までの確認 (点)
1.5	行列式(3)	<input type="checkbox"/> 余因子 (E) <input type="checkbox"/> 行列式の余因子展開 (E)
	確認演習(7)	<input type="checkbox"/> 前回(行列式(2))までの確認 (点)
1.5	逆行列	<input type="checkbox"/> 逆行列の定義 (E, F)
	確認演習(8)	<input type="checkbox"/> 掃き出し法による逆行列の計算 (B, F)
1.5	確認演習(9)	<input type="checkbox"/> 前回(行列式(3))までの確認 (点)
	総合演習	<input type="checkbox"/> 前回(逆行列)までの確認 (点)
		<input type="checkbox"/> これまでの総合的演習 (A, B, C, D, E, F)
0.75	前期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
	確認演習(10)	<input type="checkbox"/> 前期末試験範囲の確認 (点)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
線形代数Ⅱ	CS:情報工学科	3年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Linear Algebra 2	必修	14.5	8	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
CS-1		B-1	(c)	
授業概要	多くの工学の分野において、線形性はその根底に流れる重要な概念である。本講義では線形代数の初等理論を概観するとともに、多くの計算をこなすことにより計算力を高める。			
到達目標	A. 与えられた行列の固有値と固有ベクトルが計算できる B. 行列の対角化が計算できる C. ベクトルの計算ができる D. 1次独立・1次従属の概念を説明できる E. 簡単な1次変換を求めることができる F. 簡単なアフィン変換を計算することができる			
授業方法	適宜プリントを配布し、授業の理解に役立つ。授業は、小テストを実施し学力を点検しながらすすめる。定期試験前にシラバスを回収し、学習状況を確認するのでシラバスの「学習内容欄」のチェックを常にする。			
教科書	実数出版 新版 線形代数			
補助教材	適宜プリントを配布する。2年次に代数幾何で用いた問題集。			
評価方法	評価点の算出法 1) 各区分にて100点法で評価点を算出する。この評価点を「区間評価点」と呼ぶ。 区間評価点 = 区間中の定期試験点数 × 0.7 + 区間中の確認演習の点数 × 0.3 ※区間中の確認演習の点数の算出 区間中に課される確認演習をそれぞれ100点法で評価する。それらの中で点数の良い上位のもの平均点を区間中の確認演習の点数とする。 (未提出(欠席のため確認演習を受けられなかった場合も含む)の場合は0点扱いとする。) 2) 総合評価点 成績通知書に記載される評価点(これを「区分評価点」と呼ぶ)の算出は以下の通り。 i) 前期中間区分の評価点…前期中間区間評価点と同じ ii) 前期末区分の評価点…(前期中間区分評価点 + 2 × 前期末区間評価点) / 3			
関連科目	代数幾何学、線形代数Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	授業中に配布した問題集は全て解くようにすること。多くの問題をこなすようにすること。			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス 固有値と固有ベクトル(1)	<input type="checkbox"/> 特性方程式・固有値・縮退(重複度) (A)
1.5	固有値と固有ベクトル(2) 確認演習(1)	<input type="checkbox"/> 固有ベクトルの計算(縮退なし)・固有空間 (A) <input type="checkbox"/> 前回(固有値と固有ベクトル(1))までの確認 (点)
1.5	固有値と固有ベクトル(3) 確認演習(2)	<input type="checkbox"/> 固有値・固有ベクトルの計算(縮退あり) (A) <input type="checkbox"/> 前回(固有値と固有ベクトル(2))までの確認 (点)
1.5	行列の対角化(1) 確認演習(3)	<input type="checkbox"/> 対角化(縮退なし) (A, B) <input type="checkbox"/> 前回(固有値と固有ベクトル(3))までの確認 (点)
1.5	行列の対角化(2) 確認演習(4)	<input type="checkbox"/> 対角化(縮退あり) (A, B) <input type="checkbox"/> 前回(行列の対角化(1))までの確認 (点)
1.5	行列の対角化(3) 確認演習(5)	<input type="checkbox"/> 対角化の応用 (A, B) <input type="checkbox"/> 前回(行列の対角化(2))までの確認 (点)
1.5	総合演習(6)	<input type="checkbox"/> 前回までの確認 (点)
0.75	後期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説 確認演習(7)	<input type="checkbox"/> 後期中間試験範囲の確認 (点)
1.5	ベクトル(1)	<input type="checkbox"/> 内積 (C) <input type="checkbox"/> 外積 (C) <input type="checkbox"/> 線形結合 (C) <input type="checkbox"/> 一次独立・1次従属 (C, D)
1.5	ベクトル(2) 確認演習(8)	<input type="checkbox"/> 基底・次元 (C, D) <input type="checkbox"/> シュミットの直交化法 (C, D) <input type="checkbox"/> 前回(ベクトル(1))までの確認 (点)
1.5	1次変換(1) 確認演習(9)	<input type="checkbox"/> 基底ベクトルを用いた1次変換の表現 (E) <input type="checkbox"/> 前回(ベクトル(2))までの確認 (点)
1.5	1次変換(2) 確認演習(10)	<input type="checkbox"/> 相似変換・回転変換・対称変換 (E) <input type="checkbox"/> 合成変換 (E) <input type="checkbox"/> 前回(1次変換(1))までの確認 (点)
1.5	アフィン変換 確認演習(11)	<input type="checkbox"/> 平行移動 (F) <input type="checkbox"/> アフィン変換 (F) <input type="checkbox"/> 前回(1次変換(2))までの確認 (点)
0.75	後期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説 確認演習(12)	<input type="checkbox"/> 後期末試験範囲の確認 (点)
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング応用I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Programming Applications 1	必修	0	0	22.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
その他	.	403		
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-3 CS-7 CS-10		B-2		(d) (1)
授業概要	テーマに対してプロジェクトチームを組んでアイデア出し・調査・共同開発・発表を行う。これらを通してプロジェクト管理の方法、制作物の共同開発方法、スケジュール管理等を体験的に学習する。			
到達目標	A. チームでアイデア出し・調査・検討をすることができる B. 共同で分担して開発作業ができる C. プロジェクト管理を体験し、基本的な管理ができる D. プロジェクトチームによるソフトウェア開発を体験し、理解できる E. プレゼンテーションの基本を理解し、発表できる F. プロジェクトチームで議論を行い、報告書を作成することができる			
授業方法	実習形式で授業を行う。 テーマに対して各プロジェクトチームで開発を行う。 開発の過程では、プロジェクト管理、ブレインストーミングなどを行いながら、体験的に開発を行う。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	・ 報告書 (40%) ・ プログラミング応用 I・II を通じてのプロジェクト開発試行に関し以下の観点で評価を行う。 (1) 参加度合い (2) 積極性、開発内容の妥当性、分担の妥当性 (3) ドキュメント作成能力 (4) 発表内容 などの評価 (60%)			
関連科目	プログラミング基礎 I、II、III、アルゴリズム論 I、II			
準備学習に関するアドバイス	プログラミングの基礎知識についてよく復習しておくことが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス テーマ発表	授業計画・評価方法 <input type="checkbox"/> 与えられたテーマについてチームでアイデア出し・調査・検討をする
3	発表資料作り	<input type="checkbox"/> チームで制作物について議論する (F) <input type="checkbox"/> 発表資料を作る (E)
1.5	制作物発表	<input type="checkbox"/> 制作物について発表する (E)
15	プロジェクトチームで開発作業	<input type="checkbox"/> スケジュール管理をする (C, D) <input type="checkbox"/> プロジェクトチーム内で連携する (C, D) <input type="checkbox"/> 課題・問題点についてチーム内で情報共有する (F) <input type="checkbox"/> 進捗報告をする (C, D)
1.5	期末発表	<input type="checkbox"/> 開発状況の進捗報告をまとめる (E)
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング応用II	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Programming Applications 2	必修	0	0	22.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
その他	.	403		
その他	.			
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-3 CS-7 CS-10		B-2		(d) (1)
授業概要	テーマに対してプロジェクトチームを組んでアイデア出し・調査・共同開発・発表を行う。これらを通してプロジェクト管理の方法、制作物の共同開発方法、スケジュール管理等を体験的に学習する。			
到達目標	A. チームでアイデア出し・調査・検討をすることができる B. 共同で分担して開発作業ができる C. プロジェクト管理を体験し、基本的な管理ができる D. プロジェクトチームによるソフトウェア開発を体験し、理解できる E. プレゼンテーションの基本を理解し、発表できる F. プロジェクトチームで議論を行い、報告書を作成することができる			
授業方法	実習形式で授業を行う。 テーマに対して各プロジェクトチームで開発を行う。 開発の過程では、プロジェクト管理、ブレインストーミングなどを行いながら、体験的に開発を行う。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	・ 報告書 (40%) ・ プログラミング応用 I・II を通じてのプロジェクト開発試行に関し以下の観点で評価を行う。 (1) 参加度合い (2) 積極性、開発内容の妥当性、分担の妥当性 (3) ドキュメント作成能力 (4) 発表内容 などの評価 (60%)			
関連科目	プログラミング基礎 I、II、III、アルゴリズム論 I、II、プログラミング応用 I			
準備学習 に関する アドバイス	プログラミングの基礎知識についてよく復習しておくことが望ましい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	授業計画・評価方法
6	プロジェクトチームで開発作業	<input type="checkbox"/> スケジュール管理をする (C, D) <input type="checkbox"/> プロジェクトチーム内で情報共有する (C, D) <input type="checkbox"/> 課題・問題点についてチーム内で議論する (F) <input type="checkbox"/> 進捗報告をする (C, D)
1.5	デモ発表 (育英祭期間中)	<input type="checkbox"/> 制作物についてデモンストレーションをする (E)
12	プロジェクトチームで開発作業	<input type="checkbox"/> デモで気づいた課題・問題点について調査・検討をする (A) <input type="checkbox"/> 課題について議論する (F) <input type="checkbox"/> スケジュール管理する (C, D) <input type="checkbox"/> プロジェクトチーム内で情報共有をする (C, D) <input type="checkbox"/> 進捗報告をする (C, D)
1.5	最終発表	<input type="checkbox"/> 完成した制作物についてまとめて発表する (E)
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数値計算 I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Numerical Computation I	必修	講義	演習	実験・実習
7.5	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1	B-2	(d) (1)		
授業概要	数値計算(数値解析)は、自然科学および工学のあらゆる分野で応用され、現在では、生命科学や芸術にも科学技術計算が利用されるようになってきた。この授業では、基本的な数値計算のアルゴリズムをプログラミングを中心に学習する。			
到達目標	A. 誤差の概念が理解できており、そのメカニズムを説明できる。 B. 逆行列を求めるアルゴリズムを一つ挙げることができ、適切な仕様書をもとにプログラム化できる。			
授業方法	講義と演習にて実施する			
教科書	なし			
補助教材	数値計算法基礎 田中敏幸著 (コロナ社)			
評価方法	・ 中間試験、期末試験と、演習課題によって評価する。割合は演習課題30%、試験70%で評価。 ・ 試験の評価は中間と期末の平均点で行う。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法 プログラムの書き方・開発環境について
1.5	数の表現と誤差	□桁落ち・丸め・打ち切り誤差、浮動小数点(A)
7.5	行列計算	□行列の基本演算(B) □逆行列(B) □掃き出し法(B)
0.75	中間試験	
0.75	試験解説	前半の総まとめ
5.25	連立方程式の解法	□ガウスの消去法(B) □LU分解(B)
3	固有値問題	□固有値の計算(B)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説、総まとめ、個別指導	後半の総まとめ、個別指導
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： □優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数値計算 II	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Numerical Computation II	必修	講義	演習	実験・実習
7.5	15			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1		B-2		(d) (1)
授業概要	数値計算(数値解析)は、自然科学および工学のあらゆる分野で応用され、現在では、生命科学や芸術にも科学技術計算が利用されるようになってきた。この授業では、基本的な数値計算のアルゴリズムをプログラミングを中心に学習する。			
到達目標	A. 微分方程式の解を求めるプログラムを作成できる。 B. 積分のプログラムを作成できる。 C. 非線型方程式の解を求めるプログラムが作成できる。 D. データ補間の概念、アルゴリズムとそれぞれの手法の特徴を説明でき、プログラムを作成できる。			
授業方法	講義と演習にて実施する			
教科書	なし			
補助教材	数値計算法基礎 田中敏幸著 (コロナ社)			
評価方法	・ 中間試験、期末試験と、演習課題によって評価する。割合は演習課題30%、試験70%で評価。 ・ 試験の評価は中間と期末の平均点で行う。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法
3	数値積分	<input type="checkbox"/> 台形則(B) <input type="checkbox"/> シンプソン則(B)
6	常微分方程式の解法	<input type="checkbox"/> 微分の基本事項の整理(A) <input type="checkbox"/> 差分法(A) <input type="checkbox"/> Euler法(A)
0.75	中間試験	前半の総まとめ
0.75	試験解説	
4.5	非線型方程式の解法	<input type="checkbox"/> Newton法(C) <input type="checkbox"/> 二分法(C) <input type="checkbox"/> セカント法(C) <input type="checkbox"/> はさみうち法(C)
3.75	データ解析と補間	<input type="checkbox"/> 最小二乗法(D) <input type="checkbox"/> ラグランジュ多項式による補間(D)
0.75	期末試験	後半の総まとめ、個別指導
1.5	試験解説、総まとめ、個別指導	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算機アーキテクチャ I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Architecture 1	必修	講義	演習	実験・実習
		21	1.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchiida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	本授業では、コンピュータでのプログラム実行の仕組みを計算機アーキテクチャの視点から解説する。特に演算装置の構成方式に注目し、プログラマが留意すべき点について話をする。			
到達目標	A. コンピュータの開発史におけるプログラム内蔵方式の位置づけを理解し説明できる。 B. コンピュータを構成する5大構成要素のうち、演算装置の位置づけを理解し説明できる。 C. 演算装置における基本的な演算の手順とその誤差について理解し説明できる。			
授業方法	講義形式で授業を行う。各試験区間で3回(半期6回)程度の演習課題を提示する。これらの課題は次回の授業までに報告書として提出することを求める。なお、期末試験の出題範囲は半期の学習項目全てが対象となる。			
教科書	必要に応じてプリント資料を配布する。			
補助教材	D. Patterson, J. Hennessy(著), 成田光彰(訳): コンピュータの構成と設計第5版(上)(下), 日経BP社, 2014年。			
評価方法	中間: 中間試験 (100%) 期末: 課題 (20%) + 中間試験 (30%) + 期末試験 (50%)			
関連科目	計算機概論 I・II, 論理回路 I・II, デジタル回路設計, 電子回路			
準備学習に関するアドバイス	固定小数点数, 浮動小数点数について事前に復習しておく。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> カリキュラムにおける本授業の位置づけを理解する。 <input type="checkbox"/> 計算機アーキテクチャと計算機の性能向上を概観する。
1.5	プログラム内蔵方式	<input type="checkbox"/> コンピュータ開発史における本方式の位置づけを理解する(A)。 <input type="checkbox"/> プログラム内蔵方式の特徴を理解し説明できる(A, B)。
1.5	基本構成要素と実現技術	<input type="checkbox"/> コンピュータの5大構成要素を説明できる(A, B)。 <input type="checkbox"/> 半導体技術・磁気記憶技術の関わりを説明できる(B)。
1.5	数値表現(復習)	<input type="checkbox"/> 2進数により数値を表現できる(B, C)。
3	固定小数点数の加減算	<input type="checkbox"/> 固定小数点数・浮動小数点数により数値を表現できる(B, C)。 <input type="checkbox"/> 補数による加減算の原理を理解し手計算できる(C)。 <input type="checkbox"/> 符号の有無, 桁数の相違による演算の違いを説明できる(C)。 <input type="checkbox"/> オーバフローの原理を理解し事例を示せる(C)。
0.75	中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
0.75	試験の講評	<input type="checkbox"/> 答案返却, 試験解説
4.5	浮動小数点数の加減算	<input type="checkbox"/> 浮動小数点数の加減算の原理を理解し手計算できる(C)。 <input type="checkbox"/> IEEE754形式の加減算の原理を理解し手計算できる(C)。 <input type="checkbox"/> 丸め処理の原理を理解し手計算できる(C)。 <input type="checkbox"/> オーバフロー・アンダフローの原理を理解し事例を示せる(C)。
1.5	固定小数点数の乗除算	<input type="checkbox"/> 乗除算の原理を理解し手計算できる(C)。
1.5	浮動小数点数の乗除算	<input type="checkbox"/> 乗除算の原理を理解し手計算できる(C)。
1.5	演算における誤差	<input type="checkbox"/> 丸め, 桁落ち, 情報落ち, 等誤差発生を説明できる(C)。 <input type="checkbox"/> 打ち切り誤差の事例を紹介する(C)。
0.75	期末直前演習	<input type="checkbox"/> 授業のまとめと演習
0.75	期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	期末試験の講評	<input type="checkbox"/> 答案返却, 試験解説
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算機アーキテクチャⅡ	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computer Architecture 2	必修	講義	演習	実験・実習
		21	1.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchiida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	本授業では、コンピュータでのプログラム実行の仕組みを計算機アーキテクチャの視点から解説する。特に命令セットと記憶装置に注目しプログラマが留意すべき点について話をする。			
到達目標	A. プログラム内蔵方式コンピュータの中心機能である「命令セット」の役割を理解し説明できる。 B. 記憶装置の基本的な構造について理解し説明できる。 C. 命令語を使い基本的なプログラムの動作を説明できる。			
授業方法	講義形式で授業を行う。各試験区間で3回(半期6回)程度の演習課題を提示する。これらの課題は次の授業までに報告書として提出することを求める。なお、期末試験の出題範囲は半期の学習項目全てが対象となる。			
教科書	必要に応じてプリント資料を配布する。			
補助教材	D. Patterson, J. Hennessy(著), 成田光彰(訳): コンピュータの構成と設計第5版(上)(下), 日経BP社, 2014年。			
評価方法	中間: 中間試験 (100%) 期末: 課題 (20%) + 中間試験 (30%) + 期末試験 (50%)			
関連科目	計算機概論Ⅰ・Ⅱ, 論理回路Ⅰ・Ⅱ, 計算機アーキテクチャⅠ			
準備学習に関するアドバイス	計算機アーキテクチャⅠで解説したプログラム内蔵方式と演算装置について復習しておくとうい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> カリキュラムにおける本授業の位置づけを理解する。 <input type="checkbox"/> プログラム内蔵方式コンピュータを概観する。
1.5	命令実行のサイクル	<input type="checkbox"/> 基本的なデータバスの構成を理解し説明できる(A). <input type="checkbox"/> プログラムカウンタの機能を理解し説明できる(A). <input type="checkbox"/> データバス部の要素を用いて命令実行の流れを説明できる(A).
3	オペランド	<input type="checkbox"/> レジスタとメモリを理解しその機能を説明できる(A, B). <input type="checkbox"/> アドレスの原理を理解しその必要性を説明できる(B). <input type="checkbox"/> エンディアンの原理を理解しその必要性を説明できる(B).
1.5	命令セットの概要	<input type="checkbox"/> データシート等を読み命令語の基本機能を理解できる(A, C). <input type="checkbox"/> ニーモニック表記と機械語表記を相互に変換できる(A, C).
1.5	算術論理演算命令	<input type="checkbox"/> 命令語の機能を理解し基本的なプログラムを書ける(C).
0.75	中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
0.75	試験の講評	<input type="checkbox"/> 答案返却, 試験解説
3	ロード・ストア命令	<input type="checkbox"/> 命令語の機能を理解し基本的なプログラムを書ける(C).
3	分岐命令	<input type="checkbox"/> 命令語の機能を理解し基本的なプログラムを書ける(C).
3	プログラム事例	<input type="checkbox"/> 基本的なC言語のプログラムを命令語で表現できる(A, C).
0.75	期末直前演習	<input type="checkbox"/> 授業のまとめと演習
0.75	期末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
1.5	期末試験の講評	<input type="checkbox"/> 答案返却, 試験解説
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報ネットワーク	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Network Systems	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
CS-4		B-2	(d)(1)	
授業概要	ネット通販や電子マネーなど、高度IT化社会の実社会での運用において安全性、信頼性を確保するためのセキュリティ技術が不可欠である。本授業では、情報セキュリティについて学習する。			
到達目標	A. 情報セキュリティについて説明できる B. セキュリティ対策について説明できる C. 公開鍵暗号方式について説明できる D. 共通鍵暗号方式について説明できる			
授業方法	主として講義を行い、課題を出題する。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = "中間評価"×0.35 + 期末試験素点×0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする)			
関連科目	情報通信システム I, II			
準備学習に関するアドバイス	ネットワークのセキュリティに関する事項を調べるとよい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
3	情報セキュリティ	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティの要素(A) <input type="checkbox"/> 時系列と管理方法での対策(A) <input type="checkbox"/> リスク管理(A)
6	セキュリティ対策	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティにおける脅威の種類(B) <input type="checkbox"/> アクセス制御(B) <input type="checkbox"/> 認証(B) <input type="checkbox"/> ファイアウォール(B) <input type="checkbox"/> IDS, IDP(B) <input type="checkbox"/> VPN(B) <input type="checkbox"/> 暗号(B, C, D)
0.75	中間試験	
1.5	試験解説と復習	
1.5	暗号の方式	<input type="checkbox"/> 暗号について(C, D)
3	公開鍵暗号方式	<input type="checkbox"/> 公開鍵暗号方式について(C) <input type="checkbox"/> RSA暗号(C)
3	共通鍵暗号方式	<input type="checkbox"/> 共通鍵暗号方式について(D) <input type="checkbox"/> ブロック暗号(D) <input type="checkbox"/> ストリーム暗号(D)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説, まとめ	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
ビジネス情報システム	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Business Information Systems	必修	講義	演習	実験・実習
		16.5	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
仙波 良	情報工学科・非常勤講師	305	木曜日	r-semba
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	企業や社会における情報システムの利活用を理解し、情報システムの企画・開発における基礎知識を学ぶ			
到達目標	A. ビジネス情報システムとは何かを説明できる B. 事業戦略とは何か、どう考えるかを説明できる C. デジタル情報がビジネス情報システムにどのように活用されているかを説明できる D. ビジネス情報システムにより何を狙っているかを説明できる E. 業種別のビジネス情報システムの事例を説明できる F. ビジネス情報システムのネット活用について説明できる G. ビジネス情報システムの構築や運用について説明できる H. 日本のビジネス情報システムの現状と課題を説明できる I. 与えられたテーマをグループ討議し、成果をまとめる事が出来る			
授業方法	講義と質疑応答・意見交換 グループによる討議と成果発表及び意見交換			
教科書	プリント(授業のプロジェクタースライドコピー)			
補助教材	なし			
評価方法	中間評価: 中間試験(100%) 中間試験の素点をそのまま報告する 期末評価: 中間試験(35%) + 期末試験(35%) + グループ討議及び授業出席度(30%) 尚、場合によっては、再試験を行うこともある			
関連科目	情報社会論、経営工学概論			
準備学習に関するアドバイス	毎週の講義で示す復習の項目を説明できるようにしておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	オリエンテーション	授業概要、 <input type="checkbox"/> ビジネス情報システム(A)
1.5	事業戦略とビジネス情報システム	<input type="checkbox"/> 事業戦略とは、ビジネス情報システムの狙い(B)
1.5	デジタル情報とビジネス情報システム	<input type="checkbox"/> デジタル情報とは、ビジネス情報システムへの活用(C)
1.5	情報システム戦略	<input type="checkbox"/> 情報システムの進化、情報による競争優位(D)
4.5	情報システム活用事例	<input type="checkbox"/> 業種別(製造業、流通業、金融業)の事例(E)
0.75	後期中間試験	
1.5	情報システムのネット活用、試験の解説	<input type="checkbox"/> ビジネス情報システムの進化、企業のネット活用ビジネス(F)、試験の解説
1.5	情報システムの構築	<input type="checkbox"/> 情報システム構築、情報システム社会の課題(G)
1.5	日本の情報システム	<input type="checkbox"/> 日本の情報通信インフラ、情報通信産業(H)
4.5	グループ討議	<input type="checkbox"/> グループ討議、成果発表と質疑(I)
0.75	後期期末試験	
1.5	試験の解説	期末試験の解説
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
オペレーションズ・リサーチ I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Operations Research I	必修	講義	演習	実験・実習
22.5				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜 12:20~13:00	simakawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	ORは第2次世界大戦時に米英を中心に発展した「作戦研究」である。戦後、この知見は民間に転用され同時に発展したコンピュータを利用することによって実用的な学問となった。本授業ではORのトピックスを紹介しつつ、基礎の習得を目指す。			
到達目標	<p>A 線形計画法の定式化と基本的な構造の理解ができる。</p> <p>B 線形計画法の双対問題の定式化とシンプレックス法による求解過程を理解できる。</p> <p>C 在庫管理問題の考え方を理解できる。</p> <p>D 在庫管理問題の数理的な定式化を理解できる。</p> <p>E データを整理して平均と分散 (標準偏差) を計算できる。</p>			
授業方法	座学			
教科書	特になし (必要があれば配布する)			
補助教材	特になし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 試験範囲は中間試験では中間試験まで扱ったところ、期末試験では中間試験を含む全期間とする。 評価は中間試験が40%、期末試験が40%、課題が20%である。つまり中間試験素点をx1、期末試験素点をx2、課題をx3とした場合、総合評価Xは$0.4*x1+0.4*x2+0.2*x3$の値となる。 中間試験後の成績表に記載される点数はx1、期末試験後に記載される点数はXである。 課題を1回実施する。 合格点は60%である。 ノート点、出席による加点は一切行わない。 本講義への質問 (特に試験前) は課題が提出されていることと自筆のノートを持参することが条件である。 			
関連科目	オペレーションズ・リサーチII			
準備学習に関するアドバイス	授業後に必ずノートを見返し、わからないことは教員に質問に行く。またノートは片面を板書の写し、片面を自分で調査した項目を記載する等工夫すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	
0.75	オペレーションズ・リサーチの沿革	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価方法
1.5	オペレーションズ・リサーチと計算機	<input type="checkbox"/> ORの歴史・ORの現在、経営科学としてのOR
		<input type="checkbox"/> 情報工学におけるORの位置づけ
6	線形計画法	<input type="checkbox"/> 生産計画問題、飼料配合問題、輸送問題 (A)
		<input type="checkbox"/> 目的関数、制約条件、実行可能解 (A)
		<input type="checkbox"/> グラフ解法、スラック変数の導入 (A, B)
		<input type="checkbox"/> シンプレックス法による求解 (タブロー計算) (B)
		<input type="checkbox"/> 双対問題の定式化、感度分析・計量量・退化の問題 (B)
1.5	中間試験前演習	
0.75	中間試験	
0.75	試験の講評	<input type="checkbox"/> 前期中間試験の講評
3	在庫管理問題	<input type="checkbox"/> 品切れなしモデルによる基本的な考え方 (C, D)
		<input type="checkbox"/> 品切れ損失モデル (D)
3.75	ポートフォリオ理論	<input type="checkbox"/> データを利用した統計資料の整理、確率の考え方 (E)
		<input type="checkbox"/> 線形計画法の応用例 (A)
1.5	期末試験前演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験の講評 (学習指導期間)	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
オペレーションズ・リサーチⅡ	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Operations Research 2	必修	講義	演習	実験・実習
22.5				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜日 12:40~13:00	simakawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	ORは第2次世界大戦時に米英を中心に発展した「作戦研究」である。戦後、この知見は民間に転用され同時に発展したコンピュータを利用することによって実用的な学問となった。本授業ではORのトピックスを紹介しつつ、基礎の習得を目指す。			
到達目標	A 設備更新問題の基本的な考え方、構造を理解できる。 B 確率過程（特にマルコフ過程）の考え方と定式化を理解できる。 C 2人ゼロ和ゲームの基本的な考え方を理解できる。 D 待ち行列の最も基本的なモデルであるM/M/1の基本的な計算ができる。			
授業方法	座学			
教科書	特になし（必要があればプリントを配布する）			
補助教材	特になし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 試験範囲は中間試験では中間試験まで扱ったところ、期末試験では中間試験を含む全期間とする。 評価は中間試験が40%、期末試験が40%、課題が20%である。つまり中間試験素点をx1、期末試験素点をx2、課題をx3とした場合、総合評価Xは$0.4*x1+0.4*x2+0.2*x3$の値となる。 中間試験後の成績表に記載される点数はx1、期末試験後に記載される点数はXである。 課題を1回実施する。 合格点は60%である。 ノート点、出席による加点は一切行わない。 本講義への質問（特に試験前）は課題が提出されていることと自筆のノートを持参することが条件である。 			
関連科目	オペレーションズ・リサーチⅠ			
準備学習に関するアドバイス	授業後に必ずノートを見返し、わからないことは教員に質問に行く。またノートは片面を板書の写し、片面を自分で調査した項目を記載する等工夫すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価の方法
4.5	設備更新問題	<input type="checkbox"/> 基本的な考え方としてのゼロ金利設備更新モデル (A) <input type="checkbox"/> 更新期間離散モデル・連続系モデル (A) <input type="checkbox"/> 金利がある場合の設備更新モデル (A)
3	マルコフモデル	<input type="checkbox"/> エルゴード的マルコフ過程 (B) <input type="checkbox"/> 吸収状態のあるマルコフ過程 (B) <input type="checkbox"/> 有限マルコフ連鎖・マルコフ遷移 (B)
1.5	中間試験前演習	
0.75	中間試験	
0.75	試験の講評	
1.5	ゲーム理論	<input type="checkbox"/> ゲームの均衡点と意思決定原理 (C) <input type="checkbox"/> ゼロ和2人ゲーム (C)
6	待ち行列理論	<input type="checkbox"/> 待ち行列の基本的考え方 (D) <input type="checkbox"/> ボアソン到着、指数サービスの待ち行列 (M/M/1) (D) <input type="checkbox"/> 平均待ち時間、窓口が複数の場合のモデルの拡張 (D)
1.5	期末試験前演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験の講評（学習指導期間）	<input type="checkbox"/> より発展的な学習のために
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
技術文書作成	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Technical Writing	必修	3	19.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-9		C-1		(f)
授業概要	相手が何をを知りたいと思っているのかを考えて文章を書くことは、これから先の進路活動を行う上でも非常に重要なことである。本授業では就職活動において必要になる履歴書やエントリーシートを題材にして何を書くべきかを学ぶ。また、LATEXを使った文書作成についても学ぶ。			
到達目標	<p>A. 文章で伝えたい相手を想定して、何を記述するのかを決めることができる</p> <p>B. 文章で伝えたい相手を想定して、自身で書いた文書を再確認 (校正) できる</p> <p>C. 定められた様式に沿った文書が書ける</p> <p>D. 定められた様式に沿った文書の再確認 (校正) ができる</p> <p>E. LATEXを用いて文章が書ける</p>			
授業方法	演習形式の授業である。いくつかの演習課題をこなしながら、それらについて適宜授業中にコメントをしていく。			
教科書	なし			
補助教材	適宜プリント資料を配布			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末評価はするが中間評価は実施しない。 ・ 各演習課題についての課題を100点満点で採点し、それらの単純平均により評価する。 ・ 課題評価は、以下の三つの観点をもとに算出する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 提出期日厳守 (提出期限より1週間以内提出の場合は20減点、以後1日につき2点減点、3週間以上経過したものは未提出とする。) (2) 課題項目理解度 (3) 課題完成度 <p>未提出の課題については、1課題につき20点を評価点から減ずる。</p>			
関連科目	国語、情報工学実験、文書作成概論Ⅰ、文書作成概論Ⅱ、プレゼンテーション			
準備学習に関するアドバイス	情報技術者の基礎として「文書の作成」の授業に取り組んで欲しいと願っています。演習主体の科目である以上、学生諸君の自主的な文書作成への取り組みを期待しています。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方針, 年間計画, 評価方法の解説
3	相手の求めているものを考える	<input type="checkbox"/> 企業分析 (A)
1.5	書くものを考える	<input type="checkbox"/> 自己分析 (A)
1.5	書類作成	<input type="checkbox"/> エントリーシートの作成 (B, C, D)
3	文章作成演習	<input type="checkbox"/> 総合演習 (エントリーシートの作成) (A, B, C, D)
9	LATEXを用いた文章作成	<input type="checkbox"/> LATEXの利用法 [講義] (E) <input type="checkbox"/> LATEXを使った数式を含んだ文書作成 (E)
3	文章作成演習	<input type="checkbox"/> 総合演習 (LATEXによる文章の作成) (E)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
離散数学 I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Discrete Mathematics 1	必修	22.5	講義	演習 実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜日 12:20~13:00	simakawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-1		B-1		(c)
授業概要	離散数学は情報工学を支える最も重要な基礎である。本講義では4年生でも理解できるように、身近な数え上げの問題から出発し、離散数学の基礎である和の計算を勉強する。基本的な事柄を一般化・抽象化することによって知識がより一般的な問題の解決に向かうような手法を紹介する。			
到達目標	A 数え上げの問題・概念の説明ができる。 B 組み合わせを理解できる。 C 漸化式を一般化することができる。 D 数学的帰納法を用いた証明ができる。 E 和の表記法の理解ができる。 F 複雑な和の計算ができる。			
授業方法	座学			
教科書	特になし (必要があればプリントで配布する)			
補助教材	特になし			
評価方法	・試験範囲は中間試験では中間試験まで扱ったところ、期末試験では中間試験を含む全期間とする。 ・評価は中間試験が40%、期末試験が40%、課題が20%である。つまり中間試験素点をx1、期末試験素点をx2、課題をx3とした場合、総合評価Xは $0.4*x1+0.4*x2+0.2*x3$ の値となる。 ・中間試験後の成績表に記載される点数はx1、期末試験後に記載される点数はXである。 ・課題を1回実施する。 ・合格点は60%である。 ・ノート点、出席による加点は一切行わない。 ・本講義への質問 (特に試験前) は課題が提出されていることと自筆のノートを持参することが条件である。			
関連科目	情報数学概論、離散数学2			
準備学習に関するアドバイス	授業後に必ずノートを見返し、わからないことは教員に質問に行く。またノートは片面を板書の写し、片面を自分で調査した項目を記載する等工夫すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価方法 <input type="checkbox"/> 情報工学・数学における離散数学の位置づけ
6	漸化式の問題	<input type="checkbox"/> ハノイの塔 <input type="checkbox"/> 平面の直線分割 <input type="checkbox"/> ヨゼフスの問題 <input type="checkbox"/> 組み合わせ概念の理解、数え上げの方法 (A, B) <input type="checkbox"/> 漸化式の一般化 (C) <input type="checkbox"/> 数学的帰納法による証明 (D)
1.5	中間試験前演習	
0.75	中間試験	
0.75	試験の講評	
8.25	和の計算	<input type="checkbox"/> 記法の問題 (E) <input type="checkbox"/> 和の操作と漸化式 (F) <input type="checkbox"/> 多重和 (F) <input type="checkbox"/> 和の計算の一般的な方法 (F) <input type="checkbox"/> 離散系と連続系の微積分・無限個の項の和 (F)
1.5	期末試験前演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験の講評 (学習指導期間)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
離散数学Ⅱ	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Discrete Mathematics 2	必修	講義	演習	実験・実習
22.5				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜日 12:20~13:00	simakawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-1		B-1		(c)
授業概要	離散数学は情報工学を支える最も重要な基礎である。本講義では4年生でも理解できるように、身近な数え上げの問題から出発し、離散数学の基礎である和の計算を勉強する。基本的な事柄を一般化・抽象化することによって知識がより一般的な問題の解決に向かうような手法を紹介する。			
到達目標	<p>A グラフ・ネットワークの基本的な用語とグラフの形が説明できる。 B トポロジーが理解できている。同型、列挙ができる。 C 最短経路問題を説明できる。 D マッチング問題、被服問題を理解できる。 E 代表的なネットワーク問題を説明でき、その求解アルゴリズムを示すことができる。</p>			
授業方法	座学			
教科書	特になし (必要があればプリントを配布する)			
補助教材	特になし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 試験範囲は中間試験では中間試験まで扱ったところ、期末試験では中間試験を含む全期間とする。 評価は中間試験が40%、期末試験が40%、課題が20%である。つまり中間試験素点をx1、期末試験素点をx2、課題をx3とした場合、総合評価Xは$0.4*x1+0.4*x2+0.2*x3$の値となる。 中間試験後の成績表に記載される点数はx1、期末試験後に記載される点数はXである。 課題を1回実施する。 合格点は60%である。 ノート点、出席による加点は一切行わない。 本講義への質問 (特に試験前) は課題が提出されていることと自筆のノートを持参することが条件である。 			
関連科目	情報数学概論、離散数学Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	疑問点は毎回の授業と授業後の質問で解消すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画・評価方法の説明 <input type="checkbox"/> 情報工学・数学におけるグラフネットワーク理論の位置づけ <input type="checkbox"/> グラフ理論の応用・適用例
6.25	グラフ理論の基礎	<input type="checkbox"/> グラフの構造、グラフの用語・記法 (A) <input type="checkbox"/> グラフの列挙 (A, B) <input type="checkbox"/> グラフの操作 (B) <input type="checkbox"/> 行列表現 (B) <input type="checkbox"/> 道と閉路 (B, C) <input type="checkbox"/> マッチングと被覆 (D)
1.5	中間試験前演習	
0.75	中間試験	
0.75	試験の講評	
6	グラフの基礎算法	<input type="checkbox"/> 最短経路問題とその応用 (D) <input type="checkbox"/> ダイクストラ法のアルゴリズム (D) <input type="checkbox"/> ネットワークフローの問題とその制約条件 (D, E) <input type="checkbox"/> 最大流問題のアルゴリズムとその紹介 (D, E)
2	グラフの応用例	<input type="checkbox"/> PART (スケジューリング問題) <input type="checkbox"/> 制御不能流の紹介
1.5	期末試験前演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験の講評 (学習指導期間)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
統計解析学 I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Statistical Analysis I	必修	講義	演習	実験・実習
15	7.5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川岸 裕之	一般教育科・非常勤講師	239	火曜: 10:00~16:30	h-kawagishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1 CS-8		B-1 B-2		(c) (d) (1)
授業概要	3年次に履修した確率統計学の知識を更に深めるとともに、統計的推定や統計的検定の手法を習得することを目的とする。			
到達目標	A. 標本平均の特性を理解して種々の統計量を求めることができる。 B. 統計解析ソフト「R」の基本操作を理解して種々の統計量を求めることができる。 C. 統計的推定を理解して種々の区間推定を行うことができる。 D. 統計的検定を理解して種々の検定を行うことができる。 E. 統計解析ソフト「R」を使って区間推定および検定を行うことができる。			
授業方法	教科書および配布プリントを用いて授業を行う。また理解度を確認するために演習問題を行う。			
教科書	実教出版「新版 確率統計」			
補助教材	配布プリント			
評価方法	半期を2区間に分け、各区間において100点満点で評価する。各区間の評価方法は、定期試験(70%) + 課題提出・授業態度(30%)とする。総合評価は各区間の単純平均とする。			
関連科目	確率統計学、統計解析学Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	学習内容に基づいて予習を行う。授業中に理解できなかった箇所があれば講師に質問する。授業ノートを中心に復習し特に演習問題の解き方を再確認する。統計解析学の社会生活への活用例に興味を持つ。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画と評価方法を理解する。
3	母集団と標本	<input type="checkbox"/> 標本平均の平均・標準偏差を計算できる(A) <input type="checkbox"/> 中心極限定理を理解して標本平均の確率を計算できる(A)
1.5	Rの演習	<input type="checkbox"/> Rの基本的な操作を理解する(B) <input type="checkbox"/> Rの関数を利用して種々の統計量を求めることができる(B)
3	統計的推定	<input type="checkbox"/> 母平均の区間推定を行うことができる(C) <input type="checkbox"/> 母比率の区間推定を行うことができる(C)
1.5	まとめと演習	
0.75	前期中間試験	
6	統計的検定	<input type="checkbox"/> 仮説・検定統計量・棄却域の意味を理解する(D) <input type="checkbox"/> 母平均・母平均の差の検定を行うことができる(D) <input type="checkbox"/> 母比率・母比率の差の検定を行うことができる(D)
1.5	Rの演習	<input type="checkbox"/> Rを使って区間推定および検定を行うことができる(E)
1.5	まとめと演習	
0.75	前期期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説および理解が不十分な内容の補足説明
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
統計解析学Ⅱ	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Statistical Analysis II	必修	講義	演習	実験・実習
10.5	12			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川岸 裕之	一般教育科・非常勤講師	239	火曜:10:00~16:30	h-kawagishi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1 CS-8		B-1 B-2		(c) (d) (1)
授業概要	統計解析学Ⅰで学んだ統計的手法を基礎として、分散分析、回帰分析、判別分析、主成分分析などのデータ解析手法を理解するとともに、統計解析ソフト「R」による計算方法を習得することを目的とする。			
到達目標	A. 分散分析の手法を理解して「R」で分散分析を行うことができる B. 回帰分析の手法を理解して「R」で回帰分析を行うことができる C. 判別分析の手法を理解して「R」で判別分析を行うことができる D. 主成分分析の手法を理解して「R」で主成分分析を行うことができる E. シミュレーションを理解して「R」でシミュレーションを行うことができる			
授業方法	配布プリントを用いて授業および演習を行う。また理解度を確認するために演習問題を行う。			
教科書	指定なし(配布プリントを使用)			
補助教材	なし			
評価方法	半期を2区間に分け、各区分において100点満点で評価する。各区分の評価方法は、定期試験(70%) + 課題提出・授業態度(30%)とする。総合評価は各区分の単純平均とする。			
関連科目	確率統計学、統計解析学Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	学習内容に基づいて予習を行う。授業中に理解できなかった箇所があれば講師に質問する。授業ノートを中心に復習し特に演習問題の解き方を再確認する。統計解析学の社会生活への活用例に興味を持つ。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 後期授業計画と評価方法を理解する
2	分散分析	<input type="checkbox"/> 分散分析の手法を理解する(A) <input type="checkbox"/> 一元配置分散分析を行うことができる(A)
3	回帰分析	<input type="checkbox"/> 回帰分析の手法を理解する(B) <input type="checkbox"/> 単回帰分析を行うことができる(B) <input type="checkbox"/> 重回帰分析を行うことができる(B)
3	Rの演習	<input type="checkbox"/> Rで分散分析を行うことができる(A) <input type="checkbox"/> Rで単回帰分析を行うことができる(B)
1.5	まとめと演習	
0.75	後期中間試験	
1.5	判別分析	<input type="checkbox"/> 判別分析の手法を理解する(C) <input type="checkbox"/> 判別分析を行うことができる(C)
1.5	主成分分析	<input type="checkbox"/> 主成分分析の目的を理解する(D) <input type="checkbox"/> 主成分分析を行うことができる(D)
4.5	Rの演習	<input type="checkbox"/> Rで判別分析を行うことができる(C) <input type="checkbox"/> Rで主成分分析を行うことができる(D) <input type="checkbox"/> Rでシミュレーションを行うことができる(E)
1.5	まとめと演習	
0.75	後期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説、理解が不十分な内容の補足説明
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学基礎演習 I	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Exercises in fundamental topics 1	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜 12:20~13:00	simakawa
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
CS-1		B-1	(c)	
授業概要	情報工学では数学的な能力、特に計算能力が必要である。そこで本授業では、前半と後半に内容を分け、前半では線形代数の内容を、後半では解析学の内容の演習を扱う。本授業で習得した内容は情報工学基礎演習IIにおいて計算機プログラムに結び付けられる。			
到達目標	A. 行列に関する諸計算の計算手順を理解し計算を実行できる。 B. 関数の微分に関する諸計算の計算手順を理解し計算を実行できる。 C. 関数の積分に関する諸計算の計算手順を理解し計算を実行できる。 D. 線形微分方程式に対し、簡単な解法の計算手順を理解し計算を実行できる。			
授業方法	クラスを習熟度により2つのコース(AコースとBコース)に分けて演習問題を解く。両コースとも同じテーマを扱うが、演習問題の難易度が異なる。また中間試験後に再びコース分けを行う。			
教科書	なし			
補助教材	適宜プリントを配布する			
評価方法	評価点の算出法 1) 各区分(中間区分と期末区分)にて100点法で評価点を算出する。この評価点を「区間評価点」と呼ぶ。 区間評価点 = 区間中の定期試験点数 × 0.3 + 区間中の課題の点数 × 0.7 ※区間中の課題点数の算出 毎回の課題は「基本課題」と「チャレンジ課題」からなり、基本課題60点、チャレンジ課題20~40点(Aコースは40点、Bコースは20点)とする。毎授業ごとに課題点を算出し、それらの平均点を区間中の課題点数とする。 (欠席した場合は、基本課題を提出すれば60点として扱う。) 2) 総合評価点 中間区分の評価点と期末区分の評価点の平均			
関連科目	線形代数 I・II、解析学 I・II・III			
準備学習に関するアドバイス	本授業は後期開講科目「情報工学基礎演習II」とセットになっており、本授業で行った内容は後期の演習IIで必要となるので気を抜かずに取り組むこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス コース分け試験	<input type="checkbox"/> 授業方針、授業計画、評価方法の解説 <input type="checkbox"/> コース分け試験
9	線形代数分野	<input type="checkbox"/> 行列の階数(A) <input type="checkbox"/> 行列式(A) <input type="checkbox"/> 逆行列(A) <input type="checkbox"/> 連立方程式の解法(A) <input type="checkbox"/> 固有値・固有ベクトル(A)
0.75	前期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説 コース分け試験	<input type="checkbox"/> コース分け試験
7.5	解析学分野	<input type="checkbox"/> 微分(導関数、極大極小)(B) <input type="checkbox"/> 積分(不定積分、定積分)(C) <input type="checkbox"/> 線形微分方程式(D)
0.75	前期中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学基礎演習Ⅱ	CS:情報工学科	4年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Exercises in fundamental topics 2	必修	講義	演習	実験・実習
		22.5		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	水曜 12:20~13:00	simakawa
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402		yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2)との対応		
CS-1	B-1	(c)		
授業概要	情報工学では数学的な能力、特に計算能力が必要である。本講義では情報工学基礎演習Ⅰで身につけた線形代数、解析学の計算を計算機プログラムに結び付ける。数値計算プログラミングの反復学習を通じてプログラミングの基礎能力を涵養する。			
到達目標	A 数値計算により連立方程式を解くことができる B 数値計算により固有値の計算をすることができる C 数値計算により凸関数の極値を求めることができる D 数値計算により微分方程式の解を求めることができる E 数値計算により積分値を計算できる			
授業方法				
教科書				
補助教材				
評価方法	プログラム課題の点数をx1、2回の試験の平均をx2とすると $X = 0.7 \times x1 + 0.3 \times x2$ で総合評価Xを決定する。X>=60で合格である。ここで、 2回の定期試験は各100点満点で $x2 = 0.5 \times (\text{中間試験の素点}) + 0.5 \times (\text{期末試験の素点})$ である。また、 プログラムの課題は 基本課題 5題 (1題12点) チャレンジ課題 5題 (1題8点) とする。			
関連科目	情報工学基礎演習Ⅰ, 線形代数, 解析学, 情報数学			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス	本講義の目的・授業の予定・方法の説明
5	連立方程式の解法	<input type="checkbox"/> 逆行列の計算、掃き出し法、LU分解[A]
3	固有値の計算	<input type="checkbox"/> 固有値の計算[B]
0.75	中間試験	
0.75	中間試験の解説	
6	微分方程式・凸関数の極値	<input type="checkbox"/> 差分法、Euler法、Newton法、2分法[C, D]
3.25	数値積分	<input type="checkbox"/> 台形則、シンプソン則[E]
0.75	期末試験	
1.5	試験解説	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学実験Ⅴ	CS:情報工学科	4年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments 5	必修	0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchida
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日16:15-17:00	ooshima
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日を除く	shimizu
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日を除く	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-4 CS-5 CS-6 CS-9		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	コンピュータや情報ネットワークを用いた情報システムの構築、情報システムにおける音声データ等の情報メディアの処理やシステムプログラミングを通じ、情報工学の基本的な知識や技能を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 実験指導書等の参考資料にもとづき実験に必要なシステムの構築やプログラムの作成ができる。</p> <p>B. 測定器などの実験装置を適切に使用することができる。</p> <p>C. 実験指導書の実験内容に従い実験結果を得ることができる。</p> <p>D. 第三者が実験結果を理解できるように報告書をまとめることができる。</p>			
授業方法	クラスを4つに分けた各グループは半期で4つのテーマに取り組む。1つのテーマを3回で実施し各々のテーマについて実験報告書を提出する。			
教科書	実験指導書等の資料を配布する。			
補助教材	実験指導書の参考文献欄を参照する。			
評価方法	<p>中間： 評価を出さない。</p> <p>期末： 出席点(20%) + 報告点(80%)</p> <p>* 出席点：遅刻や欠席をせずに実験作業に参加できた場合1テーマにつき5点、全4テーマの合計点(計20点)を出席点とする。</p> <p>* 報告点：各実験報告書を100点満点で評価し、全4通の平均点×0.8を報告点とする。期日に遅れた報告書の評価点は採点結果に0.8をかけた値を用いる。</p> <p>ただし、未提出の報告書がある場合や未終了の実験テーマがある場合は、前述の評価点によらず不合格とする。</p>			
関連科目	情報工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ			
準備学習に関するアドバイス	実験指導書をよく読み安全に実験を行う。実験手順や実験結果の記録・整理にノート等を使用し、適切な実験報告書の作成に心がける。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス	実験テーマ、実験報告書の作成指針、評価方法について説明
9	411 システムプログラム	<p>入出力関数とファイル操作</p> <p><input type="checkbox"/> ファイルを理解し、高水準入出力関数・低水準入出力関数を用いてプログラムを作成できる(A)。</p> <p><input type="checkbox"/> ファイルのサイズと複製時間の関係を調べられる(B,C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験結果を図・表に整理し報告書を作成できる(D)。</p>
9	412 デジタル信号処理	<p>離散フーリエ変換</p> <p><input type="checkbox"/> 数値解析ソフトを用いてフーリエ変換や窓関数のプログラムの作成ができる(A)。</p> <p><input type="checkbox"/> 入力信号の周波数特性や窓関数による影響を確認できる(B,C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 得られた実験結果を報告書にまとめることができる(D)。</p>
9	413 情報ネットワーク	<p>ネットワークの基礎</p> <p><input type="checkbox"/> Raspberry Piを使ってLinuxの基本操作とTelnet, SSH通信ができる(A,B)。</p> <p><input type="checkbox"/> ネットワーク管理コマンドの原理を理解し動作を理解できる(B,C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験結果を図・表に整理し報告書を作成できる(D)。</p>
9	414 人工知能	<p>画像認識ライブラリ</p> <p><input type="checkbox"/> システムの構成を理解し、パラメータを変更しながらシステムが利用ができる(A)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実行アルゴリズム・実行パラメータ・試験用データを準備してから結果を調べられる(B,C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験結果を図・表に整理し報告書を作成できる(D)。</p>
3	実験予備日	未終了実験テーマの作業、実験結果の不備を指摘された実験項目の再実験、実験報告書の作成指導
3	まとめ	実験報告書での作成指針に沿って提出されたレポートを講評する。
合計	45	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点
時間		最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報工学実験VI	CS:情報工学科	4年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments 6	*必修	0	0	45
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchida
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日16:15-17:00	ooshima
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日を除く	shimizu
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日を除く	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-4 CS-5 CS-6 CS-9		B-4 D-3		(d) (2) (g)
授業概要	コンピュータや情報ネットワークを用いた情報システムの構築, 情報システムにおける音声データ等の情報メディアの処理やシステムプログラミングを通じ, 情報工学の基本的な知識や技能を学ぶ。			
到達目標	<p>A. 実験指導書等の参考資料にもとづき実験に必要なシステムの構築やプログラムの作成ができる。</p> <p>B. 測定器などの実験装置を適切に使用することができる。</p> <p>C. 実験指導書の実験内容に従い実験結果を得ることができる。</p> <p>D. 第三者が実験結果を理解できるように報告書をまとめることができる。</p>			
授業方法	クラスを4つに分けた各グループは半期で4つのテーマに取り組む。1つのテーマを3回で実施し各々のテーマについて実験報告書を提出する。			
教科書	実験指導書等の資料を配布する。			
補助教材	実験指導書の参考文献欄を参照する。			
評価方法	<p>中間： 評価を出さない。</p> <p>期末： 出席点(20%) + 報告点(80%)</p> <p>* 出席点：遅刻や欠席をせずに実験作業に参加できた場合1テーマにつき5点, 全4テーマの合計点(計20点)を出席点とする。</p> <p>* 報告点：各実験報告書を100点満点で評価し, 全4通の平均点×0.8を報告点とする。期日に遅れた報告書の評価点は採点結果に0.8をかけた値を用いる。</p> <p>ただし, 未提出の報告書がある場合や未終了の実験テーマがある場合は, 前述の評価点によらず不合格とする。</p>			
関連科目	情報工学実験Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ			
準備学習に関するアドバイス	実験指導書をよく読み安全に実験を行う。実験手順や実験結果の記録・整理にノート等を使用し, 適切な実験報告書の作成に心がける。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス	実験テーマ, 実験報告書の作成指針, 評価方法について説明
9	421 システムプログラム	<p>プロセスとソケット通信</p> <p><input type="checkbox"/> プロセス間通信を理解し, ソケット通信に必要なシステムコールを用いてプログラムを作成できる(A)。</p> <p><input type="checkbox"/> 通信データのサイズと通信時間の関係を調べられる(B, C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験結果を図・表に整理し報告書を作成できる(D)。</p>
9	422 デジタル信号処理	<p>デジタルフィルタ</p> <p><input type="checkbox"/> 数値解析ソフトを用いて畳み込み演算のプログラムが作成できる(A)。</p> <p><input type="checkbox"/> フィルタリングを行い入力と出力の違いを確認できる(B, C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 得られた実験結果を報告書にまとめることができる(D)。</p>
9	423 情報ネットワーク	<p>ネットワーク性能</p> <p><input type="checkbox"/> インテリジェントスイッチの基本を理解し設定ができる(A, B)。</p> <p><input type="checkbox"/> ネットワークの設定と性能の関係を調べられる(B, C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験結果を図・表に整理し報告書を作成できる(D)。</p>
9	424 人工知能	<p>サッカーエージェント</p> <p><input type="checkbox"/> システムの構成を理解し, パラメータを変更しながらシステムが利用できる(A)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実行アルゴリズム・パラメータ・試験用エージェントを準備してから結果を調べられる(B, C)。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験結果を図・表に整理し報告書を作成できる(D)。</p>
3	実験予備日	未終了実験テーマの作業, 実験結果の不備を指摘された実験項目の再実験, 実験報告書の作成指導
3	まとめ	実験報告書での作成指針に沿って提出されたレポートを講評する。
合計	45	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
解析学Ⅲ	CS:情報工学科	4年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Analysis 3	必修	講義	演習	実験・実習
30	15	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
佐藤 豊	一般教育科・准教授	305 239	木曜日以外	sato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1		B-1		(c)
授業概要	解析学ⅠおよびⅡの内容を基礎とし、微分方程式の解法、2変数関数の重積分、数列の極限を学び、解析学の初等理論の学習を完了させる。			
到達目標	A. 微分方程式の基礎を理解し、変数分離形の解を求めることができる B. 線形微分方程式を解くことができる C. 非同次形の微分方程式を解くことができる D. 重積分の基本的な累次積分の計算ができる E. 変数変換により重積分の計算ができる F. 重積分により立体の体積を求めることができる G. 数列の極限、無限級数とは何かを理解し、その収束判定ができる			
授業方法	教科書を主とした講義形式。 適宜プリントを用いた演習を行う。 小テストを実施し、理解度を確認する。			
教科書	微分積分 改訂版 矢野健太郎、石原繁(裳華房)			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目及びその割合 (1) 定期試験(70%) (2) 小テスト、課題、授業態度(30%) 2. 評点算出方法 (1) 後期を2区間に分け、上記の配分に従って区間成績をつける。 (2) 総合成績は各区間成績の単純平均とする。 (3) 学年末に再試験を行うこともあるが、後期中間の総合成績が20点未満の場合は不可が確定する。			
関連科目	基礎数学Ⅰ・Ⅱ、微分積分学、解析学Ⅰ、解析学Ⅱ			
準備学習に関するアドバイス	本科目は二年生の微分積分学から四年生前期の解析学Ⅱまでの内容を基礎とした、解析学の集大成的な授業です。既修科目の基礎ができていない場合は、前に戻って分からない項目を復習する必要があります。それから、本科目で新しく学ぶ内容をしっかりと演習していきましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画と評価方法の説明
1.5	微分方程式の復習	<input type="checkbox"/> 微分方程式の復習(A)
3	2階線形微分方程式と解	<input type="checkbox"/> 2階線形微分方程式と解の性質、重ね合わせの原理(B)
3	同次線形微分方程式	<input type="checkbox"/> 同次線形微分方程式の解法(B)
2.25	定数係数非同次線形微分方程式	<input type="checkbox"/> 定数係数非同次線形微分方程式の解法(B, C)
1.5	微分方程式の応用	<input type="checkbox"/> 連立微分方程式の解法(B, C)
1.5	積分の復習	<input type="checkbox"/> 基本的な定積分の確認
3	累次積分	<input type="checkbox"/> 累次積分、2重積分の計算(D)
3	積分順序の変更	<input type="checkbox"/> 積分順序の変更を用いた2重積分の計算(D)
1.5	まとめと演習(後期中間試験対策)	<input type="checkbox"/> 後期中間試験の対策問題演習(A, B, C, D)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
2.25	極座標による2重積分	<input type="checkbox"/> 極座標変換を用いた2重積分の計算(E)
3	変数変換による2重積分	<input type="checkbox"/> ヤコビ行列式を用いた2重積分の計算(E)
3	3重積分	<input type="checkbox"/> 3重積分の計算(D)
3.75	体積	<input type="checkbox"/> 重積分を用いた領域の体積の求め方(F)
1.5	数列の極限	<input type="checkbox"/> 無限数列の収束・発散・振動、無限等比数列(G)
3	無限級数	<input type="checkbox"/> 無限級数の収束・発散、無限等比級数(G)
1.5	べき級数	<input type="checkbox"/> べき級数、収束半径(G)
1.5	まとめと演習(学年末試験対策)	<input type="checkbox"/> 学年末試験の対策問題演習(D, E, F, G)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> 試験実施
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 試験の解説、理解が不十分な内容の補足
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング応用Ⅲ	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Programming Applications 3	必修	講義	演習	実験・実習
22.5				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
村尾 裕一	情報工学科・非常勤講師	404	授業日	h-murao
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-3 CS-7 CS-8 CS-9 CS-10		B-2 B-3 D-1 D-3		(d) (1) (d) (3) (d) (4) (e) (g) (i)
授業概要	Javaあるいはそれと同等のオブジェクト指向言語について基本的な考え方を学習するとともに、具体的なソフトウェアの開発を行う。基本的な言語の学習の後、プロジェクトチームを組み、ソフトウェア開発を試みる。発生する事象や問題点を考察し、資料にまとめ、ソフトウェア開発に反映していく。			
到達目標	A. オブジェクト指向言語で書かれたプログラムを修正・改良・拡張できる B. 開発環境を使ってソフトウェア開発ができる C. 共同で分担して開発作業ができる D. 開発スケジュールを相談して作り、状況に応じて修正して作業できる E. 開発したものを共同で協力して発表できる F. 作業においてわからないことを協調して調べ、教え合うことができる G. 発生した問題点や事象を考察・検討・解決し、それらを報告書にまとめることができる			
授業方法	プログラミング応用Ⅳ授業と一体となって行う。学生が自主的に演習を行うことが中心で体験的に学習を行う。教員はあくまでサポーターとしての役割に徹する。学生の自主性・自律性を尊重し、さまざま疑似体験を実践してみる。			
教科書	なし			
補助教材	オブジェクト指向がわかる本 佐藤英人著 オーム社、やさしいJava 高橋麻奈著 ソフトバンククリエイティブ			
評価方法	・口頭試問(40%) ・プログラミング応用Ⅲ・Ⅳを通じたプロジェクト開発試行に関し (1)参加度合い (2)積極性、開発内容の妥当性、分担の妥当性 (3)発表内容、ドキュメンテーション(仕様書、マニュアル、報告書)などの評価(60%) ○最終目的が疑似体験を重要視するため積極的に加点の評価を行う			
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, アルゴリズム論Ⅰ, Ⅱ, プログラミング応用Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ, ソフトウェア工学			
準備学習に関するアドバイス	ソフトウェア開発では、自発的に調査し学びとる積極性が求められます。たとえばオブジェクト指向言語の知識も、自分で調べて役に立てるといような積極性が重要です。学生同士で互いに協力・分担して検討する態度が重要視されます。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法
1.5	オブジェクト試行言語と統合開発環境	<input type="checkbox"/> Java言語あるいは他の統合開発環境の使用法(B)
1.5	オブジェクト指向開発アプローチ	<input type="checkbox"/> オブジェクト指向の概要(基本概念)(A, B)
1.5	製作物初期発表	<input type="checkbox"/> 作成するソフトウェアの発表(E)
15	オブジェクト指向プログラム実習 プログラミング応用Ⅲ、Ⅳの開発試行に伴い、各項目を理解する	<input type="checkbox"/> クラス、メソッド、コンストラクタ、メッセージ、クラス階層とクラス継承、サブクラス、抽象クラス、基本プログラムの実行、例外処理、アプレットとグラフィックス(A, B) <input type="checkbox"/> ソフトウェアの開発計画および設計(C, D, F) <input type="checkbox"/> 仕様書・報告書の作成(C, D, F, G)
1.5	期末発表	<input type="checkbox"/> 開発状況の進捗報告のまとめ(E)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プログラミング応用Ⅳ	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Programming Applications 4	必修	講義	演習	実験・実習
22.5				
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
村尾 裕一	情報工学科・非常勤講師	404	授業日	h-murao
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-3 CS-7 CS-8 CS-9 CS-10	B-2 B-3 D-1 D-3	(d) (1) (d) (3) (d) (4) (e) (g) (i)		
授業概要	プログラミング応用Ⅲと対応して、プロジェクトを組んでソフトウェア開発の試行を行う。発生する事象や問題点を考察し、資料にまとめ、ソフトウェア開発に反映していく。開発試行を通じてプロジェクト管理の実習を行う。			
到達目標	A. プロジェクト型開発を経験し、方法論を実感できる B. PDCAサイクルの概要を実感できる C. 共同で分担して開発作業ができる D. 開発スケジュールを相談して作り、状況に応じて修正して作業できる E. 開発したものを共同で協力して発表できる F. 作業においてわからないことを協調して調べ、教え合うことができる G. 発生した問題点や事象を考察・検討・解決し、それらを報告書にまとめることができる			
授業方法	プロジェクト型の開発試行である。チームを組んで自主的に検討し、PDCA(Plan, Do, Check, Act)サイクルを回して開発試行を行う。中間プレゼンテーション、最終的な発表を開催するとともに、仕様書、マニュアル、作品のデモンストレーションを行う。			
教科書	なし			
補助教材	オブジェクト指向がわかる本 佐藤英人著 オーム社、やさしいJava 高橋麻奈著 ソフトバンククリエイティブ			
評価方法	・口頭試問 (20%) ・プログラミング応用Ⅲ・Ⅳを通じてのプロジェクト開発試行に関し (1) 参加度合い (2) 積極性、開発内容の妥当性、分担の妥当性 (3) 発表内容、ドキュメンテーション(仕様書、マニュアル)などの評価(30%) ○最終目的が疑似体験を重要視するため積極的に加点的評価を行う ・ソフトウェアの仕様の実装完了度および追加機能の提案(50%)			
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, アルゴリズム論Ⅰ, Ⅱ, プログラミング応用Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, ソフトウェア工学、プログラミング応用Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ, ソフトウェア工学Ⅰ			
準備学習 アドバイス	ソフトウェア開発では、自発的に調査し学びとる積極性が求められます。たとえばオブジェクト指向言語の知識も、自分で調べて役に立てるといような積極性が重要です。学生同士で互いに協力・分担して検討する態度が重要視されます。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法
10.5	ソフトウェア開発試行	<input type="checkbox"/> 自主的ソフトウェア開発の試行(A) <input type="checkbox"/> 仕様検討, 目標管理(A, B) <input type="checkbox"/> PDCA サイクルを回しながらの開発試行 <input type="checkbox"/> スケジュールフォロー, 調整(A, B, C, D, F, G)
1.5	中間発表	<input type="checkbox"/> 開発状況の進捗報告のまとめ(E)。
7.5	ソフトウェア開発試行	<input type="checkbox"/> 自主的ソフトウェア開発の試行(A) <input type="checkbox"/> 仕様検討, 目標管理(A, B) <input type="checkbox"/> PDCA サイクルを回しながらの開発試行 <input type="checkbox"/> スケジュールフォロー, 調整(A, B, C, D, F, G)
1.5	最終発表会, 書類提出	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション(発表, 進行状況フォロー)(E, A, C) <input type="checkbox"/> ソフトウェア開発試行, スケジュールフォロー(E, A, C) <input type="checkbox"/> 仕様書, マニュアル, 報告書作成(E, A, C, F, G) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション, 及びデモンストレーション(E)
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
ソフトウェア工学 I	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Software Engineering I	必修	10.5	12	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-3 CS-7 CS-10		B-2		(d) (1)
授業概要	システム開発において重要となるのが、効率的なソフトウェア開発である。開発の各種法と仕様の作成について学ぶ。			
到達目標	A. ソフトウェア開発の手順について理解できる。 B. 仕様をまとめ、文書にすることができる。			
授業方法	講義と演習にて実施する。授業では、各演習・実験などで作成したプログラム事例を用いて演習を実施する。			
教科書	なし			
補助教材	ソフトウェア工学の基礎 神長 裕明・郷 健太郎・杉浦 茂樹・高橋 正和・藤田 茂・渡辺 喜道著 (共立出版株式会社)			
評価方法	中間・期末と2回レポートを課す。それぞれのレポートの平均点で評価する。			
関連科目	プログラミング応用Ⅲ、Ⅳ			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法
1.5	ソフトウェア工学とは	<input type="checkbox"/> ソフトウェアとハードウェア、ソフトウェア開発の基本活動、ソフトウェア開発の特徴、これらの項目から、ソフトウェア工学の必要性を理解する。(A)
7.5	ソフトウェアのライフサイクルと開発モデル	<input type="checkbox"/> ソフトウェアのライフサイクル、ソフトウェア開発モデルの特徴と問題点を理解する。(A)
12	要求分析と設計	<input type="checkbox"/> 要求の分析工程、オブジェクト指向分析、構造化分析の各手法を理解し、設計と仕様書をまとめることができる(B)
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
ソフトウェア工学Ⅱ	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Software Engineering II	必修	講義	演習	実験・実習
9	13.5			
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-3 CS-7 CS-10		B-2		(d) (1)
授業概要	ソフトウェア開発の品質を高める上で重要となる、レビューとテストの手法について学ぶ。			
到達目標	A. ソフトウェア開発テストの各手法について理解できる。 B. テストケースを作成し、テストを行い、報告書をまとめることができる。			
授業方法	講義と演習にて実施する。授業では、各演習・実験などで作成したプログラム事例を用いて演習を実施する。			
教科書	なし			
補助教材	ソフトウェア工学の基礎 神長 裕明・郷 健太郎・杉浦 茂樹・高橋 正和・藤田 茂・渡辺 喜道著 (共立出版株式会社)			
評価方法	中間・期末と2回レポートを課す。それぞれのレポートの平均点で評価する。			
関連科目	プログラミング応用Ⅲ、Ⅳ			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業計画の説明	授業計画・評価方法
4.5	レビューとテスト	<input type="checkbox"/> レビューとは テスト手法とテストケース 工程による分類(単体・結合・システム) 品質による分類(機能・性能・負荷テスト) ホワイトボックステストとブラックボックステスト の各項目・工程を理解することができる。(A)
3	ソフトウェアの進化	<input type="checkbox"/> 保守性、リリース管理、再利用とはどのようなことか、なぜ必要かを理解できる。(A)
13.5	テストの実施	<input type="checkbox"/> テストケースの作成 テストの実施 システムへの反映 報告書の作成の各工程が実施できる。(B)
合計	22.5	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
OS概論 I	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Operating Systems I	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-3	B-2	(d) (1)		

授業概要	OSの機能と各種インターフェイスについて講義形式で理解する
到達目標	A. OSの歴史と基本機能・拡張機能について資料をみながら説明できる B. OSのユーザインターフェイスについて資料をみながら説明できる C. OSのプログラミングインターフェイスについて資料をみながら説明できる D. OSのハードウェアインターフェイスについて資料をみながら説明できる
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのレポート課題を実施する。
教科書	なし
補助教材	LinuxとWindowsを理解するためのOS入門, 澤田他著, 共立出版
評価方法	中間評価＝中間試験(70%)＋課題その1(30%) 期末評価＝期末試験(70%)＋課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。
関連科目	OS概論 II
準備学習に関するアドバイス	自分が使っているPCとスマートフォンのCPU・メモリ・各種ディスク・通信回線・OSの種類とバージョンについての調べ方をWeb等であらかじめ探しておくとうい。また、(機器の保証が受けられなくなるが)機器の分解の手順についても調査だけはしておくとうい。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	授業概要の説明	
0.75	OSの基礎(1)	<input type="checkbox"/> コンピュータシステムとOSの開発の歴史を理解できる (A)
1.5	OSの基礎(2)	<input type="checkbox"/> OSカーネルの機能とアプリケーションソフトの連携方法について理解できる
1.5	OSとユーザインターフェイス(1)	<input type="checkbox"/> GUI/シェルとシェルコマンド・パイプ・拡張子について理解できる (B)
1.5	OSとユーザインターフェイス(2)	<input type="checkbox"/> GUI/GUI部品とライブラリについて理解できる (B)
1.5	OSとプログラミングインターフェイス(1)	<input type="checkbox"/> APIとシステムコールについて理解できる (C)
1.5	OSとプログラミングインターフェイス(2)	<input type="checkbox"/> ミドルウェアと各種ライブラリについて理解できる (C)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験問題解説	
1.5	OSとハードウェアインターフェイス(1)	<input type="checkbox"/> OSのデバイスドライバとPCのマザーボードの部品が理解できる (D)
1.5	OSとハードウェアインターフェイス(2)	<input type="checkbox"/> CPU・メモリ・各種ディスクのハードウェアの仕組みと動作速度が理解できる
1.5	OSとハードウェアインターフェイス(3)	<input type="checkbox"/> 各種デバイスドライバと割り込み・PIO・DMA・バスデータ転送が理解できる
1.5	OSとハードウェアインターフェイス(4)	<input type="checkbox"/> BIOSとOSのブート動作の仕組みが理解できる (D)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	講義のまとめ	
	課題その1 (中間試験)	OSのシェルコマンド・GUI部品・APIまたはシステムコールをそれぞれ1つ(計3つ)調査する。それぞれはどの機種でどのように使われているかを説明し設定できるオプションやプロパティを全て列挙して説明をする。
	課題その2 (期末試験)	マザーボード・CPU・各種メモリ・各種デバイスの中からデータシートを新旧問わず選び(計2つ)調査する。その中で使われている専門用語や数値についてどのような改善点があるかを資料に基づいて3つ解説する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
OS概論 II	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Operating Systems 2	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大島 真樹	情報工学科・准教授	406	金曜日 16:15-17:00	ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
CS-3		B-2	(d) (1)	

授業概要	OSの機能と各種インターフェイスについて講義形式で理解する
到達目標	A. OSカーネルの各種管理手法を資料をみながら説明できる B. OSの拡張とエミュレーション環境の利用について資料をみながら説明できる C. OSを1から作るための方法論について資料をみながら説明できる
授業方法	講義形式で行い内容の理解度は定期試験で検査する。 講義した内容が実際の製品にどのように応用されているかを理解するためのプログラミング作成課題とレポート課題を実施する。
教科書	なし
補助教材	オペレーティングシステム, 松尾著, 森北出版 30日でできる! OS自作入門, 川合著, マイナビブックス
評価方法	中間評価=中間試験(70%)+課題その1(30%) 期末評価=期末試験(70%)+課題その2(30%) 最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。最終評価の小数値は切り捨てる。 課題評価方法は4段階とする 評価A(評価点30): 課題がすべて完了している 評価B(評価点20): 未完了の課題がある(達成率60%以上) 評価C(評価点10): 未完了の課題がある(達成率60%未満) 評価D(評価点0): 未提出・未着手同然・課題の複製の疑いがある。 提出期限に遅れて提出されたものは上記の評価方法で評価し、評価点を一段階下げる。 課題のテーマ(製品番号等)が他の学生4名以上と同じであった場合は内容を評価をせず保留とする。 評価を保留とした学生に対しては同内容の追課題(ただし別製品で再度調査する)の提出を指示する。 課題と追課題の両テーマが追課題を指示された他の学生とまったく同じであった場合は評価をDとする。
関連科目	OS概論 I
準備学習に関するアドバイス	自分が使っているPCやスマートフォンのタスク管理画面マネージャとプログラムの強制終了方法について試しておくことよい。また、各種エミュレータやデスクトップの仮想化についてもPCへインストールできるものがあるので調査しておくことよい。

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	授業概要の説明	
0.75	OSカーネルの管理機能(1)	<input type="checkbox"/> 資源の仮想化と多重化を理解できる (A)
1.5	OSカーネルの管理機能(2)	<input type="checkbox"/> プロセス管理方法が理解できる (A)
1.5	OSカーネルの管理機能(3)	<input type="checkbox"/> 並列処理管理方法が理解できる (A)
1.5	OSカーネルの管理機能(4)	<input type="checkbox"/> メモリ管理方法が理解できる (A)
1.5	OSカーネルの管理機能(5)	<input type="checkbox"/> ファイル管理方法が理解できる (A)
1.5	OSカーネルの管理機能(6)	<input type="checkbox"/> デバイスの入出力管理方法が理解できる (A)
1.5	中間試験準備	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験問題解説	
1.5	OSの機能拡張方法(1)	<input type="checkbox"/> OSの常駐プログラムについて理解できる (B)
1.5	OSの機能拡張方法(2)	<input type="checkbox"/> 機器のエミュレーションとOSの仮想化について理解できる (B)
1.5	OSの機能拡張方法(3)	<input type="checkbox"/> サーバ群の仮想化・負荷分散・クラウドサービスが理解できる (B)
1.5	OSの開発方法論	<input type="checkbox"/> OSを1から自作するための方法論について理解できる (C)
1.5	期末試験準備	
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	講義のまとめ	
	課題その1 (中間試験)	OSカーネルの管理機能を模したC++言語またはJava言語プログラムを作成する (1) 多方向から並列に流入する処理時間の違うデータ流に処理順番を与える (2) 多人数が並列に複数の席を予約しようとする処理にできるだけ連続席を与える 詳細は授業中に配布される別紙の仕様書を参照する
	課題その2 (期末試験)	OSの常駐プログラムを3つ調査する。それぞれ、どのような機器・OSのバージョン動作するか、動作目的は何か、動作アルゴリズムは(推測すると)どのようなものかをまとめる。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数理工学概論	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Mathematical Engineering	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9:00-17:00	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-1		B-3		(d) (1) (d) (3) (i)
授業概要	フーリエ級数展開およびフーリエ変換の仕組みと適用方法を物理的な意味と対応させながら講義を行う			
到達目標	<p>A. フーリエ級数展開の基本的な考え方を理解し、周期関数に適用することができる</p> <p>B. フーリエ変換の基本的な考え方を理解し、非周期関数に適用することができる</p> <p>C. フーリエ変換を画像に適用した結果について説明できる</p>			
授業方法	講義形式で行う。			
教科書	なし			
補助教材	なっとくするフーリエ変換、小暮陽三、講談社 デジタル画像処理、デジタル画像処理編集委員会監修、(財)画像情報教育振興協会			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価：中間試験の結果100%で評価 ・期末評価：中間試験40%+期末試験40%+課題レポート20%で評価 			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	三角関数の性質と積分、eの積分、部分積分について復習しておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
1.5	(復習) 三角関数の性質、積分の性質	
2.25	フーリエ級数展開の概要	<input type="checkbox"/> 周期関数に対し、フーリエ級数展開を行うことができる (A)
4.5	フーリエ級数の性質	<input type="checkbox"/> フーリエ級数の微分、積分の計算ができる (A) <input type="checkbox"/> フーリエ級数を複素数に拡張できることを式を参照しながら理解できる (A) <input type="checkbox"/> デルタ関数を用いた不連続関数の微分を計算することができる (A)
1.5	前半のまとめ	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験の解説	
1.5	フーリエ変換の概要	<input type="checkbox"/> フーリエ級数とフーリエ変換の違いを理解できる (B) <input type="checkbox"/> 非周期関数に対し、フーリエ変換を行うことができる (B)
4.5	フーリエ変換の性質	<input type="checkbox"/> フーリエ変換の性質を用いて、非周期関数のフーリエ変換を計算することができる (B) <input type="checkbox"/> パーシバルの等式を用いて、関数の積分を計算することができる (B)
1.5	画像への適用	<input type="checkbox"/> フーリエ変換を画像に適用した際の対応関係を説明できる (C)
0.75	期末試験	
1.5	期末試験の解説	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
品質管理論	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Quality Control	必修	講義	演習	実験・実習
		16.5	6	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
平岡 一則	電気工学科・非常勤講師	209	授業前後30分	hiraoka
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-8		B-3		(d) (1) (d) (3) (i)
授業概要	主にハード(部品や装置)を対象として、品質管理に必要な具体的な方法を学ぶ。基礎知識として、まず品質管理の7つ道具とその裏付けとなる基礎数理を学び、その応用として統計的品質管理を数学的に取り扱う。また数理的な方法によらない品質管理手法として、品質マネジメントシステムを学ぶ。			
到達目標	<p>A. 品質管理の7つ道具を数学的な意味も含めて理解し、使いこなすことができる。</p> <p>B. 品質や信頼性に関わる基礎数理を理解し、故障率などを計算することができる。</p> <p>C. 管理図について、数学的な意味も含めて理解し、工程異常の判定ができる。</p> <p>D. 各種検査方法の内容を理解し、抜き取り検査の合格率が計算できる。</p> <p>E. 統計的品質管理における2種類の誤りについて、数学的な意味も含めて説明できる。</p> <p>F. 品質マネジメントシステム、環境マネジメントシステムの意義が説明できる。</p>			
授業方法	プリント資料を用いて講義を行い、学習の直後に小テストを実施して知識の定着化を図る。			
教科書	なし(担当教員作成のプリント教材を使用)			
補助教材	数表等を適宜配布			
評価方法	<p>中間と期末の定期試験を行う。 定期試験とは別に、授業中に小テストを6回行う。各テストは5点満点とするので、小テストの合計は30点満点となる。</p> <p>(1) 中間試験の評点は、中間試験の点数そのもの(素点)とする。 (2) 学年末の評点(最終評点)は、以下の式による。 最終評点 = 中間・期末の素点平均 × 0.7 (70点満点) + 小テスト合計点 (30点満点)</p> <p>以上のように、全定期試験の平均点を70%、小テストの合計点を30%で最終評価する。 小テストの点数は平均化されずに積み上がるので、授業中に行う小テスト1点の重みは大きい。</p>			
関連科目	経営工学概論			
準備学習に関するアドバイス	本授業で学ぶことは、他の専門科目とのつながりは薄いですが、企業では広く行われている事柄が多い。日頃から新聞や雑誌等で品質管理の記事に注意を払い、分からないことがあれば授業中に質問してほしい。授業中での活発な発言を期待する。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス、品質管理概論	年間授業計画・評価方法の説明 <input type="checkbox"/> 品質管理の目的と歴史
4.5	品質管理の7つ道具 (確認演習1回)	生産現場で使われる品質管理手法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> グラフ、パレート図、特性要因図、チェックシート (A) <input type="checkbox"/> ヒストグラム (A) <input type="checkbox"/> 散布図と相関図 (A, B) <input type="checkbox"/> 管理図 (A, B) <input type="checkbox"/> 以上の手法を体系化した品質改善方法 (A)
4.5	信頼性の基礎数理 (確認演習2回)	単なる数理の授業ではなく、実務を支える数学的な本質を学ぶ <input type="checkbox"/> 数値の種類、データの種類 (B) <input type="checkbox"/> 信頼性の尺度(寿命、故障率) (B) <input type="checkbox"/> 母集団とサンプリング、推定 (B) <input type="checkbox"/> 確率分布、標準偏差、偏差値 (B)
0.75	中間試験	
7.5	統計的品質管理 (確認演習3回)	基礎数理の応用として学び、統計的方法の有用性と限界を理解する。 <input type="checkbox"/> シューハート管理図、工程異常の統計的定義 (C, E) <input type="checkbox"/> 検査の種類 (D) <input type="checkbox"/> 抜き取り検査、OC曲線、統計的誤り (D, E)
1.5	品質マネジメントシステム	統計的手法とは異なるアプローチによる品質管理手法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> ISO 9001 (QMS) 仕事の仕組み改善で品質向上 (F) <input type="checkbox"/> ISO 14001 (EMS) 企業の社会的責任 (F)
0.75	期末試験	
1.5	試験解説、総まとめ、個別指導	総まとめ、個別指導
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
マーケティング論	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Marketing	必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
氏家 和彦	デザイン学科・准教授	420	水・日曜以外	ujjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-10 CS-11		B-3 C-1 C-2		(d) (1) (d) (3) (f) (i)
授業概要	マーケティングの概要・概念・戦略、さらにそのマネジメントと、企業、そして開発部門との関係性について事例をもとに解説し、マーケティングの全体的な概要を習得していく。			
到達目標	<p>A マーケティングとは何か?について、全体像を簡潔に答えられる</p> <p>B マーケティング活動における、情報系技術者の位置づけを答えられる</p> <p>C 商品を冷静に見て、その特徴とコンセプトを予測できる</p> <p>D 広い視野で事象や人を見て、状況の中から重要と思われるポイントを探ることができる</p> <p>E 自分なりの考察を加え、新たな提案を構築できる</p>			
授業方法	企業活動におけるマーケティングの位置づけと考え方、市場・消費者動向とそのとらえ方について、テキスト「1からのマーケティング」に沿って、事例をもとに解説していく。講義による解説と、テーマ商品を題材としたトライアル課題にトライし、レポート作成・プレゼンテーションを行う。			
教科書	1からのマーケティング(中央経済社)			
補助教材	日経MJ 日経トレンドなど			
評価方法	<p>1/4半期の各区分で、レポート・プレゼンテーションによる総合評価を行う</p> <p>評価の配点は</p> <p>前期末時のレポート80%+授業内での小課題20%</p> <p>前期前半: レポート作成(80%)</p> <p>特に、レポート内での個々の「分析・考察」を評価</p> <p>※ 独自の自分なりの考察が来ているか、またその考察を導き出した理由が書けているか</p> <p>前期後半: テーマに沿った分析と考察をレポートにまとめる(80%)</p> <p>科目別補講日を利用したフィールドワークにより“街”を分析し、特徴的なポイントを導き出し</p> <p>人や社会現象の原因について考察しレポートにまとめる</p> <p>分析内容・考察のポイントを総合的に評価</p> <p>小課題: 授業内で小課題を行い、その評価も総合評価に含めます(20%)</p>			
関連科目	無し			
準備学習に関するアドバイス	身の回りのものに、参考になる資料がたくさんあります。日ごろから、様々な商品や環境の変化について、注意を払うようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	授業計画、評価方法の説明
0.75	マーケティングについて調査	<input type="checkbox"/> マーケティングの概要について理解する-A
1.5	マーケティングとは?	<input type="checkbox"/> マーケティングについて解説。調査結果を検証-A, B
1.5	マーケティングの成り立ちと基本概念	<input type="checkbox"/> 商品・市場分析の手法について解説。考え方を理解する-C
1.5	マーケティング発想の経営	<input type="checkbox"/> 経営におけるマーケティングの意味を理解する-C
1.5	基本概念と戦略	<input type="checkbox"/> マーケティングの基本を理解する
1.5	マーケティングのマネジメント(製品関連)	<input type="checkbox"/> 製品開発、価格設定、広告活動について理解する
1.5	マーケティングのマネジメント(流通・営業)	<input type="checkbox"/> 市場、流通とそのマネジメントについて理解する-C
1.5	顧客の理解	<input type="checkbox"/> 顧客と企業との関係構築について理解する-D
1.5	ブランド戦略	<input type="checkbox"/> ブランド戦略の概要と考え方を理解する-D, E
1.5	マーケティングに関するレポート作成	レポートによる評価
4.5	市場と「人」について 生活環境と「人」 定点観測と「人」の行動 市場の将来予測トライアル課題	<input type="checkbox"/> 市場形成と消費活動の中心が「人」であることを理解する-D <input type="checkbox"/> 生活環境と「人」の消費活動から変化を読み取る-D, E <input type="checkbox"/> 「人」の調査方法として知られる定点観測について解説-D <input type="checkbox"/> 「人」から予測する将来について自分なりに予測できる-D, E (人の志向の中で、変わるものと変わらないものは?)
1.5	学習指導期間 プレゼンテーション	任意に選出しプレゼンテーション (7分/1人×8組程度)
1.5	科目別補講日 校外実習(市場観測を予定)	<input type="checkbox"/> 前期後半のタイミングでフィールドワークを予定-C, D, E (実際に市場観測にトライし、予測を試みる)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
人工知能I	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Artificial Intelligence 1	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	人工知能分野で利用される基本的なアルゴリズムについて講義する			
到達目標	A. 人工知能について資料をみながら概念と仕組みを説明することができる			
授業方法	講義形式で行う。			
教科書	なし			
補助教材	人工知能関係書籍			
評価方法	最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。 ・ 中間評価＝中間試験 (70%) + レポート課題 (30%) ・ 期末評価＝期末試験 (70%) + レポート課題 (30%)			
関連科目	人工知能II			
準備学習に関するアドバイス	探索アルゴリズムの基本と計算量について復習をしておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	授業計画、評価方法
0.75	人工知能の概要	<input type="checkbox"/> 人工知能の進化過程と複数の関連分野があることが理解できる (A)
3	問題の状態空間表現	<input type="checkbox"/> 問題の状態空間表現と網羅的探索法が理解できる (A) <input type="checkbox"/> A* アルゴリズムが理解できる (A)
1.5	プロダクションシステム	<input type="checkbox"/> プロダクションシステムが理解できる (A)
1.5	意味ネットワークとフレーム	<input type="checkbox"/> 意味ネットワークとフレームの知識表現ができる (A)
3	述語論理	<input type="checkbox"/> 述語論理の知識表現と簡単な推論ができる (A)
0.75	中間試験	
0.75	中間試験問題解説	
3.75	多様な知識メディアの知的処理	<input type="checkbox"/> 自動機械翻訳が理解できる (A) <input type="checkbox"/> 音声認識が理解できる (A) <input type="checkbox"/> 画像認識が理解できる (A)
1.5	機械学習	<input type="checkbox"/> 機械学習モデルについて理解できる (A)
1.5	ニューラルネットワーク	<input type="checkbox"/> ニューラルネットワークについて理解できる (A)
1.5	進化的計算	<input type="checkbox"/> 遺伝的アルゴリズムについて理解できる (A)
0.75	期末試験	
0.75	期末試験問題解説	
0.75	学習まとめ	
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
人工知能I1	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Artificial Intelligence 2	必修	講義	演習	実験・実習
		0	22.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	人工知能分野で利用される基本的なアルゴリズムについて講義する			
到達目標	A. 人工知能をプログラミング言語を使って実現できる			
授業方法	実習形式で行う			
教科書	なし			
補助教材	人工知能関係書籍			
評価方法	最終評価は中間評価と期末評価の平均値とする。 ・ 中間評価：授業開始から中間評価時までに提出したレポートで行う ・ 期末評価：中間評価後から期末評価時までに提出したレポートで行う			
関連科目	人工知能 I			
準備学習に関するアドバイス	人工知能 I で学んだアルゴリズム及びプログラムの基本構文を復習しておくこと			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	授業計画、評価方法
0.75	中間評価までの課題の説明	
3	問題の状態空間表現	<input type="checkbox"/> A*アルゴリズムを使った人工知能が実現できる
3	プロダクションシステム	<input type="checkbox"/> プロダクションシステムを使った人工知能が実現できる
3	意味ネットワークとフレーム	<input type="checkbox"/> 意味ネットワークを使った人工知能が実現できる
0.75	中間評価の説明	
0.75	期末評価までの課題の説明	
3	メディアの知識処理 1	<input type="checkbox"/> 音声処理ライブラリを使った人工知能が実現できる
3	メディアの知識処理 2	<input type="checkbox"/> 画像処理ライブラリを使った人工知能が実現できる
3	遺伝的アルゴリズム	<input type="checkbox"/> 遺伝的アルゴリズムを使った人工知能が実現できる
0.75	学習のまとめ	
0.75	期末評価の説明	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
画像処理 I	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Image Processing I	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9-17時	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	デジタル画像の特徴を外観し、画像処理の基本である、画像補正・強調および特徴抽出・解析の仕組みを概説する			
到達目標	A. デジタル画像には様々な種類があることを理解し、それぞれの特徴を説明できる B. デジタル画像における補正や強調処理の仕組みを例を参照しながら説明できる C. デジタル画像における特徴抽出・解析処理を例を参照しながら説明できる			
授業方法	講義形式で行う。			
教科書	なし			
補助教材	はじめての画像処理技術 第2版、岡崎彰夫、森北出版			
評価方法	・ 中間評価：中間試験の結果を100%で評価 ・ 期末評価：中間試験40%＋期末試験40%＋レポート課題20%で評価 なお、レポート課題は授業中に提示する			
関連科目	画像処理 II			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
4.5	デジタル画像の種類と特徴	<input type="checkbox"/> 二値画像、濃淡画像、カラー画像、動画とはどのようなものを説明できる (A) <input type="checkbox"/> HDR画像、ステレオ画像を画像を参照しながら説明できる (A) <input type="checkbox"/> 画像系システムの特徴を説明できる (A)
3.75	画像補正・強調処理	<input type="checkbox"/> コントラスト強調、ヒストグラム平滑化の仕組みを理解し、どのような効果があるのか、図・画像を参照しながら説明できる (B) <input type="checkbox"/> ノイズ除去、平滑化の仕組みを図・画像を参照しながら説明できる (B)
1.5	特徴抽出・解析	<input type="checkbox"/> エッジ検出の仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> 二値化手法の仕組みを図を参照しながら説明できる (C)
0.75	中間試験	
1.5	中間試験の解説・まとめ	
6	特徴抽出・解析	<input type="checkbox"/> 膨張と収縮の仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> ラベリング処理の仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> 細線化の仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> 輪郭線検出の仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> ハフ変換とは何かを図を参照しながら説明できる (C)
1.5	後半のまとめ	
0.75	期末試験	
1.5	期末試験の解説・まとめ	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
画像処理 II	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Image Processing II	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9-17時	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-8		B-2		(d) (1)
授業概要	画像処理の基本である、画像の照合・判別の仕組みや加工、画像圧縮のアルゴリズムを中心に講義し、さらに、画像入出力装置の仕組み・特徴についても解説する			
到達目標	A. デジタル画像における照合や判別の仕組みを例を参照しながら説明できる B. デジタル画像における加工・編集の仕組みを例を参照しながら説明できる C. デジタル画像における圧縮のアルゴリズムを式を参照しながら説明できる D. デジタル画像の入出力デバイスの仕組みと特徴を理解できる E. デジタル画像の基本的な処理手法を応用した事例について理解できる			
授業方法	講義形式で行う。			
教科書	なし			
補助教材	はじめての画像処理技術 第2版、岡崎彰夫著 森北出版 カラー画像処理とデバイス 小松高久、河村尚登監修 画像電子学会編			
評価方法	・ 中間評価：中間試験の結果を100%で評価 ・ 期末評価：中間試験40%＋期末試験40%＋レポート課題20%で評価 なお、レポート課題は授業中に提示する			
関連科目	画像処理 I			
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
3	画像照合・判別	<input type="checkbox"/> テンプレートマッチングの仕組みを図を参照しながら説明できる (A) <input type="checkbox"/> クラスタリングの仕組みを図を参照しながら説明できる (A)
3	画像加工・編集	<input type="checkbox"/> 画像の拡大・縮小の仕組みを図を参照しながら説明できる (B) <input type="checkbox"/> 画像における線分生成や領域生成の仕組みを図を参照しながら説明できる (B)
3	画像入出力装置	<input type="checkbox"/> 画像入力装置の種類および特徴を理解している (D) <input type="checkbox"/> 画像出力装置の種類および特徴を理解している (D)
0.75	前半のまとめ	
0.75	中間試験	
1.5	中間試験の解説・まとめ	
3	画像圧縮	<input type="checkbox"/> 画像の符号化・復号化の流れを理解している (C) <input type="checkbox"/> ランレングスの仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> ハフマン符号化の仕組みを図を参照しながら説明できる (C) <input type="checkbox"/> 動画の符号化処理の仕組みを図を参照しながら説明できる (C)
3	応用事例	<input type="checkbox"/> 画像処理を使った事例について、画像処理 I、II で習った技術がどのように適用されているかを理解できる (E)
1.5	後半のまとめ	<input type="checkbox"/> 画像処理を実現する上での課題および解決策にはどのようなものがあるかを理解している (E)
0.75	期末試験	
1.5	期末試験の解説・まとめ	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デジタル信号処理 I	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Digital Signal Processing 1	必修	講義	演習	実験・実習
19.5	3	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
CS-1 CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	デジタル信号処理の基本的な事項である周波数解析・伝送処理などを学習する。			
到達目標	A. 信号処理の目的と意義が説明できる B. 信号解析手法が理解できる C. サンプリングやエイリアシングを理解できる D. 離散時間システムを表現することができる E. 離散時間システムの応答が計算できる F. インパルス応答と伝達関数が理解できる			
授業方法	主として講義を行い、演習や課題を出題する。			
教科書	「はじめて学ぶデジタル・フィルタと高速フーリエ変換」 三上直樹 CQ出版			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = "中間評価" × 0.35 + 期末試験素点 × 0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする) * 期末試験後に再試験を行う場合がある。			
関連科目	数値計算 I, II, デジタル信号処理 II			
準備学習に関するアドバイス	予習復習をしっかりと行い、特に計算問題は必ず自分の手を動かして解くこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
0.75	デジタル信号処理の概要	<input type="checkbox"/> 目的と意義 (A)
7.5	信号解析	<input type="checkbox"/> Fourier 解析の基礎 (B) <input type="checkbox"/> Fourier 級数, Fourier 変換 (B) <input type="checkbox"/> 離散Fourier 変換 (B) <input type="checkbox"/> Fourier 解析の問題点 (B)
1.5	前半のまとめ・演習	
0.75	中間試験	
1.5	試験解説と復習	
6	離散時間システムの基礎	<input type="checkbox"/> 標本化、量子化、サンプリング定理、エイリアシング (C) <input type="checkbox"/> 差分方程式とシステム表現 (C) <input type="checkbox"/> ブロック図 (C) <input type="checkbox"/> システムの応答 (E, F)
1.5	後半のまとめ・演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験解説と復習	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
デジタル信号処理Ⅱ	CS:情報工学科	5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Digital Signal Processing 2	必修	講義	演習	実験・実習
19.5	3	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-1 CS-2		B-2		(d) (1)
授業概要	デジタルフィルタを例として、実践的な知識について学習し、信号処理の現状や応用的な例についても解説する。			
到達目標	A. 離散時間システムの応答が計算できる B. z変換が理解できる C. インパルス応答と伝達関数が理解できる D. デジタルフィルタの構成法・設計法が理解できる E. デジタルフィルタにおける誤差が理解できる F. 信号処理の現状や応用例が説明できる			
授業方法	主として講義を行い、演習や課題を出題する。			
教科書	「はじめて学ぶデジタル・フィルタと高速フーリエ変換」 三上直樹 CQ出版			
補助教材	なし			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 中間評価 = 中間試験素点 期末評価 = "中間評価" × 0.35 + 期末試験素点 × 0.35 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする) * 期末試験後に再試験を行う場合がある。			
関連科目	数値計算Ⅰ,Ⅱ, デジタル信号処理Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	予習復習をしっかり行い、特に計算問題は必ず自分の手を動かして解くこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	
2.25	システムの伝達関数と応答	<input type="checkbox"/> 伝達関数と周波数応答 (A, C) <input type="checkbox"/> 簡単なデジタルフィルタの応答 (A, C)
3	z変換と離散時間システム	<input type="checkbox"/> z変換(B) <input type="checkbox"/> z変換とインパルス応答 (B, C)
3	デジタルフィルタ	<input type="checkbox"/> フィルタの分類、システムの安定性 (D) <input type="checkbox"/> FIR, IIR 型フィルタの構成と特徴 (D)
1.5	前半のまとめ・演習	
0.75	中間試験	
1.5	試験解説と復習	
4.5	デジタルフィルタの設計法	<input type="checkbox"/> FIR フィルタの設計法(窓関数法) (D) <input type="checkbox"/> FIR フィルタの設計法(Parks-McClellan法) (D) <input type="checkbox"/> IIR フィルタの設計法(双一次変換法) (D) <input type="checkbox"/> デジタルフィルタにおける誤差 (E)
1.5	信号処理の応用	<input type="checkbox"/> 信号処理の現状や応用例 (F)
1.5	後半のまとめ・演習	
0.75	期末試験	
1.5	試験解説と復習	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
技術者倫理	CS:情報工学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Engineering Ethics	必修	講義	演習	実験・実習
		33	12	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
仙波 良	情報工学科・非常勤講師	305	木曜日	r-semba
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
CS-11 CS-12		A-4		(b)
授業概要	本校の教育目標のひとつである「健全な倫理観に基づき技術によって社会に貢献できる技術者」の育成を踏まえて、前期は技術者倫理の考えを整理するような教科書を用い、後期は実務レベルでの技術者倫理を事例ベースにまとめた教科書を用い、技術者倫理の本質を理解する。			
到達目標	A. 技術者倫理の必要性、背景を理解できる。 B. 倫理と法との関係を理解し、倫理規程とは何かを理解できる。 C. 安全とリスクマネジメントとは何かを理解できる。 D. 製造物責任法成立の背景について理解できる。 E. 倫理問題(相反問題、線引き問題等)について理解できる。 F. 公益通報についての必要性を理解できる。 G. 説明責任とは何かを理解できる。 H. 技術者倫理と組織との関係、経営者との関係を理解できる。 I. 危機管理とは何かを理解できる。 J. 事件や事故発生とその原因に関して因果関係を理解できる。 K. 事件や事故発生において技術者の期待されていることが理解できる。 L. 与えられたテーマをグループで討議し、成果をまとめることができる。			
授業方法	講義と質疑応答・意見交換 グループによる討議と成果発表及び意見交換			
教科書	前期は、「技術者倫理の世界」藤本 温編著 森北出版 後期は、「技術者倫理とリスクマネジメント」中村昌允著 オーム社			
補助教材	なし 適宜プリント配布			
評価方法	前期中間評価 前期中間試験(100%)・・・中間試験の素点を報告 前期末評価 前期中間試験(35%)＋前期期末試験(35%) ＋前期グループ討議及び授業出席度(30%) 後期中間評価 後期中間試験(100%)・・・中間試験の素点を報告 通期総合評価 前期中間試験(17.5%)＋前期期末試験(17.5%) ＋前期グループ討議及び授業出席度(15%) ＋後期中間試験(17.5%)＋後期末試験(17.5%) ＋後期グループ討議及び授業出席度(15%)			
関連科目	情報社会論、経営工学概論、ビジネス情報システム			
準備学習に関するアドバイス	新聞記事、インターネット上のニュースを読み或いは見て、技術関連の内容に興味を持ってください。特に技術に関連した事件・事故等に関しては、自分が関係者という立場に置き換えて、対処すべき行動を考えるようにしてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	[前期] オリエンテーション	授業の概要、□技術者倫理とは(A)
1.5	技術者倫理とは	□技術者倫理とは(A)
1.5	倫理と法	□倫理と法との関係(B)
1.5	倫理規程	□公衆の安全、健康、福利を考える倫理規程(B)
1.5	安全・安心とは	□安全とは、安心とは、リスクとは(C)
1.5	費用便益分析と製造物責任法	□某自動車メーカー事件と製造物責任法(D)
1.5	倫理問題	□相反問題とは、線引き問題とは(E)
0.75	前期中間試験	
1.5	組織の問題	□事件や事故における組織の問題(H)、中間試験の解説
1.5	公益通報	□公益通報(内部告発)とは(F)
1.5	優れた技術者をめざして	□技術者の視点、公衆の視点(K)
4.5	グループ討議	□グループ別の討議、成果発表、質疑応答(L)
0.75	前期期末試験	
1.5	試験の解説	期末試験の解説
	[後期]	
1.5	技術者倫理の必要性、試験の解説	□歴史から学ぶ技術者倫理の必要性(A)
1.5	リスクマネジメントとは	□リスクマネジメントとは(C)
1.5	技術者と経営者	□技術者と経営者の関係、組織との関係(H)
1.5	説明責任	□専門家としての説明責任とは(G)
1.5	危機管理	□トラブルに対応する危機管理とは(I)
1.5	変更管理	□トラブルや事故を防ぐ変更管理(J)
1.5	ヒューマンエラー	□人が起こすヒューマンエラーの背景(J)
0.75	後期中間試験	
1.5	製造物責任、試験の解説	□製品安全に対する技術者の責任とは(D)、中間試験の解説
1.5	企業不祥事と技術者の行動	□企業不祥事に対する技術者としての行動とは(K)
1.5	内部告発	□技術者としてジレンマを克服できるか(F)
4.5	グループ討議	□グループ別の討議、成果発表、質疑応答(L)
0.75	後期期末試験	
1.5	技術者が期待されていること、試験の解説	期末試験の解説、技術者の社会的責任(K)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (→認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
卒業研究	CS:情報工学科	5年	通年	8
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Graduation Research & Thesis	*必修	講義	演習	実験・実習
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	月曜	simakawa
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402		yamanobe
内田 健	情報工学科・教授	405		uchida
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404		n-osumi
大島 真樹	情報工学科・准教授	406		ooshima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
CS-7 CS-8 CS-9 CS-10 CS-11		B-4 C-2 D-1 D-2 D-3	(d) (2) (d) (4) (e) (f) (g) (h)	
授業概要	卒業研究は指導教官のもとで個別のテーマを実施することによる専門性の高い実習科目である。各学生のテーマは指導教官の専門分野において設定され、教官の監督のもと学生が自主的に問題解決に取り組む。最終的にはこの成果を論文にまとめ口頭発表する。			
到達目標	<p>A テーマに沿ってサブ目標を設定することができる。</p> <p>B 研究概要もしくは研究計画を指導教官の指導の下作成し、遂行することができる。</p> <p>C 得られた結果を評価し、成果と残された課題を整理することができる。</p> <p>D 研究の経緯、成果と課題を論文にまとめることができる。</p> <p>E 研究成果を口頭で発表することができる。</p>			
授業方法	各指導教官の研究室もしくは指定された実験・研究室で学生が主体的に問題解決に取り組む。学校内外での学会・研究会に出席して知見を広げることも視野に入れる。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	<p>卒業研究の合格には以下の条件を満たしていることが必要である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の中間報告を実施していること。 ・1回目は口頭発表で時期は夏休み前である。2回目はポスター発表で学園祭でおこなう。 ・ポスター発表では概要(A4の所定の様式で1枚)を作成すること。 ・所定の規定に従って論文を作成し提出、指導担当が合格の水準であると判定していること。 ・成果の発表を行い、合格の水準を満たしていること。(判定基準は別に定める) <p>合格は2回の中間発表が指導教官のもとに実施され、概要が作成されていること。提出された論文が合格でありと卒研発表での発表が合格であることが条件である。</p>			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	単位時間数は8であるが時間割内では5しか割り当てられていない。残りの不足時間は自主的に放課後等の時間を確保して補うこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
180	各研究室の概要	
	数理モデル研究室(島川)	オペレーションズ・リサーチを中心に地理情報システム、応用統計の分野の研究を行っている。
	物理情報研究室(山野辺)	指導教官の専門分野は理論物理である。力学系のシミュレーションや解析を行っている。
	数式処理研究室(大墨)	コンピュータで数式をそのまま扱い、記号的に数式処理する手法である数式処理とその応用を研究している。
	計算システム研究室(内田)	コンピュータ・ネットワーク・オペレーティングシステムから構成される「計算システム」を対象としている。
	制御情報研究室(大島)	制御情報に関する分野の研究を行っている。
	メディアデザイン研究室(清水)	量子暗号・量子信号検出理論を中心に研究している。最近では情報マルチメディアの分野の研究を行っている。
	計測信号処理研究室(宮田)	デジタルフィルタの設計法に関する研究を中心に信号処理に関する研究をおこなっている。
	画像情報解析研究室(川村)	画像処理の分野の研究を行っている。
	卒研の主要スケジュール	<p>第1回中間発表(発表形式) 夏休み直前</p> <p>第2回中間発表(ポスター形式) 文化祭期間中</p> <p>2月中旬 概要提出、論文提出</p> <p>2月下旬 発表による本審査</p>
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
180 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

VI.一般・専門科目 選択科目

2012年度開設 選択科目一覧表

必要単位数は、各学科の教育課程表を参照のこと

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	A群 有機化学	0~2			2			
	B群	イタリア語 I	0~4				2	2
		イタリア語 II						2
		中国語 I					2	2
		中国語 II						2
		韓国語 I					2	2
		韓国語 II						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
	日本語・日本文学				2	2		
	人間論				2	2		
	C群	2					2	
	法学						2	
	経済学						2	
	開設単位計		40	0	0	2	14	24
一般科目 選択科目 履修単位計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	

- 選択科目B群 語学系科目 II の履修条件は4年次開設当該科目 I の単位を修得していること
- 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	D群	工業デザイン概論				1	1	
		DTP概論				1	1	
		材料基礎工学A				1	1	
		材料基礎工学B				1	1	
		機械要素設計A				1	1	
		機械要素設計B				1	1	
		信号と符号				1	1	
		電気電子演習				1	1	
		映像メディア概論				1	1	
		Webプログラミング				1	1	
		生物学概論				1	1	
		物理学特論				1	1	
		E群	プロジェクト実習		1	1	1	1
		開設単位計		29	1	1	1	13
	専門科目 選択科目 履修単位計		0~9	1	1	1	0~3	0~3

※ 選択科目E群プロジェクト実習 電気工学科は要卒業単位、他学科は特別学修単位として認定す

2013年度開設 選択科目一覧表

必要単位数は、各学科の教育課程表を参照のこと

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	A群 有機化学	0~2			2			
	B群	イタリア語 I	0~4				2	2
		イタリア語 II						2
		中国語 I					2	2
		中国語 II						2
		韓国語 I					2	2
		韓国語 II						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
	日本語・日本文学				2	2		
	人間論				2	2		
	C群	2					2	
	法学						2	
	経済学						2	
	開設単位計		40	0	0	2	14	24
一般科目 選択科目 履修単位計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	

- 選択科目B群 語学系科目 II の履修条件は4年次開設当該科目 I の単位を修得していること
- 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
選 択 科 目	D群	工業デザイン概論				1	1
		DTP概論				1	1
		材料基礎工学A				1	1
		材料基礎工学B				1	1
		機械要素設計A				1	1
		機械要素設計B				1	1
		信号と符号				1	1
		電気電子演習				1	1
		映像メディア概論A				1	1
		映像メディア概論B				1	1
		Webプログラミング				1	1
		生化学				1	1
		物理学特論				1	1
		プロジェクトマネジメント				1	1
	開設単位計		28	0	0	0	14
専門科目 選択科目 履修単位計		0~5	0	0	0	0~3	0~3

2014年度開設 選択科目一覧表

必要単位数は、各学科の教育課程表を参照のこと

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	A群 有機化学	0~2			2	2	2	
	B群	イタリア語 I	0~4				2	2
		イタリア語 II						2
		中国語 I					2	2
		中国語 II						2
		韓国語 I					2	2
		韓国語 II						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	2					2	
	法学						2	
	経済学						2	
開設単位計		40	0	0	2	14	24	
一般科目 選択科目 履修単位計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	

○ 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること

○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

○ 法学・経済学の「生産システム工学」教育プログラムにおける学習・教育到達目標はA-3である

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	D群	0~5	工業デザイン概論				1	1
			DTP概論				1	1
			材料基礎工学A				1	1
			材料基礎工学B				1	1
			機械要素設計A				1	1
			機械要素設計B				1	1
			信号と符号				1	1
			電気電子演習				1	1
			映像メディア概論A				1	1
			映像メディア概論B				1	1
			Webプログラミング				1	1
			生化学				1	1
			物理学特論				1	1
			プロジェクトマネジメント				1	1
開設単位計		28	0	0	0	14	14	
専門科目 選択科目 履修単位計		0~5	0	0	0	0~3	0~3	

2015年度開設 選択科目一覧表

必要単位数は、各学科の教育課程表を参照のこと

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	A群 有機化学	0~2			2	2	2	
	B群	イタリア語 I	0~4				2	2
		イタリア語 II						2
		中国語 I					2	2
		中国語 II						2
		韓国語 I					2	2
		韓国語 II						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	2					2	
	法学						2	
	経済学						2	
開設単位計		40	0	0	2	14	24	
一般科目 選択科目 履修単位計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	

○ 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること

○ 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること

○ 法学・経済学の「生産システム工学」教育プログラムにおける学習・教育到達目標はA-3である

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	D群	0~5	工業デザイン概論				1	1
			DTP概論				1	1
			材料基礎工学A				1	1
			材料基礎工学B				1	1
			機械要素設計A				1	1
			機械要素設計B				1	1
			信号と符号				1	1
			電気電子演習				1	1
			映像メディア概論A				1	1
			映像メディア概論B				1	1
			Webプログラミング				1	1
			生化学				1	1
			物理学特論				1	1
			プロジェクトマネジメント				1	1
開設単位計		28	0	0	0	14	14	
専門科目 選択科目 履修単位計		0~5	0	0	0	0~3	0~3	

2016年度開設 選択科目一覧表

必要単位数は、各学科の教育課程表を参照のこと

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	A群 有機化学	0~2			2			
	B群	イタリア語 I	0~4				2	2
		イタリア語 II						2
		中国語 I					2	2
		中国語 II						2
		韓国語 I					2	2
		韓国語 II						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	2					2	
	法学						2	
	経済学						2	
開設単位計		40	0	0	2	14	24	
一般科目 選択科目 履修単位計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	

- 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること
- 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること
- 法学・経済学の「生産システム工学」教育プログラムにおける学習・教育到達目標はA-3である
- 一般選択科目A群有機化学は2016年度入学生より専門選択科目D群 4-5年へ移行する
※2018年度A群3年有機化学は開設なし、2019年度よりD群4-5年で開設する

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
選択科目	工業デザイン概論	28				1	1
	DTP概論					1	1
	材料基礎工学A					1	1
	材料基礎工学B					1	1
	機械要素設計A					1	1
	機械要素設計B					1	1
	信号と符号					1	1
	電気電子演習					1	1
	映像メディア概論A					1	1
	映像メディア概論B					1	1
	初級Webデザイン					1	1
	生化学					1	1
	物理学特論A					1	1
	物理学特論B					1	1
	プロジェクトマネジメント					1	1
	開設単位計		28	0	0	0	15
専門科目 選択科目 履修単位計		0~5	0	0	0	0~3	0~3

2017年度開設 選択科目一覧表

必要単位数は、各学科の教育課程表を参照のこと

一般科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択科目	A群 有機化学	0~2			2			
	B群	イタリア語 I	0~4				2	2
		イタリア語 II						2
		中国語 I					2	2
		中国語 II						2
		韓国語 I					2	2
		韓国語 II						2
		宗教学					2	2
		心理学					2	2
		日本語・日本文学					2	2
		人間論					2	2
	C群	2					2	
	法学						2	
	経済学						2	
開設単位計		40	0	0	2	14	24	
一般科目 選択科目 履修単位計		2~8	0	0	0~2	0~2	2~4	

- 選択科目B群 語学系科目Ⅱの履修条件は4年次開設当該科目Ⅰの単位を修得していること
- 選択科目C群 法学もしくは経済学のどちらかの単位を必ず修得すること
- 法学・経済学の「生産システム工学」教育プログラムにおける学習・教育到達目標はA-3である
- 一般選択科目A群有機化学は2016年度入学生より専門選択科目D群 4-5年へ移行する
※2018年度A群3年有機化学は開設なし、2019年度よりD群4-5年で開設する

専門科目 選択科目

区分	科目名	履修単位数	学年別単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
選択科目	工業デザイン概論	28				1	1
	DTP概論					1	1
	材料基礎工学A					1	1
	材料基礎工学B					1	1
	機械要素設計A					1	1
	機械要素設計B					1	1
	信号と符号					1	1
	電気電子演習					1	1
	映像メディア概論A					1	1
	映像メディア概論B					1	1
	初級Webデザイン					1	1
	生化学					1	1
	物理学特論A					1	1
	物理学特論B					1	1
	プロジェクトマネジメント					1	1
	開設単位計		28	0	0	0	15
専門科目 選択科目 履修単位計		0~5	0	0	0	0~3	0~3

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
有機化学	全学科	3年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Organic Chemistry	選択	講義	演習	実験・実習
		36	9	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
長尾 明美	一般教育科・講師	211	金曜日以外随時	a-nagao
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1				
授業概要	産業活動・生命・生活に深くかかわっている有機化学の基礎を学ぶ。適宜簡単な実験を取り入れて、代表的有機化合物や有機反応の特徴を理解する。有機化合物の新素材(プラスチック・磁石や導電性ポリマーなど)を学ぶ。			
到達目標	A. 生命を構成する元素の周期表での位置や電子配置および結合がわかる。 B. 脂肪族炭化水素(アルカン・アルケン・アルキン)とその命名法・異性体・反応が理解できる。 C. 炭化水素・脂肪族化合物の反応の相関が理解できる。 D. 芳香族炭化水素(ベンゼン)の反応の特徴やベンゼン誘導体の異性体が理解できる。 E. ベンゼン誘導体の反応の相関を理解できる。 F. 産業活動・生命活動と有機化合物との関係や有機化合物の新素材が理解できる。 G. 期表上での位置と電気陰性度がわかる。 H. 分子の極性と双極子モーメントがわかる。 I. 原子軌道と軌道への電子の入り方がわかる。 J. 共有結合・配位結合が説明できる。 K. ルイスの酸塩基理論がわかる。			
授業方法	講義を中心として、適宜、演示・実験を行う。適宜、プリントを配布する。			
教科書	高等学校「化学」(東京書籍)			
補助教材	三訂版 フォトサイエンス化学図録(数研出版)			
評価方法	定期試験(4回) 70% レポート・小テスト・ノートチェック 30% 総合評価は、各区間の単純平均とする。			
関連科目	化学(1年、2年)			
準備学習に関するアドバイス	1年生で学習した、周期表(典型元素)、炭素、水素、酸素、窒素の電子配置と電子式、構造式、電気陰性度、共有結合、分子の形と極性をしっかり復習しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス・有機化学とは何か? 基本事項	<input type="checkbox"/> 炭素化合物が生命・プラスチック・医薬品その他の様々な物質をつくっていることを理解できる。(A) <input type="checkbox"/> 有機化合物を作る元素と周期表での位置・電子配置・共有結合がわかる。(A)
4.5	有機化学の基本事項と共有結合	<input type="checkbox"/> 電気陰性度と分極・双極子モーメントがわかる。(H) <input type="checkbox"/> 電子軌道と軌道への電子の入り方がわかる。(I) <input type="checkbox"/> 共有結合・配位結合のでき方がわかる。(J) <input type="checkbox"/> ルイスの酸塩基理論がわかる。(K)
3	混成軌道と電子の偏り	<input type="checkbox"/> 混成軌道のでき方がわかる。(I) <input type="checkbox"/> σ結合とπ結合がわかる。(I)
0.75	定期試験(第1回)	
6	有機化合物の表し方と分類・命名 脂肪族(アルカン・アルケン・アルキン) 芳香族炭化水素(ベンゼンなど)	<input type="checkbox"/> 有機化合物は、いろいろな表記法で表せることがわかる。(B) <input type="checkbox"/> 炭化水素命名法の簡単なルールがわかる。異性体の基本がわかる。(B) <input type="checkbox"/> 脂肪族・芳香族炭化水素の構造が区別できる。(B)
4.5	官能基1: 反応と性質	<input type="checkbox"/> 代表的な官能基と、その反応・化学的性質がわかる。(B)
0.75	定期試験(第2回)	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> まとめ
1.5	官能基2: 反応系統図	<input type="checkbox"/> 官能基による、化合物の反応系統図が理解できる。(C)
3	異性体とその種類1(まとめ)	<input type="checkbox"/> 異性体の種類がわかる。(B) <input type="checkbox"/> シス-トランス異性体と立体配座・表記法が分かる。(B) <input type="checkbox"/> キララ炭素と鏡像異性がわかる。(B) <input type="checkbox"/> 生体分子とキラリテイについて理解できる。(B)
4.5	7. 有機化学反応の分類と反応 アルカンの反応 アルケン・アルキンの反応	<input type="checkbox"/> 有機化学の反応の分類が理解できる。(G) <input type="checkbox"/> アルカンのラジカル反応が理解できる。(G) <input type="checkbox"/> アルケンの求電子付加反応について理解できる
0.75	定期試験(第3回)	
1.5	ベンゼンの反応	<input type="checkbox"/> ベンゼン(芳香族)と脂肪族の反応の違いがわかる。(E) <input type="checkbox"/> ベンゼンの求電子置換反応のしくみがわかる。(E) <input type="checkbox"/> o-, p-, m-配向について理解できる。(E)
3	置換基の配向性と反応性	
3	高分子化合物	<input type="checkbox"/> 身近な高分子化合物のでき方と種類・性質がわかる。(F)
3	有機定性分析	<input type="checkbox"/> 置換基の性質(強酸性・弱酸性・塩基性)がわかる。(F) <input type="checkbox"/> 定性分析の考え方が理解できる。(E)
0.75	定期試験(第4回)	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> まとめ
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
イタリア語I	全学科	4-5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Italian I	選択	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Michelle Sopala	一般教育科・非常勤講師	236	火曜: 12:30~13:00	m-sopala
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3				
授業概要	イタリア語で効果的なコミュニケーションをできることを目的にする。そのために実践的スピーキング基礎能力を習得し、必要とされるイタリア語運用技術を習得する。語彙力を確保しさらに強化する。文化を知り旅行や買い物などをするために必要とされるリスニングとスピーキング能力を習得することを目標とする。			
到達目標	A-年度末にイタリア語をある程度応用し用いることができるようになる。 B-母国語と関連したイタリア語実践の機会を提供する。 C-生徒たちは楽しくイタリア語を習得する。			
授業方法	イタリア語を初めて学ぶ生徒のために以下の言語運用技術と文法に基づいて行われます。 1リスニング テキスト使用 2スピーキング 実践的会話(グループワーク)、ドリル、ゲーム、ロールプレイング 3リーディング テキスト使用-4ライティング テキスト使用			
教科書	Opera Prima Volume 1 (朝日出版社) イタリア文化会館 Maggia-Misico-Quaglieri-Spinuso-Zamborlin			
補助教材	Loose-leaf notebook to keep prints and paper to take notes.			
評価方法	総合評価は単純平均方式で算出する。1区間: 定期試験(60%) + 課題(40%)			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	授業前に予習することが望ましい テキスト持参			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	【Term 1】	
1.5	授業ガイダンスとIntroduzione	
1.5	Opera Prima - Unità 1-1	Piacere - primi contatti, salutare, presentarsi A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 1-2	Alfabeto - numeri cardinali da 0 a 10 - nazionalità A-B
1.5	Opera Prima - Unità 1-3	Verbi regolari in-are - abitare - chiamarsi A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 1-4	Articoli il, la A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 1-5	Preposizioni, avverbi, interrogativi A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 1-6	Formalità e informalità nei rapporti A-B-C
0.75	定期試験	
	【Term 2】	
1.5	Opera Prima - Unità 2-1	Presentare qualcuno - professione posto di lavoro A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 2-2	
1.5	Opera Prima - Unità 2-3	Nazionalità - professione e - esprimere gusti A-C
1.5	Opera Prima - Unità 2-4	Lingue - piatti italiani - forme di pasta A-B
1.5	Opera Prima - Unità 2-5	
1.5	Opera Prima - Unità 2-6	Numeri cardinali da 11 a 100 - buono/a A-B-C
0.75	定期試験	
	【Term 3】	
1.5	Opera Prima - Unità 2-7	Verbi regolari in-are - parlare - cucinare - lavorare A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 2-8	Verbi irregolari - essere - fare / negazione - non A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 2-9	Parlare di quotidianità - giorni della settimana - avverbi A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 2-10	Aggettivi qualificativi buono, buona, e di nazionalità A-C
1.5	Opera Prima - Unità 3-1	Aggettivi - articoli - preposizioni A-B
1.5	Opera Prima - Unità 3-2	Ordinare al bar A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 3-3	parlare della fine settimana, luoghi A-B-C
0.75	定期試験	
	【Term 4】	
1.5	Opera Prima - Unità 3-4	Bevande e stuzzichini, tempo libero, descrivere luoghi A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 3-5	tempo libero, descrivere luoghi A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 3-6	Verbi regolare in -ere, prendere, leggere, scrivere C-B
1.5	Opera Prima - Unità 3-7	Verbi irregolari - essere - fare - bere - c'è - ci sono A-B
1.5	Opera Prima - Unità 3-8	Aggettivi qualificativi singolare e plurali A-B-C
1.5	Opera Prima - Unità 3-9	Articoli A-B-C
3	Usato contenuto imparato - Revisione	
0.75	定期試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
中国語 I	全学科	4-5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
chinese I	選択	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
白 蓮杰	一般教育科・非常勤講師	230	火曜日14:30~16:30	bai.lianjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3				
授業概要	中国語初心者を対象に、中国語の発音、文法、リスニングを学ぶと同時に、中国の文化に関する理解も深めていきたい。			
到達目標	1. 中国語の基礎的な発音、文法事項を理解する。 2. 中国語による簡単な日常会話ができる。 3. 中国語検定試験四級レベル。			
授業方法	講義と演習の形式で授業を進めていく。会話練習は主にペアで行い、定期的にグループディスカッションを予定している			
教科書	『学ぶ中国語』(楽しく身につく初級トレーニング) 王垂新・劉素英著 朝日出版社			
補助教材	なし			
評価方法	定期試験50%+小テスト30%+平常点20%			
関連科目	中国語 II			
準備学習に関するアドバイス	中国語をマスターするには、発音と文法のほか、CDをよく聞き、耳を慣らすことも重要である			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5 3	ガイダンス 中国語の発音	授業概説及び中国・中国語について 発音1 発音2 発音3
4.5	会話・文法・リスニングの練習	第一課 自己紹介 第二課 何人家族ですか
0.75 1.5	前期中間試験 試験の講評	
9	会話・文法・リスニングの練習	第三課 明日は土曜日 第四課 夏は暑いです 第五課 何を予定ですか まとめ
0.75 1.5	前期期末試験 試験の講評	
9	会話・文法・リスニングの練習	第六課 私は香港に行きました 第七課 私の家は学校から遠くないです 第八課 少し気分が悪いです 第九課 卓球をやりませ
0.75 1.5	後期中間試験 試験の講評	
9	会話・文法・リスニングの練習	第十課 何をしていますか 第十一課 中国語の先生 第十二課 中国語を学ぶ
0.75 1.5	後期期末試験 試験の講評	
合計 45 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
韓国語 I	全学科	4-5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Korean 1	選択	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
石田 毅	一般教育科・教授	205	火曜日 16:00-17:00	ishida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3				
授業概要	初めて韓国語を学ぶ学生を対象とする。新しい文字体系「ハングル」の仕組みを学び、初歩的な文法や文型を学習する。1年間の学習の後には、辞書を使って簡単な自己紹介を書ける程度を目指す。			
到達目標	<p>A. 韓国語の文字「ハングル」で表記された単語や単文を声に出して音読することができる。</p> <p>B. 身近な人名・地名などを「ハングル」で表記することができる。</p> <p>C. 韓日辞典を使って、単語を調べることができる。</p> <p>D. 韓国語の助詞の基本的な機能を理解し、韓日辞典を使って平易な単文の意味を理解することができる。</p> <p>E. 韓国語の用言の活用の仕組みを理解し、韓日辞典を使って平易な単文の意味を理解することができる。</p>			
授業方法	講義と演習を混ぜた座学の形式で行う。授業ごとにワークシートを提出させ、教員がそれを添削することで定着を随時確認する。			
教科書	金志映『新装版 できる韓国語 初級 I』(DEKIRU出版, 2010)			
補助教材	塚本勲(監修)『パスポート朝鮮語小辞典』(白水社, 2005)			
評価方法	<input type="checkbox"/> 年間を前期前半、前期後半、後期前半、後期後半の4区間に分け、各区分で評価を行う。 <input type="checkbox"/> 各区分での評価は、以下の3項目の成果に基づいて算出する。 ①授業内で実施する復習テストの得点 20% ②添削用ワークシートの完成と提出状況 20% ③定期試験の得点 60% <input type="checkbox"/> 学年末の総合評価は、各区分の評価点の単純平均とする。 <input type="checkbox"/> 原則として再試験等は実施しない。			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	初めて学ぶ外国語ですので、予習は一切必要ありません。その代わり、復習は必須です。毎週の授業開始時に前回の学習事項の復習テストを実施します。「ハングル」は決して難しくありません。着実な復習を通じて、既習事項の定着を目指しましょう。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の概要、到達目標や評価方針の確認、授業運営上の基本ルールの共有
9.75	ハングルの学習	<input type="checkbox"/> 「韓国語(朝鮮語)」と「ハングル」の違いが説明できる。 <input type="checkbox"/> 基本母音を含む文字を音読することができる [A] <input type="checkbox"/> 基本子音を含む文字を音読することができる [A] <input type="checkbox"/> 複合母音を含む文字を音読することができる [A] <input type="checkbox"/> バッチムを含む文字を音読することができる [A] <input type="checkbox"/> 日本語の固有名詞をハングルで表記することができる [A, B] <input type="checkbox"/> 韓日辞典の構成を理解し、単語を調べることができる [C]
0.75	定期試験①	前期中間試験(ハングルのしくみ)
0.75	定期試験①の返却と解説	前期中間試験の返却と解説(ハングル学習の総括)
1.5	第1課「私は日本人です」	<input type="checkbox"/> 簡単な自己紹介ができる [C, D]
3	第2課「日本人ではありません」	<input type="checkbox"/> 名詞文を否定形に書き換えることができる [C, D]
3	第3課「それは何ですか?」	<input type="checkbox"/> ハムニダ体・ヘヨ体の名詞文を相互に変換することができる [C, D]
0.75	復習: 第1課~第3課	バダスギ演習
0.75	定期試験②	前期末試験(名詞文の作り方)
1.5	学習指導期間	前期末試験の返却と解説および授業アンケートの実施
1.5	第4課「約束があります」	<input type="checkbox"/> 存在詞を使った平易な文を作ることができる [C, D]
3	第5課「会社はどこにありますか?」	<input type="checkbox"/> 助詞と存在詞を使って物の位置を説明できる [C, D]
3	第6課「週末は何をしますか?」	<input type="checkbox"/> 用言の辞書形をハムニダ体に活用させることができる [C, E]
1.5	第7課「そんなに遠くありません」	<input type="checkbox"/> 用言の否定表現を作ることができる [C, E]
1.5	復習: 第4課~第7課	バダスギ演習
0.75	定期試験③	後期中間試験(用言の導入)
0.75	定期試験③の返却と解説	後期中間試験の返却と解説(用言の導入の総括)
3	第8課「いつ行きますか?」	<input type="checkbox"/> 漢数詞を聞いて具体的な数字をイメージできる [D]
3	第9課「釜山までどうやって行きますか?」	<input type="checkbox"/> 用言の辞書形をヘヨ体に活用させることができる [C, E]
1.5	第10課「何時からですか?」	<input type="checkbox"/> 固有数詞を聞いて具体的な数字をイメージできる [E]
0.75	復習: 第8課~第10課	バダスギ演習
0.75	定期試験④	後期末試験(用言の活用と2つの数詞)
1.5	学習指導期間	後期末試験の返却と解説および達成度アンケートの実施
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
心理学	全学科	4-5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Psychology	選択	45	講義	演習
			実験・実習	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
中根 弘之	一般教育科・非常勤講師	230	※曜日・時間・場所	nakane
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3				
授業概要	行動、欲求、知覚といった心理学の基礎的な概念の学習を中心にして、心理学とはどのような学問であるかを学ぶことを第一の目的とする。また、後期のまとめの時期において「社会心理学」や「犯罪心理学」等の心理学の応用的領域を取り扱う予定である。			
到達目標	<p>学生諸君が心理学の以下の基礎的な知識の習得し、自身の生活に活かすことができるようにする。</p> <p>A. 心理学の歴史と学問の基礎方法について理解し説明することができる。</p> <p>B. 心理学が扱う行動の諸相について理解し、行動と心理の関係を説明することができる。</p> <p>C. 要求・欲求と呼ばれているものの内実とそれに伴う諸問題について理解し説明ができる。</p> <p>D. 知能の構造について理解し、知能指数の計算式などを説明できる。</p> <p>E. 性格の諸構造、諸学説を理解し、性格形成の要因について説明することができる。</p> <p>F. 感情の諸理論と構造について理解し説明ができる。</p> <p>G. 種々の学習理論について理解し、諸理論の違いを説明できる。</p> <p>H. 記憶形成をメカニズムを理解し、説明することができる。</p> <p>I. 感覚の諸様態を判明に区別し、とりわけ視覚の構造について理解・説明できる。</p> <p>J. 思考のメカニズムと記号化の原理について理解し説明できる。</p> <p>K. 応用倫理学の妥当する範囲を理解し説明することができる。</p>			
授業方法	心理学の基本的知識を身につけてもらうための講義を中心とするが、適宜課題を出し、学生諸君の問題意識を問うこととする。			
教科書	特に指定しない。(教場で資料を配布する)			
補助教材	特に指定しない。(教場で資料を配布する)			
評価方法	<p>・ 通年の講義区間を前期中間、前期期末、後期中間、後期末の4つの区間に分ける。</p> <p>・ それぞれの区間の成績は、以下の方法で求める。</p> <p>100点満点のテスト×40(40点満点)＋レポート等課題点(30点満点)＋ノート点(15点満点)＋講義内課題点(15点満点)</p> <p>・ 各区分成績を以下の仕方で行い、通年の成績評価とする。</p> <p>1) 前期中間＝前期中間テスト点(40点)＋レポート点(30点)＋ノート点(15点)＋講義内課題点(15点)</p> <p>2) 前期期末＝(前期中間点×1＋前期期末の区分点×2)÷3</p> <p>3) 後期中間＝(前期期末点×1＋後期中間の区分点×2)÷3</p> <p>4) 後期末＝(後期中間点×1＋後期末の区分点×2)÷3</p> <p>※ 以上の計算で最終的に4)で60点以上の者を合格とする。</p>			
関連科目	他の一般教育科目全般			
準備学習に関するアドバイス	概念の説明を中心とした講義なので、興味を持ちにくいかもしれないが、自ら心理学的諸問題を解決するためのツール獲得という視点から学習し、とりわけレポート課題を自主的に行うようにしてほしい。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	心理学の概観	<input type="checkbox"/> 心理学への導入(A) <input type="checkbox"/> 学問の対象・方法・歴史(A)
3	行動と心理学	<input type="checkbox"/> 行動の定義(B) <input type="checkbox"/> 行動の諸形態(B)
3	要求、欲求、動機づけ	<input type="checkbox"/> 一次的要求と二次的要求の差異(C) <input type="checkbox"/> 要求の強さ(C)
3	要求と葛藤	<input type="checkbox"/> 葛藤の諸形態(C) <input type="checkbox"/> 代償行動と防衛(C)
3	知能	<input type="checkbox"/> 知能とは何か(D) <input type="checkbox"/> 知能検査と業績(D)
3	性格	<input type="checkbox"/> 性格の定義(E) <input type="checkbox"/> 性格の類型と構造(E)
3	性格の形成	<input type="checkbox"/> 遺伝要因と環境要因(E) <input type="checkbox"/> 個人の性格をめぐる諸事項(E)
3	感情	<input type="checkbox"/> 感情及び情緒の区別(F) <input type="checkbox"/> 感情と適応的行動の諸問題(F)
3	学習	<input type="checkbox"/> 学習とは何か(G) <input type="checkbox"/> 学習の種類と能率(G)
3	記憶	<input type="checkbox"/> 短期記憶と長期記憶の差異(H) <input type="checkbox"/> 記憶と忘却に見られる諸効果について(H)
3	感覚	<input type="checkbox"/> 感覚と行動の関係(I) <input type="checkbox"/> 視知覚の諸特徴(I)
3	思考と言語	<input type="checkbox"/> 概念と推理形式(J) <input type="checkbox"/> 思考と概念の関係(J)
3	発達心理学と社会心理学	<input type="checkbox"/> 発達の原理と段階(K) <input type="checkbox"/> 社会的行動と集団行動(K)
3	臨床心理学と犯罪心理学	<input type="checkbox"/> 心理療法について(K) <input type="checkbox"/> 逸脱と狂気について(K)
3	まとめ、その他	<input type="checkbox"/> 試験および試験の解説等 <input type="checkbox"/> 1年間のまとめ等
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定：□優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
イタリア語II	全学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Italian II	選択	講義	演習	実験・実習
		30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Michelle Sopala	一般教育科・非常勤講師	236	火曜: 12:30~13:00	m-sopala
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3				
授業概要	イタリア語で効果的なコミュニケーションをできることを目的にする。そのために実践的スピーキング基礎能力を習得し、必要とされるイタリア語運用技術を習得する。語彙力を確保しさらに強化する。文化を知り旅行や買い物などをするために必要とされるリスニングとスピーキング能力を習得することを目標とする。			
到達目標	A-年度末にイタリア語をある程度応用し用いることができるようになる。 B-母国語と関連したイタリア語実践の機会を提供する。 C-生徒たちは楽しくイタリア語を習得する。			
授業方法	イタリア語を初めて学ぶ生徒のために以下の言語運用技術と文法に基づいて行われます。 1リスニング テキスト使用 2スピーキング 実践的会話(グループワーク)、ドリル、ゲーム、ロールプレイング 3リーディング テキスト使用-4ライティング テキスト使用			
教科書	Opera Prima Volume 1 (朝日出版社) イタリア文化会館 Maggia-Misico-Quagliari-Spinuso-Zamborlin			
補助教材	Loose-leaf notebook to keep prints and paper to take notes.			
評価方法	総合評価は単純平均方式で算出する。1区間: 定期試験(60%) + 課題(40%)			
関連科目	イタリア語-I			
準備学習に関するアドバイス	授業前に予習することが望ましい テキスト持参			

時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
	【Term 1】	
1.5	授業ガイダンスと Introduzione	年間計画、評価方法確認
1.5	Revisione-Opera Prima - Unità 1-2-3	Ripasso di tutto il contenuto
1.5	Revisione-Opera Prima - Unità 1-2-3	Ripasso di tutto il contenuto
1.5	Opera Prima - Unità 4	Parlare di quotidianita' e del tempo libero.
1.5	Opera Prima - Unità 4	esprimere rammarico
1.5	Opera Prima - Unità 4	chiedere e dire l'orario, lavori domestici, ricetta di cucina
1.5	Opera Prima - Unità 4	Giorni della settimana, avverbi di frequenza
0.75	定期試験	Lavori domestici, ricetta di cucina
	【Term 2】	
1.5	Opera Prima - Unità 4	Verbi regolari, -ire, dormire e pulire - verbo riflessivo, alzarsi
1.5	Opera Prima - Unità 4	Verbi irregoali - Pronomi - Preposizioni - interrogativi
1.5	Opera Prima - Unità 4	Interrogativi: quando, a che
1.5	Opera Prima - Unità 5	Chiedere indicazioni - Chiedere il prezzo
1.5	Opera Prima - Unità 5	Esprimere gusti- descrivere e comprare vestiti
1.5	Opera Prima - Unità 5	Vie e piazze, negozi e locali, gli euro - numeri da 10in poi
0.75	定期試験	
	【Term 3】	
1.5	Opera Prima - Unità 5	Verbi irregolari - potere, venire, piacere + nome
1.5	Opera Prima - Unità 5	Preposizioni, in, per Interrogativi, dove, perche, che cosa,
1.5	Opera Prima - Unità 5	quanto, quali - Locali storici italiani
1.5	Opera Prima - Unità 5	Locali storici italiani
1.5	Opera Prima - Unità 6	Parlare di festività e vacanze
1.5	Opera Prima - Unità 6	Esprimere un desiderio, descrivere e commentare vini
1.5	Opera Prima - Unità 6	Relativo alle festività - mesi dell'anno
0.75	定期試験	
	【Term 4】	
1.5	Opera Prima - Unità 6	Scrivere un'e-mail Si impersonale / passivante
1.5	Opera Prima - Unità 6	Verbi irregolari - volere, stare
1.5	Opera Prima - Unità 6	Passato prossimo dei verbi
1.5	Opera Prima - Unità 6	lavorare, mangiare, comprare, andare
1.5	Opera Prima - Unità 6	Preposizioni- in, a, andare da
1.5	Opera Prima - Unità 6	Festività italiane
0.75	定期試験	
0.75	Usò contenuto imparato-Revisione	
0.75	定期試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
中国語Ⅱ	全学科	4-5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
chineseⅡ	選択	30	15	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
白 蓮杰	一般教育科・非常勤講師	230	水曜日9:00~11:00	bai.lianjie
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3				
授業概要	中国語Ⅰで学んだことを復習しつつ、より高度な中国語力の習得を目指す。リスニング、会話を中心に、実践的な練習を取り入れて進めていく。			
到達目標	1. 中国語の基礎的な発音、文法事項を理解する。2. 中国語による簡単な会話、リスニングができる。 3. 中国語検定試験3級レベル。			
授業方法	中国語Ⅰで学んだことを復習しつつ、少人数の演習形式でより実践的なトレーニングを行う。会話、発音、文法、リスニングを総合的に学ぶ。			
教科書	『話そう！実践中国語』 宮本大輔・温琳著 朝日出版社			
補助教材	なし			
評価方法	定期試験50%+小テスト30%+平常点20%			
関連科目	中国語Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	中国語Ⅰを履修済みの学生を対象とする			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5 3	ガイダンス 中国語Ⅰの復習	第一課 発音の復習 第二課 文法の復習
4.5	会話・文法・リスニングの練習	第三課 自己紹介 第四課 趣味・関心事
0.75 1.5	前期中間試験 試験の講評	
9	会話・文法・リスニングの練習	第五課 私の家 第六課 学校に行く 第七課 買い物をする まとめ
0.75 1.5	前期期末試験 試験の講評	
9	会話・文法・リスニングの練習	第八課 料理を注文する 第九課 道を尋る 第十課 電話をかける 第十一課 大学祭
0.75 1.5	後期中間試験 試験の講評	
9	会話・文法・リスニングの練習	第十二課 私の夢 第十三課 早く春休みになれ 第十四課 北京にて
0.75 1.5	後期期末試験 試験の講評	
合計 45 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
法学	全学科	5年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Law	選択必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大和 正博	一般教育科・非常勤講師	230	毎授業後	yamato
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
GE-1 GE-2 GE-3		A-1 A-2 A-3		(a) (b) (i)
授業概要	規範の存在を実感した上で、法の重要性の理解を図る。 市民としての自覚を促す。 日常のトラブルに適切に対応する心構えを促す。			
到達目標	A. 主権者・納税者としての自覚ができる (よい社会のよい構成員となることができる)。 B. 紛争予防の重要性の理解ができる。 C. 発生してしまった紛争の適正解決を実現するための心構えができる。 D. 説得上手になることができる。 E. 説得され上手になることができる。			
授業方法	講義とゼミを混ぜた座学の形式で行う。 板書は最小限とし、プリントを適宜配布する。 時事問題も扱うこと等の理由で、授業の進行がシラバスとずれること等もありうる。			
教科書	現代法学入門・最新版 (有斐閣) 模範小六法・当該年度版 (三省堂)			
補助教材	授業中に配布するプリント			
評価方法	1年を4区間に分け、第1区間成績は定期テストの点数に平常点を加算して評価。 他の区間成績は、当該区間の定期テストの点数と直前の区間成績との平均値に平常点を加算して評価。 平常点の加点は、第1・第2・第3の各区間は20点、第4区間は25点を限度とする。 平常点の加点は、出席状況や授業態度を考慮してする (減点することもある)。 第4区間の平常点が他の区間より高いのは、主に、この時期にすばらしい頑張りを示す者への配慮。 平常点の加点 (減点) は、客観性を保つため、加点 (減点) の都度、クラス全員にその根拠を説明する。			
関連科目	現代社会、歴史学、倫理学、宗教学、現代国語、表現。			
準備学習に関するアドバイス	成績評価につき平常点の割合が高いですが、これは試験問題の難易度を下げないための方策です。 試験の問題はそれなりに難しいので、覚悟のうえ授業を受け勉強してください。 日常の心構えとして、新聞・テレビ・ラジオ等の報道に敏感になってください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス 高専の法的根拠	<input type="checkbox"/> シラバスの内容と教科書・六法の使い方の十分な理解 <input type="checkbox"/> 観念的存在である高専 (国家) の可視化の仕組みの理解
1.5	法とは	<input type="checkbox"/> 法・制裁・権力等の言葉の理解 (A. B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 「社会あるところ法あり」という法謬の理解 (A. B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 「憲法」の意味のおおまかな理解 (A)
3	国家と法 (1) ①ビデオ学習「憲法はまだか」-全3回	<input type="checkbox"/> 憲法という規範の重要性の体感 (A)
1.5	②国家と憲法	<input type="checkbox"/> 憲法規範の特殊性と日本国憲法の基本原理の理解 (A. B. C)
1.5	学習阻害要因とその克服	<input type="checkbox"/> 法学がつまらない (とすれば、その) 理由の理解 (D. E)
1.5	復習	
0.75	前期中間試験	
1.5	中間試験の総括	<input type="checkbox"/> 誤答の検討、復習、弱点補強
4.5	国家と法 (2) ①天皇制 ②平和主義	<input type="checkbox"/> 左についての憲法等の規定の理解 <input type="checkbox"/> 左についての憲法等の規定の理解
1.5	法律関係 (1) ①法律行為、無効の制裁 ②権利・義務 債権・債務 ③事実と証拠 証拠の重要性	<input type="checkbox"/> 左の言葉及び「法的～」という表現のもつ意味の理解 (B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 左の十分な理解 (B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 左の十分な理解 (B. C. D. E)
1.5	復習	
0.75	前期末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習事項の定着の確認
4.5	財産関係と法 ①隣人訴訟 ②労働力商品の特殊性	<input type="checkbox"/> 訴訟と和解の違いの理解 (B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 左の十分な理解 (B. C. D. E)
3	犯罪と法 (1) ①罰則と犯罪 (構成要件・違法・有責) ②違法性阻却事由 責任阻却事由	<input type="checkbox"/> 罪刑法定主義、死刑制度、犯罪の理解 (A. B. C) <input type="checkbox"/> 左の十分な理解 (A. B. C)
1.5	復習	
0.75	後期中間試験	
1.5	中間試験の総括	<input type="checkbox"/> 誤答の検討、復習、弱点補強
1.5	犯罪と法 (2) 刑事手続	<input type="checkbox"/> 特に、職務質問等の捜査の端緒についての理解 (A. B. C. D. E)
3	法律関係 (2) 横領的な処分行為の事例を題材に… ①民事 (と行政) と刑事 物と金 ②善意・悪意 過失	<input type="checkbox"/> 紛争処理に直面した時に冷静に対処するための心構え (B. C. D. E) <input type="checkbox"/> 左の言葉の十分な理解 (B. C)
3	家族関係と法 ①親族 ②相続	<input type="checkbox"/> 親族・親子についての基本的な理解 (B. C) <input type="checkbox"/> 相続についての基本的な理解 (B. C)
1.5	復習	
0.75	学年末試験	
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習事項の定着の確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
経済学	全学科	5年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Economics	選択必修	講義	演習	実験・実習
		45	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山館 順	一般教育科・准教授	238	火を除く随時	yamadate
生地 裕	一般教育科・非常勤講師	230	水 午後	oiji
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-3		A-3		(b)
授業概要	現代日本と世界の経済について基礎的事項の理解を目指す。			
到達目標	(A) 日本と世界の経済について高校現社、政経レベルの基礎的事項、又ミクロ経済の基礎的事項を理解できる。(B) 日本と世界の現代経済の成り立ちに関する基礎的な問題意識を持つことが出来る。(C) それら諸問題について50-100字程度の日本語で説明できる。			
授業方法	座学を中心とした授業形態、適宜課題を求める。			
教科書	学術図書出版社「事業・地域再生イノベーション-次代を担う社会企業への展望-」			
補助教材	適宜プリント配布			
評価方法	(1) 小テストもしくは課題、各区間の20%、(2) ノート検査もしくは課題、各区間の10%、(3) 定期試験、各区間の70%、(年に4回)、各区間成績は100点法で計算、定期試験の素点×70%、+小テスト+ノート検査、前期末、後期中間、学年末は各区間の合計点数を平均、(例) 前期末=前期中間区間+前期末区間÷2、 後期中間=3つの各区間成績の合計÷3、 学年末=4つの各区間成績の合計÷4、			
関連科目	1年次現代社会、2年次歴史、5年次技術者倫理、			
準備学習に関するアドバイス	先ず読書、238人文社会研究室の山館文庫は参考になる。又日本と世界の各種報道記事に関心を持つ事。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス、経済の定義、	<input type="checkbox"/> 授業計画 (A, B)
1.5	近代経済学の基礎1	<input type="checkbox"/> 価格設定とその所事例について把握できる。(A, B)
1.5	近代経済学の基礎2	<input type="checkbox"/> アダムスミスとその理論の基礎を理解、説明できる。(A, B)
1.5	現代日本の経済構造1	<input type="checkbox"/> GNP、GDP、NIより見た日本の現状を把握、説明できる。(A, B)
1.5	現代日本の経済構造2	<input type="checkbox"/> 戦後日本の経済変動について把握、説明できる。(A, B)
1.5	現代日本の経済構造3	<input type="checkbox"/> 高度成長期以降の日本経済の特徴について把握、説明できる。(A, B)
1.5	現代日本の経済構造4	<input type="checkbox"/> 80年代バブル期以降経済の特徴を理解できる。(A, B)
0.75	前期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5	企業と収益	<input type="checkbox"/> 企業の収益活動の基本的特徴について説明、理解できる。(A, B)
1.5	ケインズ経済学の基礎	<input type="checkbox"/> ケインズ経済学の基礎について把握できる。(A, B)
1.5	武蔵、相模地域の経済1	<input type="checkbox"/> 幕末開港後の武相地域の特徴について把握できる。(A, B)
1.5	武蔵、相模地域の経済2	<input type="checkbox"/> 明治初年の武相地域の経済の特徴を把握できる。(A, B)
1.5	武蔵、相模地域の経済3	<input type="checkbox"/> 産業革命期の武相地域経済について把握できる。(A, B)
1.5	武蔵、相模地域の経済4	<input type="checkbox"/> 大正、昭和戦前期の地元経済について把握できる。(A, B)
1.5	武蔵、相模の地域経済5	<input type="checkbox"/> 戦後から高度成長期の地元経済について把握できる (A, B)
0.75	前期末試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5	金融政策	<input type="checkbox"/> 日銀の金融政策の基礎について把握できる。(A, B)
1.5	財政政策	<input type="checkbox"/> 財務省財政政策の基礎的事項の把握 (A, B)
1.5	金融経済1	<input type="checkbox"/> 銀行業務の基礎を理解できる。(A, B)
1.5	金融経済2	<input type="checkbox"/> 投資業務の基礎について理解できる。(A, B)
1.5	金融経済3	<input type="checkbox"/> 投資銀行業務の基礎について把握できる。(A, B)
1.5	開発経済1	<input type="checkbox"/> アジアなどの新興国の経済構造の特徴について把握できる。(a, B)
1.5	開発経済2	<input type="checkbox"/> 新興国経済の現状を把握できる (A, B)
0.75	後期中間試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
1.5	世界貿易の現状1	<input type="checkbox"/> IMFとブレトンウッズ体制について把握できる。(A-C)
1.5	世界貿易の現状2	<input type="checkbox"/> ガットとWTO体制、その変容について理解できる。(A, B)
1.5	中国経済の現状	<input type="checkbox"/> 中国経済の現状について理解できる。(A, B)
1.5	インド経済の現状	<input type="checkbox"/> インド経済の現状について基礎的事項を理解できる。(A-C)
1.5	EU経済の現状	<input type="checkbox"/> EU経済の現状について理解できる。(A, B)
0.75	学年末試験	<input type="checkbox"/> (A-C)
3	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 学習指導の確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
工業デザイン概論	全学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Industrial Design	選択	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
竹内 明	デザイン学科・非常勤講師	420	火曜日am、木曜日pm	takeuchi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1				
授業概要	ユーザーの期待を裏切らない製品デザインについて、様々な実例を踏まえて学ぶ。			
到達目標	<p>A. ユーザーの期待することを理解して製品作りをすることの大切さを理解できる。</p> <p>B. デザイナーとエンジニアのコミュニケーションの大切さを理解できる。</p> <p>C. デザインが社会や環境に及ぼす影響が大きいことを理解できる。</p> <p>D. "ものづくり"だけでなく、そこから生まれる"ことづくり"にも、興味の持てるデザイナー/エンジニアになるマインドが持てる。</p>			
授業方法	<p>授業の前半：スライドを主体としたプレゼンテーションによる講義。</p> <p>授業の後半：映像を視聴し内容を分析する。</p> <p>毎回<授業メモ>を提出する。</p>			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	<p>半期科目として2回(中間、期末)の評価。</p> <p>定期試験の評点50%、<授業メモ>の評価50%を各区間の評価とする。</p> <p>区間評価の単純平均で最終総合評価とする。</p> <p><授業メモ>は、ポンチ絵などを含めてたくさんメモすることを"よし"として評価します。</p> <p>授業を欠席した場合は、"申し出"によりスライドの板書とdvdの貸し出しを行うので、<授業メモ>を提出することで、その回の授業の最低点40点を付与する。</p> <p>尚、必要に応じて追加補講など行う。</p>			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	身の回りのモノやコトについて日常的に情報収集して、デザイン的な意味を考えること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業方法をシミュレーションして、学習方法を知る
1.5	デザイナーの役割	<input type="checkbox"/> デザイナーと関係者の役割の違いを知る (B)
1.5	生活をデザインする	<input type="checkbox"/> デザインが人々の生活を変えることを知る (C)
1.5	使いやすいデザイン1	<input type="checkbox"/> アフォーダンスのポイントを知る (A)
1.5	使いやすいデザイン2	<input type="checkbox"/> フィードバックのポイントを知る (A)
1.5	使いやすいデザイン3	<input type="checkbox"/> マッピングのポイントを知る (A)
1.5	プロセス	<input type="checkbox"/> デザイン開発のプロセスを知る (B)
0.75	定期試験	<input type="checkbox"/> 中間試験
1.5	ブランドデザイン	<input type="checkbox"/> ブランドデザインの意味と重要性を知る (A, D)
1.5	エコデザイン	<input type="checkbox"/> 環境に配慮したデザインを知る (A, C)
1.5	ユニバーサルデザイン	<input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインの意味を知る (D)
1.5	新技術とデザイン	<input type="checkbox"/> デザインと技術開発の相関を知る (D)
1.5	高級感とデザイン	<input type="checkbox"/> ユーザーがお金を払うデザインを知る (A)
1.5	自動車デザイン	<input type="checkbox"/> 自動車デザインのポイントを知る (B, C)
0.75	定期試験	<input type="checkbox"/> 期末試験
1.5	学習指導	<input type="checkbox"/> 学習内容の定着と確認
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
DTP概論	AD: デザイン学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to D.T.P	選択	10.5	12	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
幸島 伸	デザイン学科・非常勤講師	420	火曜日午後・水曜日	koujima.shin
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AD-1 AD-2				
授業概要	DTP検定の模擬試験を行いながら、DTPを中心とした印刷物作成に必要なとされる企画から印刷、後加工までの各工程およびその中で使用される用語について解説する。			
到達目標	A. DTPによる印刷物作成の各工程が理解できる B. DTPによる印刷物作成の各工程における判断・確認・対応ができる C. DTP検定II種取得同等の知識を身につけられる			
授業方法	DTP検定の模擬試験を実施しながら、問題の解説、用語解説を行う。			
教科書	「印刷メディアディレクション」(株式会社ワークスコーポレーション)			
補助教材	適宜プリントを配布			
評価方法	半期の開講内で2回、定期試験を実施する。 評価は定期試験(80%)、授業内課題(20%)の100点満点で算出する。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス				

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	はじめに	<input type="checkbox"/> DTPの概要を説明できる
3	印刷メディアディレクション	<input type="checkbox"/> DTPのディレクションをするための基本を説明できる(A. B. C)
1.5	印刷物制作のワークフローとディレクション業務	<input type="checkbox"/> 印刷・DTPの歴史を説明できる(A. B. C) <input type="checkbox"/> 印刷物のワークフローを説明できる(A. B. C) <input type="checkbox"/> DTPで使われるソフトウェアを説明できる(A. B. C)
1.5	企画と編集作業	<input type="checkbox"/> 印刷物を企画するための基礎を説明できる(A. B. C)
3	デザインと校正作業	<input type="checkbox"/> DTPで扱う画像について説明できる(A. B. C) <input type="checkbox"/> レイアウト・組版について説明できる(A. B. C) <input type="checkbox"/> 校正について説明できる(A. B. C)
0.75	定期試験	
0.75	試験答案返却・解説	
1.5	入稿と印刷	<input type="checkbox"/> 製版・印刷・製本・加工について説明できる(A. B. C) <input type="checkbox"/> 印刷の四大版式について説明できる(A. B. C)
1.5	他メディアへの展開	<input type="checkbox"/> 電子媒体の種類について説明できる(A. B. C) <input type="checkbox"/> 電子媒体の特徴について説明できる(A. B. C)
6	DTP検定模擬試験	<input type="checkbox"/> 過去問題の練習、合格圏内達成が目標(A. B. C)
0.75	定期試験	
1.5	試験答案返却・解説	DTP検定II種を基本とした定期試験
	※希望者は、夏休みに「DTP検定II種」受講 検定取得を目指します。	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
材料基礎工学A	全学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Materials Engineering A	選択	講義	演習	実験・実習
		21	1.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	工業用材料として用いられている金属の9割は鉄鋼材料である。鉄鋼は資源の豊富さ、コスト、特性のバランスに優れ、熱処理や加工の履歴によってさまざまな性質に変化する。本講義では、結晶構造や組織と性質の関係、製造方法、用途などについて学ぶ。			
到達目標	A. 世の中で使われている材料の分類について理解できる。 B. 鉄鋼材料の製錬法について理解できる。 C. 鉄鋼材料の基本的な性質が理解できる。 D. 鉄鋼材料についての平衡状態図と組織の関係を理解できる。			
授業方法	配布プリントの内容に沿って講義を行う。			
教科書	配布プリント			
補助教材				
評価方法	各区間の評価は、定期試験80%、ノート提出20%とする。総合評価は中間と期末の単純平均とする。授業ノートは定期試験時に提出する。			
関連科目	材料基礎工学B			
準備学習に関するアドバイス	最も身近な鉄(鋼)ですが、種類は何百種類にもなります。鉄鋼材料を学ぶことによって、材料全般についての基本的知識を身につけることができます。身の回りには材料はどんなも調べておくと面白いと思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価について理解する。
1.5	材料の歴史	<input type="checkbox"/> 人間と材料の歴史、材料の分類について理解できる。(A)
1.5	鉄鋼の製造法(1)	<input type="checkbox"/> 鉄鉱石の製錬、転炉による製鋼、連続鑄造について理解できる。(B)
1.5	鉄鋼の製造法(2)	<input type="checkbox"/> 連続鑄造、熱間圧延、冷間圧延、熱処理、表面処理について理解できる。(B)
3	鉄鋼材料の基本的な性質(1)	<input type="checkbox"/> 鉄と炭素鋼の性質、平衡状態図について理解できる。(C,D)
1.5	鉄鋼材料の基本的な性質(2)	<input type="checkbox"/> 炭素鋼の微細組織と機械的性質の関係について理解できる。(C,D)
0.75	中間試験	<input type="checkbox"/> 中間までの範囲の理解度を確認する。
0.75	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。
1.5	炭素鋼と低合金鋼(1)	<input type="checkbox"/> 代表的な炭素鋼の性質、ピアノ線について理解できる。(C,D)
1.5	炭素鋼と低合金鋼(2)	<input type="checkbox"/> 炭素工具鋼、機械構造用低合金鋼、HSLA 鋼について理解できる。(C)
1.5	高合金鋼(特殊鋼)(1)	<input type="checkbox"/> 鉄合金の平衡状態図と性質、高速度工具鋼について理解できる。(C,D)
1.5	高合金鋼(特殊鋼)(2)	<input type="checkbox"/> ステンレス鋼、耐熱鋼、マルエージング鋼について理解できる。(C,D)
1.5	鉄合金および鑄鉄(1)	<input type="checkbox"/> 鑄鉄の組成と組織、片状黒鉛鑄鉄について理解できる。(C,D)
1.5	鉄合金および鑄鉄(2)	<input type="checkbox"/> 球状黒鉛鑄鉄、可鍛鑄鉄、鑄鉄の溶解・鑄造法について理解できる。(B,C)
0.75	期末試験	<input type="checkbox"/> 期末までの範囲の理解度を確認する。
1.5	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス：

番号：

氏名：

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
材料基礎工学B	全学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Materials Engineering B	選択	講義	演習	実験・実習
		21	1.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	技術の発展は、材料の進歩と密接な関係がある。例えば、ジュラルミンと呼ばれるAl-Cu系合金が開発されなければ、ジャンボジェット機など夢であったであろう。本講義では、代表的な非鉄金属およびその合金を中心に、いろいろな材料を取り上げ、結晶構造や組織、性質、製造方法、用途などについて学ぶ。			
到達目標	A. 非鉄材料の製錬法について理解できる。 B. 非鉄材料の基本的な性質が理解できる。 C. 非鉄材料についての平衡状態図と組織の関係を理解できる。			
授業方法	配布プリントの内容に沿って講義を行う。			
教科書	配布プリント			
補助教材				
評価方法	各区間の評価は、定期試験80%、ノート提出20%とする。総合評価は中間と期末の単純平均とする。授業ノートは定期試験時に提出する。			
関連科目	材料基礎工学A			
準備学習に関するアドバイス	普段何気なく使っている材料が、どんな性質で、なぜこの材料が使われているか分かるようになると、技術者としての視野が広がると思います。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、評価について理解する。
1.5	アルミニウムとその合金(1)	<input type="checkbox"/> アルミニウムの製錬法、純アルミニウムの性質について理解できる。(A, B)
2	アルミニウムとその合金(2)	<input type="checkbox"/> アルミニウム合金の種類と強化方法および製造方法による分類について理解できる。(B, C)
1.5	銅とその合金(1)	<input type="checkbox"/> 銅の製錬法、純銅の電気的性質について理解できる。(A, B)
2	銅とその合金(2)	<input type="checkbox"/> 主な銅合金の性質について理解できる。(B, C)
1.5	チタンとその合金(1)	<input type="checkbox"/> チタンの鉱石と製錬法、純チタンの性質について理解できる。(A, B)
2	チタンとその合金(2)	<input type="checkbox"/> チタンの溶解法と加工法、チタン合金の種類と用途について理解できる。(B, C)
0.75	中間試験	<input type="checkbox"/> 中間までの範囲の理解度を確認する。
0.75	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。
1.5	高融点金属・低融点金属・貴金属	<input type="checkbox"/> 高融点金属、低融点金属、貴金属の性質と用途について理解できる。(B)
1.5	金属間化合物	<input type="checkbox"/> 金属間化合物の歴史、種類、性質、用途について理解できる。(B, C)
1.5	セラミックス	<input type="checkbox"/> セラミックスの歴史、種類、製造方法、性質、用途について理解できる。(B)
1.5	高分子材料	<input type="checkbox"/> プラスチックの種類、構造、性質、用途、工業的製造方法について理解できる。(B)
1.5	複合材料	<input type="checkbox"/> 複合材料の歴史、構成材料の種類、複合則、製造方法、用途について理解できる。(B)
0.75	期末試験	<input type="checkbox"/> 期末までの範囲の理解度を確認する。
1.5	試験問題の解説・復習	<input type="checkbox"/> 試験問題に対する復習を行う。
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
映像メディア概論A	全学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Visual Media Engineering A	選択	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜日以外9:00-17:00	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	映像の「色」を扱う際に必要となる基本的知識として、表色系や光学特性、色彩心理および人間の視知覚機構に関する講義を行う。 さらに、上記知識をベースに、色再現手法や光学解析手法について紹介する。			
到達目標	<p>A. 表色系である顕色系と混色系の違いを理解し、マンセル色空間やRGB、XYZ色空間、均等色空間における数値の意味を説明することができる</p> <p>B. 光のスペクトル分布と色との関係を理解し、説明することができる</p> <p>C. 人間が色を知覚する仕組みを理解し、色覚モデルについて説明することができる</p> <p>D. 色対比、色順応、色彩恒常等の色知覚にかかわる心理特性を説明することができる</p> <p>E. カラーマネジメントの仕組みを理解し、異なるデバイス間での色再現手法を説明することができる</p> <p>F. 映像における反射モデルの適用例を理解し、説明することができる</p>			
授業方法	講義形式で行う			
教科書	なし			
補助教材	色彩工学の基礎と応用 嶋野法之 コロナ社			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価：中間試験80%と中間評価時までの課題20%で評価 期末評価：中間試験40%+期末試験40%+前期分の課題20%で評価 			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	色は光の物理特性と人間の知覚特性によって得られるものです。授業の中では映像における色を数値で扱いますので、色空間内での数値と知覚される色との対応を常に意識するようにしてください。 また、簡単な積分や行列演算を扱いますので基本的な知識を整理しておいてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	授業ガイダンス	
5.25	表色系、色空間	<input type="checkbox"/> 顕色系と混色系の違いを説明できる(A) <input type="checkbox"/> マンセル色空間、RGB、XYZ色空間、均等色空間の数値の意味を理解し、説明できる(A) <input type="checkbox"/> 分光特性と色との対応関係を説明できる(B) <input type="checkbox"/> 均等色関数を用いて三刺激値を計算する仕組みを理解できる(B) <input type="checkbox"/> メタメリズムの仕組みを理解し説明することができる(B) <input type="checkbox"/> 異なる色空間同志の対応関係を理解し説明することができる(B)
1.5	視知覚機構	<input type="checkbox"/> 人が色を知覚する仕組みを理解し説明することができる(C) <input type="checkbox"/> 視細胞の錐体と桿体の違いを理解できる(C)
3	色彩心理	<input type="checkbox"/> 色対比、色順応、色彩恒常等の知覚特性を理解し説明することができる(D)
0.75	中間試験	
1.5	中間試験の解説とまとめ	
3	カラーマネジメント	<input type="checkbox"/> カラーマネジメントの目標が複数存在することが理解できる(E) <input type="checkbox"/> カラーマネジメントの仕組みを理解することができる(E) <input type="checkbox"/> 2つのデバイス間での色再現を実現するための方法を式を用いて説明することができる(E)
4.5	光学解析	<input type="checkbox"/> 反射モデルを理解し図を用いて説明することができる(F) <input type="checkbox"/> 映像における反射の表現形態を理解し説明することができる(F) <input type="checkbox"/> 反射モデルに基づく映像処理手法を理解できる(F) <input type="checkbox"/> 色彩恒常の計算モデルの考え方を理解し説明できる(F)
0.75	期末試験	
1.5	期末試験の解説とまとめ	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
映像メディア概論B	CS:情報工学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Fundamentals of Visual Media Engineering	選択	10	12.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
松谷 靖之	情報工学科・非常勤講師	420	水曜日午前	y-matsutani
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	映像メディア概論Bの講座では、Digital写真（デジタル写真）技術を通して映像メディアを学ぶ。写真史を学習して歴史の残る名作と同様なテーマの作品制作に挑戦する。			
到達目標	A デジタルカメラで撮影し、Photoshopソフトまでのワークフローが理解できる。 B 画像処理ソフトPhotoshopを使って、情報発信する作品を制作できる。 C 写真技術の基礎から映像メディアへの発展を理解できる。			
授業方法	半期の14回の講義と演習により制作作業を体験しながら映像メディアの概要を理解していく。主に画像処理ソフトPhotoshopによる写真画像を用いて、制作作品fileをまとめる。			
教科書	無し（講義内容を理解できるようしっかりノートをとってください）			
補助教材	無し（必要に応じてプリント資料配布）			
評価方法	中間試験：講義授業内容より100点満点の試験を実施する。 期末試験：制作作品をまとめたファイルも評価に加え、評価100点評価とする。 総合評価は両評価の平均をとり、60点以上を合格とする。 ※未提出課題は0点として扱うため、未提出課題があると不合格になる可能性があります。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	映像メディア概論Bでは、映像メディアにおける作品を制作する楽しさを感じて欲しい。開講人数は希望者がいれば開講するが、選択希望学生が20名を超えると制作課題は難しく講義主体の授業形式になる。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
1.5	授業ガイダンス	授業計画・評価方法・受講注意点等の説明
	演習課題	
3	ポートレイト	<input type="checkbox"/> ユサフ・カーシュの作品研究と意識した作品制作ができる(A)
3	Flower	<input type="checkbox"/> アービング・ペンの作品研究と意識した作品制作ができる(A)
3	パンフォーカス風景 ポスター写真	<input type="checkbox"/> アンセル・アダムの作品研究と意識した作品制作ができる(A) <input type="checkbox"/> 総合的な演習のまとめとして、A3判作品制作ができる(B)
	講義	
1.5	映像メディアの発達史	<input type="checkbox"/> 人の視覚とカメラレンズの構造比較が理解できる(C)
1.5	記録メディア（アナログとデジタル）	<input type="checkbox"/> カメラの誕生から映画、そしてCG 画像の発達史が理解できる(C)
1.5	映像メディア使用機器	<input type="checkbox"/> 網膜・銀塩フィルム・CCD・CMOS の特長が理解できる(C)
1.5	写真とデジタル技術	<input type="checkbox"/> 画像処理ソフトPhotoshop の役割を理解できる(A)
1.5	色再現と諧調再現	<input type="checkbox"/> 色温度が説明できる(C)
1.5	映像メディアと社会	<input type="checkbox"/> マルチメディア・クロスメディアの意味が理解できる(C)
1.5	定期試験（中間・期末）	
1.5	学習指導	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 （→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格）	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
初級Webデザイン	全学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Introduction to Web Design	選択	講義	演習	実験・実習
		3.5	19	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	Webサイト構築の入門基礎講座である。Webサイトがどのような観点で製作されるのか、またどのように活用するのかを、課題を制作しながらWebサイト作成方法を習得する。			
到達目標	A. Webサイトの概要や構造、必要性を理解できる B. 簡単なWebサイトを作成できる			
授業方法	半期開講の15回授業の科目である。 講義と実習により体験的に染手をすすめていく。			
教科書	10日でSEO&アクセスアップJimdoデザインブック、赤間公太郎、MDNコーポレーション			
補助教材	適宜プリントを配布する			
評価方法	中間は、中間試験の評価のみを示す。 期末は、各定期試験の評定の平均60%、課題・演習の評点40%で評価をする。 (中間試験評点+期末試験評点) / 2 × 0.6 + 課題・演習評点 × 0.4 また、期末の総合評価が負荷の場合は、再試験を行う場合もある。			
関連科目				
準備学習 アドバイス	Webサイトにどのようなメニューが、含まれているかを意識しながら、いろいろな業種のホームページをWebを見ておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	授業の進め方、評価の仕方、レポートの提出方法について理解する
0.75	第一章 Webの基礎知識 1	<input type="checkbox"/> ホームページの仕組みを理解する (A)
1.5	第一章 Webの基礎知識 2	<input type="checkbox"/> Webブラウザと、Webサービスを理解する (A)
1.5	第一章 Webの基礎知識 3	<input type="checkbox"/> ITリテラシー、メディアリテラシーを理解する (A)
1.5	実技演習 1	<input type="checkbox"/> Webサイト制作サービスの準備をする (A)
1.5	実技演習 2	<input type="checkbox"/> Webサイト制作における完成形のイメージができる (A)
1.5	実技演習 3	<input type="checkbox"/> Webサイト制作における画像や文章などの素材準備ができる (A)
1.5	実技演習 4	<input type="checkbox"/> Webサイト制作におけるホームページ公開ができる (A)
0.75	中間試験	Webの基礎知識に関する筆記試験(20問程度)、課題提出
1.5	第二章 Webサイトの企画設計 1	<input type="checkbox"/> Webサイト制作における目的とユーザーニーズが理解できる (A, B)
1.5	第二章 Webサイトの企画設計 2	<input type="checkbox"/> Webサイト制作における戦略と要件が理解できる (A, B)
1.5	第二章 Webサイトの企画設計 3	<input type="checkbox"/> Webサイト制作における構造と骨格が理解できる (A, B)
1.5	第二章 Webサイトの企画設計 4	<input type="checkbox"/> Webサイト制作における表層が理解できる (A, B)
1.5	実技演習 5	<input type="checkbox"/> サイトマップの設計構築ができる (A, B)
1.5	実技演習 6	<input type="checkbox"/> 要件定義の必要性を理解できる (A, B)
0.75	期末試験	Webサイトの企画設計に関する筆記試験(20問程度)
1.5	学習指導期間	解説と復習
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理学特論A	全学科	4-5年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Advanced Lectures A on Physics	選択	15	7.5	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
GE-1				
授業概要	本講義では質点の中心力問題および質点系(剛体)の力学について、これまでに学習した微分積分の知識を用いて学ぶ。			
到達目標	A. デカルト座標系以外を用いて質点の運動を記述できる B. 中心力による質点の運動を論じることができる C. 質点系の運動を論じることができる D. 剛体の重心を計算することができる E. 剛体の慣性モーメントを計算することができる F. 剛体の運動について論じることができる			
授業方法	宜プリントを配布し、授業の理解に役立てる。			
教科書	特に指定はしない。授業で適宜プリントを配布する。			
補助教材	参考図書を開講時にいくつか紹介する。			
評価方法	定期試験のみで評価する。ただし評価点の算出は次式による 評価点=(中間試験点数+期末試験点数×2)/3；小数点以下は四捨五入			
関連科目	代数幾何学、線形代数、解析学I、基礎物理I・II、物理			
準備学習に関するアドバイス	解析学で学習する内容のうち、重積分(3重積分まで)は修得していることを前提とするので、4年生で履修を考えているものは注意すること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス 中心力による質点の運動(1)	<input type="checkbox"/> 2次元・3次元極座標系(A) <input type="checkbox"/> 円柱座標系(A) <input type="checkbox"/> 極座標系の速度と加速度(A)
1.5	中心力による質点の運動(2)	<input type="checkbox"/> 万有引力の法則(B) <input type="checkbox"/> 角運動量(B) <input type="checkbox"/> ケプラーの法則(B)
1.5	質点系の運動(1)	<input type="checkbox"/> 質点系の運動方程式(C) <input type="checkbox"/> 質量重心(C)
1.5	質点系の運動(2)	<input type="checkbox"/> 質点系の運動量(C) <input type="checkbox"/> 質点系の角運動量(C) <input type="checkbox"/> 力のモーメント(C)
1.5	剛体の運動(1)	<input type="checkbox"/> 剛体の自由度(F) <input type="checkbox"/> 剛体の運動方程式(F)
1.5	剛体の運動(2)	<input type="checkbox"/> 剛体の質量重心(D・F)
1.5	剛体の運動(3)	<input type="checkbox"/> 剛体のつり合い(F)
0.75	中間試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
1.5	固定軸周りの剛体の回転運動(1)	<input type="checkbox"/> 回転の方程式(F) <input type="checkbox"/> 慣性モーメント(E・F) <input type="checkbox"/> 外力のモーメント(F)
1.5	固定軸周りの剛体の回転運動(2)	<input type="checkbox"/> 演習(F)
1.5	固定軸周りの剛体の回転運動(3)	<input type="checkbox"/> 演習(F)
1.5	剛体の平面運動(1)	<input type="checkbox"/> 演習(F)
1.5	剛体の平面運動(2)	<input type="checkbox"/> 演習(F)
0.75	期末試験(演習)	
1.5	試験答案返却・試験解説	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
プロジェクトマネジメント	全学科	4-5年	通年	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Project Management	選択	11.5	11	
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
渡邊 聡	電気工学科・教授	219	火曜: 16:30~17:00	watanabe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
授業概要	多くの組織や人が参画して実施される期限のある活動がプロジェクトである。これを成功裏に完了させるために、マネジメント技法を駆使したものづくりができる付加価値技術を備えた実践的技術者となるべくその技法を学ぶ。			
到達目標	A. プロジェクトの定義、特徴や活動を理解することができる。 B. プロジェクトマネジメントのプロセスについて理解することができる。 C. プロジェクトマネジメントの計画書・管理表・WBS・各種チャートを理解することができる。 D. プロジェクトマネジメントの成果・完了報告書を作成することができる。			
授業方法	プロジェクトの計画から修正、成果報告までの、プロジェクトを成功裏に進める手法(プロジェクトマネジメント)を実際のプロジェクトを対象に講座で学んだことを実践しながら体験的に学ぶ。集中講座で行う。			
教科書	プリント			
補助教材				
評価方法	(1) 自分が行なったプロジェクトマネジメントの実施報告80% (成果発表・活動完了報告書レポート) (2) 講義での課題20%			
関連科目	電子工学(3年)			
準備学習に関するアドバイス	プロジェクト活動を行っていたり、課外活動で実際にマネジメントを運用していきたいなど具体的なテーマを持って受講すること。学んだマネジメントの技法を使い、実践したマネジメントの具体的な過程や修正を行ってきた結果・成果を報告する。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> プロジェクト・マネージメントについての説明
3	プロジェクトマネージメントの計画法(条件設定・計画・管理)について	<input type="checkbox"/> 範囲、資源、前提条件、リスク、組織、などをふまえて、プロジェクト・スケジュール書の概念を理解できる。(A)(B)
3	リスク回避マトリクスとリスク管理表の作成	<input type="checkbox"/> リスク回避マトリクス・リスク管理表を読み取ることができる。(B)(C)
3	WBSとタスク・ストラクチャーマトリクスの作成	<input type="checkbox"/> WBS、タスク・ストラクチャー・マトリクスを理解できる。(B)(C)
3	ガント・チャートとパート・チャートについて	<input type="checkbox"/> ガント・チャート、パート・チャートを理解できる。(B)(C)
3	プロジェクトの進行と管理について	<input type="checkbox"/> プロジェクトの進行を見守ることができる。(B)(C)
3	計画を変更するときの対処法について	<input type="checkbox"/> 定期的に計画、リスク、前提条件などを見直すことができる。(B)(C)
1.5	プロジェクト成果報告書について	<input type="checkbox"/> プロジェクトの成果報告書の意味と記入方法を理解することができる。(C)(D)
1.5	マネージメントの報告	<input type="checkbox"/> プロジェクト完了報告書を作成できる。(D)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

VII. 専攻科 〈生産システム工学専攻〉

専攻科 生産システム工学専攻 教育課程表(2014年度入学以降)

区分	科目名	開講期間 学年	単位数	JABEEプログラムの学習・教育到達目標との関連													分野別要件 (①～⑤各群から1科目、合計最低6科目履修)					専攻科課程の教育目標 との関連										
				A					B				C			D			AC													
				A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	①設計・システム系科目群	②情報・論理系科目群	③材料・バイオ系科目群	④力学系科目群	⑤社会技術系科目群	1	2	3	4	5				
必修科目	一般科目	伝統文化特論	1年	2		◎		◎																						◎		
		英語 I	1年	2										◎																◎		
		英語 II	2年	2										◎																◎		
	専門科目	生産システム特論	1年	2									◎															◎				
		論文講読 I	1年	1										◎													◎					
		論文講読 II	1年	1																										◎		
		専攻演習 I	1年	1																										◎		
		専攻演習 II	1年	1																										◎		
		専攻実験	1年	2																										◎		
		特別研究 I	1年	4																										◎		
特別研究 II	2年	6																										◎				
⑤群	技術史	1年	2					◎	◎																				◎			
分野別要件①～⑤の科目は、各群から最低1科目以上を選択し、合計6科目以上履修すること																																
選択必修	専門科目	①群	電力システム	1年	2								◎電	◎情																◎		
			環境電磁工学	1年	2										◎電	◎情															◎	
			計測特論	1年	2											◎																◎
			電気電子回路特論	1年	2																											◎
			パワーエレクトロニクス特論	1年	2																											◎
			分布定数回路特論	2年	2																											◎
			通信工学特論	2年	2																											◎
			トラヒック理論	2年	2																											◎
			信号処理論	2年	2																											◎
			応用通信特論	2年	2																											◎
	②群	数値解析	1年	2										◎	◎情	◎電															◎	
		情報数学	1年	2										◎	◎情	◎電															◎	
		応用プログラミング	1年	2																											◎	
		情報ネットワーク特論	1年	2																											◎	
		大規模情報処理	2年	2																											◎	
		数理計画	2年	2																											◎	
	③群	計算システム論	2年	2																											◎	
		バイオメカニクス	1年	2																											◎	
		構造材料	1年	2																											◎	
一般科目	④群	半導体工学	2年	2																										◎		
		機能材料	2年	2																										◎		
専門科目	物理学特論 I	1年	2																											◎		
	物理学特論 II	2年	2																											◎		
	機械工学概論	1年	2																											◎		
一般科目	エネルギー変換工学	2年	2																										◎			
選択	一般科目	数学特論 I	1年	2																										◎		
		数学特論 II	2年	2																										◎		
	専門科目	インターシップ	1年	1～2																										◎		

※ ◎電・・・準学士課程の電気工学科または機械電子工学科卒業相当の学生が履修した場合の学習・教育到達目標
 ※ ◎情・・・準学士課程の情報工学科卒業相当の学生が履修した場合の学習・教育到達目標

専攻科の学習・教育目標

AC-1	自身の専門について、常に基礎に還り、新知識を創り出す能力を養うことができる。
AC-2	より高度な専門領域について、講義、演習、実験、実習や研究を通して知識のみならず、学ぶ力を養うことにより、創造的研究開発能力を得ることができる。
AC-3	発表の場(学内発表、学会発表等)において、論文作成、研究発表(情報発信)、質疑応答を行い、真の意味でのコミュニケーションを行うことができる。
AC-4	学問を通して人間性を養い、良き技術者となることができる。
AC-5	国際的な視野を持って研究を行い(文献調査や国際会議参加など)、自身の研究の位置づけを理解するとともにエンジニアとしての国際性を身につけることができる。

JABEE基準1

(a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
(c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力
(d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 (1)専門工学(融合・複合領域)の知識と能力 (2)実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (3)創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力 (4)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
(e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
(g)	自主的、継続的に学習する能力
(h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
(i)	チームで仕事をするための能力

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(A)	健全な身体と精神を培い、使命感と奉仕の精神を養い、幅広い教養の元に多面的に物事をとらえ、技術者としての使命を自覚し、実行しうる技術者
	(A-1) 健康や身体についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、健康な心身を培うことができる
	(A-2) 過去の文芸作品や現在の様々な書籍を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深め、豊かな人間性を培うことができる
	(A-3) 近現代の社会と技術を理解するために、その成り立ちの基盤である日本と世界の歴史を学習し、それらの基礎的事項を把握する
	(A-4) 我が国の文化や歴史の理解とともに他国の文化も認識し、技術に関係する過去の事故等の検討を通して、社会的な責任と使命(技術者倫理)について理解できる
(A-5) 自然環境と社会との関係に関する基礎的な事項を理解でき、常に使い手の立場に立ったものづくりができる	

(B)	自らの専門とする科学技術について、その基礎理論および原理を理解し、それらを問題解決に応用できる能力を備えた技術者
	(B-1) 数学、自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題に挑戦できる
	(B-2) 自分の専攻した専門分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて工学的な現象が理解できる
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、自分の専攻した専門分野の知識と複合する能力を身につける
(B-4) 実験・実習を通して、実際の工学的現象を理解し、実践的技術を身につけ、問題解決に応用できる	

(C)	コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけた技術者
	(C-1) 国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉、文章、図表などで表現、記述でき、効果的なコミュニケーションができる能力を身につける
	(C-2) コンピュータや情報ツールを使いこなし、情報処理、情報収集等やプレゼンテーションができる
(C-3) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎力、特に英語力を身につけ、生活文化の固有性や多様な価値観のあることを理解できる	

(D)	技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を持った技術者
	(D-1) 自律的に新たなことにチャレンジする心(プロダクトマインド)を育成し、問題解決のために習得した専門知識を応用できる
	(D-2) 問題解決のための計画・実行方法の立案、得られた結果の考察および整理ができる
(D-3) 実験・実習、卒業研究、特別研究科目の修得を通して、自主的、継続的に学習し、他人と協調して実行できる	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
伝統文化特論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Traditional Arts and Cultures	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
野島 伸仁	一般教育科・非常勤講師	236	月曜: 12:30-13:05	nojima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-5		A-2 A-4		(a) (b)
授業概要	「伝統」をテーマに講義をする。能楽を中心に伝統芸能に伝えられている日本文化を学習する。能楽の所作を紹介して日本の様式美を解説する。			
到達目標	A 日本に伝わる伝統文化・社会的背景を理解することができる。 B ことばについて考え、自分の意見を持つことができる。			
授業方法	講義を基本に授業を進める。期末にレポートを提出する。			
教科書	必要に応じて資料を配布する。			
補助教材	「狂言ハンドブック」小林貞監修(三省堂)			
評価方法	トピックを一つ選び、学期末に3000字以上のレポートを提出し、下記の採点基準に照らし合わせて評価する。 AAA(100/優) 各分野を専門とする学生が書いた最優秀レポートと同等の評価を与えることができる。 AA(90/優) テーマに必要な学問的意義を意識し、レポート内容に必要なキーワードを適切十分に使用している。専門的なレポートとして優秀である。 A(80/優) レポート内容に必要な専門的知識のキーワードを適切に使用し、明確な言葉遣いで説明できている。 B(70/良) レポート内容に必要なキーワードが60%ほどしか取り入れられておらず、テーマの説明が不十分な点が見受けられる。 C(60/可) 体裁は整っているが、テーマの説明に必要なキーワードが不十分である。 F(50/不可) 体裁・キーワード共、不十分である。			
関連科目	技術史			
準備学習に関するアドバイス	自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> シラバスの読み合わせにより本講座の位置づけを理解する。(A)
6.5	伝統芸能	<input type="checkbox"/> 能楽の先行芸能と周辺芸能について考える。(A) <input type="checkbox"/> 能楽の成り立ちについて考える。(A) <input type="checkbox"/> 主従関係について考える。(A) <input type="checkbox"/> 仮面(ベルソナ)のもつ役割について考える。(A) <input type="checkbox"/> 能楽の謡・舞について考える。(A) <input type="checkbox"/> 伝統行事・祭事について考える。(A) <input type="checkbox"/> 伝統芸能の背景にある陰陽五行思想について考える。(A)
6.5	能楽の技法	<input type="checkbox"/> 能楽の演出について考える。(A) <input type="checkbox"/> 習い事における所作について考える。(A) <input type="checkbox"/> 能楽の道具に触れる。(A)
6.5	ことば	<input type="checkbox"/> 形式・型について考える。(A) <input type="checkbox"/> 文語体と口語体について考える。(A)(B) <input type="checkbox"/> 場に応じた人間関係のことばと振舞いについて考える。(A)(B) <input type="checkbox"/> 能楽に引用されている現在に通じることばについて考える。(A)(B)
1.5	レポート指導	<input type="checkbox"/> レポート作成の要領を理解する。
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語 I	AC:専攻科	1年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
English 1	必修	講義	演習	実験・実習
0	45	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
松尾 貴哲	一般教育科・講師	236	水曜日 12:20~13:05	matsuot
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-5		C-3		(f)
授業概要	当講義はReading、Writingに比重を置く。前期では、英文を左から右に読み進め、本文の内容を正確に把握できる「フレーズ・リーディング」を中心に指導する。それを踏まえ、後期では、リーディングからライティングへの橋渡しとともに、「パラグラフ・ライティング」の指導を行う。			
到達目標	<p>A. 一定量の英文を読み、内容を正しく把握できる。(Reading)</p> <p>B. 授業内で学んだ文法、およびエッセイの書き方を理解できる。(Writing)</p> <p>C. 正しい規則で、短文および300字程度のエッセイを書くことができる。(Writing)</p>			
授業方法	一方的な講義ではなく、ペアワークやグループワークを通じた、アクティブな演習形式を取る。前期では英文解釈に必要な英文法および英語表現の復習を、後期ではエッセイを書くための様々なコツを講義形式で行う。前期は毎時、小クイズを行う。			
教科書	指定しない(毎時、演習プリントを配付する)			
補助教材	石黒昭博(監)。(2015)。総合英語『Forest』。第7版。桐原書店。			
評価方法	<p>前期： 前期末試験(60%) + 授業内小クイズ(40%) Grammar & Writing (40点)、Reading (60点)の合計100点満点として出題され、60%の比率換算で算出する。 小クイズは授業レビューとして毎回出題される。 小クイズのスコアは単純合算され、40%の比率換算で最終的に算出される。</p> <p>後期： 指定された4種類の課題提出(10% + 20% + 30% + 40%) 1. タイトルの英文ライティング 2. メイントピックとサポーティングセンテンスのライティング 3. ショートエッセイ 4. 300字程度のフル・エッセイ</p>			
関連科目	英語 II			
準備学習に関するアドバイス	毎回、小クイズを実施し、評価対象となります。毎日が勝負です。日頃から英語に慣れ親しみ、小クイズに対応できるよう、そして英文ライティングに取り組めるよう、日々の努力が必要になります。こちらの指示を待つことなく、自主的な英語学習が求められます。自習時間として22.5時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
<前期>		
1.5	Introduction to "Fluent Reader"	流暢に読むためのコツを知る (A)
1.5	Unit 1: Extreme Ironing	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 2: Food and Culture	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 3: Life after Death?	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 4: Addicted to the Mail	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 5: The Working Poor	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 6: A Child Hero	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 7: Don't Be Fooled Again	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 8: The Government Department	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 9: Undercover Marketing	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 10: A Healthy Diet	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 11: Anger around the World	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	Unit 12: Online Dating	<input type="checkbox"/> フレーズ・リーディングのテーマ別トレーニング (A)
1.5	前期総復習および前期末試験対策	
1.5	前期末試験	
<後期>		
1.5	後期授業ガイダンス & セルフチェック	<input type="checkbox"/> パラグラフの構造を理解する (B)
1.5	Unit 1: What is a Paragraph?	<input type="checkbox"/> 英語でタイトルを書くことができる (C)
1.5	Unit 2: The Topic Sentence	<input type="checkbox"/> メイントピックとサポーティング・センテンスが書ける (B) (C)
1.5	Unit 3: Supporting Sentences	<input type="checkbox"/> パラグラフ・ライティングの構造を理解できる (A) (B)
1.5	Unit 4: Time Order	<input type="checkbox"/> パラグラフ・ライティングの構造を理解できる (A) (B)
1.5	Unit 5: Space Order	<input type="checkbox"/> パラグラフ・ライティングの構造を理解し、自分なりのパラグラフが書ける (A) (B) (C)
1.5	Unit 6: Process and Direction	<input type="checkbox"/> パラグラフ・ライティングの構造を理解し、自分なりのパラグラフが書ける (A) (B) (C)
1.5	Unit 7: Cause and Effect	<input type="checkbox"/> 接続詞や前置詞句を使って、因果関係を英語で表現できる (B)
1.5	Unit 8: Examples	<input type="checkbox"/> 具体例を見つけ、英語で書き表すことができる (B)
1.5	Unit 9: Definition	<input type="checkbox"/> 自分なりの定義を英語で書き表すことができる (C)
1.5	Unit 10: Comparison and Contrast	<input type="checkbox"/> 対比関係を、つなぎ語(transition words)で表現できる (B)
6	エッセイライティング指導、フィードバック	<input type="checkbox"/> 正しいルールでエッセイを書くことができる (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
生産システム特論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Seminar on the Production System	必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
加藤 雅彦	電気工学科・教授	214	金曜日以外	kato-m
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	火曜日以外	yonemori
その他 9名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-3		(d)(1) (d)(3) (i)
授業概要	専攻科所属教員による各専門分野の生産システム工学への適用について、オムニバス形式の講義を実施する。			
到達目標	A. 生産システム工学について理解することができる。 B. 各テーマの基本的な内容を理解でき、広い視野で検討することができる。 C. レポートを通じて与えられたテーマについて報告ができる。			
授業方法	各専門分野の教員が毎回交代で講義する。各教員は講義の際に課題を与え、その中から一つを選択してレポートを提出する。			
教科書	必要に応じて各担当教員から資料が配布される。			
補助教材	なし			
評価方法	レポートの点数で評価する。 講義されたテーマの中から一つを選び、その担当教員が示した課題についてレポートを提出する。 評価基準等の詳細については、各担当教員より示される。 ※レポートは1000~2000字(用紙はA4)とする。参考・引用文献を必ず明記すること。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	講義内容の範囲が広いので、特に興味を持ったテーマについてはあらかじめ基礎学習をしておくこと。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	1. ガイダンス	<input type="checkbox"/> 生産システム工学の基礎を理解できる(A)
1.5	2. 講義(1)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	3. 講義(2)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	4. 講義(3)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	5. 講義(4)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	6. 講義(5)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	7. 講義(6)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	8. 講義(7)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	9. 講義(8)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	10. 講義(9)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	11. 講義(10)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	12. 講義(11)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	13. 講義(12)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	14. 講義(13)	<input type="checkbox"/> ※
1.5	15. 講義(14)	<input type="checkbox"/> ※
	レポート提出	<input type="checkbox"/> 適切な報告書の作成ができる(B, C)。
	開講テーマ例	※講義を経て、各テーマの基本的な内容を理解し、またこれらについて考えることができる(A, B)。
	「エネルギー多消費社会とその問題」	
	「弦模型はいかにして登場したか? - Dirac monopole の場合-」	
	「Human Computer Interactionのこれまでとこれから」	
	「The Economics of Traffic Congestion - グラフ理論の応用」	
	「コンピュータでの計算と数式処理」	
	「複合材料の歴史と応用例」	
	「電磁波制御について」	
	「高速高精度計測とデジタルフィルタ」	
	「位置情報システムの概要とその応用」	
	「セラミックス蛍光体の合成と発光メカニズム」	
	「スペクトル解析について」	
	「電磁誘導加熱の概要とその応用」	
	「医療における非侵襲診断の重要性と問題点」	
	「生物に学ぶシステムと制御」	など
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
論文講読 I	AC:専攻科	1年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Technical Documents 1	必修	講義	演習	実験・実習
0	22.5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-1		C-1		(f)
授業概要	文章表現法、科学・技術論文の構成法及び論文の講読法について、演習を通じて講義する。			
到達目標	<p>A. 適切な文章表現の方法を理解する</p> <p>B. 学術論文の作成方法の基礎を理解する</p> <p>C. 学術論文を読み、その内容を要約できる</p> <p>D. プレゼンテーションの基本技法を理解する</p>			
授業方法	各単元について、隔週で座学と演習を実施する。後半には実際の学術論文の解説をプレゼンテーション形式で実施する。			
教科書	理工系学生のための日本語表現法〔第3版〕森下 稔編集代表 大岡紀理子・谷口利律・鴨川明子編 東信堂			
補助教材	適宜配布する。			
評価方法	<p>評価項目は以下の3つである。</p> <p>①最終課題レポートの評価点 (100点法で評価)</p> <p>評価項目：原則に基づいた文章表現を用いた文章を作成できているか</p> <p>②授業時に課す演習課題の評価の平均点 (各課題100点満点で評価)</p> <p>評価項目：各単元のチェックポイントに注意して課題が作成できているか</p> <p>③グループ発表の評価点 (100点法で評価)</p> <p>評価項目：論文の要約が適切に行われているか、発表時間が守れているか、担当者の分担は適切か</p> <p>総合評価の算出方法は、 総合評価 = (①×50%+②×30%+③×20%) とする。</p>			
関連科目	論文講読 II			
準備学習に関するアドバイス	自習時間として11.25時間を本講義の予習復習に充てること			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業内容及び評価方法説明
3	わかりやすい文章表現法	<input type="checkbox"/> 非文・悪文・話し言葉をなくす (A, B)
3	文章の要約法	<input type="checkbox"/> 文章を要約する (A, C)
3	手順の説明	<input type="checkbox"/> 手順書や説明書の作成 (A, B)
3	データの説明	<input type="checkbox"/> データの読み取りとその表現 (A, B)
3	主張文	<input type="checkbox"/> 自分の主張を的確に表現する (A, B)
1.5	引用のルール	<input type="checkbox"/> 注と文献リストの作り方 (B)
3	学術論文講読	<input type="checkbox"/> 学術論文を読み、その解説をプレゼンする (A, C, D)
1.5	学習指導期間	<input type="checkbox"/> 最終課題レポートの提出と講評 (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
論文講読 II	AC:専攻科	1年	半期	1
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Technical Documents 2	必修	0	22.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日を除く	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-3 AC-5		B-3 C-3		(d) (1) (d) (3) (f) (i)
授業概要	最先端の研究論文を読み、その研究成果について理解し、その価値を評価する訓練を行う。本講義の到達目標は、研究論文の書き方の作法をマスターし、特別研究論文の書き方に生かすことにある。			
到達目標	A. 学術論文の書き方や作法について説明できる B. 辞書を使用し英語で書かれた技術論文を読み、理解することができる C. 技術論文を読みこなし、最先端の研究成果について理解し、説明することができる			
授業方法	事前に課題論文を学生に与え、演習時に学生は論文の内容について理解したことを発表する。他の学生や先生からの質問に、著者に成り代わり回答することで、論文講読を通して最先端の研究成果に触れる。			
教科書	なし			
補助教材	配付資料及び学術論文			
評価方法	レポートと最終発表により評価する ①レポート (30%) レポートの平均点100点 ②最終発表 (70%) 発表用レジュメ 50点 (質と量の両方を加味) + 発表 50点 (発表内容、理解度、質疑応答、態度など) 評価点 = ①の点数 × 0.3 + ②の点数 × 0.7			
関連科目	論文講読 I			
準備学習に関するアドバイス	事前に論文に書かれている英単語・英熟語の意味や構文、文法等を調べたうえで講義に臨むこと。自習時間として11.25時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
3	学術論文の書き方	<input type="checkbox"/> 論文の書き方や作法を理解し、特別研究に適用 (A)
12	英語技術論文講読の実践	<input type="checkbox"/> 英語で書かれた技術論文の読み方 (B) <input type="checkbox"/> 論文に書かれていた研究成果についての理解 (B)
6	選択した論文の研究成果の発表・質疑応答	<input type="checkbox"/> 課題論文について研究成果を理解 (C) <input type="checkbox"/> 研究成果について根拠をもって評価 (C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
専攻演習 I	AC:専攻科	1年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Engineering Design 1	必修	0	22.5	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
富田 雅史	機械電子工学科・准教授	303	金曜日以外の平日	tomita
雑賀 高	専攻科・非常勤講師	206	水曜日のみ	t-saika
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-3 D-1 D-2		(d) (1) (d) (3) (d) (4) (e) (h) (i)
授業概要	エンジニアリングデザイン、すなわち、専門に限らず幅広い知識を集約し、現実的な制約条件を満たしながら持続的な創造的活動を行うために必要な力を身につける。専攻演習 I では、対象の問題を明確にするための学習を行い、専攻演習 II の学習内容につなげる。授業形態は座学とワークショップを行う。			
到達目標	<p>A. 対象のあるべき姿と現状を明確にすることができる（「問題」を明確にすることができる）</p> <p>B. 問題抽出に利用できるツールを理解することができる</p> <p>C. 情報収集の方法を理解することができる</p> <p>D. 情報の整理・整頓方法を理解することができる</p> <p>E. 課題を最後までこなすことができる</p> <p>F. 自分と他人の意見を融合し、新たな意見を創造することができる（議論、討論によって新たな解を創造できる）</p>			
授業方法	座学およびワークショップにより教授する。適宜課題を課し提出を求める。			
教科書	必要に応じてプリントを配布			
補助教材	なし			
評価方法	<p>試験と課題（演習成果）により評価する。</p> <p>評価 = 試験素点 (50%) + 課題点 (50%)</p> <p>課題点はワークショップごとに提示する評価観点にもとづき成果物の内容、演習の参加度を複数の担当教員によって評価し採点する。なお、課題が未提出の場合不合格となる。</p> <p>必要に応じて補講や再試験を行なうことがある</p>			
関連科目	専攻演習 II			
準備学習に関するアドバイス	座学と実習を組み合わせた授業であるので、座学で理解しにくい内容は実習で体験的に理解するように心掛けること。すなわち、積極的な活動を望む。また、VEリーダーの受験にも是非チャレンジすべし。実習時間として11.25時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
6	データと情報 ・問題	<input type="checkbox"/> 問題の定義 <input type="checkbox"/> 回復問題と向上問題
	・問題と情報	<input type="checkbox"/> 情報とは <input type="checkbox"/> 情報収集の原則 <input type="checkbox"/> データから情報を得る <input type="checkbox"/> あるべき姿と現状の明確化(A, F) <input type="checkbox"/> ワークショップ：向上問題解決のための未来予想(A, F)
9	情報の見える化 ・マッピングによる見える化	<input type="checkbox"/> SWOT分析(B, F)
	・QC活動におけるデータ分析	<input type="checkbox"/> QC七つ道具(B) <input type="checkbox"/> 新QC七つ道具(B)
6	デザインに至るまでの構想 ・問題発見のための情報収集	<input type="checkbox"/> 問題解決における情報収集の主な目的(A, C) <input type="checkbox"/> ワークショップ：問題の見える化(B, E, F) <input type="checkbox"/> ワークショップ：情報の収集(C, E, F) <input type="checkbox"/> ワークショップ：情報の整理(D, E, F) <input type="checkbox"/> ワークショップ：情報の整頓(D, E, F)
	・課題の設定	<input type="checkbox"/> 問題から課題を設定する(A, B, E, F) <input type="checkbox"/> ワークショップ：課題の明文化(E, F)
1.5	試験	
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
専攻演習Ⅱ	AC:専攻科	1年	半期	1
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Engineering Design 2	必修	講義	演習	実験・実習
0	22.5	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
森 幸男	機械電子工学科・教授	202・303	金曜日以外	mori
雑賀 高	専攻科・非常勤講師	209	水曜日のみ	t-saika
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-2		B-3 D-1 D-2		(d) (1) (d) (3) (d) (4) (e) (h) (i)
授業概要	エンジニアリングデザイン、すなわち、専門に限らず幅広い知識を集約し、現実的な制約条件を満たしながら持続的な創造的活動を行うために必要な力を身につける。専攻演習Ⅰで身につけた力をもとに、機能本位による対象のとらえ方、そして、創造的なエンジニアリング活動に有益な知識を身につける。			
到達目標	<p>A. 対象の機能を定義することができる</p> <p>B. 対象の機能を評価することができる (評価関数を作成することができる)</p> <p>C. 対象の問題に対して代替案が作成できる</p> <p>D. エンジニアリングの常識やビジネスの常識を理解できる</p> <p>E. 課題を最後までこなすことができる</p> <p>F. 自分と他人の意見を融合し、新たな意見を創造することができる (議論、討論によって新たな解を創造できる)</p>			
授業方法	座学およびワークショップにより教授する。適宜課題を課し提出を求める。			
教科書	必要に応じてプリントを配布			
補助教材	日本バリュー・エンジニアリング協会, "VEリーダー認定試験問題集", 産能大出版部, ISBN: 978-4382055391			
評価方法	<p>試験と課題(演習成果)により評価する。</p> <p>評価 = 試験素点(50%) + 課題点(50%)</p> <p>課題点はワークショップごとに提示する評価観点にもとづき成果物の内容、演習の参加度を複数の担当教員によって評価し採点する。なお、課題が未提出の場合不合格となる。</p> <p>必要に応じて補講や再試験を行なうことがある。</p>			
関連科目	専攻演習Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	自習時間として11.25時間を本講義の予習復習に充てること。具体的には補助教材の内容を自学自習すること(専用のノートを作成し、記録を残すこと)。講義と演習の融合科目であり積極的な行動を望む。また、VEリーダーの受験にも是非チャレンジすべし。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
4.5	機能的研究方法による課題解決	<input type="checkbox"/> Value Engineering <input type="checkbox"/> VEの基本ステップ
	機能を定義する ・対象の情報収集	<input type="checkbox"/> 収集すべき情報(A) <input type="checkbox"/> 情報収集の手順(A) <input type="checkbox"/> 問題の本質を明らかにする(A) <input type="checkbox"/> 機能本意で対象をとらえる(A)
	・機能の定義	
	・機能の整理	<input type="checkbox"/> 機能系統図を作成する(A)
3	機能を評価する ・機能別コスト分析	<input type="checkbox"/> 機能の数値化(B) <input type="checkbox"/> コスト・機能・価値の関係(B)
	・機能の評価	<input type="checkbox"/> 価値の定量化(B)
4.5	代替案の作成 ・アイデア発想法	<input type="checkbox"/> アイデア発散(C) <input type="checkbox"/> BS法(C) <input type="checkbox"/> KJ法(C)
	・概略評価	<input type="checkbox"/> アイデアの収束(C) <input type="checkbox"/> アイデアの取捨選択のために評価する(C)
	・具体化	<input type="checkbox"/> アイデアの洗練(C) <input type="checkbox"/> アイデアの具体化(C)
	・詳細評価	<input type="checkbox"/> 代替案として提案するための裏付け作業(C)
3	エンジニアリングの常識、ビジネス常識	<input type="checkbox"/> ものづくりの流れ(D) <input type="checkbox"/> 品質管理システム(D)
6	グループ活動	<input type="checkbox"/> QCサークル(D, E) <input type="checkbox"/> 仕事の進め方(D, E) <input type="checkbox"/> 会議と合意形成(D, F) <input type="checkbox"/> リーダーシップとチームワーク(D, F)
1.5	試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
専攻実験	AC:専攻科	1年	通年	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Experiments	必修	講義	演習	実験・実習
		0	0	67.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
加藤 雅彦	電気工学科・教授	214	金曜日以外	kato-m
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	火曜日以外	yonemori
その他 9名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2)との対応
AC-2		B-3 B-4 D-3		(d) (1) (d) (2) (d) (3) (g) (i)
授業概要	生産システム工学の実験として、様々な分野の実験を行うことによって、幅広い知識と技術を修得し、システム的にものを考える力を身につける。			
到達目標	A. 各実験の目的にあわせて正しい手順で作業することができる。 B. 実験方法および実験結果を客観的・論理的に説明することができる。 C. 実験結果について客観的・論理的に考察することができる。			
授業方法	専門実験 (全6ブロック) は2班に分かれて実験を行う。第1週は教員A, Bによる実験ガイダンス、第2, 3週に各班は2テーマの実験を実施し、第4週にレポート整理と文献調査を行う。工学物理実験は第1週に実験を行い、第2週にレポート整理と文献調査を実施する。さらに、実施した実験について発表を行う。			
教科書	必要に応じて各担当教員から資料が配布される。			
補助教材	適宜紹介する。			
評価方法	全ての実験テーマについて報告書を提出し、かつ指示されたテーマについて発表していることが評価の前提となる。評価は、報告書を実験テーマ毎に担当教員が採点し単純平均したものを90%、発表内容を審査教員が採点し単純平均したものを10%とする。尚、報告書の提出期日遅刻は-20点まで、欠席は-9点まで全体の評価に加味する(報告書については、1~4日の遅れは-10点、それ以降1日毎に-1点ずつ加算し、2週間を超過した場合は未提出とする。欠席については、1回欠席すると-1点、10回欠席した場合は評価しない)			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	各人の経験と技量により実験時間が異なる。予定に対する進み遅れは自己管理を行い、適時個人実験を行う。実験データは得られた時点で即座に他人とディスカッション出来る形式にまとめるよう心がけること。エンジニアとしての基本素養である。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
2.25	全体ガイダンス	
9	専門実験第1ブロック	
9	専門実験第2ブロック	
9	専門実験第3ブロック	
4.5	工学物理実験①	
9	専門実験第4ブロック	
9	専門実験第5ブロック	
9	専門実験第6ブロック	
4.5	工学物理実験②	
2.25	発表 (1テーマを選んで発表)	<input type="checkbox"/> 選択した実験テーマについて適切に説明することができる (B)
	<専門実験6ブロック12テーマ> ・同期機のパラメータ計測 ・B添加Siインゴットの作製と格子定数の測定 ・分布定数回路の設計演習	<input type="checkbox"/> 同期機を理解し、種々なパラメータを計測できる <input type="checkbox"/> 希望組成のB添加Siをアーク溶解により作製し、X線回折により格子定数を算出できる <input type="checkbox"/> 要求仕様に基づいて仕様を満たす分布定数回路を設計することができる
	・光を用いた半導体材料のエネルギー準位解析 ・アンテナ特性の比較実験 ・パワーエレクトロニクスに関する実験 ・進化計算による探索手法 ・コンピュータでの方程式の実数解の解法 ・インタラクティブデザイン実験	<input type="checkbox"/> 半導体における電子の励起・緩和過程を理解することができる <input type="checkbox"/> 指向性や偏波が異なるアンテナの特性を理解することができる <input type="checkbox"/> パワーエレクトロニクスの動作を理解することができる <input type="checkbox"/> 適切な探索パラメータを設定し探索性能を考察できる <input type="checkbox"/> 数値的解法、代数的解法の違いについて理解できる <input type="checkbox"/> インタラクティブデザインに関する知識と基礎技術を理解することができる
	・フーリエ変換を用いた信号解析 ・フィードバック制御実験 ・各種材料の引張試験	<input type="checkbox"/> 数値解析ソフトを用いて実験に必要なプログラムを作成し、実験結果を理解できる <input type="checkbox"/> フィードバック制御を理解しこれを応用したシステムを設計・製作できる。 <input type="checkbox"/> 各種材料の応力歪線図を作成し、その物理的な意味を理解できる。
	工学物理実験 ①振動論の講義とそれに関する実験 ②物理探査による地下浅部の構造解析	<input type="checkbox"/> 微分方程式を解くことにより、単振動の解析ができる <input type="checkbox"/> 物理探査 (電気探査) の基礎を理解できる
		注意: 到達目標について特に記述のないものはすべて (A, B, C)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5	最終成績: 評価点 [] 点	
時間	評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
特別研究 I	AC:専攻科	1年	通年	4
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Research Works 1	必修	講義	演習	実験・実習
0	0	135		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
島川 陽一	情報工学科・教授	401	火曜日以外	simakawa
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	(火)以外の放課後	yonemori
森 幸男	機械電子工学科・教授	301	金曜日以外	mori
その他 9名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応	JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応		
AC-1 AC-2	B-4 C-2 D-1 D-2 D-3	(d) (2) (d) (4) (e) (f) (g) (h)		
授業概要	学生は指導教員の基で、特定のテーマについて研究を行う。各研究室では個別に設定された授業計画や評価法がある。共通の授業として、中間発表、ポスター発表、特別研究発表会の3つの発表が設けられており、関係教員が評価する。何れの発表においても研究概要を提出してもらう。			
到達目標	<p>A. 研究テーマの内容の理解に必要な基礎を理解することができる(特別研究 I における到達目標)。</p> <p>B. 研究テーマの問題について考えることができる(特別研究 I における到達目標)。</p> <p>C. 文献調査などを行うことができ、報告書を作成することができる(特別研究 I における到達目標)。</p> <p>D. 発表資料を作成でき、発表を行うことができる(特別研究 I における到達目標)。</p> <p>E. 研究成果をまとめ、研究概要を作成することができる(特別研究 I における到達目標)。</p> <p>C-2. 情報の収集と発表、討論(JABEEプログラムの学習教育目標)。</p> <p>D-1. プロダクトマインド(JABEEプログラムの学習教育目標)。</p> <p>D-2. 問題解決ステップ(PDCA)の実行(JABEEプログラムの学習教育目標)。</p> <p>D-3. 他人との協調(JABEEプログラムの学習教育目標)。</p> <p>AC-1. 新知識を作り出す訓練(専攻科の学習教育目標)。</p> <p>AC-2. 創造的研究開発能力(専攻科の学習教育目標)。</p>			
授業方法	各研究室において、教員の指導のもとで研究を行う。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	<p>3回の研究概要の提出(C, E)が評価の前提となる。学内で行われる中間発表、ポスター発表、特別研究発表会(何れもC, D)で(C-2)を評価する。また、指導教員の個別の評価方法で(A, B)について総合的に(AC-1, AC-2, C-2, D-1, D-2, D-3)を評価する。その内訳は以下のとおりとし、6割以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内で行われる中間発表(15%)※1 ・学内で行われるポスター発表(15%)※1 ・特別研究発表会(20%)※1 ・各指導教員の個別の評価(50%)※2 <p>※1 特別研究 II 関係教員の評価(発表後合否を決定する)</p> <p>※2 各指導教員の個別の評価は各指導教員より配布される「個表」を参照されたい。</p>			
関連科目	特別研究 II			
準備学習に関するアドバイス	国内外の学会発表などに積極的に参加し、研究成果を発表することとなる。基礎学習を十分にやっておくようにすること。また、通年で320時間以上の研究を行うことが望ましい(135時間は指導教員のもとで研究を行うこと)。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
135	<p>各研究室において、教員の指導のもとで研究活動を行う。</p> <p>中間発表 ポスター発表 特別研究発表会 特別研究論文の提出</p> <p>研究テーマ例 「電気音響あるいは生体信号を対象とした信号処理工学的解析等に関する研究」 「平常時と災害時を想定した見守り安否確認システムに関する研究」 「再生可能エネルギーを利用した発電システムに関する研究」 「パワーエレクトロニクスへの応用に関する研究」 「熱電変換材料の特性向上と実用化に関する研究」 「電磁波エネルギーの制御と効率的利用に関する研究」 「機能性セラミックスに関する研究」 「衛星測位と無線通信技術の応用に関する研究」 「数理モデルと最適化の応用に関する研究」 「数式処理での演算高速化と計算精度の向上に関する研究」 「フィルタ設計や信号の解析・抽出を目的としたデジタル信号処理に関する研究」 「人間の視知覚特性を利用した画像認識・処理に関する研究」 「ロボット・メカトロニクスにおける生物規範的システム設計学に関する研究」</p>	<p>□与えられた研究テーマの内容を理解し、専門分野の基礎を理解することができる(A)。</p> <p>□各種問題に取り組みそれを解決することができる(B)。</p> <p>□各発表などにおいて、適切な報告書(論文等)を作成することができる(C)。</p> <p>□適切な発表資料を作成し、発表を行うことができる(D)。</p> <p>□研究成果をまとめることができる(E)。</p>
合計 135 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: □優 □良 □可 □不可 (←認定試験結果 □合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
技術史	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
History of Technology	必修	講義	演習	実験・実習
22.5	0	0		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
堤 一郎	専攻科・非常勤講師	209	授業の後	tsutsumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-4		A-4 A-5		(b)
授業概要	キーワードは「技術・歴史・人・眼」です。この講義では日本の古代から現代に至る「技術史」について、重要な内容を順に学びます。さらにさまざまな産業技術遺産についても話題にし、実物や映像も併せて技術者を目指す皆さんの関心を高め、「技術史をみる眼」を持てるよう講義を進めます。			
到達目標	21世紀を担う技術者に必要な A. 「歴史観」を持つことができる。 B. 「技術をみる眼」を持つことができる。 C. 「技術史をみる眼」を習得できる。			
授業方法	シラバスに従って毎週講義を進めますが、新しい技術史上の話題がマスコミなどに取り上げられた場合はそれも講義資料に取り込むこともあります。さらに各時代に生きた技術者の使命と倫理観についても話をします。			
教科書	なし			
補助教材	自作の資料を配付します。			
評価方法	期末試験70%+講義内課題レポート30%で「総合評価」します。			
関連科目	伝統文化特論			
準備学習に関するアドバイス	毎回講義に出席し内容をよく聞き理解することで「技術史をみる眼」が少しずつ養成されます。このためには事前に講義内容について学ぶ内容を調べ、講義終了後は学んだ内容について復習することが大切です。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	1. 授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 「技術史をみる眼」を理解できる。
1.5	2. 原始技術とその事例	<input type="checkbox"/> 古代の鑄造法(貨幣の製造を話題として)を理解できる。
1.5	3. 中国文明の影響	<input type="checkbox"/> 飛鳥石舞台と巨石の運搬について理解できる。
1.5	4. 日本の技術の発生と展開(1)	<input type="checkbox"/> 奈良の大仏建立(巨大構造物と建造物)について理解できる。
1.5	5. 日本の技術の発生と展開(2)	<input type="checkbox"/> 鉄砲伝来(鉄砲とねじの製造)について理解できる。
1.5	6. 江戸時代の技術(1)	<input type="checkbox"/> 砂鉄とたたら製鉄(日本刀用の玉鋼製法)について理解できる。
1.5	7. 江戸時代の技術(2)	<input type="checkbox"/> 和時計と機巧について理解できる。
1.5	8. 江戸時代の技術(3)	<input type="checkbox"/> 和銅の製造について理解できる。
1.5	9. 19世紀までの西洋技術の発達(1)	<input type="checkbox"/> 製粉と水車(ドナウ川の船水車)について理解できる。
1.5	10. 19世紀までの西洋技術の発達(2)	<input type="checkbox"/> 水車とイギリス産業革命について理解できる。
1.5	11. 明治時代の技術(1)	<input type="checkbox"/> 近代化遺産探訪(日本近代化の証)について理解できる。
1.5	12. 明治時代の技術(2)	<input type="checkbox"/> 近代化の旗手、鉄道について理解できる。
1.5	13. 大正・昭和前期時代の技術	<input type="checkbox"/> 東洋初の地下鉄建設について理解できる。
1.5	14. 昭和後期・平成時代の技術	<input type="checkbox"/> 日本の機械技術遺産について理解できる。
1.5	15. 期末試験	何れの講義も(A, B, C)とする。
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電力システム	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Power Systems	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-2 C-2[EE・ME] / B-3 C-2[CS]		(d) (1) (f) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (1) (f) [CS]
授業概要	膨大な量の電気エネルギーを必要とする現代社会において、電力がどのように発電されているのか、また、現代社会が抱えているエネルギー問題や最新の電力技術についてゼミナール形式で学習する。			
到達目標	A. 現代社会の発電方式について理解できる。 B. 新エネルギーについて理解できる。 C. 文献や資料を調査でき、発表資料を作成できる。 D. 資料や発表を用いて、第三者に自らの考えを伝えられる。			
授業方法	発電方法別にテーマを選び、各自、事前に調査し授業内で発表してもらう。発表テーマ数は受講人数により決定する。発表後、質疑応答を通して理解を深める。その後教師による補足説明を行う。発表したテーマ1つを選びレポートを提出する。			
教科書	なし			
補助教材	「エネルギー変換工学 地球温暖化の終焉に向けて。」 柳父悟・西川尚男 (東京電機大学出版局) 等			
評価方法	・発表内容、各発表における質疑応答及び1通のレポートで評価する。レポートは担当となったテーマのうち1つ、もしくは2つを選び、その内容をまとめたものを提出してもらう(レポート形式は自由、すべて手書とし、A4で10ページ以上とする)。レポート(40%)、発表内容(40%)、質疑応答(20%)で評価する※。 ※総合評価=(レポート内容点+発表内容点+(質疑参加回数/(発表授業回数-発表回数)*20)) ・発表は次の項目について評価する(各項目の点数を最大4点とし、2回の発表で合計で40点となる)。 「発表に独創的な工夫が見られる」、「発表資料が単なる資料のコピーではなくまとまっている」、「声が大きく聞き取りやすい」、「台本を読んでいない」、「基本的な質問に対して的確に答えられている」。また、レポートは基本点を40点とし、以下の項目が達成できていない場合は減点とする。「無駄な図表の挿入や必要以上の行、文字間隔が設けられており10ページ以上の内容でない」、「丁寧に書かれていない」、「順序だてて説明されておらず、まとめられていない」、「オリジナルの文章でない」、「引用ばかりで自分の考えが含まれていない」。			
関連科目	エネルギー変換工学			
準備学習に関するアドバイス	電気的な知識に偏ることなく、現代社会の抱えているエネルギー問題について勉強します。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	1. ガイダンス、エネルギー問題について	<input type="checkbox"/> エネルギー問題について理解できる(A, B)。
1.5	2. 担当テーマに関する文献調査	<input type="checkbox"/> 適切な文献調査ができる(C)。
1.5	3. 水力発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	4. 火力発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	5. 原子力発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	6. 燃料電池	<input type="checkbox"/> ※
1.5	7. 風力発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	8. 担当テーマに関する文献調査	<input type="checkbox"/> 適切な文献調査ができる(C)。
1.5	9. 太陽エネルギー発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	10. 海洋エネルギー発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	11. 核融合	<input type="checkbox"/> ※
1.5	12. バイオマス発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	13. 熱電発電	<input type="checkbox"/> ※
1.5	14. 報告書作成と文献調査	<input type="checkbox"/> 適切な文献調査、報告書の作成ができる(C)。
1.5	15. 総括、まとめ	
		※わかりやすく、内容のある発表ができる。また、各内容について質疑や応答を行うことができる(A, B, D)。 発表テーマについてはガイダンスで担当者を定めるため、順番は同シラバスとは異なる。
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
環境電磁工学	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Electromagnetic Compatibility	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-2	B-2[EE・ME] / B-3[CS]	(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (i) [CS]		
授業概要	・電磁ノイズの発生・伝搬のメカニズムとその低減設計の基本、評価方法について説明する。 ・グラウンド、シールドなどのノイズ低減の実験方法について言及し、理解を深める。			
到達目標	A. 電磁ノイズの物理的概念を把握し、ノイズ発生・伝搬のメカニズムが理解できる。 B. 電磁ノイズを考慮したEMC(Electromagnetic Compatibility)設計の基本を理解し、対策のプロセスを立案できる。			
授業方法	座学を主として実施する。授業内容に応じて課題を課した演習や小テストも適宜行う。			
教科書	無線通信工学の基礎と演習 (著者: 吉野、山下、吉田、水谷、斉藤) コロナ社			
補助教材	特になし。			
評価方法	評価点 = 定期試験 70% + 平常点 (演習課題等) 30% なお、授業態度が悪い場合は、平常点から最大10%減点することがある。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	電気・電子系エンジニア、コンピュータエンジニアを目指す学生にとって、本教科は有効に必要な科目となります。興味を持って積極的に取り組むことで、理解が進み応用力も高まるはず。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法について理解できる。
1.5	電子機器の進歩と電磁環境	<input type="checkbox"/> 電子機器の進歩と電磁環境の関係が理解できる。(A)
3	電磁ノイズの物理モデル	<input type="checkbox"/> 電磁ノイズの物理モデルを理解し、性質を把握できる。(A)
	<ノイズの種類>	
0.75	自然ノイズと人工ノイズ	<input type="checkbox"/> ノイズにはどのようなものがあるか種類が理解できる。(A)
1.5	熱雑音	<input type="checkbox"/> 熱雑音の発生が理解できる。(A) (B)
1.5	静電気放電、負荷スイッチング	<input type="checkbox"/> 放電、スイッチングによるノイズ発生が理解できる。(A) (B)
1.5	デジタル回路	<input type="checkbox"/> デジタル回路からのノイズの発生が理解できる。(A) (B)
	<ノイズの伝わり方>	
1.5	導体の伝搬と空間の伝搬	<input type="checkbox"/> ノイズが導体や空中を伝搬することを理解できる。(A) (B)
	<グラウンドとシールド>	
3	グラウンドの基本と設計法	<input type="checkbox"/> グラウンドの基本と設計法が理解できる。(B)
3	シールドの基本と設計法	<input type="checkbox"/> シールドの基本と設計法が理解できる。(B)
	<シグナルインテグリティ>	
1.5	シグナルインテグリティの基本と設計法	<input type="checkbox"/> シグナルインテグリティの基本が理解できる。(B)
	<フィルタ、ケーブル>	
1.5	フィルタ、ケーブルの使い方	<input type="checkbox"/> ノイズに対するフィルタ、ケーブルの使い方が理解できる。(B)
1.5	定期試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→ 認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	
時間		

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計測特論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Seminar of measurement	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 慧一郎	電気工学科・助教	218	水曜日以外	k-yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-1		B-2		(d) (1)
授業概要	工学的な計測の意味と意義を明らかにするとともに、研究事例を通して計測技術の応用を学ぶ			
到達目標	<p>講義を通して、様々な分野の計測技術を学び、技術者として様々な問題に対しての対応力を身に付けることができる。</p> <p>A. 単位について理解することができる</p> <p>B. 測定とは何か理解することができる</p> <p>C. 誤差について理解し、対処方法を選ぶことができる</p> <p>D. 精度について理解し、計測対象に応じて取捨選択ができる</p> <p>E. センサについて理解することができる</p> <p>F. 可視化手法について学び、計測対象に対して手法を選別できる</p>			
授業方法	座学を主体とする。前半は計測の基礎を学び、後半は研究に应用されている計測技術を学ぶ。			
教科書	使用しない			
補助教材	なし			
評価方法	学期末最終の試験でのみ評価する			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	様々な分野に興味を持ち、論文を読んでほしい。 また、自習時間として45時間を本講義の予習時間に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明、ガイダンスを行う。(A)
3	計測の基礎	<input type="checkbox"/> 単位、測定の基本手法について学ぶ(B)
3	計測データとその処理	<input type="checkbox"/> 測定誤差、精度、処理について学ぶ(C, D)
3	信号変換の方式とセンサについて	<input type="checkbox"/> 機械センサ、電気電子センサなどについて学ぶ(E)
10.5	計測技術の開発と応用	<input type="checkbox"/> 可視化情報計測、速度計測などについて学ぶ(F)
1.5	試験	<input type="checkbox"/> 半年のまとめの試験を行う。
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
電気電子回路特論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Electric and Electronic Circuits	選択必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	放課後	yonemori
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-2[EE・ME] / B-3[CS]		(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (1) [CS]
授業概要	半導体、増幅回路、発振回路、三相交流、回路網、過渡現象の基礎から講義し、演習を通じて理解を深める。			
到達目標	A. バイアス回路を理解できる。 B. 増幅回路を理解できる。 C. 発振回路を理解できる。 D. 三相交流を理解できる。 E. 四端子網を理解できる。 F. 過渡現象を理解できる。			
授業方法	座学を主体として講義を進める。授業中適宜演習問題を出題し、レポートで提出を求める場合と黒板へ出て解いてもらう場合の2通りある。講義の一部はディスカッション方式で学生と対話しながら講義を進める場合もある。			
教科書	電子工学の基礎 吉野純一著、続電気回路の基礎と演習 吉野純一編著(株)コロナ社			
補助教材	なし			
評価方法	中間試験(40%)、期末試験(40%)、課題・レポート(20%)で評価する。			
関連科目	分布定数回路特論			
準備学習に関するアドバイス	提出物は必ず所定の様式で期日を厳守して提出すること。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法、本授業の達成目標を理解する。
1.5	半導体(1)	<input type="checkbox"/> 半導体の種類と性質が理解できる。(A)
1.5	半導体(2)	<input type="checkbox"/> 各種電子素子の種類と役割が理解できる。(A)
1.5	増幅回路の基礎(1)	<input type="checkbox"/> 増幅回路の種類と増幅回路を理解できる。(A, B)
1.5	増幅回路の基礎(2)	<input type="checkbox"/> hパラメータや等価回路が理解できる。(A, B)
1.5	増幅回路(1)	<input type="checkbox"/> バイアス回路と負荷線が理解できる。(A, B)
1.5	増幅回路(2)	<input type="checkbox"/> 各種増幅回路の動作、発振回路の動作が理解できる。(B, C)
1.5	三相交流(1)	<input type="checkbox"/> 三相交流の性質が理解できる。(D)
1.5	三相交流(2)	<input type="checkbox"/> 三相交流電力が理解できる。(D)
1.5	回路網に関する定理	<input type="checkbox"/> 各種回路網に関する定理が理解できる。(D)
1.5	四端子網	<input type="checkbox"/> 四端子網の定義が理解できる。(E)
1.5	過渡現象(1)	<input type="checkbox"/> 過渡現象がどのようなものか理解できる。(F)
1.5	過渡現象(2)	<input type="checkbox"/> 過渡現象で流れる電流の計算法が理解できる。(F)
3	試験(2回)	<input type="checkbox"/> 中間試験、定期試験
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
パワーエレクトロニクス特論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Seminar on Power Electronics	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	放課後	yonemori
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-1		B-2[EE・ME] / B-3[CS]		(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (1) [CS]
授業概要	パワーエレクトロニクスは、電力の発生・輸送・伝達・貯蔵等を有効に行うための重要な技術である。本講義では、パワーエレクトロニクスの基礎から応用までの広範囲にわたる内容を扱う。			
到達目標	A. パワーエレクトロニクスの基礎がわかる。 B. 電力用半導体素子がわかる。 C. パワースイッチング回路がわかる。 D. 電力変換回路がわかる。 E. 電力制御方法がわかる。 F. パワエレの応用分野を説明できる。			
授業方法	座学を中心に講義を進める。補助教材として適宜プリントを配布する。また、必要に応じて物理現象のデモンストレーションやビデオ等を活用して体感的に理解を深める。また、各自が調査したパワエレ分野の発表を1人1回行う。			
教科書	特になし。			
補助教材	パワエレ関連の教科書等。			
評価方法	評価方法は、試験(80%)+課題・レポート(10%)+発表(10%)とする。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	パワーエレクトロニクスは、世の中を支える重要技術なのでしっかり学んで欲しい。また、様々な分野の複合技術なので関連科目の予習・復習を行って欲しい。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	総合ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間スケジュールを理解できる。
0.75	パワーエレクトロニクスの定義	<input type="checkbox"/> パワーエレクトロニクスの定義を理解できる。(A)
1.5	電力用半導体素子	<input type="checkbox"/> ダイオード、サイリスタ、パワートランジスタ、パワーMOS-FET、IGBTが説明できる。(B)
1.5	パワースイッチング回路	<input type="checkbox"/> スイッチング損失、ハードスイッチング、ソフトスイッチング、スナバ回路、フライホイールダイオードが説明できる。(C)
1.5	電力変換回路Ⅰ: AC-DC変換	<input type="checkbox"/> 半波整流回路、コンデンサ入力型・チョーク入力型全波整流回路が説明できる。
1.5	電力変換回路Ⅱ: DC-AC変換	<input type="checkbox"/> 逆変換(インバータ)回路が説明できる。(D)
1.5	電力変換回路Ⅲ: DC-DC変換	<input type="checkbox"/> 直流チョップ、絶縁型変換回路が説明できる。(D)
1.5	電力変換回路Ⅳ: AC-AC変換	<input type="checkbox"/> 間接形変換回路、直接形変換回路が説明できる。(D)
1.5	電力制御方法	<input type="checkbox"/> PWM、PDM、PAM、PFMが説明できる。(E)
1.5	パワエレの応用Ⅰ: 蓄電	<input type="checkbox"/> 蓄電池、電気二重層キャパシタが説明できる。(F)
1.5	パワエレの応用Ⅱ: 太陽光発電	<input type="checkbox"/> 太陽光発電、MPPTが説明できる。(F)
1.5	パワエレの応用Ⅲ: 誘導加熱Ⅰ	<input type="checkbox"/> 電磁誘導加熱の原理が説明できる。(F)
1.5	パワエレの応用Ⅳ: 誘導加熱Ⅱ	<input type="checkbox"/> オールメタル加熱の原理が説明できる。(F)
1.5	発表Ⅰ	<input type="checkbox"/> 各自が調査したパワエレ分野の発表を行うことができる。(A, B, C, D, E, F)
1.5	定期試験	<input type="checkbox"/> 区間における理解の確認ができる。(A, B, C, D, E, F)
0.75	試験解答	<input type="checkbox"/> 区間における理解不足箇所を把握し、補充できる。(A, B, C, D, E, F)
0.75	発表Ⅱ	<input type="checkbox"/> 各自が調査したパワエレ分野の発表を行うことができる。(A, B, C, D, E, F)
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数値解析	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Numerical Analysis	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大墨 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-1		B-1 B-2[CS] / B-1 B-3[EE・ME]		(a) (d) (1) (CS) / (c) (d) (1) (d) (3) (1) [EE・ME]
授業概要	数値解析は、自然科学および工学のあらゆる分野で応用されている、情報科学の中でも重要な分野である。本講義では、数値解析における基本的概念から微分方程式、積分、非線型方程式の数値的解法と解の解析について講義する。講義では具体的な問題をあげながら出来る限り理解しやすいように授業を構成する。			
到達目標	A. 誤差の概念が理解でき、そのメカニズムが説明できる B. 微分方程式の数値的解法を理解し、代表的なアルゴリズムを用いて計算を行うことができる C. 積分の数値的解法を理解し、代表的なアルゴリズムを用いて計算を行うことができる D. 線形・非線型方程式の数値的解法を理解し、代表的なアルゴリズムを用いて計算を行うことができる E. データ補間の概念、アルゴリズムを理解し、計算を行うことができる			
授業方法	講義形式で行う。適宜、課題レポートの提出を求める。			
教科書	なし			
補助教材	数値解析 E. クライツィグ著 田村義保訳 培風館、数値計算基礎 田中敏幸著 コロナ社			
評価方法	・ 期末試験と、レポートによって評価する。割合はレポート30%、試験70%で評価。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス	授業計画・評価方法
1.5	数の表現と誤差	<input type="checkbox"/> 桁落ち・丸め・打ち切り誤差、浮動小数点(A)
1.5	線型方程式の解法	<input type="checkbox"/> ガウスの消去法、ガウス・ザイデル法、LU分解(D)
3	積分の解法	<input type="checkbox"/> 台形則、シンプソン則(C)
3	常微分方程式の解法	<input type="checkbox"/> 一階微分方程式の解法(オイラー法、改良オイラー法、ルンゲ・クッタ法)(B)
3	偏微分方程式の解法	<input type="checkbox"/> 差分(B)
3	非線型方程式の解法	<input type="checkbox"/> ニュートン法、二分法、セカント法、はさみうち法(D)
3	データ解析と補間	<input type="checkbox"/> 線形補間、ラグランジュ補間、最小二乗法(E)
1.5	期末試験	
1.5	試験解説、総まとめ、個別指導	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報数学	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Math for Informatics	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大壘 礼子	情報工学科・准教授	404	裁量日以外	n-osumi
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
AC-1		B-1 B-2[CS] / B-1 B-3[EE・ME]	(a) (d) (1) (CS) / (c) (d) (1) (d) (3) (1) [EE・ME]	
授業概要	本講義ではコンピュータを用いて情報の高速高品質処理を行うためのアルゴリズムデザインおよびインターネットを介して高速かつ安全に通信を行うためのネットワークセキュリティの基礎となる情報数学を系統的に講義する。講義では具体的な問題をあげながら出来る限り理解しやすいように授業を構成する。			
到達目標	A. 数学において命題を表現する方法を理解し、証明手法を使って簡単な証明ができる B. 集合の概念および集合演算の方法を理解できる C. 最大公約数を求めるアルゴリズムを理解できる D. 代数系の基礎を理解できる E. 包除原理を用いた数え上げの方法を理解できる			
授業方法	講義形式で行う。適宜、課題レポートの提出を求める。			
教科書	なし			
補助教材	基礎 情報数学 横森貴・小林聡共著、サイエンス社			
評価方法	・ 期末試験と、レポートによって評価する。割合はレポート30%、試験70%で評価。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	授業ガイダンス	授業計画・評価方法
3.5	論理	<input type="checkbox"/> 命題と論理記号 (A) <input type="checkbox"/> 述語と限定記号 (A) <input type="checkbox"/> 証明 (A)
4.5	集合と関係	<input type="checkbox"/> 集合の表現、集合演算 (B) <input type="checkbox"/> 関数の性質、集合の濃度 (B) <input type="checkbox"/> n項関係、同値関係、順序関係 (B)
5	代数系	<input type="checkbox"/> 整数の性質 (C) <input type="checkbox"/> 半群と群 (D) <input type="checkbox"/> 環と体 (D)
5	組み合わせ数学	<input type="checkbox"/> 数え上げの基礎 (E) <input type="checkbox"/> 包除原理 (E) <input type="checkbox"/> 鳩の巣原理 (E) <input type="checkbox"/> 2項係数 (E) <input type="checkbox"/> スターリング数、カタラン数 (E)
1.5	期末試験	
1.5	試験解説、総まとめ、個別指導	
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用プログラミング	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Applied Programming	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9:00-17:00	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
AC-2		B-2	(d) (1)	
授業概要	MATLABを用いた数値計算や行列演算の方法および組み込み関数や繰り返し・条件分岐を用いたプログラミング方法を学び、実際にプログラムを作成する			
到達目標	A. MATLABを使った数値計算の方法を理解し、方程式の解を求めることができる B. MATLABにおける行列の扱い方を理解し、行列および行列要素の演算を行うことができる C. MATLAB上で繰り返しや条件分岐を用いたプログラムを作成することができる D. 組み込み関数を使ったプログラミングができる E. ファイルの入出力の方法を理解し、プログラミングできる			
授業方法	MATLABでの処理概要の説明後、実際にプログラムを作成することにより処理方法の理解を深める。また、授業中に出す課題（プログラム作成）を行い、コードおよび処理結果を提出してもらう。			
教科書				
補助教材	MATLABプログラミング入門（改訂版）上坂吉則、牧野書店			
評価方法	授業中に出す課題（プログラム作成）に対し、コードと処理結果からなるレポートに基づき評価を行う。レポート課題の評価基準は以下の通りとする。 ・ 課題で問われている内容がコードに反映されていること（60%） ・ 処理結果が正しく出力されていること（40%）			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
0.75	授業ガイダンス	
0.75	MATLABの基本的操作	<input type="checkbox"/> MATLABの起動・終了方法や画面構成が理解できる (A)
3	数値計算の基礎	<input type="checkbox"/> 数値計算の方法を理解し、二次方程式の解を求めることができる (A) <input type="checkbox"/> 組み込み関数を使った計算を行うことができる (A) <input type="checkbox"/> 逆行列を用いて一次方程式の解を求めることができる (A)
6	行列演算の基礎	<input type="checkbox"/> 行列の作成方法が理解できる (B) <input type="checkbox"/> 組み込み関数を用いて行列を作成することができる (B) <input type="checkbox"/> 行列および行列要素の加減乗除の計算を行うことができる (B) <input type="checkbox"/> 行列の論理演算や行列要素の抽出・追加などの処理を行うことができる (B)
6	プログラミングの基礎	<input type="checkbox"/> 繰り返し処理を入れたプログラムを作成することができる (C) <input type="checkbox"/> 条件分岐のあるプログラムを作成することができる (C)
6	プログラミングの応用	<input type="checkbox"/> 組み込み関数を使ったプログラムを作成することができる (D) <input type="checkbox"/> ファイルの入出力方法を理解し、プログラミングできる (E)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
情報ネットワーク特論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Seminar on Information Networks	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
清水 哲也	情報工学科・講師	403	火曜日以外	shimizu
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-1 AC-2		B-2		(d) (1)
授業概要	情報理論についても触れ、現在の情報科学の基礎となる部分の理解を深める。			
到達目標	A. 情報量とエントロピーを理解し、計算できる。 B. 情報源符号化を説明できる。 C. 通信路符号化を説明できる。 D. 種々の符号について特徴を理解し、簡単な例で符号化・復号できる。			
授業方法	講義を主体とした座学形式で行う			
教科書	なし (必要に応じてプリント配布)			
補助教材	情報理論や符号理論関連図書			
評価方法	期末試験 100%で評価を行う。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	数学的基礎知識と情報理論に関する基礎知識があることが望ましい。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	イントロダクション	<input type="checkbox"/> 授業概要、達成目標、評価方法
1.5	確率論	<input type="checkbox"/> 確率空間とその性質 (A)
1.5	情報量とエントロピー	<input type="checkbox"/> ベイズの定理、マルコフ過程 (A) <input type="checkbox"/> 情報量、エントロピー、相互情報量 (A)
1.5	情報源符号化	<input type="checkbox"/> 情報源圧縮システム (B) <input type="checkbox"/> シャンノン符号 (B)
1.5	各種の情報源符号化	<input type="checkbox"/> シャンノンファノ符号、ハフマン符号、ランレングス符号 (B)
3	通信路と相互情報量	<input type="checkbox"/> 通信路、相互情報量、通信路容量 (A, C)
3	通信路符号化定理	<input type="checkbox"/> 通信路符号化定理 (C)
3	誤り検出符号と誤り訂正符号	<input type="checkbox"/> 誤り検出符号、誤り訂正符号 (D)
4.5	実用的な誤り訂正符号	<input type="checkbox"/> LDPC符号、畳み込み符号とビタビ復号、ターボ符号と繰り返し復号 (D)
1.5	期末試験	
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
バイオメカニクス	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Biomechanics	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期水以外/後期木以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
AC-2 AC-4		B-2	(d) (1)	
授業概要	動物の運動メカニズムに関する生物学的・工学的な知見を紹介しながら、バイオメカニクスの基本的な概念について講義する。また、福祉・リハビリテーション工学へのバイオメカニクスの応用についても議論する。			
到達目標	A. バイオメカニクスにおける基本的な概念を学習する。 B. 様々な分野で活かされているバイオメカニクスについて学び、見識を深めることができる			
授業方法	座学を主体として、必要がある場合にはプリントを配布し、講義を進める。学生の理解度を確認しながら講義を進める。			
教科書	使用しない			
補助教材	授業中に配布するプリント			
評価方法	100%試験で評価する			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	日ごろから、福祉、リハビリテーション、高齢者社会、老化などに興味を持ち、新聞、テレビ、ラジオ等のそのような記事に関心を持っていただきたい。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス [動物のバイオメカニクス]	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、評価方法の説明、ガイダンスを行う。
1.5	筋肉	<input type="checkbox"/> 筋肉の構造、運動メカニズムを理解できる (A)
1.5	歩行と走行	<input type="checkbox"/> 動物の歩行と走行を焦点に運動とエネルギー効率の関係について理解できる (A)
1.5	登攀・跳躍・這行	<input type="checkbox"/> 登攀・跳躍・這行を可能にする身体構造を知り理解できる (A)
1.5	滑空	<input type="checkbox"/> 滑空を可能にする身体構造を知りそのメカニズムを理解できる (A)
1.5	羽ばたき飛行	<input type="checkbox"/> 飛行を可能にする身体構造を知りそのメカニズムを理解できる (A)
1.5	浮揚	<input type="checkbox"/> 浮揚を可能にする身体構造を知りそのメカニズムを理解できる (A)
1.5	遊泳	<input type="checkbox"/> 遊泳を可能にする身体構造を知りそのメカニズムを理解できる (A)
1.5	小型動物の運動 [バイオメカニクスと応用技術]	<input type="checkbox"/> ミクروسケールでの運動実現のための身体構造を知りそのメカニズムを理解できる (A)
1.5	バイオメカニクスにおける測定技術	<input type="checkbox"/> バイオメカニクスに関連する測定技術を理解できる (B)
3	バイオメカニクスとロボット工学	<input type="checkbox"/> ロボット工学における応用事例を知り今後の発展性を議論できる (B)
3	バイオメカニクスと福祉・リハビリテーション	<input type="checkbox"/> 福祉・リハビリ工学における応用事例を知り今後の発展性を議論できる (B)
1.5	試験	
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
構造材料	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Structural Materials	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-2		(d) (1)
授業概要	材料の基本的な力学的挙動を知っておくことは、技術者にとって必要不可欠である。初めに一般的な金属材料について力学的挙動のメカニズムを学び、次にセラミックス、ガラス、ポリマーなどの非金属材料について金属材料と比較しながら学ぶ。			
到達目標	<p>A. 金属材料の機械的性質について理解することができる。</p> <p>B. セラミックス、ガラス、ポリマーの機械的性質について理解することができる。</p> <p>C. 力学的挙動のメカニズムを理解することができる。</p>			
授業方法	輪講形式で行う。適宜担当教員より説明を加える。発表者は担当部分のレポートを提出する。			
教科書	J. F. Shackelford: Introduction to Materials Science for Engineers, (Prentice-Hall, Inc., 2000), chapter 6.			
補助教材				
評価方法	発表担当部分のレポート50%、発表内容50%とする。授業への参加度がよくない場合は欠席1回につき3点減点する。レポートは、法則やメカニズムについて原理や根拠が正確に記述されているかどうかを中心に評価する。発表内容は、発表者に対して適宜質問を行うことによって、理解度を中心に評価を行う。			
関連科目	機能材料			
準備学習に関するアドバイス	積極的に討議できるように予習しておくこと。Mechanical Behaviorの学習が早く終わった場合は、それ以外の内容についても適宜取り上げていく予定である。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	Elastic Deformation (弾性変形)	<input type="checkbox"/> stress-versus-strain curve (応力-ひずみ曲線), Hooke's law (フックの法則), Young's modulus (ヤング率) について理解できる。(A)
1.5	Plastic Deformation I (塑性変形 I)	<input type="checkbox"/> yield strength (降伏強度), tensile strength (引張強度), strain-hardening exponent (ひずみ硬化指数), ductility (延性) について理解できる。(A)
1.5	Plastic Deformation II (塑性変形 II)	<input type="checkbox"/> toughness (靱性), upper and lower yield point for low carbon steels (低炭素鋼における上および下降伏点) について理解できる。(A)
1.5	Lateral strain and shear deformation (横ひずみとせん断変形)	<input type="checkbox"/> Poisson's ratio (ポアソン比), shear stress (せん断応力), shear strain (せん断ひずみ), shear modulus (せん断弾性係数、剛性率) について理解できる。(A)
1.5	Ceramics and Glasses (セラミックスとガラス)	<input type="checkbox"/> brittle fracture (脆性破壊), flexural strength (曲げ強度), stress concentration (応力集中) について理解できる。(B)
1.5	Polymers (ポリマー)	<input type="checkbox"/> flexural strength (曲げ強度), flexural modulus (曲げ弾性係数), dynamic modulus of elasticity (動的弾性係数) について理解できる。(B)
1.5	Mechanism of Elastic Deformation (弾性変形の機構)	<input type="checkbox"/> bonding force-atom separation curve (結合力-原子間距離曲線) について理解できる。(C)
1.5	Mechanism of Plastic Deformation I (塑性変形の機構 I)	<input type="checkbox"/> critical shear stress (臨界せん断応力), dislocation (転位), slip system (すべり系), slip plane (すべり面) について理解できる。(C)
1.5	Mechanism of Plastic Deformation II (塑性変形の機構 II)	<input type="checkbox"/> resolved shear stress (分解せん断応力), critical resolved shear stress (臨界分解せん断応力) について理解できる。(C)
1.5	Hardness (硬さ)	<input type="checkbox"/> hardness test (硬さ試験), Rockwell, Brinell and Vickers hardness (ロックウェル硬さ、ブリネル硬さ、ヴィッカース硬さ), Knoop microhardness (ヌーブ微小硬さ) について理解できる。(A, B)
1.5	Creep (クリープ)	<input type="checkbox"/> creep curve (クリープ曲線), creep rupture (クリープ破壊), creep strength (クリープ強度) について理解できる。(A, B, C)
1.5	Stress Relaxation (応力緩和)	<input type="checkbox"/> relaxation time (緩和時間), activation energy for viscous flow (粘性流動における活性化エネルギー) について理解できる。(A, B, C)
1.5	Viscoelastic Deformation I (粘弾性変形 I)	<input type="checkbox"/> viscous deformation (粘性変形), glass transition temperature (ガラス遷移温度), softening temperature (軟化温度) について理解できる。(B, C)
1.5	Viscoelastic Deformation II (粘弾性変形 II)	<input type="checkbox"/> hysteresis of stress-strain curve (応力-ひずみ曲線のヒステリシス), dynamic elastic modulus (動的弾性係数) について理解できる。(B, C)
1.5	Summary of Mechanical Behavior (力学的挙動の要約)	<input type="checkbox"/> 力学的挙動の要点を理解する。(A, B, C)
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理学特論 I	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Seminar of Physics I	選択	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
真島 裕樹	一般教育科・講師	222	金曜日 13:30 - 17:00	majima
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-1		(c)
授業概要	マクロな理論としての熱力学、ミクロな理論としての統計力学に関する、工学との関係に重点を置いた講義である。			
到達目標	<p>A. 熱平衡状態とその間の遷移が、ミクロな詳細によらない、マクロな少数自由度のみで記述できることを理解する</p> <p>B. 熱力学第一法則の意味を理解し、初等的な計算ができる</p> <p>C. 熱力学第二法則のエントロピーによる表現を理解し、熱機関の最大効率を求めることができる。</p> <p>D. 等重率の原理と大数の原理、そしてボルツマンの原理のみから正準分布が導かれることを理解できる</p> <p>E. 理想気体や二準位系等の厳密に解ける系に統計力学を適用し、熱力学関数を導ける。</p> <p>F. 工学的に重要なフェルミ統計の性質を理解し、熱力学関数と状態方程式を導ける。</p>			
授業方法	前半は熱力学、後半は統計力学を講義する。			
教科書	なし			
補助教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	評価点は試験70%と課題点30%の合計とする。			
関連科目	物理学特論 II			
準備学習に関するアドバイス	微積分や確率論の初歩を理解していることが望ましいが、熱力学、統計力学の理解のために必要な事項は授業内で説明をするので、予備知識のない者の履修も歓迎する。手間を厭わずに自分の手で計算すること。また自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.5	ガイダンス	授業の概要・計画および評価方法の説明。
1	熱平衡状態	<input type="checkbox"/> 熱平衡状態の意味と温度の定義(A)
1.5	熱力学第一法則	<input type="checkbox"/> 熱力学第一法則(B) <input type="checkbox"/> 状態変化(B)
1.5		<input type="checkbox"/> 熱機関(B,C)
1.5	熱力学第二法則	<input type="checkbox"/> クラウジウスの不等式(C)
1.5		<input type="checkbox"/> エントロピー(C)
1.5		<input type="checkbox"/> 熱力学第二法則(C)
1.5	確率論の復習	<input type="checkbox"/> 場合の数と確率論の初歩(D)
1.5	統計力学の仕組み	<input type="checkbox"/> アンサンブルの考え方(D)
1.5		<input type="checkbox"/> 正準分布と大正準分布(D)
1.5		<input type="checkbox"/> 熱力学関数の導出(D)
1.5	統計力学の応用	<input type="checkbox"/> 厳密に解ける系への応用(E)
1.5		<input type="checkbox"/> フェルミ統計(E)
1.5		<input type="checkbox"/> 工学への応用(F)
1.5	揺らぎと応答	<input type="checkbox"/> 揺らぎと応答の関係(D)
1.5	期末試験	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (一認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機械工学概論	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Basis of Mechanical Engineering	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
風間 俊哉	電気工学科・准教授	216	前期末以外/後期末以外	t-kazama
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-1		B-2	(d) (1)	
授業概要	産業分野で培われてきた機械工学技術は、近年、サービスや医療分野等人に近い領域で応用範囲を広げている。今後は、機械が取り扱うモノや、機械を活用するユーザーの、変化・多様化がますます進む。本講義では、こうした状況下で重要となる機械工学関連技術について、システム科学の観点から概観する。			
到達目標	システム科学の立場で機械工学の要素技術を解説する。 (A) 機械工学の歴史的背景を理解し発展性を考えることができる。 (B) メカトロニクスの考え方を理解できる。 (C) システムモデリングの考え方を理解できる。 (D) 知能システムの考え方を理解できる。 (E) 生物規範的システムデザインの考え方を理解できる。 (F) システムインテグレーション、異分野融合の考え方を理解できる。			
授業方法	座学を主体として、必要がある場合にはプリントを配布し、講義を進める。学生の理解度を確認しながら講義を進める。			
教科書	使用しない			
補助教材	授業中に配布するプリント			
評価方法	100%試験で評価する			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	日頃からもの創りに興味を持ち、身近にある機械を観察することが重要である。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 半年の授業計画、評価方法の説明、ガイダンスを行う。
1.5	機械工学の歩み	<input type="checkbox"/> 機械工学の歴史的背景を理解できる。(A)
1.5	機械工学の要素技術	<input type="checkbox"/> メカトロニクス要素技術の基本を理解できる。(B)
1.5	機械を動かすしくみ作り(1)	<input type="checkbox"/> システムの数理的なモデリングの考え方を理解できる。(C)
1.5	機械を動かすしくみ作り(2)	<input type="checkbox"/> 自律分散制御システムについて理解できる。(C)
1.5	機械を動かすしくみ作り(3)	<input type="checkbox"/> 環境も含めた制御システムについて理解できる。(C)
1.5	機械を賢くするために(1)	<input type="checkbox"/> 行動型人工知能の概要について理解できる。(D)
1.5	機械を賢くするために(2)	<input type="checkbox"/> ニューラルネットによるロボット制御について理解できる。(D)
1.5	機械を賢くするために(3)	<input type="checkbox"/> 遺伝的アルゴリズムによる行動学習について理解できる。(D)
1.5	生物と共生する機械作り(1)	<input type="checkbox"/> 生物規範的システムデザインの考え方を理解できる。(E)
1.5	生物と共生する機械作り(2)	<input type="checkbox"/> バイオインスピレーションについて理解できる。(E)
1.5	生物と共生する機械作り(3)	<input type="checkbox"/> ソフトロボットについて理解できる。(E)
1.5	機械が社会で活躍するために	<input type="checkbox"/> システムインテグレーション及び異分野融合の考え方を理解できる。(F)
1.5	機械工学の発展に向けて	<input type="checkbox"/> 社会における機械の発展性について議論する。(A)
1.5	試験	<input type="checkbox"/> 半年のまとめの試験を行う。
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数学特論 I	AC:専攻科	1年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Seminar on Mathematics 1	選択	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大屋 博一	一般教育科・准教授	239 数学科	水曜日以外	h-ohya
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-1		B-1	(c)	
授業概要	ベクトルに対する微積分であるベクトル解析について講義する。 ベクトル解析は物理現象、特に電磁気学や連続体力学を理解する上で不可欠である。 本講義では数学的な厳密性より、計算法を習得させることに重きを置く。			
到達目標	A. 3次元空間のベクトルの基本的な計算ができる。 B. ベクトルの勾配、発散、回転が求められる。 C. 線積分、面積分、体積積分が計算できる。 D. ガウスの定理、ストークスの定理の使い方を理解し、計算ができる。			
授業方法	座学を中心に講義を進める。適宜演習も行う。			
教科書	特に指定しない。			
補助教材	なるほどベクトル解析 村上雅人(海鳴社) ベクトル解析入門 小林亮・高橋大輔(東京大学出版会)			
評価方法	1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合 (1) 定期試験(70%) (2) 小テスト、課題提出などの平常点(30%) (3) 別途、平常点に関する指示を行う。			
関連科目	数学特論 II			
準備学習に関するアドバイス	手を動かし、演習問題を沢山解くことが理解への第一歩となる。 自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画と評価方法の説明
0.75	1 変数関数の微分(復習)	<input type="checkbox"/> 微分の定義とその意味、基本公式、関数の増減(復習)
1.5	多変数関数の微分(復習)	<input type="checkbox"/> 偏微分、全微分(復習)
1.5	3 次元空間のベクトル 1	<input type="checkbox"/> 基底ベクトル表示、内積・外積(A)
1.5	3 次元空間のベクトル 2	<input type="checkbox"/> 種々のベクトル計算(A)
1.5	ベクトルの微分 1	<input type="checkbox"/> 場の概念、ナブラ演算子、勾配(B)
1.5	ベクトルの微分 2	<input type="checkbox"/> 発散、回転(B)
1.5	ベクトルの微分 3	<input type="checkbox"/> 種々の場の微分公式(B)
1.5	1 変数関数の積分(復習)	<input type="checkbox"/> 定積分の意味、計算法(復習)
1.5	多変数関数の積分	<input type="checkbox"/> 重積分、関数のパラメータ表示、曲線の長さ(C)
1.5	場の積分 1	<input type="checkbox"/> 線積分(C)
1.5	場の積分 2	<input type="checkbox"/> 面積分(C)
1.5	場の積分 3	<input type="checkbox"/> 体積積分(C)
3	場の積分 4	<input type="checkbox"/> ガウスの定理、ストークスの定理(D)
1.5	期末試験(演習)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
インターンシップ	AC:専攻科	1年	通年	1~2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Internship	選択	講義	演習	実験・実習
		0	0	67.5
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	授業日放課後	yamasita
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	水曜日以外	kuroki
川村 春美	情報工学科・准教授	408	火曜以外9-17時	h-kawamura
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-3 AC-4		B-4 C-1 D-1	(d) (2) (d) (4) (e) (f)	
授業概要	学生自身に職業観を身につけさせるために、講義ではインターンシップの重要性を理解させ、企業実習で身をもって体験させる。インターンシップ終了後に、報告書の作成と発表を行い、体験したことを定着させる。			
到達目標	A. 社会人としての職業観を身につけ、実践することができる。 B. 社会人としてのマナーを身につけ、実践することができる。 C. 体験したことをまとめられ、他者に伝えることができる。			
授業方法	・初めはインターンシップの意義の理解のため講義を行う。4月後半から先行先企業を研究して決定し、8月~9月の間に最大2週間の企業体験をする。 ・体験終了後に、報告書にまとめ、公開の発表会にて発表する。			
教科書	なし			
補助教材	適宜、キャリアセンターの公開資料を使用			
評価方法	企業での実習時間+学内での授業時間が合計33.75時間以上、67.5時間未満の場合は、取得単位が1となる。67.5時間以上の場合は取得単位は2となる。 1日8時間とすれば月~金の5日間で40時間、2週間で80時間となる。 複数の企業で実習した場合は、その合計が33.75時間以上あるいは67.5時間以上あればよい。 最終評価点=報告書40点(質と量の両方を加味) +企業からの実習証明書30点(遅刻、怠け等がないこと) +発表会30点(質と量の両方を加味) 3名の担当教員の平均で評価する。 60点以上で「合」、60点未満は「否」となる。(優、良、可の成績ではない)			
関連科目	なし			
準備学習に関するアドバイス	・行き先企業が決まった後、事前に十分な企業研究をするようにしてください。 ・サレジオ高専の代表選手として、様々なことに積極的にチャレンジすることを心がけてください。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 年間授業計画、シラバス説明
1.5	インターンシップの意義	<input type="checkbox"/> これまでの実績説明
1.5	学生面談	<input type="checkbox"/> 行き先企業の希望確認(A)
1.5	応募書類の作成指導	<input type="checkbox"/> 履歴書、応募書類の完成(A, B, C)
60	企業実習	<input type="checkbox"/> 企業側担当者に必要書類を渡して説明する。(A, B) <input type="checkbox"/> 与えられた業務を理解した上で取り組む。(A, B) <input type="checkbox"/> 日々の業務を記録にとる。(A, B, C)
1.5	成果報告会	<input type="checkbox"/> 発表資料の作成(C) <input type="checkbox"/> 発表(C)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
67.5時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
英語II	AC: 専攻科	2年	通年	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
English 2	必修	0	45	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
Luis Marques	一般教育科・准教授	236	12:20~13:05(水)	marques
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-5		C-3		(f)
授業概要	前期: 文構造を中心とした英作文及び長文読解、スピーチのための発音演習を行う 後期: 決められた形式に従い、英語で自分の意見を述べるためのトレーニングを重ねる			
到達目標	準備をすれば、英語で自分の意見を口頭及び書き言葉で伝えることができるようになるために、 A. 和英・英和辞書を使うことができる B. 英語の基本構造を理解することができる C. 日本語を解体し、英文へ直すことができる D. 英語表現を応用し、内容の異なった英文を作ることができる E. 文章構造を念頭に置き、英語で文章を書くことができる F. 口頭で意見を発表し、理解を得ることができる			
授業方法	前期: 授業冒頭で小テストを行う。その後、英作文及び長文問題に取り組む。 後期: 一定の型式を学び、自分の意見を英文で述べる訓練を行う			
教科書	環境と文化から見るグローバル世界 (南雲堂)			
補助教材	なし			
評価方法	総合成績は、前後期評価の単純平均とする <区間成績> 【前期】定期試験(70%) + 小テスト・課題(30%) * 小テスト・課題は、すべての小テスト及び課題の単純平均で算出する。 内訳(各10点)①課題 ②口頭表現(小テスト) ③英作文(小テスト) 【後期】定期試験(70%) + 小テスト・課題(30%) * 小テスト・課題は、すべての小テスト及び課題の単純平均で算出する。 内訳(各10点)①課題 ②口頭表現(小テスト) ③英作文(小テスト) * 単位認定制度あり。別途説明する。			
関連科目	英語 I			
準備学習に関するアドバイス	自習時間として22.5時間を本講義の予習復習に充てること			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
5.5	【前期】 文型	<input type="checkbox"/> 文型の構造を理解できる(B) <input type="checkbox"/> 5文型の構造を念頭に置き、並べ替え英作文に取り組むことができる(A, B)
3.5	動詞	<input type="checkbox"/> 動詞の使い方を理解できる(B) <input type="checkbox"/> 動詞の使い方を念頭に置き、並べ替え英作文に取り組むことができる(A, B)
3	名詞・冠詞・代名詞	<input type="checkbox"/> 名詞、冠詞及び代名詞の使い方を理解できる(B) <input type="checkbox"/> 名詞、冠詞及び代名詞の使い方を念頭に置き、並べ替え英作文に取り組むことができる(A, B)
3	形容詞・副詞	<input type="checkbox"/> 形容詞及び副詞の使い方を理解できる(B) <input type="checkbox"/> 形容詞及び副詞の使い方を念頭に置き、並べ替え英作文に取り組むことができる(A, B)
3	応用演習	<input type="checkbox"/> 自分の意見を英語構文へ分解する基礎を理解することができる(A, B, C, D)
3	長文読解・発音	<input type="checkbox"/> 英文の文章構造を理解しながら、長文読解問題に取り組むことができる(E) <input type="checkbox"/> 相手に伝えることを意識し、英語のリズムを崩さず、一定の時間内に英文を読むことができる(F)
1.5	定期試験(前期)	
4.5	【後期】 エッセイ・ライティングの基礎	<input type="checkbox"/> 本授業で取り扱うエッセイライティングの型式を理解できる(E) <input type="checkbox"/> 自分の意見を英語構文へ分解する基礎を理解できる(A, B, C, D)
12	エッセイライティングの応用	
4.5	授業内試験及び解説	<input type="checkbox"/> 学習した形式に従い自分の意見を表現することができる(A, B, C, D)
1.5	定期試験(後期)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
45 時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
特別研究Ⅱ	AC:専攻科	2年	通年	6
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Research Works 2	必修	講義	演習	実験・実習
0	0	202.5		
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
島川 陽一	情報工学科・教授	401	火曜日以外	simakawa
米盛 弘信	機械電子工学科・准教授	304	(火)以外の放課後	yonemori
森 幸男	機械電子工学科・教授	301	金曜日以外	mori
その他 9名				
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-1 AC-2		B-4 C-2 D-1 D-2 D-3		(d)(2) (d)(4) (e) (f) (g) (h)
授業概要	学生は指導教員の基で、特定のテーマについて研究を行う。各研究室では個別に設定された授業計画や評価法がある。共通の授業として、中間発表、ポスター発表、特別研究発表会の3つの発表が設けられており、関係教員が評価する。何れの発表においても研究概要を提出し、最後は特別研究論文を提出してもらう。			
到達目標	A. 研究テーマの内容の理解に必要な基礎を理解することができる(特別研究Ⅱにおける到達目標)。 B. 研究テーマの問題について考えることができ、それを解決することができる(特別研究Ⅱにおける到達目標)。 C. 文献調査などを行うことができ、適切な報告書を作成することができる(特別研究Ⅱにおける到達目標)。 D. 適切な発表資料を作成でき、発表を行うことができる(特別研究Ⅱにおける到達目標)。 E. 研究成果をまとめ、適切な形で論文を作成することができる(特別研究Ⅱにおける到達目標)。 C-2. 情報の収集と発表、討論(JABEEプログラムの学習教育目標)。 D-1. プロダクトマインド(JABEEプログラムの学習教育目標)。 D-2. 問題解決ステップ(PDCA)の実行(JABEEプログラムの学習教育目標)。 D-3. 他人との協調(JABEEプログラムの学習教育目標)。 AC-1. 新知識を作り出す訓練(専攻科の学習教育目標)。 AC-2. 創造的研究開発能力(専攻科の学習教育目標)。			
授業方法	各研究室において、教員の指導のもとで研究を行う。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	特別研究論文の提出(C, E)が評価の前提となる。学内で行われる中間発表、ポスター発表、特別研究発表会(何れもC, D)で(C-2)を評価する。また、指導教員の個別の評価方法で(A, B)について総合的に(AC-1, AC-2, C-2, D-1, D-2, D-3)を評価する。その内訳は以下のとおりとし、6割以上を合格とする。 ・学内で行われる中間発表(15%)※1 ・学内で行われるポスター発表(15%)※1 ・特別研究発表会(20%)※1 ・各指導教員の個別の評価(50%)※2 ※1 特別研究Ⅱ関係教員の評価(発表後可否を決定する) ※2 各指導教員の個別の評価は各指導教員より配布される「個表」を参照されたい。			
関連科目	特別研究Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	国内外の学会発表などに積極的に参加し、研究成果を発表することとなる。基礎学習を十分にやっておくようにすること。また、通年で480時間以上の研究を行うことが望ましい(202.5時間は指導教員のもとで研究を行うこと)。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
202.5	各研究室において、教員の指導のもとで研究活動を行う。 中間発表 ポスター発表 特別研究発表会 特別研究論文の提出 研究テーマ例 「電気音響あるいは生体信号を対象とした信号処理工学的解析等に関する研究」 「平常時と災害時を想定した見守り安否確認システムに関する研究」 「再生可能エネルギーを利用した発電システムに関する研究」 「パワーエレクトロニクスの応用に関する研究」 「熱電変換材料の特性向上と実用化に関する研究」 「電磁波エネルギーの制御と効率的利用に関する研究」 「機能性セラミックスに関する研究」 「衛星測位と無線通信技術の応用に関する研究」 「数値モデルと最適化の応用に関する研究」 「数式処理での演算高速化と計算精度の向上に関する研究」 「フィルタ設計や信号の解析・抽出を目的としたデジタル信号処理に関する研究」 「人間の視知覚特性を利用した画像認識・処理に関する研究」 「ロボット・メカトロニクスにおける生物規範的システム設計学に関する研究」	<input type="checkbox"/> 与えられた研究テーマの内容を理解し、専門分野の基礎を理解することができる(A)。 <input type="checkbox"/> 各種問題に取り組みそれを解決することができる(B)。 <input type="checkbox"/> 各発表などにおいて、適切な報告書(論文等)を作成することができる(C)。 <input type="checkbox"/> 適切な発表資料を作成し、発表を行うことができる(D)。 <input type="checkbox"/> 研究成果をまとめることができる(E)。
合計 202.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
分布定数回路特論	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Advanced Course on Distributed Constant Circuit	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
水谷 浩	電気工学科・教授	217	木曜日以外	mizutani
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-2		B-2		(d) (1)
授業概要	電気回路の高速、高周波への応用に際して、今後ますます重要となる分布定数回路とその周辺技術について学ぶ。			
到達目標	<p>A. 分布定数回路と集中定数回路の違いと使い分けを説明することができる。</p> <p>B. 分布定数回路の代表的な応用例である伝送線路について電信方程式をかくことができる。</p> <p>C. 電信方程式の解の求め方について説明することができる。</p> <p>D. オープンスタブとショートスタブの違いについて説明することができる。</p> <p>E. 整合回路について説明することができる。</p> <p>F. スミス図を用いてインピーダンス整合について説明することができる。</p> <p>G. 伝送線路のアンテナとの関係を説明することができる。</p>			
授業方法	板書を基本とし講義形式で進める。学生は事前に該当箇所を予習し、不明な点は講義中に質問をすることで確実にものにすること。毎回、小テストを行う。			
教科書	吉野、他「無線通信工学の基礎と演習」コロナ社			
補助教材	適宜、補助プリントを用いる。			
評価方法	<p>評価点 = 中間および期末テスト 70%</p> <p>+ 平常点 (小テスト等) 30%</p> <p>なお、授業態度が悪い場合は、平常点から最大10%減点することがある。</p>			
関連科目	電気電子回路特論			
準備学習に関するアドバイス	中間、期末のテストに備え、復習を怠らないこと。教科書をよく読んで理解に努めること。なお、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
0.75	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 専攻科における本講義の位置づけと重要性を理解している。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方、評価方法等を理解している。
3	分布定数回路と集中定数回路	<input type="checkbox"/> 分布定数回路と集中定数回路の使い分けを説明できる。(A) <input type="checkbox"/> 分布定数回路 (オープンスタブとショートスタブ) と集中定数回路を対比して説明できる。(D)
6	伝送線路と電信方程式	<input type="checkbox"/> 電信方程式の導出ができる。(B) <input type="checkbox"/> 電信方程式の解と特性インピーダンスを求めることができる。(C) <input type="checkbox"/> 先端開放と先端短絡の伝送線路のインピーダンスを導出できる。(D)
0.75	中間試験	
0.75	答案返却	
6	整合回路とスミス図	<input type="checkbox"/> 整合回路について説明することができる。(E) <input type="checkbox"/> スミス図を用いてインピーダンス整合について説明することができる。(F)
3.75	アンテナへの拡張	<input type="checkbox"/> 伝送線路のアンテナへの拡張について説明することができる。(G)
0.75	期末試験	
0.75	答案返却	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
通信工学特論	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Communications Engineering	選択	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日を除く	yoshino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
AC-2		B-2[EE・ME] / B-3[CS]		(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (i) [CS]
授業概要	陸上移動通信の歴史、移動通信を支える技術、周波数有効利用技術の現状と今後について概説する。			
到達目標	A. ワイヤレス通信の歴史を理解できる。 B. アンテナの定義と種類を理解できる。 C. 電波伝搬の基本特性を理解できる。 D. 衛星通信、移動通信が理解できる。			
授業方法	座学を主体として講義を進める。授業中適宜演習問題を出題し、レポートで提出を求める場合と黒板へ出て解いてもらう場合の2通りある。講義の一部はディスカッション方式で学生と対話しながら講義を進める場合もある。			
教科書	無線通信工学の基礎と演習 吉野純一編著 (株)コロナ社			
補助教材	なし			
評価方法	課題演習 (20%)、試験 (80%) で評価する。			
関連科目	応用通信特論, トラヒック理論			
準備学習に関するアドバイス	提出物は必ず所定の様式で期日を厳守して提出すること。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法、本授業の達成目標を理解する。
1.5	序論	<input type="checkbox"/> 電波の利用、ワイヤレス通信の歴史を理解できる。(A)
3	電磁波の基礎	<input type="checkbox"/> 電磁気現象の説明できる法則を理解できる。(B)
3	アンテナ	<input type="checkbox"/> アンテナの定義と種類が理解できる。(B)
3	電波伝搬	<input type="checkbox"/> 電波の基本特性を理解できる。(B, C)
3	地上固定通信	<input type="checkbox"/> 無線回線の基本構成を理解できる。(C)
3	衛星通信	<input type="checkbox"/> 衛星通信概要が理解できる。(D)
3	移動通信	<input type="checkbox"/> 移動通信の概要が理解できる。(D)
1.5	試験 (1回)	<input type="checkbox"/> 定期試験
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
トラヒック理論	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Traffic Theory	選択	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉野 純一	機械電子工学科・教授	304	火曜日以外	yoshino
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-2		(d) (1)
授業概要	通信トラヒックに対する基本的な考え方、理論を学ぶ。さらにインターネット、モバイル通信、ブロードバンド化に対応した通信トラヒックの実際についても論じる。			
到達目標	A. 通信トラヒックの特徴を理解する。 B. トラヒックモデルの定式化を理解する。 C. トラヒック理論の基本関係式を理解する。			
授業方法	座学を主体として講義を進める。授業中適宜演習問題を出題し、レポートで提出を求める場合と黒板へ出て解いてもらう場合の2通りある。講義の一部はディスカッション方式で学生と対話しながら講義を進める場合もある。			
教科書	プリント配布			
補助教材	なし			
評価方法	課題演習(20%)、試験(80%)で評価する。			
関連科目	通信工学特論、応用通信特論			
準備学習に関するアドバイス	提出物は必ず所定の様式で期日を厳守して提出すること。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業計画、評価方法、本授業の達成目標を理解する。(A)
1.5	序論	<input type="checkbox"/> トラヒックシステムの全体像と通信技術の変遷を理解できる。(A)
3	トラヒックモデル	<input type="checkbox"/> 呼量、呼の生起、保留時間分布を理解できる。(A)
3	基本関係式	<input type="checkbox"/> トラヒックモデルの分類、マルコフ性を理解できる。(B)
3	通信トラヒックの必要性	<input type="checkbox"/> 通信需要や接続に要する時間などについて理解できる。(B)
3	待ち行列理論	<input type="checkbox"/> 待ち行列解析の目的を理解できる。(B)
3	マルチメディア通信網の性能評価	<input type="checkbox"/> ATMのトラヒック制御機能を理解できる。(C)
3	セル到着過程	<input type="checkbox"/> 音声トラヒック、多元トラヒックを理解できる(C)
1.5	試験(1回)	<input type="checkbox"/> 定期試験
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
信号処理論	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
System Analysis for Planning and Management	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
森 幸男	機械電子工学科・教授	202・303	金曜日以外	mor i
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-2		B-2	(d) (1)	
授業概要	電子工学、通信工学の分野をはじめとして、学際領域の技術の代表的なものが信号処理工学である。本講義では、信号処理の基本的な事項を画像処理技術を題材として教授し、情報化社会で多彩な業務をこなすための能力、すなわち信号(情報)を的確に分析し、問題解決の糸口を見出すといった能力を養う。			
到達目標	A. 信号処理の基本的な技術を理解することができる B. 音声や画像に関する処理技術について理解することができる C. それらの問題点を指摘することができる D. その問題点の解決法について議論することができる E. 生体信号処理について理解することができる(副次的内容)			
授業方法	座学を主として実施する。適宜課題を課し提出を求める。			
教科書	なし			
補助教材	「ウェーブレットによる信号処理と画像処理」 中野宏毅・山本鎮男・吉田靖夫 共著 (共立出版)			
評価方法	ウェーブレットを題材とした学術論文等を用いて、主旨や問題点、改善策案等を記述させ、本講義の到達度を確認する。レポート形式の答案作成を要求する。 評価点は次のよう計算式で算出する。 $\text{評価点} = 0.8 \times \text{答案の素点} + 0.2 \times \text{課題点}$ 必要に応じて補習や再試験を実施する場合がある。			
関連科目	大規模情報処理			
準備学習に関するアドバイス	信号処理は学際領域の学問であるので、幅広い視点に立って考える姿勢が重要である。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。具体的には、ウェーブレットに関する論文講読・理解、レポート作成の時間に充てること。また、自宅学習のエビデンスを残しておくこと。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 講義の進め方・評価方法の説明
1.5	1. Fourier解析	<input type="checkbox"/> 直交変換について知る (A)
1.5		<input type="checkbox"/> 直交変換とFourier級数展開の関係を理解する (A, B)
1.5		<input type="checkbox"/> Fourier級数からFourier変換への拡張を理解する (A, B)
1.5		<input type="checkbox"/> Fourier変換の問題点と窓関数を理解する (A, B, C)
1.5		<input type="checkbox"/> 短時間Fourier変換とその特徴を理解する (A, B, C)
1.5	2. Wavelet解析	<input type="checkbox"/> Wavelet変換の考え方を知る (A, B, C, D)
1.5		<input type="checkbox"/> 連続Wavelet変換(CWT)の基本を理解する (A, B, C, D)
1.5		<input type="checkbox"/> CWTの応用として不連続点の検出を知る (A, B, C, D)
1.5		<input type="checkbox"/> CWTの応用として多重解像度解析による雑音除去を知る (A, B, C, D)
1.5		<input type="checkbox"/> 離散Wavelet変換(DWT)の基本を理解する (A, B, C, D)
1.5		<input type="checkbox"/> DWTの応用として画像処理、画像圧縮を知る (A, B, C, D)
1.5	3. 生体信号処理	<input type="checkbox"/> 生体信号処理について知る (E)
1.5		<input type="checkbox"/> 生体信号の計測方法を知る (E)
1.5	到達目標の確認(認定試験)	
合計	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5時間	最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
応用通信特論	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Applied Communications	選択	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
吉田 将司	機械電子工学科・准教授	303	裁量日以外	yoshida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-2		B-2		(d) (1)
授業概要	デジタル通信技術の基礎について講義する。次にその応用システムである測位衛星技術や、RFIDなどに代表される近距離無線について、時事の話題も絡めながら紹介する。			
到達目標	A. 送受信機の構成と変調方式の種類が理解できる B. 測位航法システムの概要を説明できる C. 近距離無線技術の概要が理解できる			
授業方法	基本的に座学で講義する。講義内容確認のために時間内に小テスト及び演習を実施する。			
教科書	「無線通信工学の基礎と演習」 吉野純一編著、コロナ社			
補助教材	適宜配布する。			
評価方法	評価項目は以下の3つである。 ①定期試験の点数 ②小テスト(2回)の平均点 ③授業時に課す課題の平均点 総合評価の算出方法は、 総合評価 = (①×60% + ②×20% + ③×20%) とする。			
関連科目	通信工学特論、トラヒック特論			
準備学習に関するアドバイス	三角関数、微積・ラプラス変換、フーリエ変換などの知識があれば、より理解が深まる。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業内容説明
1.5	無線通信の歴史	<input type="checkbox"/> 無線通信の歴史 (A)
4.5	無線機の構成と変調方式	<input type="checkbox"/> 送信機と受信機の構成 (A) <input type="checkbox"/> アナログ変調方式とデジタル変調方式 (A) <input type="checkbox"/> 多元接続方式 (A)
1.5	小テスト (1)	
6	GNSSの概要	<input type="checkbox"/> 測位システムの歴史と原理 (B) <input type="checkbox"/> GPSの概要 (B) <input type="checkbox"/> 単独測位と誤差要因 (B) <input type="checkbox"/> 受信機の構成 (B)
1.5	小テスト (2)	
3	GNSSの応用	<input type="checkbox"/> GPSの補完システムと補正システム (B) <input type="checkbox"/> GPS以外の衛星測位システム (B)
1.5	近距離無線技術	<input type="checkbox"/> 近距離無線技術の概要 (C)
1.5	定期試験	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
大規模情報処理	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Big Data Processing	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
宮田 統馬	情報工学科・講師	407	火曜日以外	t-miyata
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-2		B-2[CS] / B-3[EE・ME]		(d) (1) [CS] / (d) (1) (d) (3) (1) [EE・ME]
授業概要	デジタル信号処理を題材とした情報処理を取り扱う。講義では通信や音声処理で用いられるようなデジタルフィルタから、画像処理に用いられる2次元デジタルフィルタについて実例を示しながら学習する。			
到達目標	A. 1次元信号処理について説明ができる B. 多次元信号処理について説明ができる			
授業方法	主として座学を行い、適宜課題を出題する。			
教科書	なし			
補助教材	MATLAB対応 デジタル信号処理			
評価方法	試験と課題で評価を行う。 評点 = 試験素点×0.7 + 課題点 (各課題は30点満点で評価し、その平均点を課題点とする)			
関連科目	信号処理論			
準備学習に関するアドバイス	複素数や線形代数を取り扱うので、復習をしておくこと。 自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	
12	1. 信号処理の基礎	<input type="checkbox"/> 離散フーリエ変換 (A) <input type="checkbox"/> デジタルフィルタ (A) <input type="checkbox"/> Z変換 (A) <input type="checkbox"/> 伝達関数 (A) <input type="checkbox"/> 1次元デジタルフィルタによるフィルタリング (A)
7.5	2. 多次元信号処理	<input type="checkbox"/> 2次元信号 (B) <input type="checkbox"/> 2次元デジタルフィルタ (B) <input type="checkbox"/> 2次元デジタルフィルタによる画像処理 (B)
1.5	試験	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数理計画	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Mathematical programing	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
島川 陽一	情報工学科・教授	401	金曜 12:20~13:00	simakawa
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-2		B-2		(d) (1)
授業概要	数理計画法は線形計画法、非線形計画法、整数計画法（組み合わせ最適化）に分類される。本講義ではこのうち線形計画法と非線形計画法の基礎的な考え方を習得する。			
到達目標	A 線形計画法の定式化とシンプレックス法による解法を理解できる。 B 非線形計画法の基本的な考え方を理解できる。			
授業方法	座学を中心に授業を進める。途中、レポートを2回提出する。			
教科書	なし			
補助教材	なし			
評価方法	期末試験とレポートを平均化し評価する。合格点は60点である。（試験60点、レポート20点×2）			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	解析学、線形代数の復習を要する。自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容（理解できた内容にチェックする）
1	授業ガイダンス	<input type="checkbox"/> 授業の計画と評価の方法の説明できる。 <input type="checkbox"/> 工学における数理計画法の役割について説明できる。
10	線形計画法	<input type="checkbox"/> 生産計画問題について説明できる。 <input type="checkbox"/> 線形計画問題と多面体について説明できる。 <input type="checkbox"/> 標準形、双対問題について説明できる。 <input type="checkbox"/> 単体法（シンプレックス法）による求解について説明できる。 <input type="checkbox"/> レポート1（シンプレックス法による計算をすることができる）
10	非線形計画法	<input type="checkbox"/> 非線形関数について説明できる。 <input type="checkbox"/> 二次形式の標準形 <input type="checkbox"/> 正値対称行列 <input type="checkbox"/> ラグランジュ未定乗数法を説明できる
1	試験	<input type="checkbox"/> 制約なし非線形最適化について説明できる。 <input type="checkbox"/> 制約付き非線形最適化について説明できる。
0.5	講評	<input type="checkbox"/> レポート2（ラグランジュ未定乗数法による簡単な練習問題）
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 （→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格）	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
計算システム論	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Computing Systems	選択必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
内田 健	情報工学科・教授	405	火曜日を除く	uchiida
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1 (2) との対応	
AC-2		B-2	(d) (1)	
授業概要	計算装置としてのコンピュータシステムを概観する。プログラム内蔵方式のコンピュータにおける基本的な計算の仕組み、その高速化手法である命令パイプラインやキャッシュメモリと性能評価指標、並列計算システムの現状と課題について解説する。			
到達目標	A. プログラム内蔵方式コンピュータでのデータ表現と計算の仕組みを理解し説明できる。 B. 代表的な性能評価指標を用いて計算システムの性能を評価できる。 C. 高速化手法である命令パイプラインやキャッシュメモリの原理と課題について理解し説明できる。 D. 並列計算システムの仕組みについて理解し説明できる。			
授業方法	講義形式で授業を行う。半期で3回程度の演習課題を提示する。			
教科書	必要に応じてプリント資料を配布する。			
補助教材	D. A. Patterson, J. L. Hennessy, Computer Organization and Design: The Hardware/Software Interface, Morgan Kaufmann, 2013			
評価方法	期末：定期試験 (80%) + 課題 (20%)			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	数値表現、論理回路、計算機の構成について基本的なことを事前に学習していることが望ましい。なお、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	ガイダンス	<input type="checkbox"/> 本授業の位置づけ、授業日程、評価方法 <input type="checkbox"/> 計算機の基本構成と事前知識の整理
1.5	計算システム開発の歴史	<input type="checkbox"/> 計算装置の開発経緯、プログラム内蔵方式の誕生 (A, C, D)
1.5	数値表現	<input type="checkbox"/> 固定小数点数、浮動小数点数 (A)
1.5	計算機の基本構成	<input type="checkbox"/> プログラム内蔵方式計算機の特徴 (A) <input type="checkbox"/> メモリとレジスタの構成 (A)
3	命令による計算の仕組み	<input type="checkbox"/> 命令セットと計算機構 (A)
3	性能評価	<input type="checkbox"/> 代表的な性能評価指標と算出方法 (B)
3	高速化技術	<input type="checkbox"/> 命令パイプライン (C) <input type="checkbox"/> キャッシュメモリシステム (C)
3	並列計算システム	<input type="checkbox"/> 並列計算への要求と現状 (D)
3	事例研究	<input type="checkbox"/> 数値計算の事例 (A, B, C, D)
1.5	定期試験	<input type="checkbox"/> 学習達成度を確認する
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
半導体工学	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Semiconductor Engineering	選択必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
黒木 雄一郎	機械電子工学科・准教授	322	水曜日を除く	kuroki
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-2		B-2[EE・ME] / B-3[CS]		(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (1) [CS]
授業概要	半導体の構造、基本的性質、電子デバイスへの応用例、および特性評価と製造技術について講義を行う。物理、化学の基礎的知識と初歩的解析学を前提として解説を行う。			
到達目標	A 半導体中の輸送現象を定量的に取り扱うことができる。 B 半導体のエネルギーバンド構造について説明することができる。 C 半導体デバイスの動作原理について説明することができる。 D 半導体材料の評価方法について説明することができる。 E 半導体材料の製造方法について説明することができる。			
授業方法	シラバスに従って各項目の講義を行う。また適宜、該当項目に関する演習問題を課し、これらの演習問題を解くことによって実力を養成する。			
教科書	プリント等の配布による			
補助教材	なし			
評価方法	授業項目の内容に対応して、6回程度実施するレポート課題により評価する。1つのレポート課題は図を用いて1ページ程度の分量を課す。評価はレポート課題の質と分量の双方を考慮する。必要に応じて追加課題を課すことがある。			
関連科目				
準備学習に関するアドバイス	一般化学、物理、微積分について復習しておくことが望ましい。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
2	固体内の電子	<input type="checkbox"/> 自由電子の性質を述べることができる (A) <input type="checkbox"/> 固体内の電子の性質を述べることができる (A)
8.5	エネルギーバンド	<input type="checkbox"/> 半導体のエネルギーバンド構造を描くことができる (B) <input type="checkbox"/> 間接遷移と直接遷移について述べるができる (A, B) <input type="checkbox"/> 電子・正孔による電気伝導を説明できる (A, B) <input type="checkbox"/> フェルミ準位を示すことができる (A, B) <input type="checkbox"/> 半導体の光学吸収について述べるができる (A, B) <input type="checkbox"/> 半導体の発光現象について述べるができる (A, B) <input type="checkbox"/> 半導体の熱的性質について述べるができる (A, B)
2	接合トランジスタ	<input type="checkbox"/> 接合トランジスタの動作原理を述べるができる (A, B, C)
2	MOS構造と電界効果トランジスタ	<input type="checkbox"/> MOS構造について説明できる (C) <input type="checkbox"/> 電界効果トランジスタの動作原理を述べるができる (A, B, C)
4	半導体材料の特性評価	<input type="checkbox"/> 半導体の特性評価方法について分類することができる (D)
4	半導体材料の製造法	<input type="checkbox"/> 半導体材料の製造方法について述べるができる (E)
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点	評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名 (和文)	学科	学年	開講期間	単位数
機能材料	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名 (英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Functional Materials	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
加藤 雅彦	電気工学科・教授	312	金曜日以外	kato-m
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1 (2) との対応
AC-2		B-2[EE・ME] / B-3[CS]		(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (i) [CS]
授業概要	電気・電子、磁気、光学など、主に力学特性以外の有用な性質を示す材料は機能材料と呼ばれ、あらゆる分野で使用されている。いくつかの具体的な機能材料について輪講を行い、機能的特性の原理を理解する。			
到達目標	A. 機能材料の概念・電気的特性について理解できる。 B. 具体的な機能材料について、原理を理解することができる。 C. 文献調査した結果をレポートにまとめ、わかりやすく発表することができる。			
授業方法	輪講形式で授業を進める。与えられたテーマについて文献調査し、レポートにまとめて発表する。発表は随時質問に回答しながら行い、適宜担当教員より説明を加える。レポートは発表日に提出する。			
教科書	配布プリント			
補助教材	なし			
評価方法	輪講1は発表レポート30%、発表内容30%、輪講2は発表レポート20%、発表内容20%として評価する。授業への参加度がよくない場合は欠席1回につき3点減点する。発表レポートは、与えられたテーマに関する材料の歴史、機能発現の原理、製造方法、種類、応用例などが的確にまとめられているかどうかを評価する。発表内容は、発表者に対して適宜質問を行うことによって、理解度を中心に評価を行う。			
関連科目	構造材料			
準備学習に関するアドバイス	積極的に討議すること。 自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容 (理解できた内容にチェックする)
1.5	機能材料とは?	<input type="checkbox"/> 授業の進め方、機能材料の概念について理解できる。(A)
13.5	材料機能の基本性質 (輪講1)	<input type="checkbox"/> 材料の機能を表す電気的特性について理解できる。(A, C) 電荷キャリアと電気伝導 エネルギー準位とエネルギー帯 伝導体 絶縁体 半導体
7.5	各種機能材料とその原理 (輪講2)	<input type="checkbox"/> 具体的な機能材料について、機能発現の原理を理解することができる。(B, C) 発表テーマ例 生体材料、光ファイバー、防振合金・防振鋼板、 磁気ディスク・光ディスク、液晶、複合材料、 アモルファス合金、形状記憶合金・超弾性材料、 化合物半導体、チタン合金、極低温用構造材料 熱発電素子・熱電対、超伝導材料、水素貯蔵合金、 レーザー発振用材料、超耐熱合金、金属間化合物、 導電性高分子材料・セラミックス、誘電体・圧電体、 固体電解質とガスセンサー、磁性流体、傾斜機能材料、 シリコン半導体・集積回路、太陽電池、磁石用合金、 超塑性を示す合金、C/C コンポジット
合計 22.5 時間	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
物理学特論Ⅱ	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Seminar of Physics 2	選択必修	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山野邊 基雄	情報工学科・教授	402	金曜日以外	yamanobe
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-2		B-1		(c)
授業概要	量子力学が誕生した背景を示し、その生成を明らかにする。シュレディンガー方程式を導入して量子力学的状態の意味を説明し、量子力学独特の性質を提示する。主に井戸型ポテンシャルに束縛された粒子の状態を扱う。また、定常状態の一つとして、粒子のポテンシャルによる散乱を扱う。			
到達目標	<p>A. 量子力学誕生のきっかけとなった物理現象について、古典論での問題点等を説明できる。</p> <p>B. 量子論の考え方について説明できる。</p> <p>C. 波動関数について、量子論におけるその役割を説明できる。</p> <p>D. 量子化の規則に従いシュレディンガー方程式を書き下すことができる。</p> <p>E. 井戸型ポテンシャルに拘束された粒子のシュレディンガー方程式を解いて、エネルギー固有値とその固有関数を求めることができる。</p> <p>F. 1次元ポテンシャル障壁問題において、透過率・反射率を計算することができる。</p>			
授業方法	座学を主体に講義を進める。適宜、演習問題をおこなう。			
教科書	「量子力学 -その基本的な構成-」 日置善郎 著 (吉岡書店)			
補助教材	適宜プリントを配布する			
評価方法	定期試験のみで評価する			
関連科目	物理学特論Ⅰ			
準備学習に関するアドバイス	演習問題では自分の手を動かして計算すること。 また自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
4.5	ガイダンス・前期量子論	<input type="checkbox"/> 原子モデル (A) <input type="checkbox"/> 原子スペクトル問題 (A) <input type="checkbox"/> 光電効果 (A) <input type="checkbox"/> 黒体輻射 (A) <input type="checkbox"/> コンプトン効果 (A) <input type="checkbox"/> エネルギー量子仮説 (B) <input type="checkbox"/> 物質波 (B) <input type="checkbox"/> 不確定性原理 (B) <input type="checkbox"/> ボーア模型 (B)
6	シュレディンガー方程式	<input type="checkbox"/> 波動関数 (C) <input type="checkbox"/> 時間に依存するシュレディンガー方程式 (D) <input type="checkbox"/> 量子化の規則 (D) <input type="checkbox"/> 交換関係 (D) <input type="checkbox"/> 時間に依存しないシュレディンガー方程式 (D)
6	1次元束縛状態	<input type="checkbox"/> 無限井戸型ポテンシャル (E) <input type="checkbox"/> エネルギー固有値 (E) <input type="checkbox"/> エネルギー固有関数 (E) <input type="checkbox"/> 固有関数の規格化 (E) <input type="checkbox"/> 有限井戸型ポテンシャル (E)
4.5	1次元ポテンシャル散乱	<input type="checkbox"/> 確率流密度 (F) <input type="checkbox"/> 階段型ポテンシャル (F) <input type="checkbox"/> 箱型ポテンシャル障壁 (F) <input type="checkbox"/> トンネル効果 (F)
1.5	定期試験	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (→認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
エネルギー変換工学	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 [hour]		
Energy Conversion Engineering	選択必修	22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
山下 健一郎	電気工学科・准教授	213	金曜日以外	yamasita
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応	JABEE基準1(2)との対応	
AC-2		B-2[EE・ME] / B-3[CS]		(d) (1) [EE・ME] / (d) (1) (d) (3) (i) [CS]
授業概要	電気・機械エネルギー変換は、各種産業における非常に重要な分野として役立っている。その基礎となる諸事項を理解するため、電気エネルギーと機械エネルギーとの相互変換に役立つ基礎理論について学習する。また、各種の電機システムのモデル化及びそれらの諸解析法について講義する。			
到達目標	<p>A. 電気・機械エネルギー変換の相互関係について理解できる。</p> <p>B. 電気・機械エネルギー変換の相互変換ができる。</p> <p>C. 基本的な運動方程式の立式方法が理解できる。</p> <p>D. 基本的な運動方程式を解くことができる。</p>			
授業方法	授業毎に「授業プリント」を配布する。授業は基本的に「授業プリント」を用いて行い、教科書を参考書として使用する。また、授業終了時に白紙プリントを配布し、授業内容をまとめた「授業まとめプリント」を次の講義時に提出してもらう。			
教科書	なし ※授業ごとに授業プリントを配布			
補助教材	なし			
評価方法	<p>最後の授業で行う総まとめ問題と間違えた問に対する直しを全体の70%（但し、間違い直しは本来の点数の60%とする）、まとめプリントを30%（まとめプリントの提出遅れは原則認めない※欠席した場合はまとめプリントをもらうことができない）とする。</p> <p>※最後の授業で行う総まとめ問題はテスト形式で実施するが、提出済みのまとめプリントを参照してよい。</p> <p>成績計算方法 (100点満点の演習問題の点数+演習問題の間違直し分の点数*0.6)*0.7+まとめプリント提出枚数/提出回数*30</p>			
関連科目	電力システム			
準備学習に関するアドバイス	公式等をただ覚えるのではなく、数学的な考え方や物理現象をイメージできるようにしてください。また、自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
1.5	1. ガイダンス, 基礎電気数学	<input type="checkbox"/> 基礎電気数学を理解できる(A)。
1.5	2. 電磁気学の基礎	<input type="checkbox"/> 基礎的な電磁気学について理解できる(A)。
1.5	3. 保存系	<input type="checkbox"/> 保存系について理解できる(A)。
1.5	4. 保存系を含む系の解析(1)	<input type="checkbox"/> 磁気回路の解析を行うことができる(A)。
1.5	5. 保存系を含む系の解析(2)	<input type="checkbox"/> 機械系を含む磁気回路の解析を行うことができる(A)。
1.5	6. 双対回路	<input type="checkbox"/> 双対回路について説明できる(A)。
1.5	7. 電気回路と磁気回路の双対性	<input type="checkbox"/> 双対性を解析に利用することができる(A)。
1.5	8. 電気系と機械系のアナロジー(1)	<input type="checkbox"/> 電気系と機械系の対応関係を説明することができる(A,B)。
1.5	9. 電気系と機械系のアナロジー(2)	
1.5	10. ラグランジュの運動方程式	<input type="checkbox"/> ラグランジュの運動方程式を理解できる(B,C)。
1.5	11. 非線形モデルの解析法	<input type="checkbox"/> 簡単な非線形モデルの線形化ができる(C)。
1.5	12. 平衡点, ラプラス変換	<input type="checkbox"/> 線形化の平衡点を理解でき, ラプラス変換を理解できる(D)。
1.5	13. ラプラス変換を用いた諸定理	<input type="checkbox"/> ラプラス変換におけるいくつかの諸定理を理解できる(D)。
1.5	14. 古典制御理論と状態変数法	<input type="checkbox"/> 古典制御の基礎と現代制御の状態変数法を理解できる(D)。
1.5	15. 総まとめ	<input type="checkbox"/> 総まとめ問題を解き, 間違えた問題について調査, 修正を行うことができる(D)。
合計 22.5 時間	試験結果: 前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点 最終成績: 評価点 [] 点 評定: <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	

開講年度 2017

クラス :

番号 :

氏名 :

科目名(和文)	学科	学年	開講期間	単位数
数学特論 II	AC:専攻科	2年	半期	2
科目名(英文)	履修形態	授業形態の時間内訳 (hour)		
Seminar on Mathematics 2	選択	講義	演習	実験・実習
		22.5	0	0
担当教員	所属学科・職名	研究室	オフィスアワー	メールアドレス
大屋 博一	一般教育科・准教授	239 数学科	水曜日以外	h-ohya
準学士課程または専攻科課程の教育目標との対応		JABEEプログラムの学習教育目標との対応		JABEE基準1(2)との対応
AC-1		B-1		(c)
授業概要	複素関数(複素平面内で定義され、複素数値を与える関数)に関する数学理論について講義する。特に、各点で微分可能な複素関数(正則関数)の性質について論じる。本講義では数学的な厳密性より、計算法を習得させることに重きを置く。			
到達目標	<p>A. 複素平面や極形式を用いて、複素数の演算ができる。</p> <p>B. 複素関数の基本性質を学習し、計算ができる。</p> <p>C. Cauchy-Riemannの方程式を用いて、複素関数の正則性が判定できる。</p> <p>D. 複素関数としての三角関数、指数関数、対数関数が定義でき、計算ができる。</p> <p>E. Cauchyの積分定理を用いて、複素関数の積分計算ができる。</p> <p>F. 複素関数の展開ができ、特異点が判別できる。</p> <p>G. 留数定理を用いて、実数関数の無限積分に応用できる。</p>			
授業方法	座学を中心に講義を進める。適宜演習も行う。			
教科書	特に指定しない。			
補助教材	基礎解析学コース 複素解析 矢野健太郎・石原繁(裳華房) 配布プリント			
評価方法	<p>1. 成績評価の根拠となる項目およびその割合</p> <p>(1) 定期試験(70%)</p> <p>(2) 小テスト、課題提出などの平常点(30%)</p> <p>(3) 別途、平常点に関する指示を行う。</p>			
関連科目	数学特論 I			
準備学習に関するアドバイス	手を動かし、演習問題を解くことで感覚が身についてくる。 線積分を復習しておくこと、理解の助けとなる。 自習時間として45時間を本講義の予習復習に充てること。			

授業計画		
時間数	授業項目	学習内容(理解できた内容にチェックする)
3	ガイダンス、複素数、複素平面、極形式	<input type="checkbox"/> 複素平面上における複素数の演算やn乗根の計算 (A)
1.5	複素関数、連続性、微分可能性	<input type="checkbox"/> 複素関数の極限 (B)
1.5	正則関数	<input type="checkbox"/> Cauchy-Riemann の方程式を用いた正則性の判定 (C)
3	初等関数	<input type="checkbox"/> 指数関数、三角関数、対数関数の定義 (D)
1.5	複素積分	<input type="checkbox"/> 複素積分の定義と性質 (E)
3	Cauchy の定理	<input type="checkbox"/> Cauchy の定理を用いた複素積分の計算 (E)
3	複素関数の展開	<input type="checkbox"/> 複素関数のTaylor 展開とLaurent 展開 (F)
3	留数	<input type="checkbox"/> 留数定理を用いた実定積分の無限積分 (G)
1.5	まとめと演習	<input type="checkbox"/> 演習
1.5	期末試験(演習)	
合計	試験結果：前期中間試験 [] 点 前期末試験 [] 点 後期中間試験 [] 点 後期末試験 [] 点	
22.5 時間	最終成績：評価点 [] 点 評定： <input type="checkbox"/> 優 <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 (←認定試験結果 <input type="checkbox"/> 合格)	



サレジオ工業高等専門学校

〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘4-6-8

TEL : 042-775-3020

FAX : 042-775-3021

URL : <http://www.salesio-sp.ac.jp>